日本語の歴史的典籍の
国際共同研究ネットワーク構築計画

― 事業評価書 関連資料 ―

（令和５年（2023）３月末）

データベース構築等関連資料

資料 No	資料名	ページ
資料 1	画像データ作成状況	2
資料 2	データベース公開画像所蔵機関一覧	22
資料 3	日本語の歴史的典籍のデジタル化に関するマニュアル	25
資料 4	新日本古典籍総合データベース利用状況	71
資料 5	タグ付け実施状況	76
資料 6	日本古典籍研究国際コンソーシアム参加機関一覧	77
資料 7	日本古典籍研究国際コンソーシアム分科会等開催状況	80

研究推進関連資料

資料 No	資料名	ページ
資料 8	共同研究課題一覧	82
資料 9	共同研究参画者数	93
資料 10	共同研究成果発信数	94
資料 11	英文オンライン・ジャーナル『Studies in Japanese Literature and Culture』（SJLC）ダウンロード数	99

情報発信関連資料

資料 No	資料名	ページ
資料 12	プレスリリース一覧	103
資料 13	ニューズレター「ふみ」発行状況	118

資料 No	資料名	ページ
資料 14	ブックレット＜書物をひらく＞刊行状況	125
資料 15	ブース出展状況	130
資料 16	日本語の歴史的典籍国際研究集会開催状況	133
資料 17	その他の情報発信の状況	142

実施体制関連資料

資料 No	資料名	ページ
資料 18	日本語歴史的典籍ネットワーク委員会	276
資料 19	センター運営委員会	278
資料 20	国際共同研究ネットワーク委員会	280
資料 21	拠点連携委員会	282

その他の関連資料

資料 No	資料名	ページ
資料 22	予算の推移	285
資料 23	新日本古典籍総合データベースパンフレット	286
資料 24	国書データベースのご案内	294
資料 25	データベースの活用事例	296
資料 26	第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2020）のうち日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画＜抜粋＞	298

資料 No	資料名	ページ
資料 27	大型研究計画に関する評価について（報告）「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（平成 25 年 9 月 6 日　科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会　学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会）	300
資料 28	大型研究計画に関する進捗評価について（報告）「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（平成 28 年 8 月 23 日　科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会　学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会）	317
資料 29	大型研究計画に関する進捗評価について（報告）「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」について（2018 年（平成 30 年）8 月 30 日　科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会）	332

データベース構築等関連資料

資料 1

画像データ作成状況

	業者撮影	内製	マイクロ コンバート	画像提供	調査収集事業等	合計 （累計）
平成 25（2013）年度まで					35,721 点	35,721 点 （35,721 点）
平成 26（2014）年度	1,590 点	0 点	12,483 点	0 点	3,851 点	17,924 点 （53,645 点）
平成 27（2015）年度	3,367 点	474 点	4,097 点	9,000 点	1,012 点	17,950 点 （71,595 点）
平成 28（2016）年度	3,752 点	51 点	3,078 点	0 点	572 点	7,453 点 （79,048 点）
平成 29（2017）年度	6,054 点	1,443 点	5,122 点	954 点	2,005 点	15,578 点 （94,626 点）
平成 30（2018）年度	3,374 点	4,454 点	2,634 点	4,580 点	1,719 点	16,761 点 （111,387 点）
令和元（2019）年度	5,672 点	5,268 点	13,371 点	10,918 点	1,911 点	37,140 点 （148,527 点）
令和 2（2020）年度	7,547 点	3,928 点	15,805 点	8,666 点	2,315 点	38,261 点 （186,788 点）
令和 3（2021）年度	6,791 点	6,985 点	13,962 点	6,293 点	4,823 点	38,854 点 （225,642 点）
令和 4（2022）年度	6,689 点	8,530 点	15,997 点	3,986 点	3,368 点	38,570 点 （264,212 点）
令和 5（2023）年度【計画】	4,750 点	8,400 点	16,100 点	6,000 点	3,000 点	38,250 点 （302,462 点）
合計	49,586 点	39,533 点	102,649 点	50,397 点	60,297 点	302,462 点

※令和 4 年度末時点での合計画像コマ数は 27,968,522 コマ（枚）

業者撮影内訳

平成 26（2014）年度

所蔵機関名	作成点数
研医会	62 点
国文学研究資料館	1,528 点
合計	1,590 点

平成 27（2015）年度

所蔵機関名	作成点数
大阪大学	329 点
お茶の水女子大学	550 点
関西大学	16 点
京都大学	19 点
慶應義塾大学	833 点
国文学研究資料館	180 点
信州大学	62 点
東京大学	171 点
名古屋大学	93 点
奈良女子大学	450 点
弘前市立弘前図書館	184 点
北海道大学	480 点
合計	3,367 点

平成 28（2016）年度

所蔵機関名	作成点数
大阪大学	44 点
お茶の水女子大学	535 点
関西大学	17 点
九州大学	100 点
京都大学	915 点

研医会	58 点
神戸大学	218 点
国文学研究資料館	44 点
国立天文台	223 点
筑波大学	174 点
東北大学	137 点
名古屋大学	176 点
奈良女子大学	664 点
北海道大学	447 点
合　　計	3,752 点

平成 29（2017）年度

所蔵機関名	作成点数
いけのや文庫	1 点
茨城大学	84 点
大阪大学	89 点
宮内庁書陵部	20 点
神戸大学	368 点
国文学研究資料館	158 点
国立天文台	174 点
実践女子大学	34 点
専修大学	32 点
東京海洋大学	156 点
関西大学	20 点
京都大学	1,949 点
慶應義塾大学	63 点
筑波大学	470 点
東京藝術大学	579 点
東京書籍附設教科書図書館 東書文庫	57 点
東京大学	336 点
東北大学	241 点
中津市歴史民俗資料館分館村上医家史料館・大江医家史料館	44 点
中野三敏氏	43 点
名古屋大学	915 点

広島大学	141 点
弘前市立弘前図書館	80 点
合計	6,054 点

平成 30（2018）年度

所蔵機関名	作成点数
茨城大学	119 点
大阪大学	57 点
関西大学	232 点
京都大学	595 点
宮内庁書陵部	24 点
慶應義塾大学	98 点
神戸大学	272 点
個人蔵	1 点
国文学研究資料館	40 点
実践女子大学	42 点
専修大学	76 点
筑波大学	630 点
中津市歴史民俗資料館分館村上医家史料館・大江医家史料館	44 点
東京海洋大学	21 点
東京書籍附設教科書図書館 東書文庫	86 点
東京大学	577 点
同志社大学	58 点
東北大学	262 点
弘前市立弘前図書館	40 点
広島大学	100 点
合計	3,374 点

令和元（2019）年度

所蔵機関名	作成点数
茨城大学	92 点
大阪大学	61 点
関西大学	79 点

九州大学	579 点
京都大学	1,507 点
宮内庁書陵部	38 点
神戸大学	401 点
国文学研究資料館	59 点
実践女子大学	126 点
専修大学	324 点
龍野市歴史資料館	13 点
筑波大学	890 点
東京海洋大学	36 点
東京書籍附設教科書図書館 東書文庫	161 点
同志社大学	243 点
東北大学	585 点
中津市歴史博物館	61 点
日本体育大学	166 点
広島大学	83 点
ポーラ文化研究所	130 点
北海道大学	38 点
合計	5,672 点

令和 2（2020）年度

所蔵機関名	作成点数
茨城大学	26 点
大高洋司氏	11 点
大阪大学	319 点
大谷大学	196 点
お茶の水女子大学	101 点
関西大学	191 点
京都大学	1,689 点
京都府立京都学・歴彩館	129 点
九州大学	706 点
宮内庁書陵部	110 点
慶應義塾大学	72 点
神戸大学	480 点

実践女子大学	80 点
成城大学	177 点
清光山西巖寺	25 点
専修大学	417 点
筑波大学	800 点
東京海洋大学	20 点
東京学芸大学	164 点
東京大学	731 点
東北大学	230 点
同志社大学	47 点
奈良県立図書情報館	111 点
名古屋大学	126 点
日本体育大学	86 点
一橋大学	7 点
広島大学	53 点
弘前市立弘前図書館	48 点
ポーラ文化研究所	225 点
北海道大学	47 点
武庫川女子大学	70 点
横浜国立大学	53 点
合計	7,547 点

令和 3（2021）年度

所蔵機関名	作成点数
アドミュージアム東京	682 点
愛媛大学	5 点
江戸東京博物館	48 点
岡山大学	55 点
大妻女子大学	49 点
京都大学	462 点
京都府立京都学・歴彩館	266 点
共立女子大学	23 点
九州大学	714 点
宮内庁書陵部	19 点

国文学研究資料館	3 点
皇學館大學	118 点
三康文化研究所	7 点
四天王寺大学	45 点
白百合女子大学	183 点
専修大学	219 点
相愛大学	113 点
筑波大学	680 点
東海大学	493 点
東京学芸大学	14 点
東京経済大学	169 点
東京書籍附設教科書図書館 東書文庫	216 点
東京大学	684 点
東京藝術大学	38 点
東北大学	528 点
東洋大学	179 点
同志社大学	167 点
中津市歴史博物館	98 点
日本体育大学	104 点
弘前市立弘前図書館	10 点
武庫川女子大学	28 点
山口大学	191 点
横浜国立大学	110 点
琉球大学	71 点
合計	6,791 点

令和 4（2022）年度

所蔵機関名	作成点数
アドミュージアム東京	59 点
江戸東京博物館	56 点
大妻女子大学	9 点
小浜市立図書館	41 点
大阪大学	244 点
関西大学	180 点

京都大学	400 点
京都府立京都学・歴彩館	290 点
九州大学	617 点
宮内庁書陵部	57 点
慶應義塾大学	120 点
神戸大学	135 点
國學院大學	192 点
国立民族学博物館	64 点
皇學館大学	26 点
佐賀大学	120 点
三康文化研究所	15 点
就実大学・就実短期大学	37 点
四天王寺大学	87 点
白百合女子大学	34 点
専修大学	321 点
園田学園女子大学	19 点
大英図書館	31 点
筑波大学	400 点
東京藝術大学	67 点
東京大学	58 点
東海大学	1,078 点
東京書籍附設教科書図書館 東書文庫	186 点
東京大学	384 点
東北大学	345 点
東洋大学	13 点
同志社大学	160 点
名古屋大学	80 点
二松学舎大学	190 点
広島大学	100 点
山口大学	77 点
横浜国立大学	2 点
立教大学	41 点
立命館大学	165 点
琉球大学	58 点
早稲田大学	131 点
合計	6,689 点

内製内訳

平成 27（2015）年度

所蔵機関名	作成点数
味の素食の文化センター	369 点
研医会	105 点
合計	474 点

平成 28（2016）年度

所蔵機関名	作成点数
今西祐一郎氏	15 点
野中烏犀園	36 点
合計	51 点

平成 29（2017）年度

所蔵機関名	作成点数
大谷大学	95 点
関西大学	31 点
研医会	61 点
国文学研究資料館	62 点
佐藤悟氏	2 点
東京藝術大学	152 点
東京書籍附設教科書図書館 東書文庫	999 点
鬮雞神社	1 点
中野三敏氏	40 点
合計	1,443 点

平成 30（2018）年度

所蔵機関名	作成点数
大高洋司氏	116 点

研医会	105 点
清光山西嚴寺	282 点
筑波大学	150 点
東京書籍附設教科書図書館 東書文庫	921 点
東京藝術大学	2,435 点
名古屋大学	113 点
広島大学	155 点
横浜国立大学	177 点
合計	4,454 点

令和元（2019）年度

所蔵機関名	作成点数
九州大学	732 点
京都大学	381 点
研医会	114 点
国文学研究資料館	866 点
清光山西嚴寺	313 点
筑波大学	400 点
東京大学	385 点
東京書籍附設教科書図書館 東書文庫	458 点
東京藝術大学	679 点
名古屋大学	214 点
日本体育大学	131 点
広島大学	177 点
ポーラ文化研究所	80 点
横浜国立大学	338 点
合計	5,268 点

令和 2（2020）年度

所蔵機関名	作成点数
愛媛大学	122 点
大高洋司氏	16 点
京都大学	224 点

九州大学	1,007 点
研医会	56 点
国文学研究資料館	210 点
清光山西巖寺	39 点
専修大学	165 点
筑波大学	400 点
東京海洋大学	16 点
東北大学	353 点
中津市歴史博物館	75 点
名古屋大学	92 点
一橋大学	360 点
法政大学	94 点
宮城教育大学	83 点
武庫川女子大学	616 点
合計	3,928 点

令和 3（2021）年度

所蔵機関名	作成点数
江戸東京博物館	1,215 点
帯広畜産大学	40 点
京都大学	408 点
共立女子大学	203 点
九州大学	859 点
慶應義塾大学	158 点
研医会	41 点
国文学研究資料館	157 点
皇學館大學	408 点
国立国語研究所	218 点
四天王寺大学	918 点
清泉女子大学	200 点
専修大学	296 点
筑波大学	347 点
東京大学	131 点
東北大学	309 点

中津市歴史博物館	105 点
名古屋大学	46 点
一橋大学	200 点
宮城教育大学	34 点
嵐牛俳諧資料館	578 点
立教大学	114 点
合計	6,985 点

令和 4（2022）年度

所蔵機関名	作成点数
茨城大学	476 点
江戸東京博物館	1,879 点
加賀市立図書館	71 点
九州大学	920 点
京都大学	225 点
研医会	27 点
皇學館大學	206 点
国文学研究資料館	1 点
城西大学	1 点
四天王寺大学	114 点
清泉女子大学	80 点
専修大学	471 点
千葉県立中央博物館	122 点
千葉大学	1,184 点
筑波大学	404 点
東京外国語大学	220 点
東北大学	162 点
東洋大学	444 点
中津市歴史博物館	158 点
名古屋大学	95 点
新潟大学	592 点
福島大学	34 点
北海道大学	12 点
立教大学	632 点
合計	8,530 点

マイクロコンバート内訳

平成 26（2014）年度

所蔵機関名	作成点数
愛知教育大学	484 点
大阪大学	811 点
大洲市立図書館	166 点
岐阜市立図書館	435 点
京都大学	264 点
九州大学	1,080 点
宮内庁書陵部	599 点
相愛大学	176 点
筑波大学	876 点
東京大学	1,765 点
東京理科大学	900 点
名古屋大学	985 点
奈良女子大学	155 点
新潟大学	1,167 点
肥前島原松平文庫	131 点
弘前市立図書館	253 点
広島大学	176 点
北海道大学	154 点
夢望庵文庫	1,351 点
祐徳稲荷神社	1 点
立命館大学	554 点
合計	12,483 点

平成 27（2015）年度

所蔵機関名	作成点数
京都女子大学	915 点
宮内庁書陵部	1,419 点
善通寺	303 点
新潟大学	171 点

浜松市賀茂真淵記念館	583 点
夢望庵文庫	706 点
合計	4,097 点

平成 28（2016）年度

所蔵機関名	作成点数
宮内庁書陵部	1,479 点
篠山市教育委員会	627 点
島根大学	118 点
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	94 点
University of California,Berkeley	760 点
合計	3,078 点

平成 29（2017）年度

所蔵機関名	作成点数
茨城県立歴史館	1,217 点
関西大学	484 点
宮内庁書陵部	1,326 点
真福寺大須文庫	1,949 点
星槎ラボラトリー	146 点
合計	5,122 点

平成 30（2018）年度

所蔵機関名	作成点数
宮内庁書陵部	1,219 点
宮城県図書館	1,092 点
和歌山大学	323 点
合計	2,634 点

令和元（2019）年度

所蔵機関名	作成点数
大阪府立大学	1,496 点
学習院大学	615 点
宮内庁書陵部	916 点
熊本大学	159 点
諏訪神社	195 点
善通寺	391 点
東京大学	98 点
東京都立中央図書館	3,812 点
東北大学	3,512 点
東洋大学	543 点
富山大学	59 点
長野県立大学	313 点
長野市	18 点
ノートルダム清心女子大学	1,145 点
立教大学	99 点
合計	13,371 点

令和 2（2020）年度

所蔵機関名	作成点数
岩手県立図書館	225 点
磐田市立中央図書館	84 点
大阪大学	196 点
大阪府立大学	1,497 点
関西大学	1,053 点
香川大学	340 点
川崎市市民ミュージアム	116 点
群馬大学	139 点
県立長野図書館	206 点
高知県立高知城歴史博物館	115 点
四国大学	638 点
周南市鹿野図書館	227 点

白百合女子大学	99 点
多久市教育委員会	109 点
武雄市歴史資料館	89 点
東奥義塾高等学校	23 点
東海学園大学	88 点
東京大学	3,394 点
東北大学	4,102 点
徳島県立図書館	468 点
富山県立図書館	376 点
豊田工業高等専門学校	10 点
長崎大学	166 点
南丹市教育委員会	339 点
名古屋大学	56 点
浜松市賀茂真淵記念館	323 点
肥前島原松平文庫	667 点
北海道大学	81 点
舞鶴市郷土資料館	378 点
宮城学院女子大学	30 点
夢望庵文庫	48 点
山口大学	123 点
合計	15,805 点

令和 3（2021）年度

所蔵機関名	作成点数
岩国徴古館	956 点
岡山大学	4,143 点
大阪大学	46 点
大洲市立図書館	152 点
岐阜県図書館	518 点
新城図書館ふるさと情報館	1,440 点
東京大学	277 点
東北大学	5,100 点
名古屋大学	123 点
福井市立図書館	394 点

麗澤大学	813 点
合計	13,962 点

令和 4（2022）年度

所蔵機関名	作成点数
上田市立上田図書館	2,279 点
岡山大学	4,138 点
大阪市立大学	2,209 点
大洲市立図書館	39 点
加賀市立図書館	567 点
京都女子大学	135 点
宮内庁書陵部	52 点
静嘉堂文庫	2,183 点
園田学園女子大学	226 点
相愛大学	77 点
東北大学	1,546 点
東洋大学	1,745 点
名古屋大学	8 点
正宗文庫	243 点
宮城教育大学	550 点
合計	15,997 点

画像提供内訳

平成 27（2015）年度

所蔵機関名	作成点数
東北大学	9,000 点
合計	9,000 点

平成 28（2016）年度
※該当なし。

平成 29（2017）年度

所蔵機関名	作成点数
小泉吉永氏	736 点
東京藝術大学	218 点
合計	954 点

平成 30（2018）年度

所蔵機関名	作成点数
九州大学	225 点
京都大学	2,033 点
小泉吉永氏	1,949 点
神戸大学	238 点
一橋大学	84 点
和歌山大学	51 点
合計	4,580 点

令和元（2019）年度

所蔵機関名	作成点数
秋田大学	30 点
大阪大谷大学	33 点

小泉吉永氏	844 点
国立国会図書館	4,311 点
信州大学	422 点
仙台市民図書館	1,200 点
東京大学	3,496 点
奈良県立図書情報館	11 点
日本学士院	571 点
合計	10,918 点

令和 2（2020）年度

所蔵機関名	作成点数
秋田大学	1 点
茨城大学	1 点
お茶の水女子大学	50 点
大阪大学	152 点
京都大学	1,438 点
京都府立京都学・歴彩館	130 点
慶應義塾大学	2 点
皇學館大學	19 点
国立公文書館	650 点
国立国会図書館	3,106 点
島根県教育委員会	3 点
東京学芸大学	2,251 点
豊田市中央図書館	10 点
フリーア美術館	407 点
琉球大学	446 点
合計	8,666 点

令和 3（2021）年度

所蔵機関名	作成点数
茨城大学	272 点
帯広畜産大学	28 点
皇學館大學	20 点

小泉吉永氏	336 点
城西大学	137 点
静岡県立中央図書館	386 点
大英図書館 British Library	46 点
東京学芸大学	158 点
東京経済大学	132 点
新潟大学	435 点
二松学舎大学	393 点
野田市	180 点
広島大学	15 点
国立国会図書館	3,755 点
合計	6,293 点

令和 4（2022）年度

所蔵機関名	作成点数
京都府立京都学・歴彩館	300 点
国際日本文化研究センター	686 点
個人蔵 2	1 点
個人蔵 3	1 点
国立国会図書館	513 点
佐賀大学	236 点
千葉大学	256 点
東洋大学	776 点
東京外国語大学	65 点
東京大学	1,152 点
合計	3,986 点

資料２

データベース公開画像所蔵機関一覧

令和５年３月31日現在

1	北海道大学
2	函館市中央図書館
3	帯広畜産大学
4	八戸市立図書館
5	弘前市立弘前図書館
6	弘前市立博物館
7	高岡の森弘前藩歴史館
8	青森県立郷土館
9	東奥義塾高等学校
10	もりおか歴史文化館
11	岩手県立図書館
12	東北大学
13	宮城県図書館
14	仙台市民図書館
15	宮城学院女子大学
16	宮城教育大学
17	秋田大学
18	酒田市立光丘文庫
19	筑波大学
20	茨城大学
21	茨城県立歴史資料館
22	矢口丹波記念文庫
23	群馬大学
24	城西大学
25	麗澤大学
26	国文学研究資料館
27	宮内庁
28	国立国会図書館
29	国立公文書館
30	日本学士院
31	東京大学

32	東京理科大学
33	慶應義塾大学
34	研医会図書館
35	お茶の水女子大学
36	味の素食の文化センター
37	東京書籍（株）附設教科書図書館
38	国立天文台
39	法政大学
40	実践女子大学
41	東京藝術大学
42	東京海洋大学
43	東洋大学
44	東京都立中央図書館
45	学習院大学
46	一橋大学
47	立教大学
48	ポーラ文化研究所
49	白百合女子大学
50	国立科学博物館
51	日本体育大学
52	成城大学
53	東京学芸大学
54	東京経済大学
55	二松学舎大学
56	三康文化研究所
57	大妻女子大学
58	アドミュージアム東京
59	國學院大學
60	江戸東京博物館
61	星槎ラボラトリー
62	専修大学

63	横浜国立大学
64	川崎市市民ミュージアム
65	東海大学
66	新潟大学
67	富山市立図書館
68	富山大学
69	富山県立図書館
70	石川県立図書館
71	福井市立図書館
72	信州大学
73	長野県立大学
74	長野市旧真田家文庫
75	県立長野図書館
76	岐阜大学
77	岐阜市立図書館
78	富加町郷土資料館
79	松井屋酒造資料館
80	清光山西厳寺
81	岐阜県図書館
82	静岡県立中央図書館
83	嵐牛俳諧資料館
84	磐田市立中央図書館
85	賀茂真淵記念館
86	名古屋大学
87	愛知教育大学
88	西尾市岩瀬文庫
89	金城学院大学
90	真福寺
91	豊田工業高等専門学校
92	東海学園大学
93	豊田市中央図書館
94	新城図書館ふるさと情報館
95	皇學館大学
96	京都女子大学

97	京都大学
98	京都市歴史資料館
99	新日吉神宮
100	大谷大学
101	同志社大学
102	立命館大学
103	南丹市立文化博物館
104	舞鶴市郷土資料館
105	京都府立京都学・歴彩館
106	大阪大学
107	相愛大学
108	大阪府立中之島図書館
109	関西大学
110	道明寺
111	道明寺天満宮
112	貝塚御坊願泉寺
113	大阪府立大学
114	大阪大谷大学
115	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校
116	丹波篠山市教育委員会
117	神戸大学
118	たつの市立龍野歴史文化資料館
119	武庫川女子大学
120	大和文華館
121	奈良女子大学
122	奈良県立図書情報館
123	和歌山大学
124	闘雞神社
125	鳥取県立図書館
126	島根大学
127	手錢美術館
128	島根県教育庁古代文化センター
129	正宗文庫
130	ノートルダム清心女子大学

131	岡山大学
132	広島大学
133	広島文教女子大学
134	安田女子大学
135	山口大学
136	周南市立鹿野図書館
137	光市文化センター
138	岩国徴古館
139	徳島県立図書館
140	四国大学
141	総本山善通寺
142	香川大学
143	大洲市立図書館
144	宇和島伊達文化保存会
145	愛媛大学
146	高知県立高知城歴史博物館
147	九州大学
148	祐徳稲荷神社
149	野中烏犀圓
150	武雄市図書館・歴史資料館
151	肥前島原松平文庫
152	諏訪神社
153	長崎大学
154	熊本大学
155	中津市歴史博物館
156	鹿児島大学
157	琉球大学
158	韓国国立中央図書館
159	C.V. Starr East Asian Library, University of California, Berkeley
160	フリーア美術館／アーサー・M・サックラー・ギャラリー
161	Staatsbibliothek zu Berlin
162	大英図書館
163	光藤益子氏
164	今西祐一郎氏
165	中野三敏氏
166	谷川好一氏
167	横山邦治氏
168	濱口博章氏
169	武井和人氏
170	小泉吉永氏
171	夢望庵文庫
172	大高洋司氏
173	佐藤悟氏
174	個人蔵 1
175	個人蔵 2
176	個人蔵 3

資料３

国文学研究資料館

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

日本語の歴史的典籍のデジタル化に関するマニュアル

2022.5 版



このマニュアル及び別紙・別添資料に使用されているコンテンツは、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

このマニュアルについて

このマニュアルは、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（略称：歴史的典籍 NW 事業)」において、国文学研究資料館（以下「当館」）が古典籍をデジタル化する際の仕様書をベースに、特に撮影方法を詳細に示すことに重点を置き、作成されたものです。図書館、資料館等、古典籍の所蔵者にとってデジタル化の際の参考になることを目的として公開しています。

このマニュアル及び別紙・別添資料（以下の＜公開資料一覧＞に示した資料）において使用されているコンテンツは、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンス（CC BY）の下に提供されていますので、出典を明記した上で二次利用することが可能です。

当館においては、古典籍をデジタル化する際、デジタルカメラまたはブックスキャナーによって実施しており、仕様の表現方法が若干異なります。以下のマニュアル内において、行頭に≪デジカメ≫ないし≪スキャナ≫とある箇所は、それぞれの撮影方法に応じた記載ですので、ご留意ください。

＜公開資料一覧＞

1. 日本語の歴史的典籍のデジタル化に関するマニュアル（2022.4 版）
2. 国文学研究資料館資料電子化撮影の手引き
3. 別紙 1　撮影対象リスト
4. 別紙 2　分割撮影記録票
5. 別紙 3　ボリューム名・フォルダ名・ファイル名の付与方法について
6. 別紙 4　HDD のラベリングについて
7. 別添資料　ターゲットサンプル
8. 別添資料　撮影コマ数の算出方法

目次

このマニュアルについて 1

日本語の歴史的典籍のデジタル化に関するマニュアル 3

1 基本要件 3

1.1 用語 3

2 作業要件 3

2.1 作業上の注意点 3

2.2 撮影作業 4

2.3 画像データの作製 9

2.4 品質検査 9

2.5 テキストデータの作製 10

2.6 各データの格納方法 10

日本語の歴史的典籍のデジタル化に関するマニュアル

1　基本要件

1.1　用語

・本仕様書で用いる用語の定義は次のとおりとする。

(1)デジタル撮影

≪デジカメ≫デジタルカメラにより対象資料を撮影しデジタル画像として記録すること。

≪スキャナ≫ブックスキャナーにより対象資料を撮影しデジタル画像として記録すること。

(2)画像データ

デジタル撮影して作製した画像データ。

(3)資料と文献

「資料」とは、冊・帖・軸などの形態にかかわらず、1 点毎の資料を指す。

「文献」とは、「文献コード」（別紙１参照）にてくくられる資料ないし複数巻冊等で構成される資料群を指す。納品データにおいては、1 文献（資料ないし資料群）＝1 文献コード＝1 点のターゲット＝1 画像フォルダとなる。

(4)テキストデータ

各メディアに格納した画像データの格納情報を記述したエクセル形式のデータ。

2　作業要件

2.1　作業上の注意点

(1)資料の取扱いは、慎重に行うこと。特に劣化が進んだ資料を扱う場合、間紙の挿入が必要な場合、付箋をめくって撮影する場合などは、取扱いに十分に留意すること。

(2)取扱いが困難な資料、撮影によって損傷を起こしそうな劣化資料等がある場合は事前に担当者と相談し、担当者の指示する方法で作業を行うこと。

(3)資料の折れ及びシワのある資料は、破損等の恐れがない範囲内でできるだけ伸ばし、線として写らないよう努めること。

(4)資料のサイズが極大あるいは極小のため撮影に支障をきたす場合は、担当者に連絡し撮影方法の指示を受けること。

(5)作業中に対象資料を損傷した場合は、直ちに担当者に報告し、指示を受けること。

(6)担当者から、緊急に撮影対象資料を必要とする旨の連絡があった場合には、原則として速やかに対象資料を返却すること。

(7)作業前には必ず手洗いを行うこと。また、常に手を清潔に保つよう、作業中も適宜手洗いを行うこと。

(8)作業中は、時計や指輪などの腕・指に着用するものは全て外すこと。

(9)作業中は、指サック、紙めくりクリーム及びそれと同様の機能を有する文具等の使用は認めない。

(10)撮影に際しては、できる限り忠実に画像データ化を行うこと。

(11)撮影後は、資料を撮影前と同じ状態に戻すこと。

(12)撮影上疑義が生じた場合、仕様に規定されている撮影方法では撮影が困難な場合は、すみやかに担当者に報告し指示を受けること。

2.2 撮影作業

2.2.1 使用する機器

≪デジカメ≫

(1)画面サイズは、約 36mm×24mm、有効画素数は 2,100 万画素以上の撮像素子を満たすデジタルカメラを使用すること。

(2)ファームウェアは撮影に臨む時点で最新のものを使用すること。

(3)デジタルカメラのレンズはマクロレンズ（単焦点）を使用すること。

(4)巻子本や箱など資料の形態が多岐にわたるため、撮影に使用する機器は対象資料の制限が無く、安全かつ資料に負荷がかからないものを使用すること。

(5)撮影場所が複数にわたる場合においても、撮影場所によって画像の品質に相違が出ないよう、撮影機器の機種等を極力統一すること。

≪スキャナ≫

(1)読み取り解像度は原寸・400dpi 相当とすること。

(2)階調は 24 ビットフルカラーとすること。

(3)CCD カメラ搭載のブックスキャナーを使用のこと。

(4)オーバーヘッド型のブックスキャナーを使用のこと。

(5)資料への負荷がかかる自動ページめくり機能は使用しないこと。

(6)撮影場所が複数にわたる場合においても、撮影場所によって画像の品質に相違が出ないよう、撮影機器の機種等を極力統一すること。

2.2.2 撮影に際しての留意事項

(1)ターゲット、スケール、カラーチャートに関する事項

撮影に際しては、基本的に次の要領でターゲット等を使用すること。

①ターゲット

・当館が用意するターゲット（サンプル参照）を撮影すること。

・各資料について、冒頭のコマとしてターゲットを撮影すること。

・文献が複数の巻冊等で構成されている場合でも、1 点の文献につき最初に 1 カットのみ挿入すること。

②スケール（「国文学研究資料館資料電子化撮影の手引き」（以下、「手引き」）【図 1】も参照のこと）

・資料の寸法を明確にするためスケールを置いて撮影すること。原則として各文献の最初の表紙に相当するコマに、資料の正位置での右側と下側に置くものとする。

・スケールは資料の寸法を明確にするため資料全体をカバーする長さで入れること。スケールの大きさは、資料の高さの 130%未満とすること。
・各文献の「箱」「帙」「書袋」「本体資料」ごとの最初に相当するコマに、資料の正位置での右側と下側に置いて写し込むこと。
・資料に対して、水平あるいは垂直方向から 2%（3.6 度）未満の傾きであること。
・資料との間に適切な余白を設けること。
・下記 2.2.2(2)②のとおり、縮率を変更した場合は改めてスケールを撮影すること。
・スケールを資料の上に置いて撮影する場合には、スケールの下に中性紙を当てること。
③カラーチャート（「手引き」【図 1】も参照のこと）
・Kodak 社または X-Rite 社の製品を使用すること [1]。
・カラーチャートの大きさは、資料の高さの 130%未満とすること。
・劣化していないカラーチャートを常に使用すること。
・撮影する全てのコマにカラーチャートを写しこむこと。
・原則として資料の右側あるいは下側の余白に配置するが、資料の形態により上側あるいは左側に配置しても良いものとする。なお、1 文献におけるカラーチャートの位置は原則として変更させないこと。
・資料との間に適切な余白を設けること。
・資料に対して、水平あるいは垂直方向から 2%（3.6 度）未満の傾きであること。
(2)縮率
縮率については、次のとおりとすること。
①撮影対象の画面内に占める面積の割合は、標準的な簿冊の形態のものを見開きにした状態において、画像有効範囲の 5 割以上とする。（巻子本の巻かれた状態や、付箋のみを撮影した場合については 5 割以下でも可とする。）
②1 文献の縮率は原則として変化させないこと。もし途中で縮率を変化させる場合には、変化をさせたコマに改めてスケールを写し込ませること。
③ ①にて定めた縮率では 1 コマに収まらない場合、次のいずれかの方法をとること。
・対象資料を 90° 回転させて置くことによって1コマに収まる場合は、対象資料を時計回りに 90° 回転させて撮影すること。
・上記により回転させて撮影した場合は、対象資料が正面を向くように画像データを回転させ補正すること。
・対象資料を 90° 回転させても収まらない場合は分割撮影を行うこと。その際、別紙 2「分割撮影記録票」に撮影順を記入し分割撮影の直前のコマに写し込むこと。分割撮影の方法は、「手引き」【図 17・分割撮影】の通りとする。

[1]（参考）
Kodak Color Separation Guide and Gray Scale (Small) Q-13（型番：1527654）
X-Rite ColorChecker Classic（型番：MSCCC）

・上記の分割撮影については、絵図および冊子中の折込み資料についての規定とし、巻子本は対象外とする。

(3)その他

①撮影に際しては、適切に資料撮影が行えるよう必要に応じてストロボ等の照明機材を使用できるものとする。なお照明機材は、紫外線をできるだけカットしたものなど、資料を傷めないものを使用すること。

②撮影時に使用する台紙は、スモークグレーのセットペーパーあるいはそれと同等のものとすること。

③撮影前にホコリや塵などが付着していることに気がついた場合、小型のブロアーブラシ等で払える場合は、それらを払ってから撮影すること。但し無理なクリーニングはせず、ホコリ等が取れない場合は担当者に連絡すること。

④資料1点の撮影終了後、その場で資料のページ数とコマ数を照合し、コマ落ち等、撮影漏れがないよう確認すること。

2.2.3　撮影

以下、撮影の具体的な方法等については、「手引き」の該当箇所も併せて参照のこと。

(1)一般的事項(「手引き」【図 1】も参照のこと)

この事項は、全般的な事項及び主に標準的な冊子体資料についてのものであり、箱や帙などの付帯資料については「(3)容器外装等の付帯資料の撮影」を、その他の形態の資料については「(4)各種形態資料の撮影」も参照の上、撮影を行うこと。

①撮影に際しては、画面全面に資料を収め、かつ、天地左右に過大な余白を設けないこと。

②撮影は原則として、「箱」「帙」「書袋」「本体資料(付箋、極札(きわめふだ)、挟み込み資料等を含む)」の順番に撮影すること。該当する資料がない場合は、それを飛ばして次の資料を撮影すること。(例えば「箱」と「書袋」が無い場合は、「帙」「本体資料」の順番で撮影を行う。)撮影の順番が不明な場合は、その都度担当者に確認すること。

③資料は、表紙から裏表紙まで、表紙裏の余白も含めて、全ページ漏れなく忠実に撮影すること。ただし、表紙あるいは裏表紙と剥離している見返しについては、そこに全く文字がない場合は撮影対象外とするが、そこに文字や印記がある場合は撮影を行うこと。

④冊子本は、原則として見開きを1コマに撮影すること。資料は横置きにして撮影すること。ただし、ノドの文字に影がかかる場合などは、2.2.3.(2)のとおりの対応を行うこと。

⑤簿冊の形態である資料について、ノド元の文字も判読可能である状態で撮影すること。但し、ノドの開きが悪く撮影が困難な場合は担当者に連絡すること。

⑥裏写りが激しく、判読が困難な場合は、間紙を入れて撮影すること。

・挿入する間紙は、しわ、折れ目などが無いものを使用すること。また資料に負担となるような無理な挿入を行わないこと。

・間紙に使用する紙は中性紙とし、裏写りを防ぎ、かつ丁内に間紙を入れ込んでも資料への負担

が少ない紙とすること。

・間紙は、資料の原寸よりやや小さく裁断すること。また、間紙が資料からはみ出すことがないよう挿入すること。

・間紙を使用しても裏写りが解消されず撮影が困難となる場合は、担当者に連絡し指示を受けること。

・間紙を入れるべき場所に付箋や挟み込み資料などがある場合は、撮影者がそれと分かるように短冊を入れること。

⑦破損や虫損のある資料で、破損箇所から別ページの文字等が映り込んでしまう場合は、可能ならば間紙を入れ、それが難しい場合は本紙の下に間紙を敷いてから撮影を行うこと。なお資料の破損・虫損状態が酷く、いずれの方法でも撮影が難しい場合は、担当者の指示を受けること。

⑧金箔等の箔押しがある場合は、画像データ上で箔押し部分の質感が再現されるように、撮影光源等に十分配慮し撮影を行うこと。

⑨当館の受入ラベルが本文に重なっている場合は、受入ラベルをめくり、文字が見える状態にして撮影を行うこと。なお、受入ラベルが本文に重なっている状態の撮影は行わないこと。

(2)位置及び設定

①見開きの状態で位置合わせを行い、ページをめくるときに位置が動かないように留意すること。特に傾きに注意し、対象資料に 2%（3.6 度）以上の傾きがある場合は再撮影すること。

②平均的なページで焦点・ホワイトバランス・絞り等を設定し、1 冊分は固定のまま変えずに撮影すること（1shot ずつの自動設定はオフとする）。

③資料に高さがあり長い影が避けられない場合は、光源の高さ・角度調節で可能な限り影を短くすること。

④背景やのどの部分に極力影が出ないように撮影すること。資料が湾曲等した状態で影が映り込んでしまう場合は、資料（撮影ページ）の全面をガラスで押さえ、影がでないように撮影しても良いものとする。なおガラス使用の際は、極力ガラスの重さが直接資料にかかったり、無理に資料を押さえつけたりすることがないよう充分に注意すること。また、その機器類に資料をセットする際、あるいはページをめくる際などに資料が破損することがないよう、取り回しには充分に注意すること。なおガラスについては、通常のガラスあるいは無反射ガラス等の指定は行わないが、光の反射や映り込み、ガラスによる画像のくもりなどが起こらないような撮影方法で撮影を行うこと。

⑤巻物や極小本など、該当ページのめくれにより撮影が困難な場合は、ガラス押さえ（ガラス文鎮等）を使用して良いものとする。但し、使用するガラス押さえは資料に負荷がかかりにくいもの、撮影の邪魔にならないものとする。また、資料の上には直接ガラス押さえを置かず、間に中性紙を敷き、資料の破損が生じないように注意すること。

(3)容器外装等の付帯資料の撮影

「箱」「帙」「書袋」及び「本体資料」に付帯しているものについては、次のとおり撮影を行うこと。なお以下の項目にない資料があった場合、あるいはどの項目に該当するか不明な場合は、担当者に連絡し撮影方法について指示を受けること。

①箱

「手引き」【図 2】の通りとする。

②帙

「手引き」【図 3】の通りとする。

③書袋

「手引き」【図 4】の通りとする。

④付箋

「手引き」【図 5】の通りとする。

⑤極札

「手引き」【図 6】の通りとする。

⑥挟み込み資料

資料に挟み込まれているものは、防虫紙等明らかに不必要と判断されるものを除き、原則として撮影すること。撮影方法は、「手引き」【図 7】の通りとする。

⑦丁内資料

「手引き」【図 8】の通りとする。

⑧薄紙

「手引き」【図 9】の通りとする。

⑨折込み資料について

「手引き」【図 10】の通りとする。

⑩合綴

「手引き」【図 11】の通りとする。

⑪その他

銀杏の葉、白紙の防虫紙、当館の整理作業で使用したと思われるメモ・栞・補修前の綴じ糸などは撮影対象外とする。

(4)各種形態資料の撮影

標準的な冊子体以外の形態の資料は、次の項目に従って撮影すること。

①横長本

「手引き」【図 12】の通りとする。

②折本（帖装本）

「手引き」【図 13】の通りとする。

③巻子本

「手引き」【図 14】の通りとする。

④書簡

「手引き」【図 15】の通りとする。

⑤一枚もの

「手引き」【図 16】の通りとする。

⑥地図や双六などの畳み物

「手引き」【図 17】及び【図 18・分割撮影】の通りとする。

2.3 画像データの作製

2.3.1 TIFF 形式保存用画像の作製

≪デジカメ≫

(1) RAW データに対して、縦横のピクセル数を変更することなく、ホワイトバランス・シャープネス・コントラストを適切に設定した上で RAW 現像処理を行うこと。

(2)階調は、24 ビットフルカラーとする。

(3)ICC プロファイルとして Adobe RGB を埋め込むこと。

(4)ファイル形式は、TIFF 形式とする。

(5)圧縮形式は、非圧縮とする。

(6)1 ファイル1ページのシングルファイル形式とする。

(7)ファイル名は、別紙 3「ボリューム名・フォルダ名・ファイル名の付与について」のとおりとする。

(8)拡張子は、「.tif」（半角小文字）とする。

≪スキャナ≫

(1)階調は、24 ビットフルカラーとする。

(2)ICC プロファイルとして Adobe RGB を埋め込むこと。

(3)ファイル形式は、TIFF 形式とする。

(4)圧縮形式は、非圧縮とする。

(5)1 ファイル1ページのシングルファイル形式とする。

(6)ファイル名は、別紙 3「ボリューム名・フォルダ名・ファイル名の付与について」のとおりとする。

(7)拡張子は、「.tif」（半角小文字）とする。

2.3.2 JPEG 形式公開用画像の作製

(1)TIFF 形式保存用画像から縦横のピクセル数を変更することなく JPEG 形式公開用画像を作製すること。

(2)ICC プロファイルとして sRGB を埋め込むこと。

(3)ファイル形式は、JPEG 形式とする。

(4)ファイル名は、別紙 3「ボリューム名・フォルダ名・ファイル名の付与について」のとおりとする。

(5)拡張子は、「.jpg」（半角小文字）とする。

(6)ファイルサイズは 2MB～3MB の範囲とする。

2.4 品質検査

(1)作製した成果物については、仕様書どおりに仕上がっているか品質検査をすること。

(2)作製した画像データについては、1 コマごとにビューアソフトで表示して目視による確認を行うこ

と。当該目視検査の項目は次のとおりとする。

①画像ファイル数

②文字の判読性

③画像の階調性

④画像の向き、傾き

⑤全ファイルの表示可能確認（画像展開検査）

⑥画像のファイル構造

※品質検査の目安

全般：前述 2.2 及び 2.3 にある条件を満たしていること。

カラーチャート及びスケール：

・ピクセル等倍表示で認められる汚れ・傷・劣化が無いこと。

・前述 2.2.2 にある条件を満たしていること。

裏写り：裏写りにより紙面が判読困難とならないよう、間紙を使用していること。

間紙：前述 2.2.3 にある条件を満たしていること。

ピンボケ：ピクセル等倍表示でピンボケが無いこと。

ゴミ・汚れ：ピクセル等倍表示で認められるゴミ・汚れ等が写り込んでいないこと。

モアレ：モアレが無いこと。

光の反射・明暗：照明等の影響で、本来の色が損なわれていないこと。

偽色：ピクセル等倍表示で偽色が発生していないこと。

その他：うねり・変形・ジャギー等が発生していないこと。

(3)品質検査の結果、画像データに不備がある場合は、当該画像を同一文献の他の画像データと同一の撮影環境で作製し直すこと。

2.5 テキストデータの作製

受注者は、次のテキストデータを作製すること。ファイル形式はエクセル形式とすること。なお、テキストデータを構成する項目名及び記入内容は次を参照すること。

(1)画像データの各媒体への格納状況を記述したテキストデータを作製すること。

(2)外付けハードディスク 1 台につき、1 Excel ファイルを作成すること。

(3)データは個別フォルダ単位とし、記載項目は次のとおりとする。

①ボリューム名：格納媒体のボリューム名

②画像フォルダ：格納したフォルダ名

③画像数：個別フォルダに格納した画像ファイル数

④容量（GB）：個別フォルダ容量

⑤保存形式：画像フォーマットの別

2.6 各データの格納方法

2.6.1　画像データの格納方法

受注者は、本件仕様書により作製した画像データ及びテキストデータを、次のとおり格納して管理すること。ファイル・フォルダ構造については、別紙 3「ボリューム名・フォルダ名・ファイル名の付与方法について」を参照のこと。

2.6.1.1　共通仕様

別紙 1 のリスト順に格納すること。

2.6.1.2　TIFF 形式保存用画像

TIFF 形式保存用画像は、データを外付けハードディスクに格納すること。JPEG 形式公開用画像と混在させないこと。

2.6.1.3　JPEG 形式公開用画像

JPEG 形式公開用画像は、外付けハードディスクに格納すること。TIFF 形式保存用画像等と混在させないこと。

2.6.2　テキストデータの格納方法

テキストデータは、JPEG 形式公開用画像を格納する外付けハードディスクに格納すること。画像データと混在させないこと。

2.6.3　外付けハードディスクの仕様

外付けハードディスクの仕様は次のとおりとする。

(1)ボリューム名等の付与及びラベリングの詳細については、別紙 4「HDD のラベリングについて」のとおりとする。

(2)納品前に、次の各項目に従ってウイルスチェックを行い、検査結果の報告書を提出すること。

①ウイルスチェックの検査対象は、納品するすべての媒体の全ファイルとする。

②ウイルスチェックは、最新の定義ファイルにアップデートされたアンチウイルスソフトウェアをインストールされたパソコンに、媒体を接続して行うこと。

③ウイルスチェックに使用したソフトウェア名、ソフトウェアのバージョン、ウイルスチェック結果を記載した報告書を作成すること。報告書の書式は任意とするが、A4 用紙に複数の結果が表示されているリスト形式とすること。

(3)媒体は、USB2.0 または USB3.0 接続の外付け型とする。

(4)外部電源（AC アダプター）から電力を供給する仕様であること。

(5)ハードディスク記憶媒体部分とケースが別になっているものを組み立てた製品は、使用しないこと。

(6)ハードディスク本体、USB 接続ケーブル、電源ケーブルを併せて納めること。

(7)メーカー保証のある正規品を使用し、保証書を提出すること。

(8)高耐久のものを使用すること。

(9)容量は、1TB 以上 4TB 以下のものを使用すること。ただし、格納したデータ容量が 1TB 未満の

場合は、データ容量に合わせたものを使用してもよい。

(10)1 パーティションとし、ディスクの最大容量を使用すること。

(11)格納形式は、NTFS とすること。

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

人間文化研究機構　国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター
担当：古典籍データベース第一係
【お問合せ先】
Tel：050-5533-2985 / E-mail：center_db@nijl.ac.jp

国文学研究資料館
資料電子化撮影の手引き

令和 4 年 5 月

大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国文学研究資料館

※この「国文学研究資料館資料電子化撮影の手引き」は、仕様書の撮影を補完するもので、仕様書そのものではない。あくまでも参考資料として使用願いたい。

【図 1】

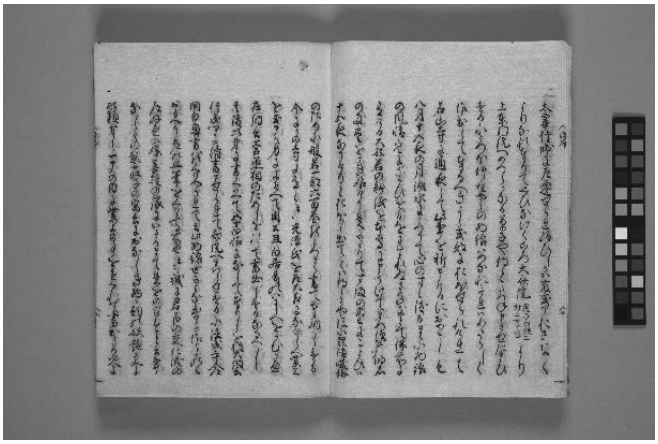
・全画面に資料を収め、天地左右に過大な余白を設けない。



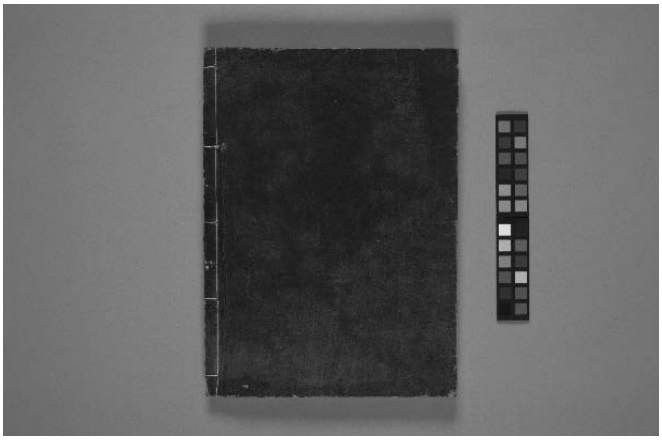
・カラーチャート：撮影する全てのコマにカラーチャートを写しこむ。原則として資料の右側あるいは下側の余白に配置するが、資料の形態により上側あるいは左側に配置しても良い。一文献におけるカラーチャートの位置は原則として変更させない。

・スケール：各文献の「箱」「帙」「書袋」「本体資料」ごとの最初に相当するコマに、資料の正位置での右側と下側に置いて写し込む。

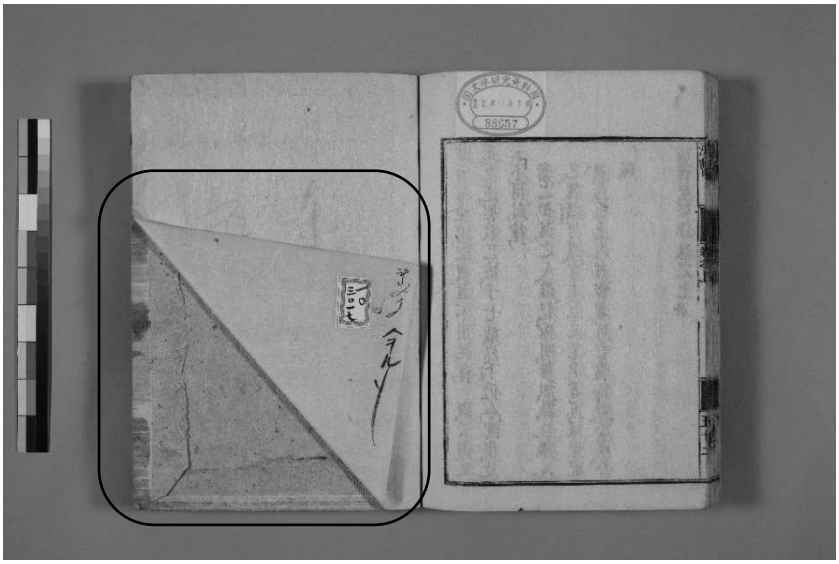
・冊子本は、原則として見開きを１コマに撮影する。



・資料は、表紙から裏表紙、表紙裏の余白も含めて、全ページ漏れなく忠実に撮影する。



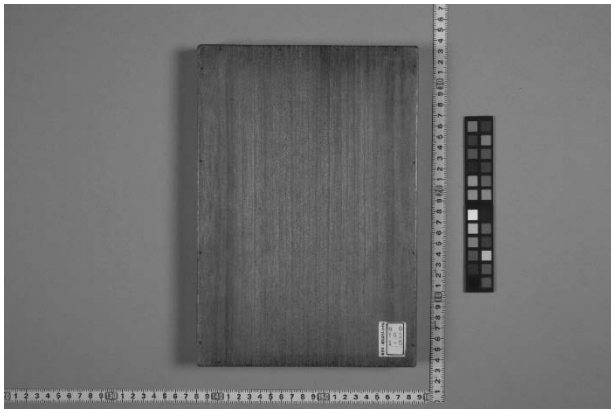
・見返しが剥離しており、その裏面に書き入れがある場合は、その箇所も撮影対象とする。
・ただし裏面を撮影する際は、紙に折り目を付けないよう充分に注意しながら該当箇所をめくって撮影する。
・紙を折らずに撮影することが困難な場合は、当館担当者に撮影方法を確認する。

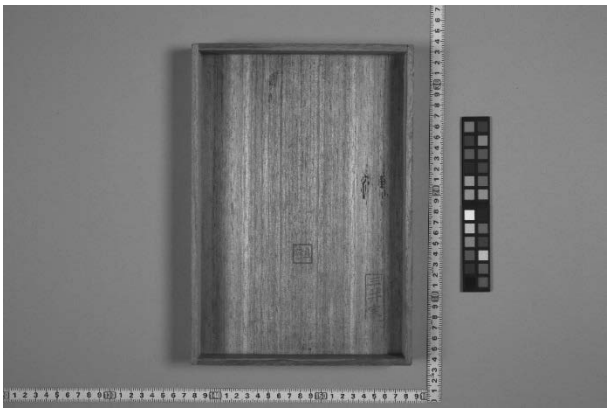


（見返しをめくった状態）

【図 2】

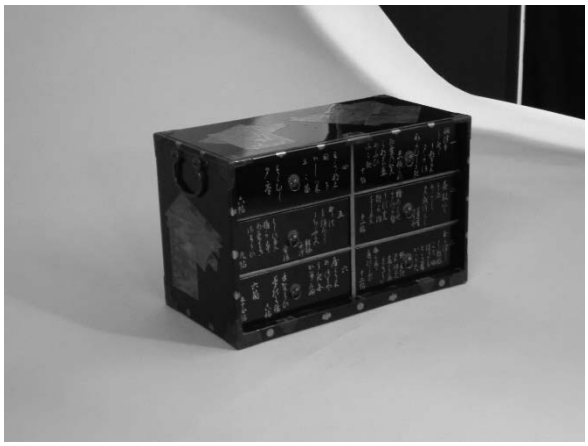
・撮影は原則として、「箱」「帙」「書袋」「本体資料（付箋、丁内資料等を含む）」の順番に撮影する。
・カラーチャートを置く。
・1 コマ目にはスケールを置く。
・箱の蓋裏、側面などに箱書や書き入れがある場合は、その箇所も撮影対象とする。





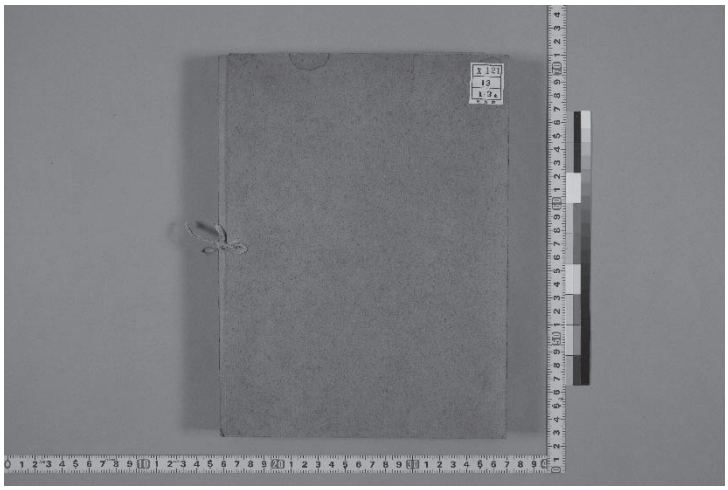
（蓋裏）

・箱の上面や側面等にも文字や文様がある場合、立体的な撮影にも対応できること。

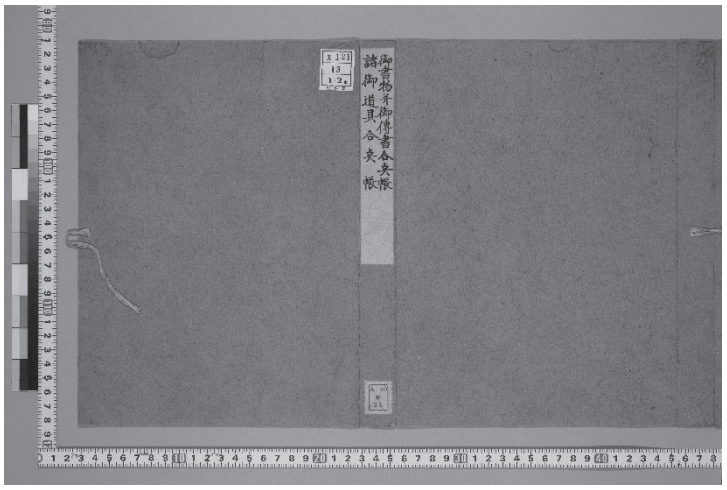


【図 3】

・帙は箱の後、書袋及び本体資料の前に撮影する。
・1 帙ごとに、本を入れたままで撮影する。
・カラーチャートを置く。
・1 コマ目にはスケールを置く。



・帙の背、裏などに書き入れなどがある場合は、その箇所も撮影対象とする。
・縮率は変えずに撮影を行い、書き入れがない部分については、多少見切れて撮影しても良いものとする。



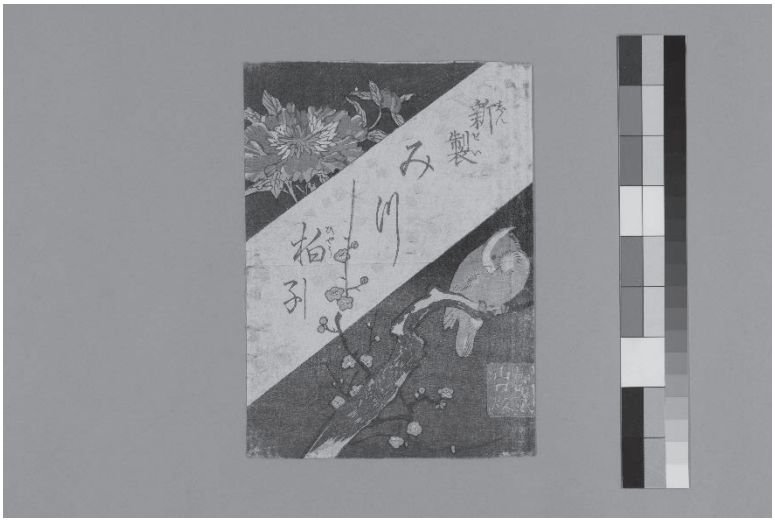
（背を撮影するため広げた状態）

■対象資料が歴史史料の場合

・四方帙の場合、史料が収まっている状態と、帙を広げた状態の両方を撮影する。
・帙を広げた状態では、全体像が分かるように撮影する。この際、縮率を変える場合は必ずスケールをおくこと。
・帙を広げた状態の撮影では、帙に書かれた文字等が不鮮明となる場合は、書き入れ部分に焦点をあてたものを別途撮影すること。

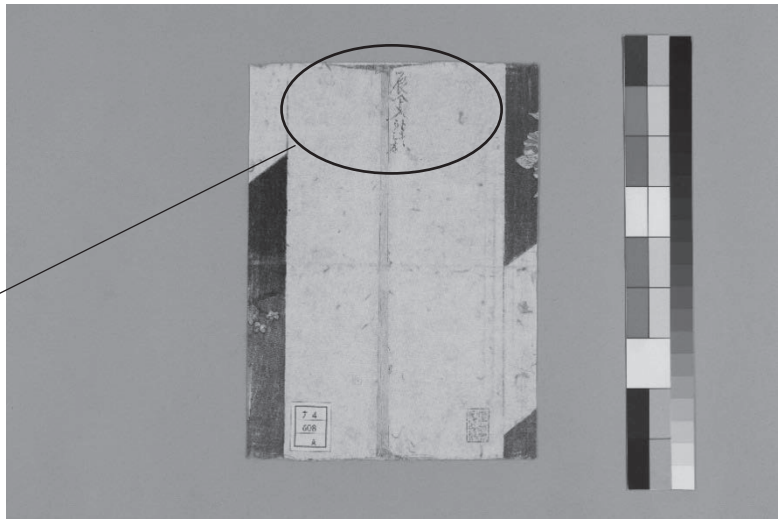
【図 4】

・箱、帙の後、本体資料の前に撮影する。
・カラーチャートを置く。
・1 コマ目にはスケールを置く。



（書袋・表）

・書袋に書入れがあれば、該当箇所も撮影する。



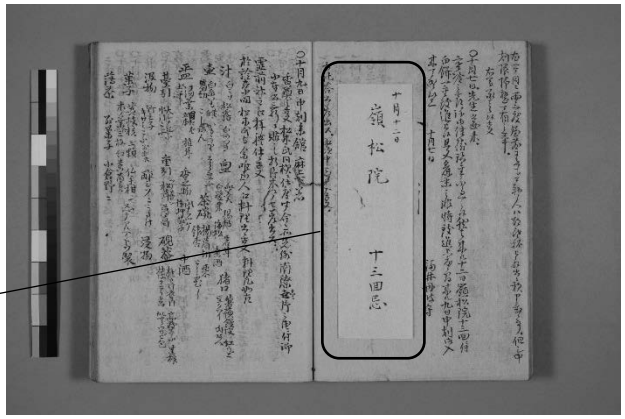
［ 書き入れ ］

（書袋・裏）

※書袋が資料に挟み込んであった場合、もとの場所には戻さず、表紙の上に置いた状態で当館担当者に戻す。

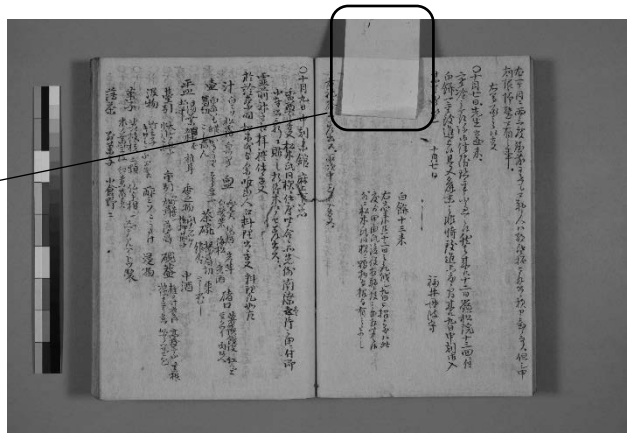
【図 5】

・最初に付箋を付したまま撮影する。
・ただし、付箋が白紙（書き入れが全く無し）の場合は、付箋を付したままの状態は撮影対象外とし、めくった状態から撮影する。



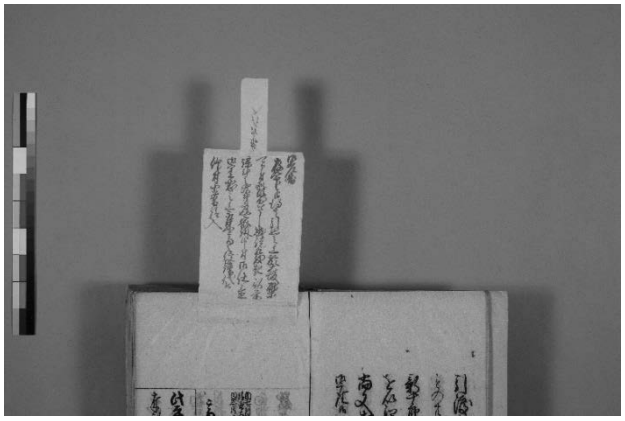
［ 付箋 ］

・折り目のつかないように付箋をめくり、付箋の下の本文を撮影する。
・付箋の下の本文がない（付箋をめくっても その下に書き入れが何もない）場合は、付箋をめくった状態での撮影は行わない。



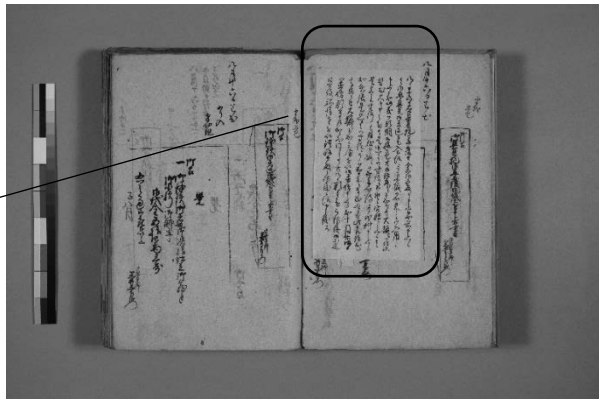
［ めくった付箋 ］

・付箋の裏に書き入れがある場合は、縮率を変えず資料を動かして、付箋の裏を撮影する。

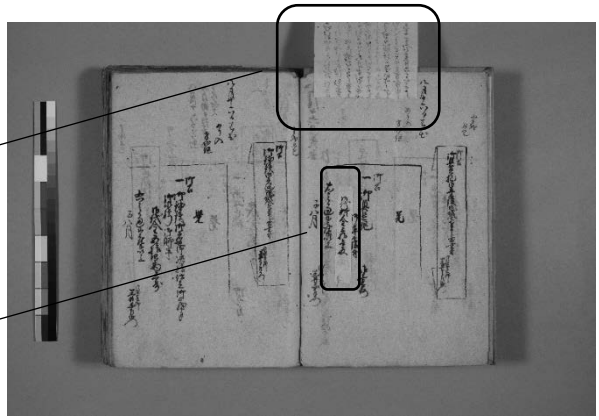


6

・付箋が 2 枚以上重なっている場合は、前述と同じ手順で、上にある付箋から順番に撮影する。

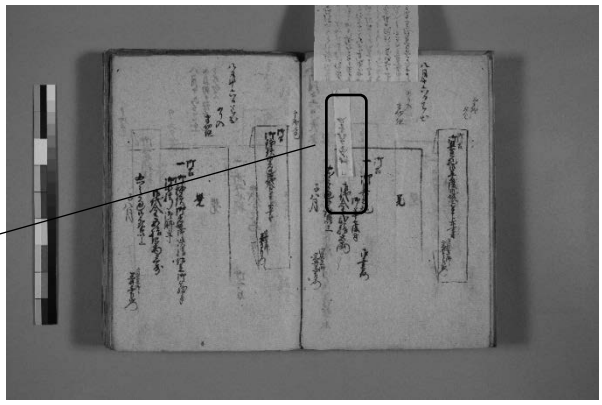


[付箋(1)]



[付箋(1) をめくった状態]

[付箋(2)]



[付箋(2) をめくった状態]

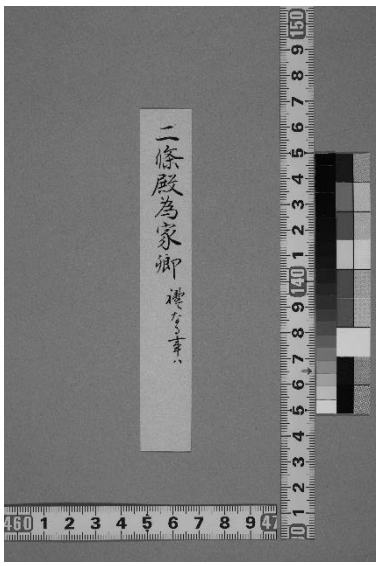
■対象資料が歴史史料の場合

・基本的には上記と同じ手順だが、付箋の現状も撮影する。また付箋が白紙（書き入れが全く無し）の場合であっても、付箋を付したままの状態を必ず撮影する。

【図 6】

・本体資料の撮影の後、最後に撮影する。
・スケール、カラーチャートを置く。
・裏面にも書き入れがある場合は、裏面も撮影対象とする。
・極札が紙に包まれている、あるいは袋に入っている場合、その紙・袋に書き入れがなければ極札のみの撮影とする。書き入れがある場合は、紙・袋も撮影する。

（極札）

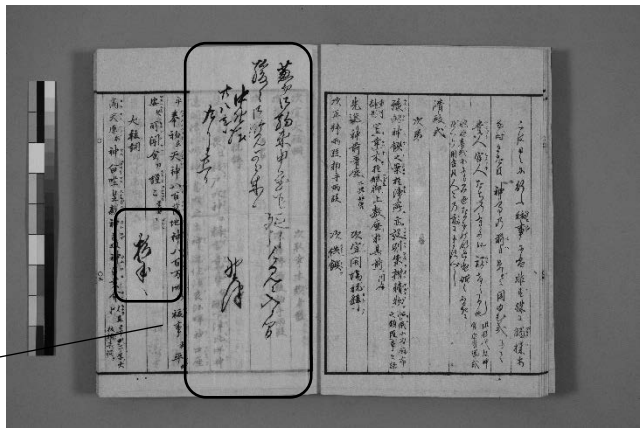


【図 7】

<基本形>

・挟み込み資料が、剥離はしているが明らかに剥がれる前の位置・状態が分かる場合は、なるべくその位置に置いて撮影する。

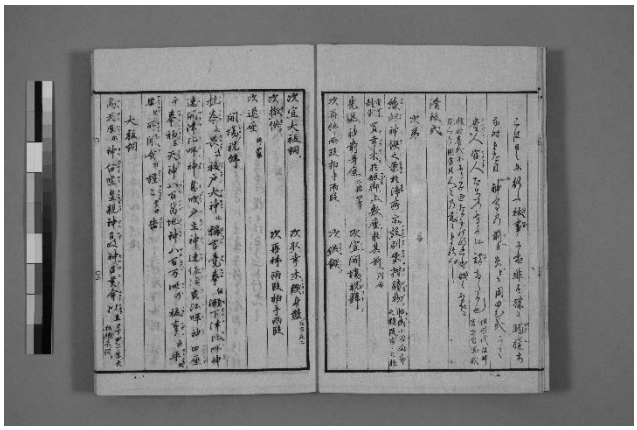
・場所が特定できない場合は、本体資料の上、見開き左側ページに置いて撮影する。



［ 挟み込み資料 ］

・挟み込み資料の裏に書き込みがある場合は、裏面をおもてに置いた状態のものも同様に撮影する。

・次に挟み込み資料を置かない状態で同ページを通常どおり撮影する。

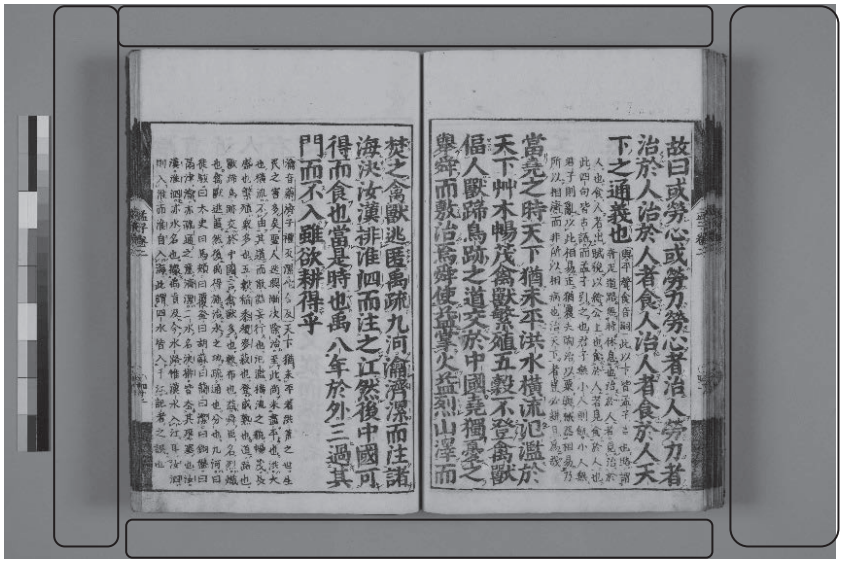


<挟み込み資料が小さく、本体資料の余白に置ける場合>

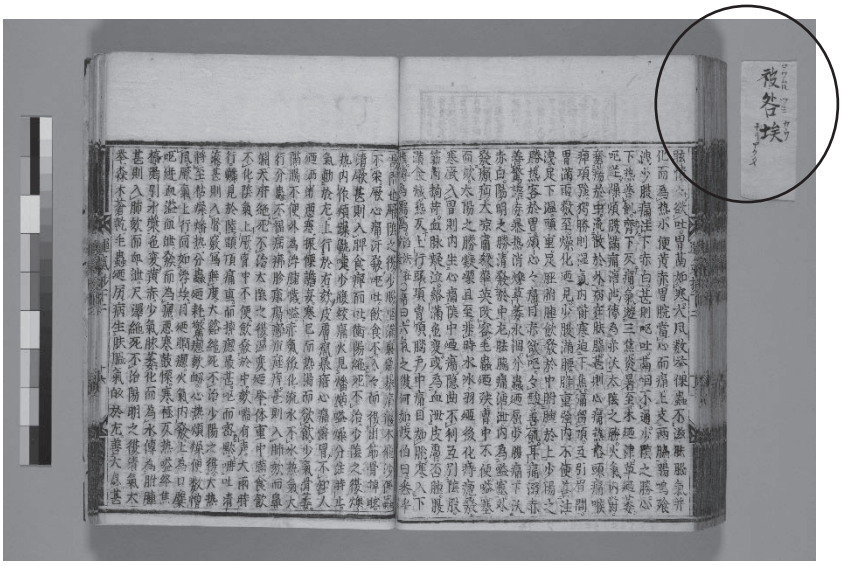
・挟み込み資料が小さく、縮率を変えない状態で余白（グレーの台紙上）に挟み込み資料を置ける場合は、そこに挟み込み資料を置いて撮影を行う。
・この場合、挟み込み資料を余白に置いてない状態での撮影は不要。
・挟み込み資料の裏に書き込みがある場合は、裏面をおもてに置いた状態のものも撮影する。
・本体資料の高さと、余白に置いた挟み込み資料の高さとに差があり、焦点が合わなくなる場合は、挟み込み資料の下に上げ底となる物を置き、高さを調節すること。ただし、資料の破損等の恐れがある物は、挟み込み資料の下に置かないこと。

小さな挟み込み資料が
置ける場所の範囲。
（グレーの台紙上）

※挟み込み資料の形状（縦長、横長など）によって、置く位置を適宜決めること。

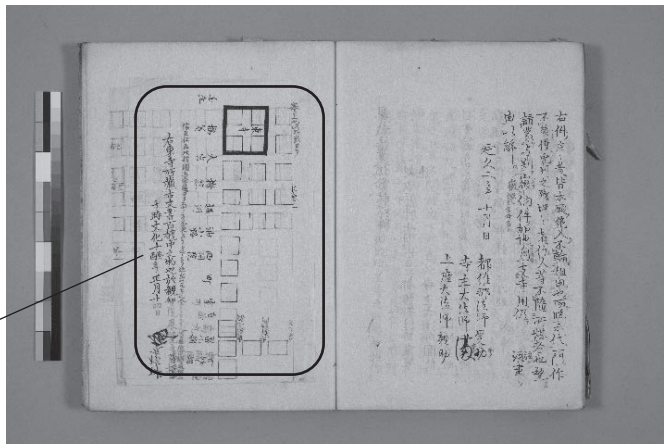


（挟み込み資料を右上に置いた例）



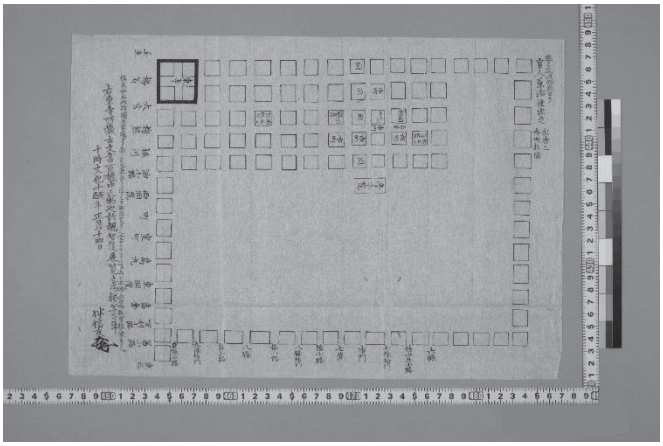
<挟み込み資料が大きく、畳まれた状態で挟み込まれていた場合>

・挟み込み資料が大きく、畳まれた状態で挟み込まれていた場合は、その資料が挟まれていたページの上に置き、その状態のまま見開きで撮影する。



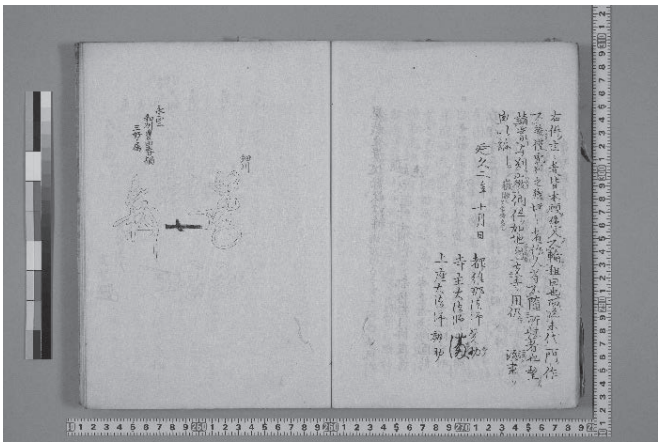
[畳まれた挟み込み資料]

・次に、挟み込み資料のみを単独で撮影する。なお、この撮影において縮率が変わる場合はスケールを必ず付与する。スケールは、右側だけではなく可能な限り下側にも置く。



（挟み込み資料・単体）

・次に、挟み込み資料を置かない状態で同ページを通常どおり撮影する。挟まれていたページが白紙であっても挟み込み資料を置いていない状態のものを必ず撮影する。



（挟み込み資料・なし）

■対象資料が歴史史料の場合

<挟み込まれているページと箇所が特定できる場合>

・挟み込まれていた資料を、挟み込まれていた位置に置いたままで撮影する。

・次に、挟み込み資料を置いていない状態で通常どおり見開きページを撮影する。

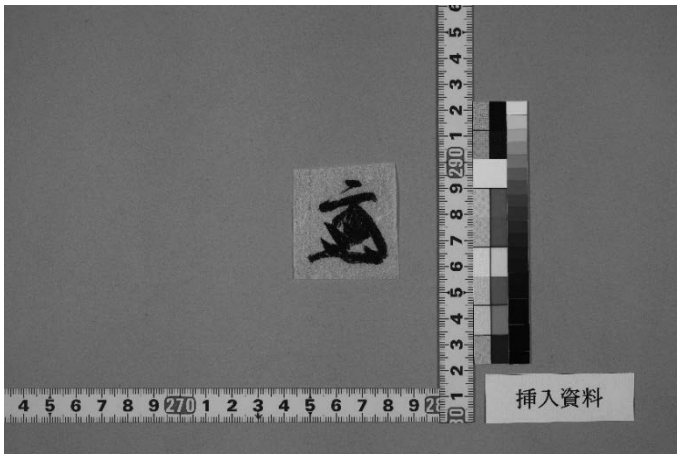
<挟み込まれていたページは特定できるが、具体的な箇所が特定できない場合>

・挟み込み資料を置いていない状態で見開きページを撮影する。

・その後、挟み込まれていた資料のみを別のコマとして単独で撮影する。

・このとき、(1)資料の右下に「挿入資料」と印刷した紙片を入れる。(2)縮率を変える場合は必ずスケールを入れる。という 2 点の処置を行う。

・次のページの撮影を行う。



<挟み込まれていたページ、具体的な箇所が特定できない場合>

・裏表紙（当該資料の最終撮影箇所）の撮影後に、挟み込み資料のみを撮影する。

・資料のみの撮影方法は、上記の「挟み込まれていたページは特定できるが、具体的な箇所が特定できない場合」と同様とする。

※歴史資料の場合は、挟み込み資料が小さく、本体資料の余白に置ける場合であっても、必ず別のコマとして撮影する。

<挟み込み資料が大判、畳み物の場合>

・挟み込まれている場所で、挟み込み資料を本体資料の上に置いた状態で撮影する。

・資料のみを広げて撮影する。このとき、(1)資料の右下に「挿入資料」と印刷した紙片を入れる。(2)縮率を変える場合は必ずスケールを入れる。という 2 点の処置を行う。

・挟み込み資料の無い状態で撮影する。

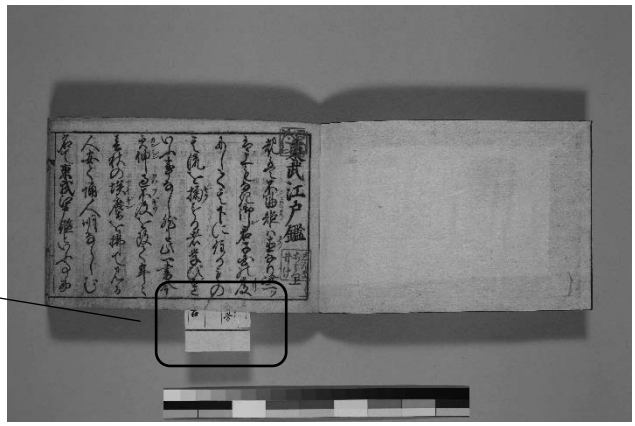
※これらに該当しない挟み込み資料があった場合は、当館担当者に撮影方法について必ず確認すること。

【図 8】

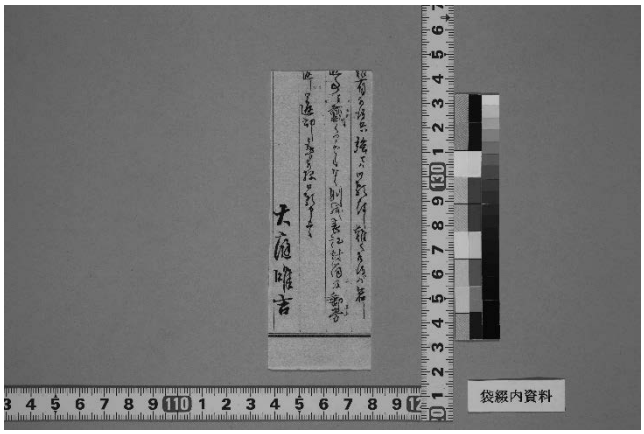
・丁内資料については、挟み込み資料の撮影方法に準じるものとする。
・原則として、見開き・左ページの袋に入っていたページで、そこに資料を置いて撮影する。
・丁内資料は、撮影後、元の位置（袋の中）に戻すこと。

■対象資料が歴史史料の場合

・袋の上（または下）から少し丁内資料を出した状態で、通常どおり見開きで撮影する。

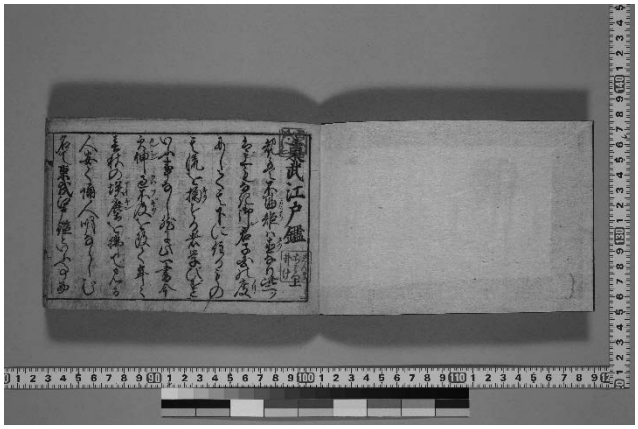


・次に、丁内資料のみを撮影する。このとき、(1)資料の右下に「袋綴内資料」と印刷した紙片を入れる。(2)縮率を変える場合は必ずスケールを入れる。という 2 点の処置を行う。



（丁内資料・単体）

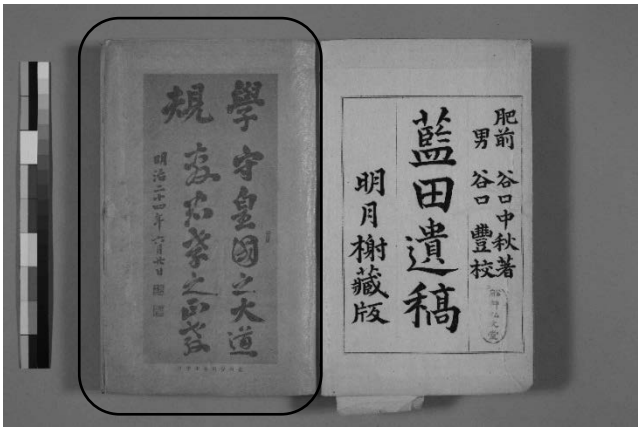
・次に、丁内資料が無い状態を通常どおり撮影する。



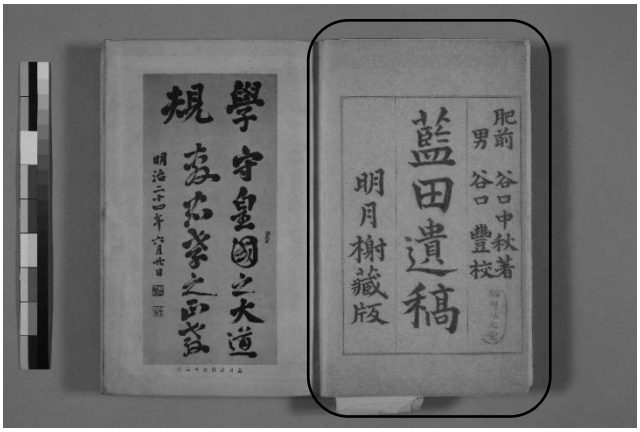
（丁内資料・なし）

【図 9】

・見開きにした状態で撮影する。本文あるいは何らかの書き入れが対のページにある場合は、各々のページを、薄紙を重ねた状態で撮影する。



（薄紙が見開き左側にある状態）



（薄紙が見開き右側にある状態）

・薄紙の対となるページ（見開き右側）が白紙で書き入れがない場合は、撮影対象外とする。
・ただし対となるページが白紙ではなく色の付いた紙の場合、そこに書き入れがなくても撮影対象とする。
※薄紙かどうか判断がつかない場合は、当館担当者に確認する。

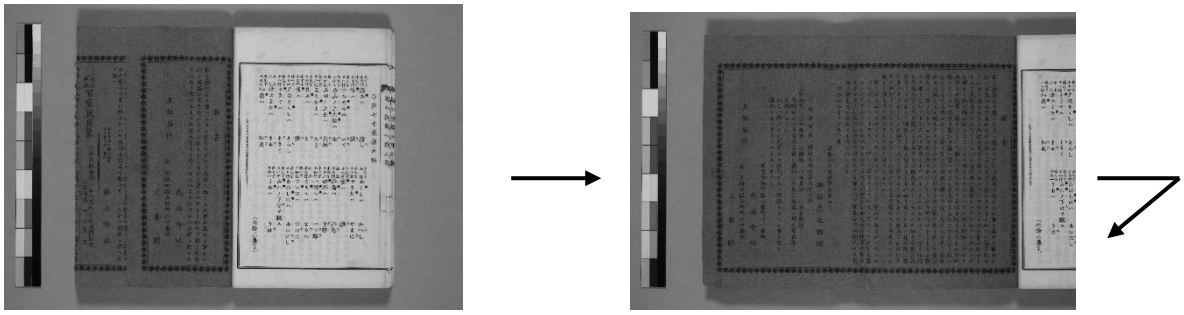
■対象資料が歴史史料の場合

・基本的には上記と同じ手順だが、対となるページ（見開き右側）が白紙で書き入れがなかった場合でも、撮影対象とする。

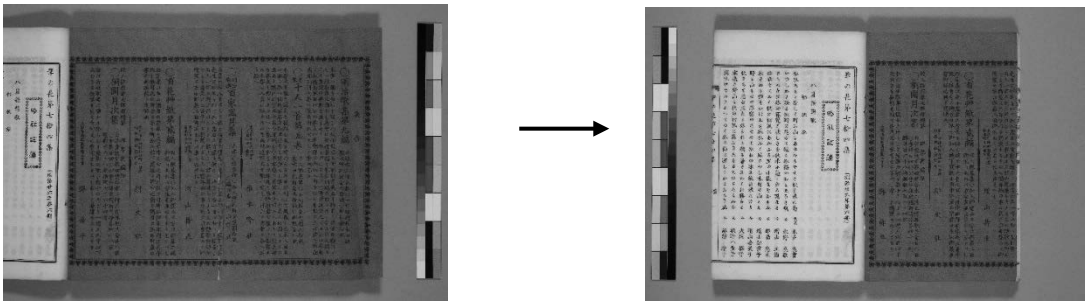
【図 10】

■折込み資料の対ページに文字など書入れがある場合

①畳んだ状態　　②広げた状態（折込み表面）



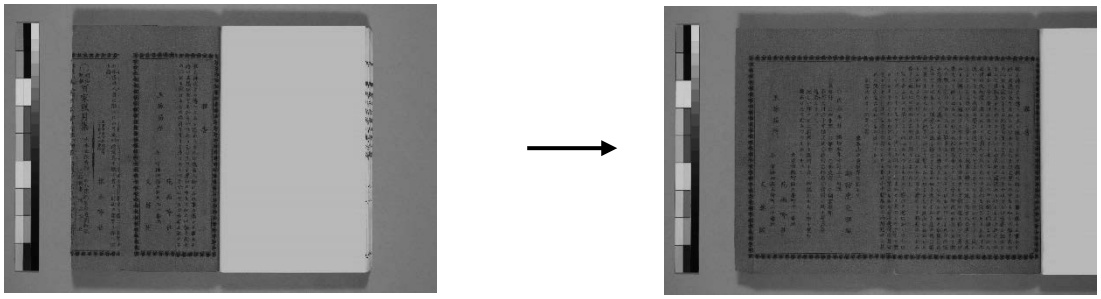
③広げた状態（折込み裏面がある場合）　　④畳んだ状態



■対象資料が歴史史料の場合かつ挟込み資料の対ページが白紙の場合

・折込み資料の対となるページが白紙の場合、歴史史料の場合は以下の①の状態も撮影対象とする。（国文資料の場合は撮影不要、②の状態から撮影する。）

①**畳んだ状態は歴史史料の場合のみ撮影**する。　　②広げた状態（折込み表面）



※以降は上記の③④の順に撮影。

【図 11】

・綴りを切る前の画像として、表表紙・背・地が見える状態で撮影する。
・カラーチャートおよびスケールは不要とする。



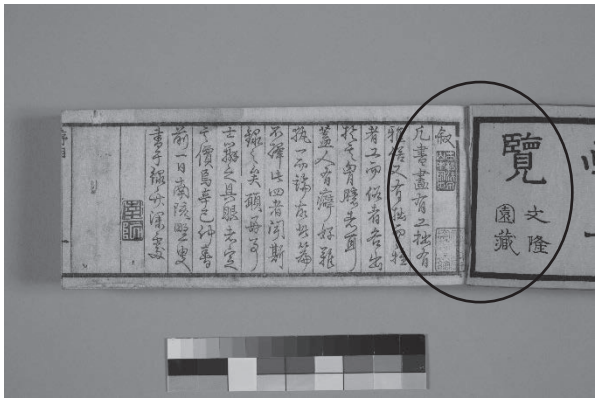
・裏表紙・前小口・天が見える状態で撮影する。
・カラーチャートおよびスケールは不要とする。

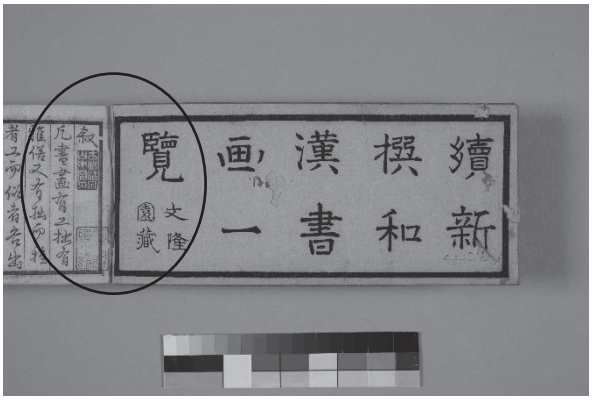


・上記の撮影後、当館担当者が作業を行うため一旦資料を返却する。
・当館担当者の指示に沿って、1 冊目にあたる資料から通常どおり撮影を進める。

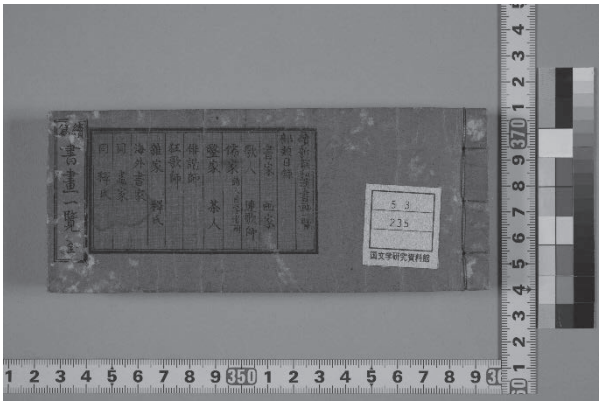
【図 12】

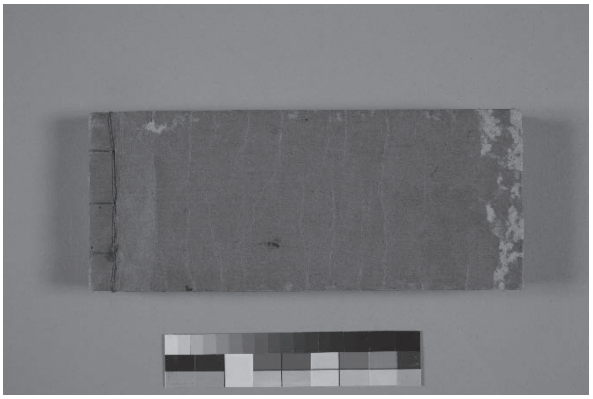
・原則として見開き１コマで撮影する。
・ただし、見開き１コマが縮率等の条件によって不可能な場合は、１ページを１コマとし、隣接ページの一部を写し込み、対象資料の位置関係を明らかにする。





・表紙及び裏表紙を撮影するときは、資料を画面中央に置くこと。

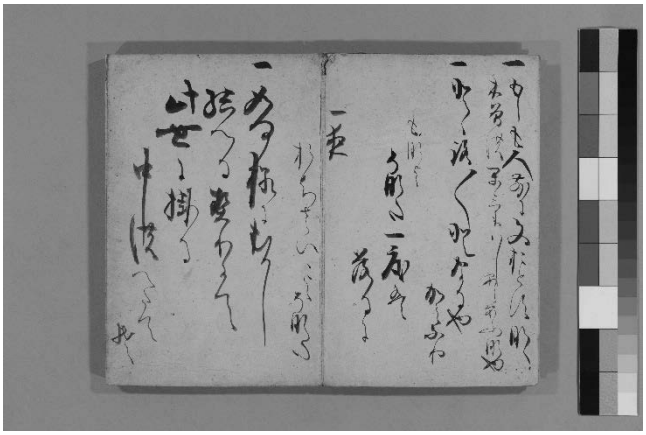




【図 13】

・原則として、通常の冊子と同様に見開き（2 面）を 1 コマに撮影する。ただし、絵などが 3 面以上連続する場合は、当館担当者に撮影方法を確認すること。





・折本の裏面にも文字が書き込まれている場合は以下の手順で撮影を行う。

①表紙

②本文を見開き（2 面）で順番に撮影

③裏表紙

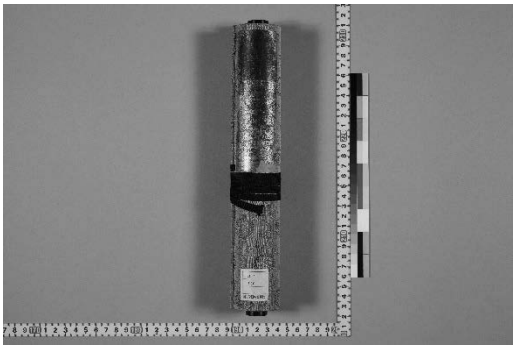
④本文の裏面を、見開き（2 面）で順番に撮影

⑤表紙を再撮影

※ただし、④に該当するページが少数の場合は該当ページのみの撮影を行い、⑤表紙の再撮影は行わない。

【図 14】

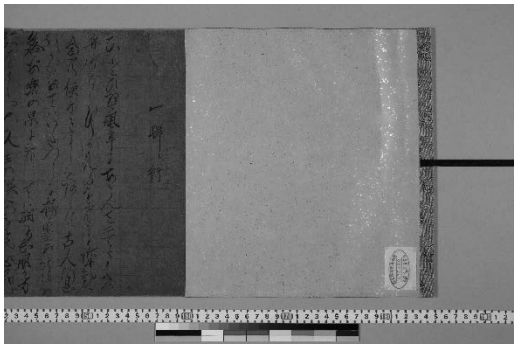
・すべてのコマの下側にスケールを写し込むこと。また、巻いたままの全体像と、表紙を広げた状態を撮影する場合は、下側だけではなく横（縦）にもスケールを置くこと。



・次に表紙を広げ、表紙右の余白部分も含めて撮影すること。この場合のスケールは、資料の左側および下側に置くこと。
※端裏書があって、裏書または紙背文書のない場合は、端裏書をこの時に撮影しておくこと。そのために表紙撮影の際に端裏書が入らなければ、もう 1 コマを使って撮影すること。

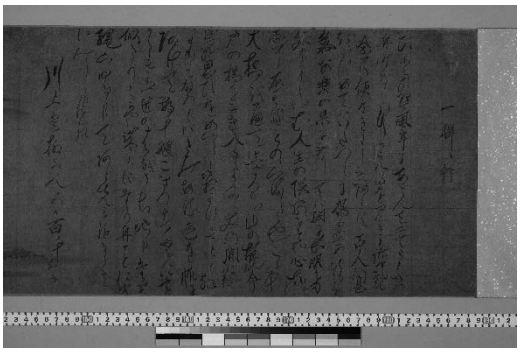


・次に表紙見返し部分から巻末まで余白部分を含めて本文を撮影する。この際、内容上の連続性が明らかになるように 1 行ないし 2 行分を前コマと重複させて撮影すること。



※表紙見返し部分を撮影した次のコマの開始位置は、本文冒頭に合わせること

※画が連続する場合、縮率は変えずに画が途中で切れてしまうことがないよう撮影すること。切れてしまう場合は当館担当者に相談すること。

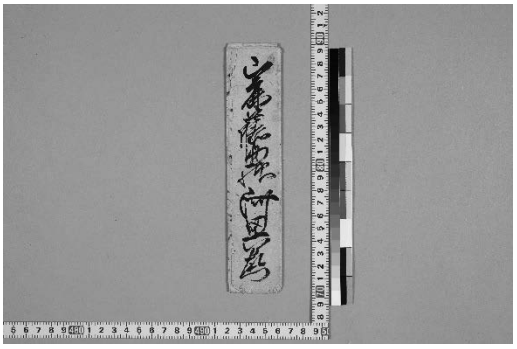


※裏書（端裏書のみの場合を除く）または紙背文書のあるものは、裏の部分を文脈に沿って、本文と同様にすべて撮影すること。

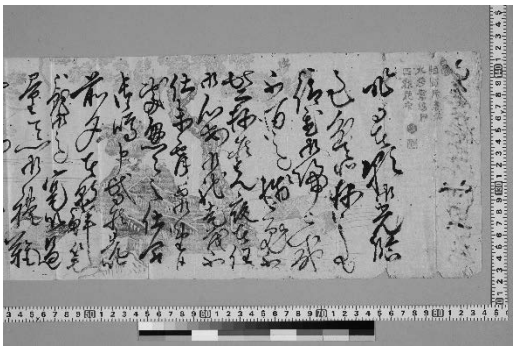
【図 15】

・畳んだままの全体像を撮影する。その場合、下側だけではなく横（縦）にもスケールを置くこと。

※畳んだままの状態で裏書きがある場合、書簡本文の最後に撮影すること。

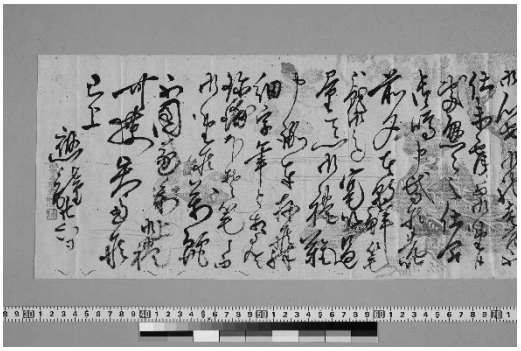


・次に書簡を広げ、冒頭から巻末まで余白部分を含めて本文を撮影する。この際、内容上の連続性が明らかになるように１行ないし 2 行分を前コマと重複させて撮影すること。先頭コマのスケールは、下側だけではなく横（縦）にもスケールを置くこと。



・書簡が複数枚に断裂（剥離）していた場合、縮率は１紙毎に変えず、全て同縮率で撮影すること。

※１紙毎の大きさが極端に異なる場合は当館担当者に相談すること。



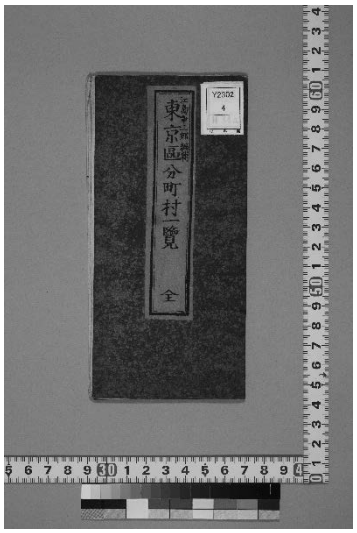
【図 16】

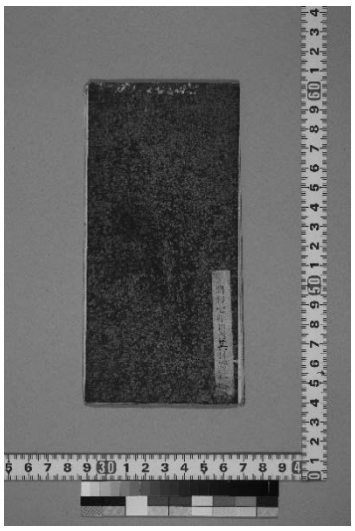
・一枚ものの資料の場合も、他の資料と同様に正位置での右側と下側にスケールを置いて写し込ませる。
・本体（表面）の１コマでの撮影が難しい場合は、分割撮影の規定に沿って分割撮影を行う。
・本体の裏面に書き入れがある場合は、裏面も撮影対象とする。

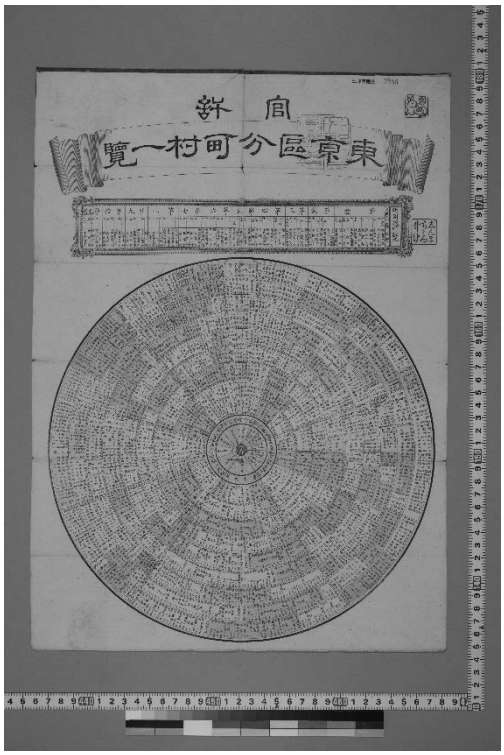


【図 17】

・地図や双六などの畳み物を撮影する場合は、原則として１面を１コマに撮影する。
・表紙、本体（表面）、裏表紙の順番で撮影する。
・本体（表面）の１コマでの撮影が難しい場合は、分割撮影の規定に沿って分割撮影を行う。
・本体の裏面に書き入れがある場合は、裏面も撮影対象とする。

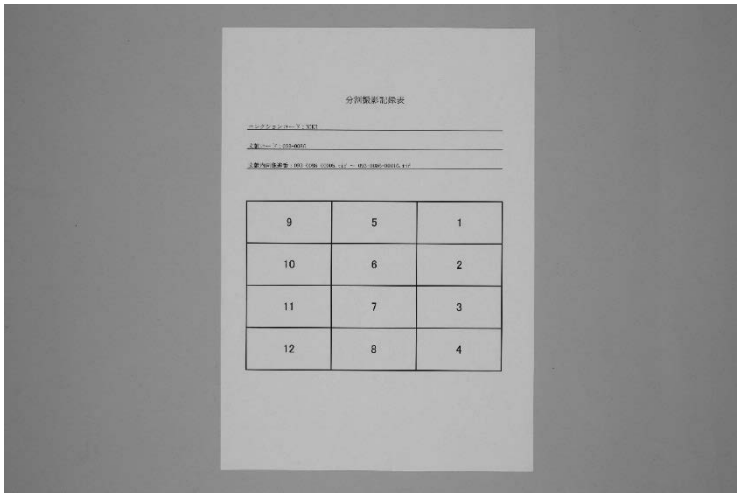






【図 18・分割撮影】

・分割撮影をすべき資料の撮影に先立ち、記入済みの「分割撮影記録票」を撮影する。



・その後、記録票にある通りの順番で分割撮影を行う。
・撮影の際は、隣接部分を写し込み、対象資料の位置関係を明らかにすること。

※なお 2 分割の場合は「分割撮影記録票」の作成と記録票の撮影は行わず、3 分割以上の場合に上記の手順で撮影を行うこと。（ただし、2 分割の場合も隣接部分の写し込みは必ず行うこと。）

別紙1 撮影対象リスト(様式例)

No.	請求記号		文献コード	書名	数	形態	刊写	予定コマ数	備考
1	99	165	NIKI-099-0165	源氏物語	16冊	15.7×15.2cm,枡	写	1016	サンプルデータ
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									

(注)
・文献コードは、資料または資料群ごとの一意のコードを設定する。
・予定コマ数は、別添資料「コマ数算出について」を参照のこと。
・備考には、帙や箱の撮影の有無、付箋の有無、挟み込み資料の有無、間紙の有無等、特記すべき事項を記載する。

別紙２

分割撮影記録票

文献コード：

請求記号：

文献内画像連番：

記入方法：分割したコマ数を実線で囲い、その枠内に撮影した順番を記入する。

別紙 3

ボリューム名・フォルダ名・ファイル名の付与方法について

■全般

・ボリューム名、フォルダ名、ファイル名は、半角英数字を使用すること。
・文献コードあるいはファイル名で使用するハイフンは、半角ハイフン（「-」）を使用すること。

■HDD のボリューム名

・5 桁の番号、本件では「2022c」＋アンダーバー＋「H」＋4 桁の通し番号　とする。
（例）
2022c_H0001
2022c_H0002
2022c_H0003　・・・　以降、必要数に応じて通し番号を付与

■フォルダ名

・フォルダ名は、別紙 1 の「文献コード」とする。
・文献コード単位で作成したフォルダより上位または下位のフォルダを作成しないこと。

■ファイル名

・ファイル名は、文献コード＋文献内画像連番とする。連番は 5 桁（0 埋め）とする。
・文献コードと文献内画像連番は半角ハイフンで繋ぐ。
・ターゲットに該当する画像ファイルの連番は、「00000」とする。
・拡張子は、TIFF の場合は「tif」、JPEG の場合は「jpg」とする（小文字を使用）。

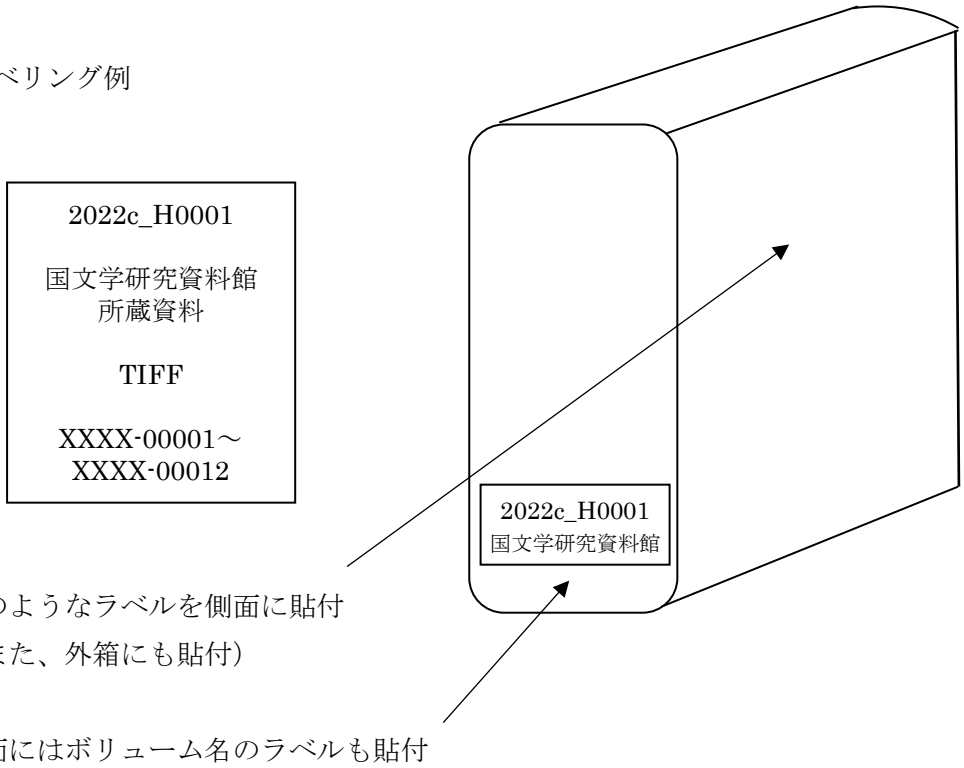
別紙 4

HDD のラベリングについて

・HDD にラベリングする項目は次のとおりとする。
⑴ボリューム名
⑵国文学研究資料館所蔵資料
⑶収録画像形式　（TIFF　あるいは　JPEG）
⑷収録資料のフォルダ名（先頭と最後のみ）

・ボリューム名やコード値、通番等を印字する場合は、半角英数字を使用すること。
・ラベルは見やすいサイズ、フォントを選択すること。
・ラベルは HDD 本体の側面と、外箱の側面に貼付すること。なお HDD 本体正面には、ボリューム名・所蔵者名のラベルも 1 枚貼付すること。
・外箱の上部（天の部分）にも、⑴～⑷の項目を含むラベルを貼付すること。

※HDD　ラベリング例



記載項目

［文献コード ］

書名　［ 書名 ］

［ 刊写の別 ］　［ 数量 ］

所蔵者

［ 所蔵者名 ］

（備考）

函号　［ 請求記号／登録番号 等 ］

撮影　［ 撮影者（業者／機関等）名］

［ 撮影年度 ］

［ 所蔵者等 ］

記載例

NIKI-099-0165

書名　源氏物語

写　16 冊

所蔵者

国文学研究資料館

（備考）

函号　99-165

撮影　〇△株式会社

令和　　年度

国文学研究資料館

撮影コマ数の算出方法

■冊子本

・1 点 1 冊ものの場合、丁数に「3」を加算した数がコマ数となります。
・1 点が複数冊から成る資料の場合、各冊につき「3」を丁数に加算した数がコマ数になります。
（3 コマの内訳）
①表紙
②裏表紙裏が見開き左側にくる最終丁のコマ
③裏表紙
・帙がある場合は、1 点につき「1」を加算します。
・書袋がある場合は、1 点につき「2」を加算します。
・丁数に含まれていない付録や小冊子などがある場合は、適宜加算してください。

（例 1）冊子本（1 冊・70 丁）の場合　→　70＋3 = 73 コマ
（例 2）帙に入った冊子本（1 冊・50 丁）の場合　→　50＋3＋1 = 55 コマ
（例 3）帙に入った 2 分冊の冊子本（1 冊目 30 丁，2 冊目 34 丁）の場合
→　30＋34＋(3×2)＋1 = 71 コマ

■巻子本

・1 軸/巻につき 2 コマ加算。（表紙、予備 1 コマ）

＜補足＞

・巻き姿（巻かれた状態）を撮影する場合は、その分（1～2 コマ）を加算。
・国文研では、納品される画像サイズが概ね縦：横＝1：1.5 という比率であることから、以下の計算式により本体部分のコマ数（概数）を算出しています。

全長÷（巻子の縦幅×1.5）＝コマ数

例えば縦幅 20cm、全長 6m（600cm）の巻子本の場合は、
600÷（20×1.5）＝20 コマ
→巻き姿 1＋表紙 1＋本体 20＋予備 1＝23 コマ
※実際に撮影すると 1，2 コマの差が出ることがあります。
※内容によっては、実際に資料を見てカウントした方が良いものもあり、その場合は計算式を使わずカウントしています。（例：絵と文が交互に、同じ幅で出てくる巻子本などは目視でカウント。）

〈ターゲット撮影〉

撮影資料の情報を示すターゲットを撮影する場合、資料の形態（冊子/巻子）に関わらず、1 点につき「1」を加算します。

〈内訳の記録〉

後々の点検で使用するため、加算コマ数の内訳と理由はなるべく記録するようにしています。
（例）帙（+1）、表紙・裏表紙（+2）、表紙挟み込み資料（+2）

資料 4

新日本古典籍総合データベース利用状況

平成 29（2017）年度

ページビュー数
566,059

国内ユーザー数	海外ユーザー数
2,600	260

※ 1 ヶ月毎のユニークユーザー数の年間平均

（月毎のページビュー数）

4 月	8,260
5 月	39,294
6 月	31,077
7 月	23,125
8 月	22,121
9 月	17,966
10 月	56,642
11 月	92,866
12 月	84,221
1 月	62,026
2 月	65,323
3 月	63,138

（月毎のユーザー数）

（記録未実施）	（記録未実施）
1,756	186
1,063	129
1,143	115
905	169
759	94
3,723	240
4,105	256
3,679	556
3,254	258
4,301	369
3,916	486

平成 30（2018）年度

ページビュー数
1,233,083

国内ユーザー数	海外ユーザー数
4,578	361

※ 1 ヶ月毎のユニークユーザー数の年間平均

（月毎のページビュー数）

4 月	57,337
5 月	73,511
6 月	83,229
7 月	76,961
8 月	68,466
9 月	69,268
10 月	79,355
11 月	80,689
12 月	75,539
1 月	147,241
2 月	213,914
3 月	207,573

（月毎のユーザー数）

3,769	345
3,967	339
7,895	422
3,847	288
3,073	300
3,012	333
3,750	374
4,285	371
8,107	328
4,939	380
4,100	362
4,192	487

令和元（2019）年度

ページビュー数
3,376,270

国内ユーザー数	海外ユーザー数
8,142	677

※1ヶ月毎のユニークユーザー数の年間平均

（月毎のページビュー数）

4月	244,906
5月	277,494
6月	258,268
7月	292,495
8月	267,094
9月	248,297
10月	337,022
11月	351,246
12月	315,114
1月	315,897
2月	194,629
3月	273,808

（月毎のユーザー数）

7,232	600
7,771	504
7,985	468
9,194	521
6,017	492
6,348	648
8,794	782
9,518	742
9,761	884
10,480	685
7,889	815
6,710	985

※1月から集計方法を変更
（資料1点ごとに1PVから1コマごとに1PV）

令和2（2020）年度

ページビュー数
7,104,885

国内ユーザー数	海外ユーザー数
12,809	1,221

※1ヶ月毎のユニークユーザー数の年間平均

（月毎のページビュー数）

4月	403,049
5月	592,278
6月	645,515
7月	628,282
8月	535,382
9月	529,444
10月	675,253
11月	670,181
12月	683,143
1月	703,212
2月	484,525
3月	554,621

（月毎のユーザー数）

8,703	1,249
15,640	1,277
15,915	1,338
15,223	1,145
11,247	936
10,343	992
15,732	1,217
13,964	1,183
14,426	1,202
17,637	1,625
8,073	1,160
6,799	1,332

令和３（2021）年度

ページビュー数
9,225,119

国内ユーザー数	海外ユーザー数
15,560	1,940

※１ヶ月毎のユニークユーザー数の年間平均

（月毎のページビュー数）

4 月	575,775
5 月	791,788
6 月	725,071
7 月	700,633
8 月	611,040
9 月	697,080
10 月	857,302
11 月	901,158
12 月	860,818
1 月	938,160
2 月	743,862
3 月	822,432

（月毎のユーザー数）

9,427	1,409
14,050	2,124
13,506	1,473
13,920	1,476
9,491	1,565
12,566	1,561
18,559	2,069
20,495	2,751
19,455	2,603
22,201	1,973
17,233	1,814
15,809	2,460

令和４（2022）年度

ページビュー数
11,805,374

国内ユーザー数	海外ユーザー数
23,938	3,040

※１ヶ月毎のユニークユーザー数の年間平均

（月毎のページビュー数）

4 月	860,688
5 月	1,105,987
6 月	1,076,493
7 月	1,080,157
8 月	978,933
9 月	938,717
10 月	1,070,827
11 月	1,242,826
12 月	1,194,364
1 月	1,194,593
2 月	1,061,789

（月毎のユーザー数）

20,280	2,907
27,515	3,042
27,475	2,592
26,129	2,828
20,729	2,542
20,062	2,822
23,450	3,189
24,686	3,895
23,370	3,167
27,819	3,249
21,804	3,207

海外ユーザー内訳

※国（地域）別アクセス数上位 10 ヶ国を掲載

※平成 29（2017）年度は、国（地域別）アクセス記録未実施

平成 30（2018）年度

国（地域）	ユーザー数
米国	405
中国	333
台湾	150
韓国	150
ドイツ	61
フランス	55
イギリス	53
香港	45
イタリア	37
カナダ	30

令和元（2019）年度

国（地域）	ユーザー数
米国	1,706
中国	1,451
韓国	756
台湾	641
ドイツ	290
香港	253
イギリス	220
フランス	201
カナダ	123
イタリア	112

令和 2（2020）年度

国（地域）	ユーザー数
米国	3,336
中国	2,963
韓国	1,207
台湾	971
ドイツ	473
香港	460
イギリス	412
フランス	286
カナダ	193
イタリア	189

令和 3（2021）年度

国（地域）	ユーザー数
中国	7,199
米国	3,285
韓国	1,249
台湾	1,241
イギリス	1,041
インドネシア	1,005
香港	660
ドイツ	563
フランス	387
スイス	367

令和 4（2022）年度

国（地域）	ユーザー数
中国	12,758
米国	4,212
台湾	1,857
韓国	1,832
ドイツ	1,131
香港	930
イギリス	596
フランス	457
シンガポール	368
カナダ	313

資料 5

タグ付け実施状況

平成 28（2016）年度まで

・30 万点の 5%にあたる 15,000 点の画像データに、検索のキーワードとなるタグを付与することを決定
・タグ付け試行作業、マニュアルの作成を実施
・インターネット上からのタグ付けを可能とするタグ付けシステムを構築、実運用を開始

平成 29（2017）年度以降

・タグ付け実施状況は以下のとおり

	年度当初 計画点数	作成点数	累計点数 （進捗率）
平成 29（2017）年度まで	—	616 点	616 点 （4.1%）
平成 30（2018）年度	1,000 点	1,580 点	2,196 点 （14.6%）
令和元（2019）年度	2,500 点	4,063 点	6,259 点 （41.7%）
令和 2（2020）年度	2,500 点	3,322 点	9,581 点 （63.9%）
令和 3（2021）年度	2,500 点	2,858 点	12,439 点 （82.9%）
令和 4（2022）年度	1,250 点	1,486 点	13,925 点 （92.8%）

資料６

日本古典籍研究国際コンソーシアム参加機関一覧

令和５年３月31日現在

【国　内】

No	区分	団体等名称
1	大学学部等	筑波大学人文社会系
2	大学学部等	広島大学大学院人間社会科学研究科人文学プログラム
3	大学学部等	立命館大学文学部
4	大学学部等	駒澤大学大学院人文科学研究科
5	大学学部等	日本女子大学文学部日本文学科
6	大学学部等	東京大学教養学部国文・漢文学部会
7	大学学部等	慶應義塾大学文学部
8	大学学部等	埼玉大学大学院人文社会科学研究科
9	大学学部等	総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻
10	大学学部等	早稲田大学教育・総合科学学術院
11	大学学部等	順天堂大学医学部医史学研究室
12	大学学部等	東北大学大学院文学研究科
13	大学学部等	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科
14	大学学部等	名古屋大学大学院人文学研究科
15	大学学部等	神戸大学大学院人文学研究科・文学部
16	大学学部等	信州大学人文学部
17	大学学部等	大阪大学大学院文学研究科
18	大学学部等	二松学舎大学東アジア学術総合研究所
19	大学学部等	早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース
20	資料保有機関	国立国会図書館電子情報部
21	資料保有機関	公益財団法人研医会研医会図書館
22	資料保有機関	東北大学附属図書館
23	資料保有機関	筑波大学附属図書館
24	資料保有機関	東京大学附属図書館
25	資料保有機関	九州大学附属図書館
26	資料保有機関	大手前大学図書館
27	資料保有機関	大阪大学附属図書館
28	資料保有機関	名古屋大学附属図書館
29	資料保有機関	東京学芸大学附属図書館
30	資料保有機関	神戸大学附属図書館

No	区分	団体等名称
31	資料保有機関	上智大学キリシタン文庫
32	研究機関	情報・システム研究機構統計数理研究所
33	研究機関	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
34	研究機関	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター
35	研究機関	立命館大学アート・リサーチセンター
36	研究機関	人間文化研究機構国立国語研究所
37	研究機関	人間文化研究機構国文学研究資料館
38	研究機関	一般財団法人人文情報学研究所人文情報学研究部門
39	研究機関	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設
40	学協会	一般社団法人日本医史学会
41	学協会	日本近世文学会

【国　外】

No	区分	国名	団体等名称
1	大学学部等	アメリカ	プリンストン大学
2	大学学部等	アメリカ	コロラド大学ボルダー校
3	大学学部等	アメリカ	ハワイ大学マノア校（東アジア言語文学学部）
4	大学学部等	アメリカ	イェール大学
5	大学学部等	ドイツ	ハイデルベルク大学
6	大学学部等	ドイツ	ルール大学
7	大学学部等	ドイツ	フランクフルト大学
8	大学学部等	中国	四川外国語大学
9	大学学部等	中国	西安外国語大学
10	大学学部等	中国	厦門大学
11	大学学部等	中国	大連理工大学
12	大学学部等	中国	華南師範大学
13	大学学部等	中国	北華大学
14	大学学部等	イタリア	ベルガモ大学
15	大学学部等	イタリア	フィレンツェ大学
16	大学学部等	イタリア	ローマ大学
17	大学学部等	イタリア	サレント大学
18	大学学部等	イタリア	ヴェネツィア・カフォスカリ大学
19	大学学部等	スイス	チューリッヒ大学

No	区分	国名	団体等名称
20	大学学部等	ブルガリア	ソフィア大学
21	大学学部等	オーストラリア	シドニー大学
22	大学学部等	韓国	高麗大学校
23	大学学部等	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学
24	大学学部等	フィリピン	フィリピン大学
25	資料保有機関	アメリカ	ホノルル美術館
26	資料保有機関	アメリカ	カリフォルニア大学バークレー校 C. V. スター東アジア図書館
27	資料保有機関	アメリカ	アメリカ議会図書館アジア部
28	資料保有機関	アメリカ	ハワイ大学マノア校図書館
29	資料保有機関	アメリカ	プリンストン大学東アジア図書館
30	資料保有機関	アメリカ	ハーバード大学燕京図書館
31	資料保有機関	アメリカ	ワシントン大学東アジア図書館
32	資料保有機関	中国	華東師範大学図書館
33	資料保有機関	中国	天津師範大学
34	資料保有機関	フランス	フランス国立ギメ東洋美術館図書館
35	資料保有機関	ドイツ	ベルリン州立図書館
36	資料保有機関	スイス	チューリッヒ大学アジア・オリエント研究所図書館
37	資料保有機関	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学図書館アジア図書館
38	研究機関	フランス	アルザス・欧州日本学研究所（CEEJA）
39	研究機関	中国	北京日本学研究センター
40	研究機関	ポルトガル	マカオ科学文化センター
41	学協会	ヨーロッパ（ベルギー）	European Association of Japanese Resource Specialists（EAJRS）

資料 7

日本古典籍研究国際コンソーシアム分科会等開催状況

オンライン分科会：

コンソーシアム参加機関の専門職員・研究者・学生が情報共有する場。コンソーシアム参加機関の所属者が参加できる。

2021 年 4 月 13 日	第１回「日本古典籍に関する情報リテラシー」分科会　夜の部
2021 年 4 月 14 日	第１回「日本古典籍に関する情報リテラシー」分科会　朝の部
2021 年 4 月 22 日	第１回「日本国内外のくずし字教育」分科会　朝の部
2021 年 4 月 28 日	第１回「日本国内外のくずし字教育」分科会　夜の部
2021 年 6 月 17 日	第２回「日本古典籍に関する情報リテラシー」分科会　夜の部
2021 年 6 月 22 日	第２回「日本古典籍に関する情報リテラシー」分科会　朝の部
2021 年 7 月 24 日	第２回「日本国内外のくずし字教育」分科会　朝の部
2021 年 7 月 24 日	第２回「日本国内外のくずし字教育」分科会　夜の部
2022 年 10 月 11 日	第１回「オンライン翻刻・展示」分科会
2022 年 11 月 18 日	第２回「オンライン翻刻・展示」分科会
2022 年 12 月 14 日	第３回「オンライン翻刻・展示」分科会

オンライン勉強会：

複数機関の学生・研究者・専門職員が一緒に研究・勉強する場。モデレータは、コンソーシアム参加機関の所属者又はコンソーシアム事務局に限定しているが、参加機関に所属していない個人でも（だれでも）参加できる。

2021 年 10 月 20 日	第１回「書誌学用語」勉強会　朝の部
2021 年 10 月 29 日	第１回「書誌学用語」勉強会　夜の部
2021 年 12 月 15 日	第２回「書誌学用語」勉強会
2022 年 1 月 19 日	第３回「書誌学用語」勉強会　夜の部
2022 年 1 月 25 日	第３回「書誌学用語」勉強会　朝の部
2022 年 2 月 17 日	第４回「書誌学用語」勉強会　夜の部
2022 年 2 月 22 日	第４回「書誌学用語」勉強会　朝の部
2022 年 4 月 26 日	第５回「書誌学用語」勉強会　朝の部
2022 年 4 月 27 日	第５回「書誌学用語」勉強会　夜の部
2022 年 10 月 11 日	第６回「書誌学用語」勉強会
2022 年 11 月 18 日	第７回「書誌学用語」勉強会
2022 年 12 月 14 日	第８回「書誌学用語」勉強会
2023 年 1 月 19 日	第９回「書誌学用語」勉強会
2023 年 2 月 22 日	第１０回「書誌学用語」勉強会

研究推進関連資料

資料８

共同研究課題一覧

【公募型共同研究】

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
1	草双紙を中心とした近世挿絵史の構築	平成 26（2014）年度 ～平成 29（2017）年度	佐藤　悟（実践女子大学教授）
2	近世日本を中心とする東アジアの理学典籍に関する国際共同研究	平成 26（2014）年度 ～平成 29（2017）年度	小川　束（四日市大学教授）
3	紀州地域に存する古典籍およびその関連資料・文化資源の基礎的研究	平成 26（2014）年度 ～平成 29（2017）年度	大橋　直義（和歌山大学准教授）
4	近世日本科学史典籍の国際的再評価に向けた基盤研究	平成 26（2014）年度 ～平成 29（2017）年度	佐藤　賢一（電気通信大学准教授）
5	日本漢詩文における古典形成の研究ならびに研究環境のグローバル化に対応した日本漢文学の通史の検討	平成 26（2014）年度 ～平成 29（2017）年度	合山　林太郎（大阪大学准教授）

【国文研主導共同研究】

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
1	アジアの中の日本古典籍 －医学・理学・農学書を中心として－	平成 26（2014）年度 ～平成 28（2016）年度	陳　捷（国文学研究資料館教授）
2	日本古典籍の書誌概念と書誌用語の国際化	平成 26（2014）年度 ～平成 28（2016）年度	落合　博志（国文学研究資料館教授）
3	日本古典籍コードの国際標準化	平成 26（2014）年度 ～平成 28（2016）年度	山本　和明（国文学研究資料館特任教授）
4	表記の文化学－ひらがなとカタカナ－	平成 26（2014）年度 ～平成 28（2016）年度	入口　敦志（国文学研究資料館准教授）
5	書誌学・文献学の再構築	平成 27（2015）年度 ～令和元（2019）年度	谷川　惠一（国文学研究資料館教授）
6	青少年に向けた古典籍インターフェースの開発	平成 27（2015）年度 ～平成 29（2017）年度	田中　大士（国文学研究資料館教授） ※平成 27（2015）年度まで 小山　順子（国文学研究資料館准教授） ※平成 28（2016）年度から
7	日本古典籍の比較書誌学的研究	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	落合　博志（国文学研究資料館教授）

【拠点主導共同研究】

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
1	法華経の日本での享受についての研究	平成 27（2015）年度	浅田　徹（お茶の水女子大学教授）
2	日本の歴史的典籍の画像データベースを利用した国際的教育プログラムの開発	平成 27（2015）年度	飯倉　洋一（大阪大学教授）
3	「見立て」と日本文化の諸相	平成 27（2015）年度	福長　進（神戸大学教授）
4	西欧および近代日本における日本「古典」の受容のあり方についての研究～南方熊楠を視座として～	平成 27（2015）年度	千本　英史（奈良女子大学教授）

【国際共同研究】

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
1	江戸時代初期出版と学問の綜合的研究	平成 27（2015）年度 ～平成 29（2017）年度 ※平成 26（2014）年度に準備研究を実施	ピーター・コーニツキー （ケンブリッジ大学名誉教授）
2	境界をめぐる文学 ―知のプラットフォーム構築をめざして―	平成 27（2015）年度 ～平成 29（2017）年度 ※平成 26（2014）年度に準備研究を実施	ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授） ※平成 28（2016）年度まで 今西　祐一郎（国文学研究資料館名誉教授） ※平成 29（2017）年度
3	UC バークレー所蔵古典籍資料のインスタレーションとキュレーション	平成 30（2018）年度 ～令和 2（2020）年度	ジョナサン・ズイッカー （カリフォルニア大学バークレー校准教授）
4	中近世日本における知の交通の総合的研究	平成 30（2018）年度 ～令和 2（2020）年度	ダヴァン・ディディエ（国文学研究資料館准教授）
5	古典芸能における身体 ―ことばと絵画から立ち上がるもの―	平成 30（2018）年度 ～令和 2（2020）年度	ボナヴェントゥーラ・ルペルティ （ヴェネチア　カ・フォスカリ大学教授）
6	画像に紐付くメタデータ生成に関する協同研究 UnitA コンテンツのメタデータ生成（教材化を含む）に関する研究	令和 3（2021）年度 ～令和 5（2023）年度	山本　和明（国文学研究資料館教授）
7	画像に紐付くメタデータ生成に関する協同研究 UnitB 画像を利活用するツール開発に関する研究		

【異分野融合研究】

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
1	古典籍を活用した和漢薬に関する総合研究	平成 27（2015）年度 ～平成 29（2017）年度	伏見　裕俊（富山大学特命准教授） ※平成 28（2016）年度まで 小松　かつ子（富山大学教授） ※平成 29（2017）年度
2	オーロラと人間社会の過去・現在・未来	平成 27（2015）年度 ～平成 28（2016）年度	片岡　龍峰（国立極地研究所准教授）
3	津軽デジタル風土記の構築	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	瀧本　壽史（弘前大学准教授）
4	碑文のデジタル復元に関する手法研究と実践	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	上椙　英之（国文学研究資料館客員研究員）
5	GIS を用いた総合地域情報に関する国際発信方法に関する研究	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	山本　和明（国文学研究資料館特任教授）
6	典籍等の天文・気候情報に基づく減災研究の基盤整備	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	片岡　龍峰（国立極地研究所准教授）
7	歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	田村　誠（茨城大学准教授）

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
8	料理・調味料の復元と活用に関する研究	平成 28（2016）年度 ～令和 3（2021）年度	神松　幸弘（立命館大学研究員）
9	錦絵等に対するアノテーション付与の研究	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	小林　顕彦 （味の素食の文化センター食の文化ライブラリ館長）
10	典籍防災学関連資料のメタデータ整備	令和元（2019）年度 ～令和 2（2020）年度	岩橋　清美（国文学研究資料館客員研究員）
11	星石４Ｄプロジェクト（隕石関係）	令和 2（2020）年度 ～令和 5（2023）年度	片岡　龍峰（国立極地研究所准教授）
12	歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化	令和 2（2020）年度 ～令和 5（2023）年度	田村　誠（茨城大学准教授）
13	史的アプローチによる太陽活動と雷の研究	令和 3（2021）年度 ～令和 5（2023）年度	宮原　ひろ子（武蔵野美術大学教授）
14	古典籍画像に基づく ICT 活用教育プログラムの開発	令和 2（2020）年度 ～令和 5（2023）年度	速水　香織（信州大学准教授）
15	古典籍画像に基づく ICT 活用教育ツールの開発	令和 2（2020）年度 ～令和 5（2023）年度	早坂　太一（豊田工業高等専門学校教授）

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
16	デジタル人文学に関する教育・人材育成プログラムの基盤整備	令和３（2021）年度 ～令和５（2023）年度	永崎　研宣（国文学研究資料館客員教授）
17	典籍に基づく日本文化の再発見（食・装い）	令和４（2022）年度 ～令和５（2023）年度	山本　和明（国文学研究資料館教授）

【機構内連携共同研究】

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
1	異分野融合による総合書物学の構築	平成 28（2016）年度 ～令和 3（2021）年度	谷川　惠一（国文学研究資料館教授） ※令和元（2019）年度まで 藤實　久美子（国文学研究資料館教授） ※令和 2（2020）年度から
国立歴史民俗博物館 古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究			小倉　慈司（国立歴史民俗博物館准教授）
国立国語研究所 表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化			高田　智和（国立国語研究所准教授）
国際日本文化研究センター キリシタン文学の継承―宣教師の日本語文学 ※平成 28（2016）年度～平成 29（2017）年度 文化・情報の結節点としての図像 ※平成 30（2018）年度～令和 3（2021）年度			郭　南燕（国際日本文化研究センター准教授） ※平成 28（2016）年度 井上　章一（国際日本文化研究センター教授） ※平成 29（2017）年度 山田　奨治（国際日本文化研究センター教授）

【研究開発系共同研究】

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
1	典籍の全文テキスト化に関する共同研究	平成 26（2014）年度 ～令和 5（2023）年度	山本　和明（国文学研究資料館特任教授）
2	検索機能の高度化に係る総合的研究	平成 27（2015）年度 ～平成 29（2017）年度	北本　朝展（国立情報学研究所准教授）
3	典籍画像からのテキスト化とキーワード抽出に関する研究	平成 27（2015）年度 ～平成 29（2017）年度	寺沢　憲吾（公立はこだて未来大学准教授）
4	古典籍画像を対象としたメタデータ記述／アノテーションに関する研究	平成 27（2015）年度 ～平成 28（2016）年度	林　正治（一橋大学助教）
5	「新古典籍総合目録データベース」のマルチリンガル化対応のための基礎研究	平成 27（2015）年度 ～平成 30（2018）年度	赤間　亮（立命館大学教授）
6	古文書および古典籍を対象とした、ブックスキャナの開発に関する共同研究	平成 27（2015）年度 ～平成 30（2018）年度	山本　和明（国文学研究資料館特任教授）
7	テキスト共同作成ツールの開発	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	山本　和明（国文学研究資料館特任教授）

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
8	多元光情報の高次元化処理による古典籍情報解析に関する基礎的研究	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	山本　和明（国文学研究資料館特任教授）
9	TEI(Text Encoding Initiative)の導入	平成 29（2017）年度 ～令和元（2019）年度	岡田　一祐（国文学研究資料館特任助教）
10	キーワード抽出に関わる総合的研究	平成 30（2018）年度 ～令和 2（2020）年度	寺沢　憲吾（公立はこだて未来大学准教授）
11	検索機能の向上化に係る総合的研究	平成 30（2018）年度 ～令和 2（2020）年度	北本　朝展（国立情報学研究所准教授）
12	ワードスポッティング等によるテキスト化を経ないキーワード抽出	令和 3（2021）年度 ～令和 5（2023）年度	寺沢　憲吾（公立はこだて未来大学准教授）
13	AI によるテキスト化に関わる総合的研究	令和 3（2021）年度 ～令和 5（2023）年度	北本　朝展（国立情報学研究所教授）
14	検索機能の向上化と古典籍の研究活用研究	令和 3（2021）年度 ～令和 5（2023）年度	北本　朝展（国立情報学研究所教授）
15	TEI（Text Encoding Initiative）に関する発展的研究	令和 2（2020）年度 ～令和 5（2023）年度	松田　訓典（国文学研究資料館特任助教）

	研究課題	研究期間	研究代表者 （研究課題開始時の所属・職名を記載）
16	多元光情報等の高次元処理によるマテリアルとしての典籍情報解析に関する応用研究	令和 2（2020）年度 ～令和 5（2023）年度	山本　和明（国文学研究資料館教授）
17	画像作成及びカタロギングにおけるアルゴリズム改良に関する共同研究	令和 2（2020）年度 ～令和 5（2023）年度	山本　和明 （国文学研究資料館教授）
18	次期 IIIF ビューワに関する研究	令和 2（2020）年度 ～令和 5（2023）年度	松田　訓典 （国文学研究資料館特任助教）
19	字形データ活用による研究ツールに関する研究	令和 3（2021）年度 ～令和 5（2023）年度	山本　和明 （国文学研究資料館教授）

資料９

共同研究参画者数

	平成 26（2014）年度	平成 27（2015）年度	平成 28（2016）年度	平成 29（2017）年度	平成 30（2018）年度
参加人数	207 人	333 人	317 人	301 人	229 人
外国人	50 人	64 人	59 人	51 人	39 人
女性	49 人	75 人	75 人	64 人	46 人
若手	32 人	52 人	61 人	62 人	52 人

	令和元（2019）年度	令和 2（2020）年度	令和 3（2021）年度	令和 4（2022）年度	合計
参加人数	204 人	187 人	192 人	118 人	2,088 人
外国人	28 人	27 人	24 人	21 人	363 人
女性	49 人	51 人	47 人	33 人	489 人
若手	34 人	36 人	32 人	19 人	380 人

※参画者の主な研究分野

1	中国哲学、印度哲学および仏教学関連	9	日本語学関連	17	人文地理学関連	25	建築史および意匠関連	33	環境および天然医薬資源学関連
2	宗教学関連	10	日本史関連	18	文化人類学および民俗学関連	26	社会システム工学関連	34	栄養学および健康科学関連
3	思想史関連	11	アジア史およびアフリカ史関連	19	政治学関連	27	防災工学関連	35	計算機システム関連
4	美学および芸術論関連	12	ヨーロッパ史およびアメリカ史関連	20	経済史関連	28	森林科学関連	36	ソフトウェア関連
5	美術史関連	13	考古学関連	21	社会心理学関連	29	水圏生産科学関連	37	データベース関連
6	科学社会学および科学技術史関連	14	文化財科学関連	22	数学基礎関連	30	農業社会構造関連	38	知能情報学関連
7	日本文学関連	15	博物館学関連	23	宇宙惑星科学関連	31	生態学および環境学関連	39	学習支援システム関連
8	中国文学関連	16	地理学関連	24	大気水圏科学関連	32	薬系化学および創薬科学関連	40	図書館情報学および人文社会情報学関連

資料 10

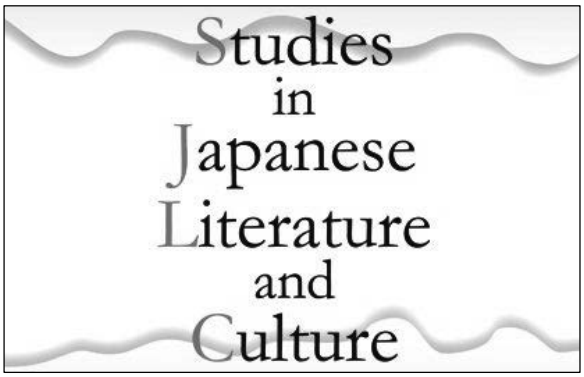
共同研究成果発信数

	平成 26（2014）年度	平成 27（2015）年度	平成 28（2016）年度	平成 29（2017）年度	平成 30（2018）年度
成果発信数合計	214 件	383 件	348 件	176 件	75 件
著書	18 件	26 件	21 件	17 件	5 件
論文	92 件	145 件	109 件	51 件	17 件
口頭発表等	104 件	212 件	218 件	108 件	53 件

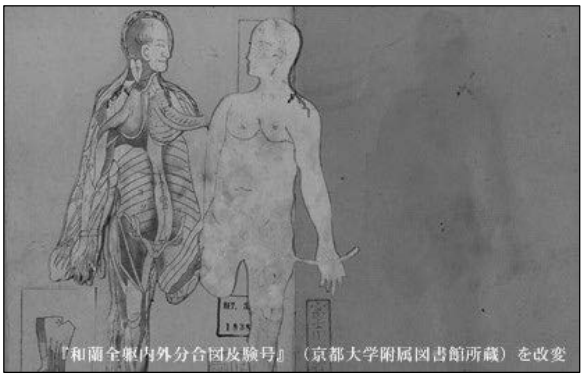
	令和元（2019）年度	令和 2（2020）年度	令和 3（2021）年度	令和 4（2022）年度	合計
成果発信数合計	70 件	49 件	60 件	66 件	1,441 件
著書	5 件	0 件	1 件	5 件	98 件
論文	23 件	13 件	28 件	24 件	502 件
口頭発表等	42 件	36 件	31 件	37 件	841 件

共同研究成果（センターHPに各成果へのバナー搭載）

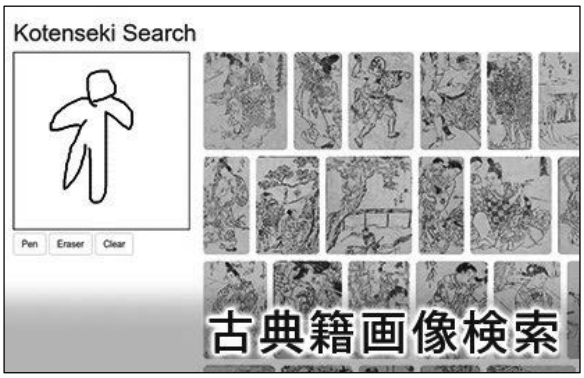
1.Studies in Japanese Literature and Culture



2.富士川文庫デジタル連携プロジェクト試行版



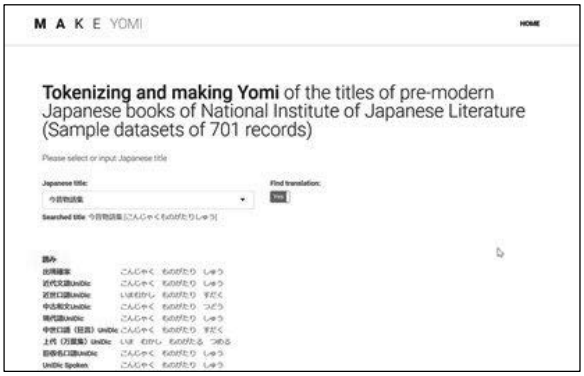
3.古典籍画像検索



4.くずし字アプリ



5.Tokenizing and making Yomi



6.欧州所在日本古書総合目録



7.総合書物論



8.日本古典籍データセット



9.日本古典籍くずし字データセット



10.江戸料理レシピデータセット



11.万宝料理秘密箱 卵百珍



12.KMNISTデータセット



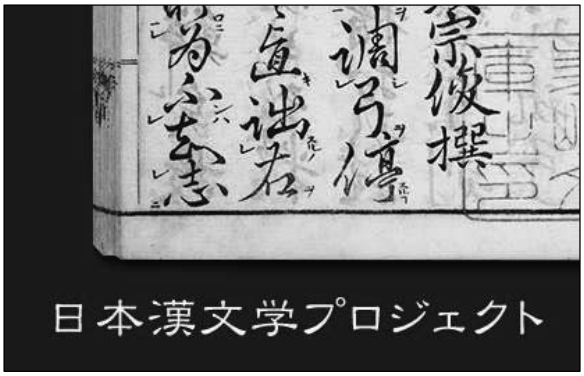
13.オーロラ4Dプロジェクト



14.江戸時代初期出版と学問の総合的研究



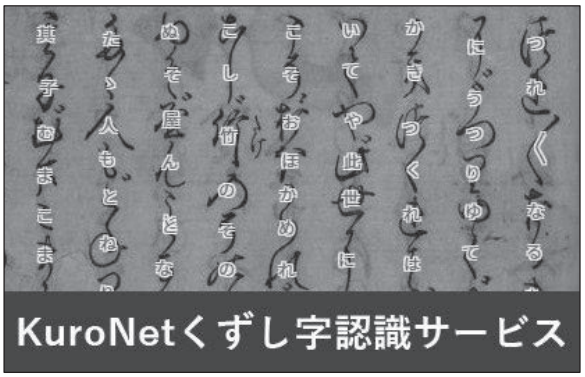
15.日本漢文学プロジェクト



16.古典籍画像アノテーションシステム



17.KuroNetくずし字認識サービス



18.顔コレデータセット



19.津軽デジタル風土記



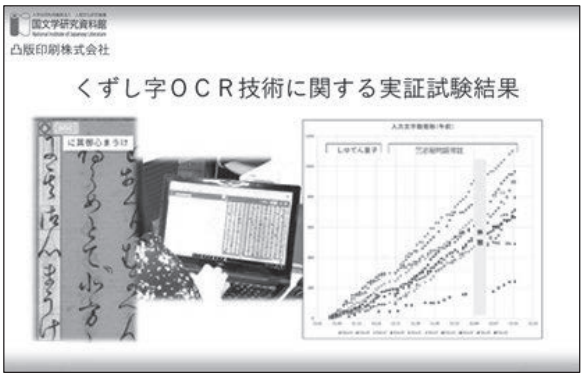
20.TEI（Text Encoding Initiative）の導入



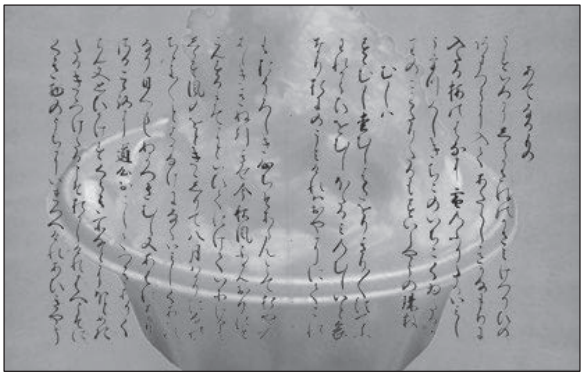
21.史的文字データベース連携検索システム



22.くずし字OCR技術に関する実証試験結果



23.料理・調味料の復元と活用に関する研究



24.日本のデジタル文学地図



25.星石４Ｄプロジェクト



26.EAJRS/NIJLくずし字ワークショップ



27.日本の人名データベース(JBDB)



資料 11

英文オンライン・ジャーナル
『Studies in Japanese Literature and Culture』（SJLC）
ダウンロード数

【各号の論文ダウンロード数】

SJLC　Vol.1（2018 年 7 月刊行）

平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度	合計
6,250 件	1,632 件	1,579 件	2,964 件	1,476 件	13,901 件

SJLC　Vol.2（2019 年 3 月刊行）

平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度	合計
	1,502 件	1,196 件	1,783 件	1,496 件	5,977 件

SJLC　Vol.3（2020 年 3 月刊行）

平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度	合計
		933 件	2,418 件	2,630 件	5,981 件

SJLC　Vol.4（2021 年 3 月刊行）

平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度	合計
			1,809 件	901 件	2,710 件

SJLC　Vol.5（2022 年 3 月刊行）

平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度	合計
				644 件	644 件

【年度別の論文ダウンロード数】

平成 30（2018）年度

国名	DL 数
日本	428 件
ベトナム	207 件
メキシコ	195 件
ドイツ	182 件
ロシア	124 件
その他（26 の国と地域）	5,114 件
合計	6,250 件

令和元（2019）年度

国名	DL 数
日本	527 件
ドイツ	55 件
ロシア	48 件
アメリカ合衆国	31 件
オランダ	20 件
その他（25 の国と地域）	2,453 件
合計	3,134 件

令和 2（2020）年度

国名	DL 数
日本	494 件
ドイツ	174 件
ロシア	60 件
フランス	46 件
メキシコ	44 件
その他（26 の国と地域）	2,890 件
合計	3,708 件

令和 3（2021）年度

国名	DL 数
日本	647 件
ドイツ	120 件
アメリカ合衆国	96 件
メキシコ	54 件
フランス	49 件
その他（29 の国と地域）	8,008 件
合計	8,974 件

令和 4（2022）年度

国名	DL 数
日本	597 件
ドイツ	184 件
イタリア	88 件
ベルギー	77 件
アメリカ合衆国	43 件
その他（17 の国と地域）	6,158 件
合計	7,147 件

情報発信関連資料

資料 12

プレスリリース一覧

平成 27（2015）年度

No.	リリース日	内　　容
1	11 月 4 日	貴重な古典籍がもっと身近に　国文研古典籍データセットの公開
2	2 月 8 日	あなたも最先端の研究に参加しよう！　総合研究大学院大学×国文学研究資料館×国立極地研究所共同ワークショップ　古典籍からオーロラを見つけよう　『古典』オーロラハンター

平成 28（2016）年度

No.	リリース日	内　　容
3	6 月 20 日	江戸時代の料理書 300 点 WEB 公開へ　国文学研究資料館と味の素食の文化センターの研究支援コラボ 第 1 弾！
4	9 月 30 日	国文学研究資料館と国立国会図書館　連携・協力に関する協定を締結
5	11 月 10 日	のぞき見しません？・・・古典籍！　日本古典籍データセット 700 点 大公開
6	11 月 17 日	くずし字学習、文字認識に朗報！　日本古典籍字形データセット 8 万字を公開
7	11 月 24 日	江戸の文化を現代に取り込む「江戸料理レシピデータセット」を整備　～江戸時代の料理本を「レシピ化」し、クックパッドでも公開～
8	1 月 12 日	市民参加型ワークショップ　「古典」オーロラハンター２
9	3 月 21 日	『明月記』と『宋史』の記述から、平安・鎌倉時代における連発巨大磁気嵐の発生パターンを解明

平成 29（2017）年度

No.	リリース日	内　　容
10	5 月 16 日	江戸文化をデジタルで―食から紐解く古典籍！ 味の素食の文化センター所蔵の"江戸の料理書"約 300 点が国文研データベースから読めるようになりました。
11	5 月 24 日	国文学研究資料館と茨城大学地球変動適応科学研究機関　歴史資料を活用した防災・気候変動の研究に関する連携協定を締結　－5 月 31 日（水）茨城大学水戸キャンパスで調印式－
12	8 月 1 日	闘雞神社で可搬型ブックスキャナを用いた、歴史的典籍の電子化実証実験を実施　～ 世界文化遺産で南方熊楠が見た「今昔物語集」の効率的な電子化を実証 ～
13	9 月 14 日	いま「江戸」料理をお手元へ　国文研と三越伊勢丹がコラボ！　9 月 20 日から「江戸の味」を販売
14	9 月 20 日	江戸時代のオーロラ絵図と日記から明らかになった史上最大の磁気嵐
15	10 月 27 日	日本古典籍のポータルサイト 正式公開へ　先人達の「知」に、だれでも・いつ・どこからでも簡単アクセス
16	12 月 26 日	八王子隕石"とされる隕石を初めて詳細に分析
17	1 月 17 日	いろんな天文現象が盛り沢山！古典籍からみんなで見つけよう！ 市民参加型ワークショップ『古典』オーロラハンター３を開催します。
18	1 月 25 日	国文学研究資料館・茨城大学 ICAS 共同研究シンポジウム　―歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究成果を報告―

平成 30（2018）年度

No.	リリース日	内　　容
19	4 月 26 日	オーロラ４Ｄプロジェクトがくずし字の教育コンテンツ「くずし字、いろいろ」を開発！　なんで！？
20	4 月 27 日	太陽の自転周期が雷の発生に影響している～江戸時代の日記の分析で判明～
21	6 月 18 日	国文学研究資料館と国際子ども図書館のコラボ企画！
22	7 月 6 日	古往来からひもとく日本の学び　東書文庫と国文研、往来物（昔の教科書）を続々デジタル公開へ

No.	リリース日	内　　容
23	10 月 9 日	市民参加型ワークショップ「古典オーロラハンターIN 京都」開催のご案内
24	2 月 25 日	光格天皇「御譲位並御即位記」など、近世宮中儀式に関する貴重な資料（宮内庁書陵部所蔵）をデジタル公開

令和元（2019）年度

No.	リリース日	内　　容
25	5 月 21 日	1958 年に日本で見られた扇型オーロラの実態を解明
26	7 月 9 日	「くずし字」の認識に世界の AI 研究者・技術者が挑戦 ―全世界的コンペティションを Kaggle で 7 月から開催―
27	7 月 24 日	複数の原料から復元に成功！ 古代の甘味料「あまつら」の試食体験イベントのご案内
28	9 月 13 日	「日本文化と AI シンポジウム 2019　～AI がくずし字を読む時代がやってきた～」 11 月 11 日に開催、参加申込スタート
29	9 月 27 日	東京藝術大学の貴重古典籍約 560 点をデジタル公開へ 藝大附属図書館所蔵古典籍を国文研でデジタル化
30	11 月 13 日	『解体新書』の編著者前野良沢を輩出した中津藩医学古典籍デジタル公開へ 国文研が中津市・中津市教育委員会と覚書締結
31	1 月 29 日	和食文化の断絶と継承、国文研でシンポジウムを開催 ―古代の甘み、幻の甘味料「甘葛煎」試食体験も ―
32	3 月 16 日	日本最古の天文記録は『日本書紀』に記された扇形オーロラだった

令和 2（2020）年度

No.	リリース日	内　　容
33	4 月 6 日	江戸時代以前の書籍情報を集めた『国書総目録』デジタル公開へ 国文研が PDF 版を公開
34	6 月 17 日	掛川の俳人･柿園嵐牛が伝えた俳諧資料 デジタル公開へ 国文研が嵐牛俳諧資料館（静岡県掛川市）と覚書締結

No.	リリース日	内　　容
35	7 月 9 日	国文学研究資料館とポーラ文化研究所が協力・連携し、化粧文化に関する資料を WEB 公開へ ポーラ文化研究所所蔵の古典籍・浮世絵約 300 点をデジタル化国文学研究資料館およびポーラ文化研究所のサイトで 2021 年春公開予定
36	9 月 24 日	「古典の百科、江戸学の宝庫」東北大学狩野文庫をデジタル公開へ 東北大学附属図書館所蔵狩野文庫の古典籍を国文研でデジタル化
37	11 月 25 日	国文学研究資料館と慶應義塾大学附属研究所斯道文庫データベース構築に関する覚書を締結 斯道文庫所蔵古典籍を国文研でデジタル化へ
38	3 月 9 日	仙台郷土史と伊達家稀覯本を伝える貴重古典籍デジタル公開へ仙台市民図書館所蔵古典籍を新日本古典籍総合データベースで公開

令和 3（2021）年度

No.	リリース日	内　　容
39	4 月 16 日	ポーラ文化研究所所蔵の化粧文化に関する資料、 高精細デジタル画像でオンライン閲覧が可能に 古典籍 176 冊・浮世絵 349 点を 4 月 16 日に公開
40	7 月 8 日	国文学研究資料館と東海大学付属図書館データベース構築に関する覚書締結 桃園文庫の古典籍を国文研でデジタル化

令和 4（2022）年度

No.	リリース日	内　　容
41	6 月 9 日	公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館所蔵資料の一部が高精細デジタル画像でオンライン閲覧可能に　柳営御襖縮図、新板絵入平治物語など 7 点 80 冊（軸）
42	7 月 7 日	静嘉堂文庫が新たな扉を開く！　静嘉堂文庫所蔵の古典籍（和書）を国文研でデジタル化・公開
43	11 月 30 日	岡山大学附属図書館所蔵資料「池田家文庫」の一部を高精細デジタル画像でオンライン公開　とりかえばや物語、装束絵図本など 62 点
44	12 月 1 日	日本唯一の広告ミュージアムアドミュージアム東京が広告の歴史資料＝江戸時代の錦絵、古典籍など 682 点＝をオンライン公開

1.国文研古典籍データセット公開開始

２０１５年１１月４日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

貴重な古典籍がもっと身近に

国文研古典籍データセットの公開

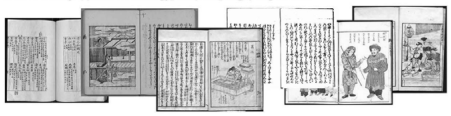
国文学研究資料館（国文研：東京都立川市）では、古典籍をもっと自由に研究・活用いただくため、国立情報学研究所（東京都千代田区）のご協力のもと、当館所蔵の日本の古典籍３５０点の全冊画像データ（画像約６万３千コマ）とその書誌データを、同研究所の「情報学研究データリポジトリ」より、データセットとして、2015 年 11 月 10 日（火）から一般公開します。

○データセットの構成
・古典籍画像データ：350 点におよぶ日本の古典作品について、その全冊（約 63,000 コマ）の JPEG 形式の画像データです。
・書誌データ：350 点に関する当館作成の書誌データをテキスト形式でまとめたものです。一部の作品には当館で付与した略解題も含まれています。
・本文テキストデータ：一部の作品について、その翻刻本文のテキストデータを付しています。
・タグデータ：一部の作品について、当館で付与作業を行っている１枚１枚の画像に対する文中の固有名詞のタグ情報を CSV 形式のデータとして提供いたします。

※本データセットは、クリエイティブ・コモンズ表示－継承 4.0 国際ライセンス(CC-BY-SA)で提供されます。この条件に同意される方であればどなたでもご利用いただけます。

○主な公開作品
源氏物語や二十一代集などの日本文学作品をはじめ、和食に関するもの（豆腐百珍など）や世界文化遺産になった和紙に関する書（紙漉重宝記）、医学関連（医心方）など、いろんな分野の古典籍を試行的に公開します。

○データセットのダウンロード先
国立情報学研究所「情報学研究データリポジトリ」
ＵＲＬ：http://www.nii.ac.jp/dsc/idr/nijl/nijl.html



【報道関係からのお問い合せ／取材等のお申し込み】
国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室古典籍共同研究係　担当：神谷
TEL：０５０－５５３３－２９８８　　FAX：０４２－５２６－８８８３
e-mail：cijinfo@nijl.ac.jp
〒１９０－００１４　東京都立川市緑町１０－３

2.「古典」オーロラハンター

国立大学法人 総合研究大学院大学　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所

平成２８年２月８日

あなたも最先端の研究に参加しよう！

総合研究大学院大学×国文学研究資料館×国立極地研究所共同ワークショップ

古典籍からオーロラを見つけよう
『古典』オーロラハンター

日　　時：平成２８年３月１３日（日）１３：３０～１６：３０
場　　所：国文学研究資料館２Ｆオリエンテーション室（東京都立川市緑町１０－３）
参 加 費：無料
募集人数：２０名
主　　催：総合研究大学院大学（総研大）学融合推進センター
　　人間文化研究機構　国文学研究資料館（国文研）
　　情報・システム研究機構　国立極地研究所（極地研）
代　　表：総研大極域科学専攻／国立極地研究所　准教授　片岡龍峰
支　　援：総研大平成２７年度学融合共同研究「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」



国文研と極地研（共に東京都立川市、総研大の基盤機関）では、古典籍から歴史的オーロラを抽出する市民参加型のワークショップを開催することにいたしました。
古典籍および天文に興味がある一般の方に参加していただき、古代・中世における古典籍・古記録のなかからオーロラに関する記述（例えば「赤気（赤いオーロラ）」の文字を探します）の抽出作業を行います。対象は寺社・公家の日記を中心とした古記録で、高校の古文・漢文の知識があれば、くずし字が読めなくてもご参加できます。研究スタッフから作業の説明を行い、抽出作業のサポートをいたします。
この総研大学融合共同研究「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」では、人文系と自然科学系の研究者の連携と、世界初となる市民参加型宇宙環境モニターの実現をめざしています。また、国文研が中心となって進めている「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」では、古典籍を活用した異分野融合研究の醸成をめざしています。

オーロラ４Ｄプロジェクト http://aurora4d.jp/

【お申し込み方法】
ハガキ、FAX または E-mail に①郵便番号、②住所、③電話番号、④氏名（フリガナ）を明記の上、平成 28 年２月 22 日（月）までにお申し込みください。選考結果は２月末日に、郵送にてお知らせします。詳しくは「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」ＨＰでご確認願います。
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20160313_workshop.html

【報道関係からのお問い合せ／取材等のお申し込み】
国文学研究資料館　古典籍共同研究事業センター事務室古典籍共同研究係　担当：神谷
TEL：050-5533-2988　FAX：042-526-8883　e-mail：cijinfo@nijl.ac.jp

国立極地研究所　広報室　担当：小濱（おばま）
TEL：042-512-0655　e-mail：kofositu@nipr.ac.jp

3.江戸時代の料理書

■ 共同プレスリリース ■　　平成28年6月20日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館 National Institute of Japanese Literature　　公益財団法人 味の素食の文化センター

江戸時代の料理書　300点WEB公開へ

国文学研究資料館と味の素食の文化センターの
研究支援コラボ　第１弾！

概 要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と味の素食の文化センターは、同センターが所蔵する料理書等の古典籍および文明開化以降の食文化資料のデジタル化を協力して行い、今後その画像をWEB上で一般公開していきます。同センターには、料理や菓子の調理方法、礼儀作法、本草、名物案内などを記した「食」に関する豊富な資料群が所蔵されています。
今回のデジタル化と今後の公開は、研究者支援ならびに文化事業の発展に大いに貢献できるものと考えています。

公開の時期

●公開時期：平成29（2017）年5月（予定）
●公開予定数：約300点（作品数）・約37,150コマ
・現在、国文研で推進している「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の一環として、デジタル化及び書誌データの作成作業を進めています。
・古典籍（一部、明治以降の資料を含む）約300点について、全ページのデジタル化を行い、来年5月にインターネット上で広く一般公開する予定です。
・具体的な公開日、公開方法、公開サイト（URL）などについては、詳細が決まり次第、両機関のホームページ上でご案内します。

資料について

今回デジタル化する資料の中には、次のような貴重な資料が含まれています。
（「別紙」でも、資料の一部を紹介しています。）



東隠亭主人(池田東籬)『魚類精進早見献立帳(ぎょるいしょうじんはやみこんだてちょう)』（天保５年）
＊魚料理と精進料理の紹介資料です。
（「別紙」に詳しい解説があります。）



醒狂道人何必醇『豆腐百珍(とうふひゃくちん)』（天明2年）
＊挿絵は豆腐田楽を焼いている様子。いわゆる＜百珍物シリーズ＞とされているシリーズとして、他に『甘藷百珍』『蒟蒻百珍』『鯛百珍料理秘密箱』『万宝料理秘密箱』『柚珍秘密箱』が当コレクションに含まれています。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　古典籍共同研究係
e-mail：cijinfo@nijl.ac.jp
TEL：050-5533-2988　FAX：042-526-8883

味の素食の文化センター
（メールでのお問合せをお願いします）
E-mail:　toiawase_asb@ajinomoto.com

4.国立国会図書館と協定

■ プレスリリース ■　　平成28年9月30日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館　　国立国会図書館

国文学研究資料館と国立国会図書館
連携・協力に関する協定を締結

概要

平成28年9月30日、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館（国文研：東京都立川市）は、国立国会図書館（国会図書館：東京都千代田区）と連携・協力に関する協定を締結しました。

●国文研は平成26年度から「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（略称：歴史的典籍NW事業）」を実施しており、国内外の大学・研究機関等と連携し、「日本語の歴史的典籍」に関する国際共同研究ネットワークの構築を目指しています。

●国文研と国会図書館とは、これまでも「日本古典籍講習会」を共同で開催するなどの協力関係を築いてきました。そして歴史的典籍NW事業の推進にあたり、日本文化の保存・継承、そして国内外に向けた日本文化の情報発信に寄与するため、両機関のなお一層の連携・協力が必要との認識で一致し、協定を締結することになりました。

●今後は、両機関が保有する資料やデータを活用し、デジタルアーカイブシステムの構築・発展を進めるとともに、教育・研究活動を支援していくことで、広く国民の文化的活動に寄与できるよう、両機関の連携・協力を深めていきます。


国文学研究資料館


日本古典籍講習会


国立国会図書館

本件に関するお問合せ／取材等のお申し込み先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター事務室
古典籍共同研究係
e-mail：cijinfo@nijl.ac.jp
TEL：050-5533-2988　FAX：042-526-8883

5.古典籍データセット700点公開

■ プレスリリース ■
平成28年11月10日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

のぞき見しません？・・・古典の世界！
日本古典籍データセット700点 大公開



『好色一代男』より

●古典籍をもっと自由に使ってもらうために・・・古典籍700作品をCC BY-SAで公開

国文学研究資料館（以下「国文研」）は平成27年11月に、国立情報学研究所（以下「NII」）との協働により古典籍350点分の画像データ等をオープンデータとして公開しました。
その第2弾として、11月10日から、350点分を新規追加した計700点もの古典籍の画像データ等を「日本古典籍データセット」として、人文学オープンデータ共同利用センターより装いも新たに一般公開します。

●新規公開の注目データは、これ！

◆『源氏物語』づくし：『源氏物語』関連資料を一挙公開
◆『徒然草』セレクト：『徒然草』も約30点公開
◆展示「書物で見る日本古典文学史」出展作品 勢揃い
◆その他、貴重書や奈良絵本なども多数公開

『源氏物語』『徒然草』ほか、一度は耳にしたことがある日本古典の名作を一挙に公開します。たとえば小・中・高校の教育用教材や、年賀状の作成などにも自由に活用していただけます。



『源氏物語団扇画帖』



『古今和歌集』



『徒然草』

公開日	平成28年11月10日（木）
公開サイト	・国文学研究資料館 http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html ・情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター（準備室） http://codh.rois.ac.jp/
データ数	700作品の画像データ（約16万コマ）＋書誌データ。作品紹介や翻刻テキストデータ（原文をそのまま活字にしたもの）、タグ情報が付いているものもあります。
利用条件	クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示－継承4.0 CC BY-SA この条件に同意される方であればどなたでもご利用頂けます。 https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja
お知らせ1	古典籍に書かれたくずし字などの1文字ずつの画像と文字情報をセットにした字形データセット約8万字分も、近日中に一般公開の予定。
お知らせ2	古典籍画像の利活用を考えるため、公開にあわせてアイデアソンを開催。 ◆歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン） ◆平成28年12月9日（金）午後，国文研（東京都立川市）にて

6.字形データセット8万字公開

■ プレスリリース ■
2016年11月17日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

くずし字学習、文字認識に朗報！
日本古典籍字形データセット 8万字を公開

●古典籍画像データのさらなる活用を目指して － 字形約80,000字をCC BY-SAで公開

国文学研究資料館は、デジタル撮影された当館所蔵古典籍を翻刻する過程で生まれたくずし字文字の情報等を、オープンデータセットとして、人文学オープンデータ共同利用センター（準備室）より、研究用に提供いたします。
1文字づつの画像、文字座標データなどを1セットにして提供します。古典籍に書かれた文字の機械学習用データなどへの活用が出来ますので、そこからくずし字解読の効率化などが期待されます。今後、公開する字形データを拡大していく計画（今年度中に合計約40万字を予定）です。ご期待ください。

●字形のもとになった古典籍は料理本8作品分

◆当世料理
◆万宝料理秘密箱
◆膳部料理抄
◆料理物語
◆日用惣菜俎不時珍客即席庖丁
◆料理方心得之事
◆新編異国料理
◆料理秘伝抄



これが8万字分！

●日本古典籍字形データセットについて

公開日	2016年11月17日（木）
公開サイト	・国文学研究資料館 http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html ・情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター（準備室） http://codh.rois.ac.jp/char-shape/
データ数	上記8点の資料に書かれた、86,176文字
データ概要 ※①～④のデータを1セットにして8万字を公開	①原本補正画像データ：日本古典籍データセットで公開する画像に対して、翻刻作業を容易にするための前処理として、見開き画像を分離するとともに、回転させて正立させるという処理を加えた画像です。 ②文字座標データ：原本補正画像データ上で文字を取り囲む長方形の座標（XYWH）、文字のUnicodeコードポイント、ブロックID、文字IDを記録したものです。 ③字形画像データ：「原本補正画像データ」に「文字座標データ」を適用して切り抜いた画像であり、文字種ごとに字形を閲覧しやすくするために提供するものです。 ④作業報告文書：作業で読めなかった文字に関する情報や、その他の注意事項を記したドキュメントです。
利用条件	クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示－継承4.0 CC BY-SA この条件に同意される方であればどなたでもご利用頂けます。 https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja
お知らせ	古典籍画像の利活用を考えるため、公開にあわせてアイデアソンを開催。 ◆歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン） ◆2016年12月9日（金）午後，国文研（東京都立川市）にて ◆申込サイト　http://ptix.co/2fJCE2S

7.江戸料理レシピデータセット公開

NEWS RELEASE

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
NII 国立情報学研究所
National Institute of Informatics

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

平成 28 年（2016 年）11 月 24 日

江戸の文化を現代に取り込む「江戸料理レシピデータセット」を整備
～江戸時代の料理本を「レシピ化」し、クックパッドでも公開～
国立情報学研究所・国文学研究資料館

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所（NII、所長：喜連川 優、東京都千代田区）と大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館（国文研、館長：今西 祐一郎、東京都立川市）は 11 月 24 日より、江戸時代の料理本に書かれた調理手順をデジタル化し、現代の人々でも使える形式に整備した「江戸料理レシピデータセット」の公開を始めました。また、現代語訳、および、現代の「レシピ」形式に編集したデータを、同日から料理レシピ投稿・検索サービスの「クックパッド」(*1) でも公開します。

NII と国文研は日本の学術コミュニティーのオープンサイエンスを推進するため、協働して歴史的典籍のオープンデータ化に取り組んでいます。本年 11 月 10 日に今回の「江戸料理レシピデータセット」の原典を含む古典籍 700 点の画像データと書誌データなどを「日本古典籍データセット」(*2) として公開し、同 17 日には古典籍で使われているくずし字の字形データによる「日本古典籍字形データセット」(*3) も公開しました。両データセットはともに、情報・システム研究機構の「人文学オープンデータ共同利用センター」準備室 (*4) のサイトで提供しています。

一連のデータセット公開の第三弾となる今回は、日常生活に密接に関連したテーマである料理が対象です。日本古典籍データセットで公開した料理本はくずし字で書かれており、しかも用語や素材などを理解するには当時の文化に関する知識が必要となるため、料理本の画像データを公開するだけでは誰もが江戸料理を作れるわけではありません。そこで NII と国文研は、これを現代のレシピ形式に整備して公開することにしました。さらに NII と国文研は、クックパッドと一般社団法人日本家政学会 食文化研究部会が運営する「クックパッド 江戸ご飯」(http://cookpad.com/recipe/list/14604664) に参加し、本データセットを「クックパッド 江戸ご飯」にも掲載して公開することにしました。クックパッドでレシピデータを公開することで、多くの方々が既になじんでいるウェブサービス（アプリ）からも江戸料理のレシピを利用できるようになります。

NII と国文研は、本データセットが提供するレシピが、ユネスコ無形文化遺産にも登録された「和食」の歴史と文化を理解する一助になることを期待しています。

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

8.「古典」オーロラハンター２

国立大学法人
総合研究大学院大学

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

国立極地研究所
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

平成２９年１月１２日

市民参加型ワークショップ
「古典」オーロラハンター２

日　　時：平成２９年２月１９日（日）１３：３０～１６：３０
場　　所：国文学研究資料館２Ｆ大会議室（東京都立川市緑町１０－３）
参 加 費：無料
募集人数：２８名
主　　催：人間文化研究機構　国文学研究資料館（国文研）
　　情報・システム研究機構　国立極地研究所（極地研）
　　総合研究大学院大学（総研大）学融合推進センター



次のＵＲＬからチラシがダウンロードできます。
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20170219_workshop.html

平安時代の古典籍や江戸時代の古文書から、オーロラ・彗星・隕石などの情報を探してみませんか？くずし字が苦手な方でも古文や漢文を読んだことがあれば参加できます。くずし字が読める方もお待ちしています。国文学や歴史好きの皆さん、天文好きの皆さん、古典で夜空を楽しんでみませんか。

【お申し込み方法】
ハガキ、FAX または E-mail に①郵便番号、②住所、③電話番号、④氏名（フリガナ）を明記の上、平成 29 年 1 月 31 日(火)迄にお申し込みください。
選考結果は２月上旬に、郵送でお知らせします。

※本ワークショップは以下の事業として実施します。
「機関拠点型基幹研究ＰＪにおける異分野融合研究創成に関するプロトタイププログラム作成事業」
歴史的典籍ＮＷ事業 http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/
総研大学融合共同研究事業
「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」
オーロラ４Ｄプロジェクト http://aurora4d.jp/

【メディアのみなさまからのお問い合せ先】
大学共同利用機関法人　人間文化研究機構　国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室　古典籍共同研究係
TEL：050-5533-2988　FAX：042-526-8883　e-mail：cijinfo@nijl.ac.jp

9.「明月記」「宋史」オーロラ

プレスリリース　国立極地研究所　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　国立大学法人 総合研究大学院大学　京都大学 KYOTO UNIVERSITY

平成 29 年 3 月 21 日
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館
国立大学法人 総合研究大学院大学
国立大学法人 京都大学

『明月記』と『宋史』の記述から、平安・鎌倉時代における連発巨大磁気嵐の発生パターンを解明

国立極地研究所（所長：白石和行）、国文学研究資料館（館長：今西祐一郎）、京都大学（総長：山極壽一）等の研究者からなる研究グループは、『明月記』などの古典籍に残されたオーロラの記述と、樹木年輪の炭素同位体比を比較することなどにより、平安・鎌倉時代における巨大磁気嵐（注 1）の発生パターンを明らかにしました。本研究は、総合研究大学院大学（学長：岡田泰伸）の複合科学研究科極域科学専攻と文化科学研究科日本文学研究専攻の学融合共同研究事業「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」及び「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の中で実施されました。

藤原定家（1162-1241）が残した『明月記』には、1204 年 2 月 21 日と 23 日、京都でオーロラが見えたとの記述があります。これは 1 週間のうちに何晩も、京都のような緯度の低い地域でオーロラが観測された「長引く赤いオーロラ」の記録としては、これまでに調査されている中では日本で最古のものです。中国の歴史書『宋史』には、同じ 2 月 21 日に、太陽に大きな黒点が観測されたという記述があります。これらの記述は、現代的な観測データから推定する限り、太陽から噴き出たコロナ質量放出（注 2）が何度も地球に直撃することで、大きな磁気嵐が単発で終わらず何度も発生する「連発巨大磁気嵐」が起こっていたと考えられます。

研究グループは、さらに時代を遡って連発巨大磁気嵐の発生パターンを検討するため、『宋史』における 900 年代～1200 年代の「長引く赤いオーロラ」の記録と、太陽活動の強弱を反映する樹木年輪の炭素同位体比の測定データを比較しました。その結果、太陽活動の極小期前後よりも、極大期付近に多く記録されていたこと、また、太陽活動が長期的に弱くなった 1010～1050 年には、そのような「長引く赤いオーロラ」の記述がないことが明らかになりました。

これらの知見は、今後の最悪の磁気嵐を予測する上で重要な情報となります。本研究は米国地球物理学会の発行する学術誌「Space Weather」にオンライン掲載され、同誌の Editors' Highlight に選ばれました。

太陽活動の変動は、地球に住む我々と無関係ではありません。特に現代では、太陽活動が激しくなり、

1

10.江戸時代の料理書公開

■ 共同プレスリリース ■　平成29年5月16日

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 National Institute of Japanese Literature　公益財団法人 味の素食の文化センター

江戸文化をデジタルで一食から紐解く古典籍！

味の素食の文化センター所蔵の“江戸の料理書”約300点が国文研データベースから読めるようになりました。

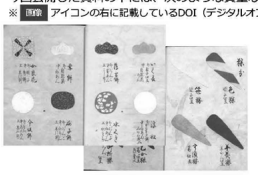
概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と味の素食の文化センターは、同センターが所蔵する、食に関する古典籍全点のデジタル化を完了し、国文研の「新日本古典籍総合データベース（試験公開中）」で一般公開しました。
インターネット経由で、いつでもどなたでもご利用いただけます。研究、教育、生涯学習にご活用いただけるほか、料理レシピの開発の参考にしたり、デザイン素材として利用するといった使い方もできます。ぜひご活用ください。

●公開年月日：2017（平成29）年5月15日
●公開数：282点（作品数）・715冊・約35,000コマ
●公開サイト：
国文研　新日本古典籍総合データベース：http://kotenseki.nijl.ac.jp
味の素食の文化センター　図書館「江戸の図書（古典籍）」：
http://www.syokubunka.or.jp/library/edo-books/
●利用条件：
クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 (CC BY-SA 4.0)
https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja
クレジット表示をすることにより、自由にお使いいただけます。
ご利用の際には、以下のような表示をお願いします。
（例）撮影：国文研／所蔵：味の素食の文化センター

江戸料理書のご紹介

今回公開した資料の中には、次のような貴重な資料が含まれています。
※ 画像 アイコンの右に記載しているDOI（デジタルオブジェクト識別子）のリンク先から直接画像を閲覧できます。



『色分模様菓子図絵（いろわけもようかしずえ）』
（年代・作者不明、写本）
138点の菓子の意匠が一つ一つ手書きで描かれています。
画像 https://doi.org/10.20730/100249329



醍醐山人『料理早指南（りょうりはやしなん）』
（文政5年/西暦1822年）
「花見の提重詰（さげじゅうづめ）」はかすてら卵、若鮎色付焼、はや竹の子うま煮、さくら鯛の早すし、白髪うどなど、さらに椿餅やかるかんなどのスイーツまで盛りだくさん。
画像 https://doi.org/10.20730/100249500

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター 事務室　古典籍共同研究係 E-mail:cijinfo@nijl.ac.jp TEL:050-5533-2988 / FAX:042-526-8883	味の素食の文化センター （メールでのお問合せをお願いします） E-mail:toiawase_asb@ajinomoto.com

11.ICAS連携協定

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　茨城大学 Ibaraki University

報道関係各位

平成２９年５月２４日

国文学研究資料館と茨城大学地球変動適応科学研究機関 歴史資料を活用した防災・気候変動の研究に関する連携協定を締結
－5 月 31 日（水）茨城大学水戸キャンパスで調印式－

人間文化研究機構 国文学研究資料館（館長：ロバート キャンベル）と茨城大学 地球変動適応科学研究機関（略称 ICAS、機関長：伊藤哲司）は、このたび連携協力に関する協定書を締結し、歴史資料を活用した防災・気候変動適応に向けた研究および人材育成を共同で推進することになりました。

国文学研究資料館は、大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（略称：歴史的典籍NW事業）」の中心機関として、文理融合の共同研究により、日本語の歴史的典籍に残された「知」が、現代において積極的利活用される研究に取り組んでいます。また、茨城大学 ICAS は、地球温暖化などの気候変動による海岸浸食等の現象や国内外の災害への適応策について、多様な分野の研究者が協働しながらフィールド調査・研究、サステイナビリティ教育を進めており、近年では東日本大震災（2011 年）や関東東北豪雨（2015 年）といった災害に際しても調査研究や支援活動を行ってきました。

両者は、関東東北豪雨で被災した歴史史料の修復作業をきっかけに交流を開始し、その後の協議を通じて、「歴史資料を活用した防災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成」というテーマの下、共同研究を進めることで合意しました。本研究では、大規模な自然災害や気候変動に対して、古典籍・古記録・古文書等から歴史的な災害対応、適応の状況を明らかにし、将来の防災・気候変動適応に向けた文理融合型の新たな研究分野の創成をめざすものです。あわせて、そのためのネットワーク形成と人材育成を推進します。

連携協定の調印式を下記の要領で実施します。取材をご検討いただきますようお願いいたします。

［日時］　2017年5月31日（水）15:00～15:30
［場所］　茨城大学水戸キャンパス　事務局棟２階第３会議室（水戸市文京2-1-1）
［出席者］　国文学研究資料館：副館長 兼 古典籍共同研究事業センター長 谷川惠一　ほか
茨城大学：学長 三村信男、地球変動適応科学研究機関長 伊藤哲司　ほか

※ 調印式終了後（15:30～16:30）、国文学研究資料館 西村慎太郎 准教授・茨城大学理学部 小荒井衛 教授による研究発表を予定しています。よろしければ併せてご出席ください。

【報道関係のお問い合わせ】

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　古典籍共同研究係（立川市緑町 10-3）
担当：神谷
TEL: 050-5533-2988　FAX:042-526-8883
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp

茨城大学 広報室（水戸市文京 2-1-1）
担当：山崎
TEL: 029-228-8008　FAX:029-228-8019
E-mail: koho-prg@ml.ibaraki.ac.jp

12.闘鶏神社 電子化実証実験

News Release　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　PFU a Fujitsu company

平成29（2017）年8月1日
国文学研究資料館
株式会社PFU

闘鶏（とうけい）神社で可搬型ブックスキャナを用いた、歴史的典籍の電子化実証実験を実施

～ 世界文化遺産で南方熊楠が見た「今昔物語集」の効率的な電子化を実証 ～

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館（東京都立川市 館長：ロバート キャンベル、以下、国文研）(注1) と、株式会社 PFU（横浜本社：横浜市西区 社長：長谷川 清、以下、PFU）は、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（以下、歴史的典籍 NW 事業）(注2) の一環として、歴史的典籍（以下、古典籍）に特化したブックスキャナの共同研究を実施しています。

本実証実験では、古典籍の研究者を擁する国文研の専門的知見のもと、PFU が開発中の可搬型ブックスキャナを、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されている闘雞神社（和歌山県田辺市）に持ち込み、同社が所蔵する古典籍「今昔物語集（写本）」(注3) の電子化を行いました。その結果、日本各地に点在し、持ち出すことが難しい古典籍についても可搬型ブックスキャナを用いることで、大幅に電子化作業時間が短縮され、生産性を向上させることが検証されました。

今後は、歴史的典籍 NW 事業の古典籍電子化において、ブックスキャナの実用化を進めていくとともに、契約書や記念誌、一般書籍など綴じ冊子の電子化も可能な汎用性のある装置の開発を目指します。

【背景】

国文研は、歴史的典籍 NW 事業の中心として、国内外の大学等と連携し、日本古典籍に関する国際共同研究ネットワークの構築に取り組んでいます。近代以前に作られた古典籍は、作成から時間が経過しているため、紙そのものの劣化や、災害による消失のリスクが大きな課題となっています。そこで、古典籍の画像を電子化し、原本で見た場合と同程度の解像度で保存していくことが求められています。このため、同事業では日本古典籍約 30 万点を画像データ化してデータベースの構築を行い、古典籍の保存を進めています。

しかし、古典籍の電子化作業においては、①古典籍の取り扱いや電子化方法などの専門性が高く、生産性が低い、②古典籍が日本各地に点在し持ち出せないことが多く、現場に機材を持ち込み、撮影ブースを設営する必要があり、準備と電子化作業に時間を要する、という２つの課題があります。

国文研と PFU とは、これらの課題を解決するため、2016 年 1 月から「据え置き型」と「可搬型」2 種類の古典籍の電子化に特化したブックスキャナの開発に取り組み、今般、古典籍が保管されている和歌山県の闘雞神社に可搬型ブックスキャナを持ち込み、所蔵本の電子化を行う、初めての実証実験を実施しました。



闘雞神社



今昔物語集（写本）

13.三越伊勢丹コラボ

■ プレスリリース ■
2017年9月14日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

いま「江戸」料理をお手元へ
国文研と三越伊勢丹がコラボ！　9月20日から「江戸の味」を販売

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館（東京都立川市 館長：ロバート キャンベル、以下、国文研）は、株式会社 三越伊勢丹（以下、三越伊勢丹）が行う江戸料理の再現、アレンジのキャンペーンに賛同し、各店舗の商品に関して、江戸時代の料理本から該当箇所を抽出し、その内容の活字翻刻と、現代文への翻訳、解説文の記載など、全面的に協力いたしました。

国文研が中心となって推進するプロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」では、古典籍に残された古人の知恵を現代に活きたものとして新たな発想や形に繋げていくことを目指しています。今回の三越伊勢丹の企画は、古典籍に記された江戸料理を、今日の味覚に通用するものとして活かす試みであり、その趣旨に賛同し、協力したものです。

この江戸再現料理は、日本橋三越本店と銀座三越において2017年9月20日（水）から実施される「オンリー・エムアイ（ＯＮＬＹ　ＭＩ）」キャンペーンにおいて、店頭販売されます。

キャンペーンの期間等は以下の通りです。
期間：2017年9月20日（水）～10月3日（火）14日間
場所等：日本橋三越本店　本館地下１階食品フロア（東京都中央区日本橋室町1-4-1）
「食べる達人になろう。」
銀座三越　地下２階食品フロア（東京都中央区銀座4-6-16）
「お手本は江戸時代の食」

江戸時代の料理本『豆腐百珍』『万宝料理秘密箱』等に記載されている料理（角飛龍頭、うずみ豆腐、糟漬卵、長崎鳥田がく等）を参考に、日本橋三越本店及び銀座三越の食品フロアの各店舗が、それぞれの個性や現代風のアレンジを加えつつ商品を提案。古典籍の原本画像と翻刻テキスト、現代語訳と各店舗のレシピ等を記載したフライヤーが、商品に添えて配布されます。

また、9月23日（土・祝）午後3時から日本橋三越本店本館地下１階自遊庵において、当館古典籍共同研究事業センター・山本和明副センター長による約45分のセミナー「江戸の書物から読み解く「食」の楽しみかた」が行われます（定員８名）。


江戸時代の料理本
『豆腐百珍』（左）、『万宝料理秘密箱』（右）


広報誌
銀座三越「GINZA MITSUKOSHI DAYS」（左上）
日本橋三越本店「MITSUKOSHI DAYS」（右下）

14.オーロラ絵図と日記

プレスリリース　国立極地研究所　国文学研究資料館
国立大学法人 総合研究大学院大学

平成 29 年 9 月 20 日
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館
国立大学法人総合研究大学院大学

江戸時代のオーロラ絵図と日記から明らかになった史上最大の磁気嵐

国立極地研究所（所長：白石和行）／総合研究大学院大学（学長：長谷川眞理子）の片岡龍峰准教授、国文学研究資料館（館長：ロバート キャンベル）の岩橋清美特任准教授は、江戸時代の古典籍に残る記録から、明和 7 年 7 月 28 日（1770 年 9 月 17 日）に史上最大の磁気嵐が発生していたことを明らかにしました。

研究グループは今回、京都・東羽倉家の日記に 1770 年のオーロラの記録を発見し、その日記の記述をもとに京都からオーロラがどう見えるかを計算しました。その結果、『星解』という別の古典籍に描かれたオーロラの絵図（注 1）の形状が再現されました。またこれにより、1770 年の磁気嵐は、これまで観測史上最大と言われていた 1859 年の巨大磁気嵐と同等か、それ以上の規模であったと推定されます。

この成果は、アメリカ地球物理学連合の学術誌『Space Weather』に掲載されます。なお、本研究の一部は、総合研究大学院大学の学融合共同研究事業および国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」として実施されました。

＜研究の背景＞

太陽で爆発が起こり、大量のプラズマが太陽磁場とともに放出され、地球に到達すると、地球の磁場が一時的に弱くなる「磁気嵐」が起こります。大きな磁気嵐のときには、極域のオーロラが活発になるだけでなく、低緯度の地域でもオーロラが見られることがあります。

これまで記録された中で最大の磁気嵐は 1859 年 9 月に発生したもので、太陽フレアを目撃、報告した天文学者の名前から「キャリントン・イベント」と呼ばれています。この時には、青森県弘前市や和歌山県新宮市でもオーロラが見られたという記録が文献に残っています（文献 1）。

「キャリントン・イベント」より前にも、日本でオーロラが観測された記録があります。藤原定家の日記『明月記』には、1204 年の京都で 1 週間のうちに幾晩もオーロラが見えたとの記述があります（文献 2）。

日本で最も多くの地域でオーロラが目撃されたのは 1770 年 9 月（明和 7 年 7 月）のことです（文

1

15.新日本古典籍総合DB正式公開

■ プレスリリース ■
平成29年10月27日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

日本古典籍のポータルサイト 正式公開へ
先人達の「知」に、だれでも・いつ・どこからでも簡単アクセス

概 要

国文学研究資料館（以下「国文研」）は、平成29（2017）年10月27日に、唯一の日本古典籍のポータルサイトである**「新日本古典籍総合データベース」**を正式公開しました。

このデータベースは、国文研が長年蓄積した豊富な書誌（本の情報）と、国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍（江戸時代以前の書物）のデジタル画像を収録し、**研究・教育の利用は言うまでもなく、メディアや産業界、市民のみなさまにも広くご活用いただけるものです。**

専門用語を知らなくても、多彩な方法で古典籍をさがすことができ、インターネットを通じていつでもどこからでも高精細な画像を見られるよう工夫しているため、だれでも気軽に古典籍に親しむことができます。登録手続きは不要！タブレット、スマートフォンでも利用できます。

平成29（2017）年10月現在、約7万点の画像を公開しています。今後さらに拡大し、将来的には30万点の古典籍全冊の画像を閲覧できるデータベースをめざします。

●名称：新日本古典籍総合データベース / Database of Pre-modern Japanese Works
●正式公開年月日：平成29（2017）年10月27日（金）
●公開データ：書誌 約60万作品、画像 約7万作品（約1000万コマ）
●公開URL：https://kotenseki.nijl.ac.jp/



トップページ（検索画面）


画像ビューア（例）

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター事務室 古典籍共同研究係
E-mail:cijinfo@nijl.ac.jp
TEL:050-5533-2988 / FAX:042-526-8883

16.八王子隕石

プレスリリース　国立極地研究所　国立科学博物館　九州大学　国文学研究資料館
国立大学法人 総合研究大学院大学

平成 29 年 12 月 26 日

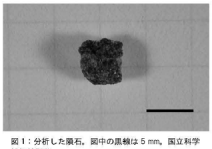
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
独立行政法人国立科学博物館
国立大学法人九州大学
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館
国立大学法人総合研究大学院大学

“八王子隕石”とされる隕石を初めて詳細に分析

- 八王子隕石とされる隕石の小片（約 0.1g、図 1）を初めて詳細に分析した。
- 小片は 1950 年代に古典籍の中から見つかったもので、状況から八王子隕石と考えられているが、曽根隕石である可能性も否定できなかった。分析により曽根隕石との違いが見つかった場合には、この小片が八王子隕石である可能性が高まるとされていた。
- 分析の結果、小片は「H5 普通コンドライト」という種類の隕石であることが分かった。また、曽根隕石との違いは見いだされなかった。

＜研究の背景＞

今からちょうど 200 年前の 1817 年 12 月 29 日（旧暦では文化 14 年 11 月 22 日）、現在の八王子市中心部に多数の隕石が落下しました。この「八王子隕石」については当時の日記などの史料に多くの記録が残されており、約 10km の範囲に、長さ 1m 程度のものを含む多くの破片が落下した隕石雨（隕石シャワーとも言う）だったことが分かっています。落ちた隕石の一部は江戸幕府勘定奉行所に届けられ、天文方によって調べられましたが、現在までにそれらはすべて散逸し、失われてしまいました。


図 1：分析した隕石。図中の黒線は 5 mm。国立科学博物館所蔵

1950 年代になり、京都の土御門家の古典籍の中から、約 0.1g の隕石小片が発見されました。「隕石之事」と書かれた紙包みの中に、八王子隕石について書かれた紙に挟まれて入っていたことから、八王子隕石の一つであると考えられました。しかし、同じ

17.「古典」オーロラハンター３

国立大学法人 総合研究大学院大学　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　国立極地研究所

２０１８年１月１７日

いろんな天文現象が盛り沢山！古典籍からみんなで見つけよう！

市民参加型ワークショップ『古典』オーロラハンター３を開催します。

昨年９月、最強クラスの太陽フレアが発生し話題になりました。実は古典籍を紐解くことで、太陽黒点やオーロラの記述から、過去の太陽フレアの発生を知ることができるのです。

今回は、奈良・平安・鎌倉時代の古典籍のなかから太陽黒点やオーロラの記述を見つけ出し、過去の太陽活動や宇宙災害について学びます。これからの減災につなげていこうという試みです。

当日は「**ダジック・アース**」というデータを立体的に表示する装置を使って、江戸時代の黒点記録をもとに１年間の太陽活動を再現します。幻想的な世界が広がります。

※「ダジック・アース」についての詳細は、こちらをご参照ください。→ https://www.dagik.net/

日　　時：２０１８年２月１８日（日）１３：３０～１６：３０
場　　所：国文学研究資料館２Ｆ大会議室（東京都立川市緑町１０－３）
参 加 費：無料
募集人数：２８名
主　　催：人間文化研究機構　国文学研究資料館（国文研）
　　情報・システム研究機構　国立極地研究所（極地研）
　　総合研究大学院大学（総研大）学融合推進センター



【お申し込み方法】
ハガキ、FAX または E-mail に①郵便番号、②住所、③電話番号、④氏名（フリガナ）を明記の上、2018 年 1 月 31 日(水)迄にお申し込みください。
選考結果は２月上旬に、郵送でお知らせします。
次のＵＲＬからチラシがダウンロードできます。
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20180218_workshop.html

【メディアのみなさまからのお問い合せ先】
大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館　古典籍共同研究事業センター事務室
古典籍共同研究係
TEL：050-5533-2988　FAX：042-526-8883　e-mail：cijinfo@nijl.ac.jp

※本ワークショップは以下の事業として実施します。
歴史的典籍NW事業 http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/
異分野融合共同研究（典籍防災学）「典籍等の天文・気候情報に基づく減災研究の基盤整備」

総合研究大学院大学　学融合萌芽的共同研究事業「天変地異と人間社会の変遷：言葉の在り方と世界の在り方」

オーロラ４Ｄプロジェクト http://aurora4d.jp/

18.茨城大学ICAS 共同研究シンポ

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　茨城大学 Ibaraki University

報道関係各位

平成３０年１月２５日

【イベント開催告知／取材案内】

国文学研究資料館・茨城大学 ICAS 共同研究シンポジウム
―歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究成果を報告―

日時 2 月 5 日（月）13:00～15:00　会場 茨城大学水戸キャンパス図書館３階ライブラリーホール

人間文化研究機構 国文学研究資料館（東京都立川市／館長：ロバート キャンベル）と茨城大学地球変動適応科学研究機関（略称 ICAS、機関長：伊藤哲司）は、平成 30 年 (2018 年) 2 月 5 日（月）、歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた共同研究にかかわるシンポジウムを、茨城大学水戸キャンパスの図書館３階ライブラリーホールで開催します。参加無料、申し込み不要です。

両機関は、2015 年の関東東北豪雨で被災した歴史史料の修復作業をきっかけに交流を開始し、昨年（2017 年）5 月に連携協定を締結しました。国文学研究資料館では、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（歴史的典籍 NW 事業）」のもと、膨大な古典籍の新たな活用を推進しています。また、茨城大学 ICAS においては、気候変動の影響予測や災害等のリスクに対する具体的な適応策について、自然科学・社会科学の垣根を越えた研究を進めてきました。この両者の連携により、歴史史料を過去の気候や災害の対応の記録として活用し、気候変動の将来予測や減災・防災に役立てる研究に取り組むとともに、新たな研究分野の創成を目指しています。今回のシンポジウムは、その最新の成果や取り組みについて両機関の研究者が報告し、議論を行うものです。

シンポジウムでは、両機関の共同研究の意義を紹介した上で、茨城大学の小野寺 淳 教授、国文学研究資料館の岩橋 清美 特任准教授、茨城大学の野澤 恵 准教授・宮崎 将さん（学生）の３組がそれぞれ講演します。これらの講演では江戸～明治期の史料を具体的に取り上げ、当時の災害の状況や気候をどのように読み解けるか、さらに、それらの情報を自然科学的な研究や減災、気候変動への適応策の検討にどのように活かせるかを考えます。

このうち、茨城大学の野澤准教授と学生の宮崎将さんの報告では、土浦市立博物館が所蔵する「家事志」という史料をもとに 1826～1858 年の茨城・土浦の気候情報を復元する研究を紹介します。同史料はこれまで気候の記録としては活用されておらず、また、当時のこの地域の毎日の天気に関する情報は今まで得られていなかったため、貴重な研究だといえます。

本シンポジウムにつきまして、開催案内のご紹介や当日の取材のご検討をいただきますようお願いいたします。

【報道関係のお問い合わせ】

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　古典籍共同研究係（立川市緑町 10-3）
担当：神谷
TEL：050-5533-2988　FAX:042-526-8883
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp

茨城大学 広報室（水戸市文京 2-1-1）
担当：山﨑
TEL：029-228-8008　FAX:029-228-8019
E-mail: koho-prg@ml.ibaraki.ac.jp

19.「くずし字、いろいろ」

■ 共同プレスリリース ■　平成30年4月26日

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　国立極地研究所 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

オーロラ４Ｄプロジェクトがくずし字の教育コンテンツ
「くずし字、いろいろ」を開発！　なんで！？

概 要

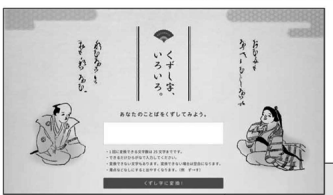
国文学研究資料館（館長：ロバート キャンベル）と国立極地研究所（所長：中村卓司）とが実施している異分野融合研究（典籍防災学）「典籍等の天文・気候情報に基づく減災研究の基盤整備」では、オーロラ４Ｄプロジェクト（https://aurora4d.jp/）として、市民の皆様に古典籍から天文の記録を読み解いてもらう取り組み「『古典』オーロラハンター」を進めてきました（※１）。

残された記録を読み解くことで、ユニークかつ新しい発見につながることはまだまだある！
「『古典』オーロラハンター」等の活動を通じて、思いも寄らない研究成果が次々と出ています（※２）

このシチズンサイエンスの動きを止めたくない！　そう考えた本プロジェクトでは、このたびくずし字を読むことにつなげる教育コンテンツを開発しました。

ひらがなを入力すると、対応するくずし字が、くずし字データベースを参照して表示され、SNSで共有できるのです。ＪＰＥＧ画像にも変換出来るのでいろんな用途が考えられますね。くずし字は楽しんでこそのもの。ご活用いただき、すこしでもくずし字ファンになって、新しい発見を一緒にしましょう。

★ツール名：「くずし字、いろいろ」（4月27日公開）
http://www.kuzusu.jp/



【使い方】
・1回に変換できる文字数は25文字までです。
・できるだけひらがなで入力してください。
・変換できない文字もあります。変換できない場合は空白になります。



※自由に画像をキャプチャして紙面等にご利用いただいても構いません。どうぞ一度お試しください。今後改良を進めてまいります。

20.太陽と雷

プレスリリース　国立極地研究所 大学共同利用機関法人　武蔵野美術大学　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　成蹊大学　国立大学法人 総合研究大学院大学

平成 30 年 4 月 27 日
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
学校法人武蔵野美術大学
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館
学校法人成蹊学園 成蹊大学
国立大学法人総合研究大学院大学

太陽の自転周期が雷の発生に影響している
～江戸時代の日記の分析で判明～

武蔵野美術大学（学長：長澤忠徳）の宮原ひろ子准教授、国立極地研究所（所長：中村卓司）・総合研究大学院大学（学長：長谷川眞理子）の片岡龍峰准教授、国文学研究資料館（館長：ロバートキャンベル）の岩橋清美特任准教授らの研究グループは、江戸時代の古典籍に含まれる日々の天気の記録などから、太陽の 27 日の自転周期が過去 300 年にわたって日本での雷の発生に影響を及ぼしてきたことを明らかにしました。

太陽活動と気候変動に相関が見られることはすでに知られていますが、そのメカニズムはまだ分かっておらず、加えて、気象の時間スケールでも太陽活動が影響するのかどうかについては議論が続いています。

研究グループは、江戸時代の古典籍を用いて、17 世紀後半以降の約 200 年分の弘前、八王子、江戸における雷の発生日を調べました。その結果、太陽活動が活発化するほど、日本の夏の雷の発生に 27 日周期が強く現れることを発見しました。これは、太陽の自転が気象のスケールでも重要な影響を与えていることを示唆するものです。

太陽活動が活発化すると、太陽表面に黒点や白斑が現れ、また太陽フレアも起こりやすくなります。太陽の自転の影響で地球に降り注ぐ光の量が周期的に変化することや、太陽フレアの発生により地球に降り注ぐ宇宙線の量が 27 日周期で変動することが、雷の発生に影響している可能性があります。今後、太陽活動が雷の発生に影響するメカニズムを解明することにより、気候予測の精度向上や、長期的な気象予測への手がかりになることが期待されます。

本研究は、欧州地球物理学会の発行する学術誌「Annales Geophysicae」にオンライン掲載されました。

＜研究の背景＞

太陽の活動は、様々な時間スケールで変化します。よく知られている 11 年周期のほか、長いもの

1

21.国際子ども図書館コラボ

■ プレスリリース ■
平成30年6月１８日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

国文学研究資料館と国際子ども図書館のコラボ企画！

国文学研究資料館（東京都立川市）と国立国会図書館国際子ども図書館（台東区）とが、中高生のみなさんを対象に、国際子ども図書館でイベントを開催します！

「図書館で！ネットで！楽しい古典籍―おいしい江戸料理本の世界」と題し、江戸時代の料理本の展示と講演会を夏休みに開催します。講演は８月２日で参加費無料。ふるってご参加ください。

概 要

○講演会

日　時：平成30(2018)年8月2日（木）14時00分～16時00分（13時30分受付開始）
場　所：国際子ども図書館　アーチ棟1階　研修室1（東京都台東区上野公園12-49）
講　師：山本和明（国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター副センター長・特任教授）
「図書館で！ネットで！楽しい古典籍―おいしい江戸料理本の世界」
定　員：70名（対象は、中学生・高校生ですが、定員に余裕があれば、7月2日以降に中高生以上の年代の方も申込みできます。）
申込み：参加費無料、事前に下記URLから申込みページにアクセスして申込フォームに入力してください。http://www.kodomo.go.jp/event/event/event2018-09.html

○展示

日　時：平成30(2018)年7月24日（火）～8月9日（木）※7月30日（月）、8月6日（月）は休館
場　所：国際子ども図書館　レンガ棟2階　調べものの部屋体験プログラムスペース
期間中、だれでも自由に見学できます。

国文学研究資料館（国文研：東京都立川市）は、平成28（2016）年9月30日に、国立国会図書館（国会図書館：東京都千代田区）と連携・協力に関する協定を締結しています。今回、国会図書館の児童書専門図書館である国際子ども図書館にて、中高校生のみなさんが、気軽に古典の世界に触れることをできるように、当館の所蔵する料理本等の資料を展示し、併せて開催される講演を通じ、そのおもしろさを紹介したいと考えています。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 管理部学術情報課企画広報係
E-mail:kikakukoho@nijl.ac.jp
TEL:050-5533-2910 / FAX:042-526-8606

22.東書文庫公開

■ 共同プレスリリース ■　平成30年7月６日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

東京書籍

古往来からひもとく日本の学び
東書文庫と国文研、往来物（昔の教科書）を続々デジタル公開へ

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では、東京書籍株式会社附設教科書図書館 東書文庫（以下、「東書文庫」）が所蔵する昔の教科書＝往来物（旧謙堂文庫）原本のデジタル化を行っており、今後WEB上で一般公開してまいります。

第一弾として、平安時代から鎌倉時代に記され、のちの往来物の起源となった、大変貴重な「古往来」４５点（別紙１参照）を、本年７月６日(金)に国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開いたしましたのでお知らせいたします。

往来物は、平安時代以降、手紙の文案などが収録され、初歩教材として使用されてきたもので、特に江戸時代の寺子屋などで教科書として使われたことがよく知られています。

東書文庫が所蔵する「旧謙堂文庫資料」は、教育史家である石川謙（1891 - 1969）が生涯にわたって蒐集した教育史関係の記録、文書、文献を中心に構成されています。氏の旧蔵書のうち、13世紀後半から19世紀後半にかけての約600年間に及ぶ初歩教科書3,340点が、2014年に東書文庫に譲渡され、今回のデジタル化にいたりました。

東書文庫と国文研との間で覚書を交わし、2017年度に撮影されたものは約1000点余り。現在、その書誌データを作成しており、本年秋には、地理・産業・消息（手紙文）に関する往来物約1000点を国文研の「新日本古典籍総合データベース」より順次公開いたします。さらに、今後残りの往来物も全てデジタル化を実施し、随時公開していく予定です。

鎌倉中期にしるされた『いろは』をはじめとしたこれらの資料は、教育史の研究や書道の手本としても、今日でも十分活用できるものです。

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでも、手続き不要でご利用いただけます。研究や生涯学習の現場で、どのような用途でも、以下の条件を踏まえた上で自由にご活用いただけます。ぜひご活用ください。

●公開年月日：2018年7月6日（金）
●公開数：45点（作品数）・1,420コマ（画像ファイル数）
●公開サイト：新日本古典籍総合データベース：http://kotenseki.nijl.ac.jp

●利用条件：クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 (CC BY-SA 4.0)
https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja
クレジット表示をすることにより、自由にお使いいただけます。
ご利用の際には、以下のようなクレジット表示をお願いします。
(例) 撮影：国文研／所蔵：東書文庫

なお、国文研では、東書文庫との連携協力を端緒に、往来物に関わる取り組みを進めています。詳細は別紙2をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　古典籍共同研究係
E-mail:cijinfo@nijl.ac.jp
TEL:050-5533-2988 / FAX:042-526-8883

東京書籍株式会社附設教科書図書館 東書文庫
TEL:03-3927-3680 / FAX: 03-3927-3800
http://www.tosho-bunko.jp/

23.「古典」オーロラハンターIN京都

京都大学附属図書館 KYOTO UNIVERSITY LIBRARY
大学共同利用機関法人　人間文化研究機構 国文学研究資料館
国立極地研究所 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

2018年10月9日

報道関係者　各位

国文学研究資料館
京都大学附属図書館
国立極地研究所

市民参加型ワークショップ「古典オーロラハンターIN 京都」開催のご案内

国文学研究資料館では、11月18日（日）に市民参加型ワークショップ「古典オーロラハンターIN 京都」を開催いたします。

古典オーロラハンターは、過去３回について国文学研究資料館と国立極地研究所がある東京都立川市で地域の市民を主な対象に開催してまいりました。今回は４回目を迎えることから、初めて関西での開催として京都大学附属図書館３階ライブラリホールで行います。平安から江戸時代にいたる古典籍・古文書から天変地異に関する記述を探し出し、参加者の皆様と京都千年の自然災害データ作成にチャレンジします。

当日は司馬江漢の銅版画「太陽真形図」をはじめ、同図書館所蔵の貴重な古典籍も展示されます。また、京都大学大学院理学研究科附属天文台が観測した太陽観測画像や国立極地研究所によるオーロラ研究の成果など、最先端科学が明らかにした天変地異の姿が分かる資料やパネルの展示も行います。

当日の講師には京都大学や東京大学から地震や天文学の専門家も参加し、古典籍・古文書の記録が最先端科学とどのようにつながっているか、分かりやすく解説する予定です。

また本ワークショップのポスターは、国文学研究資料館所蔵資料を活用して、京都市立芸術大学の大学院生・中田恵子さんがデザインしたものです。

貴媒体で、本ワークショップについて、ご掲載いただければ幸甚です。何卒よろしくお願いいたします。



日　　時：2018年11月18日（日）13時30分～16時30分
場　　所：京都大学附属図書館３階ライブラリホール
（京都市左京区吉田本町）
参加人員：約28名
（一般公募・参加費無料　※応募者多数の場合は抽選）
お申し込み方法：
ハガキ、FAXまたはE-mailに①郵便番号、②住所、③電話番号、④氏名（フリガナ）を明記の上、2018年10月31日（水）迄にお申し込みください。
選考結果は11月上旬に、郵送でお知らせします。
次のＵＲＬからチラシがダウンロードできます。
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20181118_workshop.html

24.宮内庁書陵部資料公開

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館　■ プレスリリース ■　平成31年2月25日

光格天皇「御譲位並御即位記」など、近世宮中儀式に関する貴重な資料（宮内庁書陵部所蔵）をデジタル公開

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では開館以来、宮内庁書陵部（以下、「書陵部」）と協力し、書陵部が所蔵する古典籍についてマイクロフィルムでの収集を行い、来館者への閲覧サービスを行ってきました。2011年度にはインターネット上での公開に関する覚書を締結し、翌年度からフィルムからデジタル化をし、インターネット上で一般公開しております。**さらに2017年度からは、原本からのカラー高精細でのデジタル化をすすめ、書陵部所蔵の貴重資料の公開を進めております。**

今回の新たに追加されるコンテンツ（42点）のうち特に注目できるのは、次の二点です。

○光格天皇・仁孝天皇・孝明天皇の時代の「御譲位並御即位記」をはじめとした近世の宮中の儀式に関する貴重な資料の公開
○孤本（唯一の伝本）とされる「とはすかたり」のカラー公開

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでも、手続き不要でご覧いただけます。なお、今回は報道資料用に画像を用意しています。条件等は別紙「提供する画像の使用について」をご覧ください。

●公開年月日：2019年2月25日（月）
●公開数：42点（作品数）・6,269コマ（画像ファイル数）
●公開サイト：新日本古典籍総合データベース（公開中）：http://kotenseki.nijl.ac.jp
書陵部所蔵資料目録・画像公開システム（順次公開）：
https://shoryobu.kunaicho.go.jp

●利用条件：報道資料については、別紙「提供する画像の使用について」をご参照ください。
その他一般の利用は、宮内庁書陵部図書課図書寮文庫出納係へお問合せください。
http://www.kunaicho.go.jp/kunaicho/shinsei/toshoryo.html

今回公開する資料のご紹介

今回公開した資料の中には、次のような貴重な資料が含まれています。
※ 画像 アイコンの下に記載しているDOI（デジタルオブジェクト識別子）のリンク先から直接画像を閲覧できます。



御譲位並御即位記（ごじょういならびにごそくいき）
（文化14年・弘化3年・光格天皇・仁孝天皇・孝明天皇）
（小槻以寧（おづきしげやす）自筆）

光格天皇の譲位及び仁孝天皇の即位、孝明天皇の即位の儀式等について記された記録（草稿）。

画像 https://doi.org/10.20730/100275902

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター事務室　古典籍共同研究係
E-mail:cijinfo@nijl.ac.jp
TEL:050-5533-2988 / FAX:042-526-8883

25.扇形オーロラ

プレスリリース　国立極地研究所　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

令和元(2019)年５月21日
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館

1958年に日本で見られた扇型オーロラの実態を解明

国立極地研究所(所長:中村卓司)の片岡龍峰准教授は、気象大学校の藤田茂講師や国文学研究資料館(館長:ロバート キャンベル)の山本和明教授らと共に、1958年に日本各地で目撃されたオーロラに注目し、従来の分析には用いられてこなかった、当時の気象庁職員の扇形のオーロラスケッチ(図1)やオーロラの連続写真(図2)と分光観測データを合わせて分析することで、大規模な扇形オーロラの実態(「色」「動き」「位置」「時間帯」)を解明しました。また、扇形のオーロラは、大規模な磁気嵐中に中緯度地域で発生するオーロラ形態の基本的な特徴の一つであることを提唱しました。

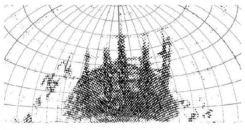


図1:1958年2月11日夜7時に気象庁地磁気観測所女満別出張所でスケッチされた図を座標変換したもの。中心が真北、印角と方位角のグリッドは10度間隔。

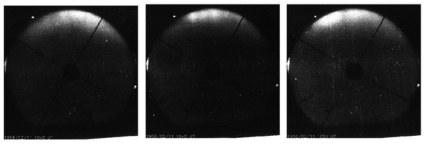


図2:女満別で撮影されたオーロラ連続写真の一部。全天カメラで撮影されており、画像の上が北。左から、日本時間19時40分、45分、51分。40分には北に輝いていたオーロラが西方向に移動している。連続写真を繋げた動画を極地研ウェブサイト(https://www.nipr.ac.jp/info/notice/20190521.html)で公開。

＜背景＞

江戸時代の1770年9月17日に発生した史上最大規模の磁気嵐では、赤を背景に白い筋が何本も扇のように広がるオーロラの絵画が残されています(図3左)。このオーロラの形態は、斜めに傾いた磁力線に沿って発光する緯度の高いオーロラの筋が等間隔に数多く出現し、観察者に覆い被さるように並んだ状態を北に見上げたときの形状だと片岡准教授は既に報告しています(参考資料1)。その約100年後に描かれた、フランスの天文学者・画家のトルーヴェロの扇形オーロラの絵画も有名です(図3右)。一緒に描かれていた星座から、扇形のオーロラは北の空全体に大きく広が

26.Kaggleくずし字コンペ

プレスリリース　情報・システム研究機構　データサイエンス共同利用基盤施設　NII 国立情報学研究所　国文学研究資料館

令和元年７月９日

本件の取り扱いは下記の解禁日時以降でお願いいたします。
TV・ラジオ・ウェブ:令和元年７月10日(水)10:00(日本時間)
新聞:令和元年７月10日(水)夕刊(日本時間)

「くずし字」の認識に世界のAI研究者・技術者が挑戦
―全世界的コンペティションをKaggleで７月から開催―

日本は、古典籍、古文書、古記録などの過去の資料(史料)を千年以上も大切に受け継いでおり、数億点規模という世界でも稀なほど大量の資料が現存しています。日本の歴史・文化の研究や、過去の災害などの自然現象の解明を進めるには、これらの資料をデジタル化・オープン化するとともに、その内容を読み解く必要があります。ところが、現代のほとんどの日本人は「くずし字」で書かれた過去の資料を読めなくなっており、大量のくずし字をどう読み解くかが重要な課題となっています。

そこで、この社会課題の解決にAI(人工知能)を活用する方法を探るため、この７月から10月にかけて、世界最大規模の機械学習コンペプラットフォームである「Kaggle(カグル)」で、「くずし字認識:千年に及ぶ日本の文字文化への扉を開く」と題する全世界的なコンペを開催します。コンペを通して画期的なくずし字認識手法の開発が進むだけでなく、くずし字データセットを通して日本文化への関心が世界的に高まる効果も期待できます。

本コンペは、情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター(センター長:北本朝展、以下、CODH)ならびに同機構 国立情報学研究所(所長:喜連川優、以下、NII)、人間文化研究機構 国文学研究資料館(館長:ロバート・キャンベル、以下、国文研)が主催します。

日本は、古典籍、古文書、古記録などの過去の資料(史料)を千年以上も大切に受け継いでおり、数億点規模という世界でも稀なほど大量の資料が現存しています。日本の歴史・文化の研究や、過去の災害などの自然現象の解明を進めるには、これらの資料をデジタル化・オープン化するとともに、その内容を読み解く必要があります。ところが、現代のほとんどの日本人は「くずし字」で書かれた過去の資料を読めなくなっており、大量のくずし字をどう読み解くかが重要な課題となっています。

現在、くずし字をきちんと読める人は全国で数千人程度と推定されており[1]、これらの人々だけで膨大な資料を翻刻[2]するには限界があります。この課題を解決するために、２つの方向で研究が進められてきました。第一が市民参加型翻刻システム[3]の開発です。専門家と市民が共に参加する翻刻システムを使い、市民がくずし字を翻刻しながらスキルを向上させることで、くずし字を読める人々の数をもっと増やすことを目指します。第二がコンピ

27.「あまつら」復元

立命館大学　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

2019.7.24 <計2枚>

各位

立命館大学
人間文化研究機構 国文学研究資料館

複数の原料から復元に成功!
古代の甘味料「あまつら」の試食体験イベントのご案内
日時:2019年8月3日(土) 12:30～13:45
会場:立命館大学 衣笠キャンパス

立命館グローバル・イノベーション研究機構(以下R-GIRO)所属の神松幸弘助教と大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館(以下 国文研)所属の入口敦志教授らは、2016年より「料理・調味料の復元と活用に関する研究」の共同研究を行っています。その研究報告と研究成果のひとつである古代の甘味料「あまつら」の復元を記念した試食体験イベントを8月3日(土)に立命館大学衣笠キャンパスで開催いたします。

古代の日本では、「あまつら」という甘味料が存在し、枕草子や今昔物語などにも記されています。しかし、砂糖の普及とともに中世中頃には消滅し、現在では幻の甘味料となっています。

この度R-GIROと国文研は古文書の精査と20種もの植物の樹液成分の化学分析による再検討を進めてきました。その結果、従来のツタを原料としたものだけではなく、様々な原料からあまつらを復元できることを明らかにしました。

本イベントでは、最新の研究報告に加えて、枕草子の中で、清少納言が「あてなるもの 削り氷に甘葛(あまつら)入れて、新しき銀入れたる」と書き記したあまつらのかき氷の試食体験も用意しており、参加者に五感を通じて古典の世界を味わってもらう企画となっています。



あまつらの原料候補として分析した植物種群の一部



復元した古代の甘味料「あまつら」

記

日　　時:2019年8月3日(土) 12:30～13:45
会　　場:立命館大学 衣笠キャンパス 図書館カンファレンスルーム
対　　象:どなたでもご入場いただけます (定員:先着80名)
ｽｹｼﾞｭｰﾙ:
12:30－12:35　趣旨説明
12:35－13:00　古典籍と科学の出会い　入口敦志(人間文化研究機構国文学研究資料館)
13:00－13:20　あまつらの再検討－文献と化学分析からわかったこと－神松幸弘(立命館大学)
13:20－13:45　令和とあまつら 30年前のあまつら復元の映像+質疑応答
※本イベントは、立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム「超長期的視点から見た人口・環境・社会」内で実施いたします。

●取材・内容についてのお問い合わせ先
ご取材いただける場合は、前日までに以下までご連絡をお願いいたします。
立命館大学 広報課　　担当:中村　　TEL. 075-813-8300

28.AIくずし字シンポ

プレスリリース　情報・システム研究機構　データサイエンス共同利用基盤施設　NII 国立情報学研究所　国文学研究資料館

令和元年９月13日

「日本文化とAIシンポジウム2019 ～AIがくずし字を読む時代がやってきた～」
11月11日に開催、参加申込スタート

情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設(以下、ROIS-DS) 人文学オープンデータ共同利用センター(センター長:北本朝展)ならびに同機構 国立情報学研究所(所長:喜連川優)、人間文化研究機構 国文学研究資料館(館長:ロバート・キャンベル)は、「日本文化とAIシンポジウム2019 ～AIがくずし字を読む時代がやってきた～」(参加無料)を11月11日(月)に開催いたします。このシンポジウムでは、AI(人工知能)を活用してくずし字を読み解く研究の過去・現在から未来までを議論するとともに、世界に広がるくずし字研究の最前線をご紹介します。

このたび、本シンポジウムのウェブサイトを開設し、参加申込の受付を開始いたしました。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

日本では、古典籍・古文書・古記録などの過去の資料(史料)が千年以上も大切に受け継がれており、数億点規模という、世界でも稀にみる大量の資料が現存しています。その多くが「くずし字」で書かれておりますが、現代のほとんどの日本人は「くずし字」で書かれた過去の資料を読めなくなっており、大量のくずし字をどう読み解くかが喫緊の重要な課題となっています。

そこで、ROIS-DS人文学オープンデータ共同利用センター、国立情報学研究所、国文学研究資料館は、AI(人工知能)を活用してくずし字を読み解く研究の、過去・現在から未来までを議論し、世界に広がるくずし字研究の最前線をご紹介するシンポジウム「日本文化とAIシンポジウム2019」を開催いたします。

AIに関する多数のコンペティションで世界的に注目を集めているKaggle[1]では、10月14日(月)まで「くずし字認識:千年に及ぶ日本の文字文化への扉を開く」と題するコンペを開催中です。本シンポジウムには、このコンペの入賞者も集結し、開発したくずし字認識アルゴリズムを解説する予定です。さらに、本間からくずし字まで、日本の文字文化の研究に取り組む第一線の研究者をお招きし、研究の最先端をご紹介する講演やデモを行います。

くずし字を読み解く技術がいまどこまで進んでいるのか、その可能性を体感するまたとない機会です。皆さまのご参加をお待ちしております。

記

「日本文化とAIシンポジウム2019 ～AIがくずし字を読む時代がやってきた～」
【日　　時】2019年11月11日(月) 9:30受付 10:00開始
【場　　所】一橋講堂 東京都千代田区一ツ橋2丁目1-2 学術総合センター2F
【参加方法】ウェブサイトから事前申込(参加無料)
http://codh.rois.ac.jp/symposium/japanese-culture-ai-2019/
※シンポジウム登壇者への個別取材も調整いたします。

29.東京藝術大学資料公開

■ 共同プレスリリース ■

令和元年９月27日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

TOKYO GEIDAI

東京藝術大学の貴重古典籍 約560点をデジタル公開へ

藝大附属図書館所蔵古典籍を国文研でデジタル化

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では、東京藝術大学附属図書館（以下、「藝大図書館」）が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）のデジタル化を行っており、今後WEB上で一般公開してまいります。

第一弾として、藝大図書館所蔵の貴重古典籍のうち556点を、本年９月27日（金）に国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開いたしましたのでお知らせいたします。

藝大図書館は、前身の東京美術学校、東京音楽学校時代から引き継ぐ美術・音楽に関わる数多くの古典籍を所蔵しており、そのうちの約750点が「貴重書」に指定されています。日本の美術史・音楽史を研究するうえで欠かせない資料群といえますが、見るだけでも楽しい絵手本や、歌舞伎愛好家にはたまらない「役者評判記」など親しみやすい古典籍もたくさんあります。

藝大図書館の建て替えに伴い、国文研は平成29年夏に古典籍を預かり、デジタル化を開始しました。脇本文庫や他の古典籍についても「新日本古典籍総合データベース」より順次公開予定です。

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでもご覧いただけます。ぜひご活用ください。

●公開年月日：2019年9月27日（金）
●公開数：556点（作品数）・65,763コマ（画像ファイル数）
●公開サイト：新日本古典籍総合データベース：https://kotenseki.nijl.ac.jp
　藝大図書館所蔵の公開作品リストはこちら▼
　https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-tkgl.html

●利用条件：
どなたでも公開サイトから閲覧が可能です。
画像の転載を希望する場合は、東京藝術大学附属図書館に問い合わせが必要です。
ただし、本件報道に関わる画像は、別紙記載のURLよりダウンロード及び報道目的での利用が可能です。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883

東京藝術大学附属図書館 情報サービス係
E-mail: jservice@ml.geidai.ac.jp
TEL: 050-5525-2429 / FAX: 03-3828-8298

30.中津市・中津市教育委員会資料公開

■ プレスリリース ■

令和元年11月13日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

『解体新書』の編著者 前野良沢を輩出した 中津藩医学古典籍 デジタル公開へ

国文研が中津市・中津市教育委員会と覚書締結

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では、大分県中津市・中津市教育委員会と覚書を締結し、中津市歴史博物館が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）をデジタル化し、今後WEB上で一般公開してまいります。

第一弾として、中津市歴史博物館所蔵の貴重な医学関係の古典籍のうち44点を、本年11月13日（水）に国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開いたしましたのでお知らせいたします。

中津市歴史博物館（通称：なかはく）は、本年11月1日、黒田官兵衛が築いた中津城内堀沿いにオープンしたばかりの博物館です。江戸時代の中津藩は蘭学を奨励し、『解体新書』の編著者である前野良沢や、日本初の日蘭辞書『蘭語訳撰』を編さんした奥平昌高らを輩出しました。現在でも中津に伝わった蘭学や医学に関する貴重な資料を納めた、医家史料館が２館存在しています。中津市歴史博物館は、医学書を含む中津市教育委員会所蔵の多くの古典籍を収蔵しています。

また、中津市は福沢諭吉の生誕地としても有名であり、『学問のすゝめ』をはじめとする関連資料も所蔵しています。

国文研は平成29年度より古典籍のデジタル化を開始し、『解体新書』『華岡青洲所診画帳』『学問のすゝめ』等の貴重資料をデジタル化しました。今後も継続してデジタル化を行い「新日本古典籍総合データベース」より順次公開予定です。

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでもご覧いただけます。ぜひご活用ください。

●公開年月日：2019年11月13日（水）
●公開数：44点（作品数）・1,835コマ（画像ファイル数）
●公開サイト：新日本古典籍総合データベース：https://kotenseki.nijl.ac.jp
　中津市歴史博物館所蔵の公開作品リストはこちら▼
　https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-nktc.html

●利用条件：クリエイティブ・コモンズ 表示 – 非営利 4.0 国際 (CC BY-NC 4.0)
https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.ja
非営利ならば、クレジット表示をすることにより、自由にお使いいただけます。
ご利用の際には、以下のようなクレジット表示をお願いします。
（例）撮影：国文研／所蔵：中津市歴史博物館
その他の条件で利用を希望する場合は、中津市歴史博物館に問い合わせが必要です。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

中津市歴史博物館
E-mail: nakahaku@city-nakatsu.jp
TEL:(0979)23-8615 / FAX:(0979)23-8616
http://nakahaku.jp/

31.和食文化シンポ

■ プレスリリース ■

令和２年1月29日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

立命館大学

和食文化の断絶と継承、国文研でシンポジウムを開催

―古代の甘み、幻の甘味料「甘葛煎」試食体験も ―

概要

世界的な和食ブームの中で改めて「和食とは何か？」を考えることを目的にシンポジウムを開催します。会場では、復元した古代の幻の甘味料「甘葛煎」（あまづらせん）を使用した古代スイーツの試食体験もおこないます。

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館（以下 国文研）所属の入口敦志教授と立命館グローバル・イノベーション研究機構（以下R-GIRO）所属の神松幸弘助教らは、2016年より「料理・調味料の復元と活用に関する研究」の共同研究を行っています。

和食の基本は、江戸時代に確立したとも言われています。また、米と魚を主とする食文化は遥か古代から現代まで共通するとも考えられています。しかし和食の中には時代とともに忘れ去られたものや、新しく生み出されたものもあります。

今回は国文研とR-GIROで行われた共同研究の成果を中心に、古典籍（昔の書籍）の紙に漉きこまれていた毛髪の分析結果による江戸時代の食生活や、植物の樹液の成分分析を通して古代の幻の甘味料「甘葛煎」の実態に迫った最新の研究成果を発表します。また、研究成果の一つである甘葛煎を使った古代の貴族が愛した最高級デザートである手綱の試食も体験できます。

日時：
2020年2月8日（土）13：30～16：00（受付開始13時）
場所：
国文学研究資料館２階　オリエンテーション室
参加：
入場無料・事前申込み制（定員30名・先着順）
申込方法とシンポジウム詳細は下記URLより
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/amatura20200208.html
主催：
人間文化研究機構　国文学研究資料館
立命館大学　立命館グローバル・イノベーション研究機構
立命館大学　環太平洋文明研究センター
事業主体：
歴史的典籍ＮＷ事業 異分野融合共同研究（和食と伝統医学の研究）
「料理・調味料の復元と活用に関する研究」



チラシダウンロード

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

立命館大学衣笠リサーチオフィス
担当　岡本・福野
TEL:075-465-8224/FAX: 075-465-8224
http://www.ritsumei.ac.jp/rgiro/
http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/

32.日本書紀と扇形オーロラ

報道解禁：３月16日（月）午前０時

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
SOKENDAI

プレスリリース

国立極地研究所
大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構

令和２年３月13日
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館
国立大学法人　総合研究大学院大学

日本最古の天文記録は『日本書紀』に記された扇形オーロラだった

『日本書紀』編纂 1300 年にあたる本年、国立極地研究所（所長：中村 卓司（なかむら たくじ））の 片岡龍峰（かたおかりゅうほう） 准教授と、国文学研究資料館（館長：ロバート キャンベル）の 山本 和明（やまもと かずあき） 教授を中心とする研究グループは、日本最古の天文記録として知られる『日本書紀』推古 二十八年（620 年）のくだりに記された「赤気」について、近年の古典籍を用いたオーロラ研究で解明されてきた「扇形オーロラ」と整合的であることを明らかにしました。着目したのは「形似雉尾」という表現です。緯度の低い地域で見られる扇形のオーロラを目撃した当時の日本人は、雉がディスプレイ行動や母衣打ちで見せる扇形の尾羽でオーロラを例えたのだろう、という解釈を新たに提唱しました。後の人々の感性をうかがい知ることに加え、多くの初期の写本に「似雉尾」と書いてあるのは「似雉尾」が誤字されたものであろう、とする明治の研究者・飯田武郷による先行研究を裏付ける、文理融合による研究成果でもあります。

＜研究の背景＞

令和2年で編纂から1300年になる『日本書紀』には、日本最古の天文記録として、推古天皇二十八年（620 年）に以下のような記録が残されています。

十二月の庚寅の朝に、天に赤気有り。長さ一丈余なり。形雉尾に似れり。

この記述はオーロラのことか、あるいは彗星か、どちらの説も決め手に欠け、科学的には謎めいた記述として知られてきました。中国の歴史書には、同年 620 年にオーロラらしき記述や巨大黒点が出た、という記述は見つからず、日中記録によるダブルチェックのような常套手段が通じません。また彗星と解釈しようにも、『日本書紀』では箒星として区別して書かれていること、色味が「赤」からは程遠いことなど、幾つかぬぐえない不安が残ります。また、形状に

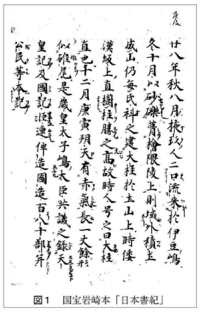


図１　国宝岩崎本「日本書紀」

33.国書総目録デジタル公開

■ プレスリリース ■

令和２年４月６日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

江戸時代以前の書籍情報を集めた『国書総目録』デジタル公開へ

国文研がPDF版を公開

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では、江戸時代以前の書籍の総合目録として基本的かつ網羅性の高い『国書総目録』の著作権を版元である岩波書店より譲渡され、電子版を**本年４月３日（金）に国文研の「新日本古典籍総合データベース」のページで公開いたしましたのでお知らせいたします。**

『国書総目録』は、日本人が著作し、編集し、あるいは翻訳した書籍の総合目録で、書名・分類・著者名等の基本的な情報を収載した江戸以前の研究には不可欠のツールです。その収載項目は３９万項目にのぼり、日本全国の図書館・博物館等の機関、神社仏閣や個人の文庫などが所蔵する書籍の書誌情報・所在情報を掲載しています。

同書は１９６３（昭和３８）～１９７６（昭和５１）年にわたり岩波書店により刊行されました。今回は平成元（１９８９）～２（１９９１）年に刊行された補訂版第１刷を元にPDF版を作成・公開しています。

公開されたPDFは、インターネット経由で、ダウンロードしてお使いいただけます。Web上には最新の成果を反映させた「新日本古典籍総合データベース」がありますが、Web環境にないところで、書物の情報を確認したい時など、ご活用いただければと考えます。

●書名：『国書総目録：補訂版』　出版者：岩波書店
●編者：国書研究室
●公開年月日：令和2（2020）年４月３日（金）
●公開点数：８巻・著者別索引１巻
●公開サイト：新日本古典籍総合データベース：
https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/kokusho.html
（新日本古典籍総合データベースのトップページからは、右上の⋮をクリックし、「国書総目録」を選択してください）

国書総目録のページ

●利用条件：クリエイティブ・コモンズ 表示 – 継承(CC BY-SA 4.0)
https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja
二次利用については、クレジット表示をすることにより、自由にお使いいただけます。
ご利用の際には、以下のようなクレジット表示をお願いします。
（例）発行：岩波書店／公開：国文学研究資料館

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

34.嵐牛俳諧資料館資料公開

■ 共同プレスリリース ■

令和2年6月17日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館　**嵐牛俳諧資料館**

掛川の俳人・柿園嵐牛（らんぎゅう）が伝えた俳諧資料 デジタル公開へ

国文研が嵐牛俳諧資料館（静岡県掛川市）と覚書締結

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では、嵐牛俳諧資料館と覚書を締結し、同館が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）をデジタル化し、WEB上での一般公開を進めてまいります。
現在、嵐牛俳諧資料館所蔵の貴重な俳諧関係の古典籍のうち45点を、国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開しておりますのでお知らせいたします。

嵐牛俳諧資料館（静岡県掛川市）は、柿園嵐牛の子孫・伊藤鋼一郎氏がその生家の蔵を改装し開いた私設の資料館です。柿園嵐牛（1798～1876）は掛川市八坂に生まれ、農業と鍛冶のかたわら芭蕉の流れを汲む鶴田卓池に俳諧を学び、多くの門人を輩出しました。栩木夷白とならび遠江の二大俳人といわれ、各地に句碑がのこされています。

嵐牛俳諧資料館では俳諧・和歌・国学に関する資料を収蔵しています。俳諧研究者の加藤定彦氏・倉島利仁氏の尽力により資料調査が進められ、その成果は『柿園嵐牛俳諧資料集』としてまとめられました。

国文研は平成27年度からの資料調査を経て、平成30年度より古典籍の撮影を開始し、『春の日』『枯尾花』『雅衣』等の貴重な俳諧資料をデジタル化しました。今後も継続してデジタル化を行い「新日本古典籍総合データベース」より順次公開予定です。

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでもご覧いただけます。ぜひご活用ください。

●公開年月日：2019年10月23日（水）・2020年1月21日（火）
●公開数：45点（作品数）・2,876コマ（画像ファイル数）
●公開サイト：新日本古典籍総合データベース：https://kotenseki.nijl.ac.jp
嵐牛俳諧資料館所蔵の公開作品リストはこちら▼
https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-rngy.html
●利用条件：クリエイティブ・コモンズ 表示 – 継承 4.0 国際 (CC BY-SA 4.0)
https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja
クレジット表示をすることにより、自由にお使いいただけます。
ご利用の際には、以下のようなクレジット表示をお願いします。
（例）撮影：国文研／所蔵：嵐牛俳諧資料館

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

嵐牛俳諧資料館
E-mail: takumise@titan.ocn.ne.jp
TEL:(0537)27-0392 / FAX :(0537)27-0440
https://rangyu.takumise.net/wp/

35.ポーラ文化研究所資料公開準備

■ 共同プレスリリース ■

令和2年7月9日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

ポーラ文化研究所
POLA RESEARCH INSTITUTE OF BEAUTY & CULTURE

国文学研究資料館とポーラ文化研究所が協力・連携し、化粧文化に関する資料をWEB公開へ

ポーラ文化研究所所蔵の古典籍・浮世絵 約300点をデジタル化
国文学研究資料館およびポーラ文化研究所のサイトで2021年春公開予定

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）とポーラ・オルビスグループで化粧に関する研究活動を行うポーラ文化研究所（所在地：東京都品川区）は、「日本語の歴史的典籍に関する国際共同研究ネットワーク構築」を推進する覚書を締結いたしました。現在、両機関が協力・連携して、ポーラ文化研究所所蔵の化粧文化に関する古典籍（江戸時代以前の本）と浮世絵の約300点について、高精細デジタル画像化とWEB公開への取り組みを進めています。対象資料は、国文研の「新日本古典籍総合データベース」、ポーラ文化研究所の「蔵書データベース」「化粧文化データベース」で、令和3（2021）年春頃に公開予定です。

ポーラ文化研究所の所蔵資料は、すでにポーラ文化研究所の「蔵書データベース」「化粧文化データベース」などで公開していますが、今回の連携により、**古典籍175冊の全ページWEB公開**が可能となります。また、国文研の日本古典籍ポータルサイト「新日本古典籍総合データベース」では、ポーラ文化研究所所蔵の古典籍・浮世絵を**高精彩デジタル画像**でご覧いただけます。化粧・髪型・装いなどに関する大規模な資料公開は、化粧文化への理解を広げるとともに、江戸時代を中心とする風俗・文化史研究、文化活動の発展、海外からの日本文化理解の促進に大いに資することが期待されます。

公開について

●公開時期：令和3（2021）年春頃公開予定
●公開サイト：国文研の「新日本古典籍総合データベース」https://kotenseki.nijl.ac.jp/
ポーラ文化研究所の「蔵書データベース」https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/library/
「化粧文化データベース」https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/data/
※ 具体的な公開日など、詳細は決まり次第、両機関のホームページでご案内します

資料について

●公開予定数：約300点（古典籍 約170冊、浮世絵 約120点）
ポーラ文化研究所所蔵の化粧・髪型・装いなどに関する、江戸時代を中心とした古典籍・浮世絵が対象です。
【資料例】詳細は別紙参照



佐山半七丸 著 / 遠水春暁閣 画図
『都風俗化粧傳』
文化10（1813）年



渓斎英泉 画
「美艶仙女香」
文政頃（1818～30年頃）

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
ポーラ文化研究所　広報担当
E-mail: infobunken@po-holdings.co.jp

36.東北大学狩野文庫公開

■ 共同プレスリリース ■

令和2年9月24日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

「古典の百科、江戸学の宝庫」東北大学狩野文庫をデジタル公開へ

東北大学附属図書館所蔵狩野文庫の古典籍を国文研でデジタル化

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と東北大学附属図書館（以下、「東北大図書館」）は、東北大図書館が所蔵する狩野文庫の古典籍のデジタル化を行い、順次WEB上で一般公開してまいります。

第一弾として、東北大図書館所蔵の狩野文庫のうち232点を、本年9月24日（木）に国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開いたしましたのでお知らせいたします。

東北大図書館は、数多くのコレクションを所蔵する日本有数の図書館です。中でも狩野文庫は、明治の思想家・教育者として有名な狩野亨吉（かのう こうきち　1865-1942）の108,000点に及ぶ旧蔵書で、文学・哲学・科学をはじめ美術、兵学などあらゆる分野に及びます。その充実した内容から「古典の百科全書」「江戸学の宝庫」として世界的に有名です。

国文研は狩野文庫のうち主に古典籍について、平成30年度よりデジタル化を開始しました。今後はマイクロフィルムからの画像作成も進め、順次公開する予定です。

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでもご覧いただけます。ぜひご活用ください。

●公開年月日：令和2(2020)年9月24日（木）
●公開数：232点（作品数）・13,073コマ（画像ファイル数）
●公開サイト：新日本古典籍総合データベース：
https://kotenseki.nijl.ac.jp
東北大学附属図書館所蔵の公開資料リストはこちら▼
https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-thklkano.html(デジタル)
https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-thkk.html（マイクロ）



（狩野亨吉）

●利用条件：
どなたでも公開サイトから閲覧が可能です。
画像の転載を希望する場合は、東北大学附属図書館に問い合わせが必要です。
ただし、本件報道に関わる画像は、別紙記載のURLよりダウンロード及び報道目的での利用が可能です。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883

東北大学附属図書館
情報サービス課貴重書係
E-mail: etsu2@grp.tohoku.ac.jp
TEL: 022-795-5939 / FAX: 022-795-5949

37.慶應大学附属研究所斯道文庫公開

■ 共同プレスリリース ■

令和２年11月25日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

慶應義塾大学

国文学研究資料館と慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 データベース構築に関する覚書締結

斯道文庫所蔵古典籍を国文研でデジタル化

概　要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と慶應義塾大学附属研究所斯道文庫（以下、「斯道文庫」）は、日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画におけるデータベース構築に関する覚書を締結しました。本年11月24日、慶應義塾大学において調印式が行われ、ロバート キャンベル館長と佐々木孝浩文庫長が覚書に署名しました。

国文研は斯道文庫が所蔵する貴重資料のデジタル化を進め、今後「新日本古典籍総合データベース（https://kotenseki.nijl.ac.jp/）」より順次公開してまいります。



斯道文庫は、日本及び東洋の古典の調査研究を行う慶應義塾大学の研究所です。1938年に麻生太賀吉氏が設立した財団法人斯道文庫を前身とし、1960年より大学の附属研究所として再出発しました。日本を含む東洋の文学・歴史・思想などの現在の人文学の領域に関する典籍を中心に、椎本文庫、安井文庫、亀井家学文庫、浜野文庫、大曾根文庫、今関文庫など江戸時代から現代に至る学者の旧蔵書、自筆本を多数所蔵しています。

また、センチュリー文化財団寄託品は文字文化に関する資料を中核とし、絵画や書蹟、工芸品などに加え、小松茂美氏の蒐集にかかる日本の書道史に関する古典籍が豊富に含まれています。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
E-mail: sidobunko@info.keio.ac.jp
TEL:03-5427-1582 / FAX: 03-5427-1719
http://www.sido.keio.ac.jp

TEL：03-5427-1541　FAX：03-5441-7640
Email：m-pr@adst.keio.ac.jp　https://www.keio.ac.jp/

38.仙台市民図書館古典籍公開

■ 共同プレスリリース ■

令和3年3月9日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

仙台市民図書館

仙台郷土史と伊達家稀覯本を伝える 貴重古典籍デジタル公開へ

仙台市民図書館所蔵古典籍を新日本古典籍総合データベースで公開

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では、仙台市民図書館より同館が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）のデジタル画像528点の提供を受け、本年３月９日（火）に国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開いたしましたのでお知らせいたします。

仙台市民図書館は1962年10月、仙台市初の市立図書館として開館しました。以来、７館へ増設、蔵書は開館当初の数千冊から210万冊へと大幅拡充し、百万都市仙台の公共図書館としての機能充実が図られてきました。

開館２年後に開設された郷土資料室では、郷土仙台に関する地域資料の収集・調査・研究・保存が進められてきました。その中核をなすのが、1971年に寄贈された岡家旧蔵の古典籍・古文書約2千点です。幕末維新期の伊達家とつながりのあった仙台藩士岡台輔・崖の手稿本、手拓本を中心とし、伊達家から散逸してしまった稀覯本の写本を含む『柏渠叢書』が特色です。岡家旧蔵書のほかにも、郷土仙台を記録した『封内名蹟志』など貴重な古典籍を多数所蔵しています。

国文研では平成３年度から調査を開始し、郷土資料室において整理が進められたことにより、その成果は『仙臺市民図書館所蔵和漢書目録』（仙台市民図書館、2000年刊行）として結実しました。そして今回、資料のデジタル化を進めていた仙台市民図書館よりデジタル画像の提供を受け、「新日本古典籍総合データベース」より第一弾として528点の画像を公開する運びとなりました。

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでもご覧いただけます。ぜひご活用ください。

●公開年月日：令和3年3月9日（火）
●公開数：　528点（作品数）・　54,403コマ（画像ファイル数）
●公開サイト：新日本古典籍総合データベース：https://kotenseki.nijl.ac.jp
　仙台市民図書館所蔵の公開作品リストはこちら▼
　https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-secl.html

●利用条件：クリエイティブ・コモンズ 表示-改変禁止4.0 国際 (CC BY-ND 4.0)
　https://creativecommons.org/licenses/by-nd/4.0/deed.ja
　クレジット表示をすることにより、自由にお使いいただけますが改変したものを頒布できません。
　ご利用の際には、以下のようなクレジット表示をお願いします。
　（例）所蔵：仙台市民図書館／画像提供：国文学研究資料館

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

仙台市民図書館
E-mail: tosyokan@smt.city.sendai.jp
TEL: 022-261-1585/ FAX：022-213-3524
https://lib-www.smt.city.sendai.jp/

39.ポーラ文化研究所資料公開

■ 共同プレスリリース ■

令和3年4月16日

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

ポーラ文化研究所
POLA RESEARCH INSTITUTE OF BEAUTY & CULTURE

ポーラ文化研究所所蔵の化粧文化に関する資料、高精細デジタル画像でオンライン閲覧が可能に 古典籍176冊・浮世絵349点を4月16日に公開

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）とポーラ・オルビスグループで化粧に関する研究活動を行うポーラ文化研究所（所在地：東京都品川区）は、ポーラ文化研究所が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）176冊と浮世絵349点の高精細デジタル化に取り組み、2021年4月16日（金）に公開しました。2019年より両機関が協力・連携して進めたこの取り組みにより※1、化粧文化に関する大規模な資料群のインターネットを通じた検索・閲覧が『いつでも、どこでも、どなたでも、そして無料で』可能になりました。

ポーラ文化研究所が所蔵する古典籍・浮世絵の高精細デジタル画像の一括公開は今回が初となります。化粧文化に関する資料の大規模な公開は、化粧文化への理解を広げるとともに、江戸時代を中心とする風俗・文化史研究、海外からの日本文化理解の促進に寄与することが期待されます。また、「昨今の新型コロナウイルス感染症による社会・経済に対する影響により、急激にテレワークへのニーズが高まった。大学等の教育機関における遠隔授業をはじめとして、信頼できる文化学術資源を必要とするものも多くある」※2という状況の中、今回の公開はウィズ・ポストコロナ時代におけるニーズにも大いに資するものと考えます。

●公開年月日：令和3年4月16日
●公開数：古典籍176冊・7,235コマ※3、浮世絵349点・459コマ
●公開サイト：国文研の「新日本古典籍総合データベース」https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-pohd.html
　ポーラ文化研究所の「蔵書データベース」https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/library/
　「化粧文化データベース」https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/data/

※1 国文研・ポーラ文化研究所「共同リリース」令和2年7月9日 https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/images/20200709_release.pdf
　ポーラ・オルビスホールディングス「ニュースリリース」令和2年7月9日 https://www.po-holdings.co.jp/news/pdf/20200709_csr.pdf
※2「３カ年総括報告書 我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて」令和２年8月19日、デジタルアーカイブジャパン推進委員会・実務者検討委員会（事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局）より
※3 画像ファイル数

公開資料について

ポーラ文化研究所所蔵の化粧・髪型・装いなどに関する、江戸時代を中心とした古典籍、江戸～明治時代の浮世絵が対象です。

当初、令和3年4月の公開予定資料数を約300点としていましたが、国文研・ポーラ文化研究所が協力してデジタル化を精力的に進め、古典籍176冊・浮世絵349点の公開となりました。



【資料例】詳細は別紙参照

渓斎英泉 画
「浮世四十八手　夜を込かして朝寝の手」
文政4～5年頃（1821～22年頃）

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
ポーラ文化研究所　広報担当
E-mail: infobunken@po-holdings.co.jp

40.東海大学付属図書館桃園文庫公開

◆◇ 共同プレスリリース ◇◆

令和３(2021)年７月８日

国文学研究資料館と東海大学付属図書館 データベース構築に関する覚書締結 ＝桃園文庫の古典籍を国文研でデジタル化＝

概　要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と東海大学付属図書館（以下、「東海大学」）は、日本語の歴史的古典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画におけるデータベース構築に関する覚書を６月17日(木)に締結しました。

国文研は、東海大学が所蔵する「桃園文庫（とうえんぶんこ）」（約2000点）のデジタル化を３年計画で進め、今後、「新日本古典籍総合データベース（**https://kotenseki.nijl.ac.jp/**）」により順次公開していきます。



『伊勢物語』（K/桃/2/1）



『源氏香の圖』（T/桃/10/130）



『源氏物語系圖』（K/桃/8/142）

「桃園文庫」とは、国文学者・池田亀鑑（明治29(1896)年～昭和31(1956)年）博士が、『源氏物語大成』を編纂する過程で購入した『源氏物語』の写本をはじめ、『伊勢物語』、『土佐日記』などの王朝文学に関する様々な資料を含んだコレクションの総称です（計約8500点）。

これらは、池田亀鑑博士没後もしばらくの間、私邸において次男の池田研二らによって、生前に利用されていたほぼそのままの状態で保存管理されていましたが、東海大学文学部長で付属図書館館長でもあった原田敏明教授が池田亀鑑博士の妻の兄であった関係などからその管理を任されるようになりました。

その後、昭和48(1973)年11月に、東海大学の建学三十周年事業の一環として同大学が一括して購入することが決まり、付属図書館において「桃園文庫」としてまとめて保管されることになりました。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

東海大学付属図書館
E-mail: lib01@tsc.u-tokai.ac.jp
TEL 0463-58-1211　Ext.2720
FAX 0463-50-2459
https://library.time.u-tokai.ac.jp/

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

東海大学

41.三康図書館資料公開

◆◇ 共同プレスリリース ◇◆

令和４(2022)年６月９日

公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館所蔵資料
の一部が高精細デジタル画像でオンライン閲覧可能に
＝柳営御襖縮図、新板絵入平治物語など７点80冊(軸) ＝

概　要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と公益財団法人三康文化研究所は、公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館（以下、「三康図書館」）が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）の一部７点80冊（軸）の高精細デジタル化に取り組み、令和４（2022）年６月９日（木）に公開しました。

国文研は、三康図書館が所蔵する種々の古典籍をデジタル化し、「新日本古典籍総合データベース（https://kotenseki.nijl.ac.jp/）」により順次公開してまいります。

公開される『新板絵入／保元物語』、『新板絵入／平治物語』については、三康図書館職員が作成した嗣刻データも含まれています。

『柳営御襖縮図』



度重なる火災によって焼失した江戸城本丸御殿内の襖（ふすま）や長押（なげし）上に描かれた障壁画の下絵を模写したもの。田安家の旧蔵本

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館
E-mail: sanko.shinya@gmail.com
TEL 03-3431-6073
FAX 03-3431-6082
https://www.sanko-bunka-kenkyujo.or.jp/

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

三康図書館 SANKO LIBRARY

42.静嘉堂文庫資料公開

◆◇ 共同プレスリリース ◇◆

令和４（2022）年７月７日

静嘉堂文庫 が新たな扉を開く！

＝静嘉堂文庫所蔵の古典籍（和書）を国文研でデジタル化・公開＝

概　要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と公益財団法人静嘉堂 静嘉堂文庫（以下、「静嘉堂文庫」）は、日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画におけるデータベース構築に関する覚書を６月に締結しました。

国文研は、静嘉堂文庫が所蔵する古典籍のうち、近世以前の国書でマイクロフィルム化されている資料を中心にデジタル化し、「新日本古典籍総合データベース（https://kotenseki.nijl.ac.jp/）」により順次公開していきます。



静嘉堂文庫外観（世田谷区岡本）

静嘉堂文庫は、岩崎彌之助（1851～1908 彌太郎の弟、三菱第二代社長）と岩崎小彌太（1879～1945 三菱第四代社長）の父子二代によって創設・拡充され、現在、国宝７件、重要文化財84件を含む、およそ20万冊の古典籍（漢籍12万冊・和書８万冊）と6,500件の東洋古美術品を収蔵しています。

閲覧には予約が必要です。

詳細はHPをご参照ください。

文庫の活動は、彌之助の息師・重野安繹の国史編纂事業の援助に端を発します。彌之助は、我が国固有の典籍・文化財を守りたいという思いから、学者・蔵書家の蔵書を次々に一括購入しました。明治27年には『徒然草』『平仲物語』など和書の善本を多数含んだ青木信寅旧蔵書、明治40年には陸心源旧蔵の宋元版などを一括で購入しています。

小彌太も父の志を継いで文庫を拡充し、膳橲蟾次を文庫長に迎え、陸氏本の書録『静嘉堂秘籍志』50巻の上梓などのほか、蔵書目録の刊行、貴重書の複製事業などを行い、第二次大戦中も閲覧公開を継続しました。『大日本国語辞典』を著した松井簡治旧蔵書や洋学・蘭学が充実した大概文庫など、蔵書は質量ともに豊富です。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

公益財団法人静嘉堂 静嘉堂文庫
閲覧対応係
E-mail: gsuuran@seikado.or.jp
https://www.seikado.or.jp/about/seikadoubunko.html

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

静嘉堂

43.池田家文庫資料公開

◆◇ 共同プレスリリース ◇◆

令和４(2022)年11月30日

岡山大学附属図書館所蔵資料「池田家文庫」
の一部を高精細デジタル画像でオンライン公開
＝とりかえばや物語、装束絵図本など62点＝

概　要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と岡山大学附属図書館は、岡山大学附属図書館が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）の一部62点の高精細デジタル化に取り組み、令和４（2022）年11月28日（月）に公開しました。

「池田家文庫」は、初代岡山藩主池田光政（新太郎）が寛永９（1632）年に鳥取から岡山城に入部して以来明治４（1871）年の廃藩置県に至るまでの約240年の備前藩藩政資料及び池田侯爵家襲蔵の図書類で、藩政資料68,083点、和書4,166部（22,117点）、漢籍653部（10,420冊）の総称です。

明治以後、岡山市内山下の池田元侯爵家の倉庫に保管されていましたが、昭和20（1945）年６月29日の岡山空襲のおり、池田邸や後楽園園内の建物の大半も焼失しました。幸運にも倉庫は免れ、戦後、池田家の文書の破損・紛失を恐れた「岡山総合大学設立期成会」の副会長であった谷口久吉氏や伊原木貞秀氏（池田家財政顧問、当時天満屋社長）の斡旋により、「岡山総合大学設立期成会」が買取、岡山大学に寄贈されたものです。その後、昭和34年に明治以降の池田家の冠婚葬祭等家政に関するものが林原一郎氏の厚志により寄贈されました。



『とりかへはや（とりかえばや）』

１２世紀頃までに成立した『とりかえばや物語』は女として育てられた男君と男として育てられた女君の兄妹が宮廷を舞台に活躍する物語
池田家文庫本は江戸時代初期の写本とされる。

国文研は、岡山大学附属図書館が所蔵する種々の古典籍をデジタル化し、「新日本古典籍総合データベース」により順次公開してまいります。（https://kotenseki.nijl.ac.jp/）

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

岡山大学附属図書館
調査相談グループ
E-mail: FBG732?@adm.okayama-u.ac.jp
TEL 086-251-7322 / FAX 086-254-6152
https://www.lib.okayama-u.ac.jp/

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

岡山大学附属図書館
OKAYAMA UNIVERSITY LIBRARIES

44.アドミュージアム東京資料公開

◆◇ 共同プレスリリース ◇◆

令和４（2022）年12月１日

日本唯一の広告ミュージアムアドミュージアム東京が
広告の歴史資料＝江戸時代の錦絵、古典籍など682点＝を
オンライン公開

概　要

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アドミュージアム東京と国文学研究資料館（以下、「国文研」）は、アドミュージアム東京が所蔵する錦絵、古典籍（江戸時代以前の本）の一部682点の高精細デジタル化に取り組み、令和４（2022）年12月１日（木）に公開しました。

アドミュージアム東京が所蔵する錦絵、古典籍の高精細デジタル画像の一括公開は今回が初となります。特に、ピーター・ドラッカーに「マーケティングの原点は日本の江戸にあり」といわしめた江戸時代の広告は、現在の広告コミュニケーションに通じる手法も多くみられます。今回公開した資料を通じて、企業や商品のアピールにとどまらない、広告コミュニケーションの社会的・文化的価値への理解を深めるとともに、江戸時代を中心とする日本文化研究への寄与を期待しています。



錦絵「駿河町越後屋」1830～1844年（天保期）（https://doi.org/10.20730/100388086）

最新のファッションを伝えた錦絵
越後屋店頭に３人の美女を配した華やかな錦絵。呉服商の越後屋は、日本橋駿河町（現・日本橋室町）に大店を構え、江戸名所の一つでもあった。店頭の立派な建て看板や「丸に井げた三文字」と呼ばれるマークが大きく染め抜かれた暖簾が、当時の繁盛ぶりを示している。着物にはその年の新作が描かれているといわれ、今のファッション誌やポスターのような役割も果たしていた。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室　管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
アドミュージアム東京
E-mail: yuri.yoshino☆admt.jp
（☆は@に置き換えてください）
TEL: 03-6218-2500 / FAX: 03-6218-2504
https://www.admt.jp/

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

アド　ミュージアム　東京

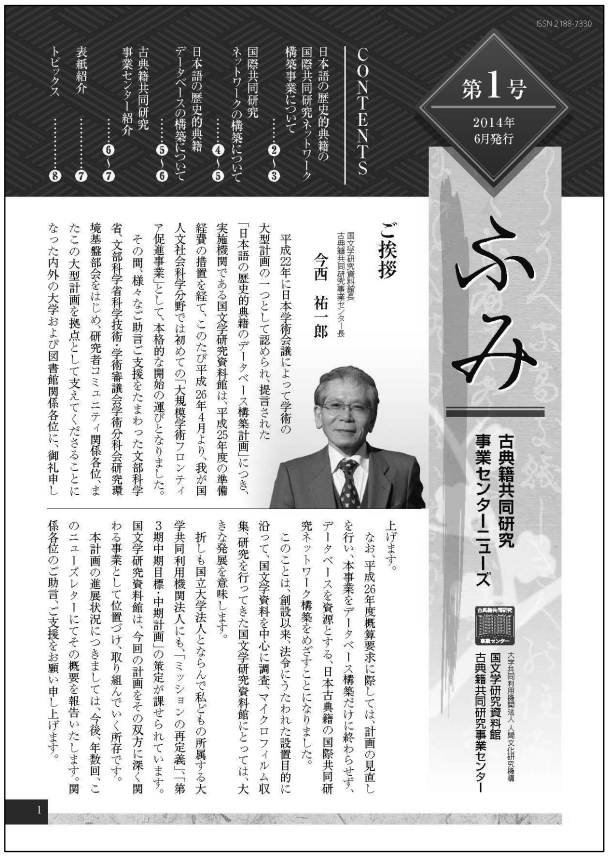
資料 13

ニューズレター「ふみ」発行状況

No	発行年月	巻頭言
1	平成 26 年 6 月	ご挨拶 国文学研究資料館長、古典籍共同研究事業センター長 今西 祐一郎
2	平成 26 年 11 月	大型プロジェクト初年度の取り組み 国文学研究資料館副館長　寺島 恒世
3	平成 27 年 2 月	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークへの期待 東京大学名誉教授　石上 英一
4	平成 27 年 6 月	日本語の歴史的典籍の画像データ化とオープンサイエンス 九州大学名誉教授　有川 節夫
5	平成 28 年 1 月	分野を超えた研究連携により無限の可能性が生まれる 日本学術会議言語・文学委員会幹事、国立国語研究所副所長 木部 暢子
6	平成 28 年 6 月	「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の"More is different" 核融合科学研究所教授（本計画アドバイザー）　伊藤 公孝
7	平成 29 年 1 月	学術のオープン化のめざすもの、もたらすもの 国立情報学研究所副所長（日本語歴史的典籍ネットワーク委員会委員）　安達　淳
8	平成 29 年 6 月	事業四年目を迎え 国文学研究資料館館長　ロバート キャンベル
9	平成 30 年 1 月	利用者の立場から 京都大学名誉教授（日本語の歴史的典籍ネットワーク委員会委員長）　高田　時雄
10	平成 30 年 6 月	オープンサイエンスの出自とその方向性 国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系教授 武田　英明

No	発行年月	巻頭言
11	平成 31 年 1 月	折り返し点を迎えて 国文学研究資料館　古典籍共同研究事業センター長 谷川　惠一
12	令和元年 6 月	近世中津の医師と知の枠組み 九州大学名誉教授　ミヒェル・ヴォルフガング
13	令和 2 年 1 月	ＡＩがくずし字を読む時代がやってきた 古典籍共同研究事業センター
14	令和 2 年 6 月	国際コンソーシアムの立ち上げ計画について 国文学研究資料館館長　ロバート キャンベル
15	令和 3 年 1 月	「記憶の解凍」―カラー化写真をもとにした〝フロー〟 の生成と記憶の継承 東京大学大学院情報学環教授　渡邉 英徳
16	令和 3 年 6 月	問いを生むデータへ 国文学研究資料館館長　渡部 泰明
17	令和 4 年 1 月	日本文学とデジタル・ヒューマニティーズ 一般財団法人人文情報学研究所主席研究員 永崎 研宣
18	令和 4 年 6 月	「歴史的典籍ＮＷ事業」から「データ駆動による課題 解決型人文学の創成」へ 人間文化研究機構機構長　木部 暢子
19	令和 5 年 2 月	データ駆動による課題解決型人文学へのアプローチ 国立情報学研究所所長補佐、 古典籍データ駆動研究センター長　大山 敬三

第１号　平成26(2014)年6月刊行


ISSN 2188-7330

第1号
2014年
6月発行

ふみ

古典籍共同研究
事業センターニュース

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター

CONTENTS

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業について …… 2 3
国際共同研究ネットワークの構築について …… 4 5
日本語の歴史的典籍データベースの構築について …… 5 6
古典籍共同研究事業センター紹介 …… 6 7
表紙紹介 …… 7
トピックス …… 8

ご挨拶

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター長
今西 祐一郎

平成26年度概算要求に際しては、計画の見直しを行い、本事業をデータベース構築だけに終わらせず、データベースを資源とする、日本古典籍の国際共同研究ネットワーク構築をめざすことになりました。

このことには、創設以来、法令にうたわれた設置目的に沿って、国文学資料を中心に調査、マイクロフィルム収集、研究を行ってきた国文学研究資料館にとっては、大きな発展を意味します。

折しも国立大学法人とならんで私どもの所属する大学共同利用機関法人にも、「ミッションの再定義」「第3期中期目標・中期計画」の策定が課せられています。国文学研究資料館は、今回の計画をその双方に深く関わる事業として位置づけ、取り組んでいく所存です。

本計画の進展状況につきましては、今後、年数回、このニュースレターにてその概要を報告いたします。関係各位のご助言、ご支援をお願い申し上げます。

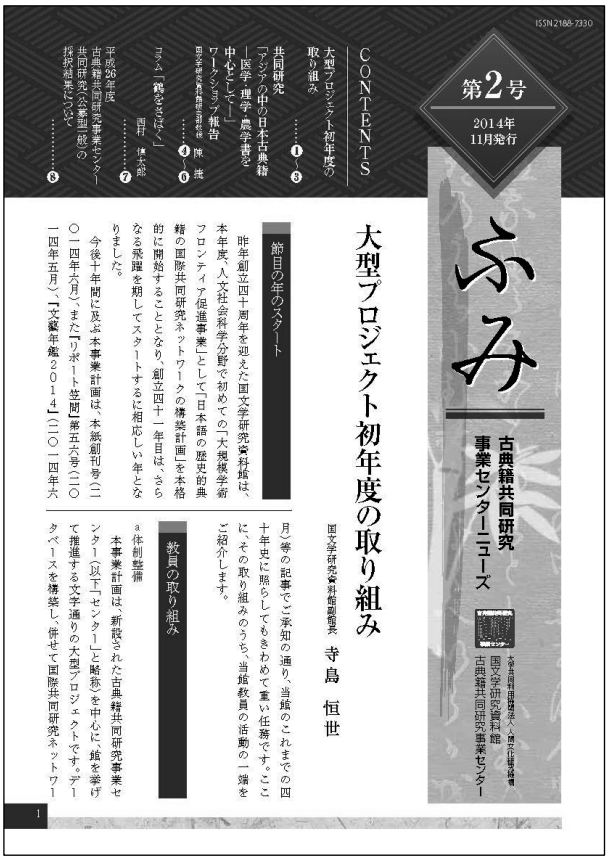
なお、平成26年度概算要求に際しては、計画の見直しを行い、本事業をデータベース構築だけに終わらせず、データベースを資源とする、日本古典籍の国際共同研究ネットワーク構築をめざすことになりました。

このことには、創設以来、法令にうたわれた設置目的に沿って、国文学資料を中心に調査、マイクロフィルム収集、研究を行ってきた国文学研究資料館にとっては、大きな発展を意味します。

折しも国立大学法人とならんで私どもの所属する大学共同利用機関法人にも、「ミッションの再定義」「第3期中期目標・中期計画」の策定が課せられています。国文学研究資料館は、今回の計画をその双方に深く関わる事業として位置づけ、取り組んでいく所存です。

本計画の進展状況につきましては、今後、年数回、このニュースレターにてその概要を報告いたします。関係各位のご助言、ご支援をお願い申し上げます。

第２号　平成26(2014)年11月刊行


ISSN 2188-7330

第2号
2014年
11月発行

ふみ

古典籍共同研究
事業センターニュース

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター

CONTENTS

大型プロジェクト初年度の取り組み …… 1 3
共同研究「アジアの中の日本古典籍―医学・理学・農学書を中心として―」ワークショップ報告 …… 4 6
平成26年度古典籍共同研究事業センター共同研究（公募型）班の採択結果について …… 6
コラム「鶴をさばく」 …… 7

西村 慎太郎

大型プロジェクト初年度の取り組み

国文学研究資料館副館長
寺島 恒世

節目の年のスタート

昨年創立四十周年を迎えた国文学研究資料館は、本年度、人文社会科学分野で初めての「大規模学術フロンティア促進事業」として「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築計画」を本格的に開始することとなり、創立四十一年目は、さらなる飛躍を期してスタートするに相応しい年となりました。

今後十年間に及ぶ本事業計画は、本紙創刊号（二〇一四年六月）また『リポート笠間』第五六号（二〇一四年五月）、『文藏年鑑2014』（二〇一四年六月）等の記事でご承知の通り、当館のこれまでの四十年史に照らしてもきわめて重い任務です。ここに、その取り組みのうち、当館教員の活動の一端をご紹介します。

教員の取り組み

a 体制整備

本事業計画は、新設された古典籍共同研究事業センター（以下、センター）と略称）を中心に、館を挙げて推進する文字通りの大型プロジェクトです。データベースを構築し、併せて国際共同研究ネットワー

第３号　平成27(2015)年2月刊行


ISSN 2188-7330

第3号
2015年
2月発行

ふみ

古典籍共同研究
事業センターニュース

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター

CONTENTS

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの期待 …… 1 3
「新発見の絵を中心とした近世禅僧肖像画」 …… 4
分野別画像収集「医学」 …… 5
コラム「引越しの花」 …… 7
トピックス …… 8

東京大学名誉教授
石上 英一

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークへの期待

日本古代史を専攻し奈良時代史を学ぶ一日本史研究者として、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク」への期待と要望を記したい。

私は、二〇一一年三月、コレージュ・ド・フランス、日本学高等研究院（Institute des Hautes Études Japonaises, Collège de France）主催のシンポジウム「Images pieuses du Japon」で、「五三大師信仰とお札」の報告の機会を得たシンポジウムは、故ベルナール・フランク教授のお札コレクションの展覧会（二〇一一年三月～美術館）と編集の「Ofuda: images gravées des temples japonais – la collection Bernard Frank」（EHESS、二〇一一年三月）刊行、お札データベース（Base de ofuda de Bernard Frank　http://ofudaconsacrees/）公開を記念して開催された報告集、「Ofuda et Amulettes et talismans du Japon」Bibliothèque de l'Institute des Hautes Études Japonaises 10（二〇一四年七月）への参加が、

第４号　平成27(2015)年6月刊行


ISSN 2188-7330

第4号
2015年
6月発行

ふみ

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」ニューズレター

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター

CONTENTS

日本語の歴史的典籍の画像データ化とオープンサイエンス …… 1 3
分野別画像収集「医学」 …… 5
国際共同研究「江戸時代初期出版と学問の総合的研究」 …… 6 7
国際共同研究「境界をめぐる文化」 …… 8
コラム「ボナー・モッチ」が語る歴史 …… 10
トピックス …… 12

日本語の歴史的典籍の画像データ化とオープンサイエンス

九州大学　名誉教授
有川 節夫

国文学研究資料館において、国内外の研究機関と連携した日本語の歴史的典籍に関する国際共同研究ネットワーク構築のための大型プロジェクトが始まったことは、関係の研究者だけでなく、一般の市民にとっても大変意義深いことである。周知のとおりこのプロジェクトは、日本学術会議の「マスタープラン」を踏まえて、文部科学省が科学技術・学術審議会・学術分科会・研究環境基盤部会に設けた「学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会」で「検討し」学術研究の大型プロジェクト推進に関する基本構想「ロードマップ」を定め、それに沿って可能な範囲で予算化し、展開される大型プロジェクトのひとつである。大型ということもあり、これまでに採択されたプロジェクトのほとんどは理工系のものであるが、国文学研究資料館を中心に展開される本プロジェクトは、人文社会科学では初めてのもので、国内だけでなく、国際的な広がりをもち、同時に自然科学をも含めた学際的な融合研究を誘発させることをも目的にした新しいプロジェクトとして注目されている。

データベースの共同構築と共同利用

本プロジェクトの目標は、「共同研究のネットワーク」の構築であり、その基礎基盤は、日本語の歴史的典籍約三十万点の画像データ化にあるといかって、そこに多くの精力と経費を必要とする。その作業を国文学研究資料館が中核になり、内外の拠点大学が連携協力して共同して行うことになる。この画像データベースができれば、既存の日録情報データベースと統合して、コンテンツとしての古典籍にも直接アクセスできるようになり、プロジェクトの計画に際して構想されたような様々な研究の深化や新たな融合研究に貢献することが期待される。それに加えて、歴史的典籍を利用する文学研究に、最近主に自然

第５号　平成28(2016)年1月刊行



分野を超えた研究連携により無限の可能性が生まれる

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」ニュースレター

日本学術会議　会員（連携会員）
国立国語研究所　副所長
木部 暢子

「いつも何度でも」

「千と千尋の神隠し」の主題歌ではないが、「いつも何度でも」そして「だれも何処でも」日本語の古典籍が現物に近いかたちで見られる時代が到来しようとしている。日本語の歴史的典籍、約三〇万点を画像データ化し、それらと既存の書誌情報データベースを統合させてネットで公開する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」は、それを実現する事業である。これに先行し、近年は古典作品を画像データで公開する図書館や文庫が増えている。参加大学約二〇、画像データベース約二〇万点という本事業は、「いつも何度でも」「だれも何処でも」に「何でも」を加える事業であると期待される。

影印本から「デジタル画像へ

私事で恐縮だが、私は卒業論文で平安時代末成立の古辞書「類聚名義抄」の和訓に施された声点（文字の周囲に付されたアクセントを表す点）をもとに平安時代の複合語のアクセント規則を探るという研究に取り組んだ。そのとき使ったのは、当時、八木書店から刊行されていた天理図書館善本叢書の「類聚名義抄」（全三巻）である。もとは京都東寺の観智院に所蔵されていたため「観智院本　類聚名義抄」と呼ばれている。その後、天理大学図書館の所蔵となり、善本叢書として影印で刊行されたのである。白黒印刷で

第６号　平成28(2016)年6月刊行



「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の“More is different”

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」ニュースレター

前総合科学研究所　教授
（本計画　アドバイザー）
伊藤 公孝

「時代は変わる」から「時代を変える」へ

いつの代でも「時代は変わる」と言われるものですが、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」が実現したことは、ひとり国文学研究の世界のみならず日本にとって時代を変える瀬目になるものと期待します。

文部科学省にて、学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想（ロードマップの策定）が行われ、文理全体の学問を俯瞰して、日本の大型学術研究が進められるようになっています。本計画は、平成二十六年度には大規模学術フロンティア促進事業に採択され本格稼働する事になりました。

学問は、育った後に姿を現すものであって、始めるときに提示出来るものではありません。学術研究は、多くの国家的な事業と比較すれば“postponable”なのかもしれませんが、“尊い”ものです。計画の尊さ、価値や意義、を説得するにはどうすればいいか智慧を絞るところです。そこで、これまでいくつかの理工系の大型プロジェクト研究に携わってきた経験が活かせないかということで、縁あって本プロジェクトのアドバイザーとして支援をお引き受けしています。

“More is different”

私が専門に取り組んでいる物理学の考え方には、

第７号　平成29(2017)年1月刊行



学術のオープン化のめざすもの、もたらすもの

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」ニュースレター

国文学研究資料館　副所長
「日本語の歴史的典籍フォローアップワーキング委員会委員」
安達 淳

インターネットの勃興期に盛んに引用されたのが、後掲の図に示したT．S．エリオットの詩の一節です。インターネットのもたらす情報の洪水を懸念する視点で良く引用されたものです。エリオットは一九三四年にこの一節を書きましたが、その五十年後に私の恩師の猪瀬博先生が最後の節を追加して情報社会の課題を論じました[1]。

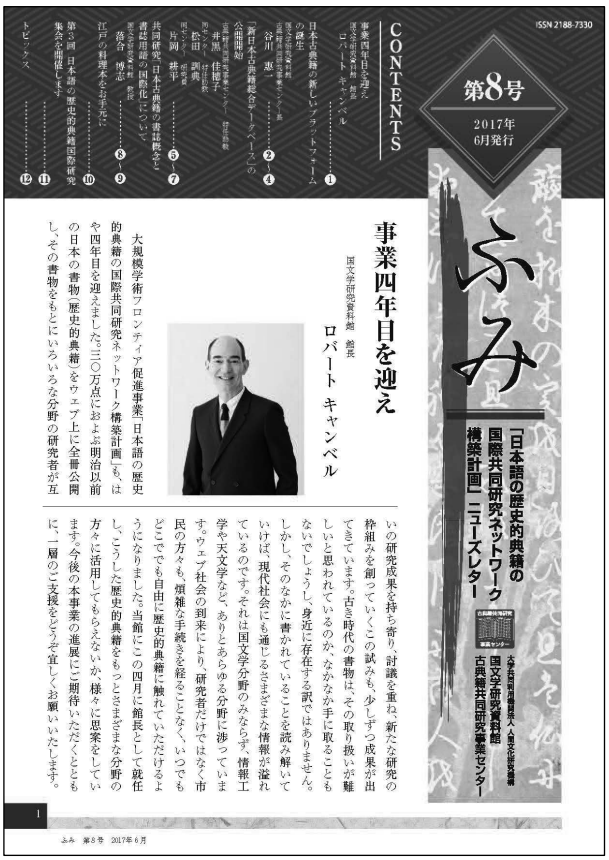
この詩全体の内容は宗教色の強いものですが、私がずっと気になっているのはこのフレーズのなかに明示されている人間の知の営みの階層性です。“Life living, wisdom（知恵）, knowledge（知識）, information（情報）,そして data（データ）と下がっていく中で、インターネットのもたらす負の側面を連想させます。

これはまた知的なものの価値、継承そして公共性などの特性の違いも象徴しています。

私は日本の学術情報基盤に関わる仕事をする中で、学術活動にインターネットとITの及ぼす様々な影響、特に電子ジャーナルの隆盛、学術のグローバル化のもたらす問題、そして現在のオープンデータ、オープンサイエンスの課題などに翻弄されて今に至ります。その中で、学術に関わる「オープン」化のもたらすものがよく分からないまま、もがき続けてきたという気持ちがいたします。

Living や Life について論じるのは哲学者や文学者の領域と思いますので、それより下のことについて考えてみたいと思います。

第８号　平成29(2017)年6月刊行



事業四年目を迎え

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」ニュースレター

国文学研究資料館　館長
ロバート キャンベル

大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」も、はや四年目を迎えました。三〇万点におよぶ明治以前の日本の書物、歴史的典籍をウェブ上に全面公開し、その書物をもとにいろいろな分野の研究者が互いの研究成果を持ち寄り、討議を重ね、新たな研究の枠組みを創っていくこの試みも、少しずつ成果が出てきています。古き時代の書物は、その取り扱いが難しいと思われているのか、なかなか手に取ることもないでしょう、身近に存在する訳ではありません。しかし、そのなかに書かれていることを読み解いていけば、現代社会にも通じるさまざまな情報が溢れているのです。それは国文学分野のみならず、情報工学や天文学など、ありとあらゆる分野に渉っています。ウェブ社会の到来により、研究者だけではなく市民の方々も、煩雑な手続きを経ることなく、いつでもどこでも自由に歴史的典籍に触れていただけるようになりました。当館にこの四月に館長として就任し、こうした歴史的典籍をもっとさまざまな分野の方々に活用してもらえないか、様々に思案をしています。今後の本事業の進展にご期待いただくとともに、一層のご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

第９号　平成30(2018)年1月刊行



第１０号　平成30(2018)年6月刊行



第１１号　平成31(2019)年1月刊行



第１２号　令和元(2019)年6月刊行



第１３号　令和2(2020)年1月刊行



第１４号　令和2(2020)年6月刊行



第１５号　令和3(2021)年1月刊行



第１６号　令和3(2021)年6月刊行



第１７号　令和4(2022)年1月刊行



第１８号　令和4(2022)年6月刊行



第１９号　令和5(2023)年2月刊行

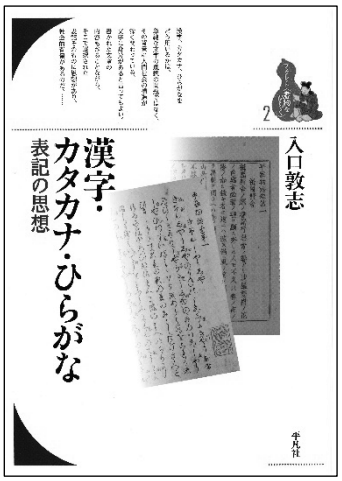


資料 14

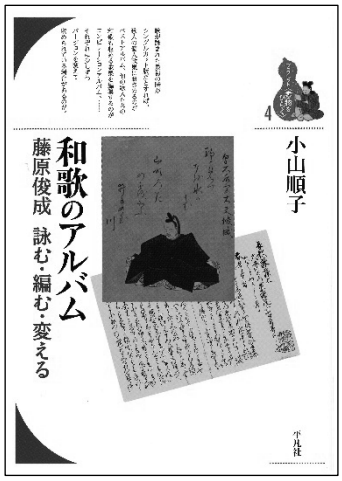
ブックレット＜書物をひらく＞刊行状況

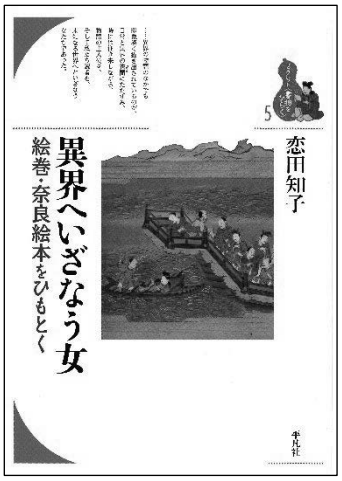
No	執筆者	タイトル
1	今西　祐一郎	死を想え　『九相詩』と『一休骸骨』
2	入口　敦志	漢字・カタカナ・ひらがな
3	野網　摩利子	漱石の読みかた　『明暗』と漢籍
4	小山　順子	和歌のアルバム
5	恋田　知子	異界へいざなう女
6	高津　孝	江戸の博物学
7	上野　健爾	和算への誘い
8	平野　恵	園芸の達人　本草学者・岩崎灌園
9	杉山　和也	南方熊楠と説話学
10	藤巻　和宏	聖なる珠の物語
11	宮間　純一	天皇陵と近代
12	鈴木　正崇	熊野と神楽
13	吉田　唯	神代文字の思想
14	ピーター・コーニツキー	海を渡った日本書籍
15	山本　登朗	伊勢物語　流転と変転
16	寺島　恒世	百人一首に絵はあったか
17	山本　啓介	歌枕の聖地
18	片岡　龍峰／岩橋　清美	オーロラの日本史
19	赤澤　真理	御簾の下からこぼれ出る装束
20	岩坪　健	源氏物語といけばな
21	渡辺　浩一	江戸水没
22	日沖　敦子	時空を翔ける中将姫
23	ダヴァン ディディエ	『無門関』の出世双六
24	清武　雄二	アワビと古代国家
25	田中　大士	春日懐紙の書誌学
26	岡田　一祐	「いろは」の十九世紀
27	齋藤　真麻理	妖怪たちの秘密基地
28	木越　俊介	知と奇でめぐる近世地誌
29	渡部　泰明	雲は美しいか


1
今西祐一郎
死を想え
『九相詩』と『一休骸骨』
平凡社


2
入口敦志
漢字・カタカナ・ひらがな
表記の思想
平凡社


3
野網摩利子
漱石の読みかた
『明暗』と漢籍
平凡社


4
小山順子
和歌のアルバム
藤原俊成 詠む・編む・変える
平凡社


5
恋田知子
異界へいざなう女
絵巻・奈良絵本をひもとく
平凡社

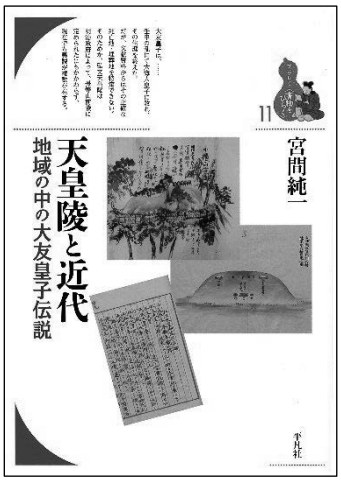

6
高津孝
江戸の博物学
島津重豪と南西諸島の本草学
平凡社


7
上野健爾
和算への誘い
数学を楽しんだ江戸時代
平凡社


8
平野恵
園芸の達人
本草学者・岩崎灌園
平凡社

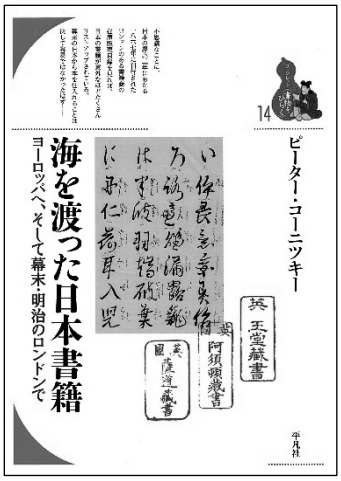

9
杉山和也
南方熊楠と説話学
平凡社

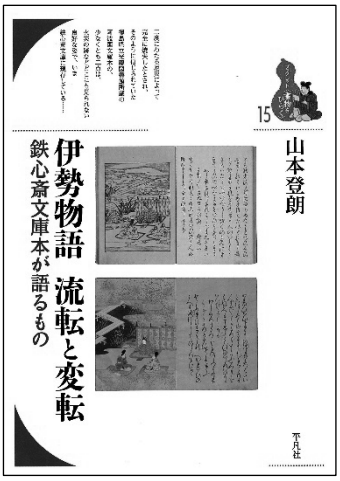

10
藤巻和宏
聖なる珠の物語
空海・聖地・如意宝珠
平凡社

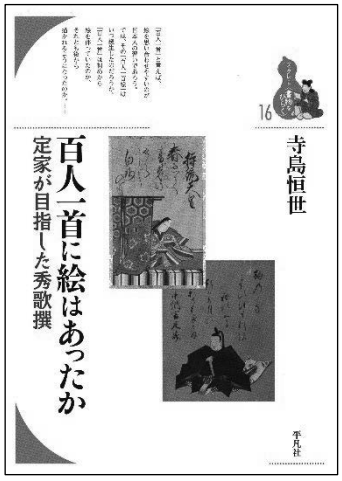

11
宮間純一
天皇陵と近代
地域の中の大友皇子伝説
平凡社


12
鈴木正崇
熊野と神楽
聖地の根源的力を求めて
平凡社

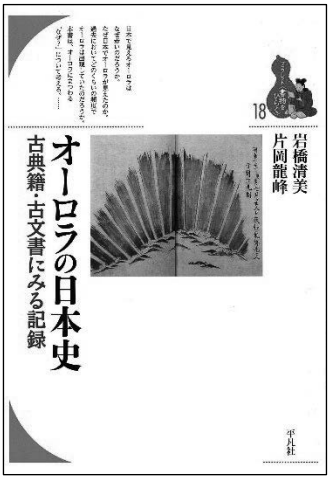

13
吉田唯
神代文字の思想
ホツマ文献を読み解く
平凡社


14
ピーター・コーニツキー
海を渡った日本書籍
ヨーロッパへ、そして幕末・明治のロンドンで
平凡社


15
山本登朗
伊勢物語 流転と変転
鉄心斎文庫本が語るもの
平凡社

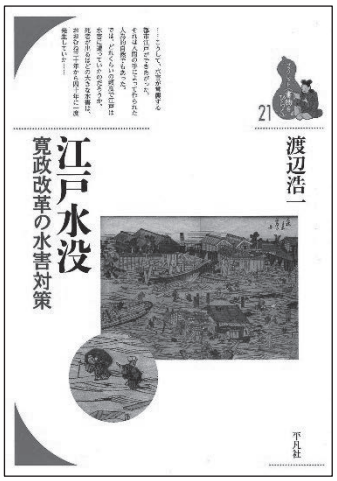

16
寺島恒世
百人一首に絵はあったか
定家が目指した秀歌撰
平凡社


17
山本啓介
歌枕の聖地
和歌の浦と玉津島
平凡社

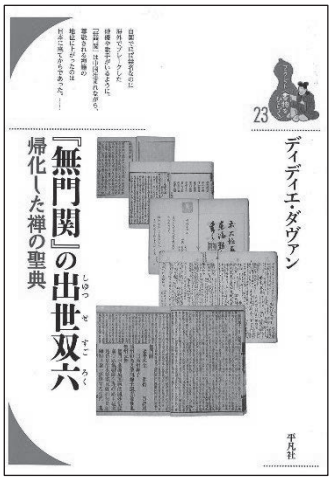

18
岩橋清美
片岡龍峰
オーロラの日本史
古典籍・古文書にみる記録
平凡社


19
赤澤真理
御簾の下から
こぼれ出る装束
王朝物語絵と女性の空間
平凡社

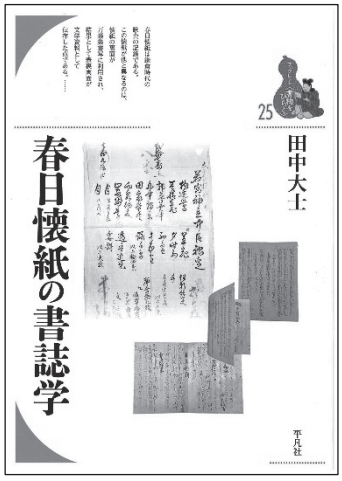

20
岩坪 健
源氏物語といけばな
源氏流いけばなの軌跡
平凡社

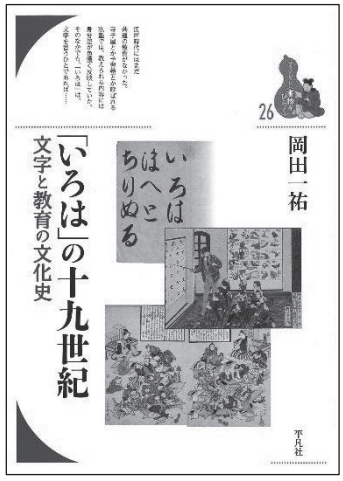

21
渡辺浩一
江戸水没
寛政改革の水害対策
平凡社


22
日沖敦子
時空を翔ける中将姫
説話の近世的変容
平凡社


23
ディディエ・ダヴァン
『無門関』の出世双六
帰化した禅の聖典
平凡社


24
清武雄二
アワビと古代国家
『延喜式』にみる食材の生産と管理
平凡社


25
田中大士
春日懐紙の書誌学
平凡社


26
岡田一祐
「いろは」の十九世紀
文字と教育の文化史
いろはにほへとちりぬる
平凡社


27
齋藤真麻理
妖怪たちの秘密基地
つくもがみの時空
平凡社


28
木越俊介
知と奇でめぐる近世地誌
名所図会と諸国奇談
平凡社


29
渡部泰明
雲は美しいか
和歌と追想の力学
平凡社

資料 15

ブース出展状況

平成 27（2015）年度

No	イベント名	開催場所	日程
1	文部科学省情報ひろば企画展示「ぼくらのヒーローは古典から生まれた！！」	文部科学省 情報ひろば企画展示室	7 月 31 日 ～11 月 30 日
2	「歴史的典籍オープンデータワークショップ～古典をつかって何ができるか！じんもんそん 2015～」	メルパルク京都	12 月 18 日

平成 28（2016）年度

No	イベント名	開催場所	日程
3	アジア太平洋ディジタルライブラリ国際会議（ICADL)におけるブース展示	筑波大学	12 月 5 日 ～12 月 9 日

平成 29（2017）年度

No	イベント名	開催場所	日程
4	『超みんなで翻刻してみた』in ニコニコ超会議 2017	幕張メッセ	4 月 29 日 ～4 月 30 日
5	文部科学省エントランス企画展示「古代の百科全書『延喜式』に学ぶ、いにしえの暮らし」	文部科学省 エントランスホール	4 月 27 日 ～6 月 27 日
6	第 19 回図書館総合展	パシフィコ横浜	11 月 7 日 ～11 月 9 日

平成 30（2018）年度

No	イベント名	開催場所	日程
7	『超みんなで翻刻してみた』in ニコニコ超会議 2018	幕張メッセ	4 月 28 日 ～4 月 29 日
8	国立国会図書館国際子ども図書館・人間文化研究機構国文学研究資料館共催展示会	国立国会図書館 国際子ども図書館	7 月 24 日 ～8 月 9 日
9	第 20 回図書館総合展	パシフィコ横浜	10 月 30 日 ～11 月 1 日
10	2018 年韓国日語日文学会冬季大会＆絵入本ワークショップXIにおけるブース展示	明知大学校（韓国）	12 月 15 日 ～12 月 16 日

令和元（2019）年度

No	イベント名	開催場所	日程
11	日本近世文学会春季大会におけるブース展示	鶴見大学記念館	6 月 8 日 ～6 月 9 日
12	The 30th EAJRS Conference（第 30 回日本資料専門家欧州協会年次大会）におけるブース展示	Sofia, Bulgaria	9 月 18 日 ～9 月 21 日
13	中世文学会秋季大会におけるブース展示	東北大学	10 月 26 日
14	シンポジウム「日本文化と AI シンポジウム 2019」におけるブース展示	一橋講堂	11 月 11 日
15	第 21 回図書館総合展	パシフィコ横浜	11 月 12 日 ～11 月 14 日
16	シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」におけるブース展示	都市センターホテル（東京都千代田区）	1 月 17 日

令和 2（2020）年度

No	イベント名	開催場所	日程
17	第 5 回関西教育 ICT 展	インテックス大阪	10 月 29 日 ～10 月 30 日
18	第 22 回図書館総合展	オンライン開催	11 月 1 日 ～11 月 30 日

令和 3（2021）年度

No	イベント名	開催場所	日程
19	第 6 回関西教育 ICT 展	インテックス大阪	8 月 5 日 ～8 月 6 日
20	第 23 回図書館総合展	オンライン開催	11 月 1 日 ～11 月 30 日

令和 4（2022）年度

No	イベント名	開催場所	日程
21	第 13 回教育総合展 EDIX 東京	東京ビックサイト	5 月 11 日 ～5 月 13 日
22	第 24 回図書館総合展	オンライン開催	11 月 1 日 ～11 月 30 日

資料 16

日本語の歴史的典籍国際研究集会開催状況

第１回　日　時：平成２７（2015）年７月３１日（金）１３：００～１９：００
８月　１日（土）１０：３０～１７：１０
場　所：国文学研究資料館　大会議室
テーマ：「可能性としての日本古典籍」

第２回　日　時：平成２８（2016）年７月２９日（金）１３：００～１９：００
７月３０日（土）１０：００～１７：００
場　所：国文学研究資料館　大会議室
テーマ：「日本古典籍への挑戦―知の創造に向けて―」

第３回　日　時：平成２９（2017）年７月２８日（金）１３：００～１９：００
７月２９日（土）１０：３０～１７：００
場　所：国文学研究資料館　大会議室

第４回　日　時：平成３０（2018）年７月２７日（金）１３：３０～１９：００
７月２８日（土）１０：００～１６：５５
場　所：国文学研究資料館　大会議室及び YouTube によるライブ配信

第５回　日　時：令和元（2019）年１１月１５日（金）１１：００～１７：１０
場　所：国文学研究資料館　大会議室及び YouTube によるライブ配信

第６回　日　時：令和２（2020）年１１月７日（土）１３：００～１８：００
場　所：YouTube によるライブ配信
テーマ：「デジタル人文学の可能性と未来」

第７回　日　時：令和３（2021）年１１月１１日（木）１８：００～２１：３０
場　所：YouTube によるライブ配信
テーマ：「歴史的典籍と教育　デジタル画像を教育に活用する」

第８回　日　時：令和４（2021）年１１月１１日（金）９：００～１１：００
方　法：YouTube プレミア公開及び動画配信（公開期間 11 月 11 日～25 日）
テーマ：「データを保管する 活用する」

第１回　　平成２７（2015）年７月３１日～８月１日（土）

大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」
第1回　日本語の歴史的典籍国際研究集会
Project to Build an International Collaborative Research Network for Pre-modern Japanese Texts,
The 1st International Conference on Pre-modern Japanese Texts

可能性としての日本古典籍

The Possibilities for Pre-modern Japanese Texts

入場無料
聴講自由

日　時：平成27（2015）年7月31日㊎～8月1日㊏
場　所：国文学研究資料館 大会議室
（東京都立川市緑町10-3）
主　催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature, National Institutes for the Humanities

7月31日（金）

総合司会　寺島恒世/TERASHIMA Tsuneyo（国文学研究資料館）

13:30　開会の挨拶　今西祐一郎/IMANISHI Yuichiro（国文学研究資料館長）

13:35　機構長挨拶　立本成文/TACHIMOTO Narifumi（人間文化研究機構長）

13:40　来賓挨拶　文部科学省（予定）
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

13:45　趣旨説明　谷川惠一/TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館）

14:00～15:00 基調講演
「古典籍共同研究とオープンサイエンス」
"Collaborative Research on Pre-modern Japanese Texts and Open Science"
有川節夫/ARIKAWA Setsuo（前九州大学総長）

15:00～15:20 休憩（20分間）

15:20～16:50 パネル1
「古典籍研究の近未来」
"The Immediate Future of the Study of Pre-modern Japanese Texts"
座　長：山本和明/YAMAMOTO Kazuaki（国文学研究資料館）
報告1：寺沢憲吾/TERASAWA Kengo（公立はこだて未来大学）
報告2：橋本雄太/HASHIMOTO Yuta（京都大学）
報告3：北本朝展/KITAMOTO Asanobu（国立情報学研究所）
報告4：永崎研宣/NAGASAKI Kiyonori（一般財団法人人文情報学研究所）
討議司会：後藤真/GOTO Makoto（人間文化研究機構）

17:30～19:00 レセプション



大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
問い合わせ先
古典籍共同研究事業センター事務室 古典籍共同研究係
〈TEL〉050-5533-2988　〈E-Mail〉cijinfo@nijl.ac.jp
〈URL〉http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

8月1日（土）

総合司会　小林健二/KOBAYASHI Kenji（国文学研究資料館）

10:30～12:00 パネル2
「総合書物学への挑戦」
" New Approaches to Japanese Philology"
座　長：谷川惠一/TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館）
報告1：陳捷/CHEN Jie（国文学研究資料館）
報告2：落合博志/OCHIAI Hiroshi（国文学研究資料館）
報告3：入口敦志/IRIGUCHI Atsushi（国文学研究資料館）
ディスカッサント：ルーカ・ミラージ/Luca MILASI（ローマ大学）
飯倉洋一/IIKURA Youichi（大阪大学）
小林一彦/KOBAYASHI Kazuhiko（京都産業大学）

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」で実施している共同研究について、平成２７年７月３１日～８月１日の会期中（２日間）に、会場前のロビーにてポスターで紹介しておりますので、是非ご覧下さい。

12:00～13:00 休憩（60分間・昼食）

13:00～13:50 講演
「国際共同研究の意義—古活字版の終焉に向けて」
"An international perspective on the decline of typography in 17th-century Japan"
ピーター・コーニツキー/Peter KORNICKI（ケンブリッジ大学）



13:50～14:00 休憩（10分間）

14:00～15:30 パネル3
「紀州地域と寺院資料・聖教—延慶本『平家物語』の周縁—」
"Kishū area and Religious and Secular Documents in Temples related to the Tale of Heike (Engyō-bon)"
座　長：大橋直義/OHASHI Naoyoshi（和歌山大学）
報告1：宇都宮啓吾/UTSUNOMIYA Keigo（大阪大谷大学）
報告2：中山一麿/NAKAYAMA Kazumaro（大阪大学）
報告3：牧野和夫/MAKINO Kazuo（実践女子大学）
ディスカッサント：佐伯真一/SAEKI Shin-ichi（青山学院大学）
藤巻和宏/FUJIMAKI Kazuhiro（近畿大学）
舩田淳一/FUNATA Jun-ichi（金城学院大学）
牧野淳司/MAKINO Atsushi（明治大学）



15:30～15:40 休憩（10分間）

15:40～17:10 パネル4
「キリシタン文学の継承：宣教師の日本語文学」
"Literary Legacies of Kirishitan Culture: Missionary Writings in the Vernacular"
座　長：郭南燕/GUO Nanyan（国際日本文化研究センター）
報告1：李梁/RI Ryo（弘前大学）
報告2：陳力衛/CHEN Liwei（成城大学）
報告3：李容相/LEE Yong Sang（又松大学校）
報告4：ケビン・ドーク/Kevin DOAK（ジョージタウン大学）
総合コメンテータ：川村信三/KAWAMURA Shinzo（上智大学）
ディスカッサント：北原かな子/KITAHARA Kanako（青森中央学院大学）
申銀珠/SHIN Eunju（新潟国際情報大学）
谷口幸代/TANIGUCHI Sachiyo（お茶の水女子大学）

17:10　閉会の挨拶　谷川惠一/TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館副館長）

【交通機関】
○多摩モノレール利用の場合
JR立川駅下車、多摩モノレール
立川北駅に乗り換え、高松駅下車、
徒歩10分
○立川バス利用の場合
JR立川駅北口2番のりば乗車の場合
「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分
または「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

JR立川駅北口1番のりば乗車の場合
「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」
第２回　日本語の歴史的典籍国際研究集会
Project to Build an International Collaborative Research Network for Pre-modern Japanese Texts,
The 2nd International Conference on Pre-modern Japanese Texts

日本古典籍への挑戦
―知の創造に向けて―

Tackling Pre-modern Japanese Texts: New Horizons of Understanding

日時：平成28(2016)年7月29日(金)～7月30日(土)
場所：国文学研究資料館 大会議室(東京都立川市緑町10-3)
主催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature, National Institutes for the Humanities

入場無料　聴講自由

7月29日(金)

総合司会　小林健二/KOBAYASHI Kenji（国文学研究資料館）

13:00　開会の挨拶　今西祐一郎/IMANISHI Yuichiro（国文学研究資料館長）
13:05　機構挨拶　平川南/HIRAKAWA Minami（人間文化研究機構理事）
13:10　趣旨説明　谷川惠一/TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館）

13:20-14:20　基調講演
「デジタル時代と古典研究 ―画像資料のあり方を手がかりに―」
"Classical Studies in a Digital Age: A Look at the State of Visual Material"
楊暁捷/YANG Xiao Jie（カルガリー大学教授）

14:20-14:30　休憩（１０分間）

14:30-14:40
「異分野融合共同研究について」
寺島恒世/ TERASHIMA Tsuneyo（国文学研究資料館）

14:40-15:10　研究報告１
「オーロラと古典籍」
" The Northern Lights in Pre-modern Japanese Texts"
片岡龍峰/KATAOKA Ryuho（国立極地研究所）

15:10-15:30　休憩（２０分間）

15:30-16:00　研究報告２
「書誌学から総合書物学へ」
" From Traditional Philology to Comprehensive Bibliographical Studies"
谷川惠一/TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館）

16:00-16:45　研究報告３
「人情本コーパスの表記情報アノテーション」
" Annotation of Graphological Information on the Ninjobon Corpus"
藤本灯/FUJIMOTO Akari（国立国語研究所）
高田智和/TAKADA Tomokazu（国立国語研究所）

17:30-19:00　レセプション

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
問い合わせ先
古典籍共同研究事業センター事務室 古典籍共同研究係
〈TEL〉050-5533-2988 〈E-Mail〉cijinfo@nijl.ac.jp
〈URL〉http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

7月30日(土)

総合司会　寺島恒世/TERASHIMA Tsuneyo（国文学研究資料館）

10:00～11:20　パネル１
「アジアのなかの日本古典籍」
" Pre-modern Japanese Texts Within a Broader Asian Context"
報告１：梁嶸/LIANG Rong（北京中医薬大学）
報告２：陳捷/ CHEN Jie（国文学研究資料館）
報告３：入口敦志/ IRIGUCHI Atsushi（国文学研究資料館）

11:20～12:10　休憩（５０分間・昼食）

12:10～13:40　パネル２
「日本漢文学研究を“つなぐ”―通史的な分析・国際発信・社会連携―」
"Globalizing Japanese Kanshibun Studies: Interdisciplinary Approaches"
概要説明：合山林太郎/GOYAMA Rintaro（慶應義塾大学）
報告１：滝川幸司/TAKIGAWA Koji（京都女子大学）
報告２：中本大/NAKAMOTO Dai（立命館大学）
報告３：福島理子/FUKUSHIMA Riko（帝塚山学院大学）
報告４：ジュリアン・フォーリ/Julien FAURY（パリ第七大学〈パリ・ディドロ大学〉）
報告５：マシュー・フレーリ/Matthew FRALEIGH（ブランダイス大学）

13:40～13:50　休憩（１０分間）

13:50～15:20　パネル３
「中世の異界 ― 内と外 ―」
"Other Worlds in Medieval Japan : Inside and Outside"
概要説明：齋藤真麻理/SAITO Maori（国文学研究資料館）
報告１：ケラー・キンブロー/R.Keller KIMBROUGH（コロラド大学ボルダー校）
報告２：若林晴子/WAKABAYASHI Haruko（プリンストン大学）
報告３：山本聡美/YAMAMOTO Satomi（共立女子大学）
ディスカッサント：ポール・スワンソン/Paul. L. SWANSON（南山大学）
金沢英之/KANAZAWA Hideyuki（北海道大学）

15:20～15:30　休憩（１０分間）

15:30～17:00　パネル４
「古典籍を活用する／情報を活用する」
" Making the Most of Pre-modern Japanese Texts and Related Information"
概要説明：山本和明/YAMAMOTO Kazuaki（国文学研究資料館）
報告１：大澤留次郎/OSAWA Tomejiro（凸版印刷株式会社）
報告２：林正治/HAYASHI Masaharu（一橋大学）
報告３：北本朝展/KITAMOTO Asanobu（国立情報学研究所）

17:00　閉会の挨拶　谷川惠一/TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館副館長）



【会場案内】

◆多摩都市モノレール利用の場合
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分
またはJR立川駅下車、徒歩約25分

◆立川バス利用の場合
JR立川駅北口2番のりば乗車の場合
「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分
または「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

JR立川駅北口1番のりば乗車の場合
「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」で実施している共同研究について、平成28年7月29日～30日の会期中に、会場前のロビーにてポスターで紹介しておりますので、是非ご覧下さい。

本チラシには「国文研古典籍データセット」所収の古典籍画像を使用しております。データセットはどなたでもご利用になれますので、国文学研究資料館ホームページの専用バナーからアクセスして下さい。
◆国文研古典籍データセット専用ページ◆
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html

オーロラ写真撮影（両面）：八重樫あゆみ/BAKKEN Ayumi（http://www.ayumibakken.com/）

第３回　　平成２９（2017）年７月２８日（金）～７月２９日（土）

大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

第3回　日本語の歴史的典籍国際研究集会

Project to Build an International Collaborative Research Network for Pre-modern Japanese Texts
The 3rd International Conference on Pre-modern Japanese Texts

日時：平成29(2017)年7月28日(金)～7月29日(土)
場所：国文学研究資料館 大会議室(東京都立川市緑町10-3)
主催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature, National Institutes for the Humanities
入場無料　聴講自由　LIVE配信

7月28日(金)

総合司会　野網摩利子/ NOAMI Mariko（国文学研究資料館）
13:00　開会の挨拶　ロバート キャンベル/Robert CAMPBELL（国文学研究資料館長）
13:05　機構挨拶　立本成文/TACHIMOTO Narifumi（人間文化研究機構長）
13:10　趣旨説明　齋藤真麻理/ SAITŌ Maori（国文学研究資料館）

13:20～15:25 パネル１
文字認識のフロンティア
“Frontiers of Character Recognition Research”
概要説明：山本和明/YAMAMOTO Kazuaki（国文学研究資料館）
報　告１：内田誠一/UCHIDA Seiichi（九州大学）
報　告２：大町真一郎/ŌMACHI Shin'ichirō（東北大学）
報　告３：来代誠仁/KITADAI Akihito（桜美林大学）
討　　議：

15:25～15:40 休憩（１５分間）

15:40～16:00
「新日本古典籍総合データベース」の新たな試み
“A New Experiment with the Database of Pre-modern Japanese Works”
松田訓典/ MATSUDA Kuninori（国文学研究資料館）

16:00～17:00 パネル２
文献観光資源学は何をめざすか
“What are the Objectives of Comprehensive On-line Gazetteer of Japan?”
概要説明：谷川惠一/TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館）
報　告１：上椙英之/UESUGI Hideyuki（国文学研究資料館）
報　告２：ユディット アロカイ/Judit ÁROKAY（ハイデルベルク大学）

17:30～19:00 レセプション

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
問い合わせ先
古典籍共同研究事業センター事務室 古典籍共同研究係
〈TEL〉050-5533-2988 〈E-Mail〉cijinfo@nijl.ac.jp
〈URL〉http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

7月29日(土)

総合司会　青田寿美/ AOTA Sumi（国文学研究資料館）

10:30～11:00 研究報告１
古典の普及·教育と漫画
“Transmitting and Teaching Japanese Classical Literature and Manga”
小山順子/ KOYAMA Junko（国文学研究資料館）

11:00～11:30 研究報告２
絵本としての草双紙
“Illustrated Worlds in *Kusazōshi*”
佐藤悟/ SATŌ Satoru（実践女子大学）

11:30～12:00 研究報告３
近世日本数学文献研究の新しい地平
“New Horizons in Research on Mathematical Treatises in Pre-modern Japan”
小川束/ OGAWA Tsukane（四日市大学）

12:00～13:00 休憩（６０分間·昼食）

13:00～14:30 パネル３
「文芸を折る」―日本古典籍における折本という存在
“Folding Literature: Folded Books in Pre-modern Japan”
概要説明：海野圭介/ UNNO Keisuke（国文学研究資料館）
報　告１：佐々木孝浩/ SASAKI Takahiro（慶應義塾大学）
報　告２：マティアス ハイエク/ Matthias HAYEK（パリ·ディドロ第７大学）
報　告３：アレッサンドロ ビアンキ/ Alessandro BIANCHI（フリーア｜サックラー）

14:30～14:45 休憩（１５分間）

14:45～17:00 パネル４
生活·環境と古典籍――異分野融合研究の可能性
“Life, the Environment, and Pre-modern Japanese Texts: Prospects of Interdisciplinary Research”
概要説明：入口敦志/ IRIGUCHI Atsushi（国文学研究資料館）
報　告１：小松かつ子/ KOMATSU Katsuko（富山大学）
報　告２：神松幸弘/ KOHMATSU Yukihiro（立命館大学）
報　告３：清武雄二/ KIYOTAKE Yūji（国立歴史民俗博物館）
報　告４：田村誠/ TAMURA Makoto（茨城大学）

17:00 閉会の挨拶　谷川惠一/TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館副館長）



【会場案内】

◆多摩都市モノレール利用の場合
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

◆立川バス利用の場合
JR立川駅北口2番のりば乗車の場合
「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分
または「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

JR立川駅北口1番のりば乗車の場合
「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」で実施している共同研究について、平成２９年７月２８日～７月２９日の会期中（２日間）に、会場前のロビーにてポスターで紹介しておりますので、是非ご覧下さい。

本チラシには「日本古典籍データセット」所収の古典籍画像を使用しております。「日本古典籍データセット」はオープンデータセットです。どなたでもご利用になれますので、国文学研究資料館ホームページの専用バナーからアクセスして下さい。
◆オープンデータセット専用ページ◆
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html

Project to Build an International Collaborative Research Network for Pre-modern Japanese Texts,

The 4th International Conference on Pre-modern Japanese Texts

第4回

日本語の歴史的典籍国際研究集会

大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

2018 平成30年 7月

27 金曜日

28 土曜日

入場無料

聴講自由

LIVE配信

場　所：国文学研究資料館 大会議室（東京都立川市緑町10－3）

主　催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館



大学共同利用機関法人　人間文化研究機構

国文学研究資料館

National Institute of Japanese Literature, National Institutes for the Humanities

問い合わせ先
古典籍共同研究事業センター事務室 古典籍共同研究係
TEL 050-5533-2988　E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

7/27（金）

総合司会　谷川恵一
TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館）

13:30 開会の挨拶
ロバート キャンベル Robert CAMPBELL（国文学研究資料館長）

13:35 機構挨拶
平川 南 HIRAKAWA Minami（人間文化研究機構長）

13:40 趣旨説明
斎藤真麻理 SAITŌ Mari（国文学研究資料館）

13:50～14:50 基調講演
聖語論（ヒエログロシア）から見た道元禅師の和漢言説
"Dōgen's Religious Discourse and Hieroglossia"
ジャン＝ノエル ロベール
Jean-Noël ROBERT（コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所）

14:50～15:20 休憩（30分間）

15:20～17:00 パネル1
津軽デジタル風土記
ナビゲーションからコミュニケーションへ
"The Tsugaru Digital Gazetteer: From Navigation to Communication"
概要説明：木越俊介 KIGOSHI Shunsuke（国文学研究資料館）
報 告 1：瀧本寿史 TAKIMOTO Hisafumi（弘前大学）
報 告 2：渡邉麻里子 WATANABE Mariko（弘前大学）
報 告 3：木越俊介 KIGOSHI Shunsuke（国文学研究資料館）
質疑応答

17:30～19:00 レセプション（会費制）

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」で実施している共同研究について、平成30年7月27日～7月28日の会期中（2日間）に、会場内のロビーにてポスターで紹介しておりますので、是非ご覧下さい。

会場案内



●多摩都市モノレール利用の場合
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分
●立川バス利用の場合
・JR立川駅北口2番のりば乗車の場合
「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分または「緑町」バス停下車、徒歩5分
・JR立川駅北口1番のりば乗車の場合
「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

7/28（土）

総合司会　青田寿美
AOTA Sumi（国文学研究資料館）

10:00～10:55 パネル2
比較書誌学の観点による日本古典籍の特質と問題
"Special Features and Relevant Issues: Comparative Bibliography of Pre-modern Japanese Texts"
概要説明：落合博志 OCHIAI Hiroshi（国文学研究資料館）
報 告 1：入口敦志 IRIGUCHI Atsushi（国文学研究資料館）
報 告 2：陳捷 CHEN Jie（東京大学）
質疑応答

10:55～11:10 休憩（15分間）

11:10～12:10 新技術報告
画像解析技術の進展と歴史的典籍への展開
"The Progress of Image Analysis Technology and Its Relevance to Future Studies of Pre-modern Japanese Texts"
司　会：松田憲典 MATSUDA Kunimori（国文学研究資料館）
報 告 1：佐藤真一 SATOH Shin'ichi（国立情報学研究所）
報 告 2：松井勇佑 MATSUI Yusuke（国立情報学研究所）
質疑応答

12:10～13:15 休憩（65分間・昼食）

13:15～14:45 パネル3
古典芸能における身体―ことばと絵画から立ち上がるもの―
"Arising from Words and Images: The Body in Traditional Performing Arts"
概要説明：山下琢子 YAMASHITA Noriko（国文学研究資料館）
報 告 1：ボナヴェントゥーラ ルペルティ
Bonaventura RUPERTI（ヴェネツィア カ・フォスカリ大学）
報 告 2：マティルデ マストランジェロ
Matilde MASTRANGELO（ローマ サピエンツァ大学）
報 告 3：クラウディア イアッゼッタ
Claudia IAZZETTA（ナポリ大学オリエンターレ）
質疑応答

14:45～15:15 休憩（30分間）

15:15～16:55 パネル4
漢文化圏におけるデジタル化：東アジアの漢文系データベースと人文学研究の最前線
"Digitalization of the Sinosphere: Databases of Texts Written in Classical Chinese in East Asia, and the Front Line of Research in the Humanities"
概要説明：合山林太郎 GOYAMA Rintaro（鹿島徳颐大学）
黄昱 HUANG Yu（国文学研究資料館）
報 告 1：住吉朋彦 SUMIYOSHI Tomohiko（東京藝術大学附属研究所/新潟大学）
報 告 2：沈慶昊 SIM Kyung-ho（高麗大学校）
報 告 3：廖肇亨 LIAO Chao-heng（台湾中央研究院）
報 告 4：板間眞希 ITAHASHI Maki（有限会社 眼鏡メディアサービス）
質疑応答

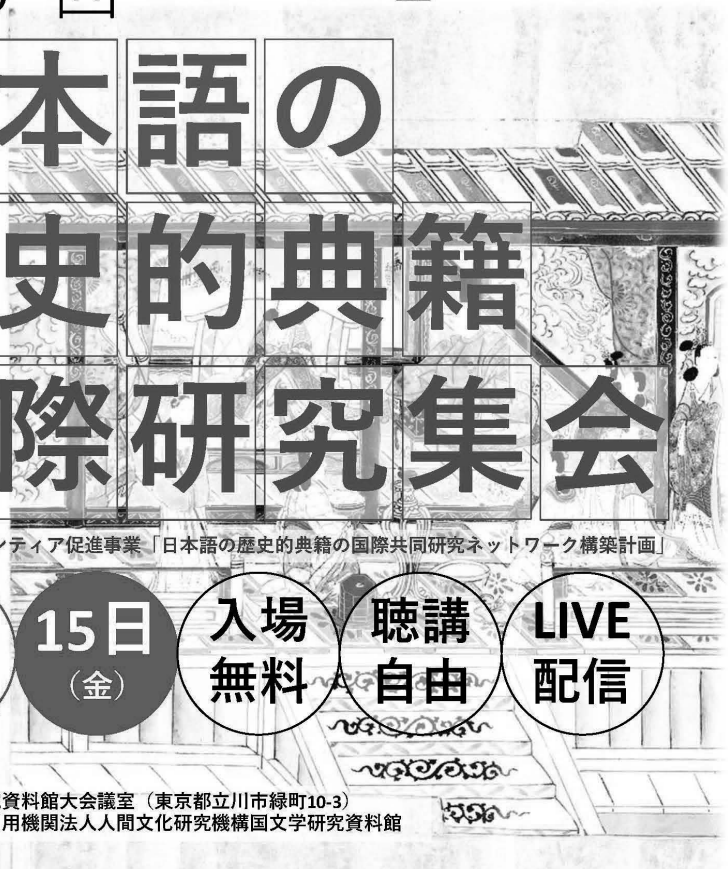
16:55 閉会の挨拶
谷川恵一 TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館副館長）

本チラシには「日本古典籍データセット」所収の古典籍画像を使用しております。
「日本古典籍データセット」はオープンデータセットです。どなたでもご利用になれますので、オープンデータセット専用ページにアクセスしてみて下さい。
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html

The 5th International Conference on
Pre-modern Japanese Texts

第５回 日本語の歴史的典籍国際研究集会

古典籍共同研究事業センター



大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

2019 令和元年 11月 15日（金） 入場無料 聴講自由 LIVE配信

場　所：国文学研究資料館大会議室（東京都立川市緑町10-3）
主　催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館

『浦しま』（国文学研究資料館蔵）DOI: https://doi.org/10.20730/200017771（当該画像: https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200017771/viewer/17）

連続開催　令和元（2019）年11月16日（土）、17日（日）
第43回国際日本文学研究集会
特別講演　ゲイ ローリー 教授（早稲田大学法学学術院（法学部））

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
Web：https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/
問い合わせ先：古典籍共同研究事業センター共同研究係
E-mail：cijinfo@nijl.ac.jp

11/15（金）

総合司会　山下則子
YAMASHITA Noriko（国文学研究資料館副館長）

11:00
開会の挨拶
ロバート キャンベル Robert CAMPBELL
（国文学研究資料館長）

11:05
機構挨拶
佐藤　信 SATO Makoto（人間文化研究機構理事）

11:10
趣旨説明
齋藤真麻理 SAITO Maori（国文学研究資料館教授）

11:15～11:55
研究報告「総合書物学は何を目指すのか」
"What are the Goals of 'Comprehensive Bibliographical Studies'?"
谷川惠一 TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館教授）

11:55～13:10
ランチセミナー（研究者交流会）※会費制
参加費2,000円はランチセミナー会場にてお支払いください

13:10～14:00
基調講演「源氏流いけばな－源氏物語といけばなのコラボレーション－」
"Genji-school *ikebana*: A Collaboration between Flower-arrangement and the *Tale of Genji*"
岩坪　健 IWATSUBO Takeshi（同志社大学教授）

14:00～14:15　休憩（15分間）

会場案内



●多摩都市モノレール利用の場合
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分
●立川バスの場合
JR立川駅北口2番のりば乗車の場合
「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分または「裁判所前」バス停下車、徒歩5分
JR立川駅北口1番のりば乗車の場合
「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

14:15～15:55
パネル発表
国際共同研究「中近世日本における知の交流の総合的研究」
"Interaction of Knowledge from the Medieval to the Early Modern Period"

概要説明：ダヴァン ディディエ DAVIN Didier
（国文学研究資料館准教授）

登壇者１：芳澤勝弘 YOSHIZAWA Katsuhiro
（花園大学国際禅学研究所顧問）
「〈直指人心〉から〈曲指人心〉へ」
"From 'Pointing Straight to the Human Mind' to 'Pointing Round to the Human Mind'"

登壇者２：猪瀬千尋 INOSE Chihiro
（名古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究（CHT）センター研究員）
「中世の仏教と音楽―書物という"知"を軸に」
"Medieval Buddhism and Music: With a Focus on Texts as a Form of 'Knowledge'"

登壇者３：ダヴァン ディディエ DAVIN Didier
（国文学研究資料館准教授）
「近世初期の日本人が見た"公案"と"看話禅"－仮名法語を中心に」
"*Kōan* and *kanna-zen* Practice as Seen in Japanese Society at the Beginning of the Early Modern Period: Examining Vernacular-language Sermons (*kana-hōgo*)"

コメンテーター：堀川貴司 HORIKAWA Takashi
（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授）

15:55～16:10　休憩（15分間）

16:10～17:10
ラウンドテーブル－コンソーシアム構築に向けて－
"Towards the Construction of a Consortium"
テーマ：国際化する研究環境－人文学の場合－
"Internationalizing the Research Environment: The Case of Humanities"
司　会：ロバート キャンベル Robert CAMPBELL
（国文学研究資料館長）
登壇者：荒木　浩 ARAKI Hiroshi（国際日本文化研究センター副所長）
クリスティーナ ラフィン Christina LAFFIN
（ブリティッシュ・コロンビア大学 アジア研究学科准教授）
ダニエル ストリューヴ Daniel STRUVE
（パリ大学教授）
張　龍妹 ZHANG Longmei
（北京外国語大学 北京日本学研究センター教授）

17:10
閉会の挨拶
谷川惠一 TANIKAWA Keiichi（国文学研究資料館副館長）

本チラシには「新日本古典籍総合データベース」所収の古典籍画像を使用しています（http://kotenseki.nijl.ac.jp/）。このデータベース所収の画像のうち国文研所蔵資料はCC BY-SA 4.0で公開していますので、どなたでもクレジット表示をするだけで、自由にご利用いただけます。クレジット表示は、利用条件（http://kotenseki.nijl.ac.jp/page/usage.html）をご確認ください。
なお、同データベース所収の他機関所蔵資料については、それぞれの所蔵機関ごとに利用方法が異なりますので、所蔵機関の利用案内を必ずご確認くださるようお願いいたします。
詳細は利用条件のページをご覧ください。
新日本古典籍総合データベース　利用条件

The 6th International Conference on Pre-modern Japanese Texts

online

デジタル人文学の可能性と未来

2020.11.07（土）

13:00～17:00

第６回

日本語の歴史的典籍国際研究集会

大規模学術フロンティア促進事業
「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」



特設サイトはこちら

事前参加登録受付はこちら

17:00～ 日本古典籍研究国際コンソーシアム関連シンポジウム

プログラム

総合司会：山本　和明（古典籍共同研究事業センター長）

12:30　配信開始

13:00　開会の挨拶　ロバート キャンベル館長

13:10～14:10　セクション①　「ＮＷ事業から後継計画へ」

［1］海野　圭介　後継計画準備室長
宮本祐規子　古典籍共同研究事業センター特任准教授
「歴史的典籍NW事業の現在と未来
―画像集積からデータ駆動へ」

［2］佐藤　悟　実践女子大学文学部教授
「上紙摺と上製本―合巻研究への
高精細デジタルマイクロスコープの利用―」

14:10～14:15　休憩（5分）

14:15～15:15　セクション②　「「デジタル源氏物語」の構築と展開」

田村　隆　東京大学大学院総合文化研究科准教授
中村　覚　東京大学史料編纂所
前近代日本史情報国際センター助教
中村　美里　東京大学附属図書館情報サービス課
資料整備係長
永崎　研宣　一般財団法人人文情報学研究所
人文情報学研究部門主席研究員

15:15～15:20　休憩（5分）

15:20～16:20　セクション③　「若手研究者からの提案：
テキストマイニング－KH Coderを中心に」

［1］小風　尚樹　千葉大学人文社会学系教育研究機構助教
「人文学における探索的データ分析」

［2］福田　真人　東京大学大学院人文社会系研究科博士課程
「公文録目録の量的分析 ―明治14年頃の財政を中心に―」

［3］大知　聖子　名城大学理工学部　助教
「中国・北魏の石刻史料（墓誌）を用いたKH Coderによる
分析と文化的社会集団の復元」

16:20～16:50　総括コメント（30分）　司会進行：山本　和明・海野　圭介

16:50　閉会の挨拶　山下　則子副館長

本国際研究集会閉会後、同配信により「日本古典籍研究国際コンソーシアムについて」を開催いたします。

国文学研究資料館創立５０周年記念事業

The 7th International Conference on Pre-modern Japanese Texts

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

国文学研究資料館とは
こういうところです。

歴史的典籍と教育

デジタル画像を教育に活用する



- デジタル社会における教育の取組
- デジタル・ヒューマニティーズ、教育プログラムの海外動向
- アクティブラーニング実践報告

等々

2021年
11.11（木）
オンライン開催
18:00～21:30

使用言語：日本語

配信ページ（YouTube）

事前登録はこちらから

WEB 会議などで使える
背景画像をプレゼント

第７回
日本語の歴史的典籍国際研究集会

大規模学術フロンティア促進事業
「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

＜プログラム＞

総合司会　山　本　和　明
（国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター長）

（　）内は中央ヨーロッパ時間（UTC+1）

17:30（ 9:30）　配信開始

18:00（10:00）　開会の挨拶　　渡　部　泰　明　国文学研究資料館長

18:05（10:05）　はじめに　　山　本　和　明　古典籍共同研究事業センター長

18:10（10:10）～19:25（11:25）
第１セクション　デジタル社会における教育の取組等

i　古典教材の未来を切り拓く！
山　田　和　人　同志社大学文学部教授
ii　「データ駆動型人文学」の担い手を探る
永　崎　研　宣　人文情報学研究所主席研究員
iii　くずし字を読むエッジＡＩの開発
早　坂　太　一　豊田工業高等専門学校情報工学科教授
iv　質疑応答

19:25（11:25）～19:40（11:40）休憩

19:40（11:40）～21:05（13:05）
第２セクション　具体的実践等の取組

i　ドイツにおけるデジタル・ヒューマニティーズと日本学における応用
ミヒャエル・キンスキー
ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン日本学部教授
ii　古典と地域を結ぶICT活用教育の可能性
－楽しみながら学ぶ「木曽路双六」・「ことわざ絵合わせ」－
速　水　香　織　信州大学人文学部准教授
宮　本　祐規子　白百合女子大学文学部准教授
中　村　　綾　愛知学院大学教養部講師
iii　江戸時代の占い本『晴明歌占』を用いたアクティブラーニングと和歌占いの普及
平　野　多　恵　成蹊大学文学部教授
iv　質疑応答
ディスカッサント　中　村　ともえ　静岡大学教育学部准教授



21:05（13:05）～21:25（13:25）
第３セクション　データ駆動による可能性

データ集積とドメイン知識：万葉集を例に
海　野　圭　介　国文学研究資料館大型研究計画設置準備室長

21:25（13:25）閉会の挨拶　　入　口　敦　志　国文学研究資料館副館長

21:30（13:30）閉会

※各発表のタイトルは予告なく変更される場合があります。

第8回日本語の歴史的典籍国際研究集会

The 8th International Conference on Pre-modern Japanese Texts

大規模学術フロンティア促進事業
「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」



データを保管する 活用する

2022年
11月11日（金）9:00～11:00
オンライン開催（YouTube動画配信）

Ｗｅｂ
https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/sympo2022.html

主　催
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館

お問い合わせ
国文学研究資料館管理部総務課プロジェクト推進係
pjsuishin@nijl.ac.jp

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

第8回日本語の歴史的典籍国際研究集会
プログラム

令和4（２０２２）年11月11日（金）

［総合司会］井黒　佳穂子（国文学研究資料館特任助教）

開会挨拶　渡部　泰明（国文学研究資料館長）　9:00 ～ 9:05

［1］**歴史的典籍NW事業の取組みについて**
山本　和明（国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター長）　9:05 ～ 9:20

［2］**前近代のネットワーク分析：日本の人名データベースの紹介**
グラムリヒ=オカ・ベティーナ（上智大学国際教養学部教授）　9:20 ～ 9:35

［3］**国立国会図書館のOCR事業及びテキストデータを活用したサービスについて**
青池　亨（国立国会図書館電子情報部電子情報企画課次世代システム開発研究室司書）　9:35 ～ 9:50

休憩（15分）

［4］**大量の板本を効率的に翻刻する～「武鑑全集」の経時的差分翻刻による江戸200 年参勤交代データセットの構築**
北本　朝展（ROIS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター長）　10:05 ～ 10:20

［5］**『みをつくし』プロジェクト：AIくずし字認識研究の展開**
カラーヌワット・タリン（Research Scientist at Google Research）　10:20 ～ 10:35

［6］**古典籍データ駆動研究センターの目指すもの**
菊池　信彦（国文学研究資料館古典籍データ駆動研究センター特任准教授）　10:35 ～ 10:55

閉会挨拶　神作　研一（国文学研究資料館副館長）　10:55 ～ 11:00

※各発表のタイトル・時間等は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

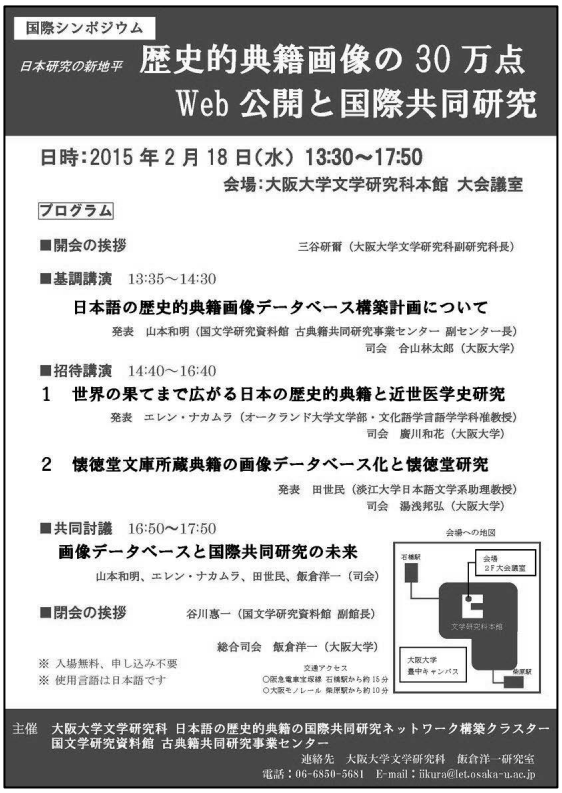
お問い合わせ
国文学研究資料館管理部総務課プロジェクト推進係
pjsuishin@nijl.ac.jp

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

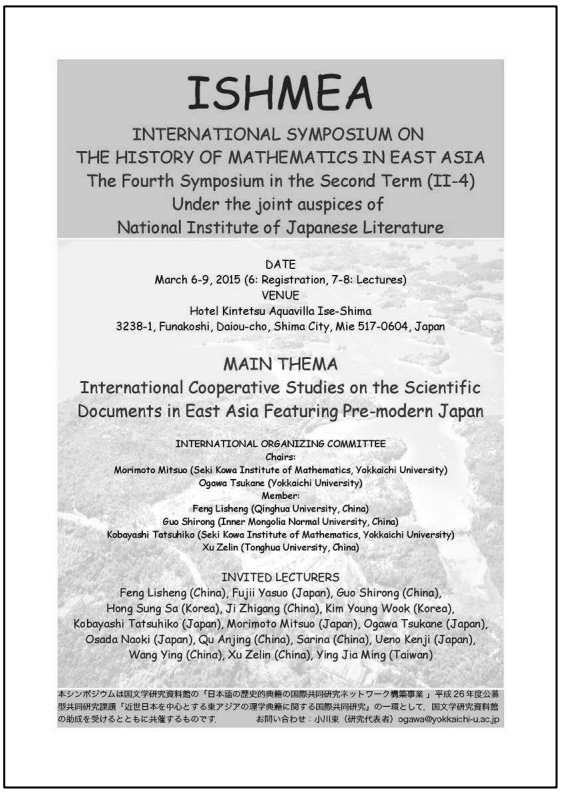
資料 17

1．イベント

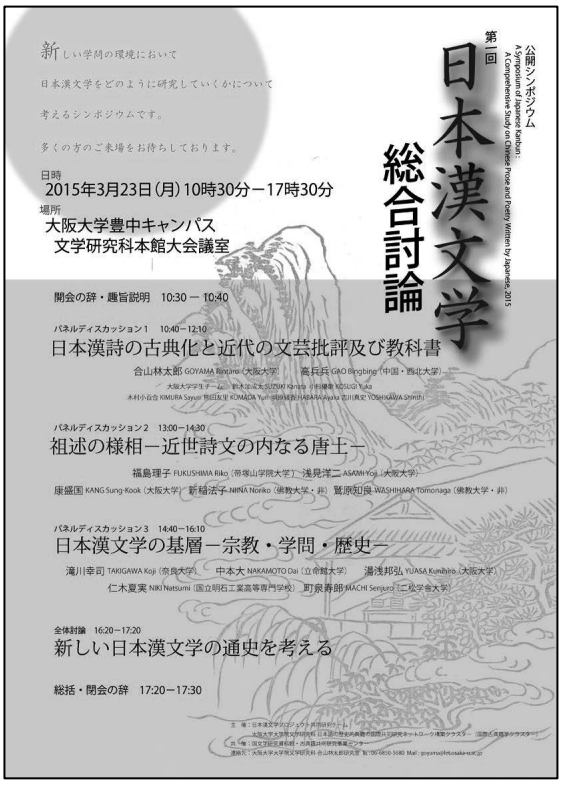
平成27(2015)年2月18日
国際シンポジウム「日本研究の新地平」



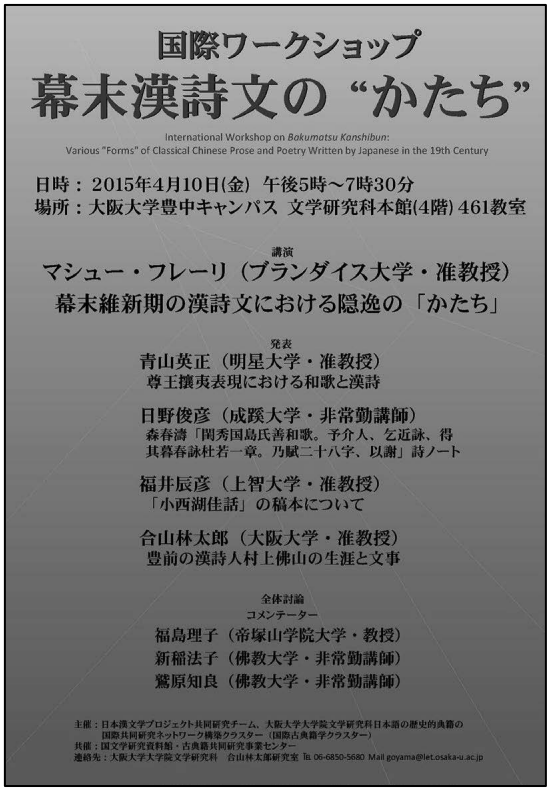
平成27(2015)年3月6日～3月9日
国際共同シンポジウム「ISHMEA」



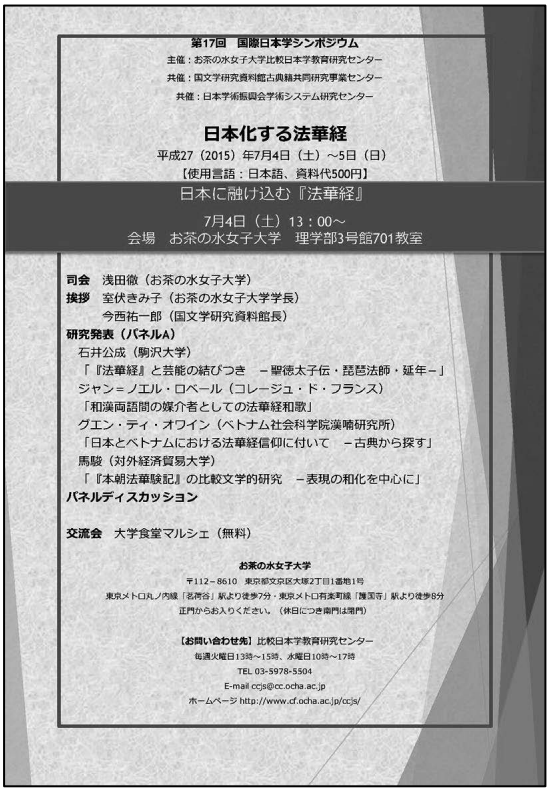
平成27(2015)年3月23日
公開シンポジウム「第1回日本漢文学総合討論」

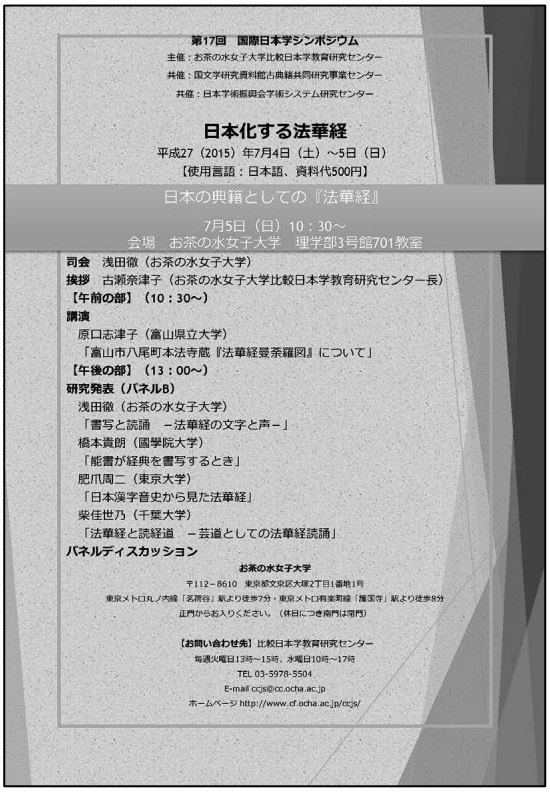


平成27(2015)年4月10日
国際ワークショップ「幕末漢詩文の“かたち”」



平成27(2015)年7月4日～7月5日
第17回国際日本学シンポジウム「日本化する法華経」





平成27(2015)年7月25日
公開シンポジウム「日本語の歴史的典籍データベースが切り拓く研究の未来」



平成27(2015)年8月27日～8月30日
紀州地域学共同研究会
「研究集会―2015夏」



平成27(2015)年9月27日
第7回地域学シンポジウム「薬種商野中家（ウサイエン）からみる江戸時代の佐賀」



平成27(2015)年10月31日
「アジアの中の日本古典文学―医学・理学・農学書を中心として―」第３回 研究会



平成27(2015)年11月4日
立命館大学アート・リサーチセンター
第21回拠点セミナー

第21回　拠点セミナー　「サトウ蔵書目録のこと、古典籍目録のローマ字表記のことなど」

2015年11月 4日(水)

第21回　拠点セミナーを開催いたします。

「サトウ蔵書目録のこと、古典籍目録のローマ字表記のことなど」

講師：　**小山　騰 氏**（元ケンブリッジ大学図書館日本担当司書）

2015年11月4日（水）　18:00－19:30
【衣笠】立命館大学アート・リサーチセンター2F　多目的ルーム
参加無料(予約不要)

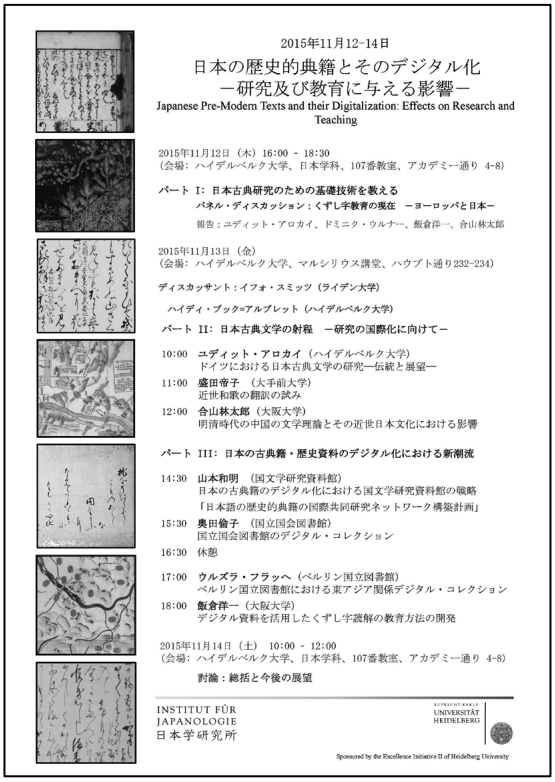
主催：立命館大学アート・リサーチセンター
共催：国文学研究資料館

※一般の方もインターネットでご参加いただけます。

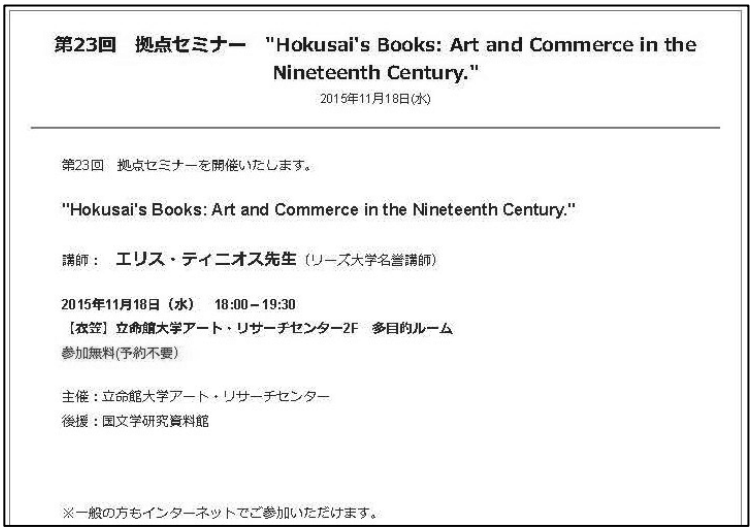
平成27(2015)年11月7日～11月8日
四日市大学関孝和数学研究所
「和算国際会議」



平成27(2015)年11月12日～11月14日
日本学研究所・ハイデルベルク大学
「日本の歴史的典籍とそのデジタル化―
研究及び教育に与える影響」



平成27(2015)年11月18日
立命館大学アート・リサーチセンター
第23回拠点セミナー



平成27(2015)年12月12日～12月13日
「絵入本ワークショップⅧ」



平成27(2015)年12月18日
歴史的典籍オープンデータワークショップ
「じんもんそん2015」



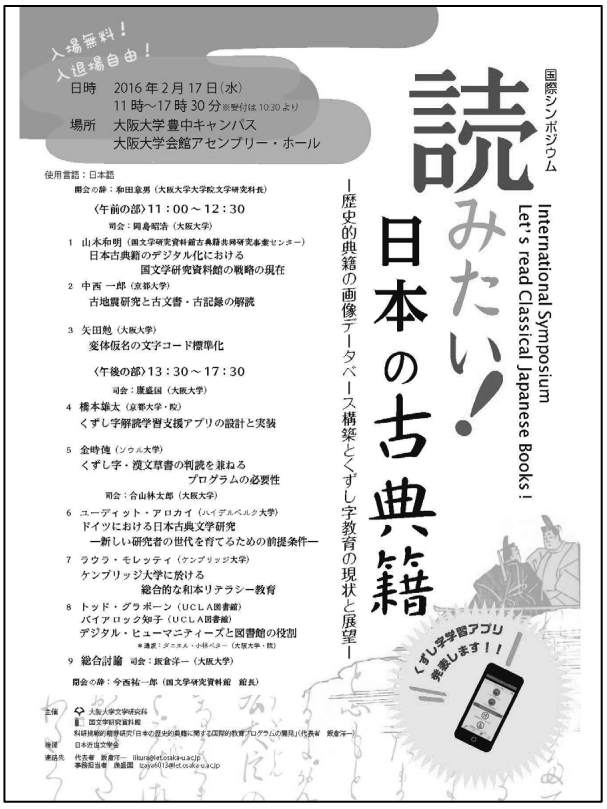
平成28(2016)年1月22日
日本漢文学プロジェクト特別講演会
「大坂における漢文学と俗文学の交流」



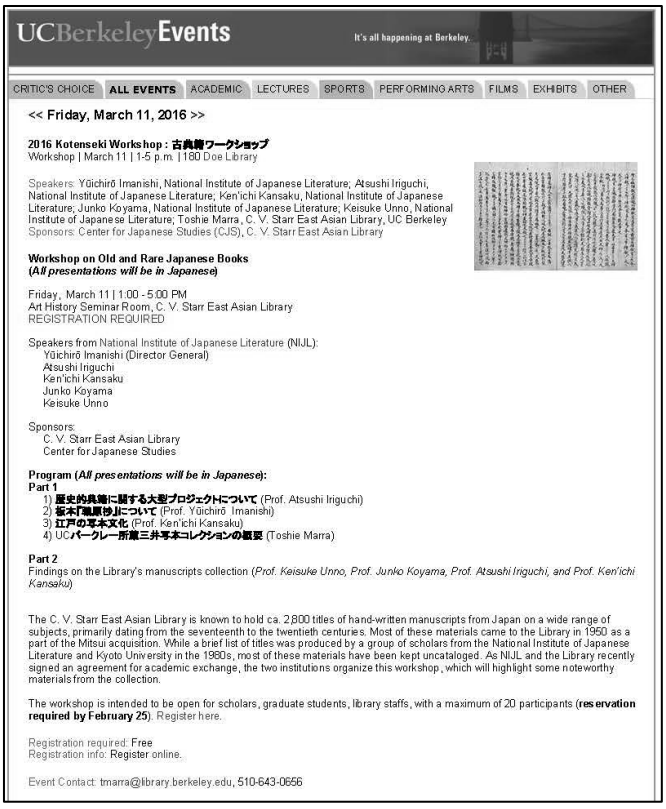
平成28(2016)年1月23日
「アジアの中の日本古典文学―医学・理学・農学書を中心として―」第４回研究会



平成28(2016)年2月17日
国際シンポジウム「読みたい！日本の古典籍」



平成28(2016)年3月11日
「2016Kotenseki Workshop:
古典籍ワークショップ」



平成28(2016)年3月13日
国文学研究資料館×国立極地研究所
共同ワークショップ
「「古典」オーロラハンター」



平成28(2016)年3月19日
広領域連携型基幹研究プロジェクト
キックオフ・シンポジウム



平成28(2016)年3月26日～3月27日
拠点主導共同研究ワークショップ
「『見立て』と日本文化の諸相」

神戸大学大学院人文学研究科・国文学研究資料館共催

拠点主導共同研究ワークショップ
「見立て」と日本文化の諸相

日時：3 月 26 日（土）10:00～17:10　　場所：神戸大学大学院人文学研究科
3 月 27 日（日）10:00～14:10

――プログラム――

3 月 26 日（土）
○開会の挨拶（10:00～10:10）
福長進（神戸大学）

○第 1 セッション（10:10～11:50）：東アジア文化圏における「見立て」の構造と論理
プレゼンテーター：張文薫（国立台湾大学）
題目未定
コメンテーター：樋口大祐（神戸大学）、梶尾文武（神戸大学）

・昼食休憩（11:50～12:50）

○第 2 セッション（12:50～14:30）：『源氏物語』の準拠と「見立て」
プレゼンテーター：金鍾徳（韓国外国語大学校）
「高麗人の準拠と見立て（喩）」
コメンテーター：星山健（関西学院大学）、福長進

・休憩（14:30～15:00）

○第 3 セッション（15:00～17:10）：「見立て」と日本文化の諸相
①プレゼンテーター：石山裕慈（神戸大学）
「外来語と「見立て」に関する一考察」
コメンテーター：鈴木義和（神戸大学）
②プレゼンテーター：増記隆介（神戸大学）
「平家納経「法師功徳品」と『源氏物語』　――歌絵としての解釈――」
コメンテーター：梶谷亮治（奈良国立博物館名誉館員）
③総合討論①
司会：河島真（神戸大学）

3 月 27 日（日）
○第 4 セッション（10:00～11:40）：人形浄瑠璃・浄瑠璃と「見立て」
プレゼンテーター：韓京子（慶熙大学校）
「近松の浄瑠璃における見立ての方法」
コメンテーター：ボナヴェントゥーラ・ルペルティ（ヴェネツィア大学）、
田中康二（神戸大学）

・昼食休憩（11:40～12:40）

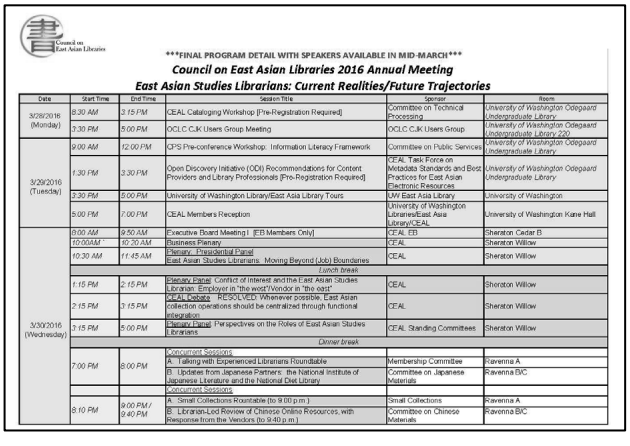
○第 5 セッション（12:40～14:00）：　総合討論②

司会：河島真

○閉会の挨拶（14:00～14:10）

鈴木義和

平成28(2016)年3月30日
2016年CEAL（Council on East Asian Libraries）年次大会

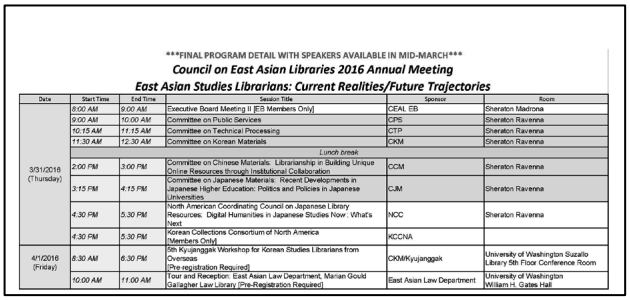


FINAL PROGRAM DETAIL WITH SPEAKERS AVAILABLE IN MID-MARCH

Council on East Asian Libraries 2016 Annual Meeting

East Asian Studies Librarians: Current Realities/Future Trajectories

Date	Start Time	End Time	Session Title	Sponsor	Room
3/28/2016 (Monday)	8:30 AM	3:15 PM	CEAL Cataloging Workshop [Pre-Registration Required]	Committee on Technical Processing	University of Washington Odegaard Undergraduate Library
	3:30 PM	5:00 PM	OCLC CJK Users Group Meeting	OCLC CJK Users Group	University of Washington Odegaard Undergraduate Library 220
3/29/2016 (Tuesday)	9:00 AM	12:00 PM	CPS Pre-conference Workshop: Information Literacy Framework	Committee on Public Services	University of Washington Odegaard Undergraduate Library
	1:30 PM	3:30 PM	Open Discovery Initiative (ODI) Recommendations for Content Providers and Library Professionals [Pre-Registration Required]	CEAL Task Force on Metadata Standards and Best Practices for East Asian Electronic Resources	University of Washington Odegaard Undergraduate Library
	3:30 PM	5:00 PM	University of Washington Library/East Asia Library Tours	UW East Asia Library	University of Washington
	5:00 PM	7:00 PM	CEAL Members Reception		University of Washington Kane Hall
3/30/2016 (Wednesday)	8:00 AM	9:50 AM	Executive Board Meeting I [EB Members Only]	CEAL EB	Sheraton Cedar B
	10:00AM	10:30 AM	Business Plenary	CEAL	Sheraton Willow
	10:30 AM	11:45 AM	Plenary: Presidential Panel East Asian Studies Librarians: Moving Beyond (Job) Boundaries	CEAL	Sheraton Willow
			Lunch break		
	1:15 PM	2:15 PM	Plenary Panel: Conflict of Interest and the East Asian Studies Librarian: Employer in "the west"/Vendor in "the east"	CEAL	Sheraton Willow
	2:15 PM	3:15 PM	CEAL Debate: RESOLVED: Whenever possible, East Asian collection operations should be centralized through functional integration	CEAL	Sheraton Willow
	3:15 PM	5:00 PM	Plenary Panel: Perspectives on the Roles of East Asian Studies Librarians	CEAL Standing Committees	Sheraton Willow
			Dinner break		
	7:00 PM	9:00 PM	Concurrent Sessions A: Talking with Experienced Librarians Roundtable	Membership Committee	Ravenna A
			B: Updates from Japanese Partners: the National Institute of Japanese Literature and the National Diet Library	Committee on Japanese Materials	Ravenna B/C
	8:10 PM	9:00 PM / 9:40 PM	Concurrent Sessions A: Small Collections Roundtable (to 9:00 p.m.)	Small Collections	Ravenna A
			B: Librarian-Led Review of Chinese Online Resources, with Response from the Vendors (to 9:40 p.m.)	Committee on Chinese Materials	Ravenna B/C



FINAL PROGRAM DETAIL WITH SPEAKERS AVAILABLE IN MID-MARCH

Council on East Asian Libraries 2016 Annual Meeting

East Asian Studies Librarians: Current Realities/Future Trajectories

Date	Start Time	End Time	Session Title	Sponsor	Room
3/31/2016 (Thursday)	8:00 AM	9:00 AM	Executive Board Meeting II [EB Members Only]	CEAL EB	Sheraton Madrona
	9:00 AM	10:00 AM	Committee on Public Services	CPS	Sheraton Ravenna
	10:15 AM	11:15 AM	Committee on Technical Processing	CTP	Sheraton Ravenna
	11:30 AM	12:30 AM	Committee on Korean Materials	CKM	Sheraton Ravenna
			Lunch break		
	2:00 PM	3:00 PM	Committee on Chinese Materials: Librarianship in Building Unique Online Resources through Institutional Collaboration	CCM	Sheraton Ravenna
	3:15 PM	4:15 PM	Committee on Japanese Materials: Recent Developments in Japanese Higher Education: Politics and Policies in Japanese Universities	CJM	Sheraton Ravenna
	4:30 PM	5:30 PM	North American Coordinating Council on Japanese Library Resources: Digital Humanities in Japanese Studies Now, What's Next	NCC	Sheraton Ravenna
	4:30 PM	5:30 PM	Korean Collections Consortium of North America [Members Only]	KCCNA	
4/1/2016 (Friday)	8:30 AM	6:30 PM	5th Kyujanggak Workshop for Korean Studies Librarians from Overseas [Pre-registration Required]	CKM/Kyujanggak	University of Washington Suzallo Library 5th Floor Conference Room
	10:00 AM	11:00 AM	Tour and Reception: East Asian Law Department, Marian Gould Gallagher Law Library [Pre-Registration Required]	East Asian Law Department	University of Washington William H. Gates Hall

平成28(2016)年5月5日～5月7日
日本古典籍（くずし字）講習会
「The Kuzushiji Workshop 2016」



2023/04/06 14:14 2016 Kuzushiji Workshop to be held at Princeton, May 5-7 | Princeton University Library

Search for library materials and website content

MAIN MENU

2016 Kuzushiji Workshop to be held at Princeton, May 5-7

Newsletter

Subscribe to Princeton University Library's e-newsletter for the latest updates on teaching and research support, collections, resources, and services.

Enter your email address

Subscribe

News Categories

Acquisition Highlights (29)
Announcements (62)
Annual Updates from the University Librarian (2)
Anti-Racism & Social Justice (84)
Building & Facilities (3)
Collections (58)
Collections Highlights (73)
Digital Library (10)
Events & Workshops (141)
Exhibitions (83)
Featured Resource (20)
Featured on Social Media (18)
General News (275)
Grants (1)
Instruction (1)
Jobs (62)
Library Staff Events (1)

We are pleased to announce the third in a series of Kuzushiji Workshops with Professor Yukihisa Imanishi, Director-General of the National Institute of Japanese Literature (NIJL) will be held at Princeton University from May 5 to 7, 2016.

This three-year workshop series is organized in coordination between the NIJL and the AAS/CEAL Committee on Japanese Materials (CJM), Subcommittee on Japanese Rare Books. Additional support for this year will be provided by the East Asian Studies Program and the East Asian Library and the Gest Collection of Princeton University.

After successful workshops on basic reading of kuzushiji held at Columbia University in 2014 and University of California, Berkeley in 2015, the third workshop is planned for reading kuzushiji from komonjo (old documents).

The Kuzushiji Workshop 2016

Date: May 5 (Thu.) -May 7 (Sat.), 2016

Venue: East Asian Library (Frist Campus Center), Lewis Science Library, Princeton University.

Target audiences: Librarians, scholars, graduate students, and curators.

Level of teaching: Intermediate

Goal: To gain a practical knowledge of, and first-hand experience in the reading of kuzushiji in pre-modern Japanese old documents.

Program: Under the guidance and instruction of Professor Imanishi, participants will read kuzushiji texts from komonjo (old documents). All instructions at the workshop will be in Japanese.

Lecture: In addition to the workshop, there will be a public lecture (the title TBA) by Professor Imanishi in the afternoon of May 7.

Costs: Participation in the workshop will be free, but participants will pay their own transportation and accommodation.

Possible accommodation: Please see the following link.

http://travel.princeton.edu/suppliers/hotels (http://travel.princeton.edu/suppliers/hotels)

To register: Please use the registration form available here (https://docs.google.com/forms/d/1QkRNOEIOnKSbYRZbecfyAYhoQrSs3JMMeoTW0Bg/viewform), (https://docs.google.com/forms/d/1QkRNOEIOnKSbYRZbecfyAYhoQrSs3JMMeoTW0Bg/viewform)

Should you have any questions, please do not hesitate to contact Setsuko Noguchi at snoguchi@princeton.edu (mailto:snoguchi@princeton.edu).

We look forward to meeting you at the workshop in May.

https://libraryprinceton.edu/news/eastasian/2016-02-11/2016-kuzushiji-workshop-be-held-princeton-may-5-7 1/3

平成28(2016)年7月28日
「キリシタン文学の継承：宣教師の日本語文学」
東京研究会



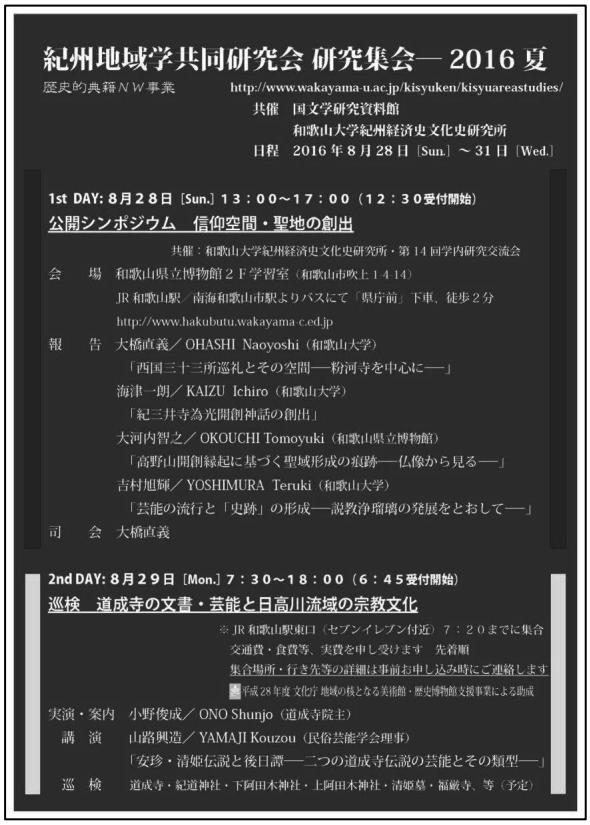
平成28(2016)年7月28日
歴史的典籍NW事業ワークショップ
「『ケンブリッジ日本文学史』を読む」



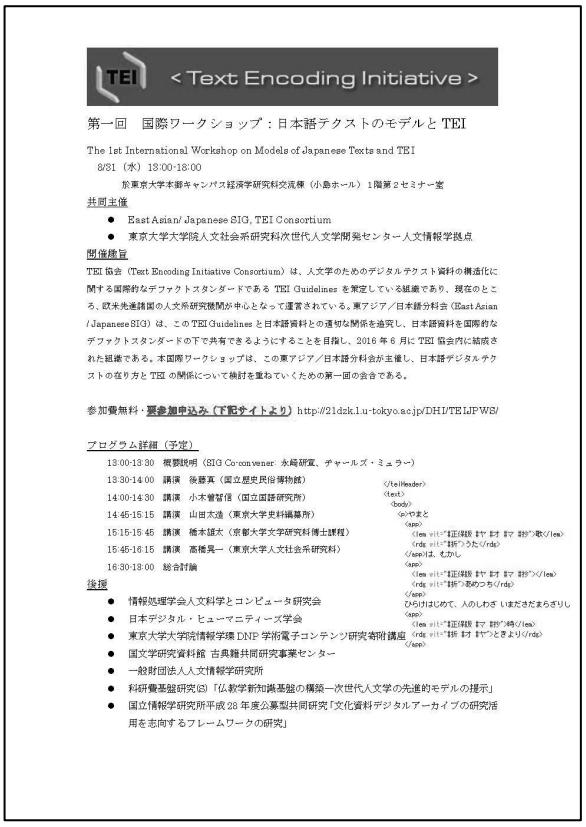
平成28(2016)年8月1日
「キリシタン文学の継承：宣教師の日本語文学」
五島研究会



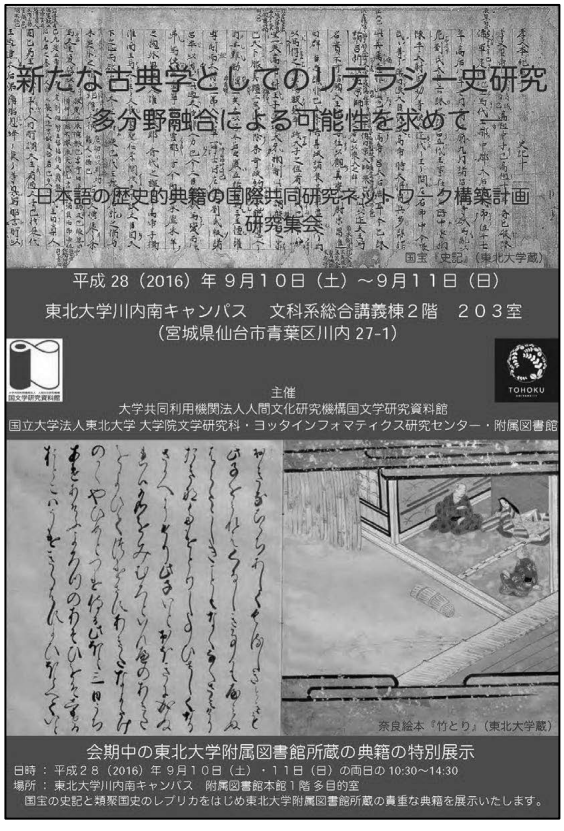
平成28(2016)年8月28日～8月31日
紀州地域学共同研究会　研究集会―2016夏



平成28(2016)年8月31日
第1回　国際ワークショップ：
日本語テクストのモデルとTEI



平成28(2016)年9月10日～9月11日
日本語の歴史的典籍の国際共同研究
ネットワーク事業計画　研究集会
「新たな古典学としてのリテラシー史研究」



平成28(2016)年9月10日
第二回日本漢文学総合討論



平成28(2016)年9月17日～9月18日
西尾市岩瀬文庫　研究フォーラム



平成28(2016)年9月21日
「近世日本の長崎・対馬・薩摩と対外交流」



平成28(2016)年9月24日
市民公開講座
「江戸時代の和漢薬と人々の暮らし」



平成28(2016)年10月1日
和歌山大学紀州経済史文化史研究所
2016年度公開研究会



平成28(2016)年10月3日
第10回資料保存シンポジウム



第10回資料保存シンポジウム　情報保存研究会（JHK）・(公社) 日本図書館協会 共催

未来に遺す情報保存 ―収集・保存・利活用―

日 時：2016年10月3日（月）9：20～18：00

参加費：無料（定員200名）申込締切：9月30日（金）
会 場：一橋大学　一橋講堂　中会議場（学術総合センター2階）
〒101-8439　東京都千代田区一ツ橋2-1-2　学術総合センター内

特別講演　10:00～10:50　「歴史的典籍 NW 事業の目指すもの」
講師：国文学研究資料館　古典籍共同研究事業センター　山本和明氏

特別講演　11:00～11:50　「絵画複製写真のデジタル・アーカイヴ化と美術史研究における活用の可能性」
講師：日本大学芸術学部　木村三郎氏・日本学術振興会特別研究員（PD）打林 俊氏

特別講演　13:20～13:50　「目録整備の重要性と配慮すべき視点～資料保存・管理・活用の側面から」
講師：文化庁文化財部美術学芸課　美術館・歴史博物館室　松本純子氏

特別講演　14:00～14:50　「風化金石文撮影の意義と解析型アーカイブ」
講師：神戸学院大学　現代社会学部　上椙英之氏

資料保存実用講座　15:00～17:30　情報保存研究会の出展企業による資料保存にかかわるさまざまなツールやシステムについての総合的なプレゼンテーション

後 援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、国立大学図書館協会、私立大学図書館協会、全国大学史資料協議会、文化財保存修復学会、ARMA東京支部、企業史料協議会、記録管理学会、日本アーカイブズ学会、アート・ドキュメンテーション学会、専門図書館協議会、デジタル情報記録管理協会、日本写真学会　（以上予定・順不同）

プログラム

9:20～9:50　受付
9:50～9:55　JHKあいさつ
10:00～10:50　特別講演「歴史的典籍 NW 事業の目指すもの」国文学研究資料館　古典籍共同研究事業センター　山本和明氏
11:00～11:50　特別講演「絵画複製写真のデジタル・アーカイヴ化と美術史研究における活用の可能性」日本大学芸術学部　木村三郎氏・日本学術振興会特別研究員（PD）打林 俊氏
11:50～13:20　企業展示（昼休み）
13:20～13:50　特別講演「目録整備の重要性と配慮すべき視点～資料保存・管理・活用の側面から」文化庁文化財部美術学芸課　美術館・歴史博物館室　松本純子氏
14:00～14:50　特別講演「風化金石文撮影の意義と解析型アーカイブ」神戸学院大学　現代社会学部　上椙英之氏
15:00～17:30　資料保存実用講座
10:00～18:00　企業展示（10時より随時して行っております）
（資料保存実用講座と企業展示については、裏面をご覧ください）

東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅（A9出口）徒歩4分
東京メトロ東西線 竹橋駅（1b出口）徒歩4分

お申し込み方法のご案内：①お名前 ②ご所属 ③E-mailアドレスまたは電話番号をご記入の上、情報保存研究会・シンポジウム担当まで E-mail（sympo2015@e-jhk.com）またはFAX（03-6321-0123）でお申し込みください。ご提供いただいた個人情報は、シンポジウムの実施・運営にのみ使用いたします。
昼食のご案内：お弁当をご希望いただいた場合は、一橋講堂 中会議場でお召し上がりいただくことができます。

情報保存研究会　〒153-0043　東京都目黒区東山3-1-9-1001　㈱プリッシュ気付　http://www.e-jhk.com

平成28(2016)年10月8日
高知市立自由民権記念館　記念講演会



自由民権記念館企画展
「中江兆民と『三酔人経綸問答』－1 世紀の時をへて出現した自筆原稿－」
・10 月 8 日(土)～12 月 25 日(日)　・2 階 特別展示室　※常設展示観覧券必要

記念講演会

中江兆民と『三酔人経綸問答』自筆草稿の意義

講師　国文学研究資料館教授 谷川惠一氏

『三酔人経綸問答』は、中江兆民の代表的著作です。
このたび新たに『三酔人経綸問答』の自筆草稿が発見され、国文学研究資料館の所蔵となりました。これは従来まったく知られていなかったものであり、兆民がこの著作をどのように書き進めていったかを、知ることができる貴重な資料です。

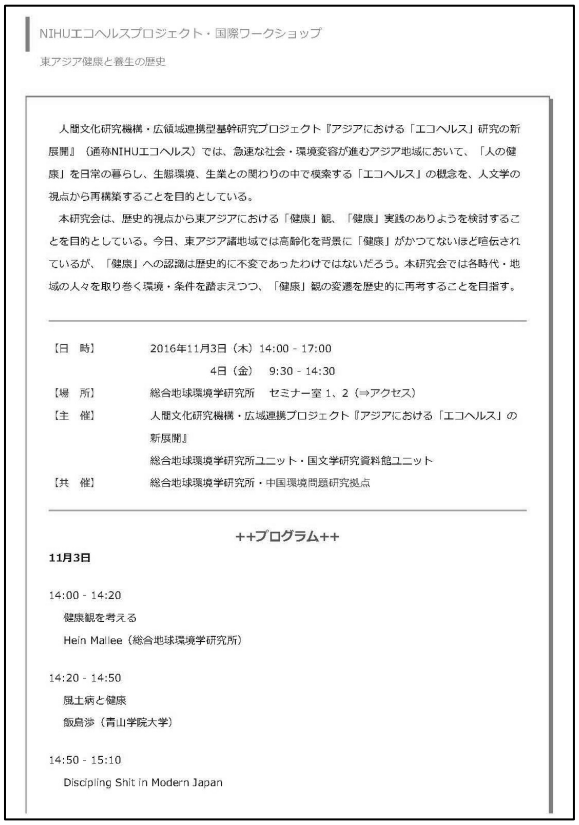
今回の記念講演会では、この草稿について、兆民の推敲の跡をたどり、兆民自筆とされる高知市立自由民権記念館所蔵の『策論』などとも比較しながら、『三酔人経綸問答』が出版された明治 20(1887)年にさかのぼって分かりやすく紹介します。

自筆草稿 国文学研究資料館所蔵　『三酔人経綸問答』 当館所蔵

○ 2016（H28）年10月8日（土）　午後2時～4時
○ 自由民権記念館 民権ホール（高知市桟橋通４丁目 14-3）
○ 入場無料・駐車場あり・どなたでもご自由に参加できます。

主催　高知市立自由民権記念館　大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
《お問い合わせ》高知市立自由民権記念館　TEL 088-831-3336

平成28(2016)年11月3日～11月4日
NIHUエコヘルスプロジェクト・国際ワークショップ



NIHUエコヘルスプロジェクト・国際ワークショップ
東アジア健康と養生の歴史

人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト『アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開』（通称NIHUエコヘルス）では、急速な社会・環境変容が進むアジア地域において、「人の健康」を日常の暮らし、生態環境、生業との関わりの中で捉える「エコヘルス」の概念を、人文学の視点から再構築することを目的としている。
本研究会は、歴史的視点から東アジアにおける「健康」観、「健康」実践のありようを検討することを目的としている。今日、東アジア諸地域では高齢化を背景に「健康」がかつてないほど喧伝されているが、「健康」への認識は歴史的に不変であったわけではないだろう。本研究会では各時代・地域の人々を取り巻く環境・条件を踏まえつつ、「健康」観の変遷を歴史的に再考することを目指す。

【日　時】　2016年11月3日（木）14:00 - 17:00
4日（金）　9:30 - 14:30
【場　所】　総合地球環境学研究所　セミナー室 1、2（⇒アクセス）
【主　催】　人間文化研究機構・広域連携プロジェクト『アジアにおける「エコヘルス」の新展開』
総合地球環境学研究所ユニット・国文学研究資料館ユニット
【共　催】　総合地球環境学研究所・中国環境問題研究拠点

++プログラム++

11月3日

14:00 - 14:20
健康観を考える
Hein Mallee（総合地球環境学研究所）

14:20 - 14:50
風土病と健康
飯島渉（青山学院大学）

14:50 - 15:10
Discipling Shit in Modern Japan
Alex BAY（Chapman University）

15:10 - 15:40
軍隊胸腺炎問題にみる日本男児の健康観
市川哲生（長崎大学）

15:40 - 16:00
休憩

16:00 - 16:30
結核からみる近代中国の「働く身体」と「健康」
福士由紀（首都大学東京）

16:30 - 17:00
養生術の獅谷融合過程に見る人体認識の変遷：「家」に喩えられた身体を中心に
趙菁（金沢大学）

11月4日

9:30 - 10:00
小学校教科書の記述にみる中華民国初期の健康観
戸部健（静岡大学）

10:00 - 10:30
韓国近代における健康の教え：宣教団体の出版物を通じて
キム・ヨンス（延世大学）

10:30 - 11:00
中国の花卉園芸文化にみる養生思想
久保　輝幸（武漢工理大学）

11:00 - 11:10
休憩

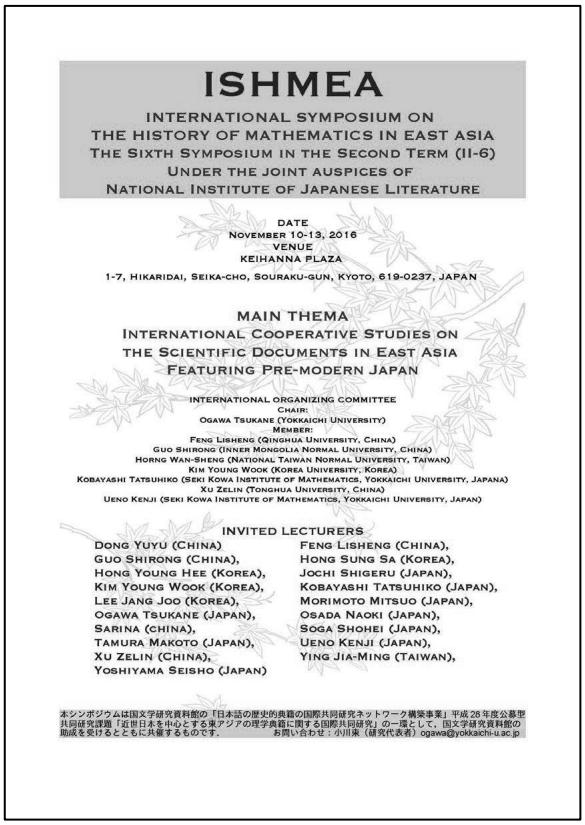
11:10 - 11:40
日本における"お灸"の文化史
長野　仁（森ノ宮医療大学）

11:40 - 12:10
中国における「治未病」の歴史について
梁峻（北京中医薬大学）

12:10 - 13:30
昼食

13:30 - 14:30
総合討論

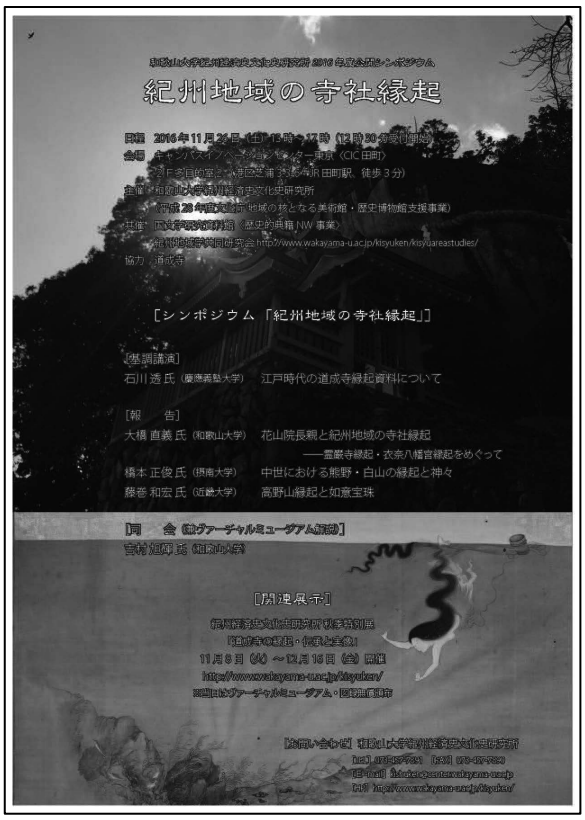
平成28(2016)年11月10日
国際共同シンポジウム「ISHMEA」



平成28(2016)年11月19日
公開シンポジウム「文雅の記憶」



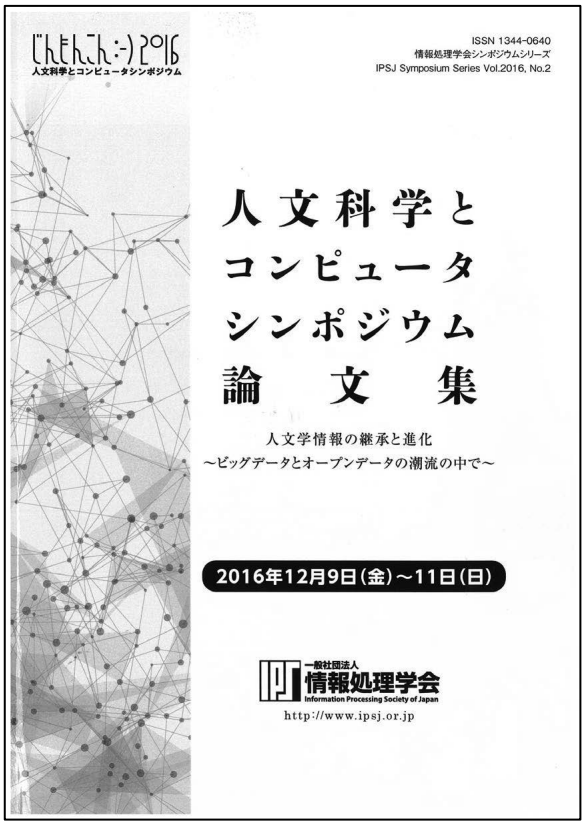
平成28(2016)年11月26日
和歌山大学紀州経済史文化史研究所
2016年度公開シンポジウム



平成28(2016)年12月9日
「歴史的典籍オープンデータワークショップ」
（アイデアソン）



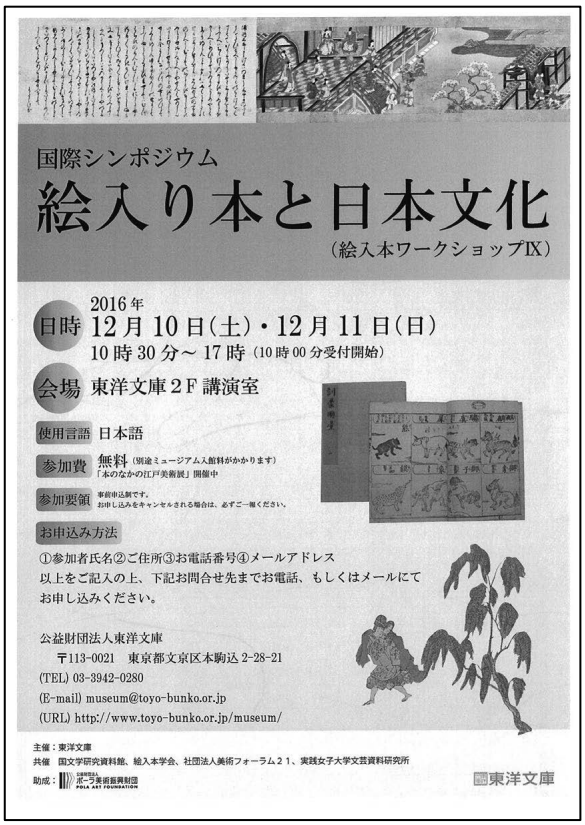
平成28(2016)年12月9日～12月11日
じんもんこん2016



平成28(2016)年12月9日
じんもんこん2016　特別講演



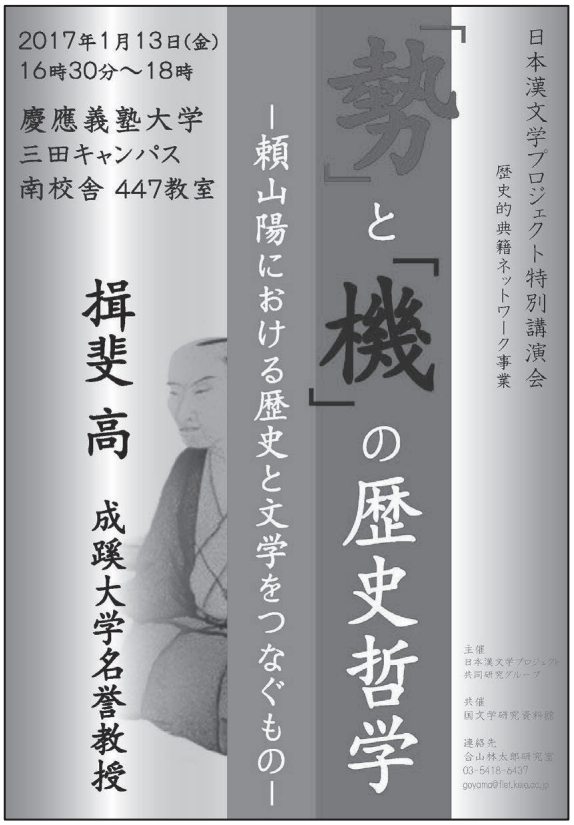
平成28(2016)年12月10日～12月11日
国際シンポジウム「絵入り本と日本文化」



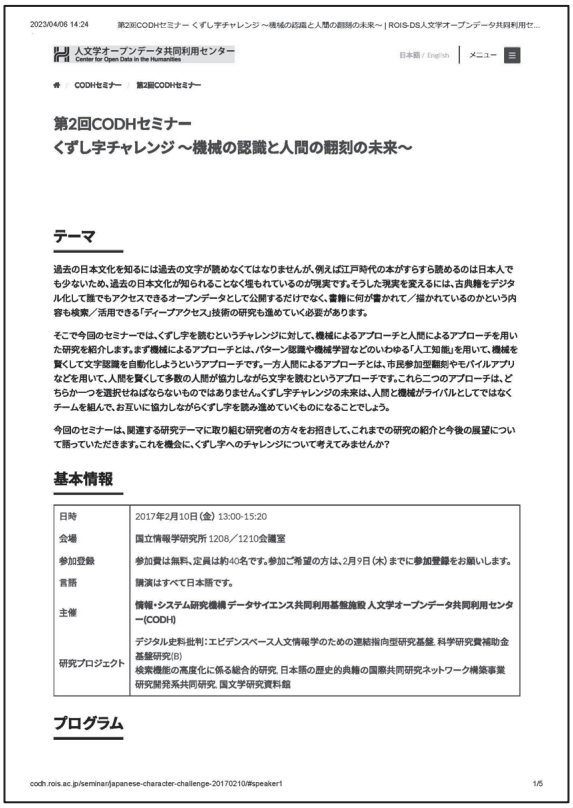
平成29(2017)年1月9日
国際シンポジウム「世界の写本、日本の写本」



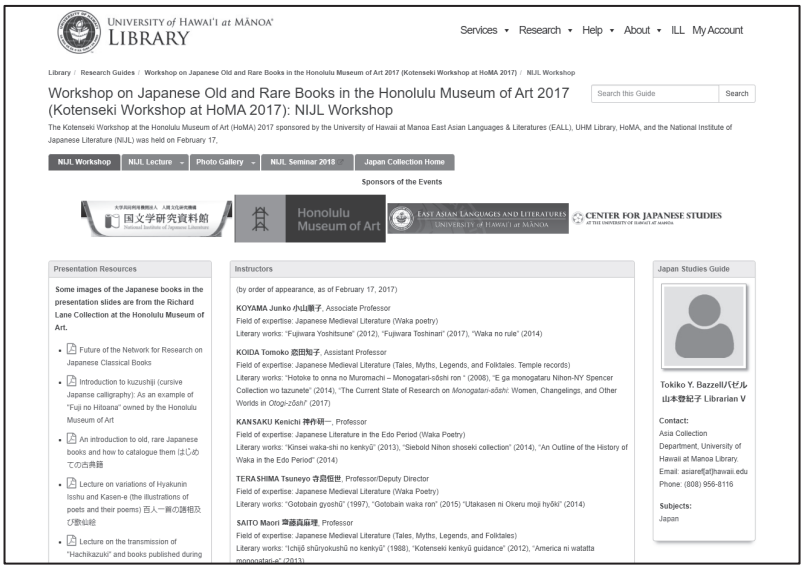
平成29(2017)年1月13日
日本漢文学プロジェクト特別講演会



平成29(2017)年2月10日
第2回ＣＯＤＨセミナー



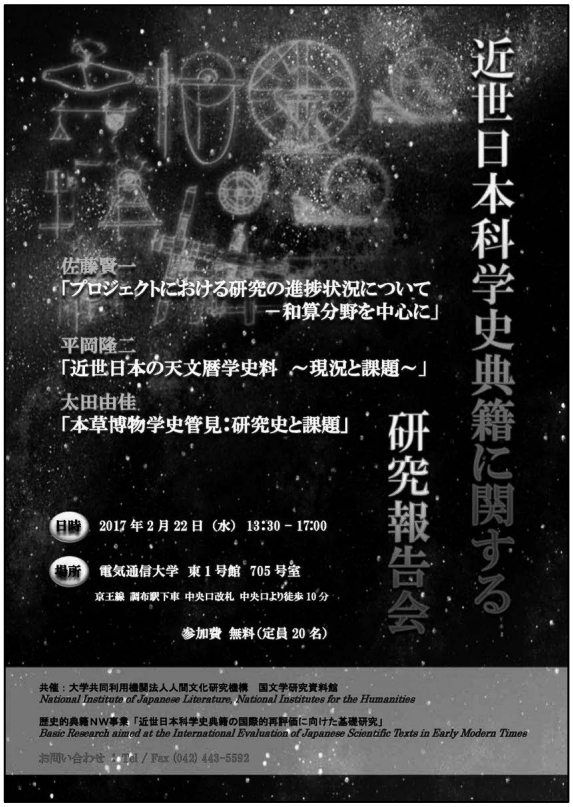
平成29(2017)年2月17日
Workshop on Japanese Old and Rare Books
(the Honolulu Museum of Art)



平成29(2017)年2月19日
市民参加型ワークショップ
「「古典」オーロラハンター２」



平成29(2017)年2月22日
近世日本科学史典籍に関する研究報告会



平成29(2017)年3月3日
「Kotenseki Workshop 2017(Workshop on Japanese Old and Rare Books)」

古典籍ワークショップ
Workshop on Japanese Old and Rare Books

Introduction by Toshie Marra

9:30-5:00 p.m., March 3, 2017
Sponsored by:
Center for Japanese Studies/C. V. Starr East Asian Library,
University of California, Berkeley
and National Institute of Japanese Literature
http://guides.lib.berkeley.edu/kotensekiWorkshop2017

平成29(2017)年3月13日～3月17日
2017年CEAL（Council on East Asian Libraries）年次大会



CEAL 2017 Annual Meeting Program

Challenges and Opportunities:
East Asian Librarianship Today and Tomorrow

March 13 - 17 | Sheraton Centre Toronto Downtown

Monday -- March 13 (Pre-Conference)

12:00 PM - 5:00 PM
Doing Digital Scholarship in Japanese Studies: Innovations and Challenges [Day 1]
North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (NCC)
University of Toronto -- Robarts Library -- Blackburn Room -- 4th floor

Tuesday -- March 14 (Pre-Conference)

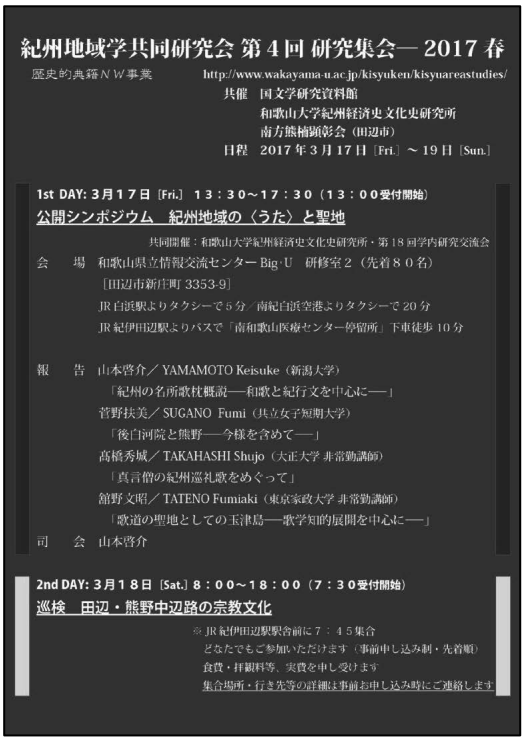
8:15 AM - 11:45 AM
2017 CEAL Cataloging Workshop
CEAL Committee on Technical Processing
University of Toronto -- Multi-Faith Centre, Main Activity Hall -- Room 208
569 Spadina Avenue, Toronto, ON M5S 2J7

9:00 AM - 5:00 PM
Doing Digital Scholarship in Japanese Studies: Innovations and Challenges [Day 2]
North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (NCC)
University of Toronto -- Robarts Library -- Blackburn Room, 4th floor

12:45 PM - 2:45 PM
2017 CEAL ERMB Workshop: OpenURL, COUNTER, and SUSHI
Electronic Resources Metadata Best Practices (ERMB Sub-Committee)
University of Toronto -- Multi-Faith Centre, Main Activity Hall, Room 208
569 Spadina Avenue, Toronto, ON M5S 2J7

Updated: 03/11/2017 Page 1 of 10

平成29(2017)年3月17日～3月19日
紀州地域学共同研究会第4回研究集会―2017春



紀州地域学共同研究会 第４回 研究集会― 2017 春

歴史的典籍ＮＷ事業 http://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/kisyuareastudies/

共催 国文学研究資料館
和歌山大学紀州経済史文化史研究所
南方熊楠顕彰会（田辺市）

日程 2017年３月17日［Fri.］～19日［Sun.］

1st DAY: ３月１７日［Fri.］１３：３０～１７：３０（１３：００受付開始）

公開シンポジウム 紀州地域の〈うた〉と聖地

共同開催：和歌山大学紀州経済史文化史研究所・第18回学内研究交流会

会 場 和歌山県立情報交流センター Big-U 研修室２（先着８０名）
［田辺市新庄町 3353-9］
JR白浜駅よりタクシーで５分／南紀白浜空港よりタクシーで20分
JR紀伊田辺駅よりバスで「南和歌山医療センター停留所」下車徒歩10分

報 告 山本啓介／YAMAMOTO Keisuke（新潟大学）
「紀州の名所歌枕概説――和歌と紀行文を中心に――」
菅野扶美／SUGANO Fumi（共立女子短期大学）
「後白河院と熊野――今様を含めて――」
髙橋秀城／TAKAHASHI Shujo（大正大学 非常勤講師）
「真言僧の紀州巡礼歌をめぐって」
舘野文昭／TATENO Fumiaki（東京家政大学 非常勤講師）
「歌道の聖地としての玉津島――歌学知的展開を中心に――」

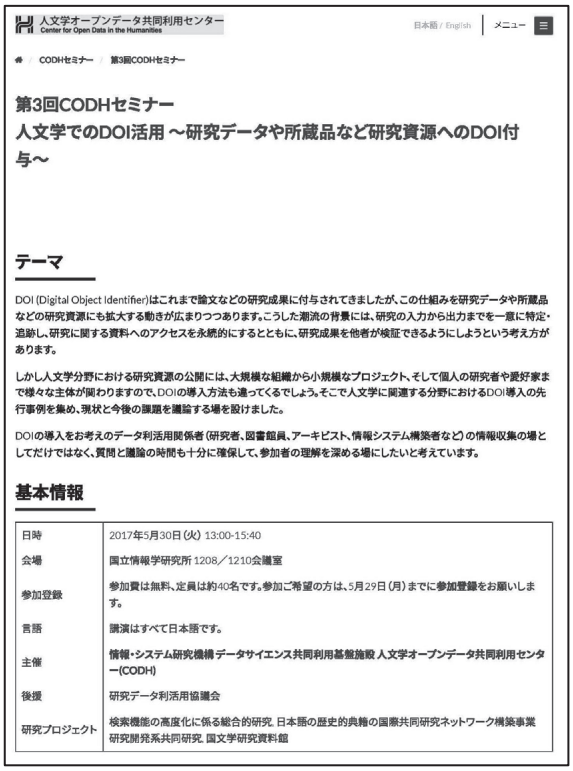
司 会 山本啓介

2nd DAY: ３月１８日［Sat.］８：００～１８：００（７：３０受付開始）

巡検 田辺・熊野中辺路の宗教文化

※JR紀伊田辺駅改前に７：４５集合
どなたでもご参加いただけます（事前申し込み制・先着順）
食費・拝観料等、実費を申し受けます
集合場所・行き先等の詳細は事前お申し込み時にご連絡します

平成29(2017)年5月30日
第3回ＣＯＤＨセミナー



人文学オープンデータ共同利用センター
Center for Open Data in the Humanities

日本語 / English | メニュー

CODHセミナー / 第3回CODHセミナー

第3回CODHセミナー
人文学でのDOI活用 ～研究データや所蔵品など研究資源へのDOI付与～

テーマ

DOI (Digital Object Identifier)はこれまで論文などの研究成果に付与されてきましたが、この仕組みを研究データや所蔵品などの研究資源にも拡大する動きが広まりつつあります。こうした潮流の背景には、研究の入力から出力までを一意に特定・追跡し、研究に関する資料へのアクセスを永続的にするとともに、研究成果を他者が検証できるようにしようという考え方があります。

しかし人文学分野における研究資源の公開には、大規模な組織から小規模なプロジェクト、そして個人の研究者や愛好家まで様々な主体が関わりますので、DOIの導入方法も違ってくるでしょう。そこで人文学に関連する分野におけるDOI導入の先行事例を集め、現状と今後の課題を議論する場を設けました。

DOIの導入をお考えのデータ利活用関係者（研究者、図書館員、アーキビスト、情報システム構築者など）の情報収集の場としてだけではなく、質問と議論の時間も十分に確保して、参加者の理解を深める場にしたいと考えています。

基本情報

日時	2017年5月30日(火) 13:00-15:40
会場	国立情報学研究所 1208／1210会議室
参加登録	参加費は無料、定員は約40名です。参加ご希望の方は、5月29日(月)までに参加登録をお願いします。
言語	講演はすべて日本語です。
主催	情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター(CODH)
後援	研究データ利活用協議会
研究プロジェクト	検索機能の高度化に係る総合的研究 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業 研究開発系共同研究 国文学研究資料館

平成29(2017)年7月15日
文献観光資源学「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト推進に関する覚書の締結記念講演会



「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト

津軽デジタル風土記は、「水が豊かな国の風土記」をコンセプトとして、津軽の魅力を世界に発信していくプロジェクトです。古典籍や歴史資料などには、津軽に生きた人々の多彩な思想・芸能や生活世界がいきいきと記されています。国文学研究資料館が構築した新日本古典籍総合データベースの歴史的典籍画像を活用しつつ、デジタル空間において情報を体系的に連結し、新たな地域の価値を創出します。津軽デジタル風土記の試みは、全国に先駆けたモデル事業となります。

講演者
国文学研究資料館長
ロバート キャンベル 氏
Robert Campbell

国文学研究資料館長。日本文学研究者で、近世・近代日本文学が専門。特に1918(大正7)年の後期～明治初年の漢文学と、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビのMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞紙上連載やラジオなど、多くのメディアで活躍中。ニューヨーク生まれ。ハーバード大学大学院博士課程修了、文学博士。前任は東京大学大学院総合文化研究科教授。『思うことの力―東大駒場連続講義―』(講談社)など著書多数。

講演者
弘前大学名誉教授
長谷川 成一 氏

弘前大学名誉教授。日本史研究者で、近世史が専門。北日本における幕藩体制の研究テーマ、弘前藩の研究における第一人者で、青森県史、新青森市史、新編弘前市史などの編纂を行い、地方史研究の発展に大きく貢献している。秋田県出身(本荘市生まれ)。東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了、文学博士。東京大学史料編纂所助手、弘前大学教授、弘前市立博物館長を歴任。平成28年に青森県文化賞受賞。『近世国家と東北の大名』(吉川弘文館)など著書多数。

文献観光資源学 「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト推進に関する覚書の締結記念講演会

津軽の魅力と文化を世界に発信!
－ 古典籍・歴史資料のデジタル公開に向けて －

日時 平成29年 7月15日(土) 13:00～15:50 入場無料 申込不要

会場 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール［先着250名］

第1部 13:00～13:50
「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト
推進に関する覚書締結式 等

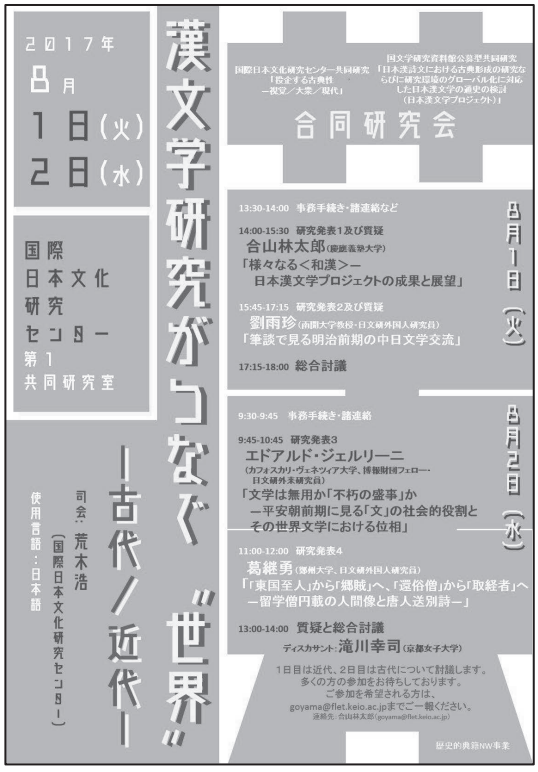
第2部 14:00～15:50
覚書締結記念講演
森林資源の活用から見た近世津軽
－白神山地・岩木川・弘前城下－
弘前大学名誉教授 長谷川 成一 氏
「弘前藩庁日記」に綴まれた江戸のリアリティ
国文学研究資料館長 ロバート キャンベル 氏

問合せ
弘前大学教育学部 総務グループ内 「津軽デジタル風土記」講演会係
TEL 0172-39-3325・3326 FAX 0172-32-1478
MAIL tsugarudejitaru@hirosaki-u.ac.jp

主催 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館 弘前市教育委員会 青森県立郷土館
国立大学法人弘前大学教育学部 国立大学法人弘前大学人文社会科学部
後援 青森県文化財保護協会 青森県民会館 東奥日報社 陸奥新報社 FMアップルウェーブ

国文学研究資料館 弘前大学

平成29(2017)年8月1日～8月2日
国際日本文化研究センター共同研究
国文学研究資料館公募型共同研究
合同研究会



2017年 8月 1日(火) 2日(水)

国際日本文化研究センター 第1共同研究室

漢文学研究がつなぐ"世界"
―古代／近代―

司会 荒木浩（国際日本文化研究センター）
使用言語：日本語

国際日本文化研究センター共同研究「授受する古典性―漢文／大衆／現代―」
国文学研究資料館公募型共同研究「日本漢文における古典形成の研究ならびに研究環境のグローバル化に対応した日本漢文学の通史的検討（日本漢文学プロジェクト）」

合同研究会

8月1日(火)

13:30-14:00 事務手続き・諸連絡など

14:00-15:30 研究発表1及び質疑
合山林太郎(慶應義塾大学)
「様々なる〈和漢〉―日本漢文学プロジェクトの成果と展望」

15:45-17:15 研究発表2及び質疑
劉雨珍(南開大学教授・日文研外国人研究員)
「筆談で見る明治前期の中日文学交流」

17:15-18:00 総合討議

8月2日(水)

9:30-9:45 事務手続き・諸連絡

9:45-10:45 研究発表3
エドアルド・ジェルリーニ
(カフォスカリ・ヴェネツィア大学、博報財団フェロー・日文研外来研究員)
「文学は無用か「不朽の盛事」か―平安朝前期に見る「文」の社会的役割とその世界文学における位相」

11:00-12:00 研究発表4
葛継勇(鄭州大学、日文研外国人研究員)
「「東国至人」から「郷賊」へ、「遥俗僧」から「取経者」へ―留学僧円載の人間像と唐人送別詩―」

13:00-14:00 質疑と総合討議
ディスカサント：滝川幸司(京都女子大学)

1日目は近代、2日目は古代について討議します。多くの方の参加をお待ちしております。ご参加を希望される方は、goyama@flet.keio.ac.jpまでご一報ください。
連絡先：合山林太郎(goyama@flet.keio.ac.jp)

歴史的典籍NW事業

平成29(2017)年8月4日
国際ワークショップ「東アジアの思想と文学＋α ： 古文辞派を考える」



国際ワークショップ「東アジアの思想と文学＋α：古文辞派を考える」
歴史的典籍NW事業

講演 盧 京 姫
蔚山大学校副教授
Prof. Kyung Hee RHO
University of Ulsan

朝鮮の擬古文派（秦漢古文派）と近世日本の古文辞派
-韓国における研究の現状と展望-

ディスカッサント
澤井啓一 Keiichi SAWAI
高山大毅 Daiki TAKAYAMA
藍弘岳 Hung Yueh LAN

2017年8月4日16:30~18:00
専修大学 神田キャンパス
７号館 773教室 使用言語：日本語

江戸時代（近世）の日本の思想や文芸に大きな足跡を残した荻生徂徠とその一派が、明代の前七子・後七子に学んだことはよく知られています。朝鮮においても、許筠や申維翰、李彦瑱など、同じ明の学派を支持した人々がいました。この研究集会では、韓国の最新の研究成果を参照しながら、朝鮮王朝と近世日本における、明代の文学思潮の受容のあり方について議論します。

主催 荻生徂徠研究会、日本漢文学プロジェクト　共催 国文学研究資料館
連絡先 合山林太郎 03-5418-6437 goyama@flet.keio.ac.jp

平成29(2017)年8月4日～8月5日
「ARC Days 2017」



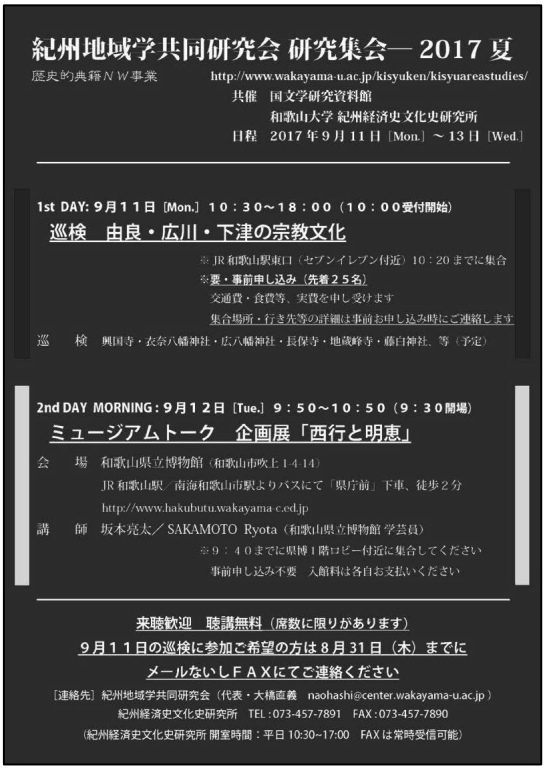
平成29(2017)年8月29日
和漢比較文学会
第十回海外特別例会　研究交流会



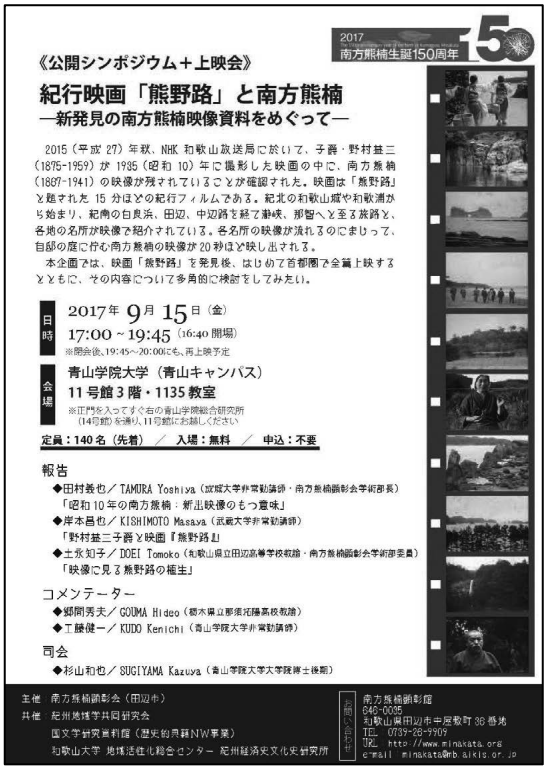
平成29(2017)年8月30日
2017年EAJSリスボン大会
プレイベント



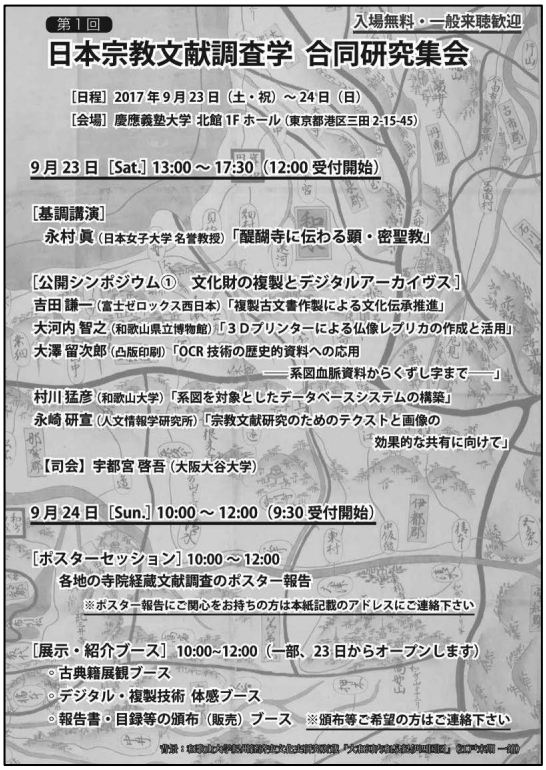
平成29(2017)年9月11日～9月13日
紀州地域学共同研究会 研究集会― 2017 夏



平成29(2017)年9月15日
《公開シンポジウム＋上映会》
紀行映画「熊野路」と南方熊楠



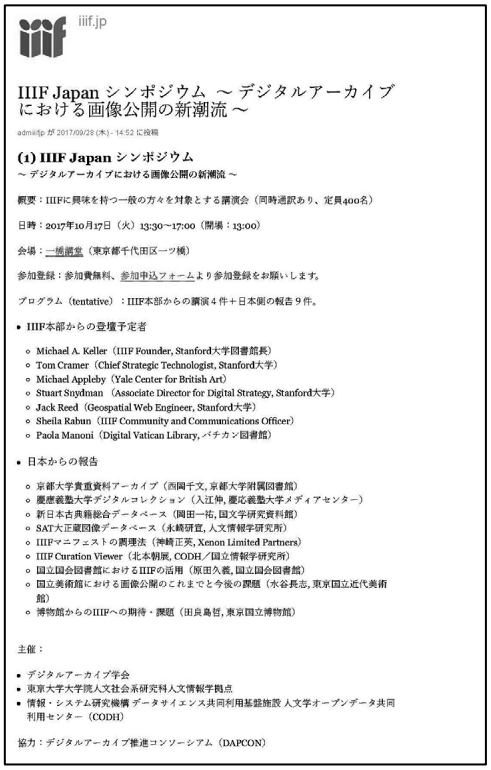
平成29(2017)年9月23日～9月24日
第1回　日本宗教文献調査学
合同研究集会



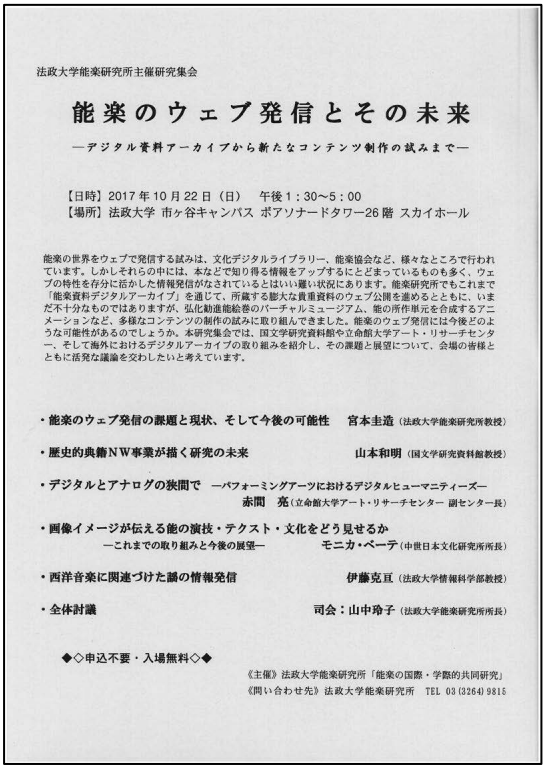
平成29(2017)年10月1日
2017年度 公開研究会
「霊験寺院の書物と言説」



平成29(2017)年10月17日
IIIF Japan シンポジウム



平成29(2017)年10月22日
法政大学能楽研究所主催研究集会



法政大学能楽研究所主催研究集会

能楽のウェブ発信とその未来

―デジタル資料アーカイブから新たなコンテンツ制作の試みまで―

【日時】2017年10月22日（日）　午後1：30～5：00
【場所】法政大学 市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー26階 スカイホール

能楽の世界をウェブで発信する試みは、文化デジタルライブラリー、能楽協会など、様々なところで行われています。しかしそれらの中には、本などで知り得る情報をアップするにとどまっているものも多く、ウェブの特性を存分に活かした情報発信がなされているとはいい難い状況にあります。能楽研究所でもこれまで「能楽資料デジタルアーカイブ」を通じて、所蔵する膨大な貴重資料のウェブ公開を進めるとともに、いまだ不十分なものではありますが、弘化勧進能絵巻のバーチャルミュージアム、能の所作単元を合成するアニメーションなど、多様なコンテンツの制作の試みに取り組んできました。能楽のウェブ発信には今後どのような可能性があるのでしょうか。本研究集会では、国文学研究資料館や立命館大学アート・リサーチセンター、そして海外におけるデジタルアーカイブの取り組みを紹介し、その課題と展望について、会場の皆様とともに活発な議論を交わしたいと考えています。

・能楽のウェブ発信の課題と現状、そして今後の可能性　宮本圭造（法政大学能楽研究所教授）
・歴史的典籍NW事業が描く研究の未来　山本和明（国文学研究資料館教授）
・デジタルとアナログの狭間で　―パフォーミングアーツにおけるデジタルヒューマニティーズ―　赤間　亮（立命館大学アート・リサーチセンター 副センター長）
・画像イメージが伝える能の演技・テクスト・文化をどう見せるか　―これまでの取り組みと今後の展望―　モニカ・ベーテ（中世日本文化研究所所長）
・西洋音楽に関連づけた謡の情報発信　伊藤克亘（法政大学情報科学部教授）
・全体討議　司会：山中玲子（法政大学能楽研究所所長）

◆◇申込不要・入場無料◇◆

《主催》法政大学能楽研究所「能楽の国際・学際的共同研究」
《問い合わせ先》法政大学能楽研究所　TEL 03(3264)9815

平成29(2017)年11月6日
JaLC研究データ利活用協議会
平成29年度第１回研究会



ジャパンリンクセンター（JaLC）
研究データ利活用協議会 平成29年度第1回研究会
Japan Link Center

「デジタルアーカイブ」と「研究データ」の出会いシンポジウム
"Digital Archive" meets "Research Data"
～データの保存と活用へ、ライブラリアンとアーキビストの挑戦

図書館をはじめ、博物館・美術館、文書館等は、デジタ ルデータの保存・管理・活用にあたり、技術的課題や法務的課題など、様々な場面で発生する新たな課題に直面しています。それらの課題は、研究データにおけるものと共通しています。このシンポジウムでは、9月に開催された研究データ及びデジタル長期保存に関する国際会議の議論を共有するとともに、デジタルアーカイブと研究データの親和性に注目して、両者の共通課題を共有しその解決に向けて議論します。

日時: 2017年11月6日(月)
13:30～17:45（13:00開場）

会場: 国立国会図書館 東京本館 新館講堂
東京都千代田区永田町1-10-1 東京メトロ永田町駅より徒歩10分

申込方法　国立国会図書館ホームページ「イベント・展示会情報」の当該イベントページ（http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/201711rda.html）より申込みを受付

RDUF 研究データ利活用協議会 Research Data Utilization Forum
Twitter ハッシュタグ：#JaLC_RDUF2017

参加無料
定員300名
（先着順）

[お問い合わせ先]
国立国会図書館電子情報部電子情報サービス課 次世代システム開発研究室
電話：03-3506-5144（直通）E-Mail: devent@ndl.go.jp

主催：国立国会図書館
後援：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館、
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター

国立国会図書館 National Diet Library, Japan

平成29(2017)年11月25日
「異分野融合による総合書物学の構築」
国語研ユニットシンポジウム

シンポジウム「変体仮名のこれまでとこれから」

プロジェクト名・リーダー名

人間文化研究機構 広領域連携基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の構築」
国立国語研究所ユニット「表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化」
高田 智和 (国立国語研究所 言語変化研究領域 准教授)

共催

情報処理推進機構 国際標準推進センター
国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター

開催期日

平成29年11月25日 (土) 10:30～18:00

開催場所

国立国語研究所 講堂 (東京都立川市緑町10-2)
交通案内

参加費・事前申込み

不要

平成29(2017)年12月7日
国際研究ワークショップ
【江戸の知と随想】



Journée d'étude internationale

SAVOIRS ET ESSAIS DE L'ÉPOQUE D'EDO

国際研究ワークショップ【江戸の知と随想】

Jeudi 7 décembre 2017, 13:30-18:00
Université Paris Diderot
Halle aux Farines, salle 580F
5, rue Thomas Mann, 75013 Paris

Entrée libre
Langue de travail : japonais

contact : matthias.hayek@univ-paris-diderot.fr
5 rue Thomas Mann, 75013 Paris

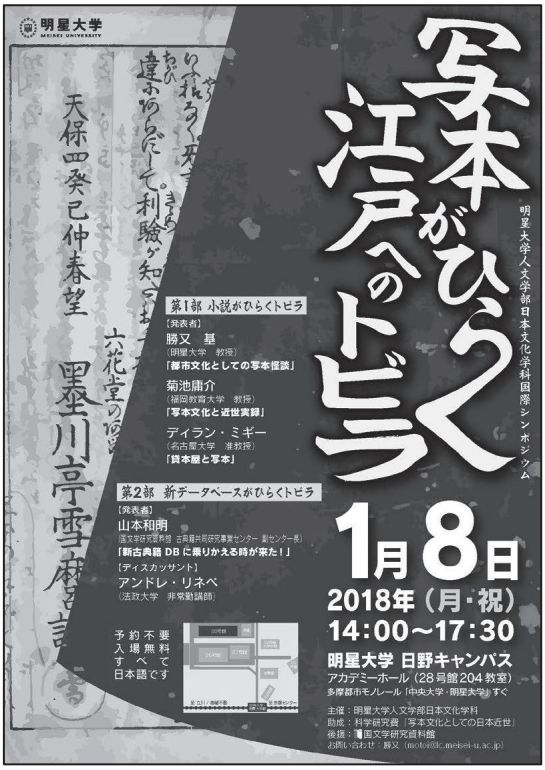
Journée d'étude co-organisée par l'Institut national de littérature japonaise (Tōyōkō) et le Centre de recherche sur les civilisations de l'Asie orientale (CRCAO-UMR 8155, Université Paris Diderot, Sorbonne Paris Cité, CNRS, EPHE, Collège de France)

国立国語研究所 / USPC Université Sorbonne Paris Cité / École Pratique des Hautes Études / CNRS / Collège de France / Paris Diderot / 国文学研究資料館

平成29(2017)年12月8日
歴史的典籍オープンデータワークショップ
(アイデアソン)



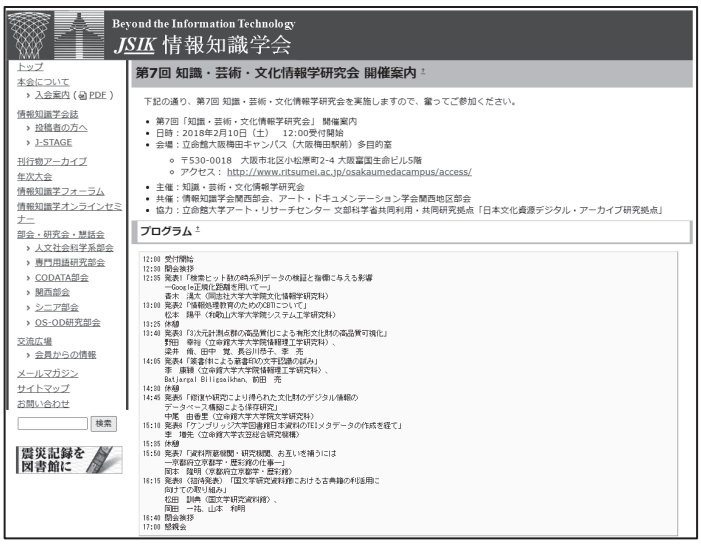
平成30(2018)年1月8日
明星大学人文学部日本文化学科
国際シンポジウム



平成30(2018)年1月19日
人間文化研究機構・味の素食の文化センター
共催シンポジウム



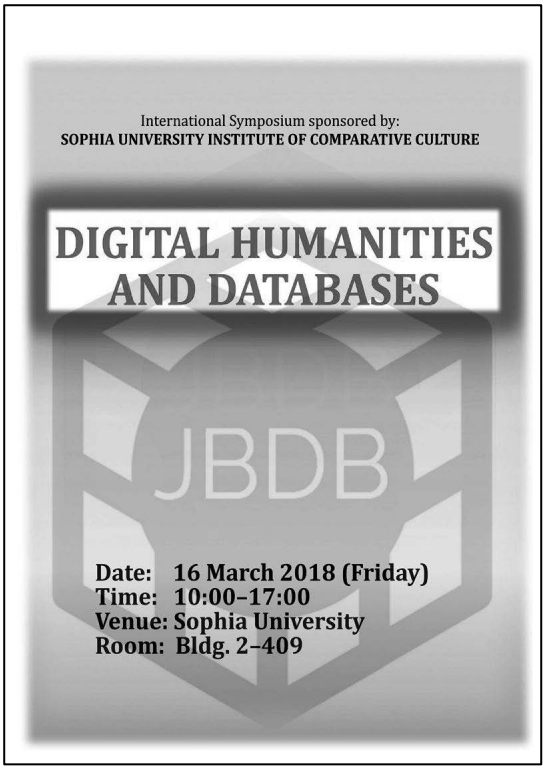
平成30(2018)年2月10日
第7回 知識・芸術・文化情報学研究会



平成30(2018)年2月18日
市民参加型ワークショップ
「『古典』オーロラハンター３」



平成30(2018)年3月16日
International Symposium
"Digital Humanities and Databases"



平成30(2018)年3月22日
PRE-MODERN JAPANESE BOOKS:ISSUES OF MAINTENANCE, UTILIZATION, AND PUBLIC CIRCULATION





平成30(2018)年4月20日
国際シンポジウム「仮名・ものがたり・随想―江戸の〈知〉の展開―」


国文学研究資料館【国際シンポジウム】

国文学研究資料館

仮名・ものがたり・随想
――江戸の〈知〉の展開――

◆ 日 時：2018年4月20日（金）13：30～17：30　（開場：13：00）
◆ 場 所：国文学研究資料館2F、インターナショナル室

◆ プログラム

13：30～13：40　挨　拶　ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）
13：40～13：50　コーディネーター　神作研一（国文学研究資料館教授）
13：50～14：20　ダヴァン ディディエ（国文学研究資料館准教授）
仮名法語が伝えた中世の禅思想―夢窓と大燈の思想的な特徴を中心に
14：20～14：50　恋田知子（国文学研究資料館准教授）
物語草子と仮名法語
14：50～15：20　コメント及び質疑応答　ディスカッサント　入口敦志（国文学研究資料館教授）
15：20～15：50　（休憩）
15：50～16：20　畑中千晶（敬愛大学教授）
知的空間としての『男色大鑑』
16：20～16：50　ダニエル ストリューヴ（パリ・ディドロ大学教授）
西鶴作品と随想の関係について　―　町人ものを中心に
16：50～17：20　コメント及び質疑応答　ディスカッサント　川平敦文（九州大学准教授）
17：20～17：30　閉会のことば　谷川恵一　（国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター長）

◆主　催：国文学研究資料館　◆問い合わせ先：古典遷化研究事業センター　事務室　吉丸雅子（ヨシマル）
TEL: 050(5533)2588（FAX: 042(526)8883　e-mail: ojimu@nijl.ac.jp

◆同時開催：国文学研究資料館展示室　平成ルーム「江戸の人々が見た夢」
会期：平成30年3月15日（木）～5月8日（火）　http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2018/zenn.html

★共催：基盤的国際共同研究事業「中近世日本における知の総合的研究」（代表：ダヴァン・ディディエ）／国際シンポジウム「日本古典籍における文献情報学の基礎的研究」（代表：今西祐一郎）





平成30(2018)年9月19日
研究集会“The Body in Japanese Traditional Performing Arts”（日本古典芸能における身体）


主催：国文学研究資料館　歴史的典籍NW事業国際共同研究「古典芸能と身体」（代表：ボナヴェントゥーラ・ルペルティ）

日本古典芸能における身体

研究集会

The Body in Japanese Traditional Performing Arts

2018年9月19日(水)

9:30-9:45　開会挨拶
ボナヴェントゥーラ・ルペルティ
Bonaventura Ruperti (Università Ca' Foscari Venezia)
コッラード・モルテーニ
Corrado Molteni (Università degli Studi di Milano)

9:45-10:45　「古典芸能と身体：南北劇と産女」
山下則子
(国文学研究資料館 National Institute of Japanese Literature)

10:45-11:15　「荷風『江戸芸術論』における伝統芸能の力」
ガラ・マリア・フォッラコ
Gala Maria Follaco (Università degli Studi di Napoli "L'Orientale")

11:15-11:45　「山姥変奏 - 伝承、古典、能楽から戦後女性文学へ」
ダニエラ・モーロ
Daniela Moro (Università Ca' Foscari Venezia)

11:45-12:45　ラウンドテーブル・ディスカッション「身体表現の形象と語り」
ガラ・マリア・フォッラコ Gala Maria Follaco
クラウディア・ヤッゼッタ Claudia Iazzetta
マティルデ・マストランジェロ Matilde Mastrangelo
ダニエラ・モーロ Daniela Moro
ステファノ・ロマニョーリ Stefano Romagnoli
ボナヴェントゥーラ・ルペルティ Bonaventura Ruperti
鷺山郁子 Ikuko Sagiyama
山下則子 Noriko Yamashita

会場　ミラノ大学
セスト・サン・ジョバンニ　キャンパス
Università degli Studi di Milano
Polo Sesto S. Giovanni
Piazza Indro Montanelli 4, T8 教室

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature





平成30(2018)年11月17日
市民・小学生向け講座「体験しよう！　国友一貫斎が見た太陽黒点」



平成30(2018)年11月18日
市民参加型ワークショップ「『古典』オーロラハンターIN京都」



平成30(2018)年9月11日～12日
International Workshop“A Digital Literary Map of Japan: Contents, Functions, Future Possibilities”
（国際ワークショップ：デジタル日本文学地図―コンテンツ・機能・将来への展望―）



平成30(2018)年9月6日
27th Annual Meeting of the Association of Japanese Literary Studies



平成31(2019)年2月15日
共同シンポジウム
「水害対応の過去－現在－未来」



水害対応の過去-現在-未来

人間文化研究機構国文学研究資料館
茨城大学地球変動適応科学研究機関
共同シンポジウム

2019年2月15日（金）　参加無料 申込不要
13:30-16:30 [13:00開場]
茨城大学図書館3階ライブラリーホール

茨城大学地球変動適応科学研究機関と人間文化研究機構国文学研究資料館は、2017年5月に学術交流協定を締結しました。そこで、同資料館が推進する文部科学省「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業の一環で、「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成」というテーマの異分野融合型の共同研究を開始しました。
本シンポジウムは、様々な専門分野の研究者が水害を共通テーマにして歴史学と気候変動適応科学との接続を議論していきます。

開会
「国文学研究資料館との共同研究とは」
小荒井 衛〔茨城大学理学部 教授〕

基調講演
「歴史天候記録から探る江戸時代後半の気候変動」
平野 淳平〔帝京大学文学部 准教授〕
「災害文化の教え」
畔柳 昭雄〔日本大学理工学部 特任教授〕


平野 淳平氏

畔柳 昭雄氏

講演
「1856年東海・関東台風による江戸の被害状況と社会対応」
渡辺 浩一〔国文学研究資料館 教授〕
「茨城歴史資料からのサイエンスデータの収集及び活用の提案」
野澤 恵〔茨城大学理学部 准教授〕・宮崎 将〔茨城大学理工学研究科 修士1年〕
「『惣囲堤』という知恵－関東・東北豪雨で被災した古文書から－」
添田 仁〔茨城大学人文社会科学部 准教授〕
「鬼怒川・小貝川における水位・流量・浸水域の気候変化影響予測の一例」
若月 泰孝〔茨城大学理学部 准教授〕

総合討論
モデレータ：田村 誠〔茨城大学地球変動適応科学研究機関 副機関長/准教授〕

●主催：茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）
人間文化研究機構国文学研究資料館
●問い合わせ先：茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）
TEL：029-228-8787
Email：icas-con@mx.ibaraki.ac.jp

ご来場は公共交通機関をご利用ください
〔茨城交通バス「茨大前」から徒歩3分〕

茨城大学 Ibaraki University
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

平成31(2019)年2月17日
シンポジウム「書物を耕す―総合書物学の挑戦―」

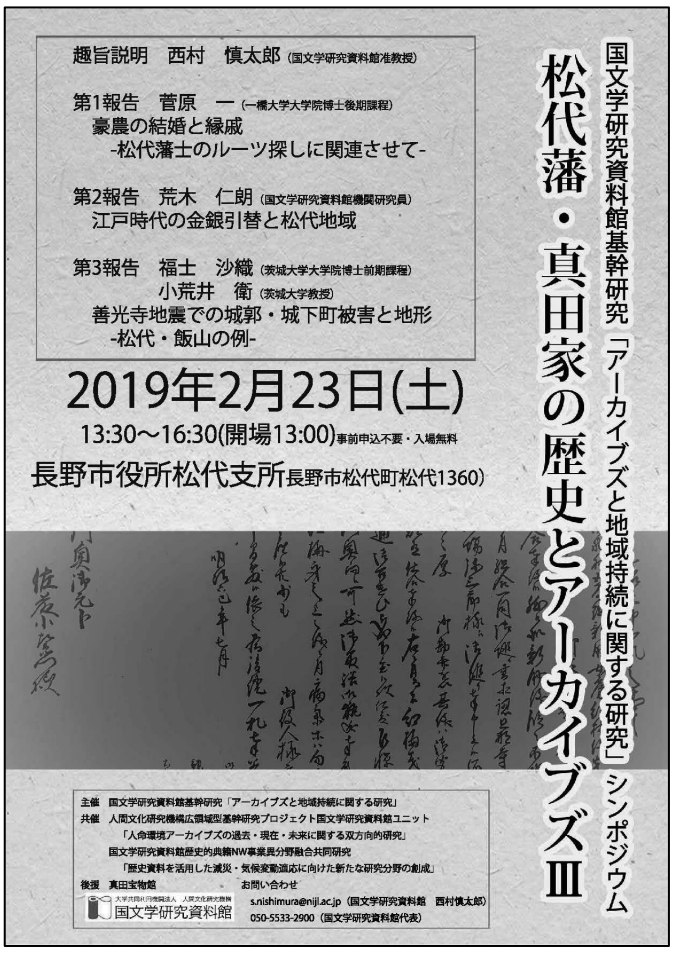




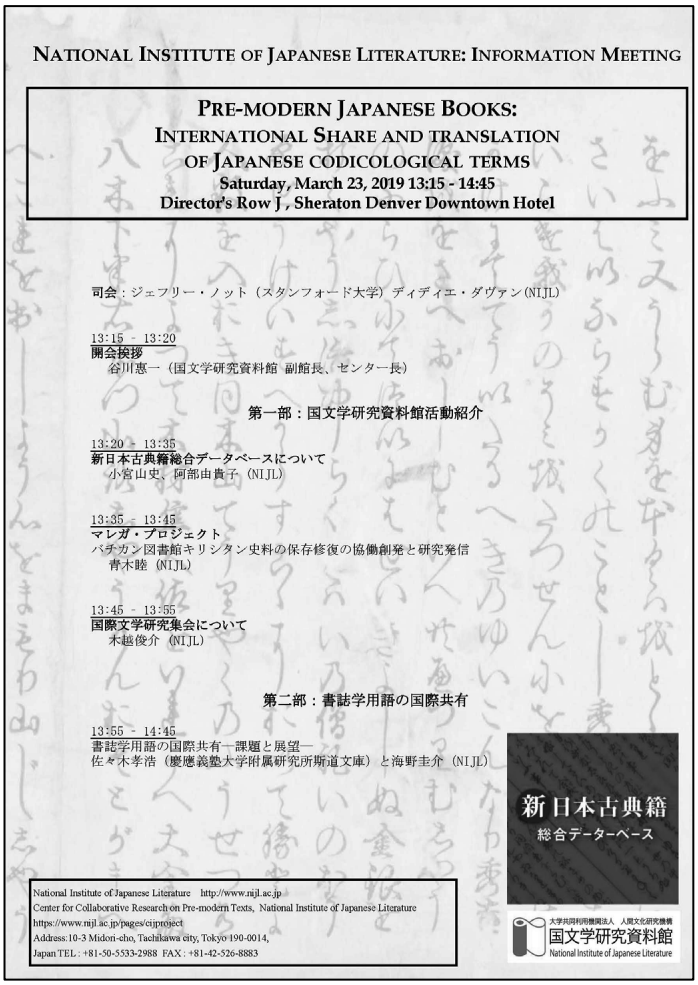
平成31(2019)年2月22日
「第3回古典籍文理融合研究会」

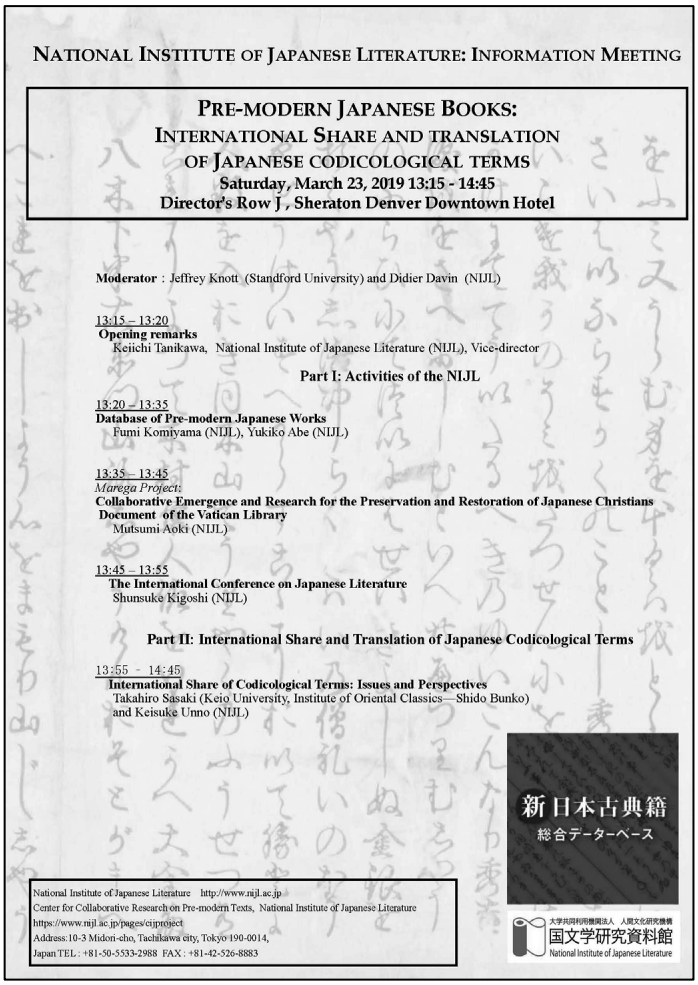


平成31(2019)年2月23日
シンポジウム「松代藩・真田家の歴史とアーカイブズⅢ」



平成31(2019)年3月23日
2019年アジア学会年次大会（AAS 2019 Annual Conference）

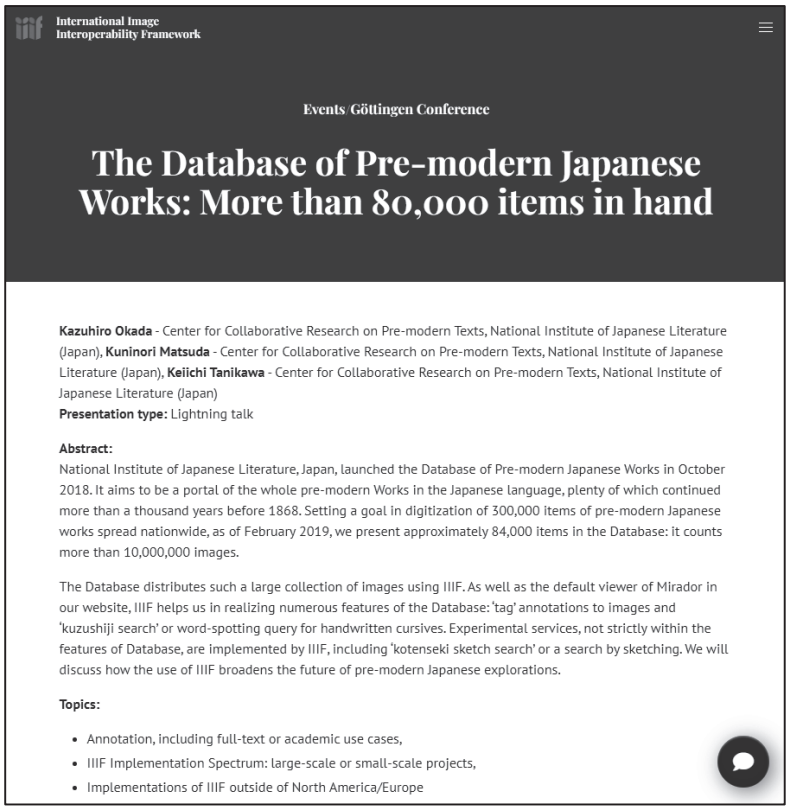








令和元(2019)年6月26日　IIIF2019



International Image Interoperability Framework

Events/Göttingen Conference

The Database of Pre-modern Japanese Works: More than 80,000 items in hand

Kazuhiro Okada - Center for Collaborative Research on Pre-modern Texts, National Institute of Japanese Literature (Japan), **Kuninori Matsuda** - Center for Collaborative Research on Pre-modern Texts, National Institute of Japanese Literature (Japan), **Keiichi Tanikawa** - Center for Collaborative Research on Pre-modern Texts, National Institute of Japanese Literature (Japan)
Presentation type: Lightning talk

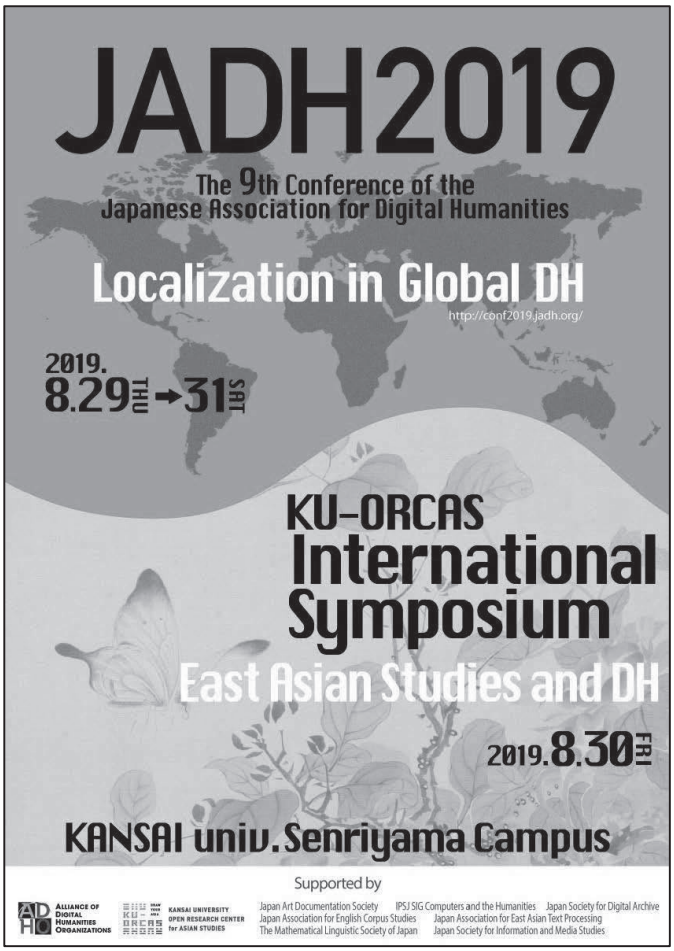
Abstract:
National Institute of Japanese Literature, Japan, launched the Database of Pre-modern Japanese Works in October 2018. It aims to be a portal of the whole pre-modern Works in the Japanese language, plenty of which continued more than a thousand years before 1868. Setting a goal in digitization of 300,000 items of pre-modern Japanese works spread nationwide, as of February 2019, we present approximately 84,000 items in the Database: it counts more than 10,000,000 images.

The Database distributes such a large collection of images using IIIF. As well as the default viewer of Mirador in our website, IIIF helps us in realizing numerous features of the Database: 'tag' annotations to images and 'kuzushiji search' or word-spotting query for handwritten cursives. Experimental services, not strictly within the features of Database, are implemented by IIIF, including 'kotenseki sketch search' or a search by sketching. We will discuss how the use of IIIF broadens the future of pre-modern Japanese explorations.

Topics:

- Annotation, including full-text or academic use cases,
- IIIF Implementation Spectrum: large-scale or small-scale projects,
- Implementations of IIIF outside of North America/Europe

令和元(2019)年8月29日～31日　JADH2019





JADH2019

[Workshop 1]
Workshop on TEI by SIG-EA/JP

Kazuhiro Okada, Satoru Nakamura, Kiyonori Nagasaki

Description
The workshop focuses on an introductory tutorial on textual markup according to Text Encoding Initiative (TEI), the international de-facto standard. As the tutorial is based on the activities of the Special Interest Group of East Asian/ Japanese, participants will learn about how to encode Japanese texts partially including characteristics of Chinese. After this workshop, participants will have skills of XML markup and structuring texts for humanities. (This workshop will be held mainly in English with some additional Japanese explanation).

Relevance to the DH Community
While TEI is a basic technology for digital humanities in the world, it has not spread enough among Asian countries. The workshop will provide an opportunity to bridge the gap.

Instructors
Kazuhiro Okada, Assistant professor, National Institute for Japanese Literature
Satoru Nakamura, Assistant professor, The University of Tokyo
Kiyonori Nagasaki, Senior fellow, International Institute for Digital Humanities

Target Audience and Prereqs
This workshop will offer the tutorial for people who are interested in how to structuralize text data for humanities especially for Japanese studies. Each participant will be expected to have a basic knowledge on HTML and/or XML.
Each participant must bring a laptop computer which enables to run Java environment, connect Wifi, and has USB type A slot to insert a USB memory.

Language
English

Workshop Outline
1. How texts should be structuralized for humanities?
 - Background: interoperability and sustainability
 - Diversity in the humanities

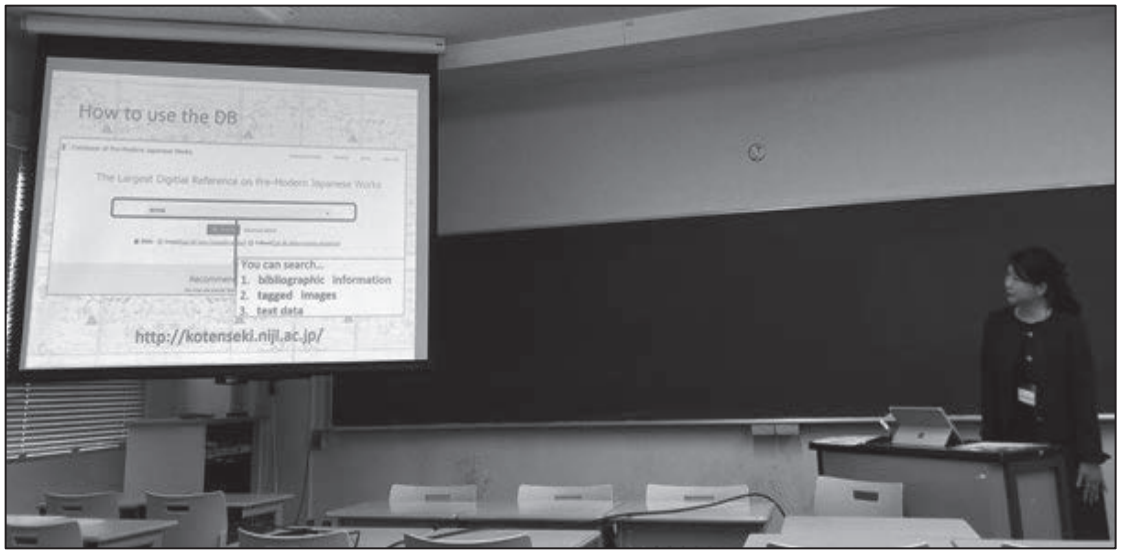
7

令和元(2019)年9月9日
シンポジウム“Circulation et production des savoirs entre le Moyen âge et l’époque d’Edo”
（中近世における知の交通）





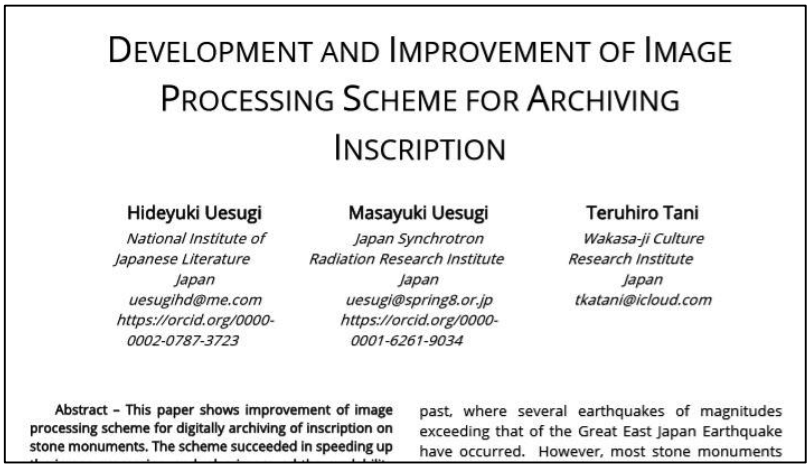
令和元(2019)年9月14日～15日　第3回EAJS日本会議





令和元(2019)年9月17日
iPRES 2019（International Conference on Digital Preservation）





DEVELOPMENT AND IMPROVEMENT OF IMAGE PROCESSING SCHEME FOR ARCHIVING INSCRIPTION

Hideyuki Uesugi
National Institute of Japanese Literature
Japan
uesugihd@me.com
https://orcid.org/0000-0002-0787-3723

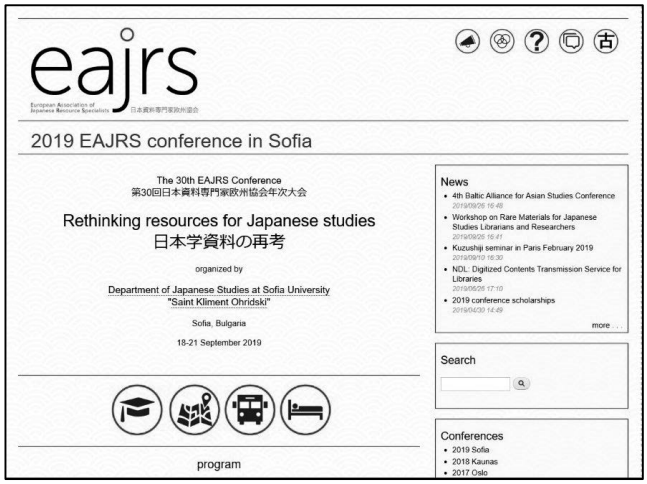
Masayuki Uesugi
Japan Synchrotron Radiation Research Institute
Japan
uesugi@spring8.or.jp
https://orcid.org/0000-0001-6261-9034

Teruhiro Tani
Wakasa-ji Culture Research Institute
Japan
tkatani@icloud.com

Abstract – This paper shows improvement of image processing scheme for digitally archiving of inscription on stone monuments. The scheme succeeded in speeding up

past, where several earthquakes of magnitudes exceeding that of the Great East Japan Earthquake have occurred. However, most stone monuments

令和元(2019)年9月18日～21日
The 30th EAJRS Conference（第30回日本資料専門家欧州協会年次大会）





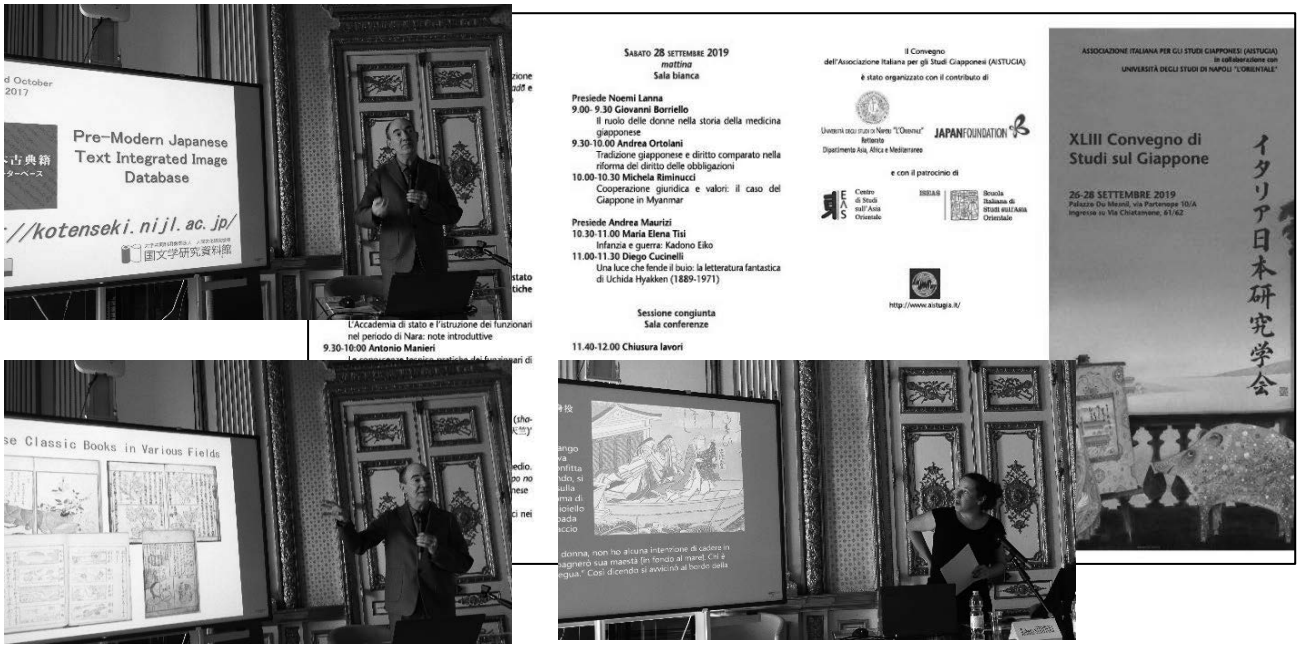
令和元(2019)年9月24日
“The Body in Japanese Traditional Performing Arts”（日本古典芸能における身体）







令和元(2019)年9月26日　AISTUGIA（イタリア日本学会）



令和元(2019)年11月11日
日本文化とAIシンポジウム2019
「AIがくずし字を読む時代がやってきた」



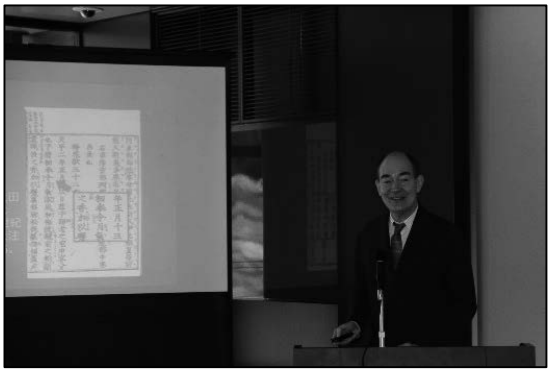
令和元(2019)年11月22日～23日
WORKSHOP DIGITAL HUMANITIES in Asian & East Asian Studies



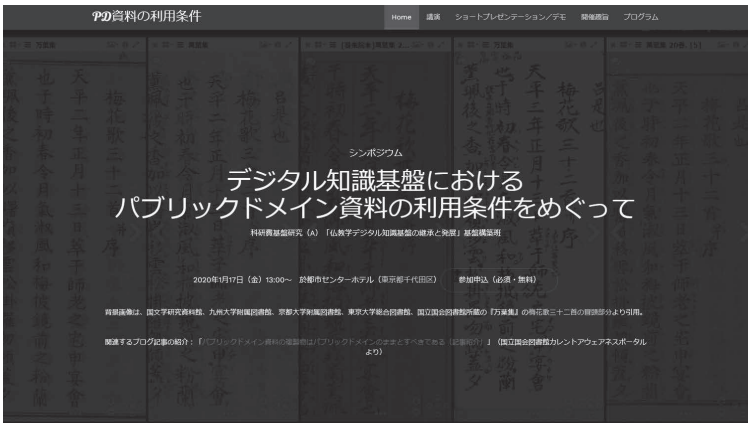
令和元(2019)年11月13日
トークセッション「地方の資料が語るもの」







令和2(2020)年1月17日
シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」





令和2(2020)年2月4日　第4回古典籍文理融合研究会





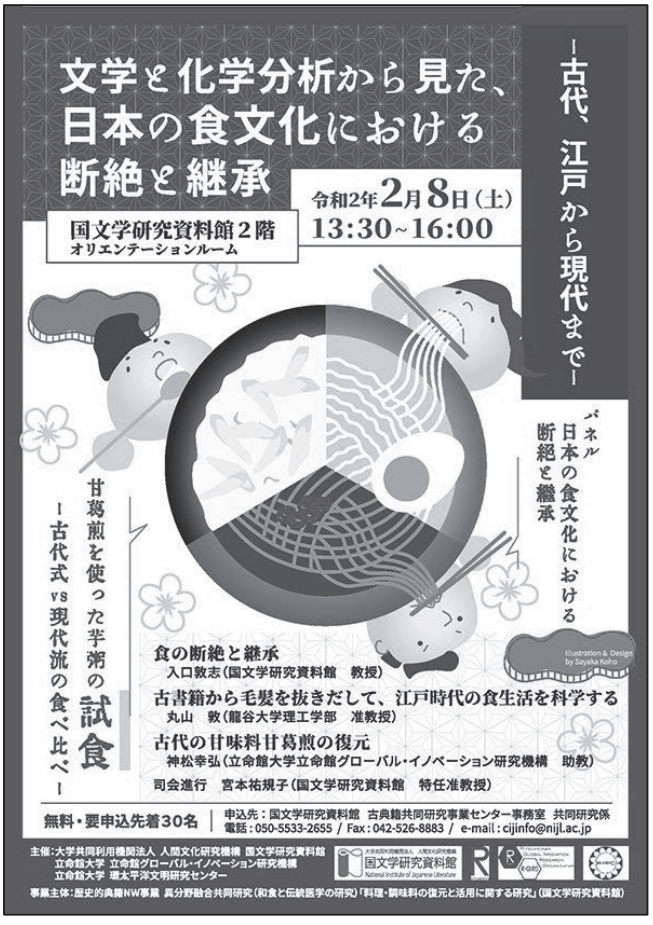
令和2(2020)年2月8日
シンポジウム「マシンと読むくずし字―デジタル翻刻の未来像」



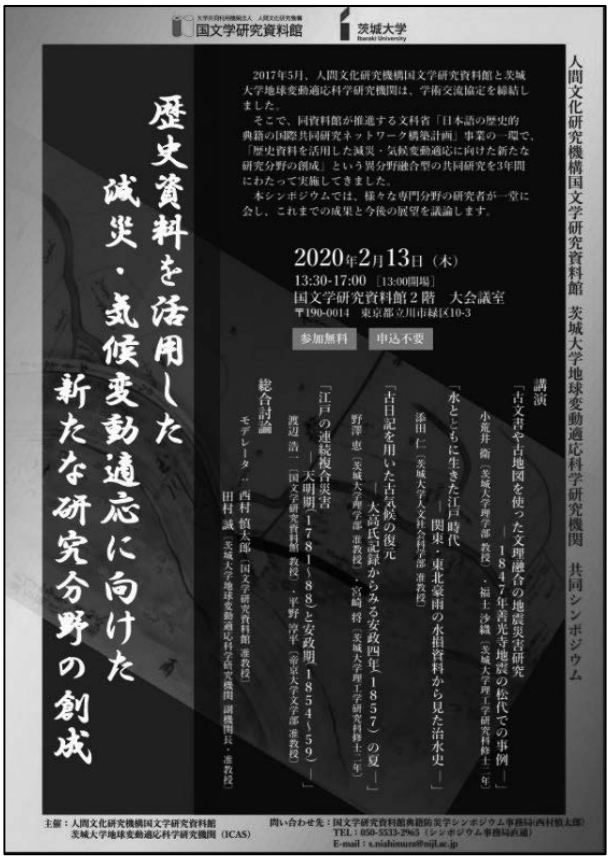
令和2(2020)年2月8日
シンポジウム「文学と化学分析から見た、日本の食文化における断絶と継承」



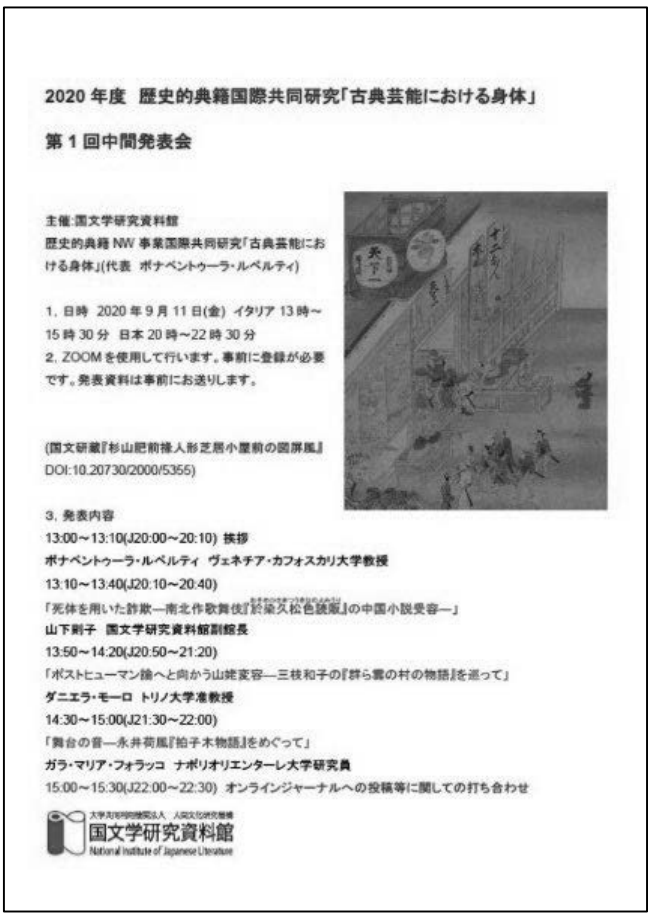




令和2(2020)年2月13日
共同シンポジウム「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成」



令和2(2020)年9月11日
2020年度『古典芸能における身体』
第1回中間研究発表会


2020 年度　歴史的典籍国際共同研究「古典芸能における身体」

第 1 回中間発表会

主催:国文学研究資料館
歴史的典籍 NW 事業国際共同研究「古典芸能における身体」(代表 ボナベントゥーラ・ルベルティ)

1. 日時 2020 年 9 月 11 日(金) イタリア 13 時～15 時 30 分 日本 20 時～22 時 30 分
2. ZOOM を使用して行います。事前に登録が必要です。発表資料は事前にお送りします。

(国文研蔵『杉山肥前権人形芝居小屋前の図屏風』DOI:10.20730/2000/5355)

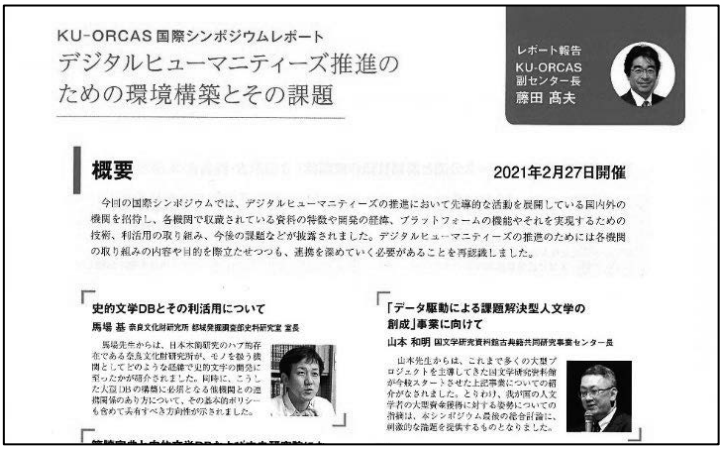
3. 発表内容
13:00～13:10(J20:00～20:10) 挨拶
ボナベントゥーラ・ルベルティ ヴェネチア・カフォスカリ大学教授
13:10～13:40(J20:10～20:40)
「死体を用いた詐欺―南北作歌舞伎『綷染久松色読販』の中国小説受容―」
山下則子 国文学研究資料館副館長
13:50～14:20(J20:50～21:20)
「ポストヒューマン論へと向かう山姥変容―三枝和子の『鉄の風の村の物語』を巡って」
ダニエラ・モーロ トリノ大学准教授
14:30～15:00(J21:30～22:00)
「舞台の音―永井荷風『舶子木物語』をめぐって」
ガラ・マリア・フォラッコ ナポリオリエンターレ大学研究員
15:00～15:30(J22:00～22:30) オンラインジャーナルへの投稿等に関しての打ち合わせ

国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

令和2(2020)年12月20日
東北大学狩野文庫デジタルアーカイブシンポジウム
『江戸に学び、江戸に遊ぶ』



令和3(2021)年2月27日
国際シンポジウム「デジタルヒューマニティーズ推進のための環境構築とその課題」



KU-ORCAS 国際シンポジウムレポート

デジタルヒューマニティーズ推進のための環境構築とその課題

レポート報告
KU-ORCAS
副センター長
藤田 高夫

概要

2021年2月27日開催

今回の国際シンポジウムでは、デジタルヒューマニティーズの推進において先導的な活動を展開している国内外の機関を招待し、各機関で収蔵されている資料の特徴や開発の経緯、プラットフォームの機能やそれを実現するための技術、利活用の取り組み、今後の課題などが披露されました。デジタルヒューマニティーズの推進のためには各機関の取り組みの内容や目的を際立たせつつも、連携を深めていく必要があることを再認識しました。

史的文学DBとその利活用について

馬場 基 奈良文化財研究所 都城発掘調査部史料研究室 室長

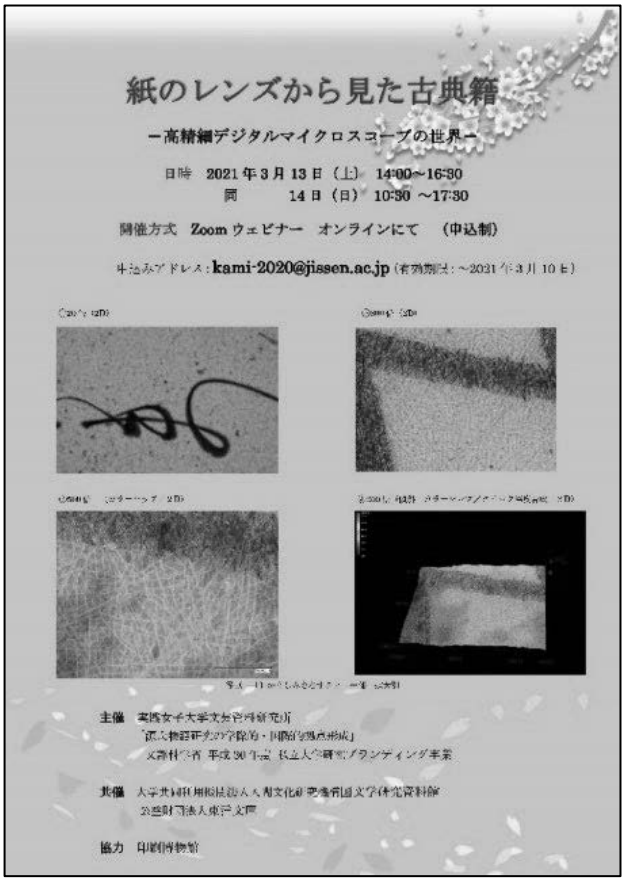
馬場先生からは、日本木簡研究のハブ拠点である奈良文化財研究所が、モノを扱う機関としてどのような経緯で史的文字の開発に至ったかが紹介されました。同時に、こうした大型DBの構築に必要となる他機関との連携関係のあり方について、その基本的ポリシーも含めて共有すべき方向性が示されました。

「データ駆動による課題解決型人文学の創成」事業に向けて

山本 和明 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター長

山本先生からは、これまで多くの大型プロジェクトを主導してきた国文学研究資料館が今秋スタートさせた上記事業についての概要が紹介されました。とりわけ、異分野の人文学者の大型資金獲得に対する優勢についての指摘は、本シンポジウム開催の背景に、刺激的な論題を提供するものとなりました。

令和3(2021)年3月13日～14日
シンポジウム「紙のレンズから見た古典籍」



紙のレンズから見た古典籍

ー高精細デジタルマイクロスコープの世界ー

日時　2021年3月13日（土）　14:00～16:30
　　同　　14日（日）　10:30 ～17:30

開催方式　Zoomウェビナー　オンラインにて　（申込制）

申込みアドレス：kami-2020@jissen.ac.jp（有効期限：～2021年3月10日）

主催　実践女子大学文学部研究所
　　「近代物語研究の学際的・国際的拠点形成」
　　文部科学省 平成30年度 私立大学研究ブランディング事業

共催　大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
　　公益財団法人東洋文庫

協力　印刷博物館

令和3(2021)年4月21日～23日　EAJRS/NIJLくずし字ワークショップ



NIJL/EAJRS Kuzushiji WORKSHOP

NIJL/EAJRS Kuzushiji workshop

Search

NIJL/EAJRS Kuzushiji Workshop, which is a collaborative programme between the National Institute of Japanese Literature (NIJL) and the European Association of Japanese Resource Specialists (EAJRS), started in 2011 under the initiative of Professor Yūichirō Imanishi, then the Director of NIJL. This training programme is designed for librarians and curators in Europe, who manage Japanese antiquarian materials. The aim of this workshop is to develop their skills in deciphering Japanese historical cursive scripts. The intention of the programme is to enable the librarians and curators to improve the organisation and management of their Japanese antiquarian collections. By this means we hope to encourage researchers to use these resources more effectively.

The workshops have been held at the institutions shown in the table below. In 2021, the workshop was held online owing to the COVID-19 pandemic.

Location	Local organizer	Venue	Date	Instructors	number of participants	Note
Oxford	Oriental Institute / Bodleian Japanese Library, University of Oxford	Oriental Institute	29 June-1 July 2011 (Mon.-Wed.)	Prof. Yūichirō Imanishi	32	
Leuven	KU Leuven			Prof. Yūichirō Imanishi		
Zurich	University of Zurich	Ostasiatisches Seminar	13-15 February 2012 (Mon.-Wed.)	Prof. Yūichirō Imanishi	30	

令和3(2021)年8月20日
講演会「人文学研究とＤＸ－その展開と可能性」



令和3(2021)年8月24日～28日　EAJS2021（第16回欧州日本研究協会国際会議）



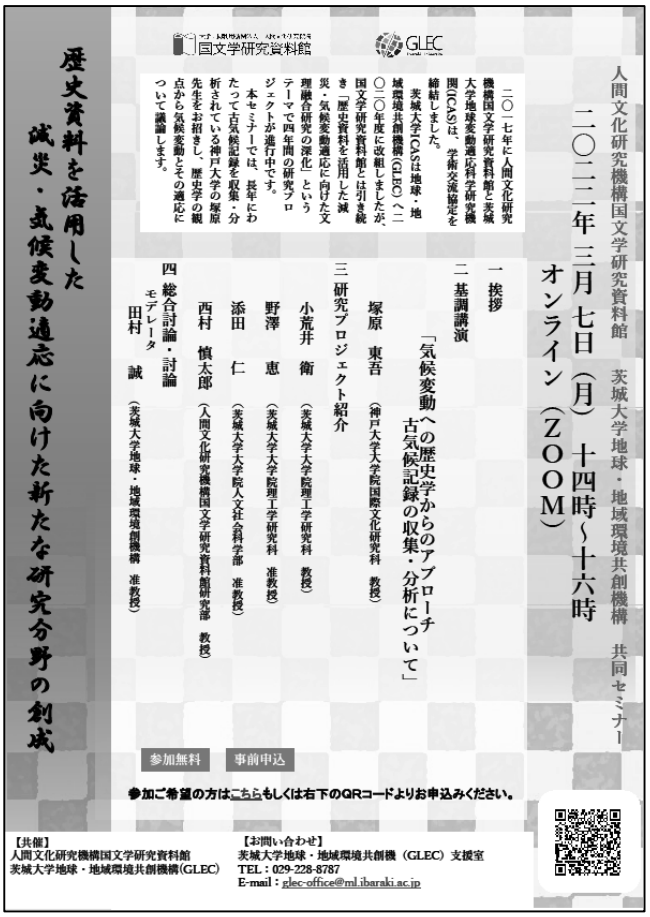
令和3(2021)年9月15日～18日
The 31st EAJRS Conference



令和3(2021)年12月26日　シンポジウム「『総合書物学』の現在」



令和4(2022)年3月7日
国文学研究資料館　茨城大学地球・地域環境共創機構　共同セミナー



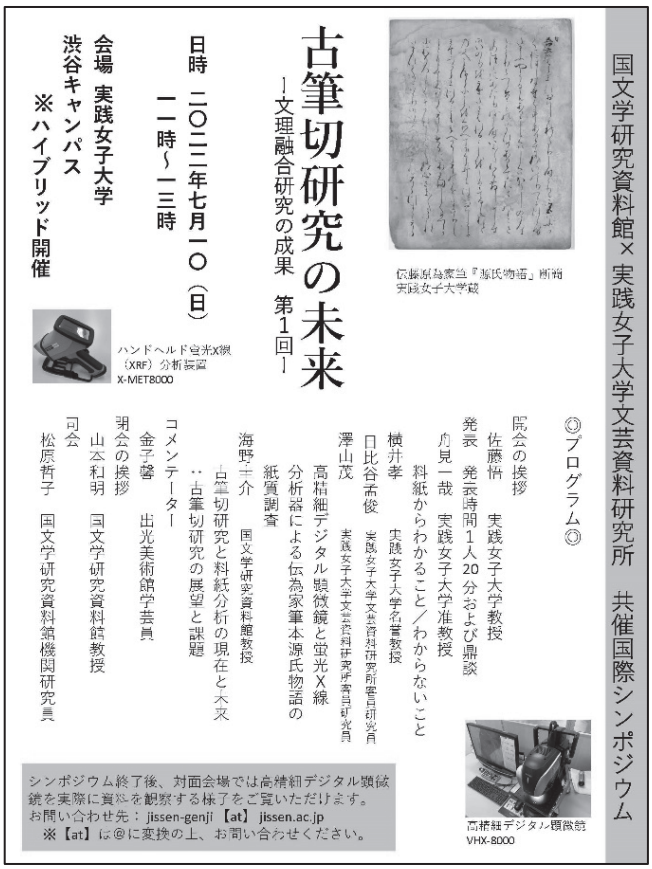
令和4(2022)年3月11日
公開シンポジウム「「文学」×テクノロジーの挑戦～宝箱〈江戸川乱歩〉をひらく～」



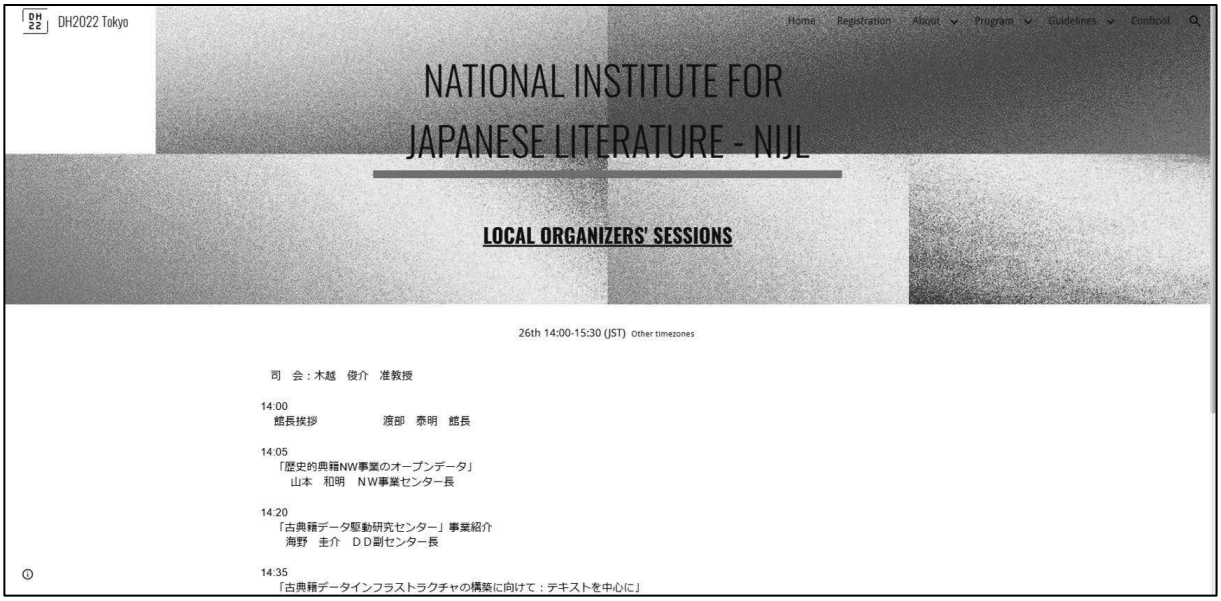
令和4(2022)年7月3日　The 2022 ASCJ Conference



令和4(2022)年7月10日
国際シンポジウム「古筆切研究の未来　－文理融合研究の成果　第１回－」



令和4(2022)年7月26日
DIGITAL HUMANITIES 2022 Tokyoにおける「LOCAL ORGANIZERS‘ EVENTS」



令和4(2022)年7月30日
旧大橋図書館創立120周年記念事業第２回オンライン講演会「江戸時代の料理本の魅力」



令和4(2022)年10月16日
講演会『新しいものには巻かれろ－古典籍の領域横断的活用のいまとこれから』



講演会

新しいものには巻かれろ――古典籍の領域横断的活用のいまとこれから

入口敦志氏「モノとしての本―マテリアル分析の意義―」
木越俊介氏「古典籍デジタル画像をつかったワークショッ
プモデル～漆と紙と「ないじぇる」と～」

明治以前に日本でつくられた書物＝古典籍は、人間のあらゆる営みを内包する歴史的文化資源である。今日も世界中の機関や個人によって、古典籍の収集と研究が続けられており、神戸大学もまた、貴重な古典籍を積極的に収集し、活用に資するための環境整備を行う研究機関の一つである。
近年では、日本文学研究以外の領域においても古典籍を積極的に活用することで、文理横断型の共同研究により、刺激的な研究成果を得たり、芸術や産業の場において、新たな文化的価値創出の源としたりする試みがなされている。本講演会では、先進的な取り組みに携わる二名の講師に、領域横断的な古典籍活用の事例について具体的にお話しいただき、現代社会において、人文学研究が他の営為とコミュニケーションを行うことで得られるメリットや、そのために解決すべき問題点などについて語り合う契機とする。

講師プロフィール

入口敦志
国文学研究資料館教授。江戸前期の学芸や出版文化を中心に研究を行う。著書に『武家権力と文学　柳営連歌、『帝鑑図説』』（ぺりかん社、2013年）、『漢字・カタカナ・ひらがな　表記の思想』（平凡社、2016年）等がある。

木越俊介
国文学研究資料館准教授。日本近世文学、特に江戸時代の小説の研究を行う。著書に、『江戸大坂の出版流通と読本・人情本』（清文堂出版、2013年）、『戯諺滑稽　付　噺笠雨談』（平凡社（東洋文庫）、2022年）等がある。

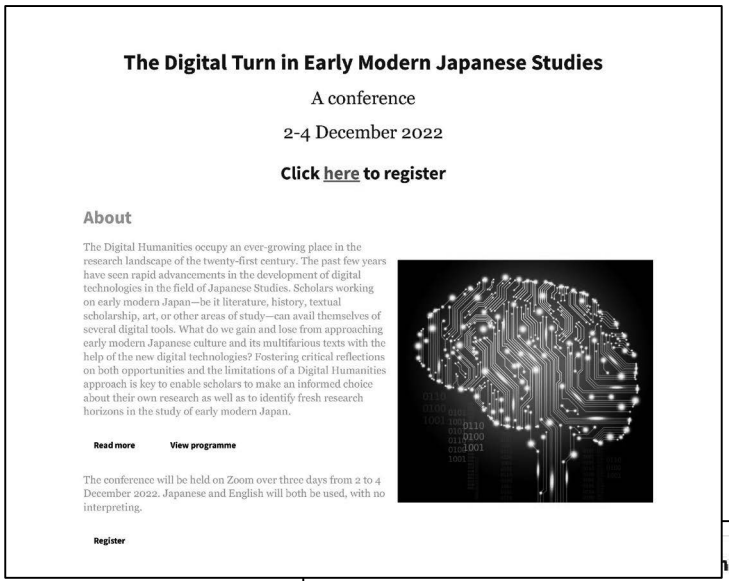
2022年10月16日（日）
13：30～17：00
参加無料 申込不要

会場：神戸大学六甲台第二キャンパス　人文学研究科視聴覚室

主催：神戸大学人文学研究科・文学部
（人文学振興インスティテュート）

問い合わせ先
樋口大祐
hdais041122[AT]port.kobe-u.ac.jp
※[AT]は@に変換。

令和4(2022)年12月2日～12月4日
国際シンポジウム「The Digital Turn in Early Modern Japanese Studies」



The Digital Turn in Early Modern Japanese Studies

A conference

2-4 December 2022

Click here to register

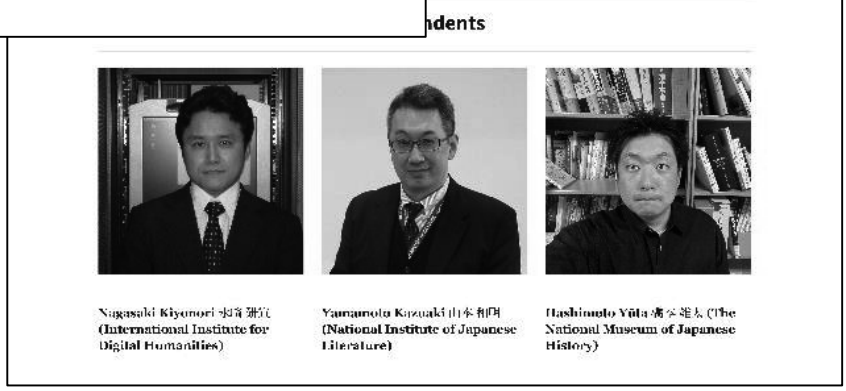
About

The Digital Humanities occupy an ever-growing place in the research landscape of the twenty-first century. The past few years have seen rapid advancements in the development of digital technologies in the field of Japanese Studies. Scholars working on early modern Japan—be it literature, history, textual scholarship, art, or other areas of study—can avail themselves of several digital tools. What do we gain and lose from approaching early modern Japanese culture and its multifarious texts with the help of the new digital technologies? Fostering critical reflections on both opportunities and the limitations of a Digital Humanities approach is key to enable scholars to make an informed choice about their own research as well as to identify fresh research horizons in the study of early modern Japan.

Read more　View programme

The conference will be held on Zoom over three days from 2 to 4 December 2022. Japanese and English will both be used, with no interpreting.

Register



ndents

Nagasaki Kiyonori 永崎研宣
(International Institute for Digital Humanities)

Yamamoto Kazuaki 山本和明
(National Institute of Japanese Literature)

Hashimoto Yūta 橋本雄太 (The National Museum of Japanese History)

日本経済新聞（夕刊）　2014年（平成26年）3月10日（月曜日）　夕刊文化 14

江戸時代までに書かれた「和本」約30万点を画像データベース化し、ネットで公開する事業を国文学研究資料館（東京都立川市）が始める。伝統文化を世界に発信する拠点になりそうだ。

「和本」30万点 世界に発信へ

江戸期までの原本を画像データ化



毒を盛られて顔が醜く崩れてしまう、ご存じ「四谷怪談」の主人公、お岩さん。江戸後期の文政8年（1825年）に初演された歌舞伎「東海道四谷怪談」（作・鶴屋南北）では、かつらを巧みに使って、お岩の髪が抜ける演出が好評を博した。だが、筋書きを挿絵入りで紹介した本（＝正本写し台巻）にはなぜか、髪のある版と、髪の抜けた版が存在する。

改訂の変遷たどる

「髪がある版は初演のために刊行したもの。作者は実際の舞台を見ておらず、お岩の髪が抜ける趣向を知らずに描いたんです」。国文学研究資料館（国文研）の山下則子教授が種明かしをしてくれた。再演に合わせて6年後に作られた版では人気の演出を忠実に伝えるため、わざわざお岩の首から上の部分だけ彫り直して元の版木に埋め込んだ。

当時、歌舞伎の筋書き本は舞台を簡単には見られない地方の人への土産物などとして人気があった。版元は売り上げを伸ばすため、演出の変化や役者の交代があればこまめに改訂版を出していたという。一方で経費節減のために版木はなるべく部分的な修正ですました。「読者のニーズを敏感に読み取ろうとする版元の意識が、原本をじっくり眺め、比較対照する中で浮き上がってくる」（山下教授）

2014年度に国文研が始める事業「日本語の歴史的典籍データベース」構築によって大きく進むと期待されている分野の1つが、こうした改訂版や異本の比較研究だ。データベースの対象となるのは歌集、医学書、物語本など、江戸時代までに日本人が書いた様々な書籍（＝和本）だ。

文章や挿絵、装丁などが初版本からどのように変化したかを丹念にたどる研究は、文学や美術にとどまらず、出版の背景にある社会の変化をたどる手がかりにもなる。「国内外の研究機関や図書館にバラバラに所蔵されている和本をネット上でまとめて閲覧できるようになれば、実証的な比較研究は格段に進む」と今西祐一郎館長は期待する。

23年度完成目指す

国文研ではこれまで約50万点の書誌情報を収録した「日本古典籍総合目録データベース」をウェブ上で公開。そのうち自館で所蔵するものを中心に約2万点は画像も公開してきた。今回新しく構築する画像データベースは、全国の大学や図書館などからも画像の提供を受ける。17年度に新システムでの閲覧を始め、23年度の完成を目指す。

和本の表紙や役者の交代があればこまめに改訂版を出していたという。一方で経費節減のために版木はなるべく部分的な修正ですました。「読者のニーズを敏感に読み取ろうとする版元の意識が、原本をじっくり眺め、比較対照する中で浮き上がってくる」（山下教授）

2014年度に国文研が始める事業「日本語の歴史的典籍データベース」構築によって大きく進むと期待されている分野の1つが、こうした改訂版や異本の比較研究だ。データベースの対象となるのは歌集、医学書、物語本など、江戸時代までに日本人が書いた様々な書籍（＝和本）だ。

文章や挿絵、装丁などが初版本からどのように変化したかを丹念にたどる研究は、文学や美術にとどまらず、出版の背景にある社会の変化をたどる手がかりにもなる。「国内外の研究機関や図書館にバラバラに所蔵されている和本をネット上でまとめて閲覧できるようになれば、実証的な比較研究は格段に進む」と今西祐一郎館長は期待する。

23年度完成目指す

国文研ではこれまで約50万点の書誌情報を収録した「日本古典籍総合目録データベース」をウェブ上で公開。そのうち自館で所蔵するものを中心に約2万点は画像も公開してきた。今回新しく構築する画像データベースは、全国の大学や図書館などからも画像の提供を受ける。17年度に新システムでの閲覧を始め、23年度の完成を目指す。

和本の表紙

算案で30トルメートル光学赤外線望遠鏡など自然科学系のプロジェクトと並び、人文学系で初めての「大規模学術フロンティア促進事業」に選ばれた。

和本の画像にウェブ上でアクセスできる環境が整えば、「特に海外の研究者が和本を活用して日本文化の研究を進める大きな助けになる」（山下教授）。国際共同研究には医学、薬学といった自然科学の研究者も参加する予定。日本の伝統的な料理や漢方医学の変遷について和本を基に研究するプロジェクトなどが候補として挙がっているという。「人文学で課題となっている、研究のタコツボ化、細分化を乗り越えるきっかけにしたい」と今西館長は話す。

（文化部　郷原信之）

平成26年(2014)年3月10日
日本経済新聞（夕刊）

文化往来

和本30万点画像化、検索システム構築着手

国文学研究資料館（東京都立川市）は、日本の古典籍（和本）の画像を体系的に集めるデータベースの構築計画を立ち上げた。江戸時代までの日本人の著作約30万点を画像化し、書誌情報と合わせてインターネットで検索、閲覧できるシステムを築く。所蔵先を横断して古典籍の画像を組織的に収集、公開するのは日本初の取り組みだ。

同資料館では約50万点を収録した「日本古典籍総合目録データベース」をホームページで公開してきた。収集した画像はこの目録と連動させ、書名や著者、所在などの文字情報に加え、書物そのものの雰囲気を知ってもらいたい」と語っている。原本に手を触れないで閲覧することから文化財保護の効果も期待できる。将来的には画像と共に活字テキストを収録したいとの声もあがっているという。

中野三敏九州大学名誉教授によるのイメージを世界中で閲覧できるようにする。プロジェクトの拠点となる20大学と連携し、10年をかけて構築する計画だ。

今西祐一郎館長は「日本の本とはどんなものなのか世界の人々に

と、活字になっている和本は全体の1%ほど。「画像で古典籍に親しみ、読むきっかけになってほしい」と同氏は期待している。構築が実現すれば日本文化の再発見と新たな発信にもつながる。

平成25年(2013)年9月1日
日本経済新聞（朝刊）

平成26(2014)年5月　リポート笠間


リポート笠間

No.56

Report Kasama

2014.05

ISSN0914-5397

巻頭インタビュー

国文学研究資料館 いよいよスタート!

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

◉今西祐一郎×山本和明

エッセイ

◉安原眞琴

「吉原学」序説―映画の報告と共に

学界時評

松田 浩×加藤昌嘉×藤巻和宏×水谷隆之×岡崎真紀子×吉田永弘

Take Free

ご自由にお持ちください

http://kasamashoin.jp/

http://twitter.com/kasamashoin

http://archive.mag2.com/0000222327/index.html

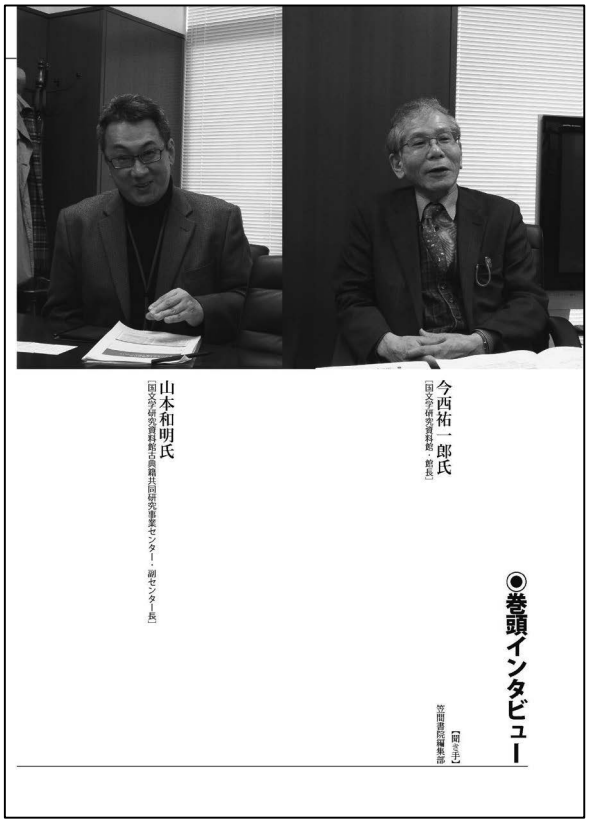
2-2-3 Sarugakucho,Chiyoda-ku,

Tokyo Metropolice

101-0064,JAPAN

Tel 03-3295-1331Fax 03-3294-0996

Mail info@kasamashoin.co.jp


◉巻頭インタビュー

今西祐一郎氏

［国文学研究資料館・館長］

山本和明氏

［国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター・副センター長］

【聞き手】笠間書院編集部

平成26(2014)年8月5日
朝日新聞デジタル

朝日新聞 DIGITAL

古典籍30万点ネット公開へ　国文学研究資料館、10年かけ

2014年8月5日16時30分

国内の古典籍約５０万点のうち３０万点をデータベース化し、ネット上に公開しようという取り組みが始まった。国文学研究資料館（東京・立川）が今年度から１０年かけ、国内２０大学の資料などを画像化し、書誌データなどで検索できるようにする。ネット上で誰でも見られるようにし、新たな研究を呼び込む狙いがある。

古典籍は、明治期以前に書写されたり印刷されたりした資料。２０１７年度から順次公開する予定だ。海外の研究者が日本の古典籍を閲覧しやすくなり、研究の国内外格差がなくなる利点もあり、国内外の研究施設との共同研究も進める。総事業費は８８億円。

欧州連合（ＥＵ）には、加盟各国の１００機関以上が参加する１９００万点のデータベース「ヨーロピアナ」がある。中国や韓国でも画像公開が進んでおり、日本は出遅れていた。

国文学だけでなく、医学や漢方の資料も扱う。国文学研究資料館の山本和明・特任教授は「例えば、いままで活字になっていない鶴の料理を紹介する本もある。料理研究と古典が結びつけば、新たな研究が生まれる可能性がある」と話す。（高津祐典）

平成26(2014)年8月5日
朝日新聞（夕刊）

古典籍30万点ネット公開へ　国文学研究資料館、10年かけ

国内の古典籍約50万点のうち30万点をデータベース化し、ネット上に公開しようという取り組みが始まった。国文学研究資料館（東京・立川）が今年度から10年かけ、国内20大学の資料などを画像化し、書誌データなどで検索できるようにする。ネット上で誰でも見られるようにし、新たな研究を呼び込む狙いがある。

古典籍は、明治期以前に書写されたり印刷されたりした資料。2017年度から順次公開する予定だ。海外の研究者が日本の古典籍を閲覧しやすくなり、研究の国内外格差がなくなる利点もあり、国内外の研究施設との共同研究も進める。総事業費は88億円。

欧州連合（ＥＵ）には、加盟各国の100機関以上が参加する1900万点のデータベース「ヨーロピアナ」がある。中国や韓国でも画像公開が進んでおり、日本は出遅れていた。

国文学だけでなく、医学や漢方の資料も扱う。国文学研究資料館の山本和明・特任教授は「例えば、いままで活字になっていない鶴の料理を紹介する本もある。料理研究と古典が結びつけば、新たな研究が生まれる可能性がある」と話す。（高津祐典）

平成27(2015)年7月8日
プレス懇談会

大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

第1回　人間文化研究機構　プレス懇談会
（人文機構）

日　時：平成27年7月8日(水)　懇談会 16:00～17:55　意見交換会 18:00～19:00
会　場：スタンダード会議室　虎ノ門ヒルズFRONT店　6階会議室A
東京都港区虎ノ門1-22-14　ミツヤ虎ノ門ビル6階

＜プログラム＞
1．開会挨拶　佐藤洋一郎(人間文化研究機構・広報担当理事)
2．機構長挨拶　立本 成文(人間文化研究機構・機構長)
3．イベントのご案内
(1) 人文機構　地域研究・現代中国地域研究拠点連携プログラム
「歴史の対話からどのようなアジアの未来を創造するか」(7月18日)
(2) 国立歴史民俗博物館(歴博)
企画展「ドイツと日本を結ぶもの－日独修好150年の歴史－」(7月7日～9月6日)
(3) 国立国語研究所(国語研)
「ニホンゴ探検2015」(7月18日)
(4) 国文学研究資料館(国文研)
・公開シンポジウム「日本語の歴史的典籍データベースが切り拓く研究の未来」(7月25日)
・第1回日本語の歴史的典籍国際研究集会「可能性としての日本古典籍」(7月31日、8月1日)
・文部科学省情報ひろば「企画展示」(8月～11月)
・通常展示「和書のさまざま」(12月7日～)
4．話題提供
(1) 大久保純一(国立歴史民俗博物館・教授)
企画展「ドイツと日本を結ぶもの－日独修好150年の歴史－」
(2) 今西祐一郎(国文学研究資料館・館長)
日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画
(3) 木部暢子(国立国語研究所・副所長)
日本の消滅危機言語・方言の研究と地域社会の活性化
5．意見交換会(会費1,000円)

＜注意事項＞
本日配布資料の無断転載・引用は御遠慮ください。

【問合せ先】　大学共同利用機関法人　人間文化研究機構（人文機構）
広報担当　菊池　首里子
E-mail: aasistant@nihu.jp
電話：03-6402-9342、03-6402-9244　Fax：03-6402-9240

平成27(2015)年7月8日
日刊工業新聞

江戸期以前のくずし字判読
凸版印刷 今夏 試験サービス開始

凸版印刷は江戸期以前のくずし字で記されている「古典籍」の文字を自動で判読して、テキストデータ化する光学式文字読み取り装置（ＯＣＲ）技術を開発した。今夏から試験的にサービスをはじめる。専門家に判読を依頼したテキストデータと比較して、大幅なコスト削減と大量の処理を実現する。ハードウエアなどに左右されず文書を表示できるＰＤＦのファイル形式などにも変換できる。今後は現代語、多言語の翻訳技術などに取り組み、研究や教育分野に普及を目指す。

江戸期以前のくずし字で記され、内容や形態の優れた古い書物を指す古典籍は総数１００万点以上にのぼる。専門家の判読を必要とし、テキストデータ化が遅れていた。

平成27(2015)年8月28日
文教速報

国文研が公開シンポジウムを開催
日本語歴史的典籍データベースが切り拓く研究の未来

国文学研究資料館は、日本学術会議との共催で公開シンポジウム「日本語の歴史的典籍データベースが切り拓く未来」を去る7月25日に日本学術会議講堂で開催した＝写真下＝。

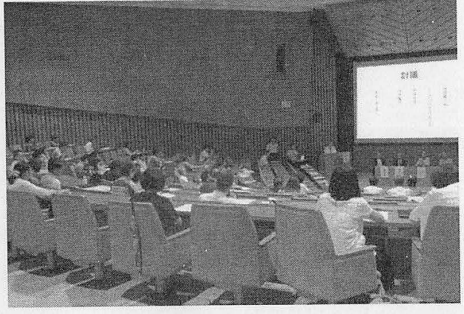
このシンポジウムは、日本学術会議が策定した大規模研究計画に基づき、同館が実施主体となって開始した、文系初の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」のシンポジウムとして実施したもの。

シンポジウムは、今西祐一郎館長による「日本語の歴史的典籍データベースの構想」に関する講演が行われ、同事業の意義や経緯がわかりやすく解説された。

講演に続いて、文系、理系諸分野で活躍する研究者4氏が「和算資料が示唆する数学の将来」（上野健爾四日市大学研究機構関孝和数学研究所長）、「文理にまたがる古医書の研究」（ミヒェル・ヴォルフガング九州大学名誉教授、日本医史学会常任理事）、「日本古典籍からみた料理文化の展開―料理書から料理本へ」（原田信男国士舘大学教授）、「東アジア文献アーカイブスの現状と未来」（内田慶市（関西大学図書館長）をテーマに、日本語の歴史的典籍を対象に具体的な研究事例を行った。

これらの報告は、異分野にまたがる新しい研究のかたちを追求したもので、講演後には討議の時間を設け、参加者からの質疑に応答するなど活発な意見を交わした。


活発に討議を行う参加者



「可能性としての日本古典籍」
国文研が日本語の歴史的典籍国際研究集会

国文学研究資料館は7月31日と8月1日の両日、第1回日本語の歴史的典籍国際研究集会「可能性としての日本古典籍」を同館で開催した＝写真＝。

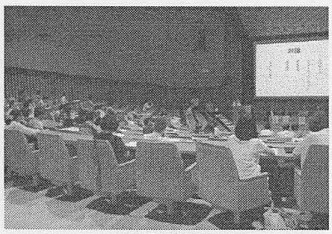
国文研では、同館が中心となって推進している大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」により共同研究を展開。国際研究集会は、この共同研究の取り組み内容、またこれから展開しようとしている事業内容などを、広く研究者・学生に伝えることにより、共同研究の裾野を拡大させることを目的とするもの。さらに、実施している共同研究相互の交流を図ることも目的としている。

初日は、今西祐一郎館長の開会の挨拶、同館が所属している人間文化研究機構の立本成文機構長の挨拶、文科省研究振興局の牛尾則文学術機関課長の来賓



◆国文学研究資料館が公開シンポジウム◆
「日本語の歴史的典籍データベースが切り拓く研究の未来」

国文学研究資料館は7月25日に、日本学術会議との共催で公開シンポジウム「日本語の歴史的典籍データベースが切り拓く未来」を日本学術会議講堂において開催した。日本学術会議が策定した大規模研究計画に基づき、同館が実施主体となって開始した、文系初の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」のシンポジウムとして開催されたものである。


会場の様子


討議の様子

シンポジウムは、今西祐一郎館長による「日本語の歴史的典籍データベースの構想」についての講演が始めにあり、本事業の意義及び経緯について、わかりやすく解説がなされた。

それに続いて、文系、理系諸分野で活躍する4人の研究者が、日本語の歴史的典籍を対象に具体的な研究事例として以下の題目で講演を行った。①「和算資料が示唆する数学の将来」上野健爾（四日市大学研究機構関孝和数学研究所長）②「文理にまたがる古医書の研究」ミヒェル・ヴォルフガング（九州大学名誉教授、日本医史学会常任理事）③「日本古典籍からみた料理文化の展開―料理書から料理本へ」原田信男（国士舘大学教授）④「東アジア文献アーカイブスの現状と未来」内田慶市（関西大学図書館長）。以上の報告は、異分野にまたがる新しい研究のかたちを追求したものであり、講演の後に、討議の時間を設け、参加者からの質疑に応答するなど活発な意見交換を行った。


牛尾学術機関課長の来賓挨拶


国際研究集会の様子

◆可能性としての日本古典籍◆
国文研 第一回日本語の歴史的典籍国際研究集会

国文学研究資料館は7月31日及び8月1日に、第一回日本語の歴史的典籍国際研究集会「可能性としての日本古典籍」を同館において開催した。本国際研究集会は、同館が中心となって推進している大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」により開始された共同研究が、どのような取り組みを行っているか、またはこれから行おうとしているのかを、広く研究者・学生に伝えることにより、共同研究の裾野を拡大させるとともに、実施している共同研究相互の交流を図ることを目的として企画されたものである。

初日は、今西祐一郎館長の開会の挨拶、同館が所属している人間文化研究機構の立本成文機構長の挨拶、文部科学省研究振興局の牛尾則文学術機関課長の来賓挨拶の後、谷川惠一副館長から本プロジェクトの趣旨説明があり、前九州大学総長であり、同館の古典籍共同研究事業センター顧問である有川節夫氏が「古典籍共同研究とオープンサイエンス」の題目で基調講演を行った。その後、「古典籍研究の近未来」というテーマでパネル報告を行った。

2日目は、ケンブリッジ大学名誉教授のピーター・コーニツキー氏による講演「国際共同研究の意義―古活字版の終焉に向けて」と「総合書物学への挑戦」、「紀州地域と寺院資料・聖教―延慶本『平家物語』の周縁―」、「キリシタン文学の継承：宜教師の日本語文学」の三つのパネル報告があった。

国際研究集会の中で、同館が所蔵している古典籍資料の画像・書誌データ約300点を「データセット」として、国立情報学研究所の協力のもと、同研究所の「情報学研究データリポジトリ（IDR）」において、本年10月中旬に試験的に公開する旨の告知があった。

平成27(2015)年9月15日
中日新聞（朝刊）

文化

江戸時代末までに日本人が書いた書物（古典籍）のうち、所在の明らかな30万点のデジタル画像を書誌情報とともにインターネットで公開する計画が、昨年度から10年間の予定で進んでいる。予算は要求総額88億円と、人文科学系分野では異例の大プロジェクトだ。（谷村卓哉）

江戸末までの古典籍30万点

デジタル画像 ネット公開へ

10年計画 名古屋など20大学参加


特殊なスキャナーで読み込んだ古典籍のデジタルデータを確認する山本特任教授（手前）ら＝東京都立川市の国文学研究資料館で

時間も場所も問わず原本を見られるようにして研究者の利便性を高め、さらに挿絵やデザインの面白さなど、古典籍の多様な見方を一般市民にも発見してもらえるようにする狙いがある。

日本学術会議の提言に基づいた国の「大規模学術フロンティア促進事業」の一つ。国文学研究資料館（国文研、東京）を核に東京大、名古屋大など二十大学が参加し、本年度は手続きが整った五大学がデザインの面白さなど、古典籍の多様な見方を一般市民にも発見してもらえるようにする狙いがある。

日本学術会議の提言に基づいた国の「大規模学術フロンティア促進事業」の一つ。国文学研究資料館（国文研、東京）を核に東京大、名古屋大など二十大学が参加し、本年度は手続きが整った五大学が計約二千四百点のデジタル化に着手した。名大は〇一七年度から神道、国文学関係の「神宮皇學館文庫」（約一万四千三百点）、説話文学関係の「小林文庫」（約二百七十点）を主な対象に作業を予定している。

国文研は自館と外部機関をする全国的な書誌データベース（DB）に結び付け、新たなDBシステムを構築。段階的に公開する。

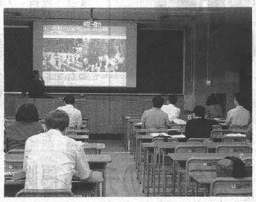
火災や水没による消失や所在不明分を含めると全体で五十万点ともいわれる日本の古典籍。内容は文学から医学まで多岐にわたるが、限られた研究者にしか活用されてこなかった。書誌情報だけでは外国人はもちろん、日本人でも目当ての原本に短時間でたどり着くのは難しく、閲覧自体が制限される貴重書も多いからだ。

中国や欧州では画像を伴うDB整備が進んで世界で重宝されており、計画を担当する国文研の山本和明特任教授は「いちいち所蔵先へ行くことなく閲覧可能になれば、日本の古典籍も利用価値が高まる。国内外の研究者が共同で翻刻したり、くずし字を読める人文科学系研究者が自然科学系研究者に協力したりと、日本研究の新たなムーブメントを起こしたい」と意義を強調する。

ただ、元は原文を活字にしたテキストデータもすべて公開する構想だったといい、計画に参加する名大大学院文学研究科の塩村耕教授は「資料検索の手間が軽減されるのは前進だが、まだ基盤中の基盤。版本・写本の細かな比較には足りず、テキストまで示してこそ文化国家だ」と課題を指摘する。

その必要性は国文研も認識しており、自動テキスト化の実証試験を大手印刷会社と進め、成果を二部、DBに反映する方針だ。災害や劣化などの文化財危機対策の側面もあり、まずは画像公開に重きを置くが、その先どれだけ充実させられるか、関係者の熱意、手腕が問われる。

研究ネットワーク構築も


国文研との共同研究の成果を確認するシンポジウム＝和歌山市の和歌山大で

今回の計画では、日本古典籍を題材とする国際的な研究ネットワークづくりにも挑む。「個人プレーが主だったこの世界も、これからは機関、研究者間の連携が求められる。機運を高めたい」と国文研の山本和明特任教授は話す。

英国のケンブリッジ大、米国のコロンビア大などと国際共同研究と、国内での共同研究を複数企画。和歌山大の大橋直義准教授が代表者の「紀州地域に存する古典籍およびその関連資料・文化資源の基礎的研究」は、地域の多様な文化資源の目録を整備し、特色の把握を目指す。先月末には同大でシンポジウムが開かれ、中世の高野山、熊野、伊勢における思想的、宗教的環境と個で歌人の西行の作歌活動を考察した船田淳一・金城学院大准教授らが研究発表。今後の課題を探る活発な議論が交わされた。

四日市大（三重県）を軸に、近世数学書の語彙の解釈や適切な英訳を検討する研究を進む。国文研はこれらを支援し、古典籍への幅広い理解につなげたい考え。資料調査で新発見があれば、DBに盛り込むことも検討するという。

2015年9月15日（火）中日新聞（朝刊13面）

平成27(2015)年10月6日　カレントウェアネス

【イベント】国文学研究資料館等、「歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン）」を開催（12/18・京都）

Posted 2015年10月6日

2015年12月18日、国文学研究資料館と国立情報学研究所（予定）は、メルパルク京都を会場として「歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン）」を開催します。

このアイデアソンでは、同館が所蔵する、資料の画像データと書誌データ約300点（全冊約5万2,000コマ）を国立情報学研究所（NII）の協力のもと、「情報学研究データリポジトリ」において10月下旬から11月上旬にデータセットとして公開し、それらを活用するとのことです。

同館は、このアイデアソンで提案されたアイデアをもとに、画像データ利用の可能性を考え、活かしていきたいようです。

平成27(2015)年10月9日
中日新聞（夕刊）

中日新聞　夕刊
発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511　電話 052(201)8811
2015年（平成27年）10月9日（金）

江戸のタイムカプセル

神作　研一

◆一冊の田舎版

かつて、俗に「田舎版」と称された出版物があった。薄冊の仮とじ本で、本文と同じ紙を使って間に合わせの表紙とし、印刷も粗悪。江戸時代後期の文化・文政（一八〇四～三〇年）ごろから明治初期にかけて地方で折々に作られたが、高価とか立派などという語とは無縁の代物だけにほとんど現存しておらず、今や絶滅危惧種となってしまった。

その田舎版がこのほど、オランダのライデン大学図書館の蔵書の中から数点、発見された。例えば『三十六歌仙』。この書は、高名な藤原公任の撰にかかる『三十六人撰』とは異書で、「花見」や「蛍見」など「見」を詠んだ和歌を三十六首集めたもの。詠者は西行や源俊頼ら著名歌人だが、書物としての知名度は低く、日本国内でも確認されない珍品だ。

◆シーボルト旧蔵書

この書をオランダに持ち帰ったのは、かのシーボルト（一七九六～一八六六年）である。彼は一八二三（文政六）年八月に来日したが、五年後に起きた「シーボルト事件」の後に欧州へ戻り、日本から持参した膨大な書物を生かして一生を日本研究にささげた。このたびわたくしどもは、シーボルトが第一次滞在中（一八二三～三〇年）に日本から欧州へ持ち帰った書物の総体を追跡調査するプロジェクトを完了した。実見し得たおよそ八百点の目録とともに、成果は『シーボルト日本書籍コレクション　現存書目録と研究』（国文学研究資料館編、勉誠出版刊）にまとめられた。

シーボルトの旧蔵書は、オランダを中心にヨーロッパ各地に散在し、それは漢籍・地図・絵本・狂歌本・俳書などあらゆる領域に及ぶ。中でも興味深いのは、この田舎版『三十六歌仙』のように、日本国内では失われてしまった書物がいくつも確認できることである。シーボルト・コレクションは、いわば「江戸後期／文政年間の〈タイムカプセル〉」とも見なすことができるのだ。

シーボルトの収集に光



シイボルトの図（国立国会図書館蔵）

◆名古屋の本草学

そのタイムカプセルの最も重要な点は、『日本植物誌』と『日本動物誌』を著した、博物学者シーボルトの面目躍如たる本草学関係資料の収集にある。シーボルト自ら「私の非常に愛好する博物学の研究」（栗原福也編訳『シーボルトの日本報告』平凡社東洋文庫）と述べているように、収書にはかなりの労力が払われた。

和刻本『本草綱目』（一七一四年刊・四十四冊）や貝原益軒の『大和本草』（一七五六年刊・十冊）などベーシックな書目がひと通りそろっているのは当然のこととして、動植物の写生図（写本）が多いことや、門人たちによる書写献呈本が見いだされることにも注目したい。特に、名古屋藩の本草学者水谷豊文や大河内存真、存真の弟で名古屋の町医者伊藤圭介など、名古屋の本草学者たちが書写献呈した書物の中には『修養堂本草会目録』や『生々堂本草会目録』『写真』など珍しい本草会の記録が含まれる。この事実は、名古屋の本草家たちによる日頃の地道な研究成果が、シーボルトに対して組織的に献じられたことをうかがわせて、非常に興味深いものがある。

先日、本紙朝刊でも報道された通り、折しも国文研では、国内に現存する古典籍三十万点のデジタル化プロジェクトが進行中であり、こうした本草学の領域においても、デジタル化による加速度的な研究の進展が期待される。

（かんざく・けんいち＝国文学研究資料館・総合研究大学院大学教授）

平成27(2015)年11月　リポート笠間

Report Kasama

リポート笠間 No.59

2015.11 ISSN0914-5397

Take Free
ご自由にお持ちください

http://kasamashoin.jp/
http://twitter.com/kasamashoin
http://archive.mag2.com/0000222327/index.html

〒101-0064
東京都千代田区猿楽町2-2-3　笠間書院
電話 03-3295-1331 Fax 03-3294-0996
メール info@kasamashoin.co.jp

2-2-3 Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo Metropolice
101-0064,JAPAN
Tel 03-3295-1331Fax 03-3294-0996
Mail info@kasamashoin.co.jp

●特集●

古典の現代語訳を考える

1●河出書房新社『日本文学全集』を読む
三浦佑之　池澤夏樹訳『古事記』を通して　中森康之
田渕句美子　歌人たちの肉眼で見る――小池昌代訳『百人一首』　松尾葦江
小島孝之　伊藤比呂美訳『発心集』を読むことをきっかけにして　加藤敦子
兼岡理恵　言葉の息づかい、佇まい――伊藤比呂美訳『日本霊異記』　深津睦夫
渡辺麻里子　古典の世界へつなぐ現代語訳――町田康訳『宇治拾遺物語』を端緒として　染谷智幸
2●西鶴作品の小説化
中嶋　隆　西鶴浮世草子を小説化すること――剽窃・翻案・改作　滝川幸司
3●『更級日記』の英訳で考えたこと
伊藤守幸　「含意」(connotation)を翻訳に活かすために　前田雅之
4●これが面白い! 古典の訳さまざま
福田武史　『斎藤和英大辞典』　鈴木宏子
谷　知子　古典文学のリメイク――心はそのままに、ことばは新しく　大津雄一
星山　健　「誤解も理解」の王朝物語入門　今井　上
植木朝子　現代語訳と解釈の間――名訳の定めがたさ　松本麻子
白石良夫　五七五七七の現代語訳　中嶋真也
5●上田秋成から考える　谷口雅博
木越　治　現代語訳と研究　近藤瑞木
6●古典の面白さを伝えたいという立場から　神作研一
大塚ひかり　誰のための現代語訳か　宮地朝子
渡瀬淳子
松岡智之
浅田　徹
和田琢磨
山本和明

特別寄稿

大型プロジェクトの進捗状況について

――基盤整備・機能強化の側面より――

山本和明（国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター　副センター長）

人文社会科学分野としてはじめての大規模学術フロンティア事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」が採択されて、もうすぐ二年となる。国文学研究資料館（国文研）では、十年間にわたるこの事業を、館のあらたな飛躍を目指すものと位置づけ、体制を整備し、目下全館をあげて取り組んでいる。事業のあらましについては、本誌vol.56の巻頭インタビューで取り上げていただいており、ここでは進捗状況報告として、基盤整備・機能強化に関わる取り組みの一端を紹介したい。

●二〇万点の画像DB作成と、国際共同研究体制の構築

この事業の目指すところは、大まかにいって二点ある。一つは、資料撮影やマイクロフィルムからのデジタル・コンバートなどにより、三〇万点におよぶ歴史的典籍の画像データを作成し、提供システムの構築により、広く研究者などの利活用を促進すること。もう一つは、国内外の研究機関との間で国際共同研究を具体的に推進し、事業名にもある「国際共同研究ネットワーク」という共同研究体制を構築すること、である。共同研究では、従来の人文社会科学という枠を越え、複数の学術分野との連携研究を推進しており、かつ各々の分野における研究の指標となるよう、異分野融合研究の醸成、「総合書物学」の推進・構築という具体的な目標を掲げている。

●本年度は医学・理学分野が対象、昨年末で五万四千点のデジタル化を完了。

今さらめくが、「日本語の歴史的典籍」は、何も人文科学分野の古典籍だけを対象とするものではなく、すべての分野の古典籍を対象としている。事業に携わり、他分野の方々と接する機会も多いが、くずし字で記された古典籍を読み解きたいと熱く語る研究者も多い。こうした研究者やコミュニティの意見を踏まえ、開かれた学術研究基盤を構築し、日本由来の学問領域などを国際的な「場」に引き出すべく、画像作成においても、一つの方針を定めた。それは分野の「選択と集中」という観点であり、十ヶ年をおおむね三期に分割し、現在画像作成にあたっている。医学・薬学・理学（和算）・農学・防災環境・生活文化など、異分野融合研究の可能性の高い分野や、社会貢献などの諸条件を考慮して画像を作成し、共同研究と連動しようとするものである。本年度は医学・理学分野などを対象分野とした。

平成27(2015)年11月3日　読売新聞（朝刊）

2015年11月3日　読売新聞（朝刊）

文化 Culture

変体仮名 スマホで学ぶ

古典文学や古文書などに使われた「変体仮名」や「くずし字」を、いかに読み継いでゆくか。過去の人々の知を、現代に受け継ぐための様々な試みが行われている。早稲田大学などは変体仮名を読む能力を身に付けるためのスマートフォンの無料アプリを開発し、凸版印刷はくずし字を自動的に読み取る技術の研究を進めている。（文化部　待田晋哉）

変体仮名　現在の平仮名などとは、異なる字体の文字。1900年に小学校令施行規則で平仮名、片仮名が現行の字体に定められる以前には、様々なものがあった。現在の「あ」は、漢字の「安」を崩したものだが、かつては「阿」をもとにした字などもあった。これらに草書体漢字などを加えたものが「くずし字」で、明治以前はこれらで文章が書かれた。



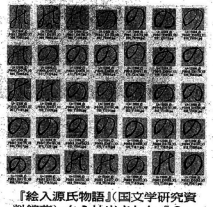
「変体仮名あぶり」の画像をスマートフォンで見せるマイケル・エメリックさん

スマートフォンの画面に次々と現れた筆書きの怪しげな字。現在は使われない「変体仮名」と呼ばれる文字だ。指で触れると、「阿」あ」「無む」など、その仮名の基になった「字母」と呼ばれる漢字と読み方が現れた。「結構簡単に読めるようになります」

開発者の一人で日本文学研究者のマイケル・エメリック・カリフォルニア大ロサンゼルス校（UCLA）准教授はうれしそうに語った。

早大とUCLAが連携して開発した「変体仮名あぶり」は、早大が所蔵する『源氏物語』などの古典籍の文字を、OCR（光学文字認識）技術を使って読み取り、活字データ化する技術を開発し、大学や研究機関と実証実験を行っている。江戸時代の『源氏物語』の版本を使った実験では、80％以上の精度で読み取りに成功した。

この『源氏物語』の本から一文字ごとに画像を切り出し、「あ」や「い」などの文字別に分類し、くずし字の字形データベースを収めたソフトウェアを制作。読みたい古典籍の画像を、このソフトを使って判読する。同社では、もっと様々な本を取り込んでくずし字データベースを充実させ、「数年後に江戸期の版本の半数を80％以上読めるようにしたい」としている。



『絵入源氏物語』（国文学研究資料館蔵）から抽出された「の」の字形データベース。くずし字を自動判読する基の技術となる

「古典読み継ぐ」技術／くずし字読み取りも

現代人が普段「古典」として触れているのは、もともと変体仮名や草書体文字などで書かれたものだ。それを研究者らが、活字に起こして読めるようにした。明治期以前にくずし字で書かれた古典籍は、一説に一〇〇万点あると言われる。そのうち活字化されたものは一％に満たない。

国文学研究資料館の神作研一教授は、「江戸時代の古典籍には、文学以外に、物理や数学、建築など様々な本がある。過去の人々による知の宝の山とも言え、一般の人も広くくずし字を読めれば、様々な可能性が開かれると思う」と語る。

平成27(2015)年11月4日　カレントウェアネス

ホーム

国文学研究資料館、『国文研古典籍データセット（第0.1版）』を公開へ

Posted 2015年11月4日

国文学研究資料館が、古典籍を自由に研究・活用してもらうため、国立情報学研究所の協力のもと、同館所蔵の日本の古典籍350点の全冊画像データ（画像約6万3千コマ）とその書誌データを、同研究所の「情報学研究データリポジトリ」IDR」より、データセットとして、2015年11月10日から一般公開すると発表しています。

データセットの構成は以下の通りとのことです。

・古典籍画像データ：350点におよぶ日本の古典作品について、その全冊（約63,000コマ）のJPEG形式の画像データ。
・書誌データ：350点に関する当館作成の書誌データをテキスト形式でまとめたもの。一部の作品には当館で付与した略解題も含む。
・本文テキストデータ：一部の作品について、その翻刻本文のテキストデータを付す。
・タグデータ：一部の作品について、当館で付与作業を行っている1枚1枚の画像に対する文中の固有名詞のタグ情報をCSV形式のデータとして提供。

また、『国文研古典籍データセット（第0.1版）』は、クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス（CC BY-SA）で提供されるとのことです。

平成27(2015)年12月4日
日本経済新聞（夕刊）

体・験・学
12/4 日経(夕)P9

古文書の海に乗り出す ⑤

崩し字の自動解読で新技術
急減する専門家の代役担う

古文書を読むという極めて地道な作業を巡って今年夏、画期的なニュースが飛び出した。江戸時代までの崩し字を自動解読し、電子テキストデータに置き換える技術を凸版印刷が開発。8割以上の精度で判読することができるという。

これまで、手書きの古文書を原本通りに活字に組み、出版することが知的にもも体力的にもどれほどのエネルギーを要し、研究の基礎資料として貴重かつ重要であったかは言をまたない。日本史学や日本文学研究の先人の苦闘の記録に明らかだ。それがコンピューターの技術で一挙に解決するというニュースに、どのような仕掛けなのか凸版印刷にうかがった。

そもそもは日本文学などの基幹研究や共同研究を行う「国文学研究資料館」（東京都立川市）が昨年から古典籍約30万点を画像化したデータベースを構築し、インターネット上で公開するという一大プロジェクトを開始。その中で凸版とはこだて未来大学（北海道函館市）の寺沢憲吾准教授が共同開発したという。

仕組みは、崩し字の大量のデータベースを基に、解読したい部分の類似画像を検索、照合して解読するというコンピューターらしい力業だ。ポイントは解読する縦書きの文章画像を横に細かくスライスして特徴をつかむという点にある。

崩し字は2文字なのか1文字なのか分かりづらいケースがよくある。漢字もかなも省略して一筆で書こうとする傾向があるからで、筆の流れに沿った縦方向ではなく、横に切った画像の方が特徴がよくつかめるというのが面白い。

崩し字の解読システムに対するニーズは近年高まっているという。背景には古文書を読める専門家の急減が挙げられる。素材である紙の経年劣化や大規模災害による被災の恐れもある。実際、東日本大震災では多くの資料が失われた。

解読技術を開発した経験をいかし、古文書を読めるようになるにはどうすればいいか、担当した同社の大沢留次郎さんに尋ねた。「本版印刷された文字から入る。癖がないから、日記も同一人物が書くから傾向はわかりやすい。同じく開発を担当した山本純子さんは古文書講座に通っているという「置表紙などエンターテインメント性の高い楽しいテキストを使えば関心が続くのでは」と助言する。

基本的に趣味の勉強と全く同じと考えていい。頻出する字から順に、漢字もかなもひとつずつ根気強く覚える。分からなければ調べる。その繰り返しに尽きるようだ。付け加えるなら、習慣づけるとよく、少しの時間でも毎日続けるとよおい。

海は深く、はるかに広い――（この連載は本田寛成〈53〉が担当しました）


類似字形の検索結果
に
[3]学習16-源氏物語1巻/
に
[4]学習16-源氏物語1巻/
膨大な数の崩し字がデータベース化されている

平成27(2015)年12月19日
朝日新聞（夕刊）

古典籍データ 誰でも

国文研、源氏物語など350点ネットに



日本の古典籍を広く活用してもらおうと、国文学研究資料館（東京都立川市）が所蔵資料の画像データなどをネット上で公開する取り組みを始めた。第1弾として11月に源氏物語や十六夜日記など350点の画像を公開。誰でもダウンロードできるようにし、新たな研究を呼び込む。

古典籍は主に江戸時代以前に書写されたり印刷されたりしたもので、同資料館では約1万6千点を所蔵。国立情報学研究所（東京都千代田区）の協力で、同資料館初の公開が実現した。

11月10日に350点の全冊の画像データや、検索しやすい書誌データを公開。源氏物語や二十一代集など著名な点は読みやすいよう活字に直したテキストデータも掲載した。江戸時代の喜多川歌麿の狂歌絵本「画本虫撰」▽料理本「豆腐百珍」など和食に関するもの▽「紙漉重宝記」など和紙に関するもの▽日本に現存する最古の医学書とされる「医心方」など医学関連のものなど、幅広い分野の資料がある。

開始1カ月余りで海外も含め1万件を超えるアクセスがあった。同資料館の山本和明・古典籍共同研究事業センター副センター長は「海外の人にもどんどん使ってほしい。様々な立場の人の目に触れれば、我々が予想しない活用法も出てくるだろう」と期待する。

国立情報学研究所「情報学研究データリポジトリ」のサイト（http://www.nii.ac.jp/dsc/idr/nijl/nijl.html）でダウンロードできる。今後も順次公開する予定。（宮坂麻子）

国文学研究資料館が公開した「画本虫撰」の画像データ

平成27(2015)年12月19日
朝日新聞デジタル

古典籍データ、誰でも　国文研、源氏物語など350点ネットに

2015年12月19日16時30分

シェア 3　ツイート list　ブックマーク 0　スクラップ　メール　印刷

紙面ビューアー | 面一覧



国文学研究資料館が公開した「画本虫撰」の画像データ

日本の古典籍を広く活用してもらおうと、国文学研究資料館（東京都　立川市）が所蔵資料の画像データなどをネット上で公開する取り組みを始めた。第1弾として11月に源氏物語や十六夜日記など350点の画像を公開。誰でもダウンロードできるようにし、新たな研究を呼び込む。

古典籍は主に江戸時代以前に書写されたり印刷されたりしたもので、同資料館では約1万6千点を所蔵。国立情報学研究所（東京都　千代田区）の協力で、同資料館初の公開が実現した。

11月10日に350点の全冊の画像データや、検索しやすい書誌データを公開。源氏物語や二十一代集など著名な5点は読みやすいよう活字に直したテキストデータも掲載した。江戸時代の喜多川歌麿の狂歌絵本「画本虫撰（むしえらみ）」▽料理本「豆腐百珍」など和食に関するもの▽「紙漉（かみすき）重宝記」など和紙に関するもの▽日本に現存する最古の医学書とされる「医心方」など医学関連のものなど、幅広い分野の資料がある。

開始1カ月余りで海外も含め1万件を超えるアクセスがあった。同資料館の山本和明・古典籍共同研究事業センター副センター長は「海外の人にもどんどん使ってほしい。様々な立場の人の目に触れれば、我々が予想しない活用法も出てくるだろう」と期待する。

国立情報学研究所「情報学研究データリポジトリ」のサイト（http://www.nii.ac.jp/dsc/idr/nijl/nijl.html）でダウンロードできる。今後も順次公開する予定。（宮坂麻子）

平成28(2016)年2月15日
朝日新聞（朝刊）

Around Tokyo

■オーロラの記述探そう

古代・中世の古典籍の中からオーロラに関する記述を探すワークショップ「『古典』オーロラハンター」が3月13日、東京都立川市の国文学研究資料館である。スタッフと一緒に「赤気」（赤いオーロラ）などの表現を探す。午後1時半～4時半。参加無料。募集人数は20人で、2月22日までに申し込みが必要。申し込み方法など詳細は同資料館のサイト（https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20160313_workshop.html）。

平成28(2016)年1月21日
カレントウェアネス

E1754 - 国文研「歴史的典籍オープンデータワークショップ」＜報告＞

カレントアウェアネス-E
No.296 2016.01.21

E1754

国文研「歴史的典籍オープンデータワークショップ」＜報告＞

国文学研究資料館（以下「当館」）では2014年から「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」を実施しており，30万点の古典籍画像を搭載したデータベースの構築と，それを基盤とした国際共同研究ネットワークの形成を事業の柱として，国内外の大学等と連携しながら本計画を推進しているところである。その事業の一環として，2015年11月10日，「国文研古典籍データセット」を国立情報学研究所（NII）の情報学研究データリポジトリ（IDR; E1755参照）において公開した。これは，当館が所蔵する古典籍の画像・書誌データ350点から成るものであり，クリエイティブコモンズの「表示-継承」（CC BY-SA）ライセンスのもと公開している。

そして2015年12月18日，当館は「歴史的典籍オープンデータワークショップ～古典をつかって何ができるか！じんもんそん2015～」をメルパルク京都で開催した。このワークショップは，公開予定の画像データベースを構築する際のアイデアや，このデータセットの活用方法を考えてもらい，かつ古典籍の魅力を知ってもらおうと企画したものである。またこれは「アイデアソン」と位置づけ，NIIとの共催，日本デジタル・ヒューマニティーズ学会及び情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会の後援で，同研究会主催の「じんもんこん2015」（12月19日～20日・於同志社大学）の併催イベント「じんもんそん2015」として

「くずし字」学習アプリ開発

大阪大、歴史資料に親しみ

2016/3/9 19:32

357　357　見る　3

いいね！　シェア　ツイート　ブックマーク

江戸時代以前などに現代の平仮名や漢字の形を崩して使用されていた「くずし字」を、実在する古典から引用し、画像にして覚えるスマートフォン用無料アプリ「KuLA」を大阪大の飯倉洋一教授（日本近世文学）らのチームが開発し、大阪市内で9日、公表した。



「くずし字」の学習アプリについて説明する大阪大チームのメンバー＝9日午後、大阪市

戦国武将の手紙や浮世絵に書かれた文字のほか、古い時代の地震などの災害関連資料を読む手助けとなり、国内外の研究者の関心が高まっていた。

チームによると、くずし字は、一つの平仮名や漢字に対して複数のパターンがあり、使用頻度が高い278字に対し、江戸時代の本から収集した用例3千以上を収録した。

平成28(2016)年3月9日
共同通信ウェブ

関西 NEWS WEB | 関西 NEWS WEB TOPへ戻る |

平成28(2016)年3月11日
NHK関西 NEWS WEB

ニュース詳細

くずし字など学ぶアプリ開発

03月11日　08時14分



江戸時代以前に使われた、漢字の字画を省略した「くずし字」などを学べるスマートフォン用のアプリを大阪大学のグループが開発し、話題を呼んでいます。
このアプリは、大阪大学大学院文学研究科の飯倉洋一教授などのグループが開発しました。
江戸時代以前に使われた、▼漢字の字画を省略した「くずし字」や、▼今のひらがなとはやや形が違う「変体仮名」のうち、使われる頻度が高い２７８の文字について、実際の古文書に書かれたあわせておよそ３０００例を収載しています。
検索画面で今の漢字やひらがなを入力すると、対応するかつての文字の複数の例を確認できます。
また、鴨長明の随筆、『方丈記』など、実際の書物から引用した文章を読み解き、隣に正解を表示できる機能や、分からない文字を撮影して送信すると、ほかの利用者が教えてくれる機能も備えられています。
このアプリは２月から公開され、誰でも無料で使うことができます。
飯倉教授は、「研究者や学生だけでなく、若い世代や外国の人にも使ってもらい、日本の古典に親しむきっかけになればうれしい」と話しています。

日本経済新聞
2016年5月23日（月）

阪大が「くずし字」学習アプリ 「古典に親しんで」

2016/3/15 12:25

江戸時代以前などに平仮名や漢字の形を崩して使用されていた「くずし字」を、実在する古典から引用し、画像にして覚えるスマートフォン用無料アプリ「KuLA」を大阪大の飯倉洋一教授（日本近世文学）らのチームが開発した。

戦国武将の手紙や浮世絵に書かれた文字のほか、古い時代の地震などの災害関連資料を読む手助けとなり、国内外の研究者の関心が高まっていた。

チームによると、くずし字は1つの平仮名や漢字に対して複数のパターンがあり、使用頻度が高い278字に対し、江戸時代の本から収集した用例3千以上を収録した。

字形の学習のほか、鴨長明の「方丈記」（古活字版）など3作品を使っての読解訓練、難しい文字を利用者同士が撮影して送信し合い、読み方を教えてもらう交流機能も備えた。

現在、現物が確認されている江戸時代以前の古典や歴史資料のうち現代語で読めるものは非常に少ないといい、飯倉教授は「古典が親しまれるきっかけにもなるのではないか」と話す。くずし字を自動認識する機能も実験中で、アプリの英語版の作成も進めている。〔共同〕

関連キーワード　くずし字、飯倉洋一、鴨長明

平成28(2016)年3月15日
日本経済新聞ウェブ

平成28(2016)年3月30日
中日新聞

中日新聞　(第3種郵便物認可)
カルチャー

Culture

和本学べば広がる世界

日本近世文学会 中学高校で出前授業

伝統的な「くずし字」理解を

江戸時代末までに書写、刊行された日本古典籍（和本）への関心を高めようと、研究者約800人でつくる「日本近世文学会」が出前授業を始めた。対象は主に中学校と高校で「一人でも多くに変体仮名（くずし字）に親しんでもらい、知識の幅を広げてほしい。思考が柔軟なうちに魅力を伝えたい」と講師を務める研究者は話す。実施校はまだ少ないが、理想的な指導法の確立を目指す動きも出てきた。（谷村卓哉）

同学会は「どう読み、理解し、活用するかといった日本古典籍に関わる総合的な能力」を「和本リテラシー」と定義。まずはくずし字に触れる機会をつくろうと、同学会の広報企画委員会（委員長＝神作研一・国文学研究資料館教授）が窓口となり、所属研究者を原則無料で派遣する。文学系学会では異例の取り組みだ。

出前授業は関東の私立二校に次ぎ、三月中旬には名古屋大教育学部付属中・高校（名古屋市千種区）の中一クラスで開かれた。「新学習指導要領では、文法偏重ではなく古典に親しむ授業がこれまで以上に求められる。習い始めの時期に、くずし字を理解することにどんな意義があるのかを生徒に知ってほしい」。加藤直志・同校国語科教諭が依頼理由を説明する。講師を務める加藤弓枝・豊田工業高等専門学校准教授、三宅宏幸・愛知県立大准教授（ともに日本近世文学）と何度も打ち合わせて指導案を練り、本番を迎えた。

現代もそば店の看板や割り箸の袋など一部にくずし字が見られるものの、近代化を目指す明治政府の方針で小学校でくずし字を教えることがなくなった結果、千年も読まれてきた文字が忘れられていった。講師二人は、教材として、江戸前期に上方で出版された『絵本あつめ草』巻一から「桃太郎」を取り上げ、複数の場面に書かれたくずし字を生徒と読んでいった。「この文字とこの文字は形が一緒だ」「あっ、これ『あ』って書いてあるんじゃない？」―。グループで話し合い、解読が進むたび歓声が上がるなど教室は盛り上がった。

この桃太郎、よく知られる物語とは異なっていた。ある夫婦に神が与えた桃から、頭と手足がにょっきり生え主人公が誕生する。鬼退治のお供は「ひいらぎのせい（精）」と「いわしのせい」。頭上に生えたヒイラギの葉を投げ付け、「光り物」だけに頭上のイワシからヒリリと光線を発して鬼に立ち向かう。節分にちなむパロディーといい、三宅准教授は「こんな桃太郎、知らなかったでしょう。江戸時代の人たちが楽しんだ面白い作品がまだいっぱい眠っている。くずし字を読めない人がほとんどだから、なかなか世に出ないんだね」。生徒たちはうなずいていた。

日本には膨大な古典籍が残されたが、一般人が手に取れる形で活字化されているのはわずか1％程度。国文学、歴史学などの専攻学生や研究者でもない限り、伝統的な和本やくずし字に触れる機会は極めて少なく、加藤准教授は「日本人としてもったいない」と訴える。東日本大震災であらためて注目された津波碑も、読めなければ祖先が残した貴重な教訓をくみ取れない。「意外な発見もたくさんできます。例えば松尾芭蕉。俳句界の聖人ですが、手紙を読むと他人の悪口ばかりで、性格が悪かったのではないかなあ、と。こんなふうに、世界がぱっと広がる面白さをぜひ味わってほしいのですが」

近年、地震学や天文学など理系分野の研究でも昔の情報が詰まった和本は重宝される傾向にある。将来の進路にかかわらず、古典への苦手意識がないうちに一度は読解に挑戦し、過去との対話チャンネルを増やしてほしいという。出前授業の拡大へ、加藤、三宅両准教授と加藤教諭は今回の出前授業の反省を踏まえて他校でも導入しやすい理想的な授業の流れを検討し、連名で論文にまとめる方針だ。同学会は「教える側の充電も積極的に手伝いたい」（神作教授）と、国語教諭の勉強会などへの講師派遣も検討している。

◇

出前授業の問い合わせは、同学会広報企画委員会の電子メールへ。アドレスはkoho@kinseibungakukai.com



くずし字の歴史や読み方などが解説された出前授業



「桃太郎」を教材に、くずし字を読み解く生徒たち＝いずれも名古屋市千種区の名古屋大教育学部付属中で

平成28(2016)年4月
講座情報誌「きらりたちかわ」

第２回日本語の歴史的典籍国際研究集会

7/29（金）、30（土）

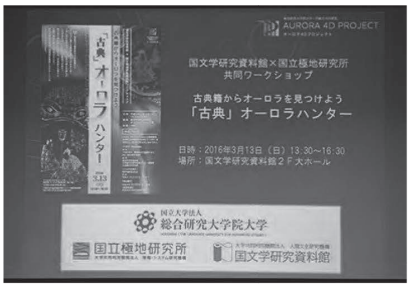
「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」で実施している各種共同研究の成果を広く発信することを目的として、この計画に参加している研究者を中心に、国内外の研究者による、基調講演とパネル発表を行います。

㊞ 国文学研究資料館（緑町 10-3）
㊟ 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター事務室古典籍共同研究係☎ 050(5533)2988
Ⓔ cijinfo@nijl.ac.jp

平成28(2016)年5月
地域情報誌「えくてびあん」

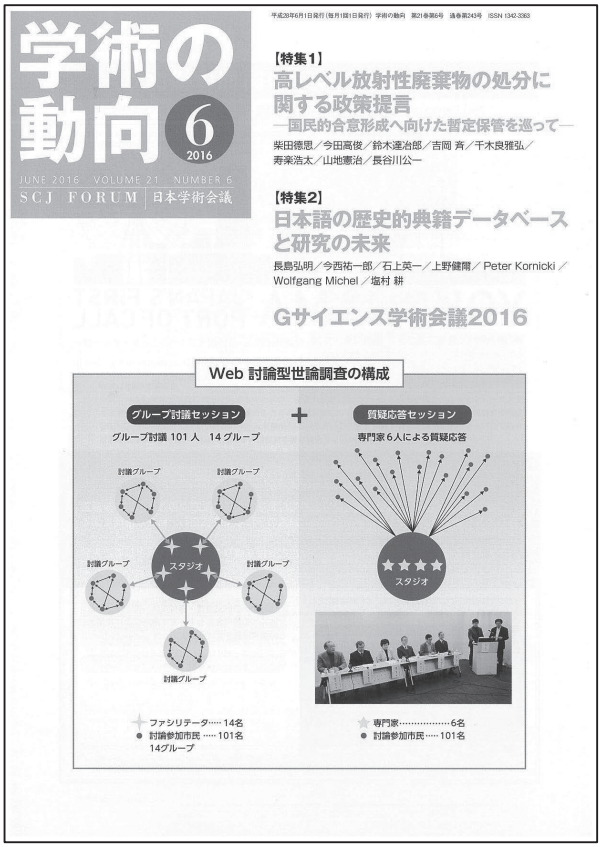
文理融合のワークショップ

むずかしいタイトルですが、とても面白い試みでした。立川にある研究機関、国文学研究資料館と極地研究所、それに総合大学院大学がひとつになって「何か」をする。研究機関が立川に移転してきて初めての文理融合企画です。何をしたかを簡単に言えば、古典の書物からオーロラの記述を探し出しましょうということです。事前申込された方々には若い方も多く、古典が好きな方、オーロラが好きな方、さまざまでした。国文研では２年前から文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」を進めています。その古典籍共同研究事業センターの副センター長である山本和明先生とオーロラの専門家である極地研究所の片岡龍峰准教授を中心にワークショップが行われ、「吾妻鏡」や「玉葉」など８つの古記録の中にあるオーロラを意味するキーワード「赤気」「白気」「赤雲」「白虹」などを探しました。みなさん静かに作業し、結果今まで偉い先生でも見つけていない発見がありました。市民参加型の取組に、次回はみなさんも参加されてみてはいかがでしょう。

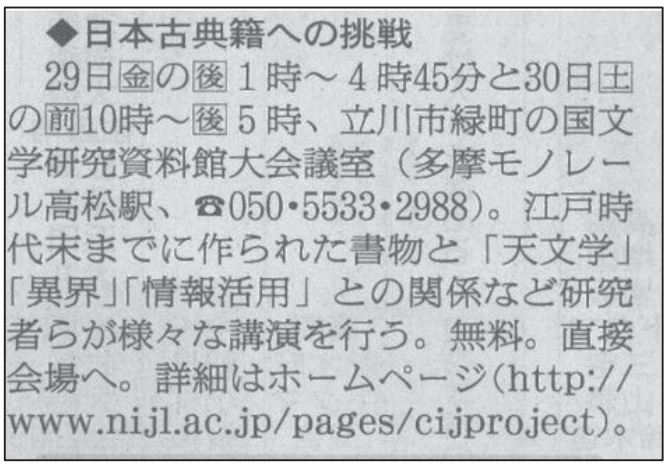




平成28(2016)年6月
「学術の動向」



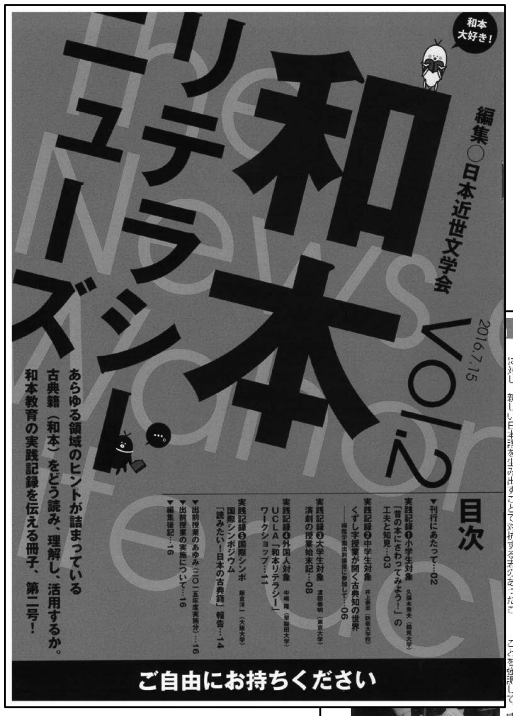
平成28(2016)年7月6日
朝日新聞



◆日本古典籍への挑戦

29日㊎の後１時～４時45分と30日㊏の前10時～後５時、立川市緑町の国文学研究資料館大会議室（多摩モノレール高松駅、☎050・5533・2988）。江戸時代末までに作られた書物と「天文学」「異界」「情報活用」との関係など研究者らが様々な講演を行う。無料。直接会場へ。詳細はホームページ（http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject）。

平成28(2016)年7月15日
「和本リテラシーニューズ　Vol.2」







平成28(2016)年7月20日
中日新聞（朝刊）

Culture

江戸の食文化 生き生き

国文研など 資料300点デジタル化

国文学研究資料館と味の素食の文化センター（ともに東京）が協力し、同センターが所蔵する主に近世の「食」に関する資料約300点をデジタル化することになった。来年5月のインターネット公開を目指す。（谷村卓哉）

国文研は現在、国の大規模学術フロンティア促進事業として、江戸時代末までに書かれた約三十万点の古典籍をデジタル化し、書誌情報とともにネット公開する作業を名古屋大など二十大学と共同で進めている。計画はこの一環。同センターには、現代の書籍を中心に四万冊を誇る「食の文化ライブラリー」があるが、これとは別に江戸時代の刊行物を核とする特別コレクションがあり、そのすべてが今回のデジタル化の対象となる。元禄年間（一六八八～一七〇四年）から一八七二（明治五）年ごろまでのもので、約三万七千百五十こまに及ぶ見込みだ。

たとえば、一八三四（天保五）年の『魚類精進早見献立帳』は、魚料理と精進料理を月ごとに紹介。「煮かへし酢」「黒ごまずみそ」など興味深い調味料や「饗応の惣奉行」である「献方」、四季寒暖による加減が問われる「煮方」など調理現場の役割も記す。

このほか、さまざまな豆腐料理のレシピが書かれた一七八二（天明二）年の『豆腐百珍』をはじめ、礼儀作法や名物案内など、先人の食文化をうかがわせる諸資料が手軽に見られるようになる。

国文研の担当者は「食は生活に密着した身近なテーマ。かなりまとまった資料群であり、家政学などの研究に役立ててもらうのはもちろん、一般の方が古典籍に親しむきっかけになるような内容にしたい」と話す。





『魚類精進早見献立帳』（国文研提供、味の素食の文化センター蔵）

平成28(2016)年8月
地域情報紙「えくてびあん」

［インタビュー］
きらり！この顔 Tachikawa Inside Outside あの人、この人、立川人 32 ［国文研シリーズ①］

これからの日本文学研究

グローバルを考える

グローバル時代を迎えた日本文学研究のこれからを
国文学研究資料館の館長に語ってもらった

今西祐一郎氏
人間文化研究機構 国文学研究資料館 館長。1972年（昭和47年）品川区戸越に創設された当初の文系大学共同利用機関 国文学研究資料館、2008年（平成20年）、立川に移転直後より4年を立川とって館長に着任。その後2度の再選で本年度末の8年目を迎えている。



真のグローバルとは

――世の中は今、なんでも「グローバル」になっていますね。ふた昔ほど前までは国内中心の日本史や日本文学の研究でしたが、近ごろは国際的な共同研究をいろいろなところでやっています。国文研でももちろんやっていますし、他の大学でもやっています。国際交流ということで、外国でシンポジウムをしたり、あるいは外国人研究者を日本に招いて国際シンポジウムをしたり。外国人研究者が交って雑かに「国際」なのですが、ここにひとつ問題があります。それは、参加する外国人研究者はみんな日本語に基礎を研究者だということです。一方、こちら側に英語もフランス語もほとんど使えない。それはかなり偏った国際交流なのではないかと、以前から思っていました。本当の、50/50の国際交流とは言えないのではないか。

ふりかえって私たち日本人の外国文学に対する態度はどうだったか。フランス語やドイツ語、ロシア語が読めなくても、バルザックやジッド、ゲーテ、トルストイなどを翻訳で読んで感動してきました。それと同じように海外にも日本語に読めないけれど日本文学に感動している人にいるのではないかと思うのです。日本文学を英訳や仏訳で読んで興味や関心を持つ人は少なくないと思います。ところが、昨今の日本文学研究の「グローバル」は、まだそういう人々には門戸を開ざしています。もうそういう時代ではない。実際に川端康成、大江健三郎がノーベル文学賞をもらっている。日本文学がノーベル賞をもらったことは喜ばしいことですが、しかし、考えてみるとそれは日本語でもらったのではないのではないか。川端さんも大江さんも英訳、仏訳された作品で評価されたのではないでしょうか。つまり、日本文学は外国人にどのような印象を与えているかということは外国語訳で読まないとわからないのではないか。そういう意味で、海外にいる日本語を読めない日本文学愛好家にも、私たちの研究成果を届けることで初めて本当の「グローバル化」になるのではないかと思うのです。

50/50の国際交流のためにすること

そのためには、私たち自身が英語、あるいはフランス語、今の国際語は英語ですから、まずは英語で発信していくことが大事だと思います。私自身もそうですが、そして私より少し後の世代までは、大学で日本文学や日本史を専攻するという選択をした時には、外国に行くということはあきらめていました。縁がない、外国旅行には縁なき衆生だと思っていました。美文学とかフランス文学、あるいは西洋史を研究する人たちは、両貿留学などになって海外に行くことは普通でした。けれども日本文学や日本史を選択した時には、外国に熟悩に行くなどということは全く考えもしなかった。日本語での勉強ばかりしていたわけです。ところが交通網が発達して海外との往来が簡単になったことで、『本の古典の場合ですと、実は海外に日本の貴重な古典籍がたくさんあることがわかってきた。大英博物館や大英図書館などは以前から有名ですが、それ以外にも欧米の有名な大学には容貌された日本典籍の立派なコレクションがあるのです。日本にない本も海外にあったりする。国文学研究資料館でも30年ほど前から、そういった古典籍の調査をやってきました。日本文学の公典を勉強するためにも海外に行く必要が出てきた。そういうことで国際交流が盛んになってきたのです。

これまでの海外での調査、研究は日本語のよくわかる研究者を相手に共同研究をするに留まっていましたが、これからは日本語がわからない日本文学愛好家や日本の歴史に興味のある人々にももっと関心を持ってもらえるよう、我々もきちんと発信していく義務があるのではないかと思っています。国文研では目下、国際共同研究プロジェクトの最完成果を日本語だけでなく英文で、しかも誰でも見ることが出来るオンライン・ジャーナルで発行することを計画しています。そのために、今年になって米国プリンストン大学出身のクリストファー・リーブスさん、またパリ大学出身のディディエ・ダヴァンさんを、教員として招きしました。将来は臨兵にも外国人研究者が就任するようなことになるかもしれませんね（笑）。

国文研の仕事

現在バチカン図書館での調査を行っています。『マレガ・プロジェクト』と言いますが、江戸時代の幕後期（大分県）のキリシタン史料で、現在バチカン図書館に所蔵されているものです。キリシタン研究・就蔵に関する膨大な史料です。宗門改めといわれるものなど、「私はキリシタンではありません」という内容の文書ですね。それを欧西に大分地区の司教だったマリオ・マレガ神父が収集し『豊後切支丹史料集』という2冊の史料集にまとめて、その史料は1933年にマレガ神父によってバチカンに送られ、バチカン図書館で保管されてきました。

2011年にバチカン図書館で1万点に及ぶこの史料集の原史料が発見されたのですが、それらはバチカン図書館では読める人がいないので、それまで在イタリアの日本古美術調査を行っていた国文研に手伝ってくれないかという要望協力の依頼がきたわけです。日本側では私たちと歴史史料編纂所、東京大学史料編纂所、大分県立先哲史料館が参加し、代表機関は国文研が務めています。これは海外で大きなニュースになりました、なんと言ってもバチカンですからね。

在海外の資料としては、一昨年まで上としてオランダにあるシーボルト父子の資料調査もしてきましたが、シーボルトにしてもバチカンにしても、現時点では調査も成果発表も日本語で進めていて、対等に外国語でやりあっているわけではありません。でもこれからの研究者は、英語で最低のことは使える能力がないといけません。もうすいぶん前に、上智千鶴子さんが『国境 お構いなし』（2003年、朝日新聞社刊）というエッセー集の中で、「語学が嫌いだから、日本史や日本文学を選んだ、と言っていられる時代は終わった」と書いています。自分のことは棚に上げて、その通りだと思います。

以前、理系の人の前で話した時に、「文系に来る人間はまず数学ができないか、あるいは嫌いだから文系を専攻します。文系の中でも語学ができないのが日本文学と日本歴史をやるのです。私たちはそういう最低の人間です」と自虐的な自己紹介をして拍手をもらったことがあります（笑）。自慢にはなりませんが。

国文研の仕事

でも、現在、日本文学や日本史の研究者は欧米研究の人と同じくらい、あるいはそれ以上、海外に行っているのではないかと思います。私たちは必要とされているのです。国書館にこんな本があるから、読んでくれないか、見て調べてくれないかと。

しかし、今は日本文学がブームというほどではないし、海外の日本文学研究者、中でも古典の研究者がそんなに多いわけでもありません。むしろひと頃より減っているかもしれません。日本の退潮は研究の世界だけではないようです。突飛な話を持ち出しますが、ファッションモデルに関してもそうらしい。少し前、そのことを指摘した新聞記事を読みました。国の経済が発展している時は、モデル業界も盛り上がる。パリコレなどで活躍する「スーパーモデル」の勢力図は同際経済の縮図」なのだそうです。日本経済は最適中で、中国、東欧、旧ソ連などを新興のBRICs諸国の勢いがすごい。そして、日本のモデルはというと、雑誌モデルからタレント、女優になるという日本固有のルート。海外の厳しい環境で勝負しない構造ができているというのです。さらにおもしろかったのは「国内で活躍するモデルの多くは身長175cm以下なので世界では通用しにくい」という指摘でした。まさに「かわいい」に向けたガラパゴス化です。

研究の世界にも通じる現象のような気がして、興味深い新聞記事でした（「日本人モデル 世界は遠く―「かわいい」偏重進むガラパゴス化」日本経済新聞3月26日夕刊）。

また、大学生が海外に留学したがらない、新入社員が海外で働きたいとは思わない、ということが、最近話題になっています。内向きということは、日本が快適だということでしょう。海外がグロなどで怖いということよりも、やはり国内が快適。

内向きという点では、江戸時代がそうでした。鎖国ですね。鎖国前事に指摘されていたように、内向きの時代に生まれる文化はガラパゴス化します。ものすごく優美繊細に発展するけれども、強の文化との互換性に乏しい。それこそが魅力だとも言えるのですが、日本は島国になりましたし、しかし通観に、あるいは幅って広かな文明はやがて滅びるのですね。歴史が物語っています。「きれい」とか「かわいい」とか、個感した文化の裏れだと思います。でも模熟ですから腐る一歩手前です。

江戸時代、アメリカに脅かされて明治維新でそれまでの文化を担ってきた人がほとんど没落しました。確準や長州の強方人が江戸へ出てきて、明治政府を作って、それで日本は救われたわけです。中国も、王朝が貴族化して腐敗しては滅びて新王朝が起こるという歴史を繰り返してきました。

政治家は国るかもしれないけれど、文化はそういう時にえもいわれぬ美的遺産をなしとげます。それをもてはやすのにちょっと無責任でもありますが。

鉄心斎文庫のこと

国文研にとって今年になっての導華すべき出来事は、伊勢物語コンクション「鉄心斎文庫」を寄贈いただいたことです。これは個人のコレクションで、小田原で鉄心斎文庫伊勢物語文庫館を設置しておられた芦澤美佐子氏が、ご主人の故芦澤新二氏と共年かけて収集された世界最大の伊勢物語コレクションです。「伊勢物語」の伝本、注釈書、カルタ、屏風など関連資料千点余り。評価額は8億円にのぼります。大きな個人コレクションは少なくありませんが、一つの作品だけに的を絞ったコレクションで、こんなに膨大なコレクションは、日本にはありませんし、おそらく世界にもないでしょう。

国文研では立川への移転以前、まだ品川の戸越にあったころ、その成書の一部を拝借して「伊勢物語展」を開催したこともあるのですが、今年度からはその鉄心斎文庫の共同研究を開始し、来年度には「鉄心斎文庫伊勢物語展」を複数回にわたって開催する予定です。そして、現在、国文研で展開中の人文系唯一の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」においても、その画像をインターネットで世界に向けて公開していきます。それは大学共同利用機関としての国文研にふさわしい事業になると確信しています。

国文学研究資料館、「国文研古典籍データセット」の活用例を紹介するウェブページを公開

Posted 2016年9月2日

2016年9月1日、国文学研究資料館は、国立情報学研究所の情報学研究データリポジトリで一般公開している「国文研古典籍データセット」について、その活用例を紹介するウェブページを公開しました。

9月1日現在、

・立命館大学ARC古典籍ポータルデータベース
・くずし字学習支援アプリKuLA(Kuzushiji Learning Application)
・The Web KANZAKI
・国文研データセット簡易Web閲覧

が掲載されており、事例が募集されています。

平成28(2016)年9月2日
カレントウェアネス

平成28(2016)年9月2日
日本経済新聞

文化

滑稽本 医学ネタでくすり

◇江戸期の知識人、権威シャレのめす文理一体の教養◇

福田安典

江戸時代の文芸作品には、医学書を読み込んでいないと背景がつかめなかったり、文章に仕込まれたシャレやユーモアがよく理解できなかったりする例がたくさんある。大学院で国文学を専攻していた30年ほど前に気がついた。それ以来、近世の医学書と文芸書の読み比べを続けている。

w w w

パロディー読み解く

例えば次の2つの文章(現代語訳)を読み比べてもらいたい。

「凡そ薬の美悪は、もとより医人が識り弁ずる所である。薬が真美でなければ病は癒えないであろう」

「凡そ妓(遊女)の美悪や真偽は、もとより漂客(遊客)が識り弁ずる所である。妓がまことに美しくなければ、買ってはいけない」

1つ目の文章は京都堀川の高名な医師、香川修庵(1683~1755年)の医学書「一本堂薬選」。2つ目は同時代の上方の洒落本「本草妓要」から抜き書きした。「薬」と「妓」、「医人」と「漂客」が入れ替わっているほかは、ほとんど同じ文章だ。「本草妓要」の作者が悪ふざけと言ってもいいぐらいのもじりによって、当時の権威である医学書をシャレのめしているのである。



「本草綱目」をもじった江戸時代の見立絵本「本草盲目集」(日本女子大学蔵)

「本草妓要」という書名もまた「本草備要」という中国の医学書のもじりだ。こうした医学書とのつながりをまったく知らなくても「本草妓要」は読める。だが、知っていた方が何倍も楽しい。元になった書籍を知っているからこそニヤリと笑えるのであって、そうでなければパロディーの面白みを本当に味わったことになるだろうか。



江戸時代の医学と文芸の密接な関係に興味を持ったころは、大阪大の大学院にいた。街の中心に製薬会社が集まる道修町があるからなのか、大阪は何となく近世の薬学である本草学の匂いがする。その影響もあってか、国文専攻の学生として花鳥風月の書を読みつつも、気の向くままに江戸の医学書や本草書を拾い読みしていた。

w w w

源内や西鶴もチクリ

「ちゃんと研究するならつまみ食いじゃなく、一から読んだらどうだ」という先生のアドバイスもあり、京都大学が所蔵する著名な医学史家、富士川游の蔵書を目録の「ア」から読んでいった。

そんな中、目にとまったのがエレキテルの発明者、戯作者の平賀源内の作品である。源内が自筆の滑稽本「天狗髑髏鑑定縁起」や「放屁論」で、前出の香川修庵を盛んにからかっている。関連書を読むうちに、「本草妓要」のパロディーに気がついたのだ。

さらに読み進めるうち、医学書と読み物の絡み方には様々なパターンがあることが分かってきた。井原西鶴の浮世草子「武道伝来記」には、当時の処方箋である「種方付」そのものが登場するエピソードがある。病に倒れたお姫様の治療プランを2人の医者が書面にしたためて競うのだ。

当時、医師は自らの優秀さを示すために、ライバルである他流の医師の失敗例を書面で堂々と公開した。よそのミスをあげつらい患者を集めようと競うのが習わしだったのだ。医師同士のこうした内輪もめは、西鶴のような外野の目には滑稽に映ったようである。「武道伝来記」には患者争奪を巡って繰り広げられたドタバタ劇への皮肉が込められていると感じた。

w w w

医に明るかった読者層

医学書の風を装った文学作品の一群も見つけた。様々な事物の見立てを絵にした見立絵本「本草盲目集」は、中国の著名な本草書「本草綱目」を題名のみ借りている。中身は全く似ていない。

江戸時代にこれだけ医学と文学の垣根が低かったのはなぜか。一つには、当時の読書人は今の人が想像するより医学知識に明るかった事情がある。昔はめったに医者にかかれなかった。だから武士や家持ちの商人、職人の親方層は手持ちの医学書で勉強し、簡単な薬ぐらいなら自分で調合できるほどの知識を蓄えていた。こうした背景があるので、医学の話題は文芸のタネとして通じやすかったのである。

こつこつと集めて読んできた医学書と文芸書の研究をまとめ、「医学書のなかの『文学』」(笠間書院)という本にした。最近、理系と文系の垣根を越えた研究や知識のあり方が注目されている。そんなとき、本を書く方も読む方も文理の違いなど意識していなかった江戸時代に思いを致すのは、無益ではなかろう。

(ふくだ・やすのり=日本女子大学教授)

平成28(2016)年9月7日
伊豆新聞

江戸末期、伊浜で災害か

歴史資料継承機構 肥田家文書を修復、推察

南伊豆知ろう会



修復された古文書を興味深そうに眺める町民ら＝南伊豆町の伊浜山村活性化支援センター

古文書の保存や調査活動をしているNPO法人歴史資料継承機構（西村慎太郎代表）は、江戸時代末期の年貢の割り付けを書いた紙「亥御年貢免定之事」を修復した。西村さんは肥田家文書のうち、1852年に伊浜で何らかの災害があったとみられる」と発表した。

このほど、南伊豆町伊浜の伊浜山村活性化支援センターで、修復した伊浜肥田家文書の報告会「南伊豆を知ろう会」を開いた。西村さんは肥田家文書のうち、1852年に伊浜で何らかの災害があったとみられる」と発表した。

亥御年貢免定之事には、災害によって免除された年貢についても記されている。同機構はぼろぼろだった亥御年貢免定之事を昨年11月から修復。年貢免除の記載が見られたことなどから、伊浜で災害が起きたと推察した。

同災害は江戸時代の地誌「豆州志稿」にも一切の記述がないという。亥御年貢免定之事には復旧の様子も記されており、西村さんは「当時の災害の断片と復旧の概要が分かったのが最大の成果。災害そのものに関する資料が出てくることを期待したい」と話した。

講演後は修復した古文書を披露。出席した町民ら約60人は興味深そうに眺めながら、伊浜の歴史について質問を重ねた。

法典通じ古代社会紹介

佐倉・歴博 銭、アワビ…生活密着の記述も

「延喜式」写本や資料30点



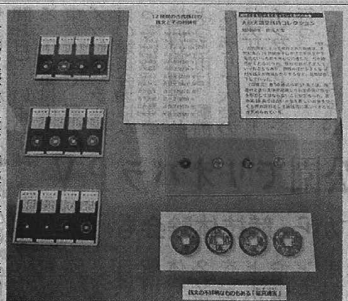
「延喜式」の写本などが展示されている会場＝佐倉市城内町の国立歴史民俗博物館

10世紀に編さんされた法制書「延喜式」について研究成果の一端を紹介する特集展示「『延喜式』ってなに!?」が佐倉市城内町の国立歴史民俗博物館で開かれている。堅苦しいイメージの法制書だが、銭貨の取り扱いからアワビの加工方法まで、古代の生活に密着した幅広い内容を板示を通じて解説している。19日まで。

「式」は、「格（きゃく）」とともに刑法や行政法の「律」「令」を補う目的で作られた古代法典の一種で、「現在でいえば、政令や通達などに相当する」（同館）。延喜5（905）年に醍醐天皇の命で作られ、康保4（967）年に施行されたのが全50巻の延喜式で、最後の式となった。

会場は四つのコーナーで構成。延喜式の内容や、編さんされた時代、平安貴族の延喜式の活用法などに関する資料約30点を展示している。

陰陽師の安倍晴明の子孫である土御門家が江戸時代に丁寧に写した延喜式写本を展示。全国の神社の名称を列記した「巻9」を紹介し、現代に続く「ハンコ行政」が古代から始まっていたことが分かる。アワビが天皇や公家が食べる高級食材で、全国から調達するために保存加工の方法が30種類あったことなども記されている。



古代の銭貨を展示し、文字の鮮明度に違いがあった様子を紹介している

「巻50」は「雑式」と呼ばれ、雑多な法が集まる。例えば、「商売人が銭に書かれた文字が不鮮明という理由で受け取り拒否した場合はむち打ちの刑とする」との条文がある。「時代によって銭貨の出来、不出来があったため、こうした法が作られた」と同館は説明する。

延喜式には、文書に押す印の大きさや押す場所、印の作り方なども細かく記さ

展示代表を務める同館の小倉慈司准教授は「法制なので一見無味乾燥な史料に思われるが、かつての社会状況が分かる幅広い事柄が書かれていることを知ってもらえれば」と話している。

月曜休館（祝日の場合開館）。時間は午前9時半～午後5時（入館は4時半まで）。料金は一般420円、高校・大学生250円。中学生以下無料。問い合わせはハローダイヤル☎03（5777）8600。

平成28(2016)年9月7日
千葉日報

平成28(2016)年9月9日
NHK News Web
高知新聞（朝刊）
高知新聞ウェブ
東京新聞ウェブ
日本経済新聞

平成28(2016)年9月15日
読売新聞（朝刊）

NHK NEWS WEB　2016年（平成28年）9月9日 金曜日

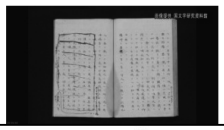
ニュース　動画　特集　スペシャルコンテンツ

新着　社会　気象・災害　科学・文化　政治　ビジネス　国際

JUST IN　北朝鮮で屈れ 韓国の通信社が伝える　9月9日 9時49分

東洋のルソー 中江兆民の代表作の直筆原稿見つかる

9月9日 7時08分



明治時代に日本に自由民権思想を広め、東洋のルソーと呼ばれた思想家、中江兆民の代表作「三酔人経綸問答」の原稿が見つかり、調査に当たった国文学研究資料館は直筆の下書き部分が含まれ、執筆の過程がうかがえる貴重な資料だとしています。

2016年（平成28年）9月9日（金曜日）　社会 2　☆☆　（28）

「三酔人経綸問答」草稿
元高知大教授が確認

自由民権の思想家として多くの著作を残した中江兆民が見された「三酔人経綸問答（さんすいじんけいりんもんどう）」草稿には、紙を切り貼りし、墨で文章を直した跡が残り・兆民の思考を知ることのできる貴重な史料だ。兆民の稿は「策論（高知市立自由民権記念館所蔵）など一部確認されておらず、専門家は「複数の草稿を比較するた知見が得られる」と期待している。（楠瀬慶太）



発見された「三酔人経綸問答」の草稿。表紙に「中江篤介稿本」と記されている

文筆家・兆民の息遣い

草稿は、日本の古典籍のデ に書かれた清書が混在し、清きです。やたらに武器を用 ータベース化に取り組む国文 書した紙を貼り付けた箇所も い、軽率に隣国を挑発し、無 学研究資料館（東京都）が、見られる。墨で大きく囲む、実の民の生命を砲弾の犠牲に 都内の古書店で今年3月に購 斜線を引くなどして文章を省 するなどは、考えるべきでは

高知新聞 The Kochi Shimbun

高知のニュース　国内・国際　特集・連載

新着　主要　社会　政治・経済　スポーツ　文化・芸能　教育　環境・科学　訃報　小社会

2016.09.09 08:05

高知市出身の思想家・中江兆民の「三酔人経綸問答」草稿発見

シェア　ツイート

明治期に活躍した高知市出身の思想家、中江兆民の代表的著作「三酔人経綸問答（さんすいじんけいりんもんどう）」の自筆草稿が発見されていたことが、９月８日までに分かった。



「三酔人経綸問答」は、国会開設３年前の１８８７年に出版された政治哲学書。平和や自由、防衛など現代につながる問題を提起し、近代日本の針路を予見した書物として注目され、現代語訳書も多数出版されている。

調査をした国立文学研究資料館（東京都）によ 一部はこれまでにも確認されていたが、ほぼ完 が見つかるのは初めて。

中江兆民（１８４７～１９０１年）

高知城下の山田町（現在の高知市はりまや町 れ。名は篤介、兆民は号。藩校から長崎、江戸 フランス留学。帰国後、学者、ジャーナリスト て活躍。哲学者ルソーの「社会契約論」を翻訳 ルソー”とも呼ばれた。



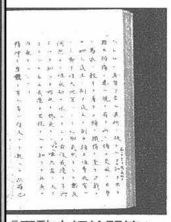
見つかった「三酔人経綸問答」の草稿（13日、国文学研究資料館で）

中江兆民 代表作の草稿

明治の思想家・中江兆民（1847～1901年）の代表作「三酔人経綸問答」の草稿が見つかり、13日、立川市緑町の国文学研究資料館で報道向けに公開された。15、16日、一般公開される。

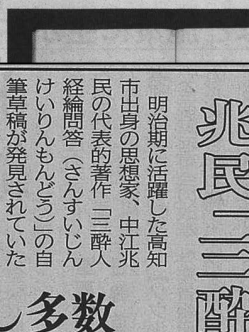
この時代の草稿が見つかることと自体、珍しい上、兆民の自筆で修正が加 副館長の谷 治日本の思 上で極めて 兆民は土 権運動の理

躍し、「東洋のルソー」と称される。同作は1887年（明治20年）に刊行され、異なる思想



「三酔人経綸問答」 資料館提供）

中江兆民の直筆原稿発見



明治時代にフランスの哲学者ルソーの思想を日本に紹介して自由民権思想を広め、「東洋のルソー」と呼ばれた思想家、中江兆民（1847～1901年）の代表作「三酔人経綸問答」の直筆原稿が見つかったことが8日、国文学研究資料館（東京都立川市）への取材で分かった。創作過程が分かる貴重な資料という。

高知市立自由民権記念館が10月8日から開く企画展で現物を展示するほか、国文学研究資料館も10月以降、ホームページ上で公開する予定。

1887年に刊行された「三酔人経綸問答」は、理想主義的な民主化を唱える「紳士君」と、武力による海外進出を主張する「豪傑君」、現実主義をと考えられ、現代に通じる論点を持つ。

原稿は114枚の和紙に毛筆で記され、二つ折りにして薄茶色の表紙を

書き 供

書に訂正の跡

ずれも、民主主義の可能性を追求した兆民の分身と代表する「南海先生」の3人が酒を酌み交わしながら日本の針路について議論するという設定。

付け、2冊の冊子にとじてあった。半分以上は清書に訂正や変更が書き込まれ、南海先生が民権について語り、議論が盛り上がる後半部分は下書きのままだった。切り貼りして推敲（すいこう）を重ねた試行錯誤の跡が生

兆民「三酔人経綸問答」草稿

ほぼ完全 手直し多数



明治期に活躍した高知市出身の思想家、中江兆民の代表的著作「三酔人経綸問答（さんすいじんけいりんもんどう）」の自筆草稿が発見されていたことが、8日までに分かった。

同書は、国会開設3年前の1887年に出版された政治哲学書。平和や自由、防衛など現代につながる問題を提起し、近代日本の針路を予見した書物として注目され、現代語訳書も多数出版されている。

調査をした国文学研究資料館（東京都）による草稿の一部はこれまでにも確認されていたが、ほぼ完全な形の草稿が見つかるのは初めて。



出版前に削除された文章や書き直しを加えた箇所が多数見られ、理論家として知られた兆民が原稿を推敲（すいこう）していく過程をたどることができる。

（楠瀬慶太）

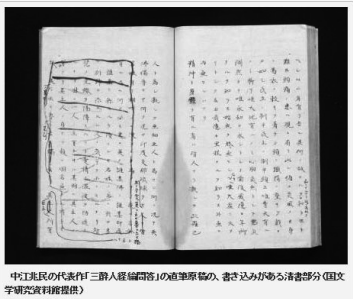
＝28面に関連記事

「三酔人経綸問答」の草稿。兆民が墨で手直しをした跡が見られる

2016年9月9日 08時07分

「東洋のルソー」と呼ばれた高知出身の思想家中江兆民（1847～1901年）の代表作「三 ことが8日、国文学研究資料館（東京都立川市）への取材で分かった。創作過程が分かる貴重な資料という。

から開く企画展で現物を展示するほか、国文学研究資料館も10月以降、ホームページ上で公開する予定。



中江兆民の代表作「三酔人経綸問答」の直筆原稿の、書き込みがある清書部分（国文学研究資料館提供）

平成28(2016)年9月14日　朝日新聞

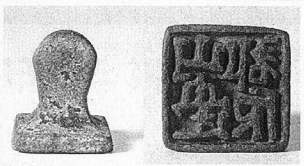
延喜式 古代の役人手引書

歴博で特集展、写本や関連資料

佐倉市の国立歴史民俗博物館で、特集展示「『延喜式』ってなに!?」が開かれている。延喜式は10世紀に作られた法制書で、いわば古代の役人の業務マニュアル。後世の写本のほか、関連資料など同館が所蔵する約30点が並んでいる。



国立歴史民俗博物館で開かれている特集展示「『延喜式』ってなに!?」。延喜式の写本や古代の銭貨などが並ぶ＝佐倉市



山辺郡印



大かがみ絵詞

同館の小倉慈司准教授らによると、延喜式は法律の施行細則にあたるもので、全50巻。3540条からなり、計約39万字が書かれている。同館などを運営する「人間文化研究機構」が今春から延喜式についての共同研究を始めたことに合わせ、延喜式を広く知ってもらおうと企画した。

延喜式の原本は現存しておらず、後世の写本が伝わる。今回は江戸時代初めに書写された全巻そろった写本と、鎌倉時代に書写された国重要文化財の最後の巻（巻50）の写本が展示されている。

江戸時代の写本は、神祇官が管轄する神社名を列挙した部分が展示され、その中には香取神宮（香取市）の名もある。また、官印の原材料などが規定された部分もあり、これに関連して八街市で出土した国重要文化財「山辺郡印」も展示。奈良時代中期の銅印（印面は4・7㌢四方）で、1967年に畑から出土したものだ。

一方、鎌倉時代の写本では、商売をする人はすり切れたお金の受け取りを拒否してはならないことなどが規定されている。今回の展示では、同館所蔵の「大川天顕堂銭貨コレクション」の中から、和同開珎から乾元大宝までの12種の古代銭貨も見ることができる。

また、延喜式の編纂を命じた醍醐天皇についての逸話が記された絵巻物「大かがみ絵詞」の関連部分も展示。平安時代の歴史物語「大鏡」をもとに、江戸時代に作られた絵巻物だ。このほか、延喜式とほぼ同時代に編纂された古今和歌集の室町時代後期の写本も展示されている。

第2展示室で19日まで。一般420円、大学生・高校生250円、中学生以下は無料（土曜は高校生も無料）。

（畑田博一）

平成28(2016)年9月26日　STI Horizon誌（科学技術・学術政策研究所刊行）

STI Horizon 2016 Vol.2 No.3　http://doi.org/10.15108/stih.00039

ほらいずん

日本の古典籍・歴史資料のデジタル化における新潮流

科学技術予測センター 特別研究員 蒲生 秀典

専門家が手作業で行っていた「くずし字」で書かれた古典籍注のテキスト化の作業の一部を、ソフトウェア支援で自動化することで、高速化、低コスト化を実現する新方式OCR（光学文字認識）が開発された。膨大な古典籍や古文書がテキストデータ化されることで、検索機能などデータベースの利活用が進み、人文・社会学系にとどまらず、理工系をはじめ各地方の地震記録や気象観測、医療関係、食物など異分野融合による科学技術の進展への寄与が期待される。

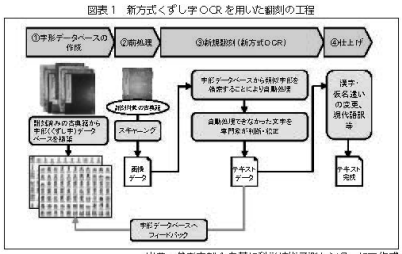
日本では江戸時代以降に数多くの書物が出版され、世界的に見ても特に多くの資料が残っているとされる。しかしながら、現代の日本人のほとんどは「くずし字」で書かれた古典籍注や古文書を読むことができない。また、これらを読める専門家も急激に減少しており、一方で紙資料は劣化していくという危機的な状況にある。

「くずし字」を楷書に変換する翻刻は、これまで全て専門家が手作業で行っていただが、最近作業の一部をソフトウェアによる支援で自動化することで、翻刻の高速化、低コスト化を実現する新方式OCR（光学文字認識）が開発された（図表1）[1]。近年、書籍の電子化に伴い OCR技術も進展し、現代活字文書の解読正解率は99％を超えるが、現状では現代文に限られている。新方式OCRでは、公立はこだて未来大学が開発した「文書画像検索システム」に基づく画像検索エンジンと、従来のOCR技術基盤を組み合わせることでくずし字OCRプロトタイプを開発、特定の条件下で精度80％以上の翻刻が可能であることが実証された。新方式では、文字画像を位置情報とともに切り出した字形データベースを構築、この字形データベースから類似字形検索により翻刻対象古典籍の文字の文字コードを特定する。また、技術的に難易度が高いと予想される完全自動化ではなく、専門家と自動処理システムを組み合わせた作業工程設計により翻刻の総合的な負荷を軽減することで、早期実用化を目指した。現在、国内外の大学等との共同研究事業により、書籍のほか、浄瑠璃台本、古文書、企業資料などを対象とした翻刻の実証試験が進められている。

国文学研究資料館では、平成26年度から10年間のプロジェクトとして、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」を進めている（図表2）[2]。計画では、日本語の歴史的典籍データベースの構築として、30万点の画像データの収集・公開、大規模提供システムの運用、検索機能の向上・多言語対応を実施予定である。また、国際共同研究とそのネットワークの構築を進める。さらにプロジェクトには、画像データのテキスト化の試行も盛り込まれ、新方式くずし字OCRを適用した実証試験を実施している。また、国立情報学研究所と共同で、平成28年度末を目標に40万字に及ぶ字形データベースの公開を予定している。テキストデータ化することで、検索機能などデータベースの利活用は飛躍的に進むと予想され、人文・社会学系にとどまらず、理工系をはじめ、各地方の地震記録や気象観測、医薬関係、食物など異分野の科学技術との融合や、それらの国際研究ネットワーク構築を加速することが期待されている。

新方式OCR技術を利用した古典籍の翻刻の高速化、低コスト化技術の進展・実用化により、出版物以外の古文書や古記録への適用による文化・技能の継承、さらには外国語への展開、あるいはAIの活用等による、現代語訳、外国語訳も実現可能となる。またオープンサイエンスの観点から、科学技術の分野融合、国際化、市民化の進展に貢献することが期待できる。

図表1　新方式くずし字OCRを用いた翻刻の工程



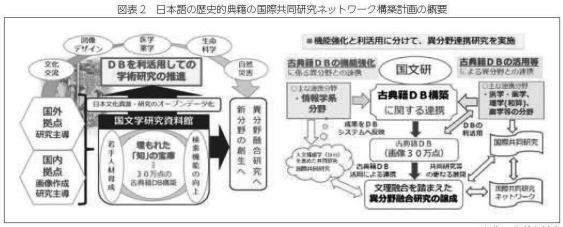
出典：参考文献1を基に科学技術予測センターにて作成

注　近代以前（江戸時代末まで）に、日本人により書かれた出版物。

謝辞

本稿の執筆に当たり、国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター 山本和明教授、凸版印刷(株)情報コミュニケーション事業本部 大澤留次郎氏に貴重な御意見を頂きました。ここに感謝の意を表します。

図表2　日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画の概要



出典：参考文献2

参考文献

1) 山本純子、大澤留次郎：「古典籍翻刻の省力化くずし字を含む新方式OCR技術の開発」、情報管理、58、819(2016).
2) 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画：国文学研究資料館概要（和文）2016、p8：http://id.nii.ac.jp/1283/00001937/

平成28(2016)年9月30日
カレントウェアネス

国立国会図書館、国文学研究資料館と連携・協力に関する協定を締結

Posted 2016年9月30日

2016年9月30日、国立国会図書館は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館と連携・協力に関する協定を締結しました。

両館は、これまでも「日本古典籍講習会」を共同で開催するなどの協力関係を築いてきましたが、日本文化の保存・継承、そして国内外に向けた日本文化の情報発信に寄与するため、一層の連携・協力が必要との認識で一致し、協定を締結することになりました。

両館が保有する資料やデータを活用し、デジタルアーカイブシステムの構築・発展を進めるとともに、教育・研究活動を支援し、広く国民の文化的活動に寄与することを目指しています。

平成28(2016)年11月2日　中日新聞

Culture

古典籍のくずし字 翻刻

江戸末期までに書写、刊行された日本古典籍をコンピューターを使って読みやすい形に「翻刻」させる研究が進んでいる。古典籍は100万点以上あるといわれ、文学、史学だけでなく自然科学や防災に関する研究でも活用が期待されるが、明治以降なじみが薄くなった「くずし字」が高いハードルとなっている。発展著しい人工知能（ＡＩ）が、誰でも気軽に古典籍と触れ合える世の中を実現してくれるのだろうか。（谷村卓哉）

コンピューター技術で楷書体に

先月下旬、宮崎大であった電子情報通信学会の研究会に、豊田高専（愛知県豊田市）情報工学科の早坂太一准教授の姿があった。国の科学研究費補助金を獲得し、電気・電子システム工学科の大野亘准教授、日本近世文学を専攻する一般学科の加藤弓枝准教授らと自動翻刻システムを開発中だ。翻刻とは、くずし字を現代人が読める楷書体に置き換える作業のこと。研究会で経過報告し「くずし字を一般の方々にも扱いやすくしたい」と展望を述べた。

手段は、世界トップ棋士を破った囲碁ソフトの開発などで近年注目を集める「ディープラーニング」だ。国文学研究資料館（国文研）がデジタル画像を公開する「古今和歌集」などからテスト用も含め約一万八千字を抽出。ＡＩに、くずし字画像をランダムに数万回提示して文字を構成する線の要素を多数拾い出し、特徴をつかませる〝学習〟を行うことで、翻刻候補をはじき出せるようになる。

一文字ずつの対応だが、精度は今のところ平均70～80％。サンプルが多いほど好成績で「の」「い」などはほぼ100％、「え」「ら」などは30～40％だ。開発には膨大な学習量が必要で時間がかかるが、いったん確立すれば特徴をとらえる〝こつ〟のデータさえあればよく、大きな高性能コンピューターは必要ない。近い将来、石碑や掛け軸をスマートフォンで撮影し、その場で内容を把握するアプリなどを開発したいという。

一方、最新のＯＣＲ（光学文字認識）で翻刻に挑むのは凸版印刷（東京都）。昨夏、くずし字を自動で判読し楷書の文章（テキスト）データに置き換える技術を開発した。同社が現代の書籍などを対象に提供する「高精度全文テキスト化サービス」の技術に、デジタル化された文書の中で特定の文字・単語の画像とパターンが似た画像を特定、提示する「ワードスポッティング」の技術を組み合わせた。翻刻済みの古典籍でデータベース（ＤＢ）を作り、読みこんだくずし字と照合する。最大一行単位までまとめて対応でき、現段階で精度は80％以上。担当課長の大沢留次郎さんは「私たちは印刷屋。本作り、電子書籍開発の延長と位置付け、実用的なソフトウエアを目指す。二年以内で、大学や研究機関などに本格的に売り込めるようにしたい」と意気込む。

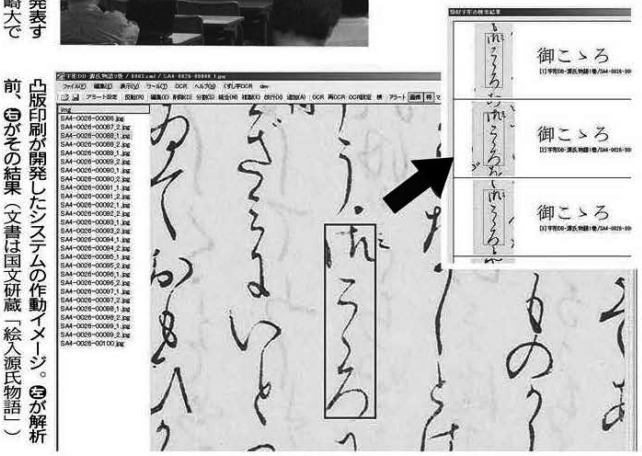
肝はもちろん、ＤＢだ。やはり国文研提供の古典籍画像などからくずし字を集め、楷書体と結び付ける作業を続けてきた。古文書教室に通った社員もおり、こうした「スタッフの根性で」（大沢担当課長）ＤＢは五十万字規模に。開発中のシステムで得た翻刻結果も反映しながら今の十倍以上に拡充し、精度を高めていきたいという。

古典籍ではないが、中京大も明治から戦中の手書き文書を読み取り、楷書に変換するシステムを開発中。三年後の完成を目指し、現代の走り書きのカルテなどへの応用も見据える。

宮崎大での研究会は、こうした研究が一層進むことを予感させた。くずし字は文字がつながっていることが多く、意味を理解して適切な単位に切り出す作業はまだ人間の役割だ。ワードスポッティングの研究で同社と中京大に協力した公立はこだて未来大の寺沢憲吾准教授は講演で、テキスト化と内容解析を同時に行わせる研究を進めたいと語った。国立情報学研究所の北本朝展准教授と国文研の山本和明特任教授は、ＡＩの学習に有効な古典籍の字形データ約八万字分を近く公開する方針を明らかに。本年度中に四十万字分の公開を目指すといい、山本特任教授は取材に「一連の研究で積極的に使ってほしい。自動翻刻技術が確立すれば、解読作業の省力化や文理融合の研究の発展につながる」と期待感を示した。



自動翻刻システムの開発について発表する豊田高専の早坂太一准教授＝宮崎大で


凸版印刷が開発したシステムの作動イメージ。㋐が解析前、㋑がその結果（文書は国文研蔵「絵入源氏物語」）

自然科学や防災 幅広い活用期待

平成28(2016)年11月10日
カレントウェアネス

国文学研究資料館、日本古典籍データセットを公開

Posted 2016年11月10日

2016年11月10日、国文学研究資料館は、昨年オープンデータとして公開した古典籍350点分の画像データに、新たに350点分を追加した計700点の古典籍の画像データ等を「日本古典籍データセット」として、人文学オープンデータ共同利用センターのウェブサイトで、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのCC BY-SAで公開しました。

700作品の画像データ約16万コマとその書誌データからなり、作品紹介や翻刻テキストデータ、タグ情報が付いているものも

の1文字ずつの画像と文字情報をセットにした字形データセット約8万字分も、一般公開
館において、古典籍画像の利活用を考える、「歴史的典籍オープンデータワークショップ
す。

デザインとグラフィックの総合情報サイト
[エムディエヌ・デザイン・インタラクティブ]
MdN DESIGN INTERACTIVE

MdN Design Interactive

ニュース　特集記事　月刊MdN　求人情報　印刷通販

MdN Design Interactive > ニュース > トピックス > 江戸時代の料理本などからとった「くずし字」8万6176文

ニュース

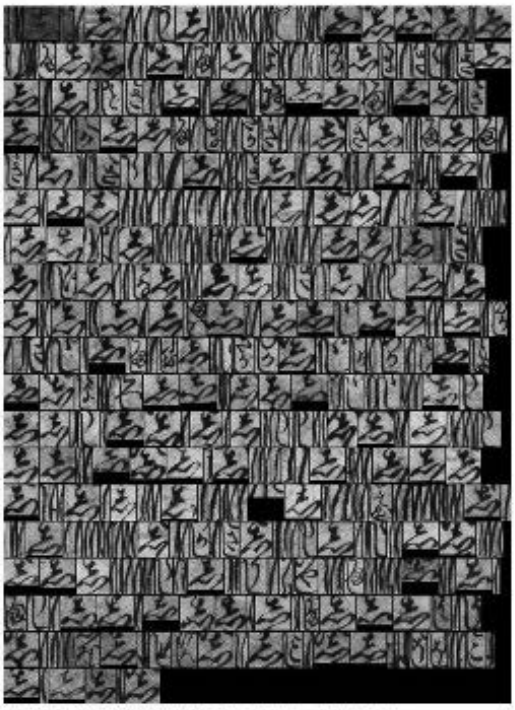
江戸時代の料理本などからとった「くずし字」8万6176文字をオープンデータとして公開



1文字ずつデータとして提供

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（NII）と大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館（国文研）は17日、江戸時代の古典籍に書かれたくずし字の1文字ずつの字形画像データや文字座標データなどからなる「日本古典籍字形データセット」をオープンデータとして公開開始した。

くずし字のデータの元になっているのは、江戸時代に編纂された料理本「当世料理」「万宝料理秘密箱」「聞書料理抄」「料理物語」「日用惣菜雑不時珍客即席庖丁」「料理方心得之事」「新編集玉料理」「料理秘伝抄」の8冊で、1521 文字種・8万6176文字が1文字ずつの画像と文字座標データなどを1セットとして提供される。



江戸時代の寛文年間の料理本「料理秘伝抄」で使われていた文字種「し」

平成28(2016)年11月17日
type.center

文字による文字のための文字のサイト
type.center
➢ニュース ➢コラム

2016年11月17日

古典籍オープンデータを使い文学研究資料館にて開催

国文学研究資料館にて2016年12月9日（金）に、「歴史的典籍オープンデータワークショップ～使いたおそう！古典籍データ～」が開催されます。

（以下、「歴史的典籍オープンデータワークショップ ｜ 国文学研究資料館」より）

国文学研究資料館では、今後公開予定の30万点におよぶ画像データの利活用の可能性を探るため、昨年に引き続いてアイデアソンを開催します。
人文学オープンデータ共同利用センター(準備室）の協力のもと公開している国文学研究資料館所蔵の総計700点の画像・書誌のデータセット「日本古典籍データセット」（昨年度公開分も含む）に加え、2016年11月に順次公開される「日本古典籍字形データセット」、「江戸料理レシピデータセット」などを利用して、面白くて役に立つ利活用の道が広がっていくことを期待しています。

※アイデアソン･･･特定のテーマについてグループ単位でアイデアを出し合い、それをまとめていく、参加型のイベント。

歴史的典籍オープンデータワークショップ

～使いたおそう！古典籍データ～

◆◆◆◆◆

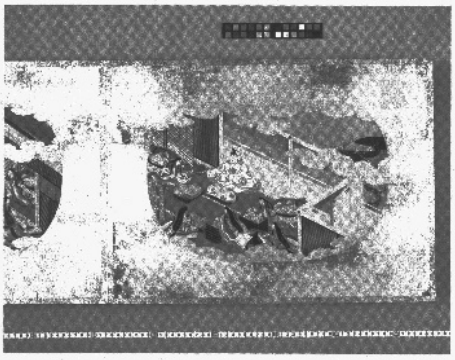
- 日　時：2016年12月9日(金) 15:10～18:10
- 場　所：国文学研究資料館 ２Ｆ大会議室 MAP
- 参加費：無料
- 定　員：40人程度
- 対　象：研究者（文系・理系を問わない）、図書館員、学生の方等、日本語の歴史的典籍に関心のある方。　※応募者多数の場合は、調整させていただく場合が

平成28(2016)年11月18日
MdN DESIGN
INTERACTIVE

平成28(2016)年11月18日
読売新聞（朝刊）

古典籍 オープンデータに

絵巻など 画像をネット公開



公開された「源氏物語団扇画帖」の画像データの一部（『日本古典籍データセット』国文学研究資料館蔵）

国文学研究資料館（立川市緑町）は、「源氏物語」などの古典籍約350点の画像データをオープンデータとしてインターネット上に公開した。昨秋に公開したものと合わせて計約700点約16万コマのデータが、出典を記せば誰でも自由に活用できる。

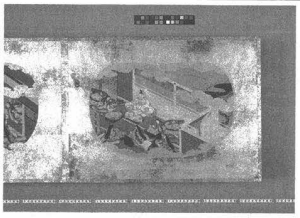
公開されたのは、同館が所蔵する「徒然草」や「万葉集」などの写本や絵巻、奈良絵本などの、表紙や中面をデジタルカメラで撮影した画像と書誌データ。作品紹介のほか、原文をそのまま活字にしたテキストデータがついているものもある。各ページを拡大して閲覧したり、1冊を丸ごとダウンロードしたりできる。

画像は無料でダウンロードでき、「『日本古典籍データセット』（国文学研究資料館蔵）」などとただし書きを添えれば、教材のほか、加工して年賀状や、企業のチラシなどに使うこともできる。

同館では今後、館所蔵の全約1万7000点の古典籍を順次公開する方針。同館は「研究者以外にも古典の世界を身近に感じてもらい、たくさんの資料が日の目をみれば」としている。

データは「人文学オープンデータ共同利用センター（準備室）」のサイト（http://codh.rois.ac.jp/）から。

平成28(2016)年11月20日
読売新聞（朝刊）



公開された「源氏物語団扇画帖」の画像データの一部（『日本古典籍データセット』国文学研究資料館蔵）

古典籍 オープンデータに

「源氏」など350点 ネット公開

国文学研究資料館（立川市緑町）は、「源氏物語」などの古典籍約350点の画像データをオープンデータとしてインターネット上に公開した。昨秋に公開したものと合わせて計約700点約16万コマのデータが、出典を記せば誰でも自由に活用できる。

公開されたのは、同館が所蔵する「徒然草」や「万葉集」などの写本や絵巻、奈良絵本などの、表紙や中面をデジタルカメラで撮影した画像と書誌データ。作品紹介のほか、原文をそのまま活字にしたテキストデータがついているものもある。各ページを拡大して閲覧したり、1冊を丸ごとダウンロードしたりできる。

画像は無料でダウンロードでき、「『日本古典籍データセット』（国文学研究資料館蔵）」などとただし書きを添えれば、教材のほか、加工して年賀状や、企業のチラシなどに使うこともできる。

同館では今後、館所蔵の全約1万7000点の古典籍を順次公開する方針。同館は「研究者以外にも古典の世界を身近に感じてもらい、たくさんの資料が日の目をみれば」としている。

データは「人文学オープンデータ共同利用センター（準備室）」のサイト（http://codh.rois.ac.jp/）から。

平成28(2016)年11月18日
文教速報

「日本古典籍データセット」公開で協働

情報研が国文研とオープンデータ支援

国立情報学研究所（NII）は、国文学研究資料館による「日本古典籍データセット」の公開に関する協働を進め、11月10日からデータセットの公開を始めた。NIIは、昨年11月に「国文研古典籍データセット」をNIIのデータセット共同利用研究開発センターの事業である情報学研究データリポジトリを通じて公開した際も協力しており、今回の日本古典籍データセット公開は両機関の協働の第二弾。

日本古典籍データセットは二次利用を歓迎するオープンデータとして、国文研のサイトや情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設の「人文学オープンデータ共同利用センター」準備室のサイトから提供する。

NIIは国文研と協働し、日本古典籍データセットのオープンデータに取り組んだ。古典籍画像データを一括ダウンロードするサイトを用意するだけでなく、相互運用の国際基準であるIIIFに準拠した画像データアクセス方法を採用して画像の内容をブラウザー上で簡単に確認できるようにするなど、利便性も向上した。また、オープンサイエンスの重要な基盤であるDOIへの対応を想定した画像データの命名規則を導入するなど、オープンデータ化の次のステップである利活用を見据えた枠組みを構築している。

NIIは国文研との取組の一環として、昨年に続いて「歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン）」を12月9日に国文研と共催する。

江戸料理関連

平成28(2016)年11月24日
INTERNETwatch
NHK NWES WEB
EOニュース
Exciteニュース
時事ドットコムweb

平成28(2016)年11月25日
朝日新聞DIGITAL
読売新聞
日刊工業新聞
日刊工業新聞web
Jcast

平成28(2016)年11月26日
Irorio
ライブドアnews

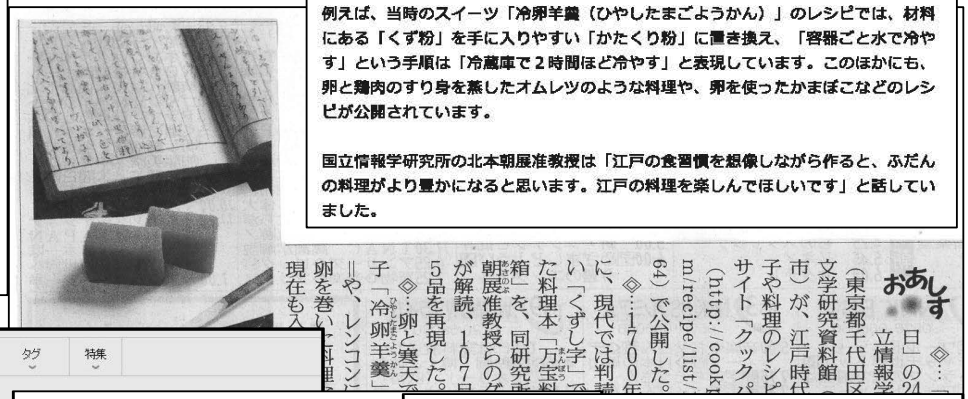
平成28(2016)年11月28日
Buzzfeed
GIZMODO
Newsalt
ライフハッカー

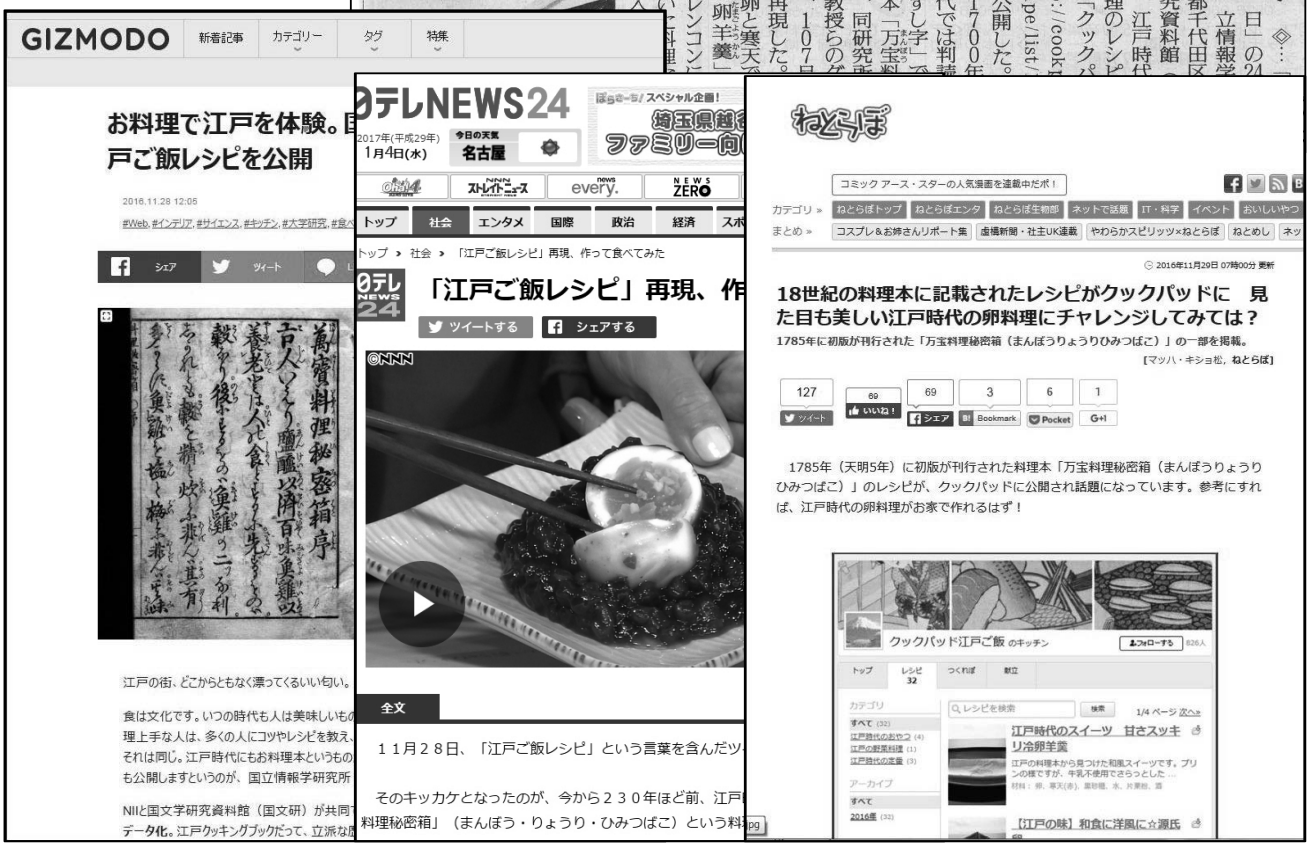
平成28(2016)年11月29日
Exciteニュース
OVO
ジャパンナレッジ
ねとらぼ

平成28(2016)年11月30日
日テレnews24









江戸料理関連

平成28(2016)年12月5日
Exciteニュース
BIGLOBEニュース

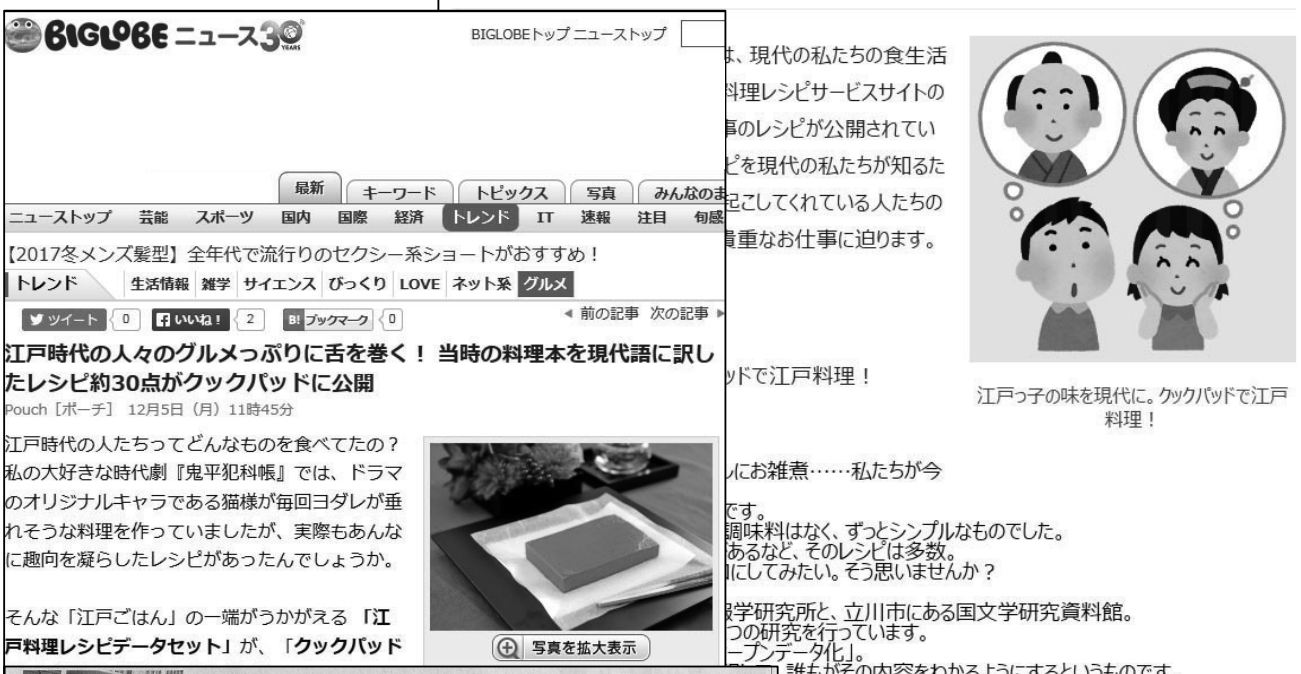
平成28(2016)年12月6日
ホウドウキョク

平成28(2016)年12月15日
niftyニュース

平成28(2016)年12月21日
朝日小学生新聞

平成28(2016)年12月31日
wotopi









江戸料理関連

平成29(2017)年1月6日
日本経済新聞（朝刊）

平成29(2017)年1月11日
おかわり！にっぽん

平成29(2017)年1月13日
読売ONLINE

平成29(2017)年2月
地域情報紙「えくてびあん」

平成29(2017)年3月11日
読売新聞（夕刊）

平成29(2017)年3月20日
月刊「江戸楽」

平成29(2017)年5月9日
日刊工業新聞web

文化



クックパッドに「江戸ご飯」が掲載された深い理由

国文学研究資料館特任教授　山本和明

2017年01月13日 09時09分　ツイート　おすすめ 289　G+1 4　B! 0　無断転載禁止

2016年11月、国内最大の料理レシピサイト「クックパッド」に、江戸時代の料理を再現できるという「江戸ご飯」が公開された。「話題の……」「手間いらず……」といった同サイトで人気を集めるレシピとは一線を画す、ちょっとシブい江戸時代の料理だ。お膳立てした国文学研究資料館特任教授の山本和明氏が、この「江戸ご飯」のミソとなる国家プロジェクトのねらいを明かす。

なぜ江戸時代のレシピ？



「クックパッド」の「江戸ご飯のキッチン」で、江戸時代の卵料理20品を公開した。そのうち、「甘さスッキリ冷卵羊羹（ひやしたまごようかん）」、「源氏卵」、「かんたん花卵」、「うずら卵」、「卵山吹蒲鉾（かまぼこ）」の5品がレシピ化されており、ユーザーが実際に作った「つくれぽ」も掲載されはじめている。

は江戸時代の料理本
「小豆餅卵」や「長崎
代の料理本から数点

学研究資料館（通

江戸時代の卵料理再現

ジュニアプレス

江戸時代の卵料理を現代風にアレンジしたレシピが、料理サイト「クックパッド」に掲載され、話題になっています。レシピ公開を仕掛けた国文学研究資料館（東京都立川市）の古典籍共同研究事業センター特任教授・山本和明さんの研究室を訪ねました。（高3・中村知寧、中2・鷲田光、小6・富田涼真記者）



「万宝料理秘密箱」について説明する山本特任教授（右）

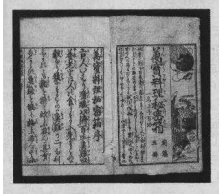
料理サイトで話題の「玉子百珍」

卵料理といえば、オムライス、だし巻き卵、目玉焼きなどが思い浮かびますね。でも、なんと、

今から200年以上前に刊行された料理本「万宝料理秘密箱」の「玉子百珍」の巻には、103種類もの卵レシピが記されているのです。本は、器土堂という京都の料理人のレシピを弟子たちがまとめたものです。

この料理本では、必要な材料や料理方法が記されています。しかし、分量や細かな手順は省かれており、あとは作り手に任されています。一方で、どんな食器に盛るかなど、現代の人が読み物だった背景には、当時の文化レベルの高さがうかがえます。

国文学研究資料館は江戸時代から江戸時代をホームページで公開し、国内外の研究者に役立ててもらうプロジェクトに取り組んでいます。玉子百珍の公開作業は、まず、料理の分かる方を考えてもらい、P上で公開しました。山本さんは「当時の再現することで、実



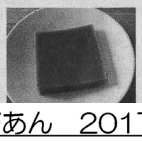
江戸時代の料理本「万宝料理秘密箱」の「玉子百珍」

クックパッドに掲載された「玉子百珍」の料理を、取材した3人が作りました。

◆卵膳　千切りにした薄焼き卵とゆで卵（白身は千切り、黄身はつぶす）を混ぜ、煎り酒（酒や梅干しなどから作った調味料）、大根おろしを加える。わさびを少量入れて風味をアップ。あっさり卵サラダ風。江戸の人々は、こんなにおいしいものを食べていたのかとびっくり。（中村記者）



◆冷卵羊羹　寒天を水につけてふやかす。生卵を溶き、黒砂糖と酒を入れて混ぜる。寒天を水で煮溶かし、この中に卵液を少しずつ入れて混ぜ合わせる。最後に、水溶きかたくり粉を



えくてびあん　2017年2月号



江戸のレシピ、教えます

国立情報学研究所　北本朝展准教授（左）と
国文学研究資料館　山本和明特任教授



平成28年11月24日（木）、興味深い記者会見がありました。簡単に言うと、国文学研究資料館が所蔵する古典籍オープンデータのうち、江戸時代の料理に関する書物から『江戸ご飯』のレシピを、あのクックパッドで公開しますよというものでした。クックパッドといえばクックパッド株式会社が提供する日本最大の料理レシピ投稿・検索サービス。毎月の利用者数は6000万人で、若い女性の多くが利用しています。取材先でも「メニューに詰まったらクックパッド」と聞いたことがあります。そのクックパッドと国文研、情報学研究所がタイアップ。江戸時代の料理本に書かれた調理手順をデジタル化、現代の人でも使える形式に整備した「江戸料理レシピデータセット」を公開。同日にクックパッドでも見られるようになりました。

くずし字でかかれた料理本は現代の一般人にはなかなか読めません。さらに用語や素材も江戸時代のもの、現代人にはわかりにくい。料理本の画像データを公開しても、誰もがそれを作るなんて、とてもとても。それを分かりやすくしてくれたのがこの企画。作ってみてください。江戸の人ってかなり贅沢だったとわかります。えくてびあんでは、今号から6回に渡って実際に調理した写真を掲載、試食の感想を述べていきます。誌面の都合上レシピはカットしますが、クックパッドをご覧ください。

文化往来

江戸の料理の作り方を分かりやすく伝えます――。国立情報学研

対象としたのは国文研が所蔵する1785年（天明5年）刊行の「万宝料理秘密箱」に登場するレシピを現代の文字を用いたデータ化してインターネットで公開する卵料理。くずし字で書かれた本朝展准教授は期待する。

「クックパッドを見て作った人が、そこにアレンジを加えて、レシピを投稿する。そうした創作の連鎖が生まれれば」とNIIの北

107点を現代の文字を用いたデ

NIIと国文研は「源氏物語」「徒然草」など歴史的典籍をデータ

ックパッドで公開

では入手が困難な道具も少なく事業に取り組んでおり、これまで合わせて調理に700点の画像データと書誌データを公開した。くずし字を読むイツ風のための「字形データセット」も提

ら20点をレシピ

NW事業特集

平成28(2016)年12月
地域情報紙えくてびあん

平成29(2017)年1月1日
岩手日日新聞
島根日日新聞
苫小牧民報
陸奥新報

平成29(2017)年1月4日
高知新聞
聖教新聞
福島民報

平成29(2017)年1月5日
河北新報

平成29(2017)年1月13日
長野日報

平成29(2017)年2月8日
八重山毎日新聞

平成29(2017)年3月2日
タウン誌「asacoco」


古典の大プロジェクト進行中
防災、生薬研究で科学者とタッグ
奈良時代から江戸時代までに書かれた書物は約30万点。その全ページの画像をインターネット上に公開しようという大プロジェクトが進行中です。知の宝物を掘り起こし、人類の未来につなげる研究とは？
（科学ジャーナリスト・藤澤美奈子）
赤いオーロラの絵
医学から料理まで
日本の古典は知の宝庫
日本の文化の基にも
しかし現代人に読みづらいため埋もれてきた―。
データベース化して利用しよう!
科学者とコラボ
オーロラ研究で防災に役立つ?
現代で起きると?
古典はくずし字ばかり。それを人工知能（AI）の力で判読して検索も
古典から発生の仕方などを知って、現代の防災に役立てることが目的です
自然に存在するものから作られる体質を改善するための薬。多くは中国から伝わったとされますが…
日本独自の生薬を発見しよう!
江戸時代の救急法の本


日本の古典は知の宝庫
日本の文化の基にも
しかし現代人に読みづらいため埋もれてきた―。
データベース化して利用しよう!
科学者とコラボ
オーロラ研究で防災に役立つ?
現代で起きると?
古典はくずし字ばかり。それを人工知能（AI）の力で判読して検索も
古典から発生の仕方などを知って、現代の防災に役立てることが目的です
自然に存在するものから作られる体質を改善するための薬。多くは中国から伝わったとされますが…


高知新聞 2017年（平成29年）1月4日（水曜日） 特集 （4）
知の宝 古典を未来へ
奈良時代から江戸時代までに書かれた書物は約30万点。その全ページの画像をインターネット上に公開しようという大プロジェクトが進行中です。知の宝物を掘り起こし、人類の未来につなげる研究とは？
医学から料理まで
くずし字判別
赤いオーロラの絵
日本生まれの薬
古典の本でいっぱいの国文学研究資料館


いにしえの記録 現代に
奈良時代から江戸時代までに書かれた書物は約30万点。その全ページの画像をインターネット上に公開しようという大プロジェクトが進行中だ。知の宝物を掘り起こし、人類の未来につなげる研究とは？
7万2000の書物公開へ
医学から料理まで
くずし字判別
赤いオーロラの絵
日本生まれの薬探す
古典の本でいっぱいの国文学研究資料館
江戸時代の救急法の書「広恵済急方」を読む。日本生まれの生薬を見つけたい
（富山大・和漢医薬学総合研究所）
古典は内容豊かで、絵は色とりどり
古典のページをスキャンして、データをAIに覚えさせれば検索もできる。膨大な作業だ
（いずれも東京都立川市の国文学研究資料館）
日本の古典は知の宝庫
日本の文化の基にも
しかし現代人に読みづらいため埋もれてきた―。
データベース化して利用しよう!
科学者とコラボ
オーロラ研究で防災に役立つ?
現代で起きると?
古典はくずし字ばかり。それを人工知能（AI）の力で判読して検索も
古典から発生の仕方などを知って、現代の防災に役立てることが目的です
自然に存在するものから作られる体質を改善するための薬。多くは中国から伝わったとされますが…
日本独自の生薬を発見しよう!
江戸時代の救急法の本

オーロラ関係

平成29(2017)年3月22日
毎日新聞（夕刊）
毎日新聞（夕刊多摩）
毎日新聞web
マイナビニュース
Exciteニュース
ニコニコニュース
Yahooニュース

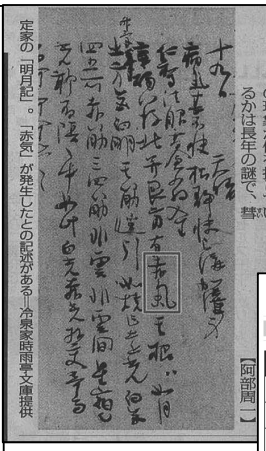
平成29(2017)年3月24日
毎日小学生新聞
日刊工業新聞
日刊工業新聞web

平成29(2017)年3月25日
毎日新聞web
毎日新聞
毎日小学生新聞

平成29(2017)年3月26日
毎日小学生新聞

定家見た「赤気」はオーロラ

極地研など 800年前の地磁気軸の傾き解明



定家の「明月記」。「赤気」が発生したとの記述がある＝冷泉家時雨亭文庫提供

平安・鎌倉時代の歌人、藤原定家（1162～1241年）が日記「明月記」に書き残した「赤気」という現象は、太陽の異常な活発化によって京都の夜空に連続して現れたオーロラだった可能性が高いと、国立極地研究所や国文学研究資料館などのチームが米地球物理学連合の学術誌に発表した。連続したオーロラの観測記録としては国内最古という。

明月記には、1204年2～3月にかけて、京都の北から北東の夜空に赤気が連続して現れ、定家は「山の向こうで、重ね重ね恐ろしい」と書き残している。

オーロラは太陽から噴き出した高エネルギー粒子が、地球の大気を光らせる現象。北極や南極などで観測され、京都で発生することは考えにくい。赤気の現象が何を指しているかは長年の謎で、彗

[阿部周一]

マイナビニュース　テクノロジー

お知らせ　ライフスタイルチャンネル　リニューアルオープン

テクノロジートップ
半導体デバイス
次世代半導体技術
カーエレクトロニクス
産業機器/ロボット
組み込み/IoT

記事種別　レポート　レビュー　ハウツー　インタビュー　連載　コラム

ニュートップ ＞ テクノロジー ＞ サイエンス

藤原定家が見たオーロラ、巨大磁気嵐パターン解明の手がかりに

杉浦志保
[2017/03/22]

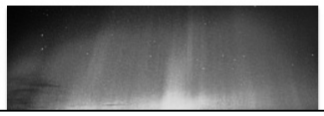
意外と知らない… プリンターに潜むセキュリティリスクとは!?　[PR]

ニコニコニュース

＜藤原定家＞日記の「赤気」はオーロラ　極地研などか解析

0

2017/3/22（水）13:50　毎日新聞



平安・鎌倉時代の歌人、藤原定家（１１６２～１２４１年）が日記「明月記」に書き残した「赤気」という現象は、太陽の異常な活発化により京都の夜空に連

だった可能性が高いと、国立極

が米地球物理学連合の学術誌に

ーロラの観測記録としては国内

グループは、「明月

本比を比較することなど

した。同研究は米国地

れ、同誌のEditors'

では大規模な停電、宇宙

ることから、「宇宙災

の記述と、過去の太陽

パターンを解明すること

23日、京都で「赤気」

京都のような緯度の低

これまでに調査されて

YAHOO! JAPAN ニュース　IDでもっと便利に新規取得　ログイン　送料込み1,000円　目玉商品セール中

キーワードを入力　ニュース　＋

トップ　速報　写真　映像　雑誌

主要　国内　国際　経済　エンタメ

藤原定家 日記にオーロラ記録

＜藤原定家＞日記の「赤気」はオー

平安・鎌倉時代の歌人、藤原定家（１１６２～１

した「赤気（せっき）」という現象は、太陽の異常

て現れたオーロラだった可能性が高いと、国立極地

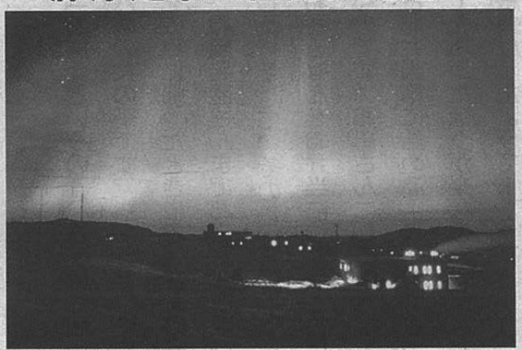
ムが米地球物理学連合の学術誌に発表した。連続し

古という。(毎日新聞)

[続きを読む]

「赤気（せっき）」はオーロラ？

藤原定家の日記（にっき）に記述（きじゅつ）



南極の昭和基地で観測された赤いオーロラ。藤原定家の明月記に「赤気」として記録されています＝国立極地研究所提供

平安・鎌倉時代の歌人、藤原定家（1162～1241年）が日記「明月記」に書き残した「赤気」という現象は、太陽の異常な活発化によって現れた連続したオーロラだった可能性が高いことがわかりました。国立極地研究所などのチームが、アメリカの学術誌に発表しました。連続したオーロラの観測記

余録

「新古今集」や「百人一首」の選者、藤原定家は18歳の時からの56年間にわたる日記「明月記」でも知られる。この日記が20世紀の天文学に飛躍をもたらしたのは日本のアマチュア天文家の功績だった▲1934年、神戸の射場保昭は米天文誌への寄稿で明月記にある客星、つまり突然現れた星の記録を紹介した。するとそれが欧米天文学者の注目するところとなり、その一つが今のかに星雲を生んだ超新星爆発であることが判明する。超新星の研究は大きく進展した▲明月記の客星の記述は天体観測をしていた陰陽寮の記録をまとめたもので、三つの客星はいずれも超新星爆発だった（斉藤国治著「星の古記録」）。定家は治承年間の大流星など自らの目で見た天文現象も記録しているが、なかには今まで謎とされていた異変もある▲1204年、京都の北の夜空に「赤気」が現れ、「山の向こうに起きた火事のようで、重ね重ね恐ろしい」とある。この現象が何とオーロラだったという先日の報道である。国立極地研などのチームが過去の地磁気の軸の傾きや太陽の活動を分析しての結論だという▲京都とオーロラは何とも意外な組み合わせである。太陽から放出された高エネルギーの粒子が大気を光らせるオーロラだが、当時の太陽活動の異常な活発化は他の史料や木の年輪に残る痕跡でも裏づけられたという。地磁気も日本でオーロラが現れやすい状態だった▲この明月記の記録で太陽活動がもたらす磁気嵐という現象の発生パターンが解明できたという。現代の天文学や地球物理学にまで新たな知見をもたらした歌聖・定家の筆、おそるべしである。

2017・3・25

オーロラ関係

平成29(2017)年4月12日
朝日新聞（夕刊）
朝日新聞DIGITAL

平成29(2017)年4月21日
日刊建設工業新聞web

平成29(2017)年4月25日
毎日新聞（夕刊）

定家、京都でオーロラ見た

1204年の明月記「赤気 火事のよう」



平安・鎌倉期の歌人、藤原定家が日記「明月記」に書きのこした「赤気（せっき）」がオーロラであることを裏付けたとする論文を、国立極地研究所や国文学研究資料館などのチームが米地球物理学連合の学術誌に発表した。低緯度で連続して観測されたオーロラの記録としては国内最古という。

明月記には、1204年2月21日と23日に加えて、3月にも京都で「赤気」が見え、「山の向こうに起きた火事のようで重ね重ね恐ろしい」と書かれている。また、国内の別の文献「御室相承記」にも2月21日から3日間「赤気」が現れたという記述がある。

チームは、過去2000年の京都の地磁気の状況を計算。当時は地磁気の軸が現在とは異なり日本でオーロラが観測しやすい状況だったことがわかった。

また、中国の歴史書「宋史」には、1204年2月21日に太陽に大きな黒点が見えたとするくだりがあり、チームは、10～13世紀について、宋史の記述と太陽の活動を比較。オーロラと見られる記述が多い時期は、太

極地研など解明 国内最古

朝日新聞 DIGITAL

検索 目次

トップニュース スポーツ カルチャー 特集・連載 オピニオン

新着 社会 政治 経済・マネー 国際 テック&サイエンス 環境・エネルギー 地域 朝デジスペシャル

朝日新聞デジタル ＞ 記事　社会 サイエンス 有料記事

藤原定家が記した「赤気」はオーロラ 極地研などが解析

竹石涼子　2017年4月12日12時02分

シェア 557　ツイート list　B! ブックマーク 5　スクラップ　メール　印刷



南極の昭和基地で撮影された赤いオーロラ（国立極地研究所提供）

平安・鎌倉期の歌人、藤原定家が日記「明月記」に書きのこした「赤気（せっき）」がオーロラであることを裏付けたとする論文を、国立

相承記」にも2月21日から3日間「赤気」が現れたと

チームは、過去2000年の京都の地磁気の状況を

り、日本でオーロラが観測しやすい状況だったこと

また、中国の歴史書「宋史」には、1204年2月21

があり、チームはオーロラの発生パターンを解明す

述と太陽の活動を比較。オーロラと見られる記述が

なっていることも確認した。

これらの解析結果から、定家が見たのは赤いオー

会見した国立極地研究所の片岡龍峰准教授は「

い）との見方もあったが、オーロラであることが裏付

明らかにできたのは画期的だ」と話した。（竹石涼子

日刊 建設工業新聞
The Daily Engineering & Construction News

新聞購読で／1年間の記事検索／紙面PDF閲覧／紙面関連データダウ

日刊建設工業新聞オンライン
http://www.decn.co.jp/onlineservice

2017年4月21日 金曜日

トップニュース | 行政・団体 | 企業・経営 | 技術・商品 | 工事・計画 | 人事・訃報 | 行事 | 論説・コ

トップニュース ＞ 論説・コラム ＞ 回転窓／人文・自然科学の融合

論説・コラム

ツイート　B! ブックマーク 0　G+1　文字サイズ 小 中 大

▸回転窓／人文・自然科学の融合［2017年4月21日1面］

人文科学と自然科学の融合が新たな発見を導くことがある。平安・鎌倉期の歌人・藤原定家が日記「明月記」に書いた「赤気（せっき）」という現象の解明もその一つ▼定家は1204年2月の日記に京都の夜空に連続して赤気が現れたと記す。この解明に挑んだ国立極地研究所や国文学研究資料館らのチームがこのほど「オーロラの可能性が高い」と発表した▼中国の歴史書「宋史」の同年2月の記録に、太陽の中に大きな黒点があるとの記述を発見。当時はオーロラを発生させる太陽活動が活発で、低緯度の京都でもオーロラが見えたと結論付けた▼人文・自然科学融合の成果をもう一つ。昨年8月に北海道を襲った一連の台風による豪雨で破堤氾濫が起きた場

憂楽帳

立ち話

「何してるん？」

国文学研究資料館の山本和明特任教授（54）は、研究室前の廊下でカメラを手にした男女を不審に思い、声をかけた。2014年冬のことだ。

その日、国立極地研究所の片岡龍峰准教授（40）は、北米でのオーロラ調査に備え、大学院生と2人でデジカメのGPS機能をチェックしていた。建物の東端にある自室のベランダでは不調。電波をうまく拾える場所を求めて建物西端の窓辺へたどり着く。そこが山本研究室の前だった。

両研究所は東京・立川の同じ建物に入居する。片岡さんは事情を説明するついでに「ご専門は？」と聞いた。山本さんは古文書のデジタル化に取り組んでいる。「オーロラは古典で『赤気』と書かれているそうです。検索できますか」「面白いかも」

先月、両研究所は平安・鎌倉期の歌人、藤原定家が「明月記」に記した「赤気」の正体がオーロラだったことを科学的に裏付けたと発表した。初対面の2人の立ち話から生まれた文理融合研究の成果である。【阿部周一】

2017.4.25

市民参加型ワークショップ「古典」オーロラハンター2

さる２月 19 日（日）、東京立川市にある国文学研究資料館２階大会議室にて、総合研究大学院大学の一角を担う文化科学研究科 日本文学研究専攻（国文学研究資料館）と複合科学研究科 極域科学専攻（国立極地研究所）とが、市民参加型のイベント「古典」オーロラハンター２を共同開催しました。このワークショップは総研大・学融合共同研究に採択された研究課題「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」（通称：オーロラ 4D プロジェクト、https://aurora4d.jp/）の



石の飛来がいかなる事態を引き起こすかは、想像に難くありません。そうした突発的に起こりうる宇宙災害を知ることは、私たち現代人にとって必要な情報であると言えましょう。「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」という研究課題は、宇宙災害を軽減する必要性のなか、人文系の研究者と自然科学系の研究者との連携によって、古典籍に光を当て、これまで知られていないデータを発掘し、未来に役立てていこうという試みなのです。

研究成果のアウトリーチ活動という一面をもつ今回のオーロラハンター２では、国文研による挨拶のあと、片岡龍峰極域科学専攻准教授による解説でオーロラ映像を鑑賞し、オーロラの仕組みを学んでもらいました。オーロラ 4D プロジェクト２年間の総括として、古典籍から得られたデータの科学的解析結果が紹介されるとともに、天変地異への人々の反応を通して、自然観・科学観の変遷を探るという新たなアプローチの可能性も呈示されました。



ワークショップの模様

研究グループは、さらに時代を遡って連発巨大磁気嵐の発生パターンを検討するため、『宋史』における 900 年代～1200 年代の「長引く赤いオーロラ」の記録と、太陽活動の強弱を反映する樹木年輪の炭素同位体比の測定データを比較しました。その結果、太陽活動の極小期前後よりも、極大期付近に多く記録されていたこと、また、太陽活動が長期的に弱くなった 1010～1050 年には、そのような「長引く赤いオーロラ」の記述がないことが明らかになりました。

これらの知見は、今後の最悪の磁気嵐を予測する上で重要な情報となります。本研究は米国地球物理学会の発行する学術誌「Space Weather」にオンライン掲載され、同誌の Editors' Highlight に選ばれました。

『明月記』

建仁四年正月十九日　天晴（中略）

秉燭以後、北并艮方有赤気、其根八如月出方、色白明、其筋遙引、如焼亡遠光、白色四五所、赤筋三四筋、非雲、非雲間、星宿歟、光聊不陰之中、如此白光、赤光相交、奇而尚可奇、可恐々々

廿一日　天晴　風烈（中略）秉燭以後、北艮方又有赤気、如隔山焼亡、重畳尤可恐、

現代語訳： 1204 年 2 月 21 日、晴れ。（中略）燭台に燈をともす頃（日が暮れてから）、北及び東北の方向に赤気が出た。その赤気の根元のほうは月が出たような形で、色は白く明るかった。その筋は遠くに続き、遠くの火事の光のようだった。白気（白いところ）が 4、5 箇所あり、赤い筋が 3、4 筋出た。それは雲ではなく、雲間の星座でもないようだ。光が少しも翳ることのないままに、このような白光と赤光とが入り交じっているのは、不思議な上にも不思議なことだ。恐るべきことである。
1204 年 2 月 23 日、晴れ。風が強い。（中略）燭台に燈をともす頃（日が暮れてから）、北・東北の方向に再び赤気が現れた。それは山の向こうに起きた火事のようだった。重ね重ねとても恐ろしい。

注 1：磁気嵐： 地磁気が、世界規模で数日間弱くなる現象。大規模な磁気嵐では、活発なオーロラ活動によって地上の送電網に誘導電流が流れて停電が発生したり、人工衛星の故障が引き起こされたりする場合がある。

注 2：コロナ質量放出： 太陽フレアと呼ばれる爆発に伴って、大量のプラズマが太陽磁場を引き連れて一気に宇宙空間へ噴き出す現象。

【発表論文】
Historical space weather monitoring of prolonged aurora activities in Japan and in China
○掲載雑誌：Space Weather
○著者：
片岡龍峰（極地研／総研大）、磯部洋明（京都大）、早川尚志（京都大）、玉澤春史（京都大）、河村聡人（京都大）、宮原ひろ子（武蔵野美術大）、岩橋清美（国文研）、山本和明（国文研）、武居雅子（総研大）、寺島恒世（国文研／総研大）、鈴木秀彦（明治大）、藤原康徳（総研大）、中村卓司（極地研／総研大）

○論文 URL：http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/2016SW001493/abstract
DOI： 10.1002/2016SW001493
論文公開日： 2017 年 2 月 27 日

【研究サポート】
本研究は、本学の学融合共同研究事業「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」、人間文化研究機構機構長裁量経費「機関拠点型基幹研究 PJ における異分野融合研究創成に関するプロトタイププログラム作成事業」及

記』という地域にゆかりのある資料にもチャ
、今その資料を点検しているところ、とのこ
ょう。
や静岡県からもご参加いただき感謝いたしま
のメディア取材もあり、こうした取り組みの

学研究資料館古典籍共同研究事業センター】

の発生パターンを解明」
て、本学極域科学専攻/国立極地研究所の片
資料館副館長の寺島恒世教授が所属する研究
レスリリースの概要は下記の通りです。
）

資料館（館長：今西祐一郎）、京都大学（総
、『明月記』などの古典籍に残されたオーロ
などにより、平安・鎌倉時代における巨大
本研究は、総合研究大学院大学（学長：岡
研究科日本文学研究専攻の学融合共同研究事
「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネット

1204 年 2 月 21 日と 23 日、京都でオーロラ
に何晩も、京都のような緯度の低い地域でオ
としては、これまでに調査されている中では
、同じ 2 月 21 日に、太陽に大きな黒点が観
現代的な観測データから推定する限り、太陽
に直撃することで、大きな磁気嵐が単発で終
ていたと考えられます。

平成29(2017)年4月
地域情報紙「えくてびあん」

2017年4月号　えくてびあん　6頁

オーロラハンター２



古典籍資料からオーロラの表記を探します

昨年に続き２回目の市民参加型ワークショップです。総合研究大学院大学（総研大）と国文学研究資料館（国文研）と国立極地研究所（極地研）のコラボ企画。平安時代の古典籍や江戸時代の古文書から、オーロラや彗星、隕石などの情報を探し出します。実はこの多摩地域、隕石の記録があるのです。昨年八王子にあるコニカミノルタサイエンスドームでも企画展が開催されましたが、江戸時代後期に八王子、日野、多摩の各地に隕石が降りました。そんな記録を今回は「桑都日記」からも拾いました。文系理系融合は今や当たり前になってきていますが、立川はやっぱり最先端なんですよね。次回は皆さんも奮ってご参加ください！

平成29(2017)年4月7日
月刊『時局』





平成29(2017)年5月
リポート笠間

2017.05 ISSN0914-5397

Report Kasama

2-2-3 Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo Metropolice 101-0064,JAPAN. Tel 03-3295-1331 Fax 03-3294-0996 Mail=info@kasamashoin.co.jp

リポート笠間 No.62

●特集1

いま全力で取り組むべきことは何か

Take Free

http://kasamashoin.jp/
http://twitter.com/kasamashoin
http://archive.mag2.com/0000222327/index.html

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-2-3 笠間書院
電話 03-3295-1331 Fax 03-3294-0996
メール info@kasamashoin.co.jp

いま欲しい平家物語とは
——自身への問いを携帯すること●松尾葦江

〈文ストン〉は敵じゃない●日比嘉高

[コラム]文豪ゲームと作家のキャラ化
——極私的文アル体験記●山中剛史

提案三つ——文学の研究・教育の活性化に向けて●寺島恒世

日本古典文学のファンを増やすために
——文化コードの断絶のなかで●渡辺麻里子

●特集2
デジタル化で未来をどう創るか

より開かれた人文学研究に向けて
——人文学オープンデータ共同利用センター(CODH)の挑戦●北本朝展

MOOC(ムーク)コース制作体験記——日本の書物文化を世界に発信して●佐々木孝浩

「新日本古典籍総合データベース」の試験公開開始
——歴史的典籍NW事業のいまとこれから●山本和明

NIJL「蔵書印データベース」を起点に、書物・人・知のネットワーク+αへ●青田寿美

●エッセイ
漕ぎ手の一人として——『舟を編む』と私●山本康一

●学界広場
[書評]平野多恵 著・遠藤拓人 絵『完全解説付き 歌占カード 猫づくし』(夜間飛行)●渡邉裕美子
[面白かった、この3つ]小山聡子／原豊二／小財陽平／桜井宏徳／宮腰直人／津田博幸／佐藤温／井ノ口史／小林一彦
[学界時評]日本語の歴史的研究[2016.7-2016.12]●大木一夫
[学会リポート]佐々木勇／松本大／高桑枝実子／青山英正／水谷隆之／津田眞弓

笠間書院新刊案内・2016年末～2017年刊行の本

平成29(2017)年5月30日
読売新聞（夕刊）

「あ」「お」「か」「し」「の」「は」「り」



源氏物語に使われているくずし字＝早坂准教授提供

くずし字AIで解読

変換プログラム 高専チーム開発

古文書などの解読困難なひらがなを現代の文字に自動変換する人工知能（AI）プログラムを、豊田工業高等専門学校（愛知県豊田市）などの研究チームが開発した。インターネットで無料公開している。

源氏物語などの文を、9割以上正しく変換できるという。明治期以前は、基になった漢字を大きく崩したひらがな（くずし字）が使われた。現在の「あ」は「安」を崩した字だが、かつては「阿」を基にした字も存在するなど、専門家以外には分かりにくい。

チームは、平安期から江戸期に書かれた文献から約6万2000文字の画像を抽出。「深層学習」と呼ばれる新手法でAIに学習させ、形の特徴から現在のひらがな48字（「ゐ」と「ゑ」を含む）に分類するプログラムを開発した。源氏物語や平治物語の写本の一部を、現在のひらがなに変換させたところ、正答率はそれぞれ95・2％、91・3％に上った。

天変地異などが記された古文書から過去の地震や噴火、天文事象などを調べる研究が近年注目されており、チームの早坂太一・豊田高専准教授（情報工学）は「多くの研究者にとって障壁だったくずし字の判読に役立ててほしい」と話す。

くずし字の解読技術は、凸版印刷などが既に開発しているが、あらかじめ作成した文字画像のデータベースを参照する方式で、参照に時間がかかる。くずし字の解析に詳しい寺沢憲吾・公立はこだて未来大准教授（パターン認識）は「AIで解読のスピードアップが期待できる」と話す。

平成29(2017)年6月1日
茨城新聞

防災対策に古文書活用

茨城大 国文研資料館と協定



協定書を手にする谷川恵一副館長と伊藤哲司機関長（左から）＝水戸市文京

茨城大の地球変動適応科学研究機関（ICAS、水戸市文京2丁目）と国文学研究資料館（東京・立川市）は31日、歴史資料を活用した防災・気候変動の研究に関する連携協定を結んだ。古文書などを使って歴史的な災害状況や対応事例を解明することで、将来の防災や気候変動への適応に向けた対策に役立てる。

協定により両者は水害や地震などの災害、自然現象について、県内外の古文書や古記録、古典籍などを幅広く活用。被害状況の詳細や災害発生のメカニズムを明らかにするとともに、過去の災害に対する地域の対応、生きるための知識や経験などを調査・分析し、将来の防災・減災、災害対策に生かしていく。また過去のデータの掘り起こしにもつなげるほか、研究の成果を県内外に発信していく。

調印式が同日、水戸市文京2丁目の同大であり、ICASの伊藤哲司機関長が「文理融合型の新たな研究分野の創成を目指す」、同館の谷川恵一副館長が「歴史的な資料を積極的に活用した研究の進展に期待したい」とそれぞれ述べた。

平成29(2017)年6月1日
日本経済新聞web

日本経済新聞

防災・気候変動の研究　歴史資料を活用 国文研・茨大か

2017/6/1付｜日本経済新聞　地域経済

国文学研究資料館と茨城大学地球変動適応科学研究機関（ＩＣＡ活用した防災・気候変動適応に向けた共同研究や人材交流を行う連模な自然災害や気候変動について、古文書などの歴史的な記録から明、将来の防災や気候変動への対応に役立てる。

国文研は30万点に及ぶ日本古典籍のデータベース化を進めてい用する。ＩＣＡＳは地球温暖化がもたらす影響などを多様な分野の系理系の機関が一体となって気候変動や災害などを研究するのはきわめて珍しく、両機関は文理融合型の新たな学問分野の創成を目指す。

両機関は鬼怒川の堤防が決壊し大規模な浸水被害をもたらした2015年の関東・東北豪雨で被災した歴史資料の修復をきっかけに交流を開始。文系理系の枠を超えた学際的な共同研究を進めるための協議を重ねてきた。

平成29(2017)年6月4日
東京新聞　TOKYO Web

東京新聞 TOKYO Web

【茨城】

災害史料など防災に活用　茨城大のICASが国文研と連携協定

2017年6月4日

災害や気候変動について記録した史料を防災研究に活用しようと、茨城大の地球変動適応科学研究機関（ICAS（アイキャス））が、古文書などの集積と公開を進めている東京都立川市の国文学研究資料館（国文研）と連携協定を結んだ。

ICASでは、地球温暖化など気候変動が引き起こす災害への対応について、文理の垣根を越えて研究している。常総市を襲った二〇一五年九月の関東東北水害では、貴重な史料の回収と修復を手掛け、これを機に国文研との交流が始まった。

共同研究は、本年度から三年間。ICASからの史料の照会に国文研が応じるほか、双方の研究者によるフィールドワークも予定しているという。成果をシンポジウムなどで発信する。



協定書を交わし、記念撮影に応じるICASの伊藤機関長（右）と国文研の谷川副館長＝水戸市で

茨城大水戸キャンパスでの締結式で、ICASの伊藤哲司機関長は「組織発足から十年たったが、できていないことがたくさんある。縁を得て新たな展開を期待している」とあいさつ。国文研の谷川恵一副館長も「研究のたこつぼ化や分断が続いている。連携によって密接な学術交流を進めたい」と述べた。（越田普之）

平成29(2017)年6月7日
産経新聞（朝刊）

「宝の山」身近な古典へ

国文研館長にロバート・キャンベルさん

資料画像DB化■画家ら招き創作支援も

日本文学に関する文献収集や調査研究などを行う大学共同利用機関「国文学研究資料館」（東京都立川市）の館長に、米国出身の日本文学研究者、ロバート・キャンベルさん(59)が就任した。昭和47年設立の同館館長に外国出身者が就任するのは初めて。約40年にわたり日本文化に親しみ、同館での勤務経験もあるキャンベルさんに、同館の役割や今後の抱負を聞いた。

「『国文学研究資料館』という言葉の響きからは、静かな感じを受けますよね。まるで静物画みたいな。でも、実際は古典籍の収集や調査、補修、保管に加え、世界中の研究者も出入りするなど、すごくアクティブな場所なのです」

話しぶりこそ穏やかだが、言葉の端々から日本文学への情熱が感じられる。

キャンベルさんは1957（昭和32）年、米国生まれ。ハーバード大学大学院などで日本文学を学び、同館の助教授を経て、平成12年から今春まで東大大学院で教鞭をとった。江戸～明治期の文学を研究する一方で、テレビ番組のコメンテーターとしても活躍する。

経歴や研究が評価され、今年4月、同館の第7代館長に就任した。同館には50万点以上の所蔵資料がある



が、大多数が古文や漢文。崩し字で書かれており、現代の日本人が読める活字になっていない。日本全国から収集したこれらの資料を精査し、広く公開することで研究を促すのが同館の役割となる。「江戸期以前に生きた人は、何に喜び、悲しんだのか。文字文化の断絶により、これらを知ることは意外と難しいのです。日本文学は、文字と絵が密接に絡んで成り立つ芸術品。これらを読み解くことは、日本の真の歴史を知ることと密接に関わっています」

資料のデータベース化にも力を入れる。同館や各地の大学が所有する約30万点の資料画像をデータベースに構築。検索しやすくすることで新たな発見を促し、さまざまな研究分野を連携させるのが狙いだ。今後は、優れた画家や小説家らを同館に招き、一定期間滞在してもらうことで作品作りに生かしてもらう取り組みも検討する。「古典と身近に接することで、他分野で活躍する若者らの創作活動に生かしてほしい、日本文学の要素を取り入れてくれれば」と語る。

同館では崩し字を読むための市民セミナーなども実施している。「国文学研究資料館の知名度は決して高くありません。ですが、このような施設は欧米にもなく、日本文化にとっていわば〝宝の山〟なのです。ぜひ多くの人たちに広く生かしてほしいですね」（本間英士）

「クールジャパンが盛んに提唱されていますが、昔の日本人が残した言葉や文化もクールだと気づいてほしい」と語るロバート・キャンベルさん

平成29(2017)年6月16日
日刊工業新聞

古典籍の絵をAIで高速検索

情報学研・国文研が技術開発

国立情報学研究所の佐藤真一教授と国文学研究資料館の山本和明特任教授らは、古典資料の画像をスケッチで検索する人工知能（AI）技術を開発した。手でスケッチを描くとディープラーニング（深層学習）で特徴を読み取り、似た絵をウエブから探す。検索時間は1000分の1秒以下。2―3年をめどに実用レベルに高め、研究者向けの検索システムとして提供する。

スケッチや画像をもとに「絵本徒然草」や「絵本和歌浦」などの古典籍の絵を検索できる。深層学習で画像情報から高次元ベクトルを生成して、似たベクトルをもつ絵を探す。画像検索では黒服の僧を入力すると黒服の僧や侍が提案されることを確認した。資料探しを効率化でき古典文学の研究を促進できる。

平成29(2017)年6月18日
北日本新聞

社会

2017年06月18日 05:00

江戸の医書今に生かす　富山大民族薬物研究センター

チェック　ツイート　いいね！1　G+1　0



富山大和漢医薬学総合研究所民族薬物研究センター（所長・小松かつ子教授）は、救急医療の処置法を記した江戸時代の医書「広恵済急方（こうけいさいきゅうほう）」のデータベース化を進めている。治療に用いられた生薬や食品など３００種類を紹介する。年内に公開する予定で、同センターは「現在の知見と比較して効果を科学的に検証し、植物性医薬品や新たな治療法の開発につなげたい」としている。　（文化部次長・近江龍一郎）

古典籍（江戸時代末までに日本人によって書かれた書物）を利用した国文学研究資料館（東京）との共同研究の一環。富山大和漢医薬学総合研究所の「民族薬物データベース」に入れるため、２０１５年度から準備を進めている。国内外の研究者に公開し、研究に活用してもらうのが目的だ。

「広恵済急方」は、急病やけがなど、応急処置の方法を症状別にまとめた庶民向けの医書。１１代将軍・徳川家斉の命を受け、かかりつけ医の多紀元簡（もとのり）が編さんし、１７８９年に全３巻が完成した。内容は医師の経験や伝承に基づく民間療法が中心。脳卒中や吐血、熱中症、切り傷、食中毒、出産に伴う体調不良など、身近な病気やけがを幅広く取り上げ、症状に応じて効果のある生薬や食品の使用法が記されている。

例えば「心腹卒痛（胸と腹の急な痛み）」に効くのはサンショウの一種「朝倉山椒（さんしょう）」。使用法は「炒て酒に漫し、其酒を飲てよし（火であぶって酒に漫して飲むのが良い）」とある。ほかにも、打撲ならハコベラ、かっけなら黒豆、尿に血が混ざっていたなら益母草（やくもそう）など、当時、手に入れやすかったものが多い。

富山大の研究所は「広恵済急方」に収録された約３００種類の生薬、食品に関する記述を編集し直し、これらに適応する疾患と症状、使用法をまとめた。中には薬用ニンジンや熊胆（ゆうたん）（乾燥させたクマの胆のう）など現代でも薬効が知られているものもあるが、伏龍仁（ぶくりゅうじん）（焼いた粘土）といったなじみの薄い生薬も少なくない。小松所長は「この中から現代の病気に対して効果のある生薬が見つかるかもしれない。がん治療薬や機能性食品の開発に結びつけたい」と話している。

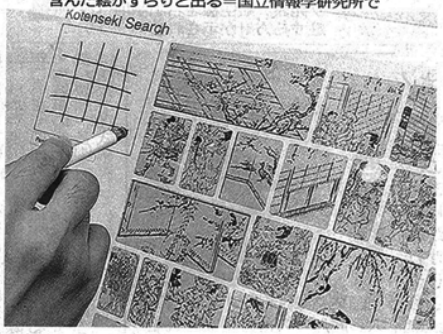
2017年6月26日（月） 東京新聞朝刊4面

楽しんで古典を再発見

手書きで画像検索



縦横の線を描くと、屋根や屏風など格子状の線を含んだ絵がずらりと出る＝国立情報学研究所で



たしかこんな絵だったー。タッチペンでパソコン画面に絵を描くと、和本の挿絵データベースから似た絵を探し出すシステムを、国立情報学研究所（東京都千代田区）などが開発した。

国文学研究資料館（同立川市）が持つ江戸時代以前の和本の挿絵を集めたデータベースをもとに、人工知能（ＡＩ）による検索技術を組み合わせてつくった。絵の特徴を深層学習で学んだＡＩが似た絵を探してくれるという。

ためしにペンで碁盤の目のような模様を描くと次の瞬間に、屋根や屏風のほか市松模様の着物など、格子柄を含んだ絵がずらりと並んだ。ペンで線を付け加えたり消したりすると、そのたびに検索結果が次々と変わる。

検索技術を担当した情報学研究所の松井勇佑さんは「検索が速くなるよう工夫するのがポイント。データベースと会話するように楽しく使えます」と話す。

挿絵の画像を計算処理して数学的な「地図」の上に並べる。うまく調整すれば、特徴の似た絵は地図の上で互いに近くに配置される。地図上で絵と絵の距離を測れば、似ているかどうかが分かる仕組みだ。まだ試作版の段階で、これから検索できる挿絵の数を増やす。

同資料館の山本和明さんは「手を広げた人の絵は喜びを表すというように、古典の挿絵には一定の型があり、それに応じた意味がある。似た絵が簡単に検索できて型と意味を探すのに役立つ。人間だけでは気付かない新しい絵の意味がＡＩで見つかるかもしれない」と期待する。（Ｎ）

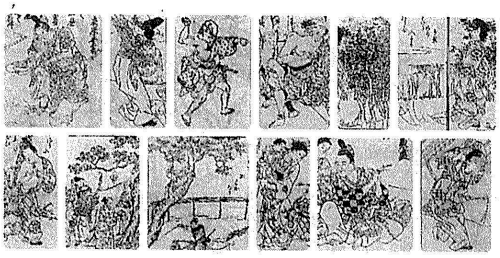
平成29(2017)年6月26日
東京新聞（朝刊）

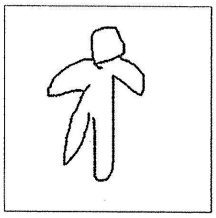
ＡＩ、ラフ画から似た絵検索

国立情報学研究所と国文学研究資料館は、ラフスケッチを描くと「絵本徒然草」「絵本玉かづら」「絵本和歌浦」といった江戸時代の風俗絵本から似た絵を探し出す人工知能（ＡＩ）を開発した。現在は178枚分だが、100万枚まで増えても0・001秒程度で検索できるという。

同研究所が同資料館所蔵の江戸時代の風俗本6冊に含まれる計178枚のデータベースから検索するシステムを作った。検索窓に見つけたい絵のイメージを手描きすると、ＡＩが手書きの特徴を数値化し、データベースから似た特徴を持つ絵を探し出す。写真などを検索窓に入れると、色合いや人物の衣服の色、背景などにＡＩが注目した特徴の絵を見つけたりするという。

システムを改良し、安時代の絵巻物かと同じ構図を探しスト教の宗教画の遷がほかの国の絵影響など様々な絵を見つけたりするという。





検索窓（左）に手描きしたイメージと似ている絵（国文学研究資料館所蔵本から）を検索できるシステム＝国立情報学研究所提供

平成29(2017)年7月6日
朝日新聞

■古典、現代文字に変換

ＡＩによる高度な画像認識は、がんなどを見分ける医療分野や建築物の損傷を見分ける検査など様々な分野で応用が期待されている。

とりわけ大きな期待が寄せられているのが、早ければ2020年代にも実現されるとみられる完全自動運転だ。自動運転には、車線の位置や信号機の色、道路標識の表示などをカメラの画像から検知する技術が欠かせない。なにより安全な走行には、刻々と変化する路上に現れる物体が歩行者など事故につながるものかどうかを瞬時に画像から判別し、止まるか進むかを判断する必要がある。

また、ＡＩとはなじみの薄かった古典学の分野でも、深層学習による画像認識の研究が始まっている。

国立情報学研究所などのチームは、古典に描かれた人物画などから、似た特徴の画像を見つけ出すＡＩの開発に取り組んでいる。成功すれば、服装や生活ぶりの変遷などで新発見があるかもしれないという。

豊田工業高等専門学校などのチームも、古文書に使われているひらがな（くずし字）の画像から特徴を学んだＡＩが、現代の文字に自動変換する技術の開発を進めている。協力する国文学研究資料館の山本和明・特任教授は「一般の人が古典や古文書を気軽に楽しめるようになる」と話す。

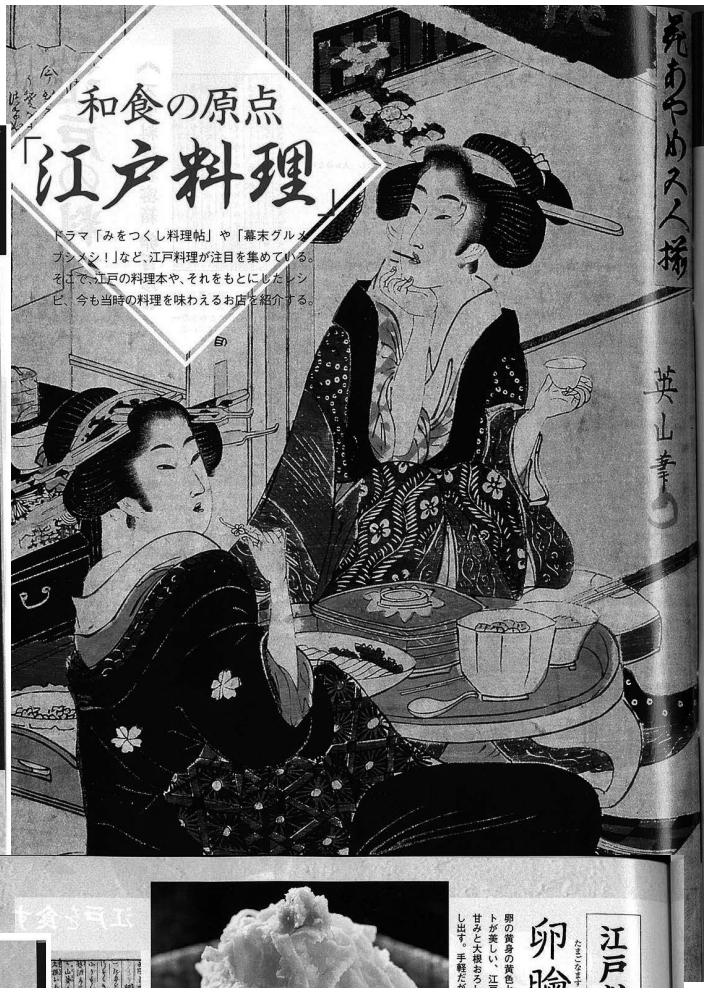
学ぶほど精度向上

画像認識の精度は、学習するデータが多いほど向上する。国文学研究資料館と国立情報学研究所は昨年から、古典作品からくずし字を切り取って学習用のデータを作成し、すでに約40万文字を公開したという。これまで人の手で現在の文字に変換された古典は全体のたった1％。古文書に埋もれた先人の知恵を、ＡＩがよみがえらせてくれるかもしれない。

平成29(2017)年7月16日
読売新聞

和食の原点「江戸料理」

「ドラマ「みをつくし料理帖」や「幕末グルメブンメシ！」など、江戸料理が注目を集めている。そこで、江戸の料理本や、それをもとにしたレシピ、今も当時の料理を味わえるお店を紹介する。





江戸の味 目と舌で

社会が安定した徳川時代の食文化が開花し、現在の料理が確立された。特に江戸後期や料理店が増え、江戸の味を再現した店が江戸っ子の人気を集めた。

さらには百珍物という料理本が出版され、庶民の間にも料理ブームが起こった。そんな料理が味わえるのが、「幕末会席は代々伝わるレシピを再現しています。基本は創業当時の味を守る」とは8代目主人の加藤さん。

嶋村のような料亭の江戸料理レシピデータとに当時の料理を再現する。

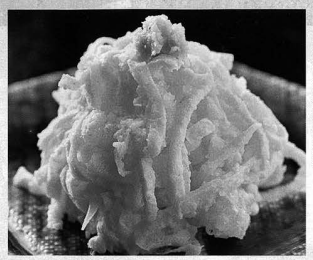
江戸料理は素材を生かし体にも心にもやさしい料

嶋村は「大江戸料理屋番付」では最高ランクに位置していた
都立中央図書館特別文庫室蔵

東京・八重洲の上の江戸時代末期に再現した。今、料理は約80年前の味わいに浸ることができる。

江戸料理を再現

卵膾（たまごなます）



卵の黄身の黄色と大根おろしの白のコントラストが美しい、江戸時代の卵サラダ的料理。卵の甘みと大根おろしの辛みが絶妙なバランスを醸し出す。手軽だが味わい深い。

1 たまごを　すいぶん　うすく焼て
2 長サ一寸ほどに　ほそくきり
3 板又煎豆たごの　白味を　みだれ切にうすくきり
4 黄味は　ごまかに　手にてもみ
5 さて煎酒にて　左のきみを合セ　とくとすり合セ
6 生姜の汁か　山椒かを入レ　右せんきり　たまごを入レ
7 但し少し　大根おろしを　いれるもよし
　多分はあしし料理方いろいろ有



ポイント
フライパンを熱したら卵を入れ、火を消したあとは余熱だけで焼くことで鮮やかな黄色に

万宝料理秘密箱をもとに作られた「江戸料理レシピデータセット」を参考に、神楽坂の和食店カドの料理長・竹村昇平氏の協力で江戸料理を再現。

1 フライパンに油を敷いてペーパーで油を馴染ませ、かき混ぜた卵1個を1枚ずつ薄焼きにして錦糸卵を作る。
2 錦糸卵を千切りにする。
3 もう1個の卵を茹で卵にし（約13分茹でる）、白身を千切りにし、黄身は潰す。
4 大根おろしの水気を軽く切る。
5 ボウルに煎酒、わさびを入れてよく溶かす。大根おろし、錦糸卵、茹で卵の白身と黄身を入れてよく和える。

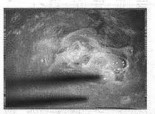
卵潮煎（たまごうしおに）



半熟卵を昆布だしと煎酒（いりざけ）の香りで包んだお吸い物。だしに溶け出す半熟卵の黄色も鮮やかな逸品。お酒の締めにも最適で、卵を菜箸でにすると別の味わいに。

1 昆布だしを作る。塩を足して味を調える。
2 ポーチドエッグを作る。別の鍋に湯を沸かし（500ml）、酢、塩を加える。
　箸で湯をクルクルとかき混ぜて渦を作る。
3 渦の中心にそっと卵を1個割り入れ、箸で広がっている白身をそっと集めながら2分半待つ。
4 網杓子などで冷水に取る。
5 日本酒を温めて器に入れて、そっと卵を入れて卵を保温しながら酒の風味を付ける。
6 お椀に日本酒につけておいた卵をそっと入れて、1で準備した温かいだし汁を注ぎ入れる。





ポイント
火加減は中火で。味付けの日本酒は料理酒ではなく、純米の香りのよいものを使うこと



ジットのないものは、「江戸料理レシピデータセット」（CODH制作）、「日本古典籍データセット」（国文研所蔵）を翻案

江戸の料理指南書

生きるための食から、食べることを楽しむ料理が庶民へも広がった江戸時代。専門家以外も楽しめる「料理本」が数々出版され、太平の世に百花繚乱の様相を呈した。

《万宝料理秘密箱 卵百珍》

冷し卵羊羹の仕方（料理法）

原文

1 是は　大角の　赤干瀬一本を　水につけ　ほとばかし
2 鍋にいれ　水二合入レて　煎し　布にて一へん　はやくこし
　又鍋へ入レ　あつくして
3 たまご十ウを　わり込よくよくとき　是も布にてこし
4 拠右の中へ　黒砂糖を　五十匁　酒すこし入ル　是も布にてこし
5 此二色を　かんてんの鍋の中へ入ル
6 是もすこしつつ　小杓子にて　そろそろと　かきまわしかきまわし　入レるなり
7 塩入レてより　又葛粉をすこし　水にてとき入レ
8 扨鍋をぬき　早く折敷にても　うちあげ　平めに延し
　入レ物ともに　水に入レ　冷し遣ふ

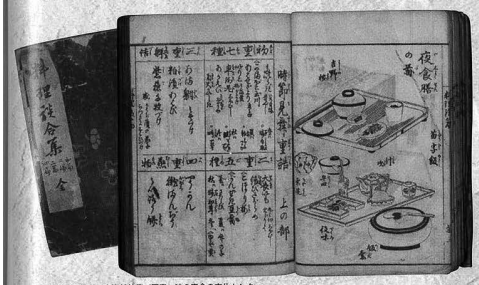
レシピ

1 寒天を水につけて、ふやかします。
2 生卵をよく溶きます。
3 溶いた生卵を布でこします。
4 黒砂糖と酒を入れ、溶かします。
5 4を3に入れ、再びこします。
6 鍋に寒天と水（180cc）を入れて煮とかします。
7 6を布などでこし、再び鍋に入れて熱します。
8 7の熱した寒天の中に、5の卵液を少しずつ入れます。
9 全て入れ終えたら、水でといた片栗粉を鍋に入れてさっと混ぜ合わせます。
10 鍋を火からあげ、中身を容器に入れます。
11 冷蔵庫で、2時間程度冷やします。



1795（寛政7）年の書で、卵料理を中心に解説。全5巻からなり、巻2～4と巻5の一部が卵料理で占められている。

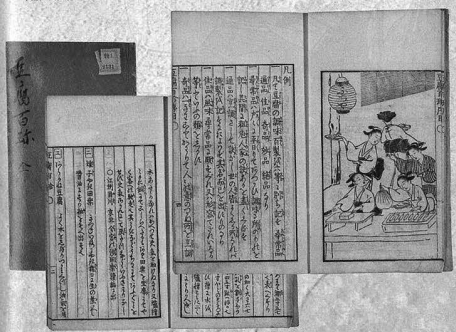
《料理早指南》



全4編の料理ガイドブック。1801（享和元）年に刊行された。本膳・会席・精進料理から重箱料理、干し魚類の調理法や卓袱（しっぽく）料理、汁物、酢の物などについて、それぞれの料理法が絵付きで解説されている。

文献＝国文学研究資料館蔵／写真＝味の素食の文化センター

《豆腐百珍》



豆腐の調理法100種類を解説した本。醤油品、造り品、煮品、焼品、飯品の6段階に区分け評価している。その後流行した百珍物の二番目の書とされている。1782（天明2）年刊行。



国立国会図書館蔵

平成29(2017)年7月12日
Web東奥

Web東奥

Google カスタム検索

ニュース　時論・コラム　訃報・お悔やみ　スポーツ　エンタメ　特集

トップ » 青森のニュース

Ads by Google　最新ニュース　東奥日報

2017年7月12日(水)

歴史資料から津軽の魅力を発掘、デジタル化

古典籍をデジタル公開し、歴史資料の中から地域の新たな魅力を発掘しようと、弘前大学と、国文学の文献を広く収集・調査する国文学研究資料館（東京）は本年度から共同で「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクトに取り組む。15日に弘大創立50周年記念会館みちのくホールで、プロジェクト推進に関する覚書を交わし、弘大名誉教授の長谷川成一氏と同資料館長のロバート・キャンベル氏による記念講演会を開く。



15日に行われる締結式と記念講演の案内チラシ

弘大と国文研「デジタル風土記」構築へ

ツイート　いいね！3

弘前大学は国文学研究資料館（東京都）と共同で「津軽デジタル風土記」の構築に今年度から取り組む。県内の各機関に分散して所蔵されている津軽に関する歴史資料をデジタル化し、体系的に連結・一体化して発信するもので、文献が持つ地域情報を地域資源・観光資源として活用につなげる。１５日には、同大創立５０周年記念会館でプロジェクトの覚書締結と、弘前大学名誉教授の長谷川成一氏、国文学研究資料館長のロバート・キャンベル氏による講演会が行われる。

１５日は一般市民にも公開しており、午後１時から覚書の締結式、午後２時からは長谷川氏、キャンベル氏の講演会が開かれる。定員は２５０人。

※詳しくは本紙紙面をご覧ください。

平成29(2017)年7月14日
陸奥新報web

平成29(2017)年7月16日
陸奥新報web

Web東奥

Google カスタム検索　新聞ご購読お申し込み

ニュース　時論・コラム　訃報・お悔やみ　スポーツ　エンタメ　特集・連載　写真・動画　暮らし

トップ » 青森のニュース　いいね！6

Ads by Google　ニュース青森県　青森ニュース　News動画

2017年7月15日(土)

津軽の文献、デジタル化し公開／弘大など

国文学研究資料館（東
長）などの共同事業
プロジェクトの覚書締
創立50周年記念会館
50人の市民や関係者
トを祝った。



津軽関連の文献の映像を前に記念講演するロバート・キャンベル館長

「デジタル風土記」構築へ覚書締結

ツイート　いいね！1



弘前大学と国文学研究資料館（東京都）が取り組む「津軽デジタル風土記」構築プロジェクトに関する覚書締結式が１５日、同大創立５０周年記念会館で開かれた。文献を地域資源・観光資源としての活用につなげ、津軽の歴史と文化を世界に発信しようとするもの。同資料館長のロバート・キャンベル氏は「弘前は豊富な文化資源に加えて、文献を生きる資源として活用する研究者の層が厚い。（プロジェクトの）結実に向けて力を貸していただきたい」と語った。

【写真説明】プロジェクトの覚書に調印する５者の代表者

※詳しくは本紙紙面をご覧ください。

平成29(2017)年7月15日
Web東奥

江戸料理関連

平成29(2017)年8月1日
読売新聞（朝刊）

平成29(2017)年8月25日
鶏鳴新聞

平成29(2017)年9月19日
カレントウェアネス

平成29(2017)年9月20日
Tokyo weekender

平成29(2017)年9月25日
『鶏の研究』

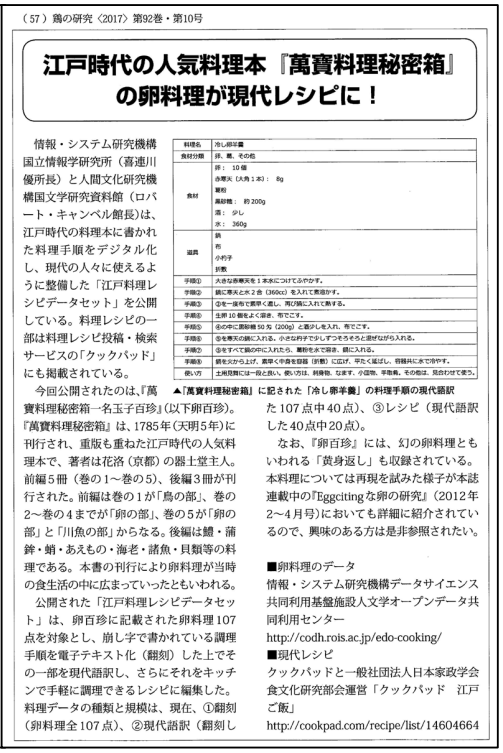
平成29(2017)年10月1日
朝日新聞DIGITAL
朝日新聞


万宝料理秘密箱 卵百珍
現代によみがえる『卵百珍』
国立情報学研究所と国文学研究資料館 レシピを順次公開中
江戸料理レシピ＊山本和明
「定家卵」「利休卵」 名前も魅力
和本からよみが
餃子


国文学研究資料館、江戸料理の再現・アレンジキャンペーンに協力


tokyo weekender
(http://www.tokyoweekender.com)
FOOD (HTTP://WWW.TOKYOWEEKENDER.COM/CATEGORY/FOOD/)
How to Taste Japanese Food as It Was Prepared Centuries Ago
1 WEEK AGO by DANIEL HURST


鶏の研究
10
2017
The NIWATORI-NO-KENKYU Published Monthly by KIKOU SHOBOU
防疫・衛生・飼料対策
トピック
長期連載シリーズ
木香書房


江戸時代の人気料理本『萬寶料理秘密箱』の卵料理が現代レシピに！
情報・システム研究機構 国立情報学研究所（喜連川優所長）と人間文化研究機構 国文学研究資料館（ロバート・キャンベル館長）は、江戸時代の料理本に書かれた料理手順をデジタル化し、現代の人々に使えるように整備した「江戸料理レシピデータセット」を公開している。料理レシピの一部は料理レシピ投稿・検索サービスの「クックパッド」にも掲載されている。
今回公開されたのは、『萬寶料理秘密箱一名玉子百珍』（以下卵百珍）。『萬寶料理秘密箱』は、1785年（天明5年）に刊行され、重版も重ねた江戸時代の人気料理本で、著者は花洛（京都）の器土堂主人。前編5冊（巻の1～巻の5）、後編3冊が刊行された。前編は巻の1が「鳥の部」、巻の2～巻の4までが「卵の部」、巻の5が「卵の部」と「川魚の部」からなる。後編は鰹・蒲鉾・蛸・あえもの・海老・諸魚・貝類等の料理である。本書の刊行により卵料理が当時の食生活の中に広まっていったともいわれる。
公開された「江戸料理レシピデータセット」は、卵百珍に記載された卵料理107点を対象とし、崩し字で書かれている調理手順を電子テキスト化（翻刻）した上でその一部を現代語訳し、さらにそれをキッチンで手軽に調理できるレシピに編集した。料理データの種類と規模は、現在、①翻刻（卵料理全107点）、②現代語訳（翻刻した107点中40点）、③レシピ（現代語訳した40点中20点）。
なお、『卵百珍』には、幻の卵料理ともいわれる「黄身返し」も収録されている。本料理については再現を試みた様子が本誌連載中の『Eggciting な卵の研究』（2012年2～4月号）においても詳細に紹介されているので、興味のある方は是非参照されたい。
■卵料理のデータ
情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター
http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/
■現代レシピ
クックパッドと一般社団法人日本家政学会食文化研究部会運営「クックパッド　江戸ご飯」
http://cookpad.com/recipe/list/14604664

闘鶏神社関連

平成29(2017)年8月1日
カレントウェアネス
アスキー
CNET Japan

平成29(2017)年8月2日
オプトロニクスオンライン
北国新聞

平成29(2017)年8月4日
紀伊民報

歴史的典籍の電子化を進める国際共同研究ネットワークの構築へ

PFU、闘雞神社にて今昔物語集（写本）電子化実証実験を実施

2017年08月01日 16時00分更新　　文● 行正和義　編集●ASCII

B! 2　シェア 0　ツイート　一覧　G+　お気に入り　本文印刷





国文学研究資料館と株式会社PFU、可搬型ブックスキャナを用いた歴史的典籍の電子化実証実験を実施

Posted 2017年 8月 1日

2017年8月1日、国文学研究資料と株式会社PFUは、可搬型ブックスキャナを用いた歴史的典籍の電子化実証実験の結果を発表しています。

両者は、同館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（歴史的典籍NW事業）の一環として、歴史的典籍に特化したブックスキャナの共同研究を行なっており、今回の実証実験は、PFU社が開発中の可搬型ブックスキャナを、和歌山県田辺市の闘雞神社に持ち込んで、同社が所蔵する古典籍「今昔物語集（写本）」の電子化を行なったものです。

実証実験の結果、日本各地に点在し、所蔵場所から持ち出すことが難しい古典籍についても、可搬型ブックスキャナを用い

…文化研究機構 国文学研究資料館（国文
…スキャナーを用いた歴史的典籍の電子

…日本語の歴史的典籍に関する
…典籍の国際共同研究ネット

…の霊場と参詣道」に登録さ
…中の可搬型ブックスキャ
…（写本）」の電子化を行なっ

PFUら，可搬型ブックスキャナで今昔物語集を電子化

2017年08月02日 ｜ カテゴリ： ニュース , 光関連技術 , 科学・技術



人間文化研究機構 国文学研究資料館（国文研）と，富士通グループのPFUは，「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（歴史的典籍NW事業）の一環として，歴史的典籍（古典籍）に特化したブックスキャナの実証実験を実施した（ニュースリリース）。

近代以前に作られた古典籍は，作成から時間が経過しているため，紙そのものの劣化や，災害による消失のリスクが大きな課題となっている。そこで，古典籍の画像を電子化し…
…れている。その…
ベースの構築を行ない，古典籍の保存を進めている。

しかし，古典籍の電子化作業においては2つの課題があ…
生産性が低いこと。2つ目は，古典籍が日本各地に点在…
込み，撮影ブースを設営する必要があるため，準備と電…

国文研とPFUは，これらの課題を解決するため，2016年…
る闘雞神社に可搬型ブックスキャナを実際に持ち込み所…

2017年7月3日，闘雞神社内に可搬型ブックスキャナの…
南方熊楠が研究に利用した「今昔物語集」の写本5冊，…

この試作機はバッテリーを内蔵した可搬型ケースに組み…
スキャナとPCを持ち込むだけで，容易に電子化作業を実…
フラットベッド式のスキャナを利用する場合と比較し，…
電子化を実現できる。

この実証実験の結果，撮影ブースを使った古典籍の電子…
半日～1日程度かかるが，可搬型ブックスキャナを用い…
メージの電子化作業を完了することができ，電子化作業…

また，簡単な操作性により，電子化作業の習熟度によら…
を傷めることなく，電子化を行なうことができた。デー…
400dpiを得ることができた。



熊楠の愛読書 電子化

闘雞神社所蔵「今昔物語集」

人間文化研究機構「国文学研究資料館（国文研）」（東京都）とコンピューター関連メーカー「PFU」（石川県）は、南方熊楠が研究に利用した闘雞神社（田辺市東陽）所蔵の今昔物語集を電子化した。5日に田辺市内で研究成果の報告会がある。

熊楠が閲覧した図書をノートに書き写した「田辺抜書」の第1冊に引用している今昔物語集は、闘雞神社の所蔵の写本と確認されている。5冊現存する。

国文研によると、古典籍の電子化は①取り扱いの専門性が高く、生産性が低い②日本各地に点在し、持ち出せないことが多い―の二つの課題があった。国文研とPFUは今回初めて、可搬型のスキャナーを持ち込み、5冊分計211イメージを約2時間で電子化した。作業を大幅に効率化できたという。

研究報告会は5日午後1時半から、田辺市東陽の文化交流センター「たなべる」2階である南方熊楠研究会のシンポジウムである。

シンポジウムの問い合わせは南方熊楠顕彰館（0739・26・9909）へ。

電子化された闘雞神社所蔵の今昔物語集の一部

オーロラ関係

平成29(2017)年9月20日
Yahoo!ニュース

平成29(2017)年9月21日
毎日新聞（朝刊）
朝日新聞（朝刊）
読売新聞（夕刊）
共同通信web
日本経済新聞（夕刊）

平成29(2017)年9月22日
朝日小学生新聞

平成29(2017)年9月24日
NHKニュース6時
NHK News WEB

YAHOO! JAPAN ニュース　IDでもっと便利に新規取得　ログイン　動物愛護週間「動物も人も幸せな社会に」

キーワードを入力

トップ　速報　写真　映像　雑誌　個人　特集　意識調査

主要　国内　国際　経済　エンタメ　スポーツ　IT・科学　ライフ　地域

コメントを見る

江戸時代に史上最大の磁気嵐　9/20(水) 21:45 掲載

＜オーロラ＞江戸時代に史上最大の磁気嵐　当時の日記分析

江戸時代に日本各地で見られた巨大なオーロラは史上最大の磁気嵐が原因だったと、国立極地研究所の片岡龍峰准教授（宇宙空間物理学）らの研究グループが米学術誌に発表した。オーロラを詳しく記した日記が新たに京都で見つかり、当時のオーロラの規模が正確に分かったため、分析できたという。（毎日新聞）

[続きを読む]



江戸時代の古文書「星解」に描かれたオーロラ。赤いオーロラが放射状に広がっている＝三重県松阪市提供(毎日新聞)

江戸時代の空 巨大オーロラ

の京都 最大級磁気嵐か

極地研など 当時の日記から推定



ーロラとみられる絵＝三重県松阪市提供

いる。

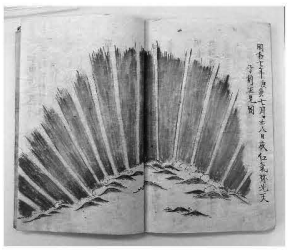
共同通信 47 NEWS

最大級の磁気嵐、江戸時代に発生

京都でオーロラも、解析で一致

2017/9/21 10:56

江戸時代の1770年に、太陽の爆発現象によるとみられる史上最大級の磁気嵐が発生していたとする解析を、国立極地研究所などのチームが21日までにまとめた。京都市でオーロラが見えたという古文書に残る絵図が、計算で再現した見え方と一致した。



江戸時代の書物「星解」に描かれたオーロラ（三重県松阪市提供）

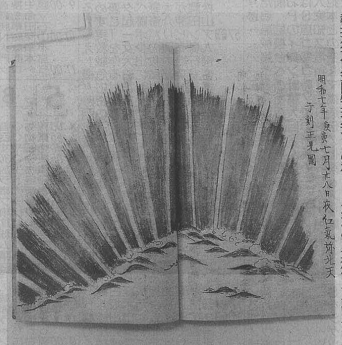
ていた岡龍イで

る必

粒子が地球に届くと、磁気嵐となってオーロ

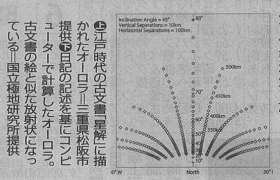
かのオーロラ 最大級で候

江戸時代、全国で観測 巨大磁気嵐



江戸時代に日本各地で見られた巨大なオーロラは史上最大の磁気嵐が原因だったと、国立極地研究所の片岡龍峰准教授（宇宙空間物理学）らの研究グループが米学術誌に発表した。詳しく記した日記が新たに京都で見つかり、当時のオーロラの規模が正確に分かったため、分析できたという。

1770年9月17日に日本でオーロラが観測されたことが各地の記録に残っている。京都で書かれた古書「星解」には、放射状の白い筋が入った扇形の赤いオーロラが描かれているが、詳しい規模は分かっていなかった。



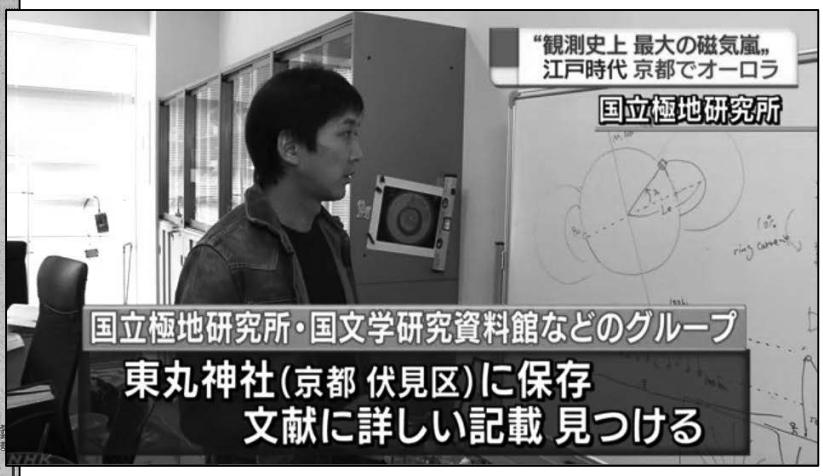
❶江戸時代の古文書「星解」に描かれたオーロラ＝三重県松阪市提供 ❷日記の記述を基にコンピューターで計算したオーロラ。古文書の絵と似た放射状になっている＝国立極地研究所提供

古文書再現 電子解析ピタリ

グループは、東丸神社（京都市伏見区）が所蔵する東羽倉家の日記にオーロラの記述を発見。「紅色の雲が北側の空の半分を覆い銀河（天の川）にせまった」「空の半分が赤気に包まれた」「白気が一筋銀河を貫いた」（いずれも現代語訳）などとオーロラの方角や規模を詳細に記していた。

この資料や当時の地球の地磁気などを基に、京都でのオーロラの見え方をコンピューターで計算したところ、記述通りの形がよく再現できた。

オーロラは太陽フレアなどによる磁気嵐が原因で起こる。再現された磁気嵐は、これまで観測した最大とされた1859年を上回ると推定された。片岡准教授は「古い絵図や文書を活用し、これほど詳しく再現できたことは驚きだ」と話している。【酒造唯】



オーロラ関係

平成29(2017)年10月3日
SCIENCE DAILY
UPI
毎日ウィークリー

平成29(2017)年10月7日
Sputnik

ScienceDaily
Your source for the latest research news

Science News *from research organizations*

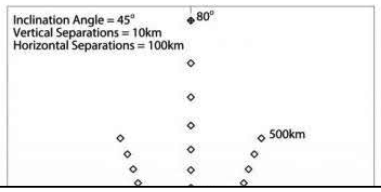
Extreme magnetic storm: Red aurora over Kyoto in 1770

Japanese researchers combine historic accounts of a rare red aurora with modern methods to describe an extreme magnetic storm over Kyoto in the 18th century

Date: October 3, 2017

Source: Research Organization of Information and Systems

earchers used historic accounts of a rare red aurora over Kyoto, Japan, in the century to support calculations of the strength of the associated magnetic storm. September 1770 storm could be 3-10% stronger than the September 1859 n, the greatest storm in the past 200 years. The research provides insights that d assist preparation for an unlikely, but possible, future intense magnetic storm.



毎日新聞

写真 動画 有料会員向け 検索

トップ 社会 政治 経済 国際 サイエンス スポーツ オピニオン カルチャー ライフ 教育

総合 受験 毎日小学生新聞 15歳のニュース @大学 vote18 毎日ウィークリー ニュースがわかる

[PR] NHKで紹介の評価、首都圏で1.2万件超の実績

HOT TOPICS

江戸時代のオーロラ、原因は史上最大の磁気嵐

2017年10月6日

音声を聞いてみよう

00:23 01:35

聞き方の詳細はこちら

WORDS 単語をチェック

geomagnetic storm
磁気嵐（太陽表面で起きる爆発により、地球の磁場が大規模に変化する現象。geomagnetic は地磁気の）

enormous

Largest geomagnetic storm caused 1770 red aurora

The largest known geomagnetic storm ever was found to be the cause of an enormous red aurora seen across Japan on Sept. 17, 1770, a research group from the National Institute of Polar Research announced in academic journal Space Weather on Sept. 18.

The polar research team led by associate professor Kataoka Ryuho discovered a diary in the collection of Azumamaro Shrine in Kyoto that included a detailed description of the aurora.

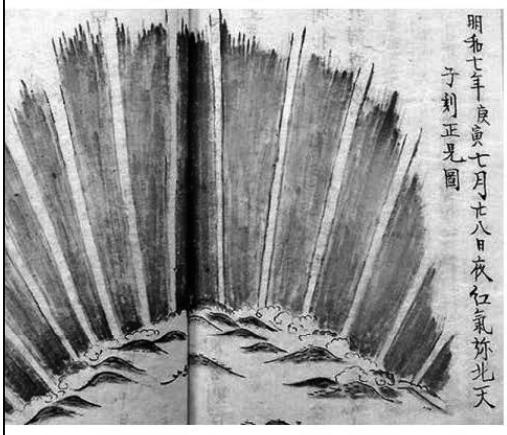
NEWS

sts model magnetic storm that d 18th century red aurora over Kyoto

us that the 1770 storm predated our reliance on electricity," said researcher

| Oct. 3, 2017 at 4:14 PM Follow@upi

ents



and artifacts, including a painting of the cosmic event, helped e the strength of the magnetic storm that caused a red aurora above eptember 1770. Photo by NiPR/Matsusaka city government

cientists have modeled the extreme storm that triggered a ra atop Kyoto, Japan, in 1770. Researchers used historic electromagnetic light show to estimate the storm's strength.

ently, scientists at Tokyo's National Institute of Japanese Literature and ional Institute for Polar Research got the opportunity to analyze an ient painting of a red aurora that flashed across the skies of Kyoto on t. 17, 1770. The painting and associated commentary was included in a anese manuscript called Seikai, which translates as "understanding



© Fotolia/ Bygimmy

日本の学者、最大級の磁気嵐明らかに 古典籍を研究で【写真】

テック＆サイエンス 2017年10月07日 12:03 (アップデート 2017年10月07日 15:09)

日本の学者が、江戸時代の古典籍「星解」と東羽倉家の日記を分析し、１７７０年に史上最大級の磁気嵐が起きていたことを明らかにした。サイエンス・デイリーが報じた。

スプートニク日本

Milky
Along
the
rora
s
puter
d have
was a
ed.
storms.
team is
rrent
d in

平成29(2017)年9月21日
カレントウェアネス

E1954 - 可搬型ブックスキャナによる古典籍電子化実証実験

カレントアウェアネス-E
No.333 2017.09.21

E1954

可搬型ブックスキャナによる古典籍電子化実証実験

•はじめに

国文学研究資料館（以下「当館」）では2014年から「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（以下「NW事業」）を実施している（E1754参照）。この事業の一環として2016年1月から，株式会社PFU（以下「PFU」）とともに，古典籍・古文書の電子化に特化した，卓上に設置して使用する「据え置き型」及びアタッシュケース型で持ち運ぶことができる「可搬型」のブックスキャナの開発に関する共同研究を行っている。本稿では，このうち「可搬型」を使用した実証実験について紹介する。

•開発の背景と経緯

NW事業では，国内20の拠点大学を中心とし，全国の各種図書館や専門機関等と協力して古典籍の撮影を行っているが，一定の品質の画像を効率よく作成することは容易なことではない。そこで，当館では撮影方法のルールを定めるとともに，多様な環境下で古典籍の画像を速く簡便に作成できるブックスキャナの開発をPFUとともに研究することとした。

共同研究においては，当館が長年培ってきた古典籍撮影のノウハウや，古典籍に関する高度な知見を提供してきた。その結果，撮影品質の設定，カラーチャートやスケールの自動埋め込み，古典籍を傷めないような原稿台や外装等機材の工夫，古典籍の外形の種類に対応した寸法開発のノウハウとあわせ，古典籍の所有者が安心してデジタル画像を作成できるような機器となることを目

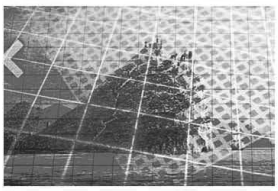
•可搬型ブックスキャナによる闘雞神社での電子化実

2017年7月に「可搬型」試作機による実証実験を行る闘雞神社（和歌山県田辺市）において，かつて南方冊）を撮影した。

平成29(2017)年11月24日
JIIMA広報誌　月刊M

Case Study
ケース・スタディ

時代のニーズに対応した
文書情報マネジメントを紹介



歴史的典籍(ネットワーク)NW事業による古典籍の電子化について



人間文化研究機構 国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター
副センター長 山本(やまもと) 和明(かずあき)

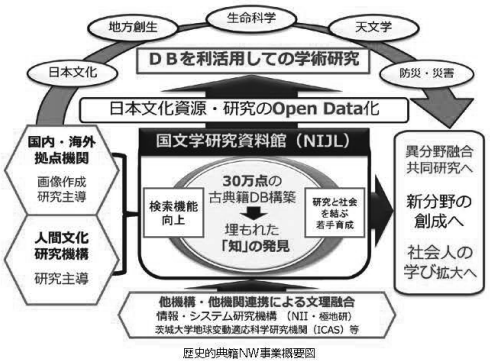
歴史的典籍NW事業とは

大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（歴史的典籍NW事業）も、はや四年が経過した（平成26年度から10年計画）。当初発表されたその予算規模の大きさからか、さまざまな業界で憶測を呼んだことも承知しているが、人文社会系で初めて採択されたこの事業も、試行錯誤を経てなんとか軌道に乗り、これから加速度的に展開していこうとしている。

歴史的典籍NW事業には、大きく言って二つの「目標」がある。古典籍を通した国際的な研究の醸成、研究ネットワークの構築というのがまず一点で、これは多彩な研究に渉る話となる。もう一点は、デジタル撮影等により、最終的には30万点におよぶ歴史的典籍（古典籍）の全冊画像を作成しウェブ上で公開するもので、研究の基盤整備が目標と言える。古典籍に関して、世界に誇るべきカタログ『国書総目録』を継承し、国文学研究資料館（国文研）では「日本古典籍総合目録データベース」という国書書誌情報を公開してきた。そのデータと今般の画像データとを併せ、今春に「新日本古典籍総合データベース」として新たにウェブ上での提供を開始し、広く研究者の利活用を促すよう取り組んでいるのである。ここでは、そのための画像コンテンツに関わる話題を主に述べてみたい。

古典籍というフロンティア

歴史的典籍NW事業の対象とする「古典籍」は、何も人文分野だけではない。日本文学の大学共同利用機関が実施しているため、そうした誤解も生じがちだが、医学や理学、宗教を含め、あらゆる分野の典籍を対象とする。その目的も、資料保管、データ保存という意味でのアーカイブ化に留まらない。アーカイブして、「それで何が生まれるのか?」という問いに応えなければ、フロンティア促進事業の「フロンティア」とは、とても言えないのである。自



歴史的典籍NW事業概要図

DB関係

平成29(2017)年10月29日
ReseMom

平成29(2017)年10月31日
科学技術ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ

平成29(2017)年11月2日
読売新聞
読売新聞WEB版

平成29(2017)年11月25日
中日新聞

平成29(2017)年12月
えくてびあん

平成29(2017)年12月8日
東京新聞（夕刊）

平成29(2017)年12月9日
日本経済新聞

平成29(2017)年12月20日
朝日新聞（夕刊）

平成30(2018)年1月9日
読売新聞

平成29(2017)年2月8日
カレントウェアネス

平成29(2017)年2月10日
立川市教育だより
「たっち」

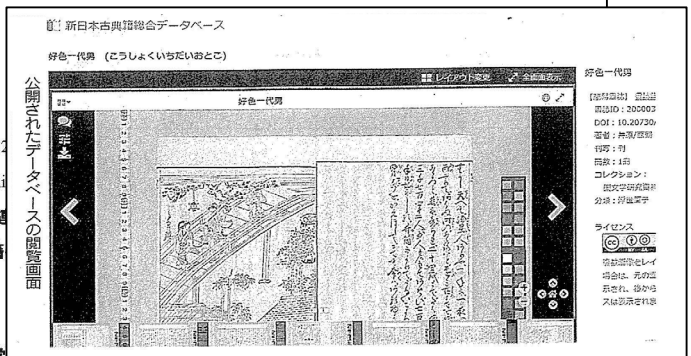
CiNii、新日本古典籍総合データベースと連携…ワンクリックで閲覧





国立情報学研究所（NII）は10月2
れた本の情報検索サービス「CiNii
日本古典籍総合データベース」と連
た。CiNii Books利用者は、古典籍
直接アクセスできるようになる。

CiNii Booksは、日本国内の大学
書や雑誌などの情報検索サービス
館が所蔵する約1,000万件以上（の
や、約150万件の著者の情報を検索



公開されたデータベースの閲覧画面

全ページ デジタル画像に

古典無料ネットDB

国文学研究資料館（立川市）は、国内外の大学な
日本
見開
作品
野を
学や
像化
から
開を
ど約
江
る。
同
7
料に触れてもらうことで研
究の発展につなげたい考
え。所蔵機関など出典を記
せば二次利用できる画像も
多く、教育現場や趣味での
活用も期待している。
ロバート・キャンベル館
長は「温故知新の言葉通り、
言語遺産に気軽に触れて新
たな発見をしてほしい」と
している。

画像化「データベース」国文研が正式公開

古典籍を身近に

奈良時代後期から江戸時代末までの和書の画像をネットで自在に検索できる「新日本古典籍総合データベース」を、国文学研究資料館（東京）が十月末から正式に公開した。所蔵先まで行かなくても、ネットが使えれば自宅の書物にたどり着ける「唯一」の日本古典籍ポータル（入り口）サイト」だ。研究だけでなく、画像で年賀状やポスターを作るなど一般の利用も大歓迎という。（谷村卓哉）

使い方は簡単。同館のホームページから「電子資料館」を選ぶと、館所蔵の和古書目録などのデータベースと並んで「新日本古典籍総合データベース」がすぐ目につく。試しに来年のえと（戌＝犬）をキーワードに検索してみると、名前に「犬」の付く人物が登場する曲亭馬琴の大作「南総里見八犬伝」や、擬人化した犬や竜を描く「鳥獣絵巻・十二類歌合」（写真㊨）などがずらりと表示された。江戸時代の『絵本時世粧』（同下）のように、犬が小さく描かれただけの作品も探し当てられた。

検索を実演する同館の職員

年賀状の図案に





が近世を代表する画家・尾形光琳の名を入力すると、画面にはかわいい犬の絵が。これは年賀状に良さそう。図書館などでこうした絵を自力で探

新日本古典籍 オープン！★

唯一の日本古典籍ポータルサイトである「新日本古典籍総合データベース」が正式公開されました。国文研が長年蓄積した豊富な書誌と、国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像を収録し、研究・教育の利用に限らず、広くメディアや産業界、一般の方々が活用できるようになったということです。聞くと難しいけれど、一度のぞいてみてください。かわいい絵やおもしろい妖怪もいっぱいいますよ！ 国文研のHPから入れます。



30万点、10年かけて

同館の館長は、米国出身の日本文学者ロバート・キャン

ベルさん

マートフ

も利用できる手軽さも魅力。私もけさ、電車の中で使いました」と気さくに語る。

この事業は、同館が二〇一四年度から進める「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の核だ。約二十万点もの古典籍をデジタル画像にして、著者名や刊行年などの情報とともに誰でも自由に調べられるようにする。国内外の大学や研究機関などと連携し、十年がかりで取り組む大きな計画だ。

日本は膨大な書物の蓄積があるが、一八六八（明治元）年までに書かれたもので、出版されるなどして誰でも読める形になっているのはわずか1％程度。残りは大学や研究機関など、それぞれの所蔵先に秘蔵されている。そうした古典籍の活用について「多様な情報を含む原本の画像を公開していくことで、新たな可能性を広げたい」と副館長の谷川恵一さん。原本が劣化したり、災害で失われたりすることへの対策にもなる。

昨年度末までに、京都大や名古屋大、関西大など十一の大学と、国立天文台などの所蔵品を撮影。また、同館や宮内庁のマイクロフィルムからも画像を作り、準備の整った七万四千点について、十月末から見開き状態などの約一千万コマを公開している。

意見もらい成長を

今後は、公開点数の拡大と質の充実を目指す。一般には読みにくい「くずし字」の活字データ化や多言語への対応など課題もあるが、たとえば百六冊からなる大作『南総里見八犬伝』も一点と数えているため、完成すれば膨大な古典籍の画像がいつでもどこでも見られるのだ。

キャンベルさんはかつて同館で教員として活躍し、日本の文学や芸術の魅力を国内外に伝えてきた。館長として世に問うデータベースについて「ふと思い付いたアイデアをもとに検索し、意外な発見にたどり着くこともあるでしょう。たくさんの人に使ってもらい、意見をもらって成長させたい」と期待している。

平成29(2017)年11月14日　婦人画報



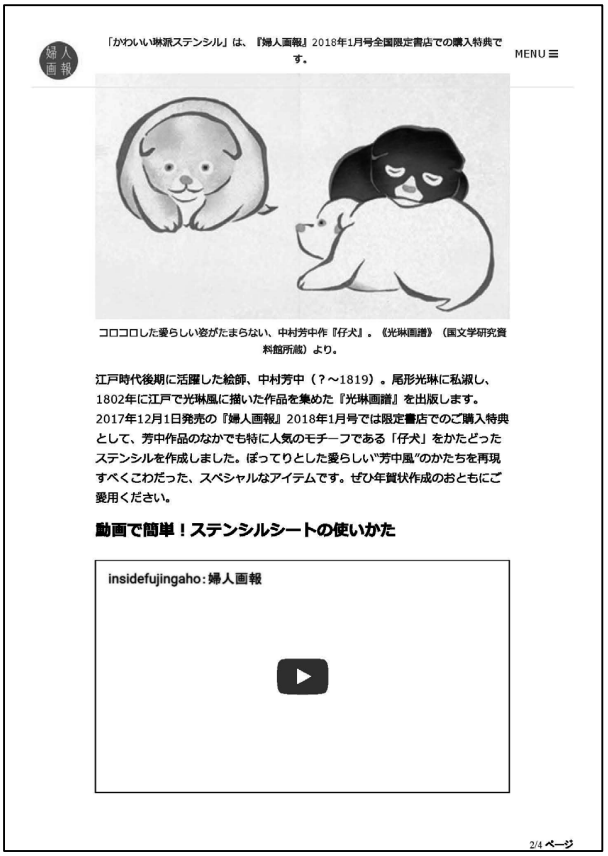
婦人画報　MENU

限定書店でのご購入特典！ 婦人画報1月号「かわいい琳派 ステンシル」にほっこり♥

UPDATE：2017.11.14

2017年12月1日に発売される『婦人画報』2018年1月号を特定の書店でお買い求めいただくと、中村芳中（なかむら・ほうちゅう）作「仔犬」をかたどった特製の「かわいい琳派ステンシル」が特典としてついてきます。戌年の御挨拶のお供に、愛らしい芳中のワンコをぜひ！

1/4 ページ



婦人画報　「かわいい琳派ステンシル」は、『婦人画報』2018年1月号全国限定書店での購入特典です。　MENU

コロコロした愛らしい姿がたまらない、中村芳中作『仔犬』。《光琳画譜》（国文学研究資料館所蔵）より。

江戸時代後期に活躍した絵師、中村芳中（？～1819）。尾形光琳に私淑し、1802年に江戸で光琳風に描いた作品を集めた『光琳画譜』を出版します。2017年12月1日発売の『婦人画報』2018年1月号では限定書店でのご購入特典として、芳中作品のなかでも特に人気のモチーフである「仔犬」をかたどったステンシルを作成しました。ぽってりとした愛らしい"芳中風"のかたちを再現すべくこわだった、スペシャルなアイテムです。ぜひ年賀状作成のおともにご愛用ください。

動画で簡単！ステンシルシートの使いかた

2/4 ページ

平成29(2017)年12月13日　産経新聞



国語逍遥 ㉜

清湖口敏

若者に倣って古文献の解読を

11月10日付で各紙が報じた今年の「ユーキャン新語・流行語大賞」の候補30語には、恥ずかしながら知らない言葉がたくさん交じっていた。「刀剣乱舞」もその一つで、ネットで調べてみてそれがゲームの名前であることを知ったとき、「そういえば」と頭をかすめるものがあった。「コレが例のアレだったか」…。

実は最近、くずし字の解読に興味を覚えた。若い頃に少しばかり書をかじり、変体仮名なども学んだはずなのだが、どうやら一向に身についていないものと思われる。

新聞ではしばしば、龍馬や漱石といった歴史的人物の手紙などが写真で紹介され、その達筆ぶりに感銘を受けたりはするのだが、では、そこに何が書かれてあるのか解読せよといわれると、悲しいかなさっぱり読めない。古文献が今、私たち現代人にとって確実に近しい存在になりつつあるというのに、である。

国立国会図書館や国文学研究資料館などが大量のデジタル画像をウェブ上に公開しており、わざわざ所蔵館に出向かなくてもパソコン等で古人の筆跡に手軽に触れることができる。ただ、くずし字が多用された文献は、私たちが常用する文字に翻字されたテキストなしでは読めるかどうか、成果を試せるようになっている。

残る3つめが「つながる」機能だ。何か読めない文字に遭遇したとき、文字の写真を添付し、フェイスブックやツイッターなどのネットワークを通じて同好のユーザーに助けを求めることができる。まさに至れり尽くせりではないか。

KuLAはもともと、国文学研究資料館が作成する30万点もの古典籍の電子画像を、いかに活用するかという課題から着想されたもので、大阪大学を中心とするプロジェクトによって開発された。経緯は『アプリで学ぶ』にも詳しいが、目を引いたのは、くずし字解読への欲求がとりわけ地震学研究者に強かった事実である。過去に発生した地震の詳細を知り、そこから将来の災害に対する教訓を得るのは、地震学者にとって必須なのだという。

思い起こせば東日本大震災直後の平成23年3月28日付の小欄でも、日本書紀や方丈記における地震の描写をご紹介したことがあった。KuLAの「よむ」機能に方丈記の冒頭部が収められているのも、この鎌倉初期の随筆が地震や竜巻などの災害を詳細に記しているからだろう。

現在のわが国では手筆を使う習慣がすっかり薄れてしまい、正真正銘の日本の文字であるくずし字が、外国語以上に難解なものになってしまった気がする。日本文学研究者のロバート・キャンベルさんはそんな現況を憂え、「日本人はくずし字を学ぼうと提唱した」。「江戸時代に書かれたものでいま活字で読むことのできるものは恐らく全体の一割にも満たない。版本や写本など、多くがくずし字のまま放置されている」「たかだか百四十年前でも、くずし字で書かれた和本を読む基礎的なリテラシーがないと、この資料にはアクセスできない」（文芸春秋2015年8月号）

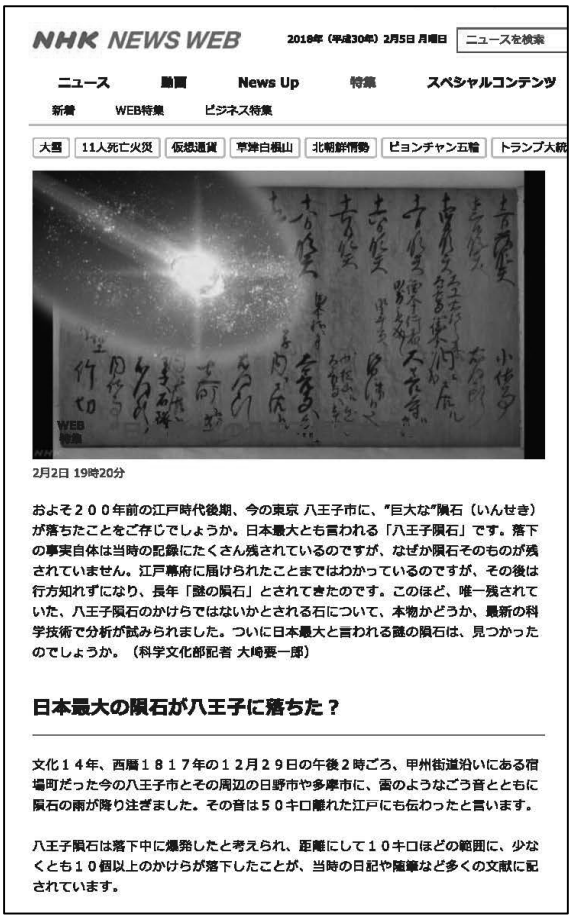
よし、若い刀剣ファンに倣って私もゲームに、いや、くずし字の解読に、真剣に取り組んでみよう。

「くずし字」アプリ

「KuLA」の一画面。スマートフォンにインストールすれば誰でも簡単にくずし字が学べる

鴨長明作『方丈記』の冒頭部。「行く川の流れは…」の書き出しはよく知られている（国立国会図書館ウェブサイトから転載）

平成30(2018)年2月2日　NHK NEWS WEB



NHK NEWS WEB　2018年（平成30年）2月5日 月曜日　ニュースを検索

ニュース　動画　News Up　特集　スペシャルコンテンツ

新着　WEB特集　ビジネス特集

大雪　11人死亡火災　仮想通貨　草津白根山　北朝鮮情勢　ビョンチャン五輪　トランプ大統

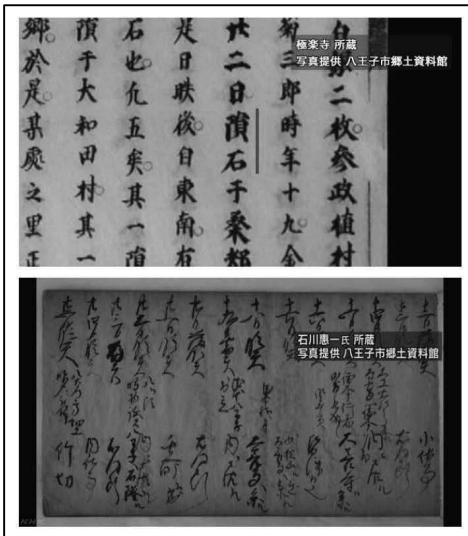
2月2日 19時20分

およそ２００年前の江戸時代後期、今の東京 八王子市に、"巨大な"隕石（いんせき）が落ちたことをご存じでしょうか。日本最大とも言われる「八王子隕石」です。落下の事実自体は当時の記録にたくさん残されているのですが、なぜか隕石そのものが残されていません。江戸幕府に届けられたことまではわかっているのですが、その後は行方知れずになり、長年「謎の隕石」とされてきたのです。このほど、唯一残されていた、八王子隕石のかけらではないかとされる石について、本物かどうか、最新の科学技術で分析が試みられました。ついに日本最大と言われる謎の隕石は、見つかったのでしょうか。（科学文化部記者 大崎要一郎）

日本最大の隕石が八王子に落ちた？

文化１４年、西暦１８１７年の１２月２９日の午後２時ごろ、甲州街道沿いにある宿場町だった今の八王子市とその周辺の日野市や多摩市に、雷のようなごう音とともに隕石の雨が降り注ぎました。その音は５０キロ離れた江戸にも伝わったと言います。

八王子隕石は落下中に爆発したと考えられ、距離にして１０キロほどの範囲に、少なくとも１０個以上のかけらが落下したことが、当時の日記や随筆など多くの文献に記されています。



落下したかけらは、大きいもので、長さ９０センチ、重さは６０キロあったとされます。

国立科学博物館によりますと、これまでに確認されている日本に落下した隕石は５０個ありますが、最大のものは１８５０年に今の岩手県陸前高田市に落下した全長５０センチの「気仙隕石」で、「八王子隕石」は日本で最大の隕石だったとも言われています。

隕石はどこへ

ところが、八王子隕石の存在は、落下場所となった八王子市内でもほとんど知られていません。

何より隕石の実物が残っていないのです。

最大と見られるかけらは、市中心部の金剛院という寺の脇の畑に落ちたと記録されています。しかし、金剛院の周りは今や住宅地になり、落下の痕跡をうかがうことはできません。

平成30(2018)年2月4日　朝日新聞



江戸後期の梅雨 雨の日少ない？

茨大准教授ら商家の日

江戸後期の梅雨は今より雨の日が少なかった城大の研究者が、江戸後期に県内の商家で書き気の記述を近年の記録と比較したところ、気象る可能性がわかった。5日に同大で開くシンポ

調査をしたのは、茨城大理学部の野澤恵・准教授と同学部4年の宮崎将さん。土浦藩の商人で、国学者としても知られた色川三中と美年の兄弟が、文政9（1826）～安政5（1858）年にかけてつづった「家事志」と呼ばれる日記を分析した。

天候や地震、水害などの情報が比較的詳しく記載されている。野澤さんらの分析では、計32年間で天候の記述がある日は67％にのぼり、データを月別にまとめるなどして傾向を調べた。

気象庁発表の1976～2017年分の記録との比較では、9月から1月にかけての降水日数の減少、1月から3月にかけての増加といった大きな傾向は同じだった。一方、近年は梅雨時期の6月の降雨日の割合が40％を超え年間で最も高いのに対し、江戸期は35％程度で9～10月より低い、などの違いがあった。

飢饉への影響も類推でき

天保の飢饉の異常気象も判明

た。東を及ぼ

33～36年）で、県内に大きな被害を出したとされるのは36年。前年の35年夏の降雨日数は飛び抜けて高く、さらに36年春は降雨がほとんどないなど異常気象が続いていたことがわかった。

野澤さんは「日記は1人でつづっているため、夜中の降雨などを見逃している可能性があるが、気候変動を考える上で価値のある記録だ。天候を記載した日記類は各地で残されており、比較していけば詳細がわかるだろう」と話す。

調査は、歴史史料から防災や気候変動を探ることを目的に同大と国文学研究資料館（東京）が昨年から始めた連携研究の一環。5日午後1時から、同大図書館である共同研究シンポで発表する。問い合わせは茨城大地球変動適応科学研究機関（029・228・8787）へ。

（重政紀元）

平成30(2018)年2月5日　文教ニュース



国文学研究資料館

歴史的典籍オープンデータWS

国文学研究資料館は、今後公開予定の30万点におよぶ画像データの利活用の可能性を探るため、平成27年度から「歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン）」を毎年度開催している。今年度は、12月8日に大阪市立大学文化交流センターで「切ったり貼ったり、古典籍からなにを取り出そう？」というタイトルで開催し、関係者を含め39名が参加した＝写真。

画像を切り貼りする技術が新展開をみせている状況で、人文学オープンデータ共同利用センターの協力のもと公開している「日本古典籍データセット」等のオープンデータセットのほか、昨年10月には「新日本古典籍総合データベース」が正式公開され、豊富な画像が題材に加わる中、古典籍画像や技術を活かしたキュレーションサイトの展開例について、日本文化の紹介など、ビジネスから教育用途にいたる幅広いアイデアが提案された。

平成30(2018)年2月6日
NHK NEWS WEB

NHK NEWS WEB

2018年（平

茨城 NEWS WEB

歴史文献で災害を検証するシンポ

02月06日　06時44分



古文書や昔の絵図などを科学的に分析することで、古い時代の気候や災害の規模などを検証しようとするシンポジウムが、5日、水戸市で開かれました。

茨城大学の水戸キャンパスで開かれたシンポジウムでは、3つのグループがこれまでの研究成果を披露しました。

このうち茨城大学理学部の野澤恵准教授のグループは、江戸時代後期に現在の土浦市に住んでいた国学者の兄弟の日記から、当時の気候を推定したとする研究を発表しました。

この中で野澤准教授たちは、「雨や雪が降った」という日を月ごとに分析して現在の気候と比較したところ、梅雨から夏の時期にかけては、現在よりも降水日数が少なかった可能性があると指摘しました。

また、東北地方に大きな被害をもたらした「天保の飢饉」の年は、関東地方でも異常気象が起きていたことが推定されることなどと説明していました。

野澤准教授のグループは、こうした検証をもとに現代の防災対策に生かすことができないか、研究を進めていくということです。

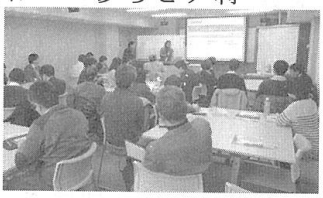
シンポジウムに参加した学生は「理系と文系の枠を超えた研究で興味深かった。知見を積み重ねていけば、今後の防災にも生かしていけるのではないかと感じました」と話していました。

平成30(2018)年2月7日
文教速報

歴史的典籍オープンデータ
国文研、ワークショップを開催

国文学研究資料館は、今後公開予定の30万点におよぶ画像データの利活用の可能性を探るため、平成27年度から「歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン）」を毎年度開催している。今年度は、このほど大阪市立大文化交流センターで、『切ったり貼ったり、古典籍からなにを取り出そう?』というタイトルで実施し、関係者を含め39名が参加した＝写真＝。

画像を切り貼りする技術が新展開をみせている状況で、国文研では、人文学オープンデータ共同利用センターの協力のもと公開している「日本古典籍データセット」等のオープンデータセットをはじめ、10月には「新日本古典籍総合データベース」を正式公開。ワークショップでは豊富な画像が題材に加わるなか、古典籍画像や技術を活かしたキュレーションサイト（テーマごとに画像を集めるまとめサイト）の展開例について、日本文化の紹介など、ビジネスから教育用途に至る幅広いアイデアが提案された。



平成30(2018)年2月8日
茨城新聞web
茨城新聞

茨城新聞 クロスアイ

茨城大ICASと国文研　江戸時代の雨や水害分析

共同シンポ　研究成果を発表

茨城大(水戸市文京)の地球変動適応科学研究機関(ICAS)と国文学研究資料館(国文研、東京)は5日、同大図書館で共同研究シンポジウムを開いた。江戸から明治時代の水害絵図や資料、天気データを用いた研究成果を発表した。



茨城大と国文学研究資料館が開いた共同研究シンポジウム＝水戸市文京

野沢恵理学部准教授と理学部4年の宮崎将さんは、「江戸時代の梅雨は現在よりも雨が少なかったかもしれない」と報告した。土浦の商人で国学者の色川三中(いろかわみなか)と弟の美年(みとし)が残した日記「家事志」(1826～58年)に注目。32年間で67%の日に天気データが記されていた。晴、曇、雨、雪や、折々雨、朝曇などの記載もあった。

これを気象庁の1976～2017年までの月別の降水日数と比較した。全ての月で降水日数が現代よりも少なかった。9月から1月から3月の増加傾向は一致した。しかし、現代の6月は40%が降雨日だが、日記は約25%程度だった。江戸時代の梅雨から夏にかけての降水日数の減少幅が少なかった。

宮崎さんは「日記の書き手が降水を見落としている可能性がある。同時期のほかの資料との比較も必要」と分析。江戸後期の水戸の町年寄りが、毎日の寒暖計の測定記録を記載した「大高氏記録」のデータ収集に取り組んでいる。

小野寺淳教育学部教授は富士川綯図と内務省河川調査書を解説。江戸後期に安全な水運航行のため、河川改修した様子を描いた絵図を紹介。「デフォルメされており、注意が必要だ。作成者の価値体系によりイメージ化して表現している」とした。河川調査書を巡り「流域ごとに水害の歴史と治水技術の特色など詳細に記載されている。(明治時代に)新設された土木監督署の威信をかけた調査だった」と活用を呼び掛けた。ただ、茨城県分の現存は不明という。

国文研の岩橋清美特任准教授は江戸時代の多摩川流域の水害記録を分析。「寺子屋の師匠が子どもたちに災害を伝える目的で絵図を残した例がある」と話し、「今後は新たな近世史像を描きたい」とした。(清水英彦)

茨城大と国文学研究資料館が開いた共同研究シンポジウム＝水戸市文京

茨城大ＩＣＡＳと国文研

江戸時代の雨や水害分析

共同シンポ　研究成果を発表

茨城大（水戸市文京）の地球変動適応科学研究機関（ICAS）と国文学研究資料館（国文研、東京）は5日、同大図書館で共同研究シンポジウムを開いた。江戸から明治時代の水害絵図や資料、天気データを用いた研究成果を発表した。



野沢恵理学部准教授と理学部4年の宮崎将さんは、「江戸時代の梅雨は現在よりも雨が少なかったかもしれない」と報告した。土浦の商人で国学者の色川三中（いろかわみなか）と弟の美年（みとし）が残した日記「家事志」（1826～58年）に注目。32年間で67%の日に天気データが記されていた。晴、曇、雨、雪や、折々雨、朝曇などの記載もあった。

これを気象庁の1976～2017年までの月別の降水日数と比較した。全ての月で降水日数が現代よりも少なかった。9月から1月にかけての降水日数の減少や1月から3月の増加傾向は一致した。しかし、現代の6月は40%が降雨日だが、日記は約25%程度だった。江戸時代の梅雨から夏にかけての降水日数の減少幅が少なかった。

宮崎さんは「日記の書き手が降水を見落としている可能性がある。同時期のほかの資料との比較も必要」と分析。江戸後期の水戸の町年寄りが、毎日の寒暖計の測定記録を記載した「大高氏記録」のデータ収集に取り組んでいる。

小野寺淳教育学部教授は富士川綯図と内務省河川調査書を解説。江戸後期に安全な水運航行のため、河川改修した様子を描いた絵図を紹介。「デフォルメされており、注意が必要だ。作成者の価値体系によりイメージ化して表現している」とした。河川調査書を巡り「流域ごとに水害の歴史と治水技術の特色など詳細に記載されている。（明治時代に）新設された土木監督署の威信をかけた調査だった」と活用を呼び掛けた。ただ、茨城県分の現存は不明という。

国文研の岩橋清美特任准教授は江戸時代の多摩川流域の水害記録を分析。「寺子屋の師匠が子どもたちに災害を伝える目的で絵図を残した例がある」と話し、「今後は新たな近世史像を描きたい」とした。（清水英彦）

平成30(2018)年2月11日
東京新聞web
東京新聞

減災に歴史史料活用を　茨城大と国文研がシンポ

ツイート 0 シェア 15 G+

2018年2月11日

減災や気候変動の研究に役立てようと、古文書などの歴史史料を分析している茨城大地球変動適応科学研究機関（ICAS＝アイキャス）が、水戸市の茨城大水戸キャンパスでシンポジウムを開いた。気候変動についても歴史史料から学んでいく重要性を確認した。

シンポジウムは五日にあり、茨城大側と学術交流協定を結んでいる国文学研究資料館（国文研、東京都立川市）が共同で主催した。

事例報告のうち、茨城大理学部の野沢恵（さとし）准教授と四年の宮崎将さんは、江戸時代後期の土浦の国学者が三十二年にわたってつづった日記「家事志」について発表。天気に関する記述を抽出したところ、梅雨から夏にかけての降水日数が、現代より少ない傾向にあったことが分かったという。



会場からの質問に回答する宮崎さん（右）＝水戸市で

気候変動の可能性があったことを示す結果だが、飢饉（ききん）や洪水との関連性を明らかにしていくためには、家事志以外の歴史史料も読み解いていく必要があるとした。

学内の教員六十余人が参加しているアイキャスは、文理の垣根を越えた研究分野の創出などを目的に、昨年五月に国文研と協定を締結した。二〇一七年度から三年間、共同研究やフィールドワークを展開することになっている。（越田普之）

減災に歴史史料活用を

水戸　茨城大と国文研がシンポ

減災や気候変動の研究に役立てようと、古文書などの歴史史料を分析している茨城大地球変動適応科学研究機関（ＩＣＡＳ＝アイキャス）が、水戸市の茨城大水戸キャンパスでシンポジウムを開いた。気候変動についても歴史史料から学んでいく重要性を確認した。

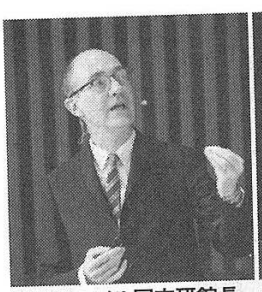
シンポジウムは五日にあり、茨城大側と学術交流協定を結んでいる国文学研究資料館（国文研、東京都立川市）が共同で主催した。

事例報告のうち、茨城大理学部の野沢恵（さとし）准教授と四年の宮崎将さんは、江戸時代後期の土浦の国学者が三十二年にわたってつづった日記「家事志」について発表。天気に関する記述を抽出したところ、梅雨から夏にかけての降水日数が、現代より少ない傾向にあったことが分かったという。

気候変動の可能性があったことを示す結果だが、飢饉や洪水との関連性を明らかにしていくためには、家事志以外の歴史史料も読み解いていく必要があるとした。

学内の教員六十余人が参加しているアイキャスは、文理の垣根を越えた研究分野の創出などを目的に、昨年五月に国文研と協定を締結した。二〇一七年度から三年間、共同研究やフィールドワークを展開することになっている。（越田普之）

人文機構シンポジウム
江戸書物から読み解く庶民の食物と生活


キャンベル国文研館長


江原東京家政学院大名誉教授


トークセッション。写真手前は磯田日文研准教授

人間文化研究機構は1月19日、公益財団法人味の素食の文化センターと共催で、シンポジウム「江戸書物から読み解く庶民の食べ物と生活」を味の素グループ高輪研修センター（東京都港区）で開催した。シンポジウムでは、町民文化が花開いた江戸時代の書物を紐解き、その豊かな食生活と生活文化について、当時の知恵を探るという趣旨で開催された。当日は、220名の来場者が熱心に議論に聞き入っていた。

江原絢子東京家政学院大学名誉教授より「史料が語る江戸の食」と題して基調講演が行われた他、山本和明国文学研究資料館教授より「歴史的典籍ネットワーク事業の全容とその意義」と題し、歴史史料や民俗事例などの資料を提示して講演が行われた。また、クックパッド㈱の伊尾木将之氏により「クックパッドに再現された江戸料理」と題し、クックパッド上で展開されている「クックパッド江戸ご飯」について、ユーザーの好意的な反応等が紹介された。

さらにその後、トークセッションが行われ、ロバート・キャンベル国文研館長の進行により、江原教授及び磯田道史国際日本文化研究センター准教授が江戸庶民の多彩な食文化について、多角的な視点から意見を交換した。

平成30(2018)年2月12日
文教速報

平成30(2018)年2月23日
カレントウェアネス

LODチャレンジJapan 2017の受賞作品が発表：データセット部門最優秀賞は「小倉百人一首LOD」

Posted 2018年2月23日

2018年2月22日、LODチャレンジ実行委員会がLODチャレンジJapan 2017の受賞作品を発表しました。
アプリケーション部門、データセット部門、アイディア部門、ビジュアライゼーション部門、基盤技術部門の5つの部門に加えて、テーマ賞、プラチナスポンサー賞、ゴールドスポンサー賞、パートナー賞の受賞作品が発表されました。

データセット部門最優秀賞には、千葉大学附属図書館の高橋菜奈子氏による「小倉百人一首LOD」が選ばれました。百人一首のデータをLOD化したもので、かるた遊びや坊主めくり等のゲーム作成に必要な情報をデータ化し、歌に詠まれた名所の位置情報や古典籍のオープンデータ等とリンクしています。また、テーマ賞のオープンサイエンス賞には京都府立図書館で勤務する司書による職場内学習グループししょまろはんによる「没年調査ソン」が選ばれています。

2018年3月10日には、慶應義塾大学にて開催される「LODチャレンジ2017シンポジウム－つながるオープンデータ最新事例大集合－」で授賞式および受賞作品のデモ展示が行われます。

平成30(2018)年3月23日　文教速報

「古典」オーロラハンター
国文研が市民参加型ワークショップ

国文学研究資料館は、『歴史的典籍NW（ネットワーク）事業』で実施している異分野融合共同研究（典籍防災学）「典籍等の天文・気候情報に基づく減災研究の基盤整備」で、一般から公募した参加者25名とともに古典籍から天文現象に関する情報を探し出す市民参加型ワークショップ『古典』オーロラハンター3」をこのほど開催した。

ワークショップでは、片岡龍峰准教授（国立極地研究所）、野澤 恵准教授（茨城大）、萩野正興専門研究職員（国立天文台太陽観測プロジェクト）、大辻賢一研究員（京都大学院理学研究科附属天文台飛騨天文台）が講演。続いて、日本書記や吾妻鏡等から天文現象を参加者が見つけ出すオーロラハンターの作業が行われ、明るい時間に見えた流星の記録など、多くの天文現象が記録票に書き出された。

これらの天文現象に対して、文系の研究者と理系の研究者から、それぞれの分野の視点に立った解説が行われ、異分野融合共同研究ならではの特長がみられた。

参加者から集められた情報は、共同研究のメンバーによって整理され共同研究のウェブサイト（https://aurora4d.jp/）から公開される予定。

同NW事業は、国際的な共同研究ネットワークの構築に向けて国文研が国内外の大学等と連携して平成26年度から取り組んでいる。

平成30(2018)年3月15日
月刊「望星」



平成30(2018)年4月1日
産経新聞



23 読書 12版 平成30年(2018年)4月1日 日曜日

聞きたい。 郭南燕さん

ザビエルの夢を紡ぐ

近代宣教師たちの日本語文学
(平凡社・4000円+税)

青森・弘前のカトリック教会で2001年、カナダ人神父の説教に「外国人で一番うまく日本語を操れるのは宣教師だ」の〝啓示〟を得た。以来、外国人宣教師が日本語で書いた「日本語文学」を研究してきた。

460年余前、キリスト教を伝来させたフランシスコ・ザビエルは、イエズス会への書簡で日本人を「今までに発見された国民のなかで最高」とし、日本語習得の情熱を燃やした。その

遺産が、明治以降約300人の欧米人宣教師が残した約3千点の著作。本書には、ザビエルと、明治~平成の神父4人が登場する。

知識人を心酔させた言語力

日本の殉教者史をまとめた『日本聖人鮮血遺書』の共著があるヴィリオン(帰国64年)、抜群の日本語力で新聞コラムも執筆したカンドウ(同21年)、戯曲を含め、詩情に満ちた作品のホイヴェルス(同54年)、遠藤周作『おバカさん』のモデルになったネラン(同59年)の4神父だ。

いずれも、「日本人には当たり前のこと、見落としていることを書いたり、表現も日本人が使わないもなく傾倒、心酔した。それが知識人たちの糧にもなり、現代の日本文化建設の力にもなったと思う」

なぜ、宣教師なのか。

「彼らは自分たちのメッセージを伝えるためにも日本人の心、文化を深く知ろうと研究している。その使命感、謙虚な姿勢…やはり聖職者だからでしょうか」

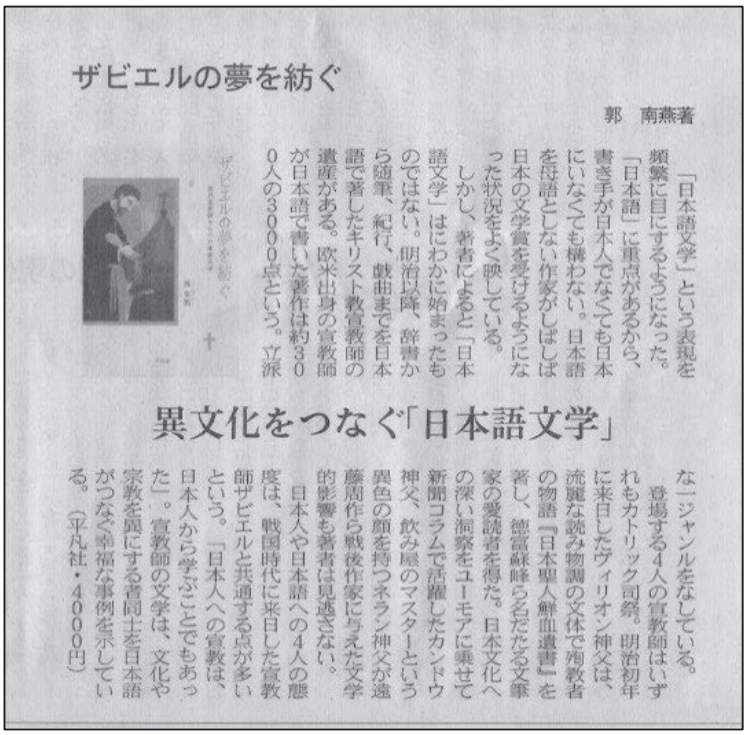
日本語を母語としないのは自身も同じ。宣教師たちの文学に刺激を受け、「私もいつか小説の創作を…」とひそかに決意している。

(三保谷浩輝)

◇

〈かく・なんえん〉日本語文学者。1962年、中国・上海生まれ。復旦大卒。お茶の水女子大などに学び、国際日本文化研究センター准教授など歴任。『志賀直哉で「世界文学」を読み解く』など著書多数。

平成30(2018)年4月14日
日経新聞



ザビエルの夢を紡ぐ

郭 南燕著

「日本語文学」という表現を頻繁に目にするようになった。「日本語」に重点があるから、書き手が日本人でなくても日本にいなくても構わない。日本語を母語としない作家がしばしば日本の文学賞を受けるようになった状況をよく映している。

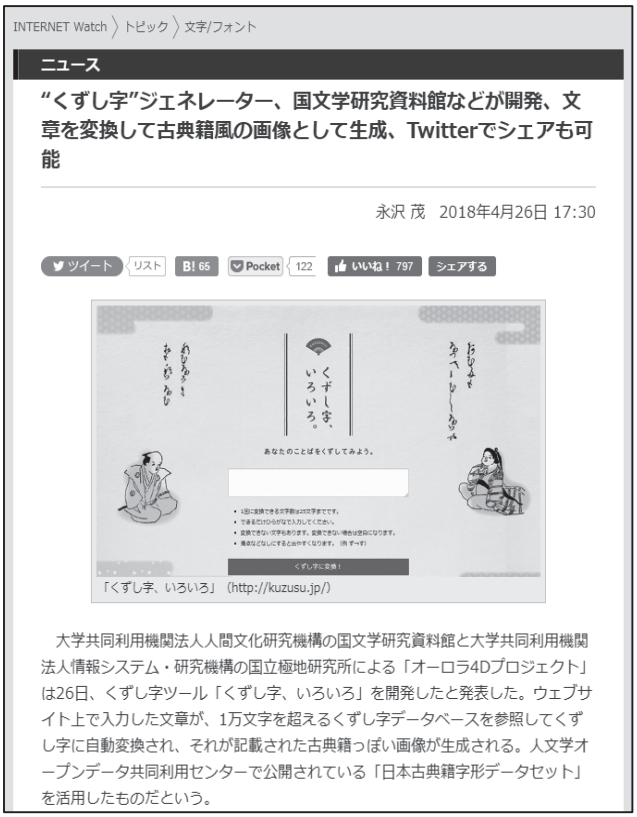
しかし、著者によると「日本語文学」はにわかに始まったものではない。明治以降、辞書から随筆、紀行、戯曲までを日本語で著したキリスト教宣教師の遺産がある。欧米出身の宣教師が日本語で書いた著作は約300人の3000点という。立派な一ジャンルをなしている。

登場する4人の宣教師はいずれもカトリック司祭。明治初年に来日したヴィリオン神父は、流麗な読み物調の文体で殉教者の物語『日本聖人鮮血遺書』を著し、徳富蘇峰ら名だたる文筆家の愛読者を得た。日本文化への深い洞察をユーモアに乗せて新聞コラムで活躍したカンドウ神父、飲み屋のマスターという異色の顔を持つネラン神父が遠藤周作ら戦後作家に与えた文学的影響も著者は見逃さない。

日本人や日本語への4人の態度は、戦国時代に来日した宣教師ザビエルと共通する点が多いという。「日本人への賞教は、日本人から学ぶことでもあった」。宣教師の文学は、文化や宗教を異にする者同士を日本語がつなぐ幸福な事例を示している。(平凡社・4000円)

異文化をつなぐ「日本語文学」

平成30(2018)年4月26日
INTERNET Watch



INTERNET Watch 〉トピック 〉文字/フォント

ニュース

“くずし字”ジェネレーター、国文学研究資料館などが開発、文章を変換して古典籍風の画像として生成、Twitterでシェアも可能

永沢 茂 2018年4月26日 17:30

ツイート リスト B! 65 Pocket 122 いいね! 797 シェアする

「くずし字、いろいろ」(http://kuzusu.jp/)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構の国文学研究資料館と大学共同利用機関法人情報システム・研究機構の国立極地研究所による「オーロラ4Dプロジェクト」は26日、くずし字ツール「くずし字、いろいろ」を開発したと発表した。ウェブサイト上で入力した文章が、1万文字を超えるくずし字データベースを参照してくずし字に自動変換され、それが記載された古典籍っぽい画像が生成される。人文学オープンデータ共同利用センターで公開されている「日本古典籍字形データセット」を活用したものだという。

平成30(2018)年4月27日
読売新聞(朝刊)



13S 多摩2 地域 26

ひらがな入力▼くずし字変換

国文学研究資料館(立川市)と国立極地研究所(同)は26日、パソコンやスマートフォンから、ひらがなを入力すると、古典のくずし字が表示されるソフト「くずし字、いろいろ」を開発したと発表した。古典を楽しく学ぶ教育ツールとして期待される。

極地研の片岡龍峰准教授は古典や歴史書に書かれた内容から、過去のオーロラや黒点の活動を研究している。昔の史料はくずし字で書かれていることから、「楽しく遊びながら、学ぶ方法はないか」と考えた。

片岡准教授は、同資料館が古典作品からくずし字を切り取って、学習用のデータを約40万字作成していたことを知り、同資料館の山本和明・特任教授の協力を得てソフトを完成させた。

片岡准教授は「現代人がくずし字や古典に興味を持つきっかけになってほしい。読める人が増えれば、研究の発展にもつながる」と話している。

国文研と極地研 ソフト開発

「くずし字、いろいろ」の画面。くずし字が記載された古文書風の画面が現れる

平成30(2018)年5月4日
財経新聞

極地研、江戸時代の日記を分析し太陽の自転周期と雷発生の関連性を突き止める

2018年5月4日 21:47 小 中 大

ツイート いいね！ 104 0



画像はイメージです。[写真拡大]

国立極地研究所などの研究グループが、江戸時代の古典籍の天候の記録を分析し、太陽の自転周期（27日）が過去300年、日本における雷の発生に影響を及ぼしている事実を明らかにした。

【こちらも】中国の史書と年輪に見られる中世の太陽活動の痕跡が一致　京大の研究

研究グループに名を連ねているのは、武蔵野美術大学の宮原ひろ子准教授、国立極地研究所・総合研究大学院大学の片岡龍峰准教授、国文学研究資料館の岩橋清美特任准教授ら。

太陽の活動は、地球表面における気候変動に関連している。これ自体はよく知られたことである。もっともよく知られているのは氷河期であろう。

ただ、氷河期などよりもっとミクロなスケールの気象活動にも、太陽は関わっているらしい。それを明らかにしたのが今回の研究である。

研究グループはまず、青森県弘前市に残る『弘前藩庁日記』と、東京都八王子市に残る『石川日記』という江戸時代の文献から雷の記録を抽出し、17世紀後半から19世紀中頃にかけての5～9月の雷活動のリズムを調べた。ちなみに『弘前藩庁日記』には江戸の天気の記録も残されているので、3つの地点について分析することができるわけである。

ところで、太陽は27日周期で自転している。肉眼で見分けられるようなことではないが、月が月齢で姿を変えるのと同様に、太陽の表面も、向けている角度によってその表面の性質は微妙に異なるのであるらしい。具体的には、黒点の数などに違いが現れる。

この太陽黒点の数が太陽の活動の活発さを決める指標となっている。太陽黒点が強く表れるとき、雷の起こる頻度が弘前や八王子や江戸において変化する、ということが、相関係数を用いた統計的分析によって今回明らかになったのである。

また、北海道ではこのような太陽周期と雷の発生率の関係はあまり数値として現れないものであるらしい。一体なぜなのか、ということになると難しい。難しいというか、太陽の活動がなぜ地表における雷の発生に関わるのかのメカニズムは判明しておらず、それが今後の研究課題であるという。

なお研究の詳細は、Annales Geophysicaeにオンライン掲載されている。（藤沢文太）

関連キーワード 北海道、東京都、青森県

平成30(2018)年5月11日
サイエンスポータル
(5月14日マイナビニュースへも配信)

Science Portal
サイエンスポータル

ニュース・速報・レビュー（ニュース速報）

太陽の自転が日本の雷に影響を与えている

掲載日：2018年5月11日

地球の空には風が吹き、海には海流が流れている。そのエネルギー源は太陽からの光だ。この光が熱に変わり、複雑なしくみで風や海流を生む。地球は太陽から熱を受け、温まった自分自身が、今度は逆に宇宙へ熱を放出する。その熱の出入りのバランスで、地球の気温は決まっている。地球の気候は、太陽と関係がある。周期的に訪れる氷期、間氷期も、太陽と地球の位置関係の変化に関係があるらしい。

長い期間の気象の平均像である「気候」には、こうして太陽が影響を与えているとしても、では、降雨や雪の量といった日々の気象に対して、太陽の活動はどう関係しているのか。じつは、この点については、まだあまり研究が進んでいない。

たとえば、太陽の自転が地球の気象に与える影響。太陽は約27日で、こまのように1回転している。これが太陽の自転だ。太陽の表面は均質ではないから、地球に届く紫外線などもこの周期で増減する。武蔵野美術大学の宮原ひろ子(みやはら ひろこ)准教授(宇宙気候学)らの研究グループが、江戸時代の記録から、日本の雷もこの「27日周期」の影響を受けていることを論文にまとめて発表した。

宮原さんらが使ったのは、青森県弘前市に残る「弘前藩庁日記」と東京都八王子市の「石川日記」。弘前藩庁日記には、現在の東京都心にあたる江戸の天気も記録されている。これらの記録から、5～9月に発生した雷を調べた。

その結果、太陽活動が活発な時期に、八王子と江戸で、雷の発生数が約27日の周期で増減を繰り返していることがわかった。太陽活動が不活発な時期には、この増減は現れなかった。約27日の周期をもつ他の自然現象としては、月の満ち欠け、つまり月が地球を回る公転周期も考えられるが、宮原さんによると、太陽活動の活発な時期、不活発な時期で雷に「27日周期」が現れたり現れなかったりしたことが、太陽の自転周期と雷発生数との結びつきを示しているという。弘前での記録には、このような傾向はあまりみられなかった。

宮原さんによると、1989～2014年の夏季のデータでも、九州から本州の中西部にかけて、雷の発生数に「27日周期」がよくみられている。これだけでなく、江戸時代の150年にわたる長期データを分析に使ったことで、太陽と雷の関係を示すことができた。太陽の自転が雷の発生数に影響を与える理由については、今後の検討課題だという。

太陽の変動を扱う研究分野は、太陽物理学や宇宙地球物理学など。一方、地球の雷や雨は気象学の分野だ。宮原さんらの今回の研究は、その学際領域といえる。最近は国も学際研究を奨励しているが、現実は、なかなか厳しい。米国で研究を続けている著名な日本人気象学者が、「私が雨の話をすると、米国では当たり前に聞いてくれるが、日本では『なんで気象学者が専門外の海に口を出すんだ』という妙な反応に出合うことがある」とかつて話していた。また、学際的な新しい分野だと、論文を掲載できる専門誌が限られてしまう場合もある。いまもおそらく、学際研究を阻む壁はいくつもある。その意味からも、この分野の今後に期待したい。

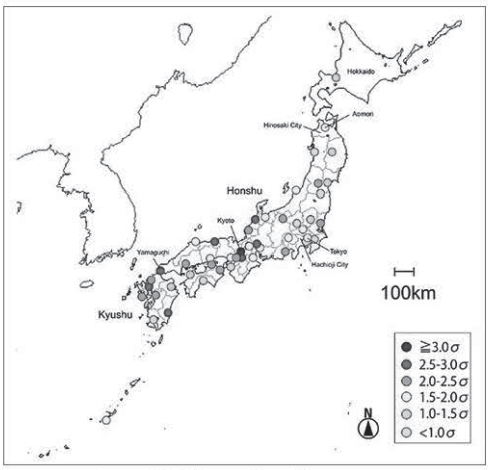


図 1989～2014年の雷発生数がどれくらい「27日周期」になっているかを示している。青→赤となるほど、「27日周期」である確実性が高い。九州から本州中西部にかけて、確実性が高くなっている。(宮原さんら研究グループ提供)

平成30(2018)年5月15日
日刊工業新聞

太陽の自転周期 雷の発生に影響
武蔵野美大など解明

武蔵野美術大学や国立極地研究所、国文学研究資料館などの研究グループは、江戸時代の日々の天気の記録を分析し、太陽の27日の自転周期が過去数百年にわたり日本での雷の発生に影響していたことを明らかにした。太陽の活動と雷の発生関係を調べることで、気候予測の精度向上や長期的な気象予測につながる可能性がある。

太陽活動の活発さを示す太陽黒点数、雷が発生してから次の雷が発生するまでの日数などの関係を調べた。

成果は欧州地球物理学会誌電子版に掲載された。

平成30(2018)年5月12日
朝日新聞

母語話者にない「最上のわざ」

ザビエルの夢を紡ぐ　近代宣教師たちの日本語文学

郭 南燕〈著〉

平凡社　4320円



かく・なんえん　62年、中国・上海生まれ。日本語文学者。著書に『志賀直哉で「世界文学」を読み解く』など。

四百年以上前にザビエルの蒔いた種が、明治初期に来日したヴィリオン神父の時代になって芽を出し、昭和初期にカンドウ神父にいたって花を咲かせ、その後ホイヴェルス神父の時代には立派に根を張った。二〇一一年に亡くなった「酒場神父」ネラン神父は、型破りな発想と言語表現が多くの人たちに影響を与え続けている。

文学とはなにも小説だけを指すものではない。たとえば寺社などの縁起（由来）に関する資料などは、これまで日本文学研究のなかでは「周辺」的資料とされてきたが、日本語と日本文学の輪郭をつかむためには欠かせないものと認識されはじめている。同様に、日本語非母語話者による日本語、たとえば外国人宣教師たちによる日本語もまた周辺的な資料と思われてきたが、本書はれっきとした文学として価値を見出す。

近現代日本で、宣教師たちが出版した書籍はおよそ三〇〇〇点もあるそうだ。さらに作品として残されたものだけではなく、日本語で書かれた手紙、日本語で話された講演といったものも貴重な資料になる。そこで本書は冒頭に紹介した、各時代を代表する宣教師たちの足跡をたどりながら、彼らの残した日本語表現を紹介し、さらにそれが後年多くの日本人作家に影響を与えた「日本語文学」であることを例証していく。

ホイヴェルスの「年をとるすべ」に収められた「この世の最上のわざは何？／楽しい心で年をとり、／働きたいけれども休み、／しゃべりたいけれども黙り、／失望しそうなときに希望し、／従順に、平静に、おのれの十字架をになう。」という一節は、こうした日本文学の蓄積の上にある。「この世の最上のわざ」という表現は、いかにも母語話者にはない発想で「最高の技」でも「生きる知恵」でもないところもいい。

潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産登録される見込みだ。彼らの遺した日本語にも注目されたい。

評・サンキュータツオ　学者芸人

平成30(2018)年5月20日
読売新聞

（第3種郵便物認可）　2018年(平成30年)5月20日（日曜日）

ザビエルの夢を紡ぐ　近代宣教師たちの日本語文学

郭南燕著　平凡社　4000円

日本人の魂への郷愁

評・鈴木幸一（インターネットイニシアティブ会長CEO）

キリスト教の世界宣教を目指して結成したイエズス会のフランシスコ・ザビエルは、1549年に鹿児島に上陸、日本における宣教の先駆者となった。彼は「日本人より優れている人びとは、異教徒のあいだでは見つけられない」と語り、「もし私たちが日本語を話すことができれば、多くの人びとが信者になることは疑いありません」と異言語克服に情熱を傾けた。

その夢は17世紀初頭の禁教令で途絶えたかに見えたが、キリシタン禁制の高札が撤廃された1873年以後、再び多くの宣教師が来日し、3000点を超える日本語の書物を残した。本書は明治、大正、昭和の時代の日本文化に大きな影響を与えた4人の宣教師（A・ヴィリオン、S・カンドウ、H・ホイヴェルス、G・ネラン）の生涯を素描し、日本語で書かれた彼らの著作を紹介したものである。

「帰る位なら来はしませんよ、私は日本の仏になるんです」、日本で没したヴィリオン神父の『日本聖人鮮血遺書』は、もっとも広く読まれたキリシタン殉教史である。作家の獅子文六が日本語を教わったというほど見事な文章を書いたカンドウ神父は、「臨終の床にあって神に感謝し、喜びをのべ、従容として死んで行く人びとであります。……自分はこのような美しい魂を見出したこの日本を愛せずにはいられない」と、日本人の美しい魂に惹かれていた。『細川ガラシア夫人』を書いたホイヴェルス神父、新宿歌舞伎町で喜劇スナックを開き、遠藤周作の小説『おバカさん』のモデルとして知られるネラン神父。彼らはまさに、ザビエルの夢を数世紀もの時の隔たりを経て紡いだ存在なのだ。

中国出身で日本語文学を研究する著者の狙いは、「卓越した宣教師」のまなざしを通して、失われた日本人の魂への共感と郷愁を呼び起こすことだったのかも知れない。読み返しているうちに、現代日本の喪失感を、痛切に感じさせられた書である。



◇かく・なんえん＝1962年中国・上海生まれ。2008～17年国際日本文化研究センター准教授。

平成30(2018)年7月5日
読売新聞（朝刊）

雷の発生増 27日周期

武蔵美大や極地研チーム

古文書などで分析

「太陽の自転と同調」



太陽活動と雷の発生の関連を研究した宮原准教授（右）と片岡准教授

武蔵野美術大（小平市）などの研究チームが、八王子市に残る江戸時代の文献などを使って雷の発生日を調べた結果、発生頻度が太陽の自転周期と同調して高まっていたことが明らかになったと発表した。研究チームは、「太陽活動が気象に様々な影響を与えている」ことを示す成果」としている。欧州地球物理学会が発行する学術誌の電子版に論文が掲載された。

■200年分調査

同大の宮原ひろ子准教授（宇宙気候学）や国立極地研究所（立川市）の片岡龍峰准教授（宇宙空間物理学）らの研究チームは、5～9月に雷が発生した日について、17世紀後半から約200年分を調べた。江戸時代の発生日については、現在の八王子市の天候を毎日記した「石川日記」と、青森県弘前市に伝わり、弘前市と東京都心の天候を記録した「弘前藩庁日記」の記述から特定した。

この結果、27日の周期で雷の発生が増加していることが判明したという。これは太陽が自転する周期と一致し、1989～2015年の気象庁の記録でも、同様の周期性が確認できた。

また、太陽活動が活発化するほど、27日ごとに雷の発生が増加する傾向が顕著になっていた。太陽は11年ごとに黒点が増加し、表面の爆発現象である太陽フレアが発生するなど、活動が活発になることで知られている。研究チームは「雷の周期と太陽の活動との関係が強く示唆される」と結論づけた。

宮原准教授は「太陽活動の影響は、11年周期や100年単位の変動など、長期的なものは知られていたが、これほど短期間の周期で日々の気象に強く影響していることは、今回初めてわかった」と指摘する。

太陽活動が地球に影響を与えるメカニズムは分かっていないが、研究チームは「解明されると、気象予測のさらなる精度向上の手がかりになる」と期待している。

■文理融合の成果

今回の研究では、国文学研究資料館（立川市）の岩橋清美特任准教授（日本近世史）らが古文献から雷の記録を読み解いた。石川日記では、雷について「十一日晴天、此夜雷（この日の夜に雷あり）」「三日曇天昼時大雷大雨、昼時に大きな雷と大雨あり）」などの記述があったことから、発生日の特定を進めた。

一方で、「『白雨』は夕立、にわか雨、雷などの意味がある。こうした記述の微妙な違いから『雷』と分類できるものを拾うことに腐心した」という。

科学の分野に提供するデータとして、精度に細心の注意を払ったという岩橋特任准教授。「今回の研究は文理融合の取り組みの一歩」と意義を強調し、「古典籍が環境史の解明にも役立てば」と期待する。



八王子市に残る「石川日記」（市郷土資料館提供）

「八王子隕石」も記述

石川日記

研究に用いられた石川日記は正式名を「諸色覚日記」といい、八王子市の旧家・石川家が、1720年から日記の形式で記し続けてきた。

農業の記録を中心に、天気のほか、日々のできごとも記されている。1817年に落下した「八王子隕石」なども触れられている。記述が研究に用いられるなど、歴史的価値の高い記録として市の有形文化財に指定されている。

弘前藩庁日記は弘前藩の政務記録で、地元と江戸にあった藩邸での天気が記されている。

平成30(2018)年7月5日
毎日新聞（朝刊）



科学の森
kagaku no mori

自然現象 古文書で解読

気候変動や災害の研究に生かす

昔の人々が書き残した古文書や絵図などから当時の自然現象を最新の科学で読み解き、気候変動や災害などの研究に生かす動きが広がっている。文理の壁を越えた研究者の協力で、現代の私たちの生活にも役立つ知識や経験が明らかになってきた。【阿部周一、渡辺諒】

●降水量の変化推定

総合地球環境学研究所（京都市）の中塚武教授らは、遺跡から出土した古い木材から得られる年輪の幅を組み合わせ、降水量や気温などの変動を調べている。まず保存状態の良い木材を見つけ、そこに含まれる酒席10年近くさかのぼれる長所がある一方、日単位の細かな情報は読み取れない。

そこで着目したのが、古記などに残る古文書だ。全国各地で集められた日記などから天気、文書で補おうというわけだ。実際、18～19世紀の木曽ヒノキの酸素同位体比の推移を調べた結果、同じ時期の日記と一致し、1989～2015年の気象庁の記録でも、同様の周期性が確認できた。

また、太陽活動が活発化するほど、27日ごとに雷の発生が増加する傾向が顕著になっていた。太陽は11年ごとに黒点が増加し、表面の爆発現象である太陽フレアが発生するなど、活動が活発になることで知られている。研究チームは「雷の周期と太陽の活動との関係が強く示唆される」と結論づけた。

宮原准教授は「太陽活動の影響は、11年周期や100年単位の変動など、長期的なものは知られていたが、これほど短期間の周期で日々の気象に強く影響していることは、今回初めてわかった」と指摘する。

太陽活動が地球に影響を与えるメカニズムは分かっていないが、研究チームは「解明されると、気象予測のさらなる精度向上の手がかりになる」と期待している。

■文理融合の成果

今回の研究では、国文学研究資料館（立川市）の岩橋清美特任准教授（日本近世史）らが古文献から雷の記録を読み解いた。石川日記では、雷について「十一日晴天、此夜雷（この日の夜に雷あり）」「三日曇天昼時大雷大雨、昼時に大きな雷と大雨あり）」などの記述があったことから、発生日の特定を進めた。

一方で、「『白雨』は夕立、にわか雨、雷などの意味がある。こうした記述の微妙な違いから『雷』と分類できるものを拾うことに腐心した」という。

科学の分野に提供するデータとして、精度に細心の注意を払ったという岩橋特任准教授。「今回の研究は文理融合の取り組みの一歩」と意義を強調し、「古典籍が環境史の解明にも役立てば」と期待する。

平成30(2018)年7月14日
東奥日報（朝刊）

弘高ねぷたに〝援軍〟

国文研・木越准教授 元絵の写し寄贈

「古典学び、新たな創造を」



急ピッチでねぷた制作を進める弘高生たち＝13日午前



弘前の街にねぷたの季節到来を告げる、弘前高校の伝統行事「弘高ねぷた」。生徒たちの意気に感じ、東京の古典籍の研究者が一役買おうと、ねぷたの元絵となっている江戸時代の小説の写しをクラス分、同校に寄贈した。生徒たちは感謝を胸に、18日の運行に向けて制作作業の真っ最中だ。（外崎英明）

資料を寄贈したのは、国文学研究資料館（東京都立川市）の木越俊介准教授＝顔写真。江戸時代後期の絵入りの小説本の研究をしていた木越さんは偶然、弘高のホームページに行き当たり、弘高ねぷたのことを知ったという。共に、津軽の古典籍のデジタルアーカイブ「津軽デジタル風土記」の構築に当たっている、元弘高校長で弘大大学院教育学研究科の瀧本壽史教授に何かおもしろい」と考えたという。当初は「生徒たちと一緒に有の熱気に感銘を受けた」

木越さんは6月下旬、弘前での講演に招かれた際、瀧本さんと弘高に立ち寄り、曲亭馬琴作、葛飾北斎画「新編水滸画伝」の画像をプリントアウトしたつづりを手渡した。九紋龍史進、花和尚魯智深など、ねぷた絵でおなじみのキャラクターが生き生きと描かれている。瀧本さんも、北斎などを手絵に描いたねぷた絵の巨匠・竹森節堂の草稿をまとめた、弘前市立博物館発行の冊子を全クラス分寄贈した。

木越さんは「伝統的な創意が、江戸時代以降、どのように描かれてきたかを学ぶと、古典が面白くなるし、逆に新たな創造も生まれると思う」と期待を寄せる。

弘高生徒自治会でねぷたを担当する石村悠さん（3年）は「ねぷた絵の原型でもあり、歴史ある絵と思う。特徴を学び、迫力あるねぷた作りに活用できれば」と話していた。

弘高ねぷたは18日午後6時半に弘前市新寺町の学校を出発し、一番町、土手町などを経由して学校に戻るコースを、全クラスの18台が運行する。例年通り、運行後の有償譲渡先を募集している。問い合わせは同校（電話0172-36-2511）へ。



木越さんが寄贈した「新編水滸画伝」の写し

平成30(2018)年7月17日
EurekAlert!

PUBLIC RELEASE: 17-JUL-2018

How does the sun's rotational cycle influence lightning activity on earth?

Researchers use records from the 1700s to find the answer

RESEARCH ORGANIZATION OF INFORMATION AND SYSTEMS

A collaborative research team in Japan has taken the first steps to understanding how the sun's rotational cycle influences lightning activity. They found answers in an unusual source--diaries dating back to the 1700s.



IMAGE: THIS IS THE ORIGINAL COPY OF THE DIARY OF HIROSAKI CLAN GOVERNMENT OFFICE PRESERVED AT THE HIROSAKI CITY LIBRARY. view more >

CREDIT: TAKEHIKO MIKAMI

The research was published in the *Annales Geophysicae*, the open access peer-reviewed solar-terrestrial and planetary sciences journal of the European Geosciences Union on April 18th, 2018.

The team includes faculty members from several universities in Japan, as well as Ryuho Kataoka, an associate professor of the National Institute of Polar Research (NIPR). NIPR supports scientific research and observation of the polar regions and is associated with the Research Organization of Information and Systems (ROIS) in Japan.

"It is well known that long-term--centennial to millennial-scale--variations of solar activity influences terrestrial climate," said Hiroko Miyahara, first author on the paper, and an associate professor of Humanities and Sciences/Museum Careers at Musashino Art University in Tokyo, Japan. "However, it is not well established whether the sun influences the daily or monthly weather."

Miyahara points to the 27-day solar rotational period, which is the average time it takes for the sun to rotate on its axis. Since the sun consists of plasma, the equator rotates quicker than its poles. When areas of high activity, such as sunspots, face Earth, there's an increase in ultraviolet rays and decrease in energetic particles showering the atmosphere.

Miyahara and her team set out to clarify if the 27-day cycle was reflected in meteorological phenomena, such as lightning activity on Earth. They turned to a set of diaries kept continuously for more than 150 years. A farm family in Hachioji (currently located in western part of Tokyo)

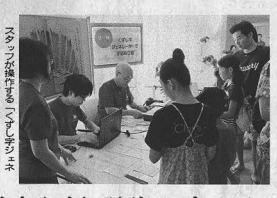
平成30(2018)年8月18日
日本経済新聞

文化

市民もアプリで 古文書読み解き

科学者と協力 膨大な量解析

災害記録 現代に生かす



スタッフが操作する「くずし字ジェネレーター」で楽しむ子どもたち（4日、東京都立川市の国文学研究資料館）

全国に散在する古文書は、難解なくずし字がネックとなり、「国文学や歴史学の研究者以外にあまり活用されてこなかった。近年、手軽にくずし字を学べるウェブアプリが登場、読解力のある市民が育っている。研究者と協力して蔵されている古文書に取り組み、成果を上げる例も出てきた。

くずし字普及へ

今月4日、国立極地研究所（東京都立川市）の一般公開が行われた。南極探査や北極の研究で知られる施設だが、人が立ちいりができたのは3階に設けられた「くずし字ジェネレーター」。パソコン画面に文章を入力すると、1万字を超すデータベースから瞬時にくずし字に変換する装置だ。

極地研で オーロラを研究する片岡龍峰准教授が、隣接する国文学研究資料館と共同開発した。今年4月「くずし字、いろいろ」と題してソフトを ネット上に公開したところ、3月で約15万件の利用があったという。

極地研がくずし字の普及に取り組むのは一数百年、数千年に一度の自然現象を調べるには、古文書が有力な手がかりになるためだ。極地研は昨年、国文研の協力を得て、藤原定家の日記「明月記」のくずし字原文を読み、12～04年に京都で観測されたオーロラを詳細に調べた。その成果は国際的に高く評価された。

研究者だけでは手が回らない膨大な量の古文書の解読に、一般市民の協力を生かした研究者も出てきた。

地震や災害の古文書を見ながら、解読できた文字を所定の位置に打ち込むだけ。ほかの人の間違った入力も訂正できる。

17年1月に開始して1年半で約430万字の入力が加わり、約520万字の入力になった。翻刻の対象とした東京大学地震研究所の史料42点のうち、98％にあたる414点の作業を終えた。

古文書は独特の書き癖や変体仮名、見極めなどが難しく、単純にくずし字を翻刻すれば読めるわけではない。それで京大でプロジェクトを立ち上げた東北地震の古文書は「テキスト分析で詳細に研究できるだけでなく、データの見せ方を工夫することで防災の啓発に役立つ」と期待する。

今後は翻刻史料の範囲を広げるほか、水害などを示した石碑を撮影して解読する「みんなで拓本」を始める予定だ。

欠けた文字も

一部が欠けたような不完全な文字を簡単やすく

平成30(2018)年8月28日
日刊工業新聞

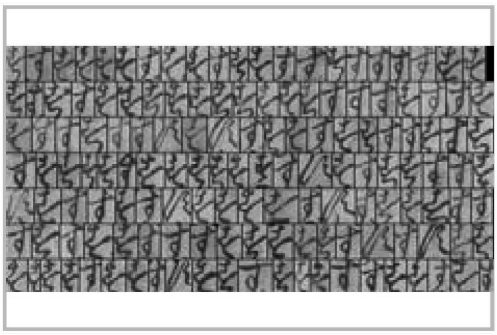
[科学技術・大学]

情報・システム研究機構　アルゴリズム　ディープラーニング　人文学オープンデータ共同利用センター　国文学研究資料館

情報・システム研、「くずし字」ＡＩで解読　来年コンテストも

ツイート　シェア 0　LINEで送る

(2018/8/28 05:00)



江戸時代の『雨月物語』中の「す」の字形データセットの一部。地域や書き手ごとに字体が大きく異なる（国文学研究資料館ほか所蔵、人文学オープンデータ共同利用センター加工。同センター提供）

情報・システム研究機構は、江戸時代以前の古典で使われる「くずし字」について、人工知能（ＡＩ）による文字認識システムを開発する。２０１９年に国際コンテストを開き、ソフトウエア開発につなげる。これに先立ち、機械学習に必要なくずし字の字形データ１００万文字を１８年度中に世界に公開する。古典解読を加速し、古典を活用した「歴史ビッグデータ」の情報共有基盤の構築を目指す。

ＡＩによる文字認識システムを開発するのは、同研究機関の人文学オープンデータ共同利用センター。

古典から得られる情報は文学や歴史学に加え、地震や台風などの災害研究、経済学、疫病学など幅広い分野で求められている。だが解読できる人は限られ、十分に活用できていない。

古典のくずし字は、地域や書き手ごとに字体が大きく異なる。また、木版印刷の古典はレイアウトが自由で、現行の光学式文字読み取り装置（ＯＣＲ）技術ではどこまでが１文字か認識できず、文書全体を自動解読することはできない。

コンテストを通じ、研究者の連携や知識共有を図り、新たなアルゴリズムを開発する。ディープラーニング（深層学習）をベースとしたシステムを想定し、まずは複数文字の自動解析を目指す。

コンテストは、文書解析と認識に関する国際会議（ＩＣＤＡＲ）で実施する。各国の大学や研究機関から参加を受け付ける。参加者は１９年初旬から４カ月程度、課題に取り組む。審査結果は、１９年秋に豪シドニーで開催予定の会議で発表する。

同センターは１７年に国内で、低難度の解読コンテストを開き、ベトナムの参加者が優勝した。日本語が読める必要はなく、国際学会などで反響が大きかったため、海外に展開することを決めた。

同センターは、国文学研究資料館とともに「日本古典籍字形データセット」の構築を進めている。

古典の画像から１文字ずつ字形を切り取り、その座標情報などをまとめ、現在約４０００字種、４０万文字を公開している。

(2018/8/28 05:00)

平成31(2019)年1月22日
大分合同新聞（朝刊）

東西南北
2019.1.22

語源は夜明けをもたらすローマ神話の女神。北南の極地で夜、空が緑や赤、青色に光る現象を、西欧では17世紀ごろから「オーロラ」と呼び始めた。その神秘性ゆえに女神の名を借りたのだろう▼日本にも鎌倉時代の1204年にオーロラの観察記録が残る。歌人で小倉百人一首の選者として知られる藤原定家が残した日記「明月記」。建仁4年正月19日に「赤気」が現れ「筋が遠くに続き、火事の光のようだった…。恐るべし」と記した▼現代人は、オーロラが太陽から噴き出た電荷を持つ粒子や、地球の磁気（地磁気）が関係する自然現象だと知っている。この時の赤気がオーロラで、太陽活動が激しくなった影響で定家が暮らした京都でも見られたことを、国立極地研究所や国文学研究資料館などの研究者グループが一昨年、明らかにした▼研究では、国内外の古典の比較や自然科学の手法という異分野が連携。定家の時代は低緯度の日本でも、オーロラが観察しやすい地磁気の状態だったことも解明した▼平成最後の正月、北緯60度のカナダ・イエローナイフでオーロラを見た。天空に漂う緑色の帯はまさに神秘的だったが、定家のような漠然とした「恐れ」は感じなかった▼現代の研究者はオーロラに関連する現実的なリスクを恐れ、知見を深めている。激しいオーロラを伴う磁気嵐には、人工衛星に悪影響を及ぼす「宇宙災害」の恐れがあるという。



平成31(2019)年2月19日
茨城新聞（朝刊）

文理融合で水害研究を

茨城大でシンポ

「水害対応の過去～現在～未来」をテーマにしたシンポジウムが15日、水戸市文京の茨城大であり、歴史資料を活用した減災研究について、専門家が「文系と理系の文理融合で進めるべきだ」と訴えた。茨城大地球変動適応科学研究機関と人間文化研究機構は2017年5月から3カ年計画で異分野融合型の共同研究を進めている。



シンポジウム「水害対応の過去～現在～未来」で研究成果を報告する研究者＝水戸市文京

専門家 防災・減災へ史料活用

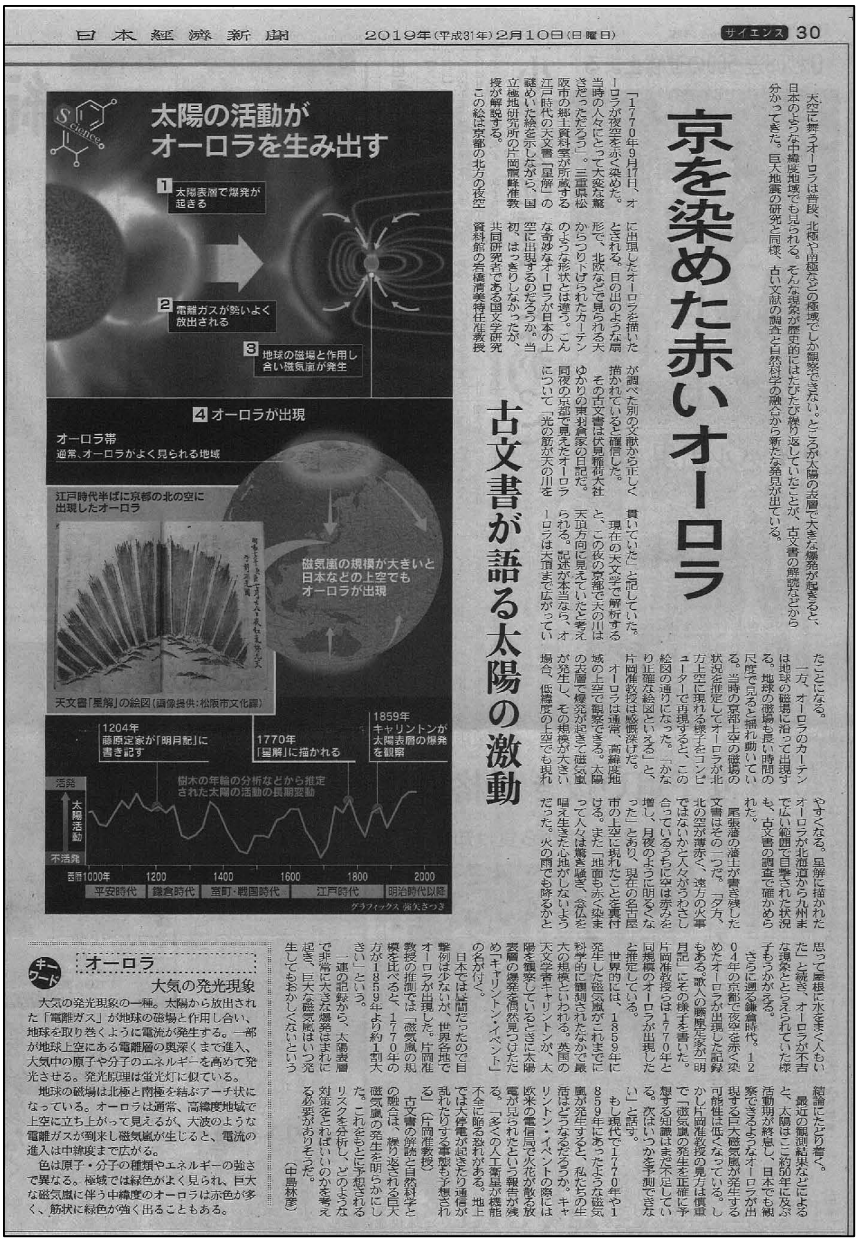
帝京大の平野淳平准教授は「江戸時代後半の気候変動」をテーマに基調講演し、「全国各地に残る江戸時代の日記を調べ気圧配置パターンを推定している」と研究内容を紹介。「1828年に九州に上陸した台風は5個あった可能性がある」と指摘し、正確に復元・分析することが課題とした。

56年の安政江戸台風について報告した同機構の渡辺浩一教授は「風速40メートル以上の強さがあり、高潮は2・61メートル以上あった。水戸藩の報告書には農村部で3801戸が全壊したと記載がある。東北や新潟にも被害があり、東日本台風と呼ぶべきだ」と提唱した。55年に安政の大地震、58年にコレラがあり、「安政期連続災害と捉え、江戸社会に与えた影響を分析することが課題」と述べた。

常総水害で発見した古文書について解説した茨城大の添田仁准教授は「堤の修復を巡り、三坂新田村が三坂村を相手取り、勘定奉行所に訴えた記録があった」と紹介。「高さ1・5メートルで惣囲堤と呼ばれ、今でも存在を確認できた」と話した。「古文書を通して、水と共に生きてきた記憶を取り戻し、防災・減災教育に活用したい」と期待を込めた。

（清水英彦）

平成31(2019)年2月10日
日本経済新聞



日本経済新聞　2019年(平成31年)2月10日(日曜日)　サイエンス 30

京を染めた赤いオーロラ

古文書が語る太陽の激動

大空に舞うオーロラは普段、北極や南極などの極域でしか観察できない。ところが太陽の活動で大きな爆発が起きると、日本のような中緯度地域でも見られる。そんな現象が歴史的にはたびたび繰り返していたことが、古文書の解読などから分かってきた。巨大地震の研究と同様、古い文献の調査と自然科学の観点から新たな発見が出ている。

「1770年9月17日、オーロラが空を赤く染めた。当時の人にとって大変な驚きだったろう」。三重県松阪市の郷土資料室が所蔵する江戸時代の天文書「星解」の謎めいた絵を示しながら、国立極地研究所の片岡龍峰准教授が解説する。

この絵は京都の北方の夜空に出現したオーロラを描いたとされる。日の出のような扇形で、北欧などで見られる大きく広がったカーテンからつり下げられたカーテンのような形状とは違う。こんな奇妙なオーロラが日本の上空に出現するのだろうか。当初、はっきりしなかったが、共同研究者である国文学研究資料館の香構清美特任准教授が調べた別の文献から正しいことが裏付けられた。

その古文書は伏見稲荷大社（京都市）の神官、荒木田経雅が書いていた日記だ。現在の天文学で解析すると、この夜京都で「天の川は描かれている」と記していた。

片岡准教授は驚いた。オーロラは通常、高緯度地域の上空で観察できる。太陽の大気層で爆発が起きて磁気嵐が発生し、その規模が大きいほど、オーロラが出現する低緯度の上空でも現れやすくなる。最近では2003年10月に米国で大規模な磁気嵐が観測され、オーロラが北海道から九州まで広く観測された記録が残る。

二万、オーロラのカーテンは地球の磁場に沿って出現する。地球の磁場も長い時間の尺度で見ると揺れ動いている。当時の京都上空の磁場の状況を推定してオーロラが北方上空に現れる様子をコンピューターで再現すると、この絵図の通りになった。「かなり精密な絵図といえる」と、片岡准教授は感嘆の声を上げた。

オーロラは通常、高緯度地域の上空で観察できる。太陽の大気層で爆発が起きて磁気嵐が発生し、その規模が大きいほど、オーロラが出現する低緯度の上空でも現れやすくなる。最近では2003年10月に米国で大規模な磁気嵐が観測され、オーロラが北海道から九州まで広く観測された記録が残る。地球の磁場も長い時間の尺度で見ると揺れ動いている。当時の京都上空の磁場の状況を推定してオーロラが北方上空に現れる様子をコンピューターで再現すると、この絵図の通りになった。「かなり精密な絵図といえる」と、片岡准教授は感嘆の声を上げた。

オーロラは通常、高緯度地域の上空で観察できる。太陽の大気層で爆発が起きて磁気嵐が発生し、その規模が大きいほど、オーロラが出現する低緯度の上空でも現れやすくなる。最近では2003年10月に米国で大規模な磁気嵐が観測され、オーロラが北海道から九州まで広く観測された記録が残る。地球の磁場も長い時間の尺度で見ると揺れ動いている。当時の京都上空の磁場の状況を推定してオーロラが北方上空に現れる様子をコンピューターで再現すると、この絵図の通りになった。「かなり精密な絵図といえる」と、片岡准教授は感嘆の声を上げた。

屏風絵の端上が書き残した文書にその一つだ。「ある方、北の空が薄赤く、遠方の火事ではないかと人々がうわさし合っているうちに空は赤みを増し、月夜のように明るくなった」とあり、現在の名古屋市の上空に現れたことを裏付ける。また「地面も赤く染まっている」と人が驚き感じ、「会仏を唱え生きた心地がしない」ようだった。火の問でも昨かなかったことになる。

一方、オーロラは普段、北極や南極などの極域でしか観察できない。ところが太陽の活動で大きな爆発が起きると、日本のような中緯度地域でも見られる。そんな現象が歴史的にはたびたび繰り返していたことが、古文書の解読などから分かってきた。巨大地震の研究と同様、古い文献の調査と自然科学の観点から新たな発見が出ている。

「1770年9月17日、オーロラが空を赤く染めた。当時の人にとって大変な驚きだったろう」。三重県松阪市の郷土資料室が所蔵する江戸時代の天文書「星解」の謎めいた絵を示しながら、国立極地研究所の片岡龍峰准教授が解説する。

この絵は京都の北方の夜空に出現したオーロラを描いたとされる。日の出のような扇形で、北欧などで見られる大きく広がったカーテンからつり下げられたカーテンのような形状とは違う。こんな奇妙なオーロラが日本の上空に出現するのだろうか。当初、はっきりしなかったが、共同研究者である国文学研究資料館の香構清美特任准教授が調べた別の文献から正しいことが裏付けられた。

その古文書は伏見稲荷大社（京都市）の神官、荒木田経雅が書いていた日記だ。現在の天文学で解析すると、この夜京都で「天の川は描かれている」と記していた。

片岡准教授は驚いた。オーロラは通常、高緯度地域の上空で観察できる。太陽の大気層で爆発が起きて磁気嵐が発生し、その規模が大きいほど、オーロラが出現する低緯度の上空でも現れやすくなる。最近では2003年10月に米国で大規模な磁気嵐が観測され、オーロラが北海道から九州まで広く観測された記録が残る。地球の磁場も長い時間の尺度で見ると揺れ動いている。当時の京都上空の磁場の状況を推定してオーロラが北方上空に現れる様子をコンピューターで再現すると、この絵図の通りになった。「かなり精密な絵図といえる」と、片岡准教授は感嘆の声を上げた。

屏風絵の端上が書き残した文書にその一つだ。「ある方、北の空が薄赤く、遠方の火事ではないかと人々がうわさし合っているうちに空は赤みを増し、月夜のように明るくなった」とあり、現在の名古屋市の上空に現れたことを裏付ける。また「地面も赤く染まっている」と人が驚き感じ、「会仏を唱え生きた心地がしない」ようだった。火の問でも昨かなかった。

キーワード　オーロラ

大気の発光現象

大気の発光現象の一種。太陽から放出された「電離ガス」が地球の磁場と作用し合い、地球を取り巻くように電流が発生する。一部が地球上空にある電離層の奥深くまで進入、大気中の原子や分子のエネルギーを高めて発光させる。発光原理は蛍光灯に似ている。

地球の磁場は北極と南極を結ぶアーチ状になっている。オーロラは通常、高緯度地域で上空に立ち上がって見えるが、大波のような電離ガスが到来し磁気嵐が生じると、電流の進入は中緯度まで広がる。

色は原子・分子の種類やエネルギーの強さで異なる。極域では緑色がよく見られ、巨大な磁気嵐に伴う中緯度のオーロラは赤色が多く、筋状に緑色が強く出ることもある。

思って家根に水をまくんもいた」と続き、オーロラが不吉な現象ととらえられていた様子もうかがえる。

さらに遡る鎌倉時代、1204年の京都で夜空に赤く染まるオーロラが出現した記録がある。歌人の藤原定家が「明月記」にその様子を書いた。翌年の知識には未だ足りていない。

世界的には、1859年に発生した磁気嵐がこれまでに科学的に観測された最大のものとされる。英国の天文学者キャリントン氏が、太陽の黒点の観測中に太陽面で最初に発見したことから「キャリントン・イベント」の名が付く。

日本では記録にこだわって目撃例はないが、世界各地でオーロラが出現した。片岡准教授の推定では、「磁気嵐の規模を比べると、1770年の方が1859年より約1割大きい」という。

一連の記録から、太陽表層で非常に大きな爆発はまれに起き、巨大な磁気嵐はいつ発生してもおかしくないという。

世界的には、1859年に発生した磁気嵐がこれまでに科学的に観測された最大のものとされる。英国の天文学者キャリントン氏が、太陽の黒点の観測中に太陽面で最初に発見したことから「キャリントン・イベント」の名が付く。

日本では記録にこだわって目撃例はないが、世界各地でオーロラが出現した。片岡准教授の推定では、「磁気嵐の規模を比べると、1770年の方が1859年より約1割大きい」という。

一連の記録から、太陽表層で非常に大きな爆発はまれに起き、巨大な磁気嵐はいつ発生してもおかしくないという

思って家根に水をまくんもいた」と続き、オーロラが不吉な現象ととらえられていた様子もうかがえる。

さらに遡る鎌倉時代、1204年の京都で夜空に赤く染まるオーロラが出現した記録がある。歌人の藤原定家が「明月記」にその様子を書いた。翌年の知識には未だ足りていない。

世界的には、1859年に発生した磁気嵐がこれまでに科学的に観測された最大のものとされる。英国の天文学者キャリントン氏が、太陽の黒点の観測中に太陽面で最初に発見したことから「キャリントン・イベント」の名が付く。

日本では記録にこだわって目撃例はないが、世界各地でオーロラが出現した。片岡准教授の推定では、「磁気嵐の規模を比べると、1770年の方が1859年より約1割大きい」という。

一連の記録から、太陽表層で非常に大きな爆発はまれに起き、巨大な磁気嵐はいつ発生してもおかしくないという

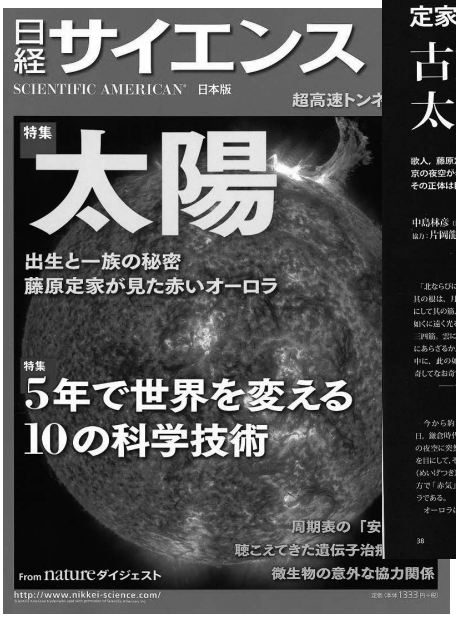
世界的には、1859年に発生した磁気嵐がこれまでに科学的に観測された最大のものとされる。英国の天文学者キャリントン氏が、太陽の黒点の観測中に太陽面で最初に発見したことから「キャリントン・イベント」の名が付く。

日本では記録にこだわって目撃例はないが、世界各地でオーロラが出現した。片岡准教授の推定では、「磁気嵐の規模を比べると、1770年の方が1859年より約1割大きい」という。

一連の記録から、太陽表層で非常に大きな爆発はまれに起き、巨大な磁気嵐はいつ発生してもおかしくないという。

（中島林彦）

平成31(2019)年3月号
日経サイエンス





特集　太陽

定家が見た赤いオーロラ

古文書が語る太陽の激動

歌人、藤原定家が残した日記などから
京の夜空が赤く染まったことが何度もあったことがわかった
その正体は巨大な磁気嵐の際に生じたオーロラだ

中島林彦 日経編集顧問
協力：片岡龍峰 国立極地研究所

「北をもに且（北極）の方に赤気有り、其の根は、月の出でる方の如し。色白明にして其の筋、遙かに引き、段にするが如くに遠く光る。白き色四五疋、赤き筋三四筋、雲にあるず雲間の星宿（星座）にあるざるか、光いささかも陰らざるの中に、北の如き白光赤光、相交わる。言にてなお奇すべし、恐るべし、恐るべし」

――今川文雄著『訳注明月記』（一部ひらがなに改めた）

今から約800年前の1204年2月21日、鎌倉時代の歌人、藤原定家は京都の夜空に突然現れた火事のような輝きを目にして、その驚きと恐怖を「明月記」（めいげつき）に記した。当時の呼び方で「赤気（せっき）」やなおもオーロラである。

（文中敬称略）

オーロラは太陽の活動の影響が強く地球圏を含して地球に伝わることで生じる大気の発光現象だ。普段は北欧やアラスカ、南極大陸など高緯度域でないと見られないが、地球のはるか上空で、モンスター級の電磁気の嵐「磁気嵐」が荒れ狂うと、日本などの中緯度域にも現れて夜空を赤く染め、時には白く輝く光の柱が何本も立ち上るような光景が見られる。

磁気嵐は太陽の活動によってもたらされる。太陽活動は約11年周期で活発するが、日本がある中緯度域にオーロラを生じさせるほど巨大な磁気嵐を引き起こす爆発的な活動はまれだ。

ただ、巨大磁気嵐が発生するのかはよくわかっていない。太陽の活動を人工衛星で詳しく調べるようになったのは、たかだか50年ほど。太陽活動と密接な関係がある太陽黒点を望遠鏡で観測し始めたのも日本では明治時代半ばは過。海外でも約400年前のガリレオ（Galileo Galilei、1564～1642年）からで、まだ日が浅い。

だが、オーロラは肉眼で観察できる現象だ。昔の文書や資物には、科学観測が始まる以前に人々が目撃したオーロラの記述が残されている。これが、太陽などのような活動をしていたのかを解き明かす有力な手がかりになる。近年、天文やオーロラが専門の自然科学者の研究者と、昔の文書や歴史に詳しい人文系の研究者が共同で、古典籍（江戸時代以前に書きうされた印刷されない書物）を手がかりに、過去に出現したオーロラを調べる研究が進んでいる。国立極地研究所准教授で

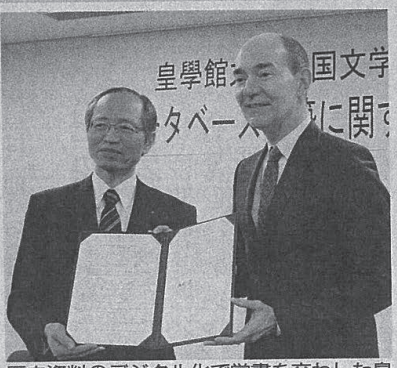
オーロラが専門の片岡龍峰らを中心としたグループの調査によって、明月記が書かれた鎌倉時代のほか、江戸時代にも日本各地で明るいオーロラが目撃されていたことが確実になった。巨大磁気嵐が発生していた期間はこれまで

平成31(2019)年3月19日
中日新聞（伊勢志摩版）

皇学館大 歴史資料

デジタル化へ協力

国文学研究資料館と覚書



歴史資料のデジタル化で覚書を交わした皇学館大の清水学長㊧と国文学研究資料館のキャンベル館長＝伊勢市の皇学館大で

古文書などの歴史研究の資料をデジタル画像にして、インターネットで誰でも見られるようにする「デジタルアーカイブ」の構築を進めるため、皇学館大（伊勢市）は六日、国文学研究資料館（東京都立川市）と協力の覚書を交わした。資料館が既に公開している「新日本古典籍総合データベース」で、皇学館大の資料も検索できるようになる。（大島康介）

調印式が同日、皇学館大であり、清水潔学長と資料館のロバート・キャンベル館長が覚書にサインした。キャンベル館長は「皇学館大には、日本の精神文化の礎を形成する神道の重要な資料が多い。われわれは古文書をデジタル化するためのシステムを持っており、研究者の交流も進めていきたい」と述べた。

清水学長は「近年でも、神道関係の価値の高い資料を寄贈していただくことがある。皇学館大に預ければ安心だと言ってもらえるよう、資料館との協力態勢を大切にしたい」と語った。

皇学館大は神道や皇室文化、国学、国史学の研究資料や蔵書が豊富。「伊勢神宮と神道の研究」と「皇室文化研究」の拠点を目指し、二〇一七～一八年度はデジタルアーカイブス構築の計画づくりをしてきた。一九年度から古文書専用のスキャナーを資料館から借りるなどして、資料のデジタル化を進める。

資料館の新日本古典籍総合データベースは、国内外の資料十万点近くを公開中。一四年度から十年がかりで進める国家プロジェクトで、キャンベル館長は「世界中の日本研究者に利用されている」と説明した。

令和元(2019)年7月10日
インターネットウォッチ（web）

INTERNET Watch

Impress Watch | INTERNET | PC | デジカメ | AKIBA | AV | GAME | ケータイ | クラウド
窓の杜 | 家電 | Car | トラベル | 仮想通貨 | Video | こどもとIT | NETGEAR Space | ASUS Wi-Fiルーター

やじうまWatch

日本古来の「くずし字」、AIでどう読み取る？　世界的なコンペティションが7月中旬から開催決定

tks24　2019年7月10日 10:00

日本古来の「くずし字」の認識に挑む世界的なコンペティションが、7月中旬から開催されることが決定した。

日本の古文書はそのほとんどが「くずし字」で書かれており、それゆえ解読が難しいことで知られる。「くずし字認識：千年に及ぶ日本の文字文化への扉を開く」と題する今回のコンペは、AIを用いてこれらの認識に挑むというもので、データ分析プラットフォーム「Kaggle」を用いて世界のAI研究者・技術者を対象に行われる。くずし字の解読が進めば古文書に記された過去の自然現象を防災計画に役立てられる可能性もあるほか、日本文化への関心が世界的に高まるなどの副次効果も期待できることから、コンペへの期待は大きい。なお、詳細な情報はコンペが開始される7月中旬に公開され、参加者はその3カ月後に設定される〆切日までにアルゴリズムを提出するというスケジュールが予定されている。



- 本コンペのページ（Kaggle）（コンペ開始日に公開予定）
  https://www.kaggle.com/c/kuzushiji-recognition
- Kaggleコンペティション：くずし字認識（ROIS-DS人文学オープンデータ共同利用センター）
  http://codh.rois.ac.jp/competition/kaggle/

令和元(2019)年9月20日
信濃毎日新聞

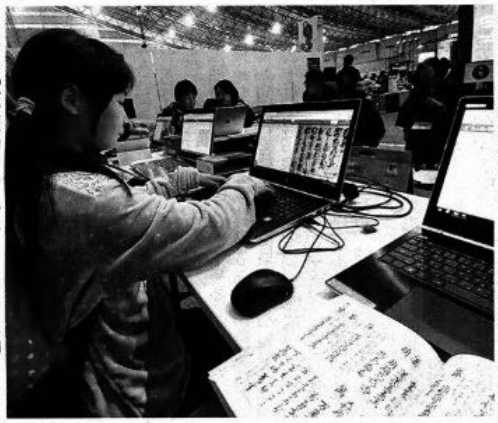
古文書 専門家以外はハードル高く…

「崩し字」読解 AIで

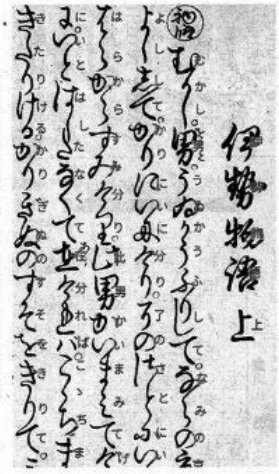
市民参加の翻刻プロジェクトも

古い日本の書物を読もうとするとき、一番厄介なのが「崩し字」だ。漢字や平仮名を崩したような筆書きの文字で、江戸時代以前には一般的だった。そば屋の看板の「きそば」もその一つ。「れ」や「む」にも見える文字が並ぶが少し違う。素人にはハードルの高い崩し字を現在の活字に置き換える翻刻を、ウェブサイトでの市民参加プロジェクトや、専用の人工知能（AI）開発で一気に進めようとする計画が進んでいる。

崩し字を用いた文書は国内各地の資料館、公民館などに眠っているという。翻刻済みは一握りだ。含めれば推定数十億点が残っている。出版物だけで100万点を超え、借用書や証文なども



「みんなで翻刻」プロジェクトのイベントで翻刻に挑戦する参加者＝4月、千葉市の幕張メッセ（国立歴史民俗博物館・橋本雄太助教提供）



伊勢物語 上

国文学研究資料館が所蔵する、江戸時代刊行の「伊勢物語」を人工知能で翻刻した結果。修正する前のもので誤りも含んでいる（国立情報学研究所・北本朝展准教授提供）

史家ら数千人程度。国文学研究資料館（東京）の山本和明教授は「いろいろな分野の人が興味を持つ記述があるはずだが、読めなければ価値が分からず捨てられる恐れもある」と懸念する。

これまで、専門家による地道な翻刻で多くの事実を掘り起こしてきた。江戸っ子が愛した卵料理レシピや、江戸時代に京都で目撃されたオーロラの姿が明らかになったこともあった。

手間のかかる翻刻を大人数で進めようと考えた国立歴史民俗博物館（千葉県）などは、市民参加プロジェクト「みんなで翻刻」を2017年から進めている。

電子化した古文書画像をウェブサイトで公開し、5千人以上という参加者が助言し合いながら読み解く。崩し字の読み方を一から学べるようにしてあり、初心者は経験を積みながら翻刻を進めていける。東京大地震研究所が所蔵する地震関連の史料約500点、610万字の翻刻は「いろいろな分野の人が興味に成功した。

歴博の橋本雄太助教は「翻刻を楽しんでいる参加者が多い。市民の力で新しい歴史的事実を見つけたい」と意気込む。

動きは海外にも広がる。国立情報学研究所（東京）などは、崩し字を正確に読み解くAI開発コンペをインターネット上で実施。ロシアなど海外を含めた170チーム以上が参加している。

参加チームは、翻刻済みの約68万字を用いてAIに学習させる。テスト用の史料を最も高い精度で翻刻するプログラムの開発が目標。鍵は、めったに出現しないレアな崩し字の解読だ。

情報学研究所の北本朝展准教授は「世界中で関心を持ってもらえるとうれしい。AIと人間が連携すれば、翻刻をどんどん進めていけるはずだ」と開発に期待を寄せる。

令和元(2019)年9月29日
陸奥新報朝刊

文化情報 10月

休館）

・弘前市民文化祭盆栽展（3～6日）

・第22回国土社美術展覧会（12～14日）

・第40回県高校総合文化祭・文芸部門（25～27日）

・グループ秋色 手作り三人展（28～30日、裂織、フラワーペイント、陶芸）

■鳴海要記念陶房館（☎(82)2902、火曜日休館）

・季節の移ろいを楽しむ押花作品展（12～20日）

■弘前文化センター（☎(33)6571、15日～6日）

・吉沢せつえ第1回個展油絵（17～19日）

・第40回県高校総合文化祭・文芸部門（25～27日）

・グループ秋色 手作り三人展（28～30日、裂織、フラワーペイント、陶芸）

■鳴海要記念陶房館（☎(82)2902、火曜日休館）

・季節の移ろいを楽しむ押花作品展（12～20日）

■弘前文化センター（☎(33)6571、15日

文化祭・美術部門（25～27日）

■NHKギャラリー（☎(32)5411）

・第54回キヤノンフォトクラブ弘前写真展（11～13日）

・盛龍展－画歴45周年記念－（19～20日）

・第11回刻虫会展

・中弘若竹の会作品





「ねぷた見送り絵リブート！」展（4～6日、弘前・ギャラリー森山）　国文学研究資料館、弘前大学などによる「津軽デジタル風土記」プロジェクトの一環。川村岩山さんが描き起こしたねぷたの見送り絵と、200年余り前に描かれた葛飾北斎らの原画のデジタル画像を見比べられる。掲載画像は川村さん画「三勝」（左）と、元絵の北斎画「三七全伝南柯夢」（国文学研究資料館蔵）

令和元(2019)年10月5日
陸奥新報朝刊

陸奥新報 2019

見送り絵の出自たどる

弘前で「ねぷたリブート！」展

北斎らの元絵画像も紹介
デジタル資料を活用

浮世絵師・葛飾北斎らが描いた挿絵のデジタル画像と、それを基に弘前市のねぷた絵師・川村岩山さん(64)が手掛けた見送り絵を紹介する「ねぷた見送り絵リブート！」が4日、同市のギャラリー森山で始まった。国文学研究資料館（東京都）や弘前大学教育学部など5機関で推進する「津軽デジタル風土記」プロジェクトの一つで、展示会を通しデジタル資料の活用法や可能性を探る。（一戸崇矢）



プロジェクトは弘前市立図書館、弘前中立博物館などが所蔵する歴史・文化資料をデジタル化し、観光資源として利用することを目的としている。

会場には北斎画「妖婦 梢」や歌川豊国画「源頼光館」などを基に川村さんが手掛けた30点を展示。解説板にあるQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、元絵の画像が出てくる。企画者で同資料館准教授の木越俊介さん(46)は、ねぷたではないかと展示会を「考えた」と振り返った。

「ねぷたの文化や歴史への理解を深めて」とPRする（左から）川村さん、木越さん、瀧本さん

川村さんは「北斎らの挿絵などを通して、ねぷたの歴史や文化への理解を深めてほしい」と来館を呼び掛けた。

展示会は6日午後3時まで。入場無料。

令和元(2019)年10月3日
東奥日報朝刊

東奥日報 2019年

北斎の絵→ねぷた見送り絵

継承の過程 楽しんで

絵師・川村さん あすから弘前で企画展



瀧本さん宅の研究室で作品を手にする川村さん



川村さんが手にする絵の元絵となった「小栗外伝」二編（1814年、小枝繁作）の北斎の挿絵。デジタルアーカイブに収録されており、会場ではQRコードで検索できる（瀧本さん提供）

デジタル技術活用
弘大など推進

弘前大学と国文学研究資料館（東京都）が2017年度から進めている共同事業「津軽デジタル風土記」の一環として、弘前市のねぷた絵師川村伸明（号・岩山）さんが「ねぷた見送り絵リブート（再起動）！」展を4～6日、弘前市のギャラリー森山で開く。川村さんが描いた見送り絵を展示し、その場で「風土記」のデジタルアーカイブ上にある葛飾北斎の元絵と見比べながら楽しむ企画で、デジタルコンテンツの立体的な活用法として注目されそうだ。（外崎英明）

「津軽デジタル風土記」は、津軽に関する歴史資料をデジタル化し、文献資料が持つ地域の歴史や文化に関する情報を公開すること」によって、地域資源・観光資源として活用していく狙いで進められている。

ねぷた絵は伝統的に、北斎やその弟子ら江戸時代の絵師たちが描いた「三国志」「水滸伝」など伝奇小説の挿絵などを元絵として描かれてきた。

川村さんは1年かけて、約30枚の見送り絵の色紙画を描きためた。会場に展示される絵には一枚一枚にQRコードを付し、スマートフォンなどを使って北斎が描いたそれぞれの元絵を検索できる。

今回の展示は、絵画が継承されていく過程を、デジタルの力で再現する試み。北斎の元絵が、その世界観を保ちつつも彩色などで内容を刷新した川村さんの絵へと「再起動」するイメージだ。

川村さんは「ねぷた絵は常に温故知新、北斎を元絵にライフワークとして描き続けていきたい」と意欲を見せている。

「デジタル風土記プロジェクトの代表で、弘大教職大学院の瀧本壽史教授は「ねぷたを活用した発信という形は、史料を一般に還元していくというデジタル風土記の使命にも合致している」と話している。

時間は午前10時から午後4時で、入場無料。アンケートへ記入した人に川村さんの絵のポストカードをプレゼントする。

令和元(2019)年10月20日
読売新聞朝刊

「くずし字」AIが解読

日本の古典文学や古文書などの「くずし字」を解読する人工知能（AI）に注目が集まっている。情報・システム研究機構が開発したAIは、くずし字を瞬時に現代の文字に変換する。今後、国文学研究資料館などと協力し、大量の古典や古文書を解読するプロジェクトに乗り出す。（中居広範）

「古典の解読は、専門家でも1ページあたり10分程度はかかります。このAIなら、1ページを1秒間ほどで解読できます」

くずし字解読AIのソフト「KuroNet（クロネット）」を開発した国機構人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）のカラーヌワット・タリン特任助教はそう話す。

タリンさんのパソコンの画面に、源氏物語の「徒然草」を表示してもらった。現在私たちが使っている文字とは異なる形の字が多いうえ、上下の字がつながっていてなかなか読めない。

この画像をKuroNetに取り込むと、即座に解読が終わり、くずし字の横に赤字で現代の文字が表示された。一部の文字を読み飛ばすなど正しく解読できていない部分もあるが、大部分は読むことができる。

タイ出身のタリンさんは、「源氏物語」をきっかけに日本の古典文学に興味をもち、早稲田大に留学。源氏物語の注釈書などの研究で博士（文学）を取得した。

多くの時間と労力を、くずし字の解読に費やした経験から、「くずし字を効率良く解読するシステムを、自分で作ろう」と思い立った。

膨大なデータをもとに自ら学ぶディープラーニング（深層学習）の仕組みを初歩から学び、KuroNetを開発した。AIには約68万字分のくずし字を学習させた。変体仮名や草書体の漢字などを含むくずし字約2400種を認識し、江戸時代の文献なら90%の精度で解読できるという。

今年11月までに学習の対象を約1100万字に増やし、さらに精度を高めたうえで、誰でも使えるようにホームページで公開する予定だ。

◇

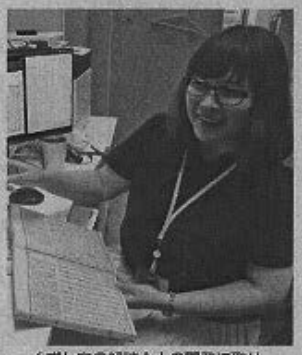
くずし字は前後の文字がつながっていて、切れ目がわかりにくい。文字を最初から順番に読み込む場合、1文字の領域を決めるのが難しく、解読が止まってしまうことがある。そこでタリンさんは、文字の領域を決めずに、いきなり解読することを試みた。

この方法を使うと、AIは文章の段落や行などにとらわれず、見つけた文字からどんどん解読していくことがわかった。タリンさんの共同研究者で、カナダ・モントリオール大の大学院生アレックス・ラムさんは「すごく単純な考え方だったので、逆に誰もやろうとしなかった」と振り返る。

ただ、KuroNetにはまだ課題が残っている。これまでに学習に使った古典は、版木に彫られた文字を印刷した「版本」がほとんど。これらは専門の職人が書いた文字がもとになっており、文字の大きさなどのばらつきが少ない。

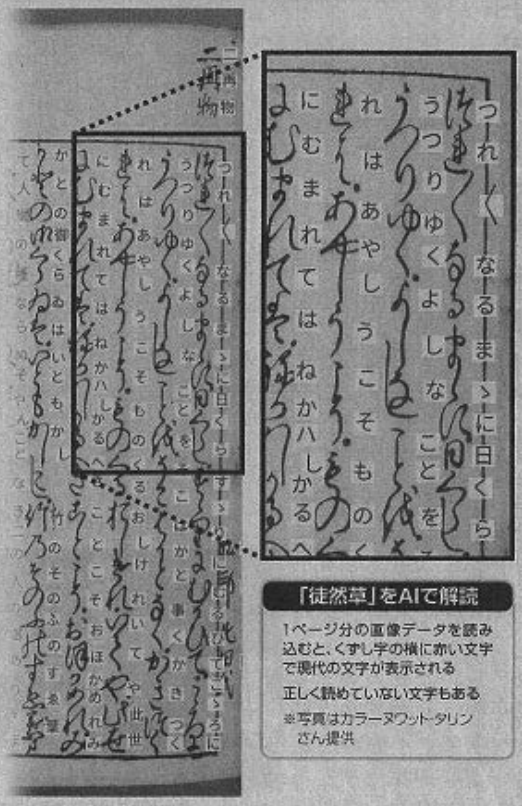
これに対し、日本各地に残る手書きの古文書などは、文字の大きさや墨の濃淡がそろっていないものが多いため、AIによる解読の精度が落ちる。

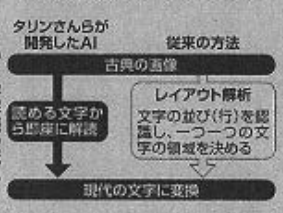
タリンさんは、「古文書は古典よりも数が多いうえ、専門家でも解読が難しい場合がある。ニーズの高い古文書解読の精度をあげるべく、研究を続けたい」と話す。手書きのくずし字のデータを、大量に学習させることなどを検討している。



くずし字の解読AIの開発に取り組んでいる情報・システム研究機構のカラーヌワット・タリンさん

68万字分を学習　精度90%





古典30万点 画像化目指す

くずし字は平安時代から1800年代まで約1000年間使われ、国内に存在する古典や古文書などは数億点に上るとも言われる。

人間文化研究機構の国文学研究資料館は、国内に保管されている古典約30万点を、デジタル画像にして公開するプロジェクトを進めている。いずれは、これらの画像データをAIで解読することを目指している。

同館の山本和明教授は、「膨大な数の資料をAIで読み解けば、文学だけでなく、歴史や政治、自然災害に至るまで、あらゆる分野の知識が得られるはずだ」と語る。

CODHの北本朝展センター長も、「これまで知られていなかった作品など新たな発見につながるかもしれない」と期待している。

くずし字を解読するAIの開発は、凸版印刷や豊田工業高等専門学校（愛知県豊田市）なども取り組んでいる。こうした研究を盛り上げようと、CODHなどは11月11日、東京都千代田区の学術総合センター一橋講堂でシンポジウムを開催する。

シンポジウムに合わせ、研究者や企業向けに、古典の解読能力を競うコンテストも企画した。10月14日の締め切りまでに、国内外から200を超えるチームが参加、上位チームはかなりの精度で解読に成功しているという。



AIを活用した古典の解読の意義を語る国文学研究資料館の山本和明さん

コンテストは、「厳しい研究の世界にいる研究者の間で共感を誘い、明日への活力になる川柳を集めたい」と、同社が2013年に始めたもので、今年で7回目。今年は全国198人から1093作品が寄せられた。インターネットで人気投票などを行い、入賞作品15本が決まった。

同社は15作品を含む作品集を、秋以降に開かれる「分子生物学会」「再生医療学会」など、生命科学に関係する学会会場でも配る予定という。

「細胞と 話し始める 深夜帯」

生命科学の研究者 川柳入賞作品

米国の科学機器メーカー「サーモフィッシャーサイエンティフィック」社の日本法人は、全国の生命科学分野の研究者らを対象にした川柳コンテスト「川柳 in the ラボ」の入賞作品を発表した。

最優秀人気作品賞は、「『Alexa』と 声を掛けたが 光らない」。細胞などに特殊な光をあてると蛍光色に光るようにする「蛍光染色法」の実験がうまくいかず、声で照明をつけてくれるスマートスピーカー「アレクサ」に頼んでみた――という情景を描写した。

そのほか、予算削減の悩ましさを詠んだ「研究費 削りに削られ 大吟醸」や、長時間、研究に没頭する様子が思い浮かぶ「細胞と 話し始める 深夜帯」「良い結果 出たのに無人の 実験室」などが入賞した。

令和元(2019)年11月11日
大分合同ニュース
online

大分県内ニュース
地域密着！郷土のニュースとスポーツ

> 大分県内 TOP

国文研の日本古典籍データベース作り　中津市が自治体初参画へ

2019/11/11 15:30

おすすめ 242　ツイート



データベース公開に向けてすでにデジタル撮影を済ませた「解体新書」を展示する中津市の大江医家史料館

日本文学者、ロバート・キャンベルさん（６２）が館長を務める国文学研究資料館（国文研・東京都）の新日本古典籍総合データベース構築に中津市と同市教委が参画する。大学を中心としたネットワークに全国の市町村で初めて同市が加わる。「解体新書」など江戸時代に中津藩で盛んだった蘭学や医学の貴重な史料のデジタル画像をネット上で公開。国内外の研究者らに幅広く活用してもらう。キャンベルさんが１３日に同市を訪れ、覚書を交わす。

国文研のデータベース作りは学術研究の充実や、各機関の垣根を越えた共同研究を目的に２０１４年度から始まった。１７年度から公開を始め、２３年度までに約３０万史料を網羅する予定。国内外の大学と連携して日本語の文学、医学、理学などさまざまな古典籍の画像をデータ化する。

市は１７年度から事業に協力。史料のデジタル撮影に着手した。本年度中に、中津藩医の前野良沢が携わった日本初の本格的な西洋医学翻訳書「解体新書」など４４史料の１８００カットを公開する。

中津藩士は、大阪の適塾や長崎で蘭学や医学を学び、教科書などを書き写して持ち帰った。市内にある二つの医家史料館は、それらの史料が多く保存されている。

今後は、国文研がデジタル撮影に必要な高細密スキャナーを、市歴史博物館（市内三ノ丁）に設置。２３年度までに２００～３００史料をデジタル撮影する予定。市教委は「伝来がしっかりした一点物史料の充実と、史料を整理した目録が評価された。国文研とのパイプができることで、開館したばかりの博物館の信頼も得られる。協力して事業を進めたい」と話している。

覚書は１３日午後１時から市歴史博物館で締結する。終了後、キャンベルさんと、中津藩の医学、蘭学について長年研究を進めているボルフガング・ミヒェル九州大学名誉教授がトークセッションをする。入場無料。

※この記事は、11月11日大分合同新聞夕刊11ページに掲載されています。



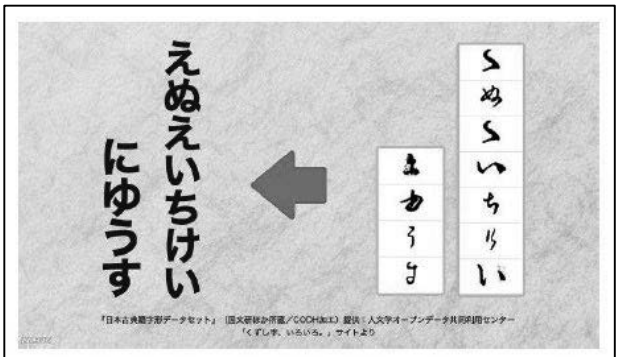
11日、東京都内で上位の10チームが表彰され、優勝した中国のチームは、95%の割合でくずし字を正しく解読できたということです。



AIで“くずし字”の解読に挑む

2019年11月11日 19時59分　IT・ネット

日本で古くから使われてきた手書きの文字「くずし字」を、AI＝人工知能を使って瞬時に今の文字に置き換えるシステムの開発を競う国際コンペが行われ、およそ300チームがより精度の高い解読に挑みました。



「くずし字」は平安時代から明治時代の初めごろまで広く使われていましたが、今の文字と形が大きく異なっていたり複数の文字が連続して書かれたりしていることから、正確に解読できる人には限りがあります。

令和元(2019)年11月11日
NHK（テレビ）
日本文化とAIシンポジウム2019

令和元(2019)年11月14日

西日本新聞ニュース

西日本新聞

読売新聞地方版

読売新聞online

朝日新聞地方版

毎日新聞ネット

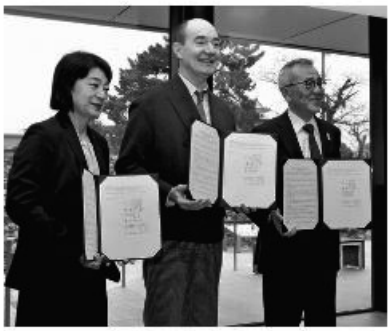
毎日新聞地方版

読賣新聞 オンライン

ニュース ＞地域 ＞大分 ＞ニュース

古典籍デジタル化で協力　中津市と国文学資料館

2019/11/14 05:00



覚書に署名した（右から）奥塚市長、キャンベル館長、菜田教育長

中津市と市教委は１３日、国文学研究資料館（東京）が進める近代以前に出版・書写された書物「古典籍」のデジタル画像をデータベース化する事業に協力する覚書を資料館と交わした。自治体単独で覚書を締結するのは中津市が全国で初めてという。

資料館は「源氏物語」や「徒然草」といった古典籍を国内外の大学と連携してデジタル画像化し、インターネットで検索できるデータベースづくりに取り組んでいる。２０１４年度からの１０年間で３０万点を公開するのが目標。画像は研究者だけでなく、誰でも無料で見ることができる。

市は覚書に基づき、市内の大江医家史料館に展示されている中津藩医・前野良沢らが翻訳した医学書「解体新書」など４４点を資料館のデータベースで閲覧できるようにした。２３年度末までに市所蔵の約１万点を撮影し、公開する方針。

蘭学資料などデジタル化

中津市、国文学資料館が覚書

大分県中津市は13日、国文学研究資料館（東京、ロバート・キャンベル館長）が行う日本語古典籍データベース構築事業に参画する覚書を締結した。同館は日本文学に関する資料の収集や活用・公開などを行う公的研究機関。市が保有する中津藩で江戸期に発展した蘭学や西洋医学などの資料約1万点を提供し、2023年度末までに高精細なデジタル画像で記録。ネット上でだれでも閲覧できるようにする。

同館は14年度から、東京大や九州大など国内の大学



覚書に署名した中津市の奥塚正典市長（右）とロバート・キャンベル館長（中央）

たことは大変ありがたい」と話した。（吉川文敬）

「学問のすゝめ」初版本「解体新書」「華岡流医学書」…

中津の古典籍 世界へ発信

データベース構築で覚書

国文学研究資料館と市、市教委

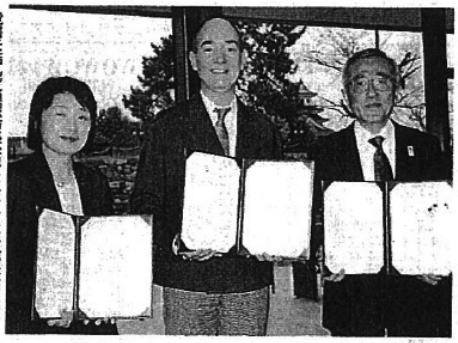
11/16 毎

中津市と市教委は、国文学研究資料館（東京都立川市）と「新日本古典籍総合データベースの構築協力に関する覚書」を結んだ。初版とされる解体新書など市内の44点、1835コマが同データベースで公開されたほか、今後、市内の古典籍のデジタル化・公開を進める。【宮本勝行】

蘭学盛ん 論吉の古里

古典籍とは江戸時代以前の日本の書物。同資料館は2014～23年度、国内外の大学などと連携して、約30万点の古典籍を画像化して自由に検索できるデータベースを作り、国際的な共同研究のネットワークを構築する事業を進めている。今年3月現在で約11万点の画像撮影が終わり、源氏物語や万葉集など約9万5000点を公開している。大学など80以上の団体が連携しており、自治体と覚書を結ぶのは中津市が初めてという。

江戸時代に蘭学が盛んだった中津市は解体新書の編著者、前野良沢らを輩出。現在医家史料館が二つある。慶応義塾創設者、福沢諭吉の古里でもある。資料館側から参画の声がかかり、17年度から古典籍のデジタル化を進めていた。解体新書のほか公開された主なものは、天然痘に関する「痘瘡唇舌鑑図」や乳がん手術などが描かれている「華岡流医学書」など。明治5（1872）年の「学問のすゝめ」初版本もある。今後市は約1万点とみられる古典籍のデータベース化を目指すという。



覚書を結んだ奥塚市長（右）とキャンベル館長（中央）、菜田英代教育長

13日に中津市歴史博物館であった締結式には、同資料館のロバート・キャンベル館長や奥塚正典市長らが出席。奥塚市長は「地方都市の中津でできることを誇りと思う。世界へ情報発信する良い機会を得た」とあいさつした。

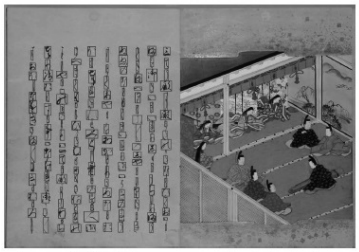
令和元(2019)年11月30日
産経新聞

THE SANKEI NEWS

【びっくりサイエンス】日本古来の「くずし字」にＡＩで挑む 解読の競技大会は中国が優勝

2019.11.30

日本古来の手書き文字である「くずし字」を人工知能（ＡＩ）を使って読み解く技術の開発が進んでいる。解読を競う国際大会では、９０％を超える精度で認識できるシステムも登場。文系の人文学と理系の情報学がタッグを組み、貴重な古典文献を解読する技術が誕生しつつある。



江戸時代前期までに制作されたとされる「うつほ物語」の写本。人工知能（ＡＩ）によって文字と認識された部分が赤い四角で囲まれている（人文学オープンデータ共同利用センター提供）

世界の古文献研究に貢献

くずし字は平安時代から明治時代まで使われてきた手書き文字だ。現代人のほとんどは理解が困難で、読み解ける人は限られている。このため、くずし字で書かれた数多くの資料が解読されないまま残されている。こうした資料から歴史や文化、過去の災害の研究に役立つ情報が見つかる可能性もあり、コンピューターで効率的に高い精度で読み解く技術の開発が喫緊の課題だった。



文化

今に生かす災害の歴史

「江戸水没　寛政改革の水害対策」

総合研究大学院大学
渡辺浩一教授

大規模水害をもたらした昨年の台風19号。対策や危機管理のあり方が改めて問われたが、水害対策が日本で本格的に行われたのは実は明治時代以降のこと。それ以前の江戸時代には水害が頻発していた。このほど出版された「江戸水没　寛政改革の水害対策」（平凡社）は、当時の史料から水害対策や復興過程を検証、江戸の経験を今に生かす災害歴史学の試みだ。

「地球温暖化の影響か、近年は集中豪雨や大型台風など水害のリスクが増大している。今後の水害に備えるため、頻繁に水害に見舞われた江戸ではどうだったのかを多くの人に知ってもらいたかった」

著者の総合研究大学院大学の渡辺浩一教授（アーカイブズ学・歴史学）は執筆の動機をこう話す。

洪水の減災対策として取り上げたのは、三俣中洲富永町（現在の東京都中央区日本橋中洲）の事例。隅田川の中州だった場所に造成した土地は江戸一番の遊興街となったが、造成から15年後の天明6（1786）年大水害に遭い、多大な被害が出る。実はこの大水害の約40年前に寛保2（1742）年大水害が起きていた。当時の治水の知識水準からすれば、水害の恐れが十分認識できた場所だが、主に経済的な理由で土地が造成されてしまった。

災害に遭いやすい場所と分かっていても、利便性などから宅地開発が進められるのは現代も同じだ。渡辺教授は「家を買うときに『昔の地形図を見て決めろ』とはよく言われること。ただ、過去に災害がなかった場所は地価が高いのでだれもが買えるわけではない。大事なのは、どういう土地なのかを知り、災害に備えることだろう」と警鐘を鳴らす。

また、深川洲崎（現在の江東区東陽）の高潮対策をめぐっては、地域住民が堤防修復を望んだが実現せず、結果として大きな人的被害が出た可能性がある。財政との兼ね合いや住民との合意形成は現在にも通じる課題だが、当時から悩ましい問題だったことがうかがえる。

東京は昭和22年のカスリーン台風以来、数十人の死者が出るような大水害には遭っていない。すでに70年以上が経過しており、当時のことを覚えている人も少ない。一方、江戸時代は大水害が30～40年に一度発生、新たな大水害が起きたときに前の災害を経験した人がたくさんいた。このことから「江戸時代には水害に備える知恵があった」という人も多いが、実際には〝先人の知恵〟が常に生かされるとはかぎらなかったという。

渡辺教授は「江戸時代と今を比べたとき、科学技術は飛躍的に進歩したが、社会をよりよく運営していく仕組みや災害に対する人間の対応はさほど進歩していないように思う。災害に備えるためには、事実と向き合い、なぜそうなったのかをそれぞれの時代で丁寧に考えていくことが求められる」と話している。

（平沢裕子）

令和2(2020)年1月09日
産経新聞朝刊

令和2(2020)年1月19日
読売新聞(朝刊)

（第3種郵便物認可）　2020年(令和2年)1月19日(日曜日)　読売新聞

けた違い 増大するデータ量

テラ、ペタ、エクサ――デジタルデータの大きさを示す言葉だ。データ量の増大に伴って、より大きな数を表す耳慣れない言葉が使われている。どのくらい大きいのか調べてみた。

（デジライフ班　岡本公樹、動画も）

1000倍で切り替わる単位

数の接頭語

キロ(1千)	1.000
メガ(100万)	1.000.000
ギガ(10億)	1.000.000.000
テラ(1兆)	1.000.000.000.000
ペタ(1000兆)	1.000.000.000.000.000
エクサ(100京)	1.000.000.000.000.000.000

キロ、メガ、ギガなど、大きさを示す言葉は正式には「接頭語」といい、1000倍ごとに切り替わる。上の表のように、1000が1キロで、1000キロが1メガ（100万）、1000メガは1ギガ（10億）。その後も1000倍ごとに切り替わる。ペタは1000兆を表す接頭語で、その上のエクサは100京だ。デジタルの世界では現在、ここまでの接頭語が主に使われている。

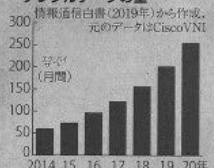
大容量が一般化

デジタルデータの単位の一つが「バイト」。1バイトは、英数字（半角）1文字分程度の情報量だ。この「バイト」を使って、文字、写真、音楽、動画などのデジタルデータの量を表す。

記録媒体も、容量がメガ・バイトのレベルのフロッピーディスクやCD－ROMに続き、ギガ・バイトの規模の容量のDVD－ROMやブルーレイディスクが登場。今では、テレビの録画に使う機器（ハードディスクなど）では、数テラ・バイトのレベルの大容量が一般的になっている。

総務省の情報通信白書による

世界で流通するデジタルデータの量



と、世界中に流通しているデジタルデータ総量は、2014年に月間60エクサ・バイトだったが、20年は254エクサ・バイトに上ると予想されている。これを10テラ・バイトの大容量を持つ家庭用ハードディスクに換算すると2540万個分だ。

本もデジタル化

背景にはアナログデータのデジタル化がある。国内でもさまざまな分野でデジタル化が進む。例えば、国文学研究資料館（東京都立川市）は、江戸時代以前の日本の書籍をデジタル画像にする「新日本古典籍総合データベース」を、17年からインターネットで無料で公開している。



職員たちが11台のスキャナーを使い、江戸時代以前の古い書物「古典籍」をデジタル画像にしている（東京都立川市の国文学研究資料館で）＝奥西義和撮影

古い書物を1枚1枚めくりながら、高性能のスキャナーで撮影された画像は、見開き1枚が約4メガ・バイトもある。2000年代でも使われていたフロッピーディスク（容量1.44メガ・バイト）では、1枚も収まらない。

事業を担当する山本和明教授は、「これまでに約11万点を公開し、最終的には30万点にまで増やします。データの総量は約180テラ・バイトになる見込みです」と話す。

動画普及で拍車

最近のデータ急増の背景には、もう一つ、動画の普及がある。デジタルデータをネット上で保管する会社「ドロップボックス」が世界中で取り扱うデータの総量は、16年に約500ペタ・バイトだったが、19年末には約3エクサ・バイトと急増した。同社の日本法人は、「動画を撮ったり、映像を保存したりする人が増えているからです」と言う。動画は写真や文字などに比べて圧倒的にデータ量が大きいのだ。

今後も世界で流通するデータ量は増え続ける見通しで、個人がペタやエクサの規模のデータ量を扱うようになる日も、意外と近いのかもしれない。

情報量の大きさのイメージ



※数字は一例。実際の製品の容量は様々ある

国文学研究資料館の「新日本古典籍総合データベース」にはどんな本があり、どのように使うのか。同資料館の山本和明教授にインタビューし、動画にまとめました。QRコードからご覧ください。パソコンは以下から。https://www.yomiuri.co.jp/stream/78

知っておこう　データの数え方には、1000倍ではなく、コンピューターで使う2進数に従って1024倍ずつ接頭語を変える数え方もある。1キロ・バイトは1024バイト、1メガ・バイトは約104万バイト（1024×1024）といった具合だ。ハードディスクなどの最近のデジタル製品は1000倍の接頭語を使ってデータの容量を説明していることが多い。

令和2(2020)年1月27日　@IT

@IT > AI IoT > Deep Insider > KMNIST／Kuzushiji-MNIST：日本古典籍くずし字（手...

AI・機械学習のデータセット辞典：

KMNIST／Kuzushiji-MNIST：日本古典籍くずし字（手書き文字）データセット

データセット「KMNIST」について説明。7万枚の手書き文字（くずし字）の「画像＋ラベル」データが無料でダウンロードでき、画像認識などのディープラーニングに利用できる。データセットをダウンロードできるPythonファイルについても紹介。

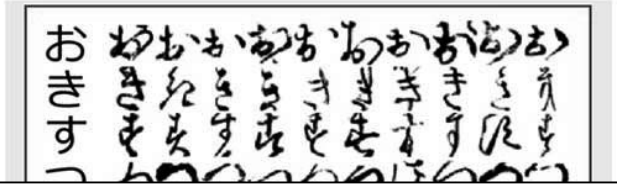
2020年01月27日 05時00分 公開　[一色政彦，デジタルアドバンテージ]

印刷　通知　24　Share　B! 11

インデックス　連載目次

データセット解説

KMNISTデータセットに含まれるKuzushiji-MNIST（以下、KMNIST）は、「お」「き」「す」「つ」「な」「は」「ま」「や」「れ」「を」という10種類の手書き文字（＝日本古典籍に含まれる、筆で書かれた「くずし字」）の画像データセットである（図1）。



オーロラ関係

令和2(2020)年3月16日
日本経済新聞(夕刊)
日本経済新聞WEB
東京新聞（夕刊）
沖縄タイムス
神戸新聞（夕刊）
神戸新聞（夕刊）
読売新聞（夕刊）

令和2(2020)年3月17日
岩手日報
産経新聞
信濃毎日新聞（夕刊）
河北新報（夕刊）
東奥日報
千葉日報
サイエンスポータル

令和2(2020)年3月18日
アストロアーツ


2020年（令和2年） 3月16日 月曜日 沖縄

飛鳥時代にオー

日本書紀に記述


2020年（令和2年）3月17日（火曜日）

日本書紀にオーロラ

極地研、文学研資料館などが分析

扇形、1400年前に観測

「雉」の記述が決め手に

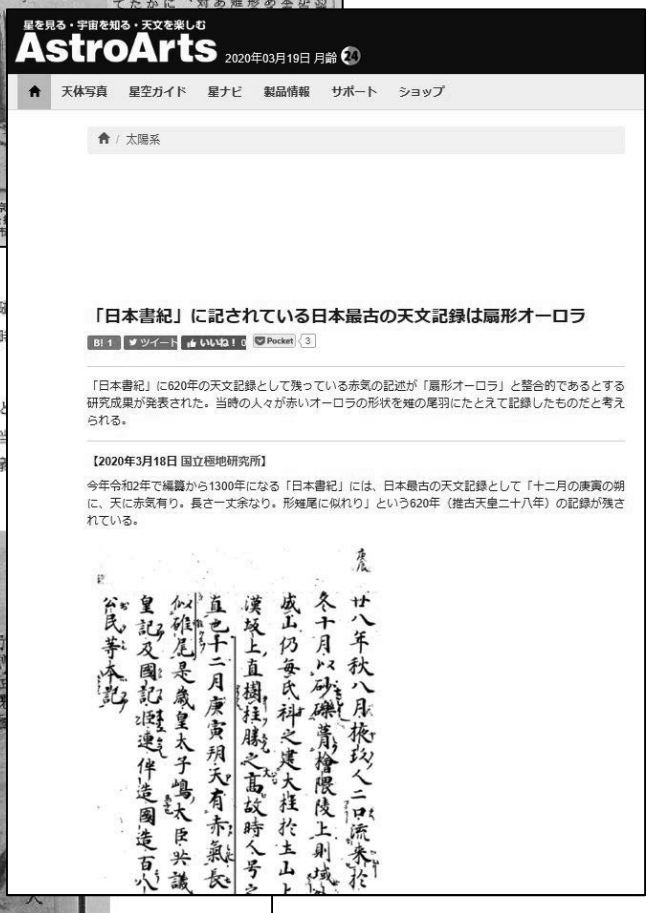

Science Portal
サイエンスポータル

ニュース・速報・レビュー（ニュース速報） -

日本最古の天文記録、正体はオーロラだった

宇宙 地球

掲載日：2020年3月17日


星を見る・宇宙を知る・天文を楽しむ
AstroArts 2020年03月19日 月齢 24

天体写真 星空ガイド 星ナビ 製品情報 サポート ショップ

太陽系

「日本書紀」に記されている日本最古の天文記録は扇形オーロラ

「日本書紀」に620年の天文記録として残っている赤気の記述が「扇形オーロラ」と整合的であるとする研究成果が発表された。当時の人々が赤いオーロラの形状を雉の尾羽にたとえて記録したものだと考えられる。

【2020年3月18日 国立極地研究所】

今年令和2年で編纂から1300年になる「日本書紀」には、日本最古の天文記録として「十二月の庚寅の朝に、天に赤気有り。長さ一丈余なり。形雉尾に似れり」という620年（推古天皇二十八年）の記録が残されている。

オーロラ関係
令和2(2020)年3月24日
NHKおはよう日本

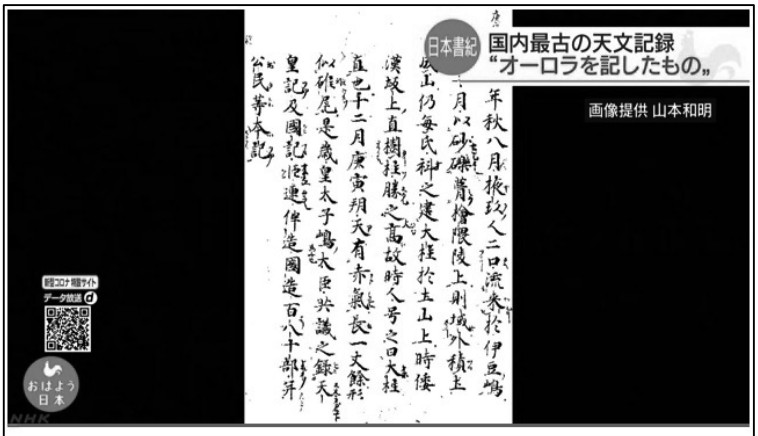
令和2(2020)年3月26日
毎日新聞（朝刊）

令和2(2020)年4月3日
Interesting Engineering

令和2(2020)年4月7日
Mother Nature Network

令和2(2020)年4月27日
読売新聞ONLINE

令和2(2020)年8月3日
朝日新聞（朝刊）



日本書紀「キジの尾の形に似た赤気が天に」はオーロラ

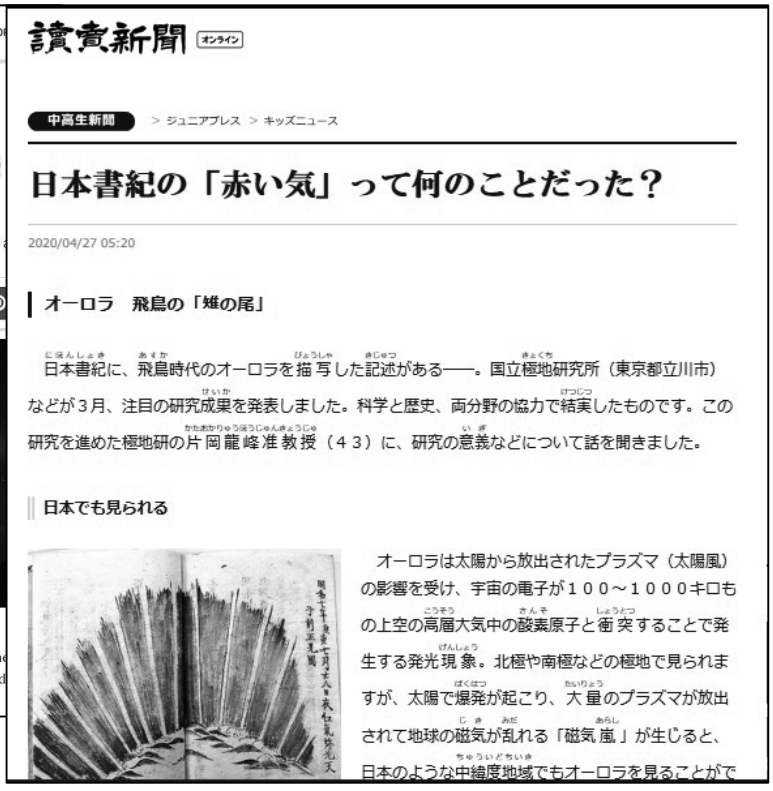
2020年3月24日 5時56分



１７７０年９月に京都から見えたオーロラを描いた絵図＝三重県松阪市提供







オーロラ関係

令和2(2020)年3月28日
EurekAlert!

令和2(2020)年4月2日
KopalniaWiedzy

令和2(2020)年4月3日
教育新闻网

令和2(2020)年8月3日
朝日新聞（朝刊）

EurekAlert! | AAAS

HOME NEWS RELEASES MULTIMEDIA MEETINGS PORTALS ABOUT

NEWS RELEASE 28-MAR-2020

Modern science reveals ancient secret in Japanese literature

RESEARCH ORGANIZATION OF INFORMATION AND SYSTEMS

SHARE PRINT E-MAIL

Kopalnia Wiedzy.pl

wpisz szukaną frazę

Wiadomości Artykuły Forum Książki Konkursy Galerie

Medycyna Technologia Psychologia Zdrowie/uroda Bezpieczeństwo IT Nauki przyrodnicze Astronomia/fizyka

Strona główna > Wiadomości > Humanistyka

Japońscy naukowcy wyjaśniaj… pokazał się na niebie w 620 r.

2 kwietnia 2020, 15:06 | Humanistyka

To najstarszy japoński […] zapis dot. czerwonego znaku… burzy magnetycznej. Dotąd jednak, choć relacja była ba… przekonujących dowodów.

Źródło: EurekAlert!/In…

教育新闻网

首页 教育新闻 大学生活

现代科学揭示了日本文学中的古老秘密

2020-04-03 11:03:58 来源:

将近一千年半以前，红光在日本上空划过夜空。目击者将它与野鸡的尾巴进行了比较-看起来就像是美丽的红色羽毛在天空中伸展的扇子。自事件发生以来，科学家们研究了公元620年撰写的证人证词，并推测了宇宙现象的真实可能。现在，研究生院的研究人员可能已经找到了答案。

他们于2020年3月31日在《文化与社会研究评论》上发表了他们的研究结果。

科学の扉

オーロラ 日本の空にも

北極や南極付近の夜空で青緑色に光るオーロラ。カーテンのように揺れる姿は幻想的だ。実は、日本の古い歴史書や日記にも記述がある。だが、カーテン状ではなく、ちょっと変わった形で記述されたり、絵図に記されたりしている。

日本のオーロラ

北海道でもオーロラが観察されている

1400年前に扇形のオーロラが観察されていたんだ

地平線の先の空が赤くぼーっと光る。北極圏で見られるオーロラとは違う

北海道別町で観測されたオーロラ。露出時間5分 =2001年11月24日、陸別町銀河の森天文台提供

現存する写本などにある「雉の尾」は遠いだったのか

「雉の尾」に似ている形

再板本日本書紀 巻第二十二「雉の尾の形に似た赤気（せっき）が観察されたという記載がある =国文学研究資料館提供

三重県松阪市所蔵の古典籍「星解」にある、1770年9月に京都から見えたオーロラを描いた絵図＝三重県松阪市提供

日本書紀に記述「赤気」「雉の尾」は低緯度の特徴

日本書紀の写本和刻研究者の飯田武郷は、日本書紀の本文内容から「雉」は「トンビ」だと解釈した。だから、オーロラは極域で見えやすいのだ。

オーロラの色はプラズマ粒子がたまる「プラズマシート」から発生する。「磁気嵐が発生すると地表からの高度によって異なる。赤いオーロラは低い高度まで流れ込み、緑オーロラは高度200キロ前後で発生する。「磁気嵐が発生すると地球の磁場が乱れるとプラズマシートが膨張するため、プラズマ粒子は低い緯度に流れ込む。地球に近い緯度の機関よりも低い緯度にオーロラが発生する」と話す。

太陽の表面で大きな爆発が起き、100年に1度のような大規模な磁気嵐が発生すると昔形のオーロラが光る

極地より低い緯度でオーロラが光るのは

1. 大きい太陽爆発が起きるとプラズマ粒子が大量に飛来
2. 磁気嵐が起き磁場が乱れ、粒子がたまる「プラズマシート」が地球の近くまで接近
3. 日本のような緯度にも粒子が流れ込みオーロラに

エネルギーの強さで色が違う

太陽 地球がつくる磁場 オーロラ オーロラが出る高度 低 プラズマ粒子のエネルギー 高 粒子が酸素原子とぶつかると赤や緑 窒素分子とぶつかると青 オゾン層

グラフィック キーン・ミカエル・アンマリー

日本書紀に記述「赤気」「雉の尾」は低緯度の特徴

電気を帯びたプラズマ粒子が、地球の大気中の酸素原子と衝突すると光る。これがオーロラの正体だ。

地球は北極から南極へN極の大きな磁石になっている。太陽から飛来したプラズマ粒子が、地球の大気中の酸素原子と衝突すると光る。これがオーロラの正体だ。

地球は北極から南極へN極の大きな磁石になっている。太陽から飛来したプラズマ粒子が、地球の大気中の酸素原子と衝突すると光る。これがオーロラの正体だ。

日本でも時々、オーロラを見ることができる。見えやすいのは北海道で、だが、緑色や青色の薄いカーテン状のオーロラとは異なる。別刊の田中さんは「ぼっとした赤色が北の地平線の上に見える」と言う。赤い光は、1989年3月13日の大磁気嵐の際に見えた。

100年に一度の大磁気嵐が起きると、1989年3月13日の大磁気嵐の際に見えた。

2001年11月24日の大磁気嵐の際に見えた。

1770年9月19日に京都から見えたオーロラが描かれた絵図。

1770年9月19日に京都から見えたオーロラが描かれた絵図。

令和2(2020)年4月24日
国文研YouTube





令和2(2020)年6月6日　読売新聞夕刊

くずし字解読 AI駆使

デジタル辞典 古文書すらすら

学問分野超えて連携 国際化も

古文書のくずし字をすらすらと読めたら――。そう思う歴史・古典愛好者は多いだろう。大学で専門的な教育を受けなければ難しいと思われがちなくずし字だが、近年は文系・理系の研究者の連携により、高度な解読機能を備えた人工知能（AI）などが開発され、くずし字に親しむ人の裾野も広がりつつある。（文化部　多可政史）

くずし字の文章は前後の文字の切れ目が分かりづらい上、今では使われていない草書体の漢字や、別の字を崩した「変体仮名」も多い。現在の「あ」は漢字の「安」を崩した平仮名だが、1900年の小学校令施行規則で現行の字体に定められる以前は、「阿」「愛」など別の字をもとにした平仮名もあった。

これら昔の字に習熟し、解読をスムーズに進めるためには、「くずし字辞典」が必要だが、国文学研究資料館（国文研）が作製した「日本古典籍くずし字データセット」は、そのデジタル版だ。江戸時代の版本など44点に登場する100万字超を登録している。「くずし字の字体は本の種類や時代によって異なる。データが多いほど、正確な解読の助けになる」。国文研の山本和明教授はそう語る。

人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）は、この膨大な文字データを活用したくずし字解読用のAIを開発。古文書の画像を取り込むと、くずし字の上に赤字で現代の文字が表示される。1字の変換に要する時間はわずか1秒。江戸時代の文献では約90％の精度で解読が可能だ。

国立歴史民俗博物館（歴博）などが進めている古文書解読のプロジェクト「みんなで翻刻」もCODHが開発したAIなどを採用している。プロジェクトは現在、5000人超の歴史愛好家らが参加し、特設サイトにアップされた古文書の活字化を手分けして行うものだが、AIがくずし字の読み方の候補を提示し、解読のつまずきを解消してくれる。

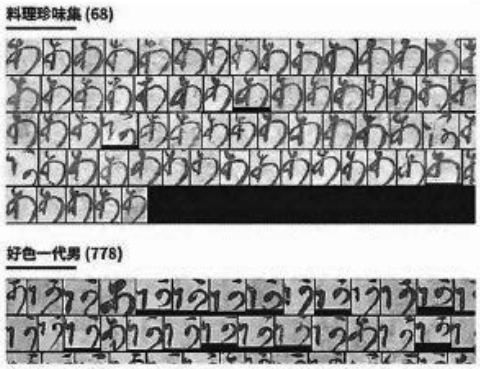
歴博の橘本雄太助教は、「AIの支援により、未経験者でもくずし字解読に参加する敷居を下げる効果がある」と強調。くずし字に興味を持つ人が増えることで、より多くの古文書の解読につながると期待する。

◇

「AIによる解読の進歩で歴史学者は必要なくなるのでは、と言われることもあります」。国文研の山本教授は苦笑いする。だが、正確な解読には、最終的にAI翻訳をチェックする熟練した研究者が必要。伝統的な歴史学の手法、最新の情報学の手法の連携が歴史研究のトレンドと言える。

昨年11月には、この分野に携わる研究者が一堂に会したシンポジウム「AIがくずし字を読む時代がやってきた」が東京都内で開催された。木簡の文字をデータベース化する奈良文化財研究所、古文書の花押（サイン）をデータベース化する東京大史料編纂所など、各研究機関の取り組みの進展が報告されたほか、国内外の研究者らが参加した、より正確なくずし字認識のAIを開発する国際大会の成果も紹介された。現代の日本人にとってなじみが薄くなった古文書へのアクセスを向上させる取り組みが、世界的規模で進む。

「AI開発を通じ、海外の研究者にくずし字に関心を持ってもらうことで、海外に渡った古文書や絵図などの文字の解読にもつながる」。山本教授は研究の国際的な広がりに期待する。


料理珍味集 (68)

好色一代男 (778)

「日本古典籍くずし字データセット（国文研ほか所蔵／CODH加工）」に登録された平仮名の「あ」。「料理珍味集」「好色一代男」など江戸時代の文献から抽出されており、現行の「あ」に近いものから、「阿」が元になった変体仮名まで様々な形がある



「みんなで翻刻」で、解読のサポート用に採用されたAI。複数の候補文字を提示してくれる



CODHが開発したAI「KuroNet」によって現代の文字に解読された「徒然草」（国文研所蔵）

令和2(2020)年6月25日　日経新聞夕刊

図書館 脱「来館」探る

電子書籍貸し出し

古文書デジタル化

新型コロナウイルスの感染拡大で休館が相次いだのを機に、各地の図書館や資料館がサービスを充実させている。デジタル文献をオンライン上で公開したり、ドライブスルー方式で貸し出しをしたり。コロナ後の「新常態」を見据え、利用者の来館や滞在を前提とした機能の見直しが進む。

「今だからこそ、私たちのウェブサイトへ。様々な資料で学べます」。国文学研究資料館（東京都立川市）は閲覧室が閉館中だった4月、ロバート・キャンベル館長の動画メッセージとともに、「日本古典と感染症」と題して多くの所蔵資料を紹介した。デジタル文献への月間アクセス数は約40万件と前年同月の約24万件を大幅に上回った。

同館は古い文献を写真撮影し画像データとしてインターネット上に載せて研究につなげる事業を2014年に始めた。

山本和明・古典籍共同研究事業センター長は「日本は人文学系を中心に文献のデジタル化が遅れている。ネット閲覧できれば地方や海外からも利用しやすい。これを機にデジタル化がもっと広がれば」と期待する。

東京都狛江市立図書館はコロナによる図書館の利用制限を機に補正予算で電子図書館サービスを導入した。約7千タイトルの資料から1人2点まで借りられる。借りた電子書籍は個人のパソコンやタブレット端末などで閲覧する。

同館は一時休館を経て再開した後も閲覧席は撤去して長時間の滞在を控えるよう呼びかけている。利用制限が続く中、6月10日にサービスを始めると開始後2週間で約3800件の利用があり、評判は上々という。

茨城県常総市立図書館は5月中旬から毎週末、市内の小中学生向けにドライブスルー方式での貸し出しを始めた。

図書館検索サイトを運営する「カーリル」の吉本龍司代表は「全国的な休館が続き、来館主体の図書館サービスの問題点が浮き彫りになった。感染第2波でまた休館になる恐れもあり、早急に対応すべきだ」と指摘する。



古文書のデジタル化のため撮影する国文学研究資料館の職員

令和2(2020)年6月30日　NHKWORLD NEWSROOM





令和2(2020)年7月9日　web版美術手帳

美術手帖　MAGAZINE　EXHIBITIONS　ARTISTS　MUSEUMS

HOME > MAGAZINE > NEWS > HEADLINE > 化粧文化に関する浮世絵と古典籍300点をオンライン公開へ。...

NEWS / HEADLINE - 2020.7.9

化粧文化に関する浮世絵と古典籍300点をオンライン公開へ。ポーラ文化研究所が2021年にローンチ

1976年、化粧を学術的に探求することを目的に設立されたポーラ文化研究所。同研究所に所蔵される化粧や髪型、装いなどに関する資料をオンラインで公開するプログラムが、2021年春にローンチされる。国文学研究資料館と協力して実現する同プログラムでは、江戸時代を中心とした約300点の古典籍と浮世絵が同資料館によって運営される古典籍ポータルサイト「新日本古典籍総合データベース」で公開される。



美艶仙女香　ポーラ文化研究所所蔵資

令和2(2020)年7月27日
東京新聞（夕刊）

5　☆　2020年（令和2年）7月27日（月曜日）

国文学研究資料館（東京都立川市）は、江戸時代以前の書籍約五十万点を収載した総合目録『国書総目録』のPDF版を作り、インターネット上で公開している。書籍では本編八巻と著者別索引一巻から成る大部を、手軽にダウンロードして見られるとあって、四月の公開開始から二カ月で四万五千件を超すアクセスを集めている。

『国書総目録』は、江戸時代末の一八六七（慶応三）年までに日本人が著作、編集、翻訳した書籍の総合目録。全国の公私立図書館や大学付属図書館、文庫にある蔵書の調査を基に、書名や分類、著者名、成立年代などを掲載しており、江戸以前の研究には欠かせない。

江戸以前の書籍50万点の目録

電子版で手軽に閲覧



書籍の『国書総目録』
＝国文学研究資料館提供

同館の初代館長を務めた市古貞次・東大名誉教授や堤精二・お茶の水女子大名誉教授らが編さんに当たり、岩波書店が一九六三～七六年に刊行した。同館は二〇〇三年に岩波書店から著作権の有償譲渡を受け、今回、八九～九一年に刊行された『国書総目録補訂版』のPDFを作成、公開した。

国文研公開「古典に興味持つ人が増えれば」

同館の山本和明・古典籍共同研究事業センター長は「ダウンロードして端末に入れておけば、いつでもどこでも活用できる。見るだけでも非常に楽しいので、古典に興味を持ってくれる人が増えるきっかけになれば」と話す。

『国書総目録』は、同館ウェブサイトの「新日本古典籍総合データベース」のページで見ることができる。（北爪三記）



◀『国書総目録』PDF版のページから

文化

令和2(2020)年10月4日
河北新報オンラインニュース

河北新報 ONLINE NEWS

東北ニュース　全国・海外ニュース　スポーツ　震災・防災

トップ > 東北ニュース > 記事

宮城のニュース

宮城　文化・暮らし　ツイート　シェア

東北大図書館が「狩野文庫」デジタル化　江戸学の宝庫、第1弾２３２点を公開

東北大付属図書館は、所蔵する「狩野文庫」の資料約２万点をデジタル公開する。明治期の思想家・教育者狩野亨吉（かのうこうきち）の旧蔵書で、９月２４日に第１弾として江戸期を中心とした古典籍２３２点をネット上で閲覧できるようにした。文庫は「江戸学の宝庫」として国内外の研究者から注目を集めており、デジタル化で閲覧希望者の利便性を高める。



デジタル公開された狩野文庫の資料の一つ「四季献立式」

拡大写真



狩野亨吉

拡大写真

国文学研究資料館（東京）が運営するウェブサイト「新日本古典籍総合データベース」で公開する。江戸期の季節行事の供え物を描いた「四季献立式」、徳川吉宗の命で編さんされたとされる刀剣カタログ「名物刀剣記」などを画像ファイルで閲覧できる。

狩野は現在の大館市に生まれ、旧制一高校長などを務めた。旧蔵書は文学や哲学、自然科学など幅広い分野に及び、「古典の百科全書」とも称される。所蔵する東北大図書館には各地から研究者らが訪れていた。

デジタル化によって、資料の文字を拡大して読むことも可能になった。東北大は２０２４年度にかけて、狩野文庫の江戸期を中心とした蔵書を順次、画像ファイルを通じて閲覧できるようにする計画だ。

同図書館は「研究に役立ててもらうとともに、一般市民にも気軽に古典資料に親しんでほしい」とアピールしている。

令和2(2020)年8月30日
NHKBS1スペシャル





150萬字形免費下載！東亞最大規模圖庫上線

華視 2020年10月13日 下午4:57　1則留言

歷史文字資料庫統合檢索系統

台北市 / 洪立文 綜合報導

中研院與日本合作建置「歷史文字資料庫統合檢索系統」今(13)日正式啟用，未來使用者可免費下載150萬件高解析度文字圖像，為東亞規模最大的文字圖像資料庫。



聯合新聞網

150萬字形免費下載！ 東亞最大規模文字圖像資料庫啟用

2020-10-13 13:49 聯合報 / 記者葉冠妤/台北即時報導

歷史文字資料庫統合檢索系統

查詢文字：

中研院歷史語言研究所與數位文化中心自2019年起開發「簡牘字典—史語所藏居延漢簡資料庫」，今年進一步與日本五大學研機構合作建置東亞規模最大的「歷史文字資料庫統合檢索系統」，今天正式啟用。截圖自中研院

中研院歷史語言研究所與數位文化中心自2019年起開發「簡牘字典—史語所藏居延漢簡資料庫」，今年進一步與日本五大學研機構合作建置東亞規模最大的「歷史文字資料庫統合檢索系統」，今天正式啟用。

透過單一入口網即可跨國、跨機構檢索橫跨千年的高畫質歷史文字圖像。中研院表示，目前整合的5個資料庫約有150萬件高解析度文字圖像，均依創用CC條款釋出，且可免費下載，進行加值利用。

令和2(2020)年10月13日
フォーカス台湾
中華電視公司
聯合新聞網
科技新報

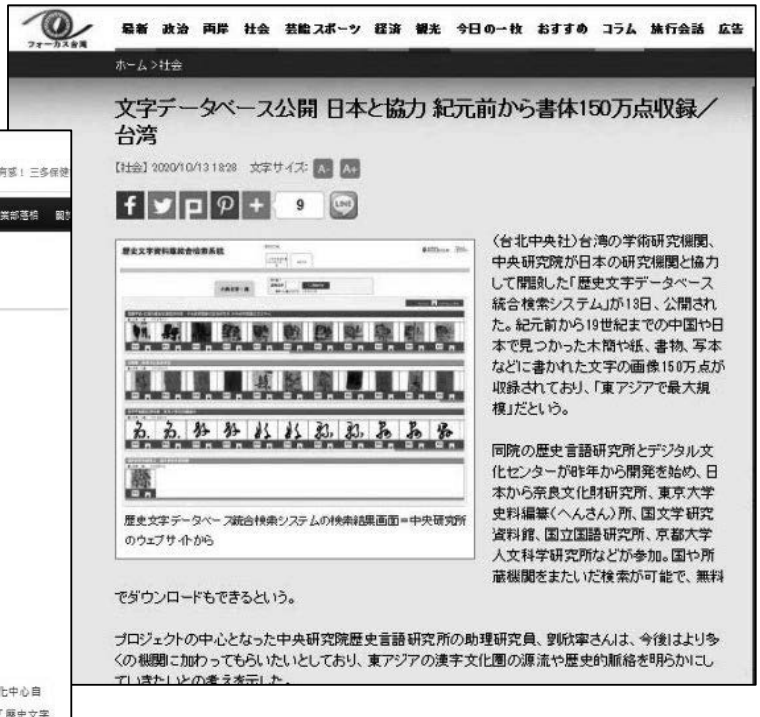


TechNews 科技新報

睡個好覺，輕鬆擁有好氣色好體力

150 萬字形一次蒐齊，東亞最大規模文字圖像資料庫上線啟用

開放資料（open data）與數位典藏（digital archive）讓史料研究變得更簡單！中研院歷史語言研究所與數位文化中心自2019 年起開發「簡牘字典—史語所藏居延漢簡資料庫」，今年進一步與日本 5 大學研機構合作建置東亞規模最大的「歷史文字資料庫統合檢索系統」，於今天正式啟用，使用者透過單一入口網即可跨國、跨機構檢索橫跨千年的高畫質歷史文字圖像，目前整合的 5 個資料庫約有 150 萬件高解析度文字圖像，均依創用 CC 條款釋出，且可免費下載，進行加值利用。



フォーカス台湾

最新 政治 両岸 社会 芸能スポーツ 経済 観光 今日の一枚 おすすめ コラム 旅行会話 広告

ホーム＞社会

文字データベース公開 日本と協力 紀元前から書体150万点収録／台湾

【社会】2020/10/13 18:28　文字サイズ: A- A+

歴史文字データベース統合検索システムの検索結果画面＝中央研究所のウェブサイトから

〈台北中央社〉台湾の学術研究機関、中央研究院が日本の研究機関と協力して開設した「歴史文字データベース統合検索システム」が13日、公開された。紀元前から19世紀までの中国や日本で見つかった木簡や紙、書物、写本などに書かれた文字の画像150万点が収録されており、「東アジアで最大規模」だという。

同院の歴史言語研究所とデジタル文化センターが昨年から開発を始め、日本から奈良文化財研究所、東京大学史料編纂（へんさん）所、国文学研究資料館、国立国語研究所、京都大学人文科学研究所などが参加。国や所蔵機関をまたいだ検索が可能で、無料でダウンロードもできるという。

プロジェクトの中心となった中央研究院歴史言語研究所の助理研究員、劉欣寧さんは、今後はより多くの機関に加わってもらいたいとしており、東アジアの漢字文化圏の源流や歴史的脈絡を明らかにしていきたいとの考えを示した。

讀賣新聞 オンライン

ニュース ＞ 地域 ＞ 関西発 ＞ ニュース

古文書の漢字を横断検索…日本と台湾の6機関

2020/10/14 06:00

奈良文化財研究所や台湾の中央研究院など日台の６研究機関は１３日、それぞれが蓄積する漢字の画像データを横断検索できるデータベースの運用を始めた。紀元前後から１９世紀までに、日本や中国で木簡や古文書に書き記された漢字（約７０００種、計約１５０万件）が対象で字形の比較が容易になり、文字の成り立ちの研究などに活用できる。

６機関は今年３月、漢字の画像データを共有することに合意し、「史的文字データベース連携システム」として運用をスタート。漢字を１文字入力すると、各機関が集積してきた文字の画像が一覧表示される。

誰でも自由に利用できるほか、出典を明示すれば、画像の二次利用もできる。同システムは、専用ウェブサイト（https://mojiportal.nabunken.go.jp/）から。

令和2(2020)年10月14日
読売新聞オンライン

奈良テレビ放送

研究機関が連携　膨大な「文字」のデータを一般公開

2020/10/13 18:45 (JST) | 10/13 18:47 (JST) updated　©奈良テレビ放送株式会社

奈良文化財研究所は、国内と台湾の研究機関などと連携し、各機関で蓄積した膨大な文字の画像データを共有し、ポータルサイトを通じて、一般に公開すると発表しました。



これは、各研究機関の合同記者会見で明らかにしたものです。参加するのは、奈良文化財研究所のほか、東京大学史料編纂所など国内と台湾のあわせて６つの研究機関です。それぞれの専門分野である文字を一文字ずつデータ化した１５０万件余りの画像データを一般公開し、横断検索できるようにしました。

令和2(2020)年10月13日
奈良テレビ放送

令和3(2021)年1月4日
サイエンスポータル

Science Portal

サイエンスクリップ

古代日本が愛した幻の味よ再び 「あまづら」復元への挑戦

2021.01.04

草下健夫 ／ サイエンスポータル編集部

芥川龍之介「芋粥（いもがゆ）」の冒頭、それはチラリと登場する。

「五位は五六年前から芋粥と云ふ物に、異常な執着を持つてゐる。芋粥とは山の芋を中に切込んで、それを甘葛（あまづら）の汁で煮た、粥の事を云ふのである。当時はこれが、無上の佳味として、上は万乗の君の食膳にさへ、上せられた。従つて、吾五位の如き人間の口へは、年に一度、臨時の客の折にしか、はいらない」

同作は平安時代の説話集「今昔物語集」を基にしており、芋粥を飽きるほど口にしたいと願った男の滑稽な顛末（てんまつ）を描いている。芋粥に使われる「甘葛」は、贅沢（ぜいたく）な甘味料として古代の日本人が味わい続けたものの、砂糖の普及とともに幻の味になってしまった。いったい何が原料で、どんな味がしたのだろう。答えを求め、異分野に飛び込んだ研究者が地道に謎解きを続けている。

「崩し字お手上げ」、文理融合研究へ

神松（こうまつ）幸弘さんは立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構の助教を務める研究者。専門は環境生態学で、主にサンショウウオの生態という。個人的な関心から、かつて住んでいた京都府向日（むこう）市内の街おこしの会の世話人をしている。そこで5年ほど前、芥川作品に出てくる芋粥が話題に上った。芋粥はお粥というより、デザートのようだという。「芋粥に使う甘葛とは、どんなものだろう」と話に花が咲いた。



神松幸弘さん



興味を抱いた神松さんは、古典籍の読み込みに自力でトライしたものの、崩し字が読めずにお手上げ。そこで「ネットで探して、人柄の優しそうな」国文学研究資料館教授の入口敦志さんに連絡を取った。快諾を受け、失われた古代の味を探る文理融合の共同研究が始まった。サンショウウオとは分野が全く違うようだが、「人間と自然の関係に興味がある。甘葛は食料資源であり、広くいうと環境生態学と強く関連して

令和3(2021)年1月13日
日本経済新聞オンライン

日本経済新聞

トップ 速報 マネー 経済・金融 政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際 オピニオン

東大など、東アジア最大の漢字字形データベース公開

文化財束 ＋フォローする

2021年1月13日 2:00

保存

木簡や版本などの歴史資料に書かれたくずし字をはじめとする漢字を「史的文字」という。中国では王朝の変遷とともに漢字の形が変化し、様々な異体字も存在する。東京大学史料編纂所など国内外の6つの研究機関はこうした多様な来歴のある漢字を一括検索できる「史的文字データベース連携システム」を開発、このほどインターネット上に公開した。



データベースは中国の漢王朝の時代から日本の近世までの字形画像約150万件を収録。東アジアの漢字文化圏で最大の文字コレクションとなる。

システムはいたってシンプルだ。例えば「書」という字で検索すると、中国や日本に残る様々な時代の字形サンプルが一覧で確認できる。データは2次利用可能とし、研究者以外でも気軽に参照することができる。

システムを共同開発した研究機関のうち、東大史料編纂所は「電子くずし字字

令和3(2021)年1月20日
朝日新聞デジタル

朝日新聞 DIGITAL

速報 朝刊 夕刊 運載 特集 ランキング ...

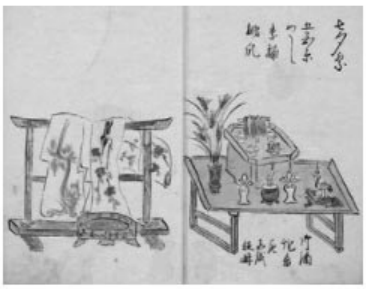
トップ 社会 経済 政治 国際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化・芸能

朝日新聞デジタル ＞ 記事

「江戸学の宝庫」狩野文庫をデジタル化　東北大図書館

高橋昌宏　2021年1月20日 10時30分

シェア ツイート list B! ブックマーク 1 メール 印刷



「四季献立式」＝東北大図書館提供



【宮城】 秋田県 出身の狩野亨吉（かのうこうきち、1865～1942）は旧制一高の校長などを務める一方、古書の収集家としても知られた。狩野の蔵書10万8千冊を収める 東北大 図書館などは現在、デジタル化を進めており、インターネットでの公開も始めた。

東北大 図書館の「狩野文庫」は、 江戸時代 末までに作られた古典の国内有数のコレクションで、内容は文学、哲学、科学、兵学など幅広く、「江戸学の宝庫」「古典籍の百科全書」とも評される。

東北大 は、 国文学研究資料館 （東京）

令和3(2021)年4月16日　web版美術手帖

美術手帖　PREMIUM　MAGAZINE　EXHIBITIONS　ARTISTS

HOME > MAGAZINE > NEWS > HEADLINE > 化粧に関する浮世絵と古典籍がオンラインで閲覧可能に。ポーラ...

NEWS / HEADLINE - 2021.4.16

化粧に関する浮世絵と古典籍がオンラインで閲覧可能に。ポーラ文化研究所がデータベースを公開

ポーラ文化研究所が国文学研究資料館と協力・連携し、同研究所が所蔵する古典籍176冊と浮世絵349点の高精細デジタル画像を初めてオンラインで一括公開するデータベースが4月16日に公開した。









化粧に関する研究活動を行うポーラ文化研究所が昨年発表した、同研究所に所蔵される化粧や髪型、装いなどに関する資料をオンラインで公開するデータベースが4月16日に公開した。

同プログラムは、国文学研究資料館と協力・連携し、同研究所が所蔵する古典籍176冊と浮世絵349点の高精細デジタル画像を初めてオンラインで一括公開したもの。ユーザーはインタネットを通じて、化粧文化に関する大規模な資料群を完全無料で検索・閲覧することができる。

令和3(2021)年4月19日　WorkMaster

WorkMaster　2021年04月28日 (水曜日)

ビジネス　IT・サイエンス　ライフスタイル

ポーラ文化研究所、古典籍・浮世絵の高精細デジタル画像を一括公開

2021年04月19日 12:01



ポーラ文化研究所は、国文学研究資料館と協力・連携し、ポーラ文化研究所が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）176冊と浮世絵349点の高精細デジタル化に取り組み、4月16日に公開した。

ポーラ文化研究所は、化粧を美しさの文化としてとらえ、学術的に探求することを目的として、1976年5月15日に設立された。以来、日本と西洋を中心に、古代から現代までの化粧文化に関わる資料の収集と調査研究を行っている。

同研究所が所蔵する古典籍・浮世絵の高精細デジタル画像の一括公開は今回が初。2019年より両機関が協力・連携して進めたこの取り組みにより、化粧文化に関する大規模な資料群のインターネットを通じた検索・閲覧が「いつでも、どこでも、誰でも、そして無料で」可能になった。化粧文化に関する資料の大規模な公開は、化粧文化への理解を広げるとともに、江戸時代を中心とする風俗・文化史研究、海外からの日本文化理解の促進に寄与することが期待される。また、「昨今の新型コロナウイルス感染症による社会・経済に対する影響により、急激にテレワークへのニーズが高まった。大学等の教育機関における遠隔授業をはじめとして、信頼できる文化学術資源を必要とするものも多くある」という状況の中、今回の公開はウィズ・ポストコロナ時代におけるニーズにも大いに資するものと考えている。

公開日は4月16日。公開サイトは、ポーラ文化研究所「蔵書データベース」、「化粧文化データベース」、国文研「新日本古典籍総合データベース」。

令和3(2021)年4月30日　読売新聞朝刊

化粧、装い ネットに資料

ポーラ文化研究所、国文研 浮世絵など525点



三代歌川豊国・国久の浮世絵「江戸名所百人美女　阿寿かやま」

ポーラ文化研究所（品川区）と国文学研究資料館（立川市）は、同研究所が所蔵する浮世絵など計525点の電子化に共同で取り組み、今月、インターネット上のデータベースに公開した。誰でも無料でアクセスでき、女性の化粧や装いにまつわる貴重な資料を高精細な画像で閲覧できる。

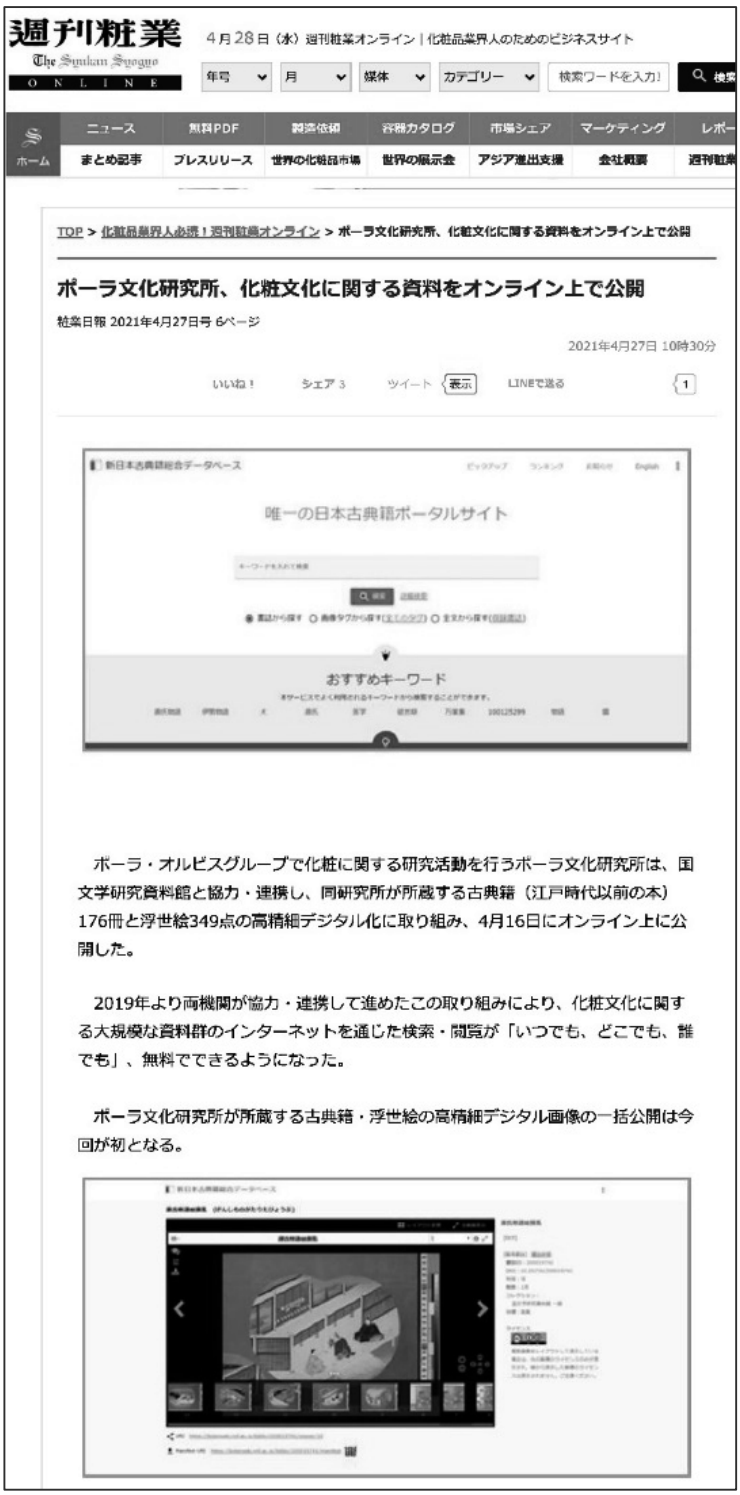
化粧に関する研究を行う同研究所と国文研は2019年から、江戸期を中心とした浮世絵349点、古典籍（書籍や記録文書）176点の電子化を進めてきた。日本の化粧文化を国内外で広く知ってもらうとともに、経年劣化が懸念される文化財を後世に残す狙いがある。コロナ禍で急速にオンライン化する教育現場での活用も期待できる。

公開された三代歌川豊国・歌川国久の浮世絵「江戸名所百人美女　阿寿かやま」では、桜の名所・飛鳥山（今の北区）でござの上に立ち、化粧直しをする粋な着物姿の女性が描かれている。遊郭の女性たちが慌ただしく身支度する様を描いた浮世絵や、上流階級式の眉化粧の方法や道具を詳細に記した古典籍もある。

同研究所研究員の川上博子さんは「画像を拡大すれば、描かれた女性の鮮やかな口紅の色や毛の一本一本まで見て取れる。カラフルでクリアな画像で貴重品を楽しんでほしい」と話した。

閲覧は国文研「新日本古典籍総合データベース」内のページ（https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-pohd.html）や、同研究所の「化粧文化データベース」（浮世絵）、「蔵書データベース」（古典籍）へ。

令和3(2021)年4月27日　週刊粧業



週刊粧業 The Syukan Syogyo ONLINE

4月28日（水）週刊粧業オンライン｜化粧品業界人のためのビジネスサイト

年号 / 月 / 媒体 / カテゴリー / 検索ワードを入力 / 検索

ホーム / ニュース / 無料PDF / 調査依頼 / 容器カタログ / 市場シェア / マーケティング / レポー

まとめ記事 / プレスリリース / 世界の化粧品市場 / 世界の展示会 / アジア進出支援 / 会社概要 / 週刊粧業

TOP > 化粧品業界人必読！週刊粧業オンライン > ポーラ文化研究所、化粧文化に関する資料をオンライン上で公開

ポーラ文化研究所、化粧文化に関する資料をオンライン上で公開

粧業日報 2021年4月27日号 6ページ

2021年4月27日 10時30分

いいね！ シェア 3 ツイート 表示 LINEで送る 1

ポーラ・オルビスグループで化粧に関する研究活動を行うポーラ文化研究所は、国文学研究資料館と協力・連携し、同研究所が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）176冊と浮世絵349点の高精細デジタル化に取り組み、4月16日にオンライン上に公開した。

2019年より両機関が協力・連携して進めたこの取り組みにより、化粧文化に関する大規模な資料群のインターネットを通じた検索・閲覧が「いつでも、どこでも、誰でも」、無料でできるようになった。

ポーラ文化研究所が所蔵する古典籍・浮世絵の高精細デジタル画像の一括公開は今回が初となる。

令和3(2021)年7月8日
web版美術手帖

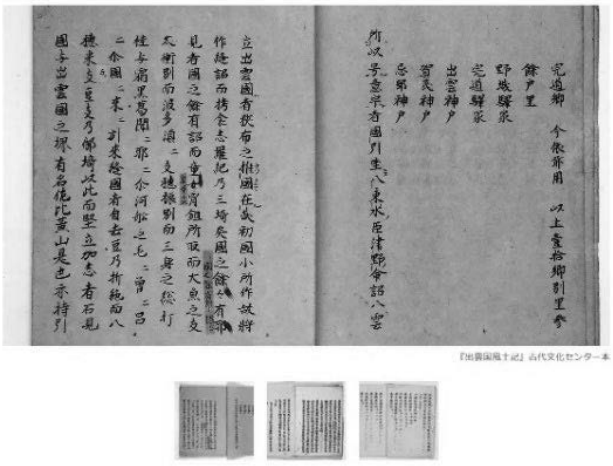
美術手帖　PREMIUM　MAGAZINE　EXHIBITIONS　ARTISTS　MU

HOME > MAGAZINE > NEWS > HEADLINE > 約1300年前につくられた『出雲国風土記』。島根県古代文化...

NEWS / HEADLINE - 2021.7.8

約1300年前につくられた『出雲国風土記』。島根県古代文化センター所蔵の写本がオンラインで公開

島根県古代文化センターが所蔵する『出雲国風土記』の写本画像のうち3点が、新日本古典籍総合データベースで公開された。



『出雲国風土記』古代文化センター本

島根県古代文化センターが所蔵する『出雲国風土記』の写本。そのうち3点が、新日本古典籍総合データベースで公開された。

令和3(2021)年7月21日　朝日新聞（夕刊）

■源氏物語の写本などデジタル化　国文学研究資料館と東海大学付属図書館は、東海大が所蔵する江戸時代以前に書かれた古典籍などのコレクション「桃園文庫」のうち、源氏物語の写本や伊勢物語、土佐日記など王朝文学に関する資料約2千点を3年計画でデジタル化し、国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開すると発表した。

桃園文庫は、源氏物語の研究に大きな足跡を残した国文学者、池田亀鑑（1896～1956）の収集品。室町末期の写本など重要な資料が含まれる。新日本古典籍総合データベース（https://kotenseki.nijl.ac.jp）は登録なしに、無料で利用できる。

令和3(2021)年7月22日　毎日新聞

出雲国風土記：出雲国風土記の写本公開　ネットで３点　県古代文化センター　／島根

毎日新聞　2021.07.22　地方版／島根　26頁　(全579字)

県古代文化センター（松江市）は、県教育委員会が所蔵する「出雲国風土記」の写本３点について、インターネット上で公開を始めた。同センターの吉松大志・主任研究員は「昔の人の研究の跡が垣間見える。研究者だけでなく、一般の人にも触れてほしい」と話している。

出雲国風土記は現存する風土記の中で唯一の完本で、日本固有の精神を明らかにしようとする国学が広まった江戸時代に多くの写本が作られた。ネット公開した写本も江戸時代のもので、▽他の写本との違いなどを記した付箋が約３００カ所貼られた古代文化センター本▽藤原北家の流れをくむ公家「勧修寺（かじゅうじ）」の蔵書印があり、「豊後国風土記」と合冊になっている勧修寺家本▽国文学者、菅野雅雄氏の蔵書だったもので、朱墨の書き込みや修正が多数ある菅野本――の３点。

同センターのホームページ（ｈｔｔｐｓ：／／ｗｗｗ．ｐｒｅｆ．ｓｈｉｍａｎｅ．ｌｇ．ｊｐ／ｂｕｎｋａｚａｉ／ｋｏｄａｉｓｅｎ．ｈｔｍｌ）上に、この３点の画像につながるリンクがあり、国文学研究資料館が運営する「新日本古典籍総合データベース」上で閲覧できる。

今後は３点以外の写本の画像も、原本の所蔵者の許可が得られればネットで公開するという。同センターは、これまで１００点以上の出雲国風土記の写本を調査。うち約８０点の画像は申し込めば同センターで閲覧できる。【目野創】

毎日新聞

令和3(2021)年8月5日　朝日新聞DIGITAL

出雲風土記の写本ウェブ公開　県古代文化センター

大村治郎　2021年8月5日 9時30分

シェア ツイート list ブックマーク 1 メール 印刷



「出雲国風土記」古代文化センター本＝島根県古代文化センター提供



島根県 古代文化センター（ 松江市 殿町）は所蔵する「出雲国風土記」の写本3冊の画像の公開を、 国文学研究資料館（ 東京都 立川市 ）が運営するウェブサイト「新日本古典籍総合データベース」で始めた。出雲国風土記に親しみ、活用してほしいという。

出雲国風土記は 奈良時代 に編集された地誌で、現存する風土記では唯一、ほぼ完本の状態で残っていることで知られる。

同センターは約30年にわたって全国にある100点以上の出雲国風土記の写本を調査・撮影してきた。このうち約80点は事前に申し込めばセンターで閲覧できる。だが、 新型コロナウイルス の影響で県外などからの来館が難しいことや、所蔵資料をデジタル化する動きが各地で進むことから、写本の画像を膨大な古典籍の集積で知られる 国文学研究資料館 のデータベース上で公開することにした。

公開された写本は、古代文化センター本▽勧修寺家（かじゅうじけ）本▽菅野本の3冊（いずれも県教委所有、県立古代出雲歴史博物館保管）。古代文化センター本は江戸前期（17世紀半ばごろ）の書写で、他の写本との違いなどを記した約300点の付箋（ふせん）が貼られている。県内では日御碕神社所蔵本（1634年書写・奉納）に次ぐ古い写本。勧修寺家本は江戸中期（18世紀ごろ）の書写。公家の勧修寺家の蔵書印がある。菅野本は 江戸時代 の書写で、 国文学 者・菅野雅雄さんの旧蔵本。朱墨による多数の書き込みや修正がある。

同センターの吉松大志（ひろし）・主任研究員は「出雲国風土記には約1300年前の出雲の様子が詳細に記され、歴史学、文学、神話学、 考古学 などに影響を与えている。 江戸時代 の人々も情熱をもって研究してきたことが写本から伝わる。ウェブに公開された画像を活用してほしい」と話す。

写本は古代文化センターのホームページ（ https://www.pref.shimane.lg.jp/bunkazai/kodaisen.html ）から見ることができる。（大村治郎）

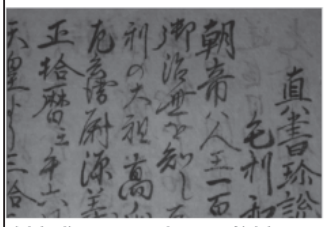
令和3(2021)年8月4日
日刊工業新聞

奈良先端科学技術大学院大学　古文書　画像処理

古文書の裏写りを除去　奈良先端大など、紙傷めず表面の文字抽出するＡＩ処理技術開発

ツイート　シェア 0　LINEで送る

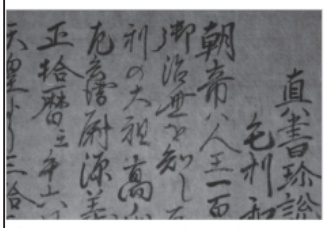
(2021/8/4 12:00)



古文書を普通に読み取ると裏写りする（奈良先端大提供）

奈良先端科学技術大学院大学の向川康博教授と上野友梨大学院生らは国文学研究資料館と共同で、裏写りしてしまう古文書の裏側の文字を消すデジタル技術を開発した。古文書を読み込む際に、黒い紙を敷いて読み込んだデータと白い紙を敷いて読み込んだデータを利用する。古文書を傷めずに表面の情報を抽出し、手書き文字認識などの人工知能（ＡＩ）処理で資料記録を保存しやすくなる。

古文書には裏側に書かれた文字が表からも読める物が少なくない。古来、紙は貴重品で裏紙として再利用されてきた。これがＡＩなどで判読する際にノイズとなってしまう。そこで裏と表の文字を分離するデジタル技術を開発した。



デジタル技術で裏写りを除去（同大提供）

紙の表面で反射する光と、紙を透過して裏面で反射する光を分けて、連立方程式として定式化した。透過光は黒い紙や白い紙を敷いて読み込むと反射率が変わる。この反射率の比を利用して連立方程式を解くと表面の反射光の情報だけを取り出せる。実際、古文書に適用すると裏面の情報を取り除けた。計算量が小さいため大規模処理に向く。

古文書に限らず、地域の歴史資料が洪水などで水没し、紙が固着して剥がせなくなるといったケースがある。そのため、裏写りと表面の分離ができると情報を保存しやすくなる。従来、くっついた紙を剥がして復元する作業はコストが大きかった。今後は書物の裏面からの情報抽出技術を開発する。

(2021/8/4 12:00)

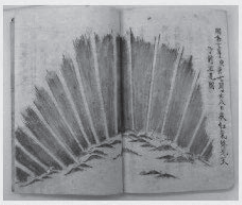
令和3(2021)年8月　文部科学省
『令和３年版科学技術・イノベーション白書』
第１部第２章　３５ページ



コラム1-5　古典籍の分析がもたらす宇宙空間物理学の新発見

太陽で爆発が起こり、大量のプラズマ状態の物質が地球に到達すると、地球の磁場が一時的に弱くなる「磁気嵐」が起こります。この磁気嵐が発生すると、大規模な停電や人工衛星の故障といった実被害に結びつく危険性があるとされ、「宇宙災害」という言葉も生まれています。

大きな磁気嵐が発生すると、低緯度の地域でもオーロラが見られることがあります。史学の研究者が京都の神社に所蔵されていた日記を調査し発見した「オーロラが天の川を貫いた」という趣旨の記述などから、宇宙空間物理学の研究者が京都から見たオーロラを再現しました。その結果、同日に発生したオーロラを描いたものとして従来知られていた古文書『星解』に描かれているものとほぼ同じ形が得られました。このことは、このとき京都から見えたのは、遠くの空に輝くオーロラの末端ではなく、京都の天頂近くまで広がった巨大なオーロラだったことを示しており、この日記が書かれた1770年（明和７年）に発生し、このオーロラを起こした磁気嵐が、それまで史上最大と言われていた1859年（安政６年）のものと同等か、更に規模の大きなものであったという宇宙空間物理学における新たな発見を生み出しました。



『星解』に描かれた1770年（明和７年）のオーロラ
松阪市郷土資料室所蔵。三重県松阪市提供

古典籍を基にした別の研究では、過去2000年間で、日本からオーロラが最も観測しやすい時期であった12世紀から13世紀に記された藤原定家の日記『明月記』に記録された、「赤気」（オーロラの意）の記述や、中国の歴史書『宋史』に度々記録されている「赤気」の記録と、樹木年輪の炭素同位体比の測定データを比較することで、11年周期で太陽活動が活発になる時期に、長引く赤いオーロラが多く観測されていることが明らかとなりました。

人文・社会科学の研究者と自然科学の研究者が協力することで明らかになったこうした研究成果は、将来起こりうる「宇宙災害」への具体的な対策を立てる上でも重要です。

『明月記』と『宋史』の記述から、平安・鎌倉時代における
連発巨大磁気嵐の発生パターンを解明（平成29年3月発表）
https://www.nipr.ac.jp/info/notice/20170321.html

江戸時代のオーロラ絵図と日記から明らかになった
史上最大の磁気嵐（平成29年9月発表）
https://www.nipr.ac.jp/info/notice/20170920.html

アプリ「みを」関係

令和3(2021)年8月31日
ケータイ Watch
ITmedia NEWS
Ledge.ai
ねとらぼ
GIGAZINE
TechCrunch Japan


GIGAZINE

2021年08月31日 21時00分

AIくずし字認識アプリ「みを(miwo)」を使ってみた


AIで“くずし字”を解読するスマホアプリが無料公開　コンペ1位の認識モデル採用

8/31(火) 12:56 配信 6

ITmedia NEWS

人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）は8月30日、古文書に書かれた「くずし字」をAIで解読するスマートフォン（iOS／Android）向け無料アプリ「みを」を公開した。元のくずし字と変換後の文字を比較でき、古文書に慣れてない人の理解を手助けするという。

AIが認識したくずし字

画像などをアプリで読み
を強調表示する機能や変
える。

AIの学習には、国文学
が開発したくずし字認識
うプラットフォーム「K
たtascj氏の認識モデルを
め、違う時代の資料では

想定する用途について
字が書いてあるかだけで
間で多くの資料の内容を


ケータイ Watch

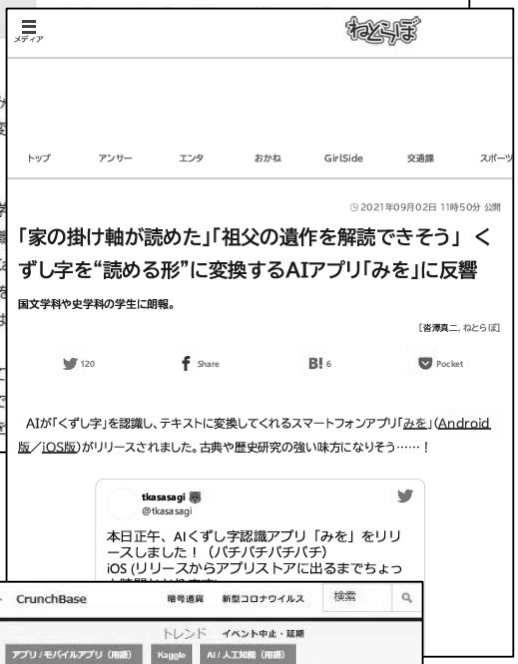
ニュース

機械学習で古文書のくずし字を読み取れるアプリ「みを」、正式公開

関口 聖　2021年8月31日 06:00

ROIS-DS人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）は、スマートフォンアプリ「みを（miwo）」の提供を開始した。

利用料は無料。機械学習により、古くから伝わる文書に用いられる「くずし字」を認識してくれる。


ねとらぼ

トップ　アンサー　エンタ　おかね　GirlSide　交通課

2021年09月02日 11時50分 公開

「家の掛け軸が読めた」「祖父の遺作を解読できそう」 くずし字を“読める形”に変換するAIアプリ「みを」に反響

国文学科や史学科の学生に朗報。

[吉澤真二, ねとらぼ]

120　Share　B! 6　Pocket

AIが「くずし字」を認識し、テキストに変換してくれるスマートフォンアプリ「みを」（Android版／iOS版）がリリースされました。古典や歴史研究の強い味方になりそう……！

tkasagi @tkasagi

本日正午、AIくずし字認識アプリ「みを」をリリースしました！（パチパチパチパチ）
iOS（リリースからアプリストアに出るまでちょっ


Ledge.ai

Hot Topics
注目のキーワード

Article Theme
テーマ別カテゴリ

AI（人工知能）ニュース

2021.08.31 TUE

AIで古典のくずし字を現代の文字に1枚あたり数秒で変換する無料アプリ、開発者はタイ出身の研究者

画像は「4分でわかる「みを」アプリの使い方」より


TC

トピックス　イベント　CrunchBase

江戸時代のくずし字をAIにより文字認識し現代の書体に変換（翻刻）するアプリ「みを」をCODHが無料公開

2021年8月31日 by tetsuokanai

データサイエンス共同利用基盤施設（ROIS-DS）人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）は8月30日、江戸時代の版本に書かれているくずし字を現代の書体に変換（翻刻）するアプリ「みを」（miwo）を無料公開した（Android版・iOS版）。開発者は、カラーヌワット・タリン氏。共同開発者は北本朝展氏とMikel Bober-Irizar氏。共同研究者はAlex Lamb氏、Siyu Han氏。

AIくずし字認識については、CODH開発の「KuroNetくずし字認識サービス（AI OCR）」および「Kaggleくずし字認識コンペ」1位のtascj氏が開発したくずし字認識モデルを用いている。また両AIモデルの学習には、同センターが開発し国文学研究資料館が公開している「日本古典籍くずし字データセット」を利用。Flutterを活用したクロスプラットフォーム開発により、Android・iOS対応アプリを作成した。

令和3(2021)年9月17日
読売新聞　夕刊

鎌倉時代 オーロラ最接近

藤原定家が目撃「赤い光」

国立極地研など

オーロラが現れる地域（オーロラ帯）の過去3000年間の変化を解析したところ、日本から最も見えやすかったのは鎌倉時代の1200年頃だったと、国立極地研究所などのチームが発表した。当時の歌人・藤原定家が日記「明月記」に残した「赤い光」の目撃時期と合致するという。研究結果が国際科学誌に掲載された。

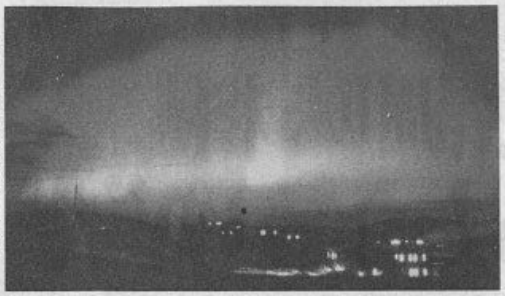
オーロラは、太陽から噴き出した粒子が、地磁気に沿って地球に降り注ぐ際に大気が発光する現象。極域周辺に出現しやすいが、太陽活動が活発になるとまれに北海道などでも観測される。地磁気は時代によって変動し、オーロラ帯の位置もずれ動いてきた。

チームの片岡龍峰（りゅうほう）・同研究所准教授（宇宙空間物理学）らは、世界各地の地層に残留する地磁気のデータなどを基に、オーロラ帯の3000年分の変化を計算し、コンピューターで再現。オーロラを記したとされる文献と照合した。

明月記には、1204年2月の2日間、京都の夜空に「赤気（せっき）」（空の赤い光）が現れ、「山の向こうの火事のようだった」という趣旨の記述がある。過去の研究でオーロラを指すことが明らかになっているが、今回の計算で、オーロラ帯が日本に最も近い時期だったことがわかった。

オーロラ帯が近づいた時期に激しい太陽活動が起こり、京都でもオーロラが観測されたとみられる。

片岡准教授は「京都で見えるほどの大規模なオーロラを伴う地磁気の乱れ（磁気嵐）は、停電被害を招く恐れもある。過去の事例から、どれほどの磁気嵐が起こり得るかを検証したい」と話している。



南極・昭和基地で観測された赤いオーロラ＝国立極地研究所提供



JIJI.COM
新着記事　連載　特集　写真・動画　ランキング　2021年
トップ　政治　国際　社会　経済　スポーツ　エンタメ　地域
Ads by Google
フィードバックを送信　広告表示設定
時事ドットコムニュース ＞ 社会 ＞ オーロラ、鎌倉時代に最接近　藤原定家の「赤気」裏付け―地磁気…
コメント　小　中　大

オーロラ、鎌倉時代に最接近　藤原定家の「赤気」裏付け―地磁気データ基に再現

2021年10月04日05時33分



北海道の北の空に現れた赤いオーロラ＝２００１年１１月２４日、北海道陸別町で撮影（銀河の森天文台提供）

オーロラが見えやすい地域「オーロラ帯」の過去３０００年間の変化を再現した結果、日本からの距離は鎌倉時代の１２００年ごろに最も近かったと、国立極地研究所などが発表した。当時の歌人藤原定家は日記で「赤気」（せっき、赤い光の意味）を京都で目撃したと記しており、研究成果は定家の記述を裏付ける形となった。論文は国際科学誌に掲載された。

（写真特集）ウェザーフォト～世界の気象～

オーロラは、宇宙から電子が地磁気（地球の磁場）に沿って地球に入り込む際、大気中の酸素や窒素と衝突して起きる発光現象。北極や南極の近くで現れやすいが、太陽表面の大規模な爆発が起きると北海道などでも観測される。

地磁気が変化すれば、オーロラ帯もずれる。そのため同研究所の片岡龍峰准教授（宇宙空間物理学）らは、世界各地の地層に残る地磁気データなどを基にして、オーロラ帯の過去約３０００年の変化を調べ再現した。

その結果、オーロラ帯は１２００年ごろ、日本に最接近していたことが判明。定家の日記「明月記」には、１２０４年２月の２日間、「赤気」が目撃されたとの記述がある。従来の研究でも、この時期の京都は地磁気の変化によりオーロラが現れる条件が満たされ、「赤気」が赤いオーロラを示すことが明らかになっていた。今回の成果は、この記述の正しさをさらに裏付けるものという。

片岡准教授は「地磁気の乱れについて過去３０００年分の正確な変化が再現できた。地磁気の大きな乱れは大規模停電を起こす恐れがある。今回の成果は、将来起きうる停電被害の想定を示すハザードマップ作りの第一歩になるのでは」と話している。

令和3(2021)年10月4日
時事ドットコムニュース

令和4(2022)年3月20日
カレントウェアネス

3.5 KuroNet

KuroNet[14]は、2019年に人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）が発表したくずし字資料の自動認識システムである。KuroNetの最大の特徴は、資料画像中の文字位置の特定から文字種の識別まで、文字認識に関わる一連の処理を人間の介在なしに行える点にある。この機能のためにKuroNetはU-Netと呼ばれる医療分野の画像認識のために開発された人工知能（AI）を組み込んでおり、複雑なレイアウトの資料でも高い精度で文字位置を特定することができる[15]。また同年、KuroNetを利用した一般向けサービスとして「KuroNetくずし字認識サービス」も公開された。これによりIIIF形式で公開されている画像であれば、誰でもKuroNetによる文字認識を試すことが可能になった。

3.6 くずし字認識アプリ「みを（miwo）」

CODHが2021年8月に公開した「みを[16]」は、iOSおよびAndroidで利用可能なモバイルデバイス向けのくずし字認識アプリである。開発者のカラーヌワット・タリン氏によると、上述のKuroNetをベースとして、Kaggleくずし字コンペティションで上位を獲得したモデルのアルゴリズムを一部取り入れているという。Twitterでは「みを」のユーザーが「#miwoapp」というハッシュタグを付けて利用レポートを投稿しており、日本画家や家系研究者、筆跡研究家など、様々な背景の人々が「みを」を利用してくずし字資料の解読に取り組んでいることがうかがえる。カラーヌワット・タリン氏はアプリの機能改善を継続することを明言しており、今後の発展が期待される。

Current Awareness Portal
図書館に関する情報ポータル

カレントアウェアネス・ポータルは、図書館界、図書館情報学に関する最新の情報をお知らせする、国立国会図書館のサイトです。

ホーム » カレントアウェアネス » 2022年　（通号No.351-：CA2013-） » No.351　（CA2013-CA2017）　2022.03.20

CA2015 - 動向レビュー：くずし字資料の解読を支援するデジタル技術 / 橋本雄太

PDFファイル

カレントアウェアネス
No.351　2022年03月20日

CA2015
動向レビュー

くずし字資料の解読を支援するデジタル技術

国立歴史民俗博物館：橋本雄太（はしもとゆうた）

1. はじめに

古文書や古記録、古典籍など江戸時代以前に刊行ないし筆記された文字資料の大多数は、現代人にとって解読困難な「くずし字」で書かれている。このため人文情報学分野では、くずし字で書かれた資料の解読を支援あるいは自動化するための取り組みが続けられてきた。本稿では、こうしたくずし字資料を扱う研究開発の現状と課題をまとめる。

そもそも「くずし字」とは、文字資料のうち、楷書の文字の点画を省略した手書き文字、あるいは手書き文字を

東日本大震災　関連情報

「災害」に関する当サイトの記事

報告研究リポート「東日本大震災と図書館」

国立国会図書館　東日本大震災復興支援ページ

地震・災害 関連情報（レファレンス協同データベース）

各地の図書館等の被災情報について（外部リンク）
saveMLAK

Twitterでの情報提供を行っています。
https://twitter.com/ca_tweet

メニュー

- このサイトについて
- 検索の方法
- サイトの更新履歴

「カレントアウェアネス-R」新着記事

- 図書館はウクライナのために何ができるか：図書館の取組の紹介（記事紹介） - 2022-03-29

令和4(2022)年4月10日
奈良新聞

奈良新聞　（第３種郵便物認可）

市民参加し研究発展

木簡 筆順データの蓄積アプリ



奈良文化財研究所が開発した「ナゾルクン」

奈良文化財研究所（奈文研）は、オープンデータ化した木簡の文字画像をなぞることで、筆順データを蓄積するアプリケーション「ナゾルクン」を開発した。市民が参加することで筆順情報を大量に獲得し、研究を発展させることが目的。ゲーム的な要素を取り入れた子ども向けの古代文字の体験・学習アプリも同時に公開している。

ナゾルクン 奈文研が開発

奈文研や東京大学史料編纂（さん）所などが研究開発した、歴史的文字の連携検索ポータルサイト「史的文字データベース連携検索システム」で公開する文字画像を活用して開発した。

市民参加型研究情報蓄積用アプリ「ナゾルクンfor Academic」は、AI（人工知能）を含む文字の自動認識研究を向上させるため、文字そのものの重要情報となる筆順情報を蓄積することが目的。

市民が画像上の文字をなぞることで筆順データを取得。大量のデータを蓄積することで、誤った筆順データは薄まるといい、総体的に正解のデータをAIに学習させる。

研究者だけでは大量のデータ化や取得は困難だったが、興味のある市民に協力してもらうことで広く大量の情報の獲得が期待できるという。

子どもの体験・学習向けも

古代文字体験・学習アプリケーション「ナゾルクンfor Kids」は、文字画像をなぞると筆順が正解かどうかを判定。正解数がカウントされ、その文字が書かれた木簡についての解説も表示される。子どもたちがゲーム感覚で日本の文字文化を体験しながら、学習できるツールとして開発した。

現在は奈文研が所蔵する平城宮跡出土木簡の約150文字が利用可。今後、東京大学史料編纂所の電子くずし字データも連携する予定だ。

奈文研の馬場基史料研究室長は「お子さんが関心を持って楽しむことが引き金となり、周囲の大人もデータ取得に協力していただいて研究の進展につながれば」と期待する。

ナゾルクンのURLはhttps://nazoru.nabunken.go.jp/enter.html

令和4(2022)年6月22日
デイリーポータルZ

特集　2022年6月22日

くずし字認識アプリ『みを』で江戸時代の数学書『塵劫記』を読む



令和4(2022)年7月13日
デイリーポータルZ

特集　2022年7月13日

江戸時代の国語辞典には人相占いが載っている



令和4(2022)年8月18日
京都新聞

防災 環境など課題解決へ

国文研の「データ駆動」本格始動

30万点の文書・絵巻デジタル化 自由閲覧 新発想生む契機

創立50周年を迎えた国文学研究資料館（国文研、東京都立川市）のプロジェクト「データ駆動による課題解決型人文学」が本格的に動きだしている。国内外30万点の文書や絵巻をデジタル化し、個々に内容を示す国際規格の識別子（ID）を付与する。個人では読み切れない膨大なデジタル情報を、収蔵館や分野を超えて自在に呼び出し、従来の人文学になかった発想で災害や戦乱、環境問題など21世紀の課題解決にも踏みだす。

「データ駆動」は、2014年度から整備を始めた「新日本古典籍総合データベース」を研究基盤として活用する。21年度末段階で約23万点の撮影を終えており、23年度末までに計30万点をデジタル化する予定。ウェブ検索でいつでも誰もがどこからでも無料で資料を呼び出せ、将来にわたって安定稼働するシステムを整備する計画だ。

古典籍データベースは、国文研や国際日本文化研究センター（京都市）など6機関で構成する大学共同利用機関法人・人間文化研究機構が支援する。全国の各大学に加え、舞鶴市郷土資料館など地域資料館も参加する。地域館の場合、デジタル化や利用者からの問い合わせ対応を国文研に委ねられる。南丹市立文化博物館では、園部藩主ゆかりの小出文庫を国文研がデジタル化。自館ではなく、同データベースを通し、自由閲覧できる仕組みだ。

今後について人間文化研究機構の木部暢子機構長は「横串を刺すように各機関をまたいで資料を共有・活用し、新しい発想を生むきっかけに」と多様な分野からのアクセスに期待する。

文書のデジタル化に用いるOCR（光学文字認識技術）は急速に進化中で、国会図書館のOCRには米グーグルやLINE（ライン）の関連会社が参入する。「100万文字以上のデータを基にAI（人工知能）技術を活用し、草書など崩し字の読み取り正答率も9割以上になる」（山本教授）といい、PDF形式にデータ化された新聞の過去記事のテキスト化、アラビア語など外国語解読にも可能性が広がりそうだ。

課題解決型人文学について山本教授は、書物を表題や分野による分類から解き放ち、テキストによる文字情報群と捉え、「津波」「感染症」といったキーワードで検索すれば、忘れられていた書物が、研究資源として復活する可能性もある」と指摘。膨大な情報を生かす今後の新研究を「アイデア次第」と考える。

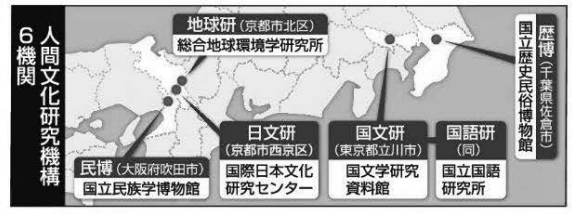
国文研の渡部泰明館長は、データが自在に活用されるようになれば「意訳や直訳で古典の意義が理解され、研究者だけでなく一般の人たちの生きる指針にもつながるだろう」と展望している。（内田孝）





▲ AIを用いて、くずし字を認識する研究。『源氏物語歌合絵巻』での一例―提供・人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）

国文研は、創立50周年記念特別展「こくぶんけん＜推し＞の一冊」を開催中（31日まで）。ネット上でも同時公開中で、研究者が推薦するコンテンツを紹介している。角倉了以の息子・素庵が編刊に深く関与した「素庵本三十六歌仙」は神作研一教授の推し。原装の丹表紙が美しい



研究者15人がデータ駆使 異例のスピード出版実現

データ駆動型研究の一例が、ロバート・キャンベルさんの編著「日本古典と感染症」（角川ソフィア文庫、2021年3月刊）＝写真＝だ。古代から近代に至る文学や書誌学、演劇、近世史を専門とする国文研などの研究者15人が「新日本古典籍総合データベース」を駆使して考察し、企画から1年足らずという異例の速度での出版が実現した。



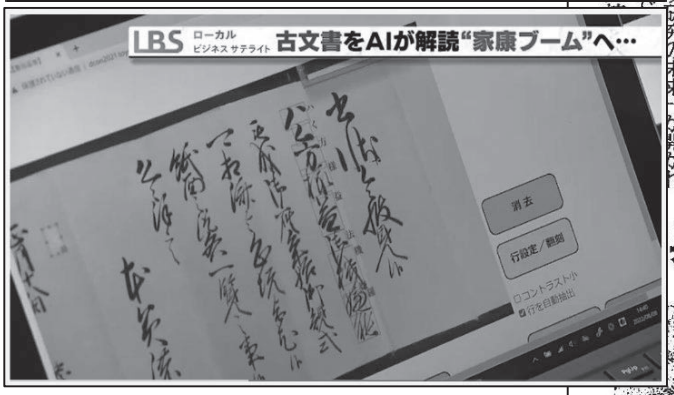
対象は「万葉集」「源氏物語」「方丈記」「徒然草」から歌舞伎、夏目漱石・森鷗外まで日本の文学史を広く扱い、作品に登場する天然痘、マラリアなどをピックアップ。文学に与えてきた影響を考察している。

刊行の狙いについてキャンベルさんは、歴史上の人たちが経験した感染症をコロナ禍に生きる私たちが感じ取り、「力にしていけることを願う」と記す。

国文研データ駆動研究センターの実務担当者・海野圭介教授は「中世の文芸と感染症」を担当した。10世紀の医師・丹波康頼が著した医学書「医心方」や「一遍聖絵」「石山寺縁起」など広範囲なテキストと絵巻を通し、宗教とけがれの関係を分析している。

令和4(2022)年8月26日
YouTube
テレビ愛知NEWSチャンネル





2022年(令和4年)8月31日(水曜日)

文化

デジタル顕微鏡やAI活用

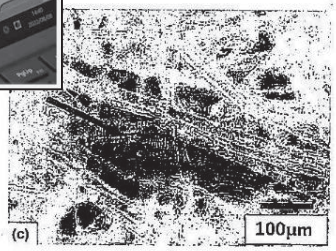
典籍 年代などの特定

古代から近世の和歌や物語を記した古筆切（書の断簡）を含む古典籍は、料紙に残る筆跡や記載内容などを基に、研究者らが真偽を含めて筆者や年代などを特定するのが常だ。だが、近年は高精細デジタル顕微鏡や人工知能（AI）を活用し、紙質を科学的に分析して編年などの情報を得る手法が注目されている。

先月、実践女子大渋谷キャンパス（東京都渋谷区）で、同大文芸資料研究所と国文学研究資料館共催の国際シンポジウム「古筆切研究の未来」が開かれ、国内の古典籍でも高精細デジタル顕微鏡を使用した調査を続けている。

同センター発足時から用紙分析などを担当した江南氏は、江戸時代の浮世絵用紙が米粉など穀物澱粉を添加して質を良くしていたとする、高精細デジタル顕微鏡観察による調査結果を、今年2月刊行の『書物学』（勉誠出版）に掲載した。

江南氏は「偽物を判別したいとの動機から、日本にある中国や欧州の貴重文書のデジタル分析調査が始まったが、機器が高額で、各所博物館、図書館に整備されるわけではなく、若手研究者たちが容易にこの研究方法を取り入れる機会もなく先細りが心配。国宝修理のためにも必要な研究だ」と、意義を話している。（文化部　井上晋治）



合の研究成果を報告した。

同大の舟見一哉准教授は、古筆切が持つ多様なデータをサイバー空間に蓄積し、AIで解析している。この手法で判明した2点ある伝藤原定家筆「紹巴切」の違いを報告した。横井孝・同大名誉教授らは、高精細デジタル顕微鏡による鎌倉時代の「源氏物語」の写本の分析結果を説明した。

また、国文学研究資料館の海野圭介教授は、料紙に含まれる炭素の年代測定で、史料の正確な年代がわかり、文字の書風による従来の編年を修正した事例などを紹介。文理融合による料紙分析に加え、データの蓄積と継承を課題に挙げた。

実際に高精細デジタル顕微鏡を使った料紙観察の様子も披露された。参加者は紙の繊維質や墨の散り具合など、極小の世界を映す画像に見入っていた。

古典籍のデジタル分析の取り組みでは、20世紀初めにインドや中国で仏教資料の調査・収集活動を行った「大谷探検隊」の収集品を持つ龍谷大が知られる。同大の江南和幸名誉教授（文化財科学）によると、中国・敦煌にまつわる経典などの史料「敦煌文書」を科学的視点で調査した京都大の藤枝晃教授（1998年死去）の研究に触発され、龍谷大は2000年に「古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター」を設立。05年頃から大学所有の敦煌文書を始

▲ 歌川広重「東都名所日本橋之白雨」の用紙の高精細デジタル顕微鏡画像。楮（コウゾ）繊維の他にミツマタの茎の細胞組織（矢印）や米粉が混ざっている（江南氏提供）

令和4(2022)年8月31日
読売新聞

江戸に有名料理人

「料理は文化」の時代

泰平は献立を作り出し、料理を幅広い文化へと昇華させた。
その道に生きる人も登場した。それが料理人。

案内人　太田尚宏氏（国文学研究資料館　准教授）
文・えくてびあん

写真は「たまごふわふわ」と「こほりとうふ」。「たまごふわふわ」は徳川家光が後水尾天皇をもてなしたとされる当時の高級料理。それが一八一三年、大坂から江戸を経て仙台へ行って帰っての旅日記『仙台下向日記』には、袋井の宿で朝食の膳にあったと記されるほど庶民の味になっていた。「こほりとうふ」は一七八二年に刊行された豆腐料理本『豆腐百珍』に紹介されている。

享和より、文化、文政の頃迄、江戸料理やに、名高き料理人をかゝへて、玉子の海老屋なべ金蔵、今その種を残して、長いも、玉子焼のこる、大おん寺前田川屋の店開きは田助が名を残す、八百松は木挽町芝居茶屋高島やの五助に名を揚る、大伊の小伊のは二町まちに居て、その茶屋を繁昌させる、大坂喜八は薬研堀に見せを開きて人をよぶ、そのまへに至りて多くの料理人有れども、名に聞こへたるは此人々にて、世の中の通り者客は、料理人をたづねて、その内へ行、田分を喰に行、八百松を喰と、人をさしてたづね行しもの、今の世の中には更になし、故にその茶屋にて、高金を出して料理人をかゝへしものといふ、当節は名高きものありても、客は一向構はず、（『賢賤上下考』三升屋二三治）



田沼意次に代わって老中になった松平定信が幕藩体制の立て直しを図って行ったのが寛政の改革。老中就任の直前に米価高騰がもとで江戸で大規模な打ちこわしが発生したことを教訓に、半官半民の町会所を設立して米を備蓄し、飢饉や災害による食糧不足に備える一方、没落して農村を離れ江戸市中を徘徊していた農民を故郷に帰らせ、都市の人々には贅沢を禁じて倹約を命じた。しかし田沼時代に贅沢を知った者に倹しい生活は難しい。「白河の清きに魚も住みかねて　もとの濁りの田沼恋しき」、江戸町民の本音が見える。

寛政の改革で沈んだ食への思いは、化政期（一八〇四～一八三〇年）に再び花開く。写真にある庶民の味とは別に、泰平なる江戸では高級料亭が立ち並び、有名料理人の名前が人を集めた。料理は料理の枠を超え、豊かな自然や四季と相まって、もてなしの空間を作り出す設(しつら)いの文化を生み出した。

会席料理だけでなく、ふと思いついて食べに行っても、すぐに料理を出してくれる即席料理の店が増え、料理のバリエーションも拡大して、以前より長崎を窓口に流入していた異国料理、ポルトガルやオランダ系の南蛮料理、卓を囲む卓袱料理、精進料理に仕立てた普茶料理など、料理文化は多様化して隆盛を極める。料理屋の番付表なるものも現れて、大衆は、どこどこの店へ誰々の何々を食べに行くというグルメツアー。この様子は現代と変わらない。それに伴い、料理本の刊行点数も増加したそうだが、ネット上に溢れる食情報に飲み込まれる今と、これまたほとんど変わらない。

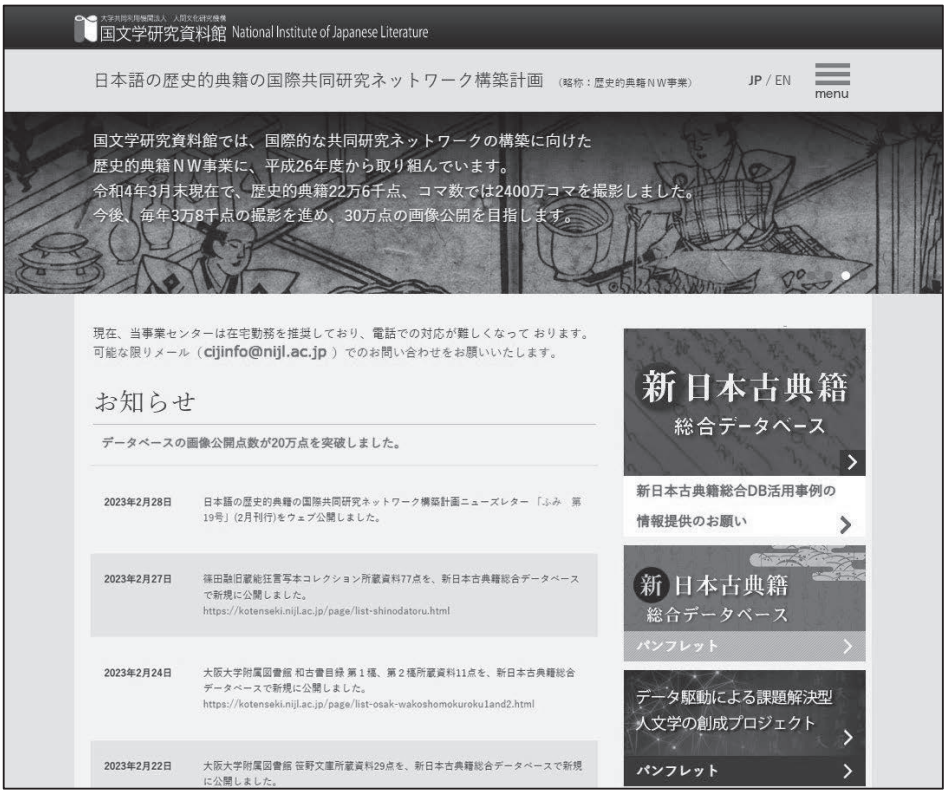
日常の食、ちょっと贅沢な食、豪華絢爛な食…。都市江戸にはさまざまな階層の人々の〝ふところ事情〟にあわせた「食」の場が準備されていったのである。

写真：『江戸料理レシピデータセット』（CODH作成）『日本古典籍データセット』（国文研所蔵）を翻案

3．その他の情報発信

平成25(2013)年12月
NW事業ウェブサイト開設

※画像は令和5(2023)年2月末時点のもの



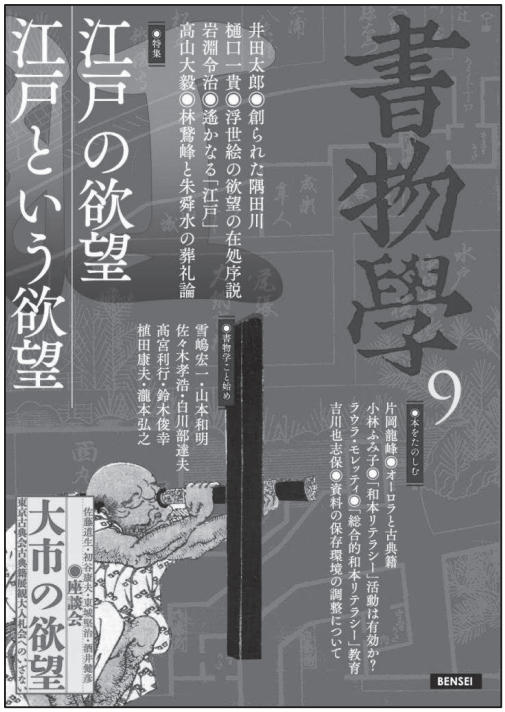
三越伊勢丹と江戸の料理についての
コラボレーション企画



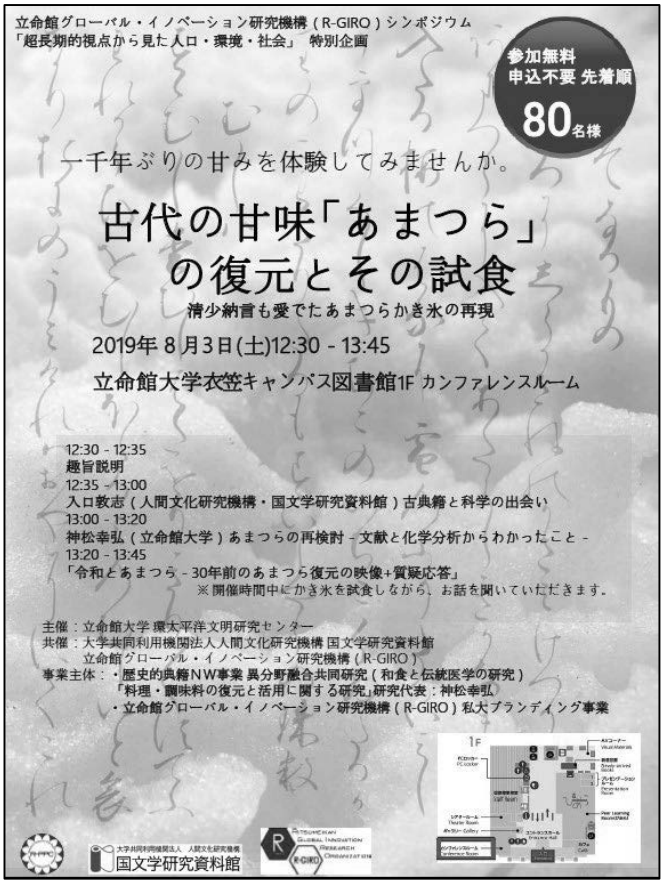


平成29(2017)年9月23日
日本橋三越本店でのセミナー

平成28(2016)年10月
『書物学』9号（勉誠出版）



令和元(2019)年8月3日(土)
古代の甘味料「あまつら」の復元を記念した試食体験イベント
（立命館大学衣笠キャンパス）







令和2（2020）年
総合研究大学院大学文化科学研究科に共通科目「総合書物論」を開講



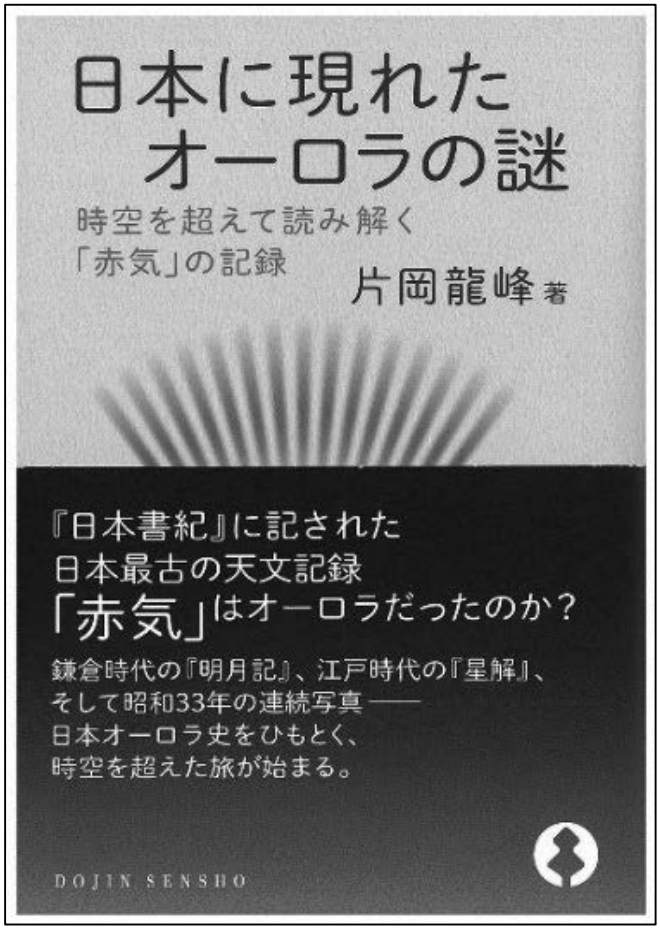
令和2(2020)年3月12日
共同研究成果報告書
『津軽デジタル風土記資料集』



令和2(2020)年10月13日（火）
字形画像の連携検索用ポータルサイト
「史的文字データベース連携システム」が本格稼働



令和2(2020)年10月31日(土)
『日本に現れたオーロラの謎』
(化学同人)

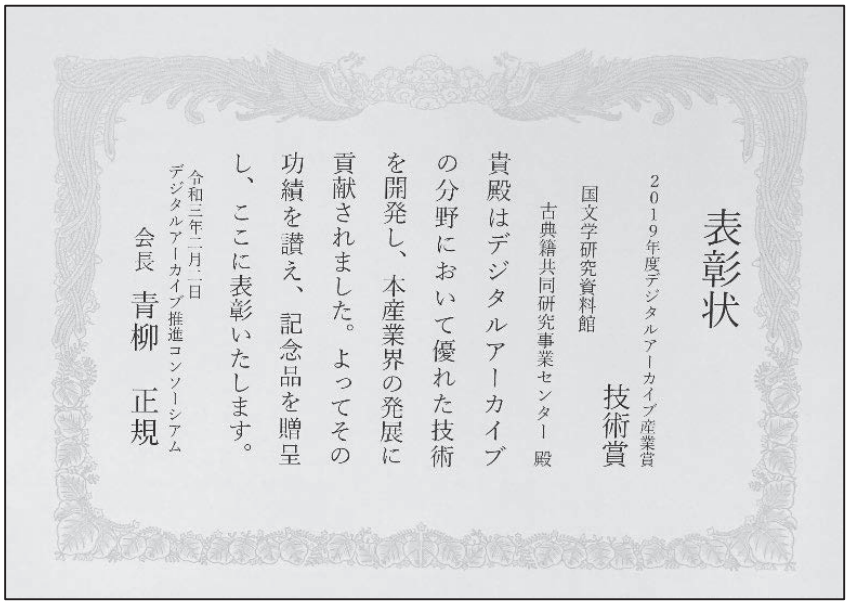


令和3(2021)年1月20日(水)～3月20日(土)
クラウドファンディング「甘葛(あまづら)を復元し
『枕草子』『今昔物語集』に登場した究極古代スイーツを作る」





令和3(2021)年2月2日（火）
当館と、ROIS-DS人文学オープンデータ共同利用センター、KuroNet共同研究チームが「KuroNetくずし字認識サービス/くずし字データセット」により、2020デジタルアーカイブ産業賞技術賞を共同受賞


表彰状

2019年度デジタルアーカイブ産業賞
技術賞

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター　殿

貴殿はデジタルアーカイブの分野において優れた技術を開発し、本産業界の発展に貢献されました。よってその功績を讃え、記念品を贈呈し、ここに表彰いたします。

令和二年二月二日
デジタルアーカイブ推進コンソーシアム
会長　青柳　正規

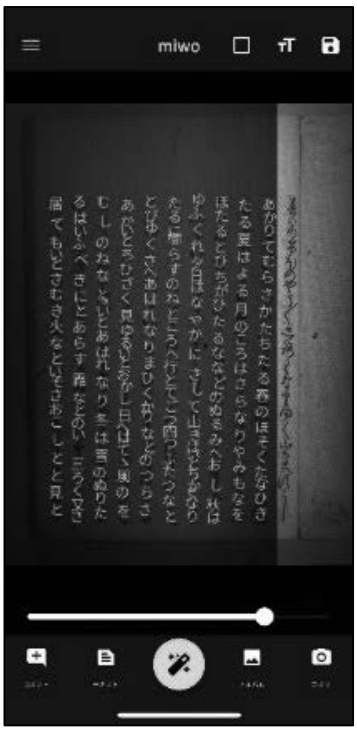


令和3(2021)年3月11日(木)
「星石４Ｄプロジェクト」ホームページ



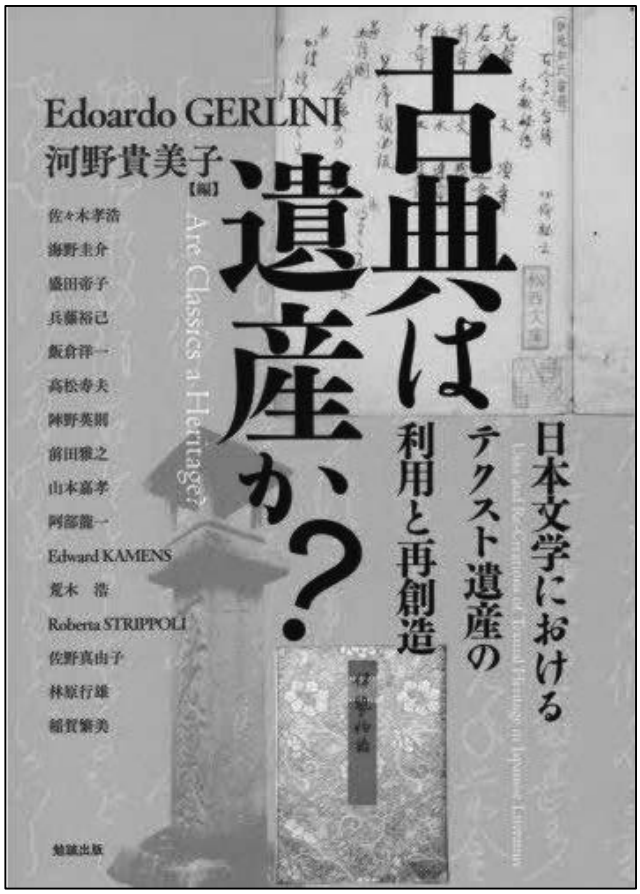
令和3(2021)年8月30日（月）
AIくずし字認識アプリ「みを（miwo）」正式公開







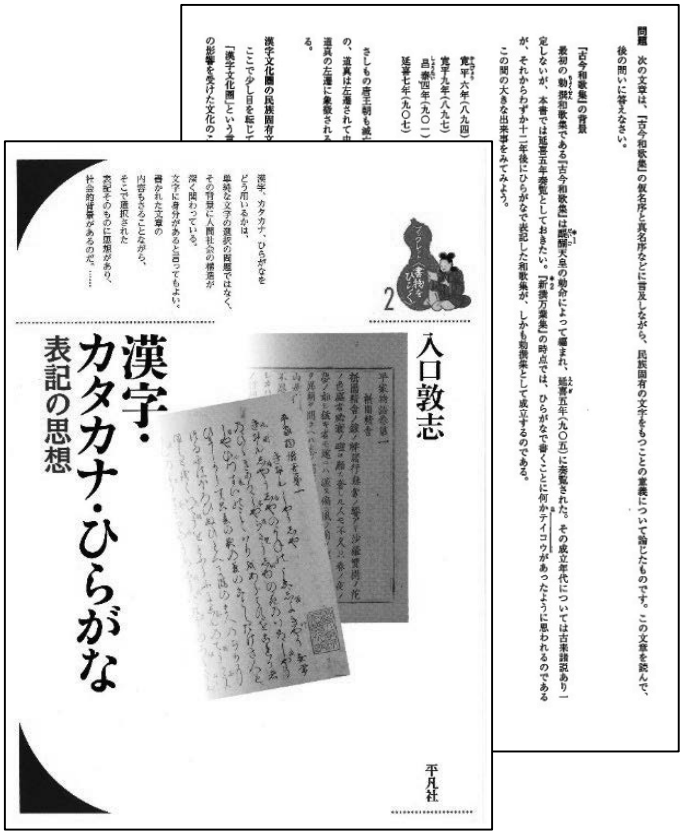
令和3(2021)年10月
『アジア遊学』261号（勉誠出版）



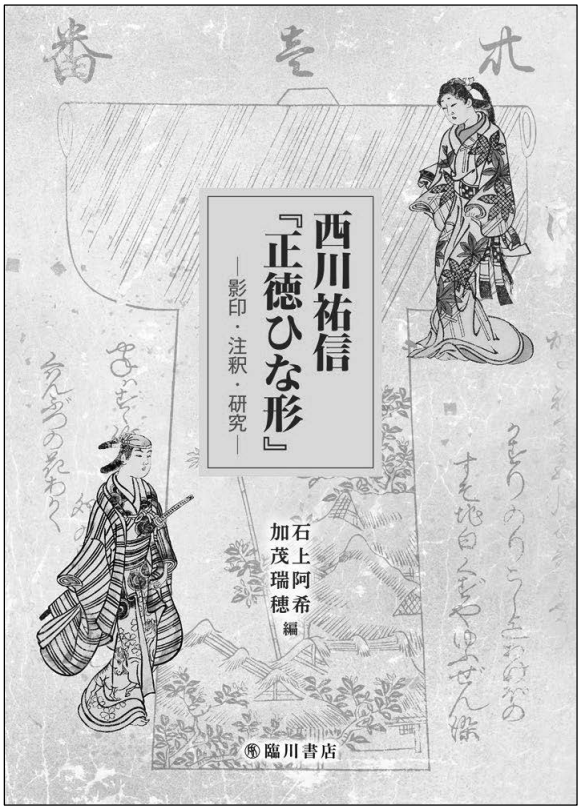
令和3(2021)年12月11日～12日
じんもんこん2021



令和3(2021)年度
某国立大学入試問題にブックレット『漢字・カタカナ・ひらがな　表記の思想（入口敦志）』の本文を採用



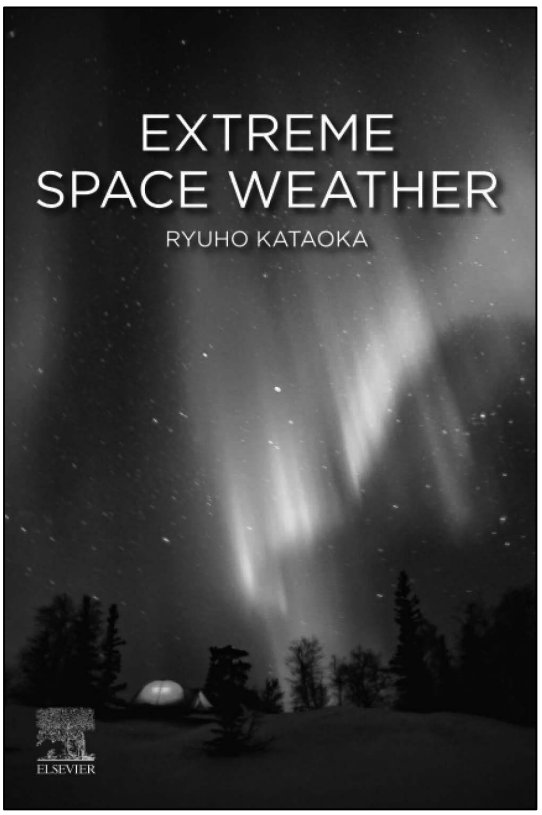
令和4(2022)年2月
研究成果刊行物『西川祐信『正徳ひな型』』



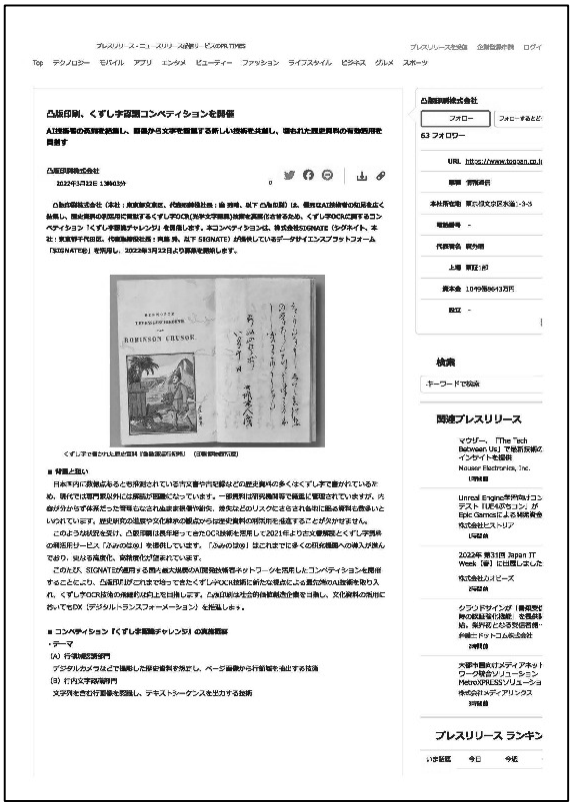
令和4(2022)年2月
『書物学』16号（勉誠出版）

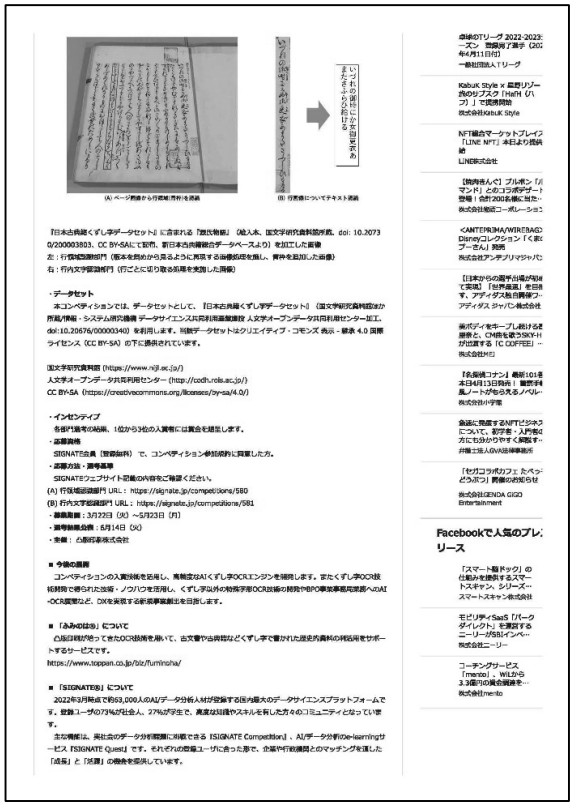


令和4(2022)年5月13日（金）
大学院生・研究者向けの教科書
『Extreme Space Weather』



令和4(2022)年3月22日（火）～6月14日（火）
凸版印刷株式会社がコンペティション『くずし字認識チャレンジ』を開催





令和4(2022)年9月13日（火）
凸版印刷株式会社がAI-OCR で古文書を解読するスマホアプリを開発し、プレスリリース





令和4(2022)年9月5日（月）
当館所蔵の「万宝料理秘密箱」（卵百珍）に記載された卵料理の現代版レシピをNW事業ウェブサイトで公開

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画 （略称：歴史的典籍NW事業） JP / EN

「万宝料理秘密箱 卵百珍」レシピ集



国文研が所蔵する江戸時代後期・天明5年（1785年）刊行の料理本「万宝料理秘密箱」中の「卵百珍」に記載された卵料理のレシピのうち、「三ツ星タマリエ」の料理研究家として活躍する料理研究家 ゆかりさんがご賛同し、雞鳴新聞にも掲載された現代版レシピ（とともに翻刻テキスト）をご紹介します。

「万宝料理秘密箱」（国文学研究資料館所蔵）https://doi.org/10.20730/200021712
三ツ星たまごソムリエ 料理研究家 ゆかり
https://www.youtube.com/channel/UC7LT6gRahCll3d5AO5MUl8dQ
雞鳴新聞 http://keimei.ne.jp/



1.旨味満喫！ウニの赤糸卵
2.海鮮風味の銀糸卵
3.酒の肴に合うコクうま！かもじ卵
4.純白の白髪卵！
5.色鮮やか！カラフル糸網卵



6.おもてなし！五色卵のお吸い物
7.トッピングに大活躍！紅梅卵
8.料理も映える！爽やかな青海卵
9.世界に一つだけの黄身返し卵
10.ヘルシー！優雅卵



11.三時のおやつに！絶品小倉玉子
12.一口サイズのコロコロ小豆雪卵
13.ふわふわ食感！定家卵
14.プルプル食感！ご利卵
15.ふわふわとろける！淡雪卵

実施体制関連資料

資料 18

日本語歴史的典籍ネットワーク委員会

※平成 26 年 4 月に「日本語歴史的典籍データベース委員会」から名称変更

所掌事項：事業計画に関するモニタリング、事業の評価に関すること

平成 25（2013）～平成 26（2014）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　２名（18%）

館外委員　　９名（82%）

開催状況

平成２５年度第１回　　平成２５年１２月１７日　１４：００～１６：４０

平成２５年度第２回　　平成２６年　３月２０日　１０：００～１２：００

平成２６年度第１回　　平成２６年　５月２７日　１０：００～１２：００

平成２６年度第２回　　平成２６年１２月　５日　１５：００～１７：３０

平成２６年度第３回　　平成２７年　２月２６日　１３：５０～１６：２０

平成 27（2015）～平成 28（2016）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　２名（17%）

館外委員　１０名（83%）

開催状況

平成２７年度第１回　　平成２７年　６月　８日　１０：００～１２：１０

平成２７年度第２回　　平成２７年１１月１７日　１０：００～１２：００

平成２７年度第３回　　平成２８年　２月１０日　１０：００～１２：００

平成２８年度第１回　　平成２８年　５月２０日　１０：００～１２：００

平成２８年度第２回　　平成２８年１１月２２日　１０：００～１２：００

平成２８年度第３回　　平成２９年　２月２１日　１３：３０～１５：３０

平成 29（2017）～平成 30（2018）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　１名（10%）

館外委員　　９名（90%）

開催状況

平成２９年度第１回　　平成２９年　６月１５日　１０：００～１２：００

平成２９年度第２回　　平成３０年　２月　１日　１０：００～１２：００

平成３０年度第１回　　平成３０年　４月２３日　１４：００～１６：００
平成３０年度第２回　　平成３０年　５月２８日　１４：００～１６：００

令和元（2019）～令和２（2020）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　１名（11%）
館外委員　　８名（89%）

開催状況

令和元年度第１回　　令和元年　５月２７日　１４：００～１６：００
令和２年度第１回　　令和２年１０月１９日～１１月４日
※電子メールによる書面審議

令和３（2021）～令和４（2022）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　２名（20%）
館外委員　　８名（80%）

開催状況

令和３年度第１回　　令和３年１０月２２日　１４：００～１６：００
令和４年度第１回　　令和４年１０月　７日　１４：００～１６：００
令和４年度第２回　　令和５年　１月２５日　１５：１５～１６：３０
令和４年度第３回　　令和５年　３月１７日　１３：３０～１５：００

資料 19

センター運営委員会

※平成 28 年 11 月に「事業実施委員会」から名称変更

所掌事項：センター運営の基本方針、事業計画、国内外へ向けた歴史的典籍 NW 事業の普及・啓発及び広報、その他センターの事業の基本的事項に関すること

平成 25（2013）～平成 26（2014）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　１３名（81%）

館外委員　　３名（19%）

開催状況

平成２５年度第１回	平成２５年　５月１０日	１３：３０～１４：３０
平成２５年度第２回	平成２６年　３月２７日	１３：３０～１４：３０
平成２５年度第３回	平成２６年　４月１０日	１０：３０～１１：４０
平成２６年度第１回	平成２６年　４月１０日	１０：３０～１１：４０
平成２６年度第２回	平成２６年　５月１５日	１５：００～１６：１０
平成２６年度第３回	平成２６年　６月１２日	１５：１５～１６：１５
平成２６年度第４回	平成２６年　７月１０日	１５：３０～１７：００
平成２６年度第５回	平成２６年１０月１７日	１５：３０～１６：３０
平成２６年度第６回	平成２６年１１月１３日	１５：３０～１６：２０
平成２６年度第７回	平成２６年１２月１８日	１５：４５～１６：３５
平成２６年度第８回	平成２７年　１月２１日	１３：３０～１４：１０
平成２６年度第９回	平成２７年　３月１２日	１０：００～１１：３０

平成 27（2015）～平成 28（2016）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　８名（50%）

館外委員　　８名（50%）

開催状況

平成２７年度第１回	平成２７年　６月　４日	１３：３０～１５：２０
平成２７年度第２回	平成２７年１２月１４日	１４：００～１６：００
平成２７年度第３回	平成２８年　３月　３日	１４：００～１６：３０
平成２８年度第１回	平成２８年　６月　１日	１４：００～１６：００
平成２８年度第２回	平成２８年１１月　２日	１４：００～１６：００
平成２８年度第３回	平成２９年　３月１３日	１４：００～１６：００

平成 29（2017）～平成 30（2018）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　7 名（44%）

館外委員　　9 名（56%）

開催状況

平成２９年度第１回	平成２９年　６月　９日	１４：００～１６：００
平成２９年度第２回	平成２９年１２月１４日	１０：００～１２：００
平成２９年度第３回	平成３０年　３月　６日	１５：００～１７：００
平成３０年度第１回	平成３０年　６月２２日	１０：００～１２：００
平成３０年度第２回	平成３０年１２月　７日	１４：００～１６：００
平成３０年度第３回	平成３１年　３月　８日	１４：００～１６：００

令和元（2019）～令和 2（2020）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　7 名（44%）

館外委員　　9 名（56%）

開催状況

令和元年度第１回	令和元年　７月２２日	１４：００～１６：００
令和元年度第２回	令和元年１２月　５日	１４；００～１６：００
令和元年度第３回	令和２年　２月１９日	１４：００～１６：００
令和２年度第１回	令和２年　７月　９日	１０：００～１２：００
令和２年度第２回	令和３年　２月１２日	１０：００～１２：００

令和 3（2021）～令和 4（2022）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　7 名（44%）

館外委員　　9 名（56%）

開催状況

令和３年度第１回	令和３年　７月２０日	１０：００～１２：００
令和３年度第２回	令和４年　２月２２日	１０：００～１２：００
令和４年度第１回	令和４年　７月１４日	１０：００～１２：００
令和４年度第２回	令和５年　２月１５日	１０：００～１２：００

資料 20

国際共同研究ネットワーク委員会

所掌事項：国際共同研究ネットワークの構築、国際共同研究の企画立案及び統括に関すること

平成 25（2013）～平成 26（2014）年度
委員構成（任期末時点）
館内委員　　７名（11%）
館外委員　１４名（89%）
開催状況
平成 25 年度第１回　　平成２６年　１月１１日　１０：００～
平成 26 年度第１回　　平成２６年　９月１０日　１３：３０～１７：３０
平成 26 年度第２回　　平成２７年　３月　５日　１４：００～１６：００

平成 27（2015）～平成 28（2016）年度
委員構成（任期末時点）
館内委員　　８名（38%）
館外委員　１３名（62%）
開催状況
平成 27 年度第１回　　平成２８年　３月　４日　１４：００～１６：００
平成 28 年度第１回　　平成２８年　７月２８日　１４：００～１６：００

平成 29（2017）～平成 30（2018）年度
委員構成（任期末時点）
館内委員　　４名（31%）
館外委員　　９名（69%）
開催状況
平成 29 年度第１回　　平成２９年　７月２７日　１４：００～１６：００
平成 30 年度第１回　　平成３０年　７月２６日　１４：００～１６：００

令和元（2019）～令和２（2020）年度
委員構成（任期末時点）
館内委員　　５名（38%）
館外委員　　８名（62%）

開催状況

令和元年度第１回　　令和元年１１月１４日　１４：００～１６：００

令和２年度第１回　　令和２年１１月　６日　１５：００～１７：００

令和３（2021）～令和４（2022）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　４名（29%）

館外委員　１０名（71%）

開催状況

令和３年度第１回　　令和３年１１月１０日　２２：００～２３：３０

資料 21

拠点連携委員会

所掌事項：センターと国内拠点との連絡調整等に関すること

平成 25（2013）～平成 26（2014）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　５名（11%）

館外委員　３９名（89%）

開催状況

平成 25 年度第１回（2 グループに分けて開催）

平成２５年　5月２７日　１５；００～１６：４０

平成２５年　5月３０日　１５：００～１７：１０

平成 25 年度第２回　平成２６年　３月　７日　１３：３０～１６：００

平成 26 年度第１回　平成２６年　９月１６日　１５：００～１７：１０

平成 26 年度第２回　平成２７年　３月１７日　１５：００～１７：１０

平成 27（2015）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　４名（ 9%）

館外委員　３９名（91%）

開催状況

平成 27 年度第１回　平成２７年１０月　２日　１４：００～１７：００

平成 27 年度第２回　平成２８年　２月２２日　１４：００～１６：３０

平成 28（2016）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　４名（ 9%）

館外委員　３９名（91%）

開催状況

平成 28 年度第１回　平成２８年１０月１４日　１３：３０～１６：００

平成 28 年度第２回　平成２９年　３月１０日　１３：３０～１６：００

平成 29（2017）～平成 30（2018）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　２名（ 5%）

館外委員　４０名（95%）

開催状況

平成 29 年度第１回　　平成２９年　９月２９日　１４：００～１６：００

平成 29 年度第２回　　平成３０年　３月　８日　１４：００～１６：００

平成 30 年度第１回　　平成３０年１０月１１日　１４：００～１６：００

平成 30 年度第２回　　平成３１年　２月１８日　１４：００～１６：００

令和元（2019）～令和２（2020）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　４名（ 9%）

館外委員　４０名（91%）

開催状況

令和元年度第１回　　令和元年１０月　２日　１４：００～１６：００

令和元年度第２回　　令和２年　２月１２日　１３：３０～１５：３０

令和２年度第１回　　令和３年　２月１７日　１４：００～１６：００

令和３（2021）～令和４（2022）年度

委員構成（任期末時点）

館内委員　　４名（ 9%）

館外委員　４０名（91%）

開催状況

令和３年度第１回　　令和４年　２月１８日　１４：００～１６：００

令和４年度第１回　　令和５年　２月２２日　１０：００～１２：００

その他の関連資料

資料 22

予算の推移

令和 5（2023）年 3 月 31 日現在（単位：千円）

区　分		平成 25 年度（2013）	平成 26 年度（2014）	平成 27 年度（2015）	平成 28 年度（2016）	平成 29 年度（2017）	平成 30 年度（2018）
研究経費	委員会経費	2,584	15,460	6,880	8,080	8,080	8,080
	資料費	37,846	27,976	56,736	41,769	85,650	82,050
	共同研究経費	－	22,250	16,000	30,000	32,000	28,000
	研究成果公開等経費	－	－	－	－	5,100	4,649
	設備費	－	－	6,000	6,000	15,000	15,000
運営経費	人件費	55,300	83,850	34,000	34,000	34,000	34,000
	管理経費	4,270	464	384	151	170	170
小　　計		※100,000	150,000	120,000	120,000	180,000	171,949
機構内経費		31,870	96,846	145,598	162,156	188,841	173,768
外部資金（科研費等）		－	－	－	12,500	12,600	12,500
合　　計		131,870	246,846	265,598	294,656	381,441	358,217

区　分		令和元年度（2019）	令和 2 年度（2020）	令和 3 年度（2021）	令和 4 年度（2022）	令和 5 年度（2023）	合　計
研究経費	委員会経費	4,820	4,820	4,820	4,820	4,820	73,264
	資料費	165,000	183,750	183,750	183,750	183,750	1,232,027
	共同研究経費	26,000	26,000	26,000	26,000	26,000	258,250
	研究成果公開等経費	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	29,749
	設備費	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	117,000
運営経費	人件費	41,000	45,800	45,800	45,800	45,800	499,350
	管理経費	180	180	180	180	180	6,509
小　　計		256,000	279,550	279,550	279,550	279,550	2,216,149
機構内経費		165,490	156,088	187,073	176,862	173,362	1,657,954
外部資金（科研費等）		13,400	6,400	5,300	6,200	6,200	75,100
合　　計		434,890	442,038	471,923	462,612	459,112	3,949,203

※平成 25（2013）年度は、準備経費としての予算措置

新 日本古典籍 総合データベース

https://kotenseki.nijl.ac.jp/





唯一の日本古典籍ポータルサイト

国文学研究資料館が長年蓄積した豊富な書誌と国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像を利用できます。

日本の古典籍にいつでもアクセス

江戸時代以前の日本の書物、「古典籍」。
これまで、古典籍に蓄積された知に触れるのは、容易なことではありませんでした。
でもこれからは、この「新日本古典籍総合データベース」を使って**いつでもどこでも高精細デジタル画像を利用できます。**

国文学の研究者だけでなく、学生、他分野の研究者、産業界、広く市民のみなさまにも役立てていただけるコンテンツを公開しています。

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

日本語の歴史的典籍の国際共同研究
ネットワーク構築計画（歴史的典籍 NW 事業）
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

2022.4
Ver.1.4

概要と特長

画像データ

- 大学や研究機関の古典籍
- 専門的機関の古典籍
- 国文研の古典籍

書誌データ※

- 日本のナショナルカタログ『**国書総目録**』を継承

※書誌とは

書名や作者の名前、本が出された年など、本の詳しい情報のこと。

将来的には古典籍 30 万点の画像を公開へ！

現在は約 68 万点の書誌と約 18 万点の画像を公開中（2022.4）

古典籍画像を公開中の機関の例

※新規公開機関を中心に掲載しています。

北海道大学	一橋大学	大谷大学
弘前市立弘前図書館	立教大学	同志社大学
東北大学	東京学芸大学	立命館大学
宮城県図書館	実践女子大学	大阪大学
宮城教育大学	東京海洋大学	関西大学
秋田大学	日本体育大学	神戸大学
筑波大学	成城大学民俗学研究所	奈良女子大学
茨城大学	日本学士院	奈良県立図書情報館
国立国会図書館	ポーラ文化研究所	島根県
国立公文書館	法政大学	広島大学
宮内庁書陵部	横浜国立大学	愛媛大学
東京大学	専修大学	九州大学
慶應義塾大学	信州大学	中津市歴史博物館
慶應義塾大学斯道文庫	名古屋大学	琉球大学
研医会図書館	豊田市中央図書館	UC バークレー
お茶の水女子大学	京都大学	ベルリン国立図書館
東書文庫	京都府立京都学・歴彩館	フリーア美術館

国内も国外も、今後さらに拡大します！

❖ 古典籍に興味のある方 ❖

あなたも古典籍を使ってみませんか？
物語、料理、本草学、名所案内や芝居番付など、さまざまな古典籍があります。
研究や学習に使えるほか、ライセンスによっては、公開されている画像を加工したり転用したりすることもできます（画像の利用方法は 7 ページをご覧ください）。

❖ 図書館・資料館等のみなさま ❖

あなたの図書館の古典籍を、国文研からデジタル公開してみませんか？
このデータベースは、日本古典籍画像のポータルサイトを目指しています。
デジタル化したいけれど予算がない、デジタル化したけれど公開できるプラットフォームがない……そんな図書館・資料館のみなさま、ぜひご相談ください。

Point1　探しやすい

タイトルやキーワードでの検索のほか、画像に付けられたタグ、本文テキスト、おすすめキーワード、ピックアップコンテンツなど、多彩な検索ができる！

https://kotenseki.nijl.ac.jp/



▲検索トップページ

Point2　引用しやすい

電子データに付与される国際的識別子、DOI（デジタルオブジェクト識別子）の採用により、永続的なアクセスを保証。論文などに引用したいときに便利！

https://www.doi.org/



https://doi.org/10.20730/200021913

https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021913

データベースの URL が代わっても DOI は変わらず、リンク切れが発生しない

Point3　活用しやすい

デジタルアーカイブの新しい規格、IIIF（International Image Interoperability Framework：トリプルアイエフ）を採用。異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易！

http://iiif.io/



▲画像ビューア

基本的な検索方法

探したい古典籍の書名や作者の名前などがわかっているときは、「書誌から探す」で検索します。

操作の流れ



https ://kotenseki.nijl.ac.jp/

① 「書誌から探す」を選択
② キーワードを検索窓に入力
③ 検索ボタンをクリック



検索結果一覧画面で
④ 「並び替え」や
⑤ 「絞り込み」ができます

「書誌詳細」をクリック

画像アイコンをクリック

書誌詳細画面

「書誌詳細」画面へ



「画像ビューア」画面へ

画像ビューア



⑥ 画像をダウンロードできる場合は画像の左側にボタンが表示されます

⑦ 画面下のボタンでサムネイルの表示 / 非表示を選べる

⑧ 画像の詳しい情報の表示ができる

⑨ 画像の利用方法は画像の右または下に。利用方法の詳細は 7 ページをご覧ください。

詳 細 検 索

「詳細検索」を使いこなせば、探したい古典籍により早くたどりつきます。



詳細検索をクリック



①または②にキーワードを入れて検索します

① キーワードで検索します

② 書名や著者名など項目を指定してキーワードを入力する場合はここを使います

③ 画像の有無で検索できます

使いこなす秘けつ

詳細検索では、たとえば次のような項目を指定することができます。

書　　名	本のタイトル	検索例：源氏物語、伊勢物語、豆腐百珍
著 者 名	作者の名前	検索例：藤原 定家、井原 西鶴（姓と名の間にスペースを入れる）
刊年・写年	出版された年	写本の場合は書写した年。検索例：寛政年間の本を探したい場合は「寛政」と入力
分　　類	作品のジャンル	検索例：日記、物語、絵巻、教育、料理

クイックガイド

画像タグから探す

画像タグとは、データベースに収録された画像につけられた「見出し」や「キーワード」のことです。画像タグによって、**書名などがわからなくても、古典籍と出会うことができます。**



詳しい情報はわからないけれど、年賀状に使うために「犬」の画像が見てみたい…。

① 検索窓に「犬」と入力
②「画像タグから探す」を選択
③ 検索ボタンをクリック



どんなタグが付けられているか知りたいときは、**全てのタグ**をクリックして表示します。

検索結果が表示されます。**サムネイル表示**をクリックすると、画像が大きく表示されます。

使いこなす秘けつ





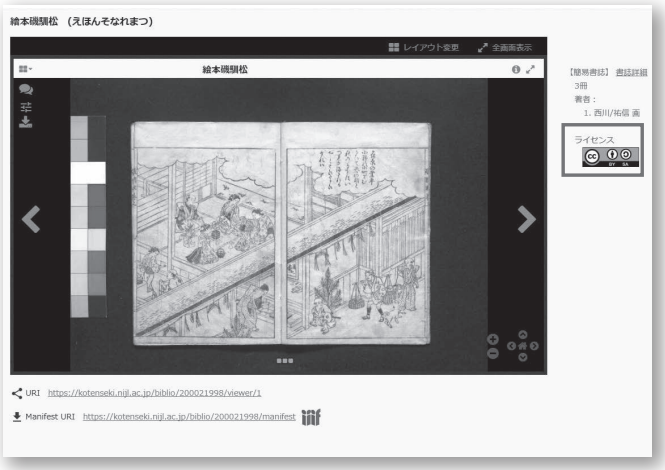
「タグを表示」にチェックを入れると、タグが付けられた部分が示されます。

❖ 将来はもっと便利に！❖

このデータベースでは、古典籍の「本文」からの検索、事典類の検索など、これからさらに、便利な検索ができるようになります。また、CiNii Books など外部のサービスとの連携も強化します。ご期待ください。

画像の利用方法

たくさんの古典籍をただ見る・読むだけではなく学校のレポートに使いたい、ポスター画像として加工したい。そんなときは画面上の「ライセンス」（利用条件のこと）をチェックしてみてください。



利用方法は大きく分けて２種類。画像ビューアに表示されている画像右または下に表示されるライセンスの項目に利用方法へのリンクが示されています。

ライセンス



このようなアイコンが表示されている場合、**画像を１枚ずつダウンロードして、一定の条件のもとに利用することができます。**アイコンをクリックすると、条件が表示されます。たとえば、国文研が持っている古典籍の場合、以下のように表示をすれば、どのような目的でも自由に利用できます。

表示例
そのまま使用：『源氏物語絵屏風』
（国文学研究資料館所蔵，CC BY-SA 4.0）
改変して使用：国文研所蔵『豆腐百珍』より
「田楽法師」を改変（CC BY-SA 4.0）

ライセンス
All Rights Reserved

All Rights Reserved と表示されている場合は、その古典籍を持っている機関（図書館など）によって利用方法が異なります。**このデータベースから画像をダウンロードして利用することはできません。**

All Rights Reserved をクリックして、各機関の案内ページの一覧から利用方法を調べてください。

❖ 古典籍を一冊まるごとダウンロードしたいときは？

人文学オープンデータ共同利用センター※のウェブサイトで、一作品をまるごとダウンロードすることができます。これはオープンデータという取り組みのひとつで、奈良絵本など見るだけでも楽しい作品がダウンロード可能です。今後さらに作品数を増やしていく予定です。　アクセスはこちらから→



http://codh.rois.ac.jp/pmjt/

※情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設に設置されたセンター。略称 CODH

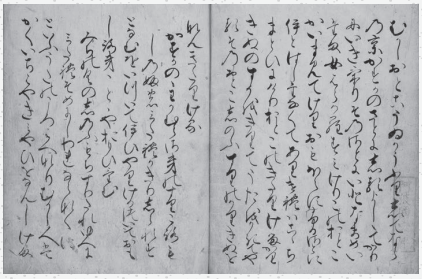
データベースから広がる古典籍の世界いろいろ



奈良絵本・大職冠
［ならえほん・たいしょかん・成立年未詳］

室町時代後半～江戸時代前期につくられた絵入りの「奈良絵本」のひとつ。金泥、銀泥、朱などが使われた極彩色で、藤原鎌足の物語が描かれている。

DOI : https://doi.org/10.20730/200016463



伊勢物語
［いせものがたり・暦応 4 年／ 1341 年］

2015 年に国文研に寄贈された「鉄心斎文庫」のひとつで、西方上人順覚による写本。
この画像は伊勢物語の第一段「初冠（ういこうぶり）」の冒頭部分。

DOI : https://doi.org/10.20730/200024143



四季漬物塩嘉言
［しきつけものしおかげん・天保 7 年／ 1836 年］

江戸時代には数多く料理本が出版され、今に残されている。これは漬物問屋である小田原屋主人によるもので、64 種類もの漬物のつくり方が記されており、現在の漬物の原型がわかる。

DOI : https://doi.org/10.20730/200021915

❖ 歴史的典籍 NW 事業について ❖

新日本古典籍総合データベースは、日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（歴史的典籍 NW 事業）の基盤事業のひとつです。

歴史的典籍 NW 事業では、国文研が中心となり国内外の大学や関係機関と連携しながら、歴史的典籍に関する国際共同研究ネットワークを構築していきます。

❖ お問い合わせ ❖

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター
〒 190-0014　東京都立川市緑町 10-3

TEL：050-5533-2988
FAX：042-526-8883
E-mail：cijinfo@nijl.ac.jp
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/

このパンフレットは「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 - 継承 4.0 国際」のもとで公開されています。国文学研究資料館の出版物であることの明記・左記のライセンス表示をすれば、改変も含め、自由に利用できます。

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

“国書データベース”稼働のお知らせ

「日本古典籍総合目録データベース」「新日本古典籍総合データベース」を
3月1日に統合し「国書データベース」といたしました

先般お知らせしましたとおり、国文学研究資料館は「日本古典籍総合目録データベース」（館蔵和古書目録データベースを含む）・「新日本古典籍総合データベース」を統合し、新たなデータベース「国書データベース」の提供を開始しました。

英語名称：Union Catalogue Database of Japanese Texts
ＵＲＬ　：https://kokusho.nijl.ac.jp

これに伴って、「日本古典籍総合目録データベース」　（館蔵和古書目録データベースを含む）と「新日本古典籍総合データベース」は、２月２８日（火）に稼働を停止しました。

当面は、旧データベースのＵＲＬから国書データベースのＵＲＬへ転送されますが、登録変更をお願いします。

詳細につきましては、今後国書データベースにて広報を行ってまいりますので、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先
国文学研究資料館
管理部　学術情報課
E-mail: kokusho★nijl.ac.jp
（★は@に変換ください）

概　要

主として、近代以前に日本人が著述した書籍（国書）の書誌情報と画像を集積したデータベースです。国内外の機関等が所蔵する国書の情報を検索・参照し、多くの画像を見ることができます。

日本の古典籍の総合目録である「日本古典籍総合目録データベース」と「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（略称：歴史的典籍ＮＷ事業）」によって構築された「新日本古典籍総合データベース」を発展的に統合し、さらに機能強化を目指すものです。

収録内容

近代以前の日本の書籍を中心に、一部、漢籍・明治以降の書籍等の資料を含みます。

書誌情報等メタデータは主に『国書総目録』（岩波書店刊）の継承・発展を目指して構築してきた「日本古典籍総合目録データベース」を引き継いでおり、資料の書誌・所在情報を著作（作品）典拠・著者典拠とともに提供します。

メタデータのリソースは、各機関で公刊された目録類、各機関所蔵の原本資料の画像、当館所蔵資料の３種があり、総じて国内外の機関等の所蔵する資料の書誌・所在情報を収録しています。

画像情報は「新日本古典籍総合データベース」を継承し、歴史的典籍ＮＷ事業等により、令和６年度末までに３０万点の資料の原本画像の公開を目指しています。

特　色

各書誌情報が著作典拠によってまとめられ、同じ作品のバリエーションを容易に比較できることが大きな特色です。書誌検索のほか、著作検索、著者検索、タグ検索等多彩な検索ができます。

画像情報は、IIIF（International Image Interoperability Framework：トリプルアイエフ）ビューワであるMiradorを採用し、他のデジタルアーカイブの画像と簡単に連携できるほか、画像がある書誌にはDOI（デジタルオブジェクト識別子）を付与し、参照の永続性を確保しています。

公開する画像のオープン化を推進しクリエイティブ・コモンズ・ライセンス(CCライセンス)の仕組みを採用しています。

http://iiif.io/　　https://www.doi.org/　　https://creativecommons.jp/licenses/

国立国会図書館、国立情報学研究所をはじめとした各機関の提供するデータベースと連携し、より利便性の高いデータベースとなっています。

今後の展開

より高度な機能の搭載に向けて、公開後も開発を進めます。

資料 25

データベースの活用事例

No.	利用者	内容
1	大学教員（国内）	「洒落（しゃらく）・平淡・かるみ――蕉風俳論と宋代詩論」（『日本文学研究ジャーナル』18、2021 年 6 月）において、『朱子語類』その他の和刻本漢籍を閲覧
2	大学教員（国内）	大学の演習において、本文の注釈の際に学生が漢籍を引用することがある。たとえば同じ『論語』でも、時代や版によって訓読の仕方が違っていたりするため、その本文の注釈に最適なものを選ぶ必要があるが、（新日本古典籍総合データベースには）さまざまなバージョンが公開されているため便利
3	大学教員（国内）	くずし字教材の素材探しなどが容易になった。
4	大学教員（国内）	科研成果物「蔵書印データベース」にて、新日本古典籍総合データベース画像のうち、国文研所蔵画像を利用
5	大学教員（国内）	科研成果物「篆書字体データセット」にて、新日本古典籍総合データベースで公開されている画像を利用し、データセットを作成
6	大学教員（国内）	江戸期の『論語』訓蒙書について、新日本古典籍総合データベースなどを用いて、「研究対象文献目録稿」を作成。同目録は、『江戸期『論語』基礎的研究』（明徳出版社、2021 年 12 月）に掲載
7	大学教員（国内）	『校本 式子内親王集』にて多数の伝本の画像を対校資料として活用
8	大学教員（国外）	「『扶桑集』再考」（和漢比較文学 第 66 号に掲載）の注（10）で新日本古典籍総合データベースに言及
9	大学教員（国外）	フロリダ大学の Assistant Professor が刊行予定の学術書執筆にあたり、新日本古典籍総合データベースを利用
10	大学研究員（国内）	宮川真弥「覆刻版における版面拡縮現象の具体相：匡郭間距離比較による版種弁別法確立のために」『斯道文庫論集』53 号（2018 年 2 月）において、『鎮州臨濟慧照禪師語録』の画像を使用
11	大学研究員（国内）	令和 4 年度宣長十講「宣長と源氏物語年立」（アウトリーチ市民講座、2022 年 5 月 21 日）において、『源氏物語玉の小櫛』、『湖月鈔』の画像を使用
12	機関（国内）	文部科学省国立教育政策研究所の蔵書を調査する際に、新日本古典籍総合データベースを含めた複数のデータベースを利用
13	機関（国内）	NHK 総合「ギョギョっとサカナ★スター」（2022 年 9 月 23 日放送）において、新日本古典籍総合データベースの「鈴鹿家記」画像を使用

No.	利用者	内容
14	機関 （国外）	パリ日本文化会館開館 25 周年記念展「いきもの：江戸東京動物たちとの暮らし」展図録において、新日本古典籍総合データベースに掲載の画像を掲載
15	機関 （国外）	日本博物館シーボルトハウスが刊行する図録への画像掲載にあたり、原本資料の所蔵機関情報等の確認でデータベースを利用
16	民間企業 （国内）	隔週刊雑誌「日本の名峰」において、新日本古典籍総合データベースに掲載の画像を掲載
17	一般利用 （国内）	古典（室町時代短編物語）の現代語訳と冊子化
18	一般利用 （国内）	江戸時代の村の公用記録「御用留」を全冊翻刻した史料集『上伊勢畑村御用留』（常陸大宮市史編さん委員会編、2023 年）に、新日本古典籍総合データベースの「筑波根於呂志」（大和文華館より画像提供分）を使用
19	一般利用 （国内）	「江戸幕府日記」の総索引を掲載した web サイト（ネコ印二百科事典）において、国書データベースにおける「御日記」のリンクを掲載
20	一般利用 （国内）	以下の論文執筆に新日本古典籍総合データベースを利用 『杏雨書屋蔵 黒川文庫目録』日本医史学雑誌 『杏雨書屋蔵 早川楂考書屋本仮目録』杏雨 『早川香邨の楂考書屋』杏雨　他

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

①　計画の概要

グローバルかつ急速に進展する研究資源のデジタル化の中で大きく立ち後れている日本語の歴史的典籍に関する取組を加速し、世界でも有数な質量を有する歴史的典籍をネットワーク上で利活用可能な研究資源とし、それを用いた新たな国際的共同研究システムを構築することは、日本研究の将来を左右する喫緊の課題である。

江戸時代末までに日本人によって著述された全ての書物を網羅した大規模画像データベースを国内外の大学等と連携して構築し、くずし字の判読など日本の書物に固有の課題に対応した高度な検索機能を新たに開発することにより、自然科学系を含む国内外の幅広い分野の研究者が、埋もれた知の宝庫である歴史的典籍を研究資源として自在に活用できる研究基盤を整備する。これと並行して、歴史的典籍を利活用していくための国際共同研究ネットワークを国内外の大学・研究機関の参画により構築し、歴史的典籍から新たな知見を導き出す共同研究を実施することによって、諸分野の研究者による異分野融合研究を醸成し、新たな研究領域の創成を目指す。

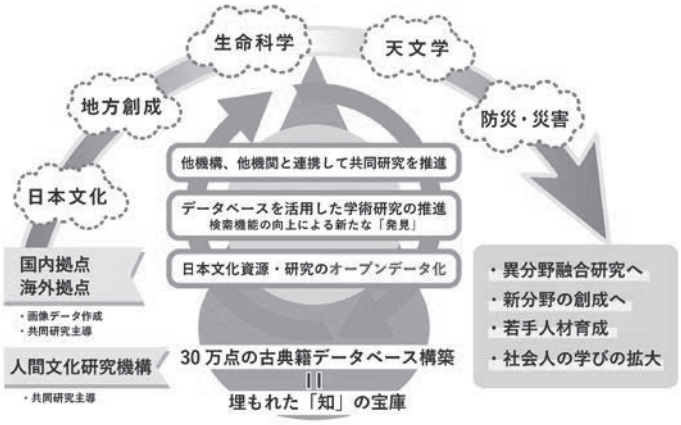


図１　プロジェクトの概要

②　学術的な意義

日本語の歴史的典籍 30 万点公開は、研究者の資料閲覧にかける時間や経費の大幅節減を可能にし、研究効率の飛躍的向上をもたらす。また、大規模画像データベース「新日本古典籍総合データベース」の構築においては、産学連携研究による文字検索と絵検索を融合した新検索技法の開発やデータのオープン化を実施する等、人文学分野のみならず自然科学分野をも包摂した新たなデータベースとして、拠点として参加する大学だけでなく、広く大学等の教育・研究に寄与する。

このような研究環境の整備は、科学技術・学術審議会　学術分科会の報告書「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について」（平成 24 年７月）において「課題」とされた、(1) 共同研究のシステム化、(2) 研究拠点の形成・機能強化、(3) 次世代育成と新しい知性への展望、(4) 成果発信の拡大と研究評価の成熟、に応えるものである。

また、大規模画像データベースを活用した異分野融合研究の推進により、従来の分野別の典籍研究を越えた総合書物学の創出を目指すとともに、これまで研究者・研究者コミュニティの特権に囲い込まれていた歴史的典籍について社会への開放を実現し、社会人の学びの拡大とレベルアップに大きく寄与することとなる。

③　実施機関と実施体制

◎実施機関

国文学研究資料館

◆機構内連携機関

国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター

◆国内拠点（拠点連携委員会参画・画像情報共同作成・共同研究実施）

北海道大、東北大、筑波大、東京大、お茶の水女子大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、奈良女子大、広島大、九州大、慶應義塾大、國學院大、立教大、早稲田大、大谷大、同志社大、立命館大、関西大

◆国外拠点（国際共同研究 NW 委員会参画・国際共同研究実施）

コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所、フィレンツェ大学、コロンビア大、北京外国語大、高麗大学校、ライデン大、ヴェネツィア カ・フォスカリ大、ナポリ大オリエンターレ、サピエンツァ ローマ大、バチカン市国図書館、ブリティッシュ・コロンビア大、ケンブリッジ大、カリフォルニア大バークレー校東アジア図書館、ベルリン国立図書館、ハワイ大マノア校、ハイデルベルク大、ゲーテ大フランクフルト・アム・マイン、大英図書館

◆その他の連携研究機関等（画像情報作成等に係る連携・研究開発系共同研究又は異分野融合共同研究実施）

宮内庁書陵部、国立国会図書館、国立情報学研究所、凸版印刷（株）、公立はこだて未来大等

◎実施体制：

上記の連携機関、拠点等と連携して事業を推進している。また、事業を推進する部署として、国文学研究資料館において古典籍共同研究事業センターを設置した。外部の意見を反映させプロジェクトを企画・実施していくため、古典籍共同研究事業センターに各種委員会を設置するとともに、顧問及びアドバイザー制度を導入した。

・日本語歴史的典籍ネットワーク委員会（モニタリングと評価を実施）
・センター運営委員会（重要事項を審議）
・国際共同研究ネットワーク委員会（国際共同研究を推進）

・拠点連携委員会（国内拠点との連携を図る）
・資料活用連絡協議会（各分野専門家によるデータベース高度化）

④　所要経費

総経費（平成 25〈2013〉年度～2023 年度）　3,949,880 千円
◆運営費交付金（特別経費）　　2,211,949 千円
委員会経費、画像作成業務費等、共同研究経費、公開データベースシステム構築費、人件費、管理経費
◆外部資金等 1,737,931 千円
画像作成業務費等、共同研究経費、人件費

⑤　進捗状況

◆平成 25 年度：運営費交付金（特別経費）
100,000 千円　※準備経費
画像情報作成（6,110 点）
◆平成 26 年度：運営費交付金（特別経費）
150,000 千円
画像情報作成（14,383 点、内製化実証試験）、検索機能の向上（タグ付けWG等でのデータ作成、テキスト化実証実験原理検証）、共同研究 14 件実施（国際共同研究（準備研究）、公募型共同研究等）、広報誌の刊行
◆平成 27 年度：運営費交付金（特別経費）
120,000 千円
画像情報作成（17,950 点、内製化実証試験）、検索機能の向上（タグ付けWG等でのデータ作成、テキスト化実証実験原理検証、研究開発系共同研究６件実施）、共同研究 22 件実施（国際共同研究、公募型共同研究、拠点主導共同研究、異分野融合共同研究等）、広報誌の刊行、国際研究集会の開催

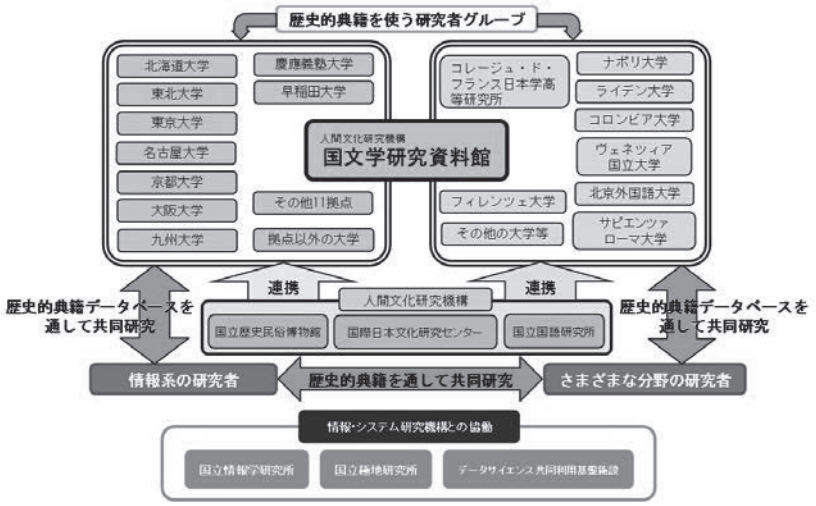


図２　国際共同研究ネットワーク

◆平成 28 年度：運営費交付金（特別経費）120,000 千円
画像情報作成（7,453 点、内製化実証試験）、検索機能の向上（タグ付けWG等でのデータ作成、テキスト化実証実験原理検証、研究開発系共同研究６件実施）、共同研究 20 件実施（国際共同研究、公募型共同研究、異分野融合共同研究等）、広報誌の刊行、国際研究集会の開催
◆平成 29 年度：運営費交付金（特別経費）180,000 千円
画像情報作成（15,578 点、内製化実証試験）、検索機能の向上（タグ付けWG等でのデータ作成、研究開発系共同研究８件実施）、新日本古典籍総合データベースの公開、共同研究 19 件実施（国際共同研究、公募型共同研究、異分野融合共同研究等）、広報誌の刊行、国際研究集会の開催
◆平成 30 年度：運営費交付金（特別経費）171,949 千円
画像情報作成（約 16,000 点、内製 402 点含む）、検索機能の向上（タグ付けWG等でのデータ作成、研究開発系共同研究８件実施）、新日本古典籍総合データベースの運用、共同研究 13 件実施（国際共同研究、異分野融合共同研究等）、広報誌の刊行、国際研究集会の開催、英文オンラインジャーナルの発行
◆平成 31（令和元）年度以降
画像情報作成、共同研究の実施、広報誌の刊行、国際研究集会の開催、新日本古典籍総合データベースの運用、英文オンラインジャーナルの刊行、国際コンソーシアムの発足
財源は、引き続き「大規模学術フロンティア促進事業」を概算要求していくとともに、外部資金等を積極的に獲得していく。

⑥　社会的価値

本計画は、学術研究に資することを第一とするが、日本の歴史的典籍の Web 上での公開は、活字テキストでは限界のある、古典籍への興味・関心を一般社会において掘り起こす契機となり、初等中等教育、生涯教育等の社会の各層において、広く歓迎・活用されている。特に古典籍のオープンデータセットとしての公開は、これまで一部の研究者に特権的に囲い込まれてきた種々の分野の古典籍を、一般の人が手軽に手にすることが出来るように開放したとともに、その自由な利活用を認めている点で、単なる公開とは異なる古典籍利用を促すことになった。一例として、すでに公開されているくずし字アプリなどの取組がメディアにも取り上げられたところである。このことは、潜在的に日本の古典籍を読みたいと願う層の顕在化に繋がっている。また研究成果の面で取り上げた古典籍 OCR の取り組みは、従来くずし字ゆえに読むことが出来ない、読むことの出来る研究者を知らないと諦めていた市民層に一定の道筋を示すことになり、産業的価値を見いだすことになった。

⑦　本計画に関する連絡先

河野　浩（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター事務室）

資料 27

大型研究計画に関する評価について（報告）

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

平成２５年９月６日

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会
学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会

目　　次

はじめに　・・・

はじめに

文部科学省においては、学術研究の大規模プロジェクトへの安定的・継続的な支援を図るべく、平成２４年度、新たに「大規模学術フロンティア促進事業」[1]を創設した。

この事業は、世界が注目する大規模プロジェクトについて、「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想『ロードマップ』[2]」等に基づき、社会や国民の幅広い理解・支持を得つつ、国際的な競争・協力に迅速かつ適切に対応できるように支援し、戦略的・計画的な推進を図ることを目的とし、現在整備中又は推進中の大規模プロジェクトの着実な実施とともに、新規の大規模プロジェクトを推進することとしている。

本作業部会においては、新規の大規模プロジェクトの立ち上げに向けて、「ロードマップ」を踏まえ、早急に着手すべきと考えられるプロジェクトについて審議を行い、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」について事前評価を行った。

評価に当たっては、関係分野の専門家にアドバイザーとして加わっていただき、ヒアリング及び審議を実施した。また、評価の観点として、①研究者コミュニティの合意、②計画の実施主体、③共同利用体制、④計画の妥当性、⑤緊急性、⑥戦略性、⑦社会や国民の理解を設定し、観点別の評価を踏まえて総合的な評価結果をとりまとめた。

---

[1] 本作業部会が、平成 24 年５月 28 日にとりまとめた「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想　ロードマップの改訂－ロードマップ２０１２－」において、「・・国は、ロードマップ等を基本に、長期的視点に立ち、大型プロジェクトの着実な推進に向けて、安定的・継続的な予算の確保に最大限の努力をすることが必要」としている。

[2] 本作業部会は、平成 22 年 10 月、日本学術会議が策定したマスタープランを踏まえ、学術研究の大型プロジェクト推進に当たっての優先度を明らかにする観点から、学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想「ロードマップ」を策定し、公表した。その後、日本学術会議がマスタープランの小改訂を行ったことを受け、本作業部会は新たに盛り込まれた 15 計画を中心に検討を進め、本作業部会としての評価結果を盛り込むこと等により、平成 24 年 5 月、「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想　ロードマップの改訂－ロードマップ２０１２－」をとりまとめた。
URL　http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1321812.htm

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の推進について

１．計画の概要

１．概要

本計画は、人間文化研究機構国文学研究資料館が中心となって、国内外の大学等と連携し、歴史的典籍（奈良時代以降、江戸時代末までに日本人によって著述された書物）約 30 万点を画像データ化し既存の書誌情報データベースと統合して「日本語の歴史的典籍データベース」を作成し、さらに国際共同研究ネットワークを構築するものである。用いるデータベースは歴史的典籍の学術研究に関する我が国で最大唯一のデータベースとなる。また、研究分野は国文学のみならず人文科学全体、さらには自然科学系の諸分野に及ぶ。

事業期間は、平成 26 年度から平成 35 年度の 10 年間を予定している。

図１　我が国の歴史的典籍の例



出典：西本願寺本三十六人集『伊勢集』石山切（複製）



出典：『傾紫田舎源氏』

２．内容

（１）画像データ化の対象となる歴史的典籍の数

我が国の歴史的典籍の総数は約 50 万点とされており、これらは、国文学研究資料館が構築した我が国最大の歴史的典籍の書誌情報データベースである「日本古典籍総合目録データベース」に掲載されている。本計画では、このうち、国文学研究資料館や連携する 20 の大学（以下「国内拠点大学」という）等が保有し、画像データ化が可能と見込まれる約 30 万点を対象とする。

なお、残りの約 20 万点については、所在不明等により原本の確認が困難な状態にあるものや、画像データ化やインターネット上での公開について所有者の同意が見込めないものである。

表１　本計画の対象となる日本語の歴史的典籍の数

（単位：千点）

区　　分		所蔵点数
対　象	国文学研究資料館所蔵	13.6
	連携する 20 の大学（拠点）所蔵	218.3
	所有者の同意が得られる見込みのもの	66.1
	年次計画による購入	2.0
	小　　計	300
対象外	所有者の同意等が得られないもの	180
	所在不明等により確認が困難なもの	20
	小　　計	200
合計【日本語の歴史的典籍（典籍名のみ調査済み）】		500

（２）「日本語の歴史的典籍データベース」の構築

計画の中心的な機関である国文学研究資料館が、国内拠点大学とともに、それぞれが所蔵する歴史的典籍の画像データ化や書誌情報と画像データとの照合等を行う。

①　画像データ化

国文学研究資料館及び国内拠点大学において、「日本古典籍総合目録データベース」の書誌情報を基に、それぞれが所蔵する歴史的典籍の画像データ化を行う。本計画の実施体制の中で計画全体を総括する役割を担う「古典籍共同研究事業センター」（「３.（１）①」を参照）が策定した共通の入力方針に従い、統一された規格に基づいて見開き一ページ毎に画像データ化を進める。

② 書誌情報と画像情報との照合

国文学研究資料館及び国内拠点大学において、①で作成された画像データの画像情報と「日本古典籍総合目録データベース」の書誌情報との照合を行う。国文学以外の分野の歴史的典籍が多くを占めることから、科学史や文化史等、多様な分野にわたる幅広い学術的識見とともに書誌学についての優れた知見を有する研究者を「古典籍共同研究事業センター」等に配置して照合等を行う。

③ 検索機能の向上

すべての典籍について、著者・刊行年・分野等の書誌事項に関する情報が付与されている。それに加え、各分野の典籍の中から研究者の利用頻度の高い約 15,000 点（30 万点の約 5%）に対し、目次情報及び本文中の人名・地名等の固有名情報を付与することによって、これらによる検索を可能とする。

さらにテキスト化の実証試験を並行して行い、テキストデータと画像データの連動による利便性の向上を図る。

④ 公開

上記①～③で得られた約 30 万点の画像データ等を「日本古典籍総合目録データベース」の書誌情報と統合し、「日本語の歴史的典籍データベース」として幅広く公開する。

利用者としては、国文学の研究者に加えて、歴史学、思想史、医学史、経済史、法制史、自然科学系の諸分野等、歴史的典籍を活用した研究を行う国内外の研究者や、我が国の文化に関心がある人々などを想定している。

（３）国際共同研究ネットワークの構築

国内拠点大学及び歴史的典籍を保有している図書館や博物館等との共同研究体制の構築を進めるとともに、国際共同研究ネットワーク委員会（３．（１）②を参照）を中心に、国内外への情報発信、我が国の歴史的典籍を保有している諸外国の大学や博物館、美術館等との連携や、日本研究に組織的に取り組んでいる諸外国の大学等との共同研究を進め、一大国際共同研究ネットワークを構築する。

３．実施体制

本計画の実施に当たっては、国文学研究資料館が中心的な機関になるとともに、歴史的典籍を多数保有する 20 の国内大学が拠点として参画し、さらに国外の大学等とネットワークを構築する。

（１）国文学研究資料館における実施体制

① 古典籍共同研究事業センターの設置

国文学研究資料館に「古典籍共同研究事業センター」（以下「事業センター」という）を設置し、計画全体を総括する。事業センター長は国文学研究資料館館長が兼務するとともに、特任教授１名を置いて計画全体の総合的コーディネートを行う。

事業センターには特任准教授２名と研究員（ポスドククラス）３名を置き、データベースの構築と運用、国文学研究資料館が所蔵する原本の画像データ等の作成、事業センターの下に置かれる各種委員会の運営、画像情報の一部テキスト化の実証試験などを行う。なお、特に重要となるデータベース構築については、専門家の協力を得て、将来性や利便性を考慮したものとする。また、事業センター内に置かれる事業実施委員会では、本計画に関する基本方針の策定等を行う。

② 各種委員会の設置

「拠点連携委員会」を設置して、国内拠点大学との連絡調整を行う。

また、「国際共同研究ネットワーク委員会」を設置して、国内外への情報発信とともに、我が国の歴史的典籍を保有または日本研究に組織的に取り組んでいる諸外国の大学や博物館、美術館等との連携、国際共同研究のコーディネート等を担う。

さらに、「日本語歴史的典籍ネットワーク委員会」を設置して、事業センターの運営について助言等を行い、第三者の立場からの計画のモニタリング機能を担う。

（２）拠点

歴史的典籍を多数保有する 20 の国内大学を拠点として位置付け、計画の中心的機関となる国文学研究資料館と連携して、それぞれが所蔵する歴史的典籍の画像データ化と書誌情報との照合を進めるとともに、歴史的典籍を保有している図書館や博物館等との連携体制の構築などを進めていく。具体的には、表２に掲げる 20 の大学を拠点とする。

表２　拠点として位置付ける大学

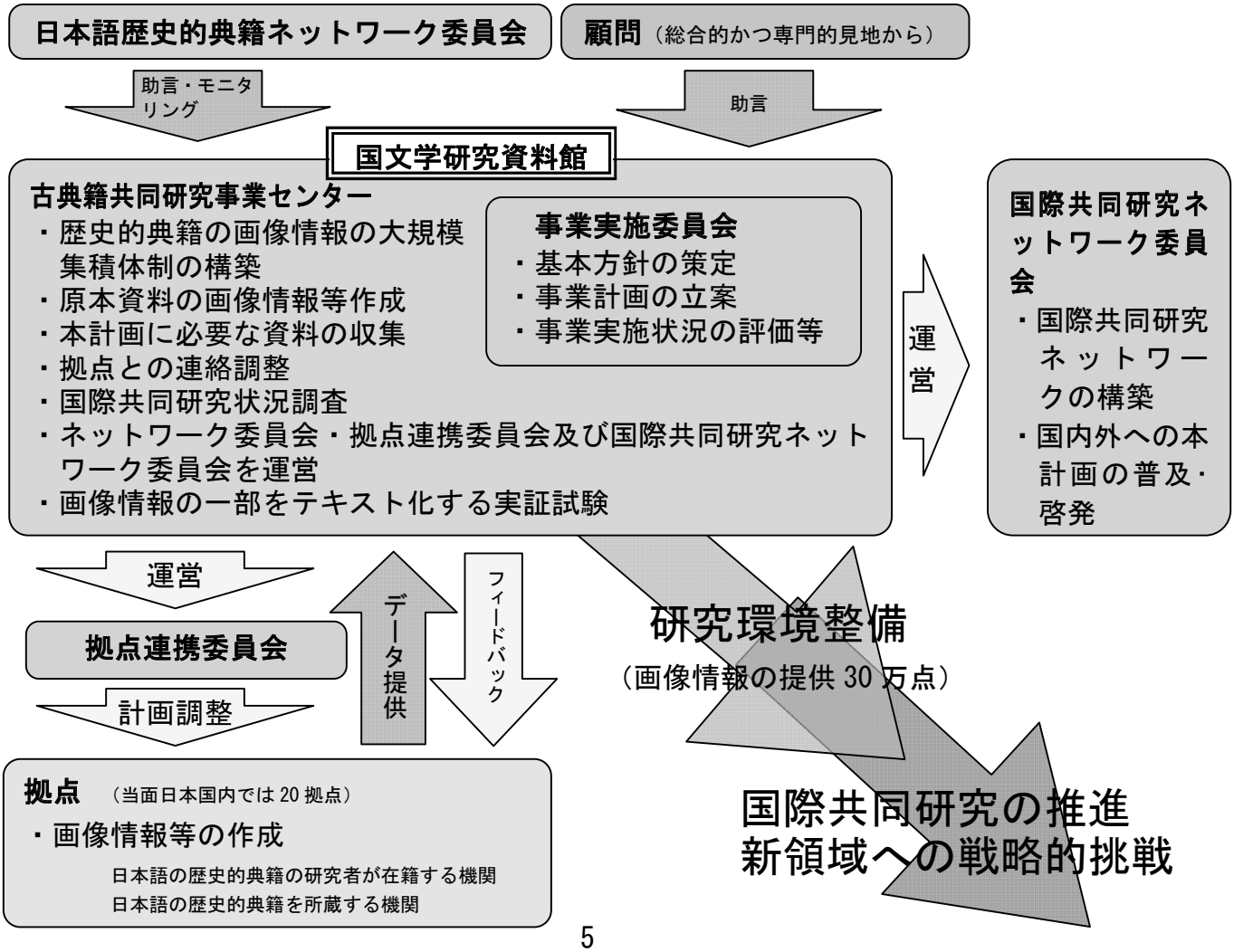
平成 27 年度設置			平成 30 年度設置		
北海道大学	東北大学		筑波大学	お茶の水女子大学	
東京大学	名古屋大学		神戸大学	奈良女子大学	
京都大学	大阪大学		広島大学	立命館大学	
九州大学	早稲田大学		関西大学	立教大学	
慶應義塾大学	同志社大学	10 拠点	國學院大學	大谷大学	10 拠点

（３）顧問等

特に情報学分野の研究者から助言を得るため、非常勤の顧問を配置する。

また、ネットワーク強化の観点から、同じ人間文化研究機構内の組織である国立歴史民俗博物館及び国際日本文化研究センターとも、各種委員会への参画などを通じて密接な連携協力体制を構築する。

図２　「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」実施体制



４．国内における検討経緯

本計画は、平成 22 年３月、日本学術会議の「学術の大型施設計画・大規模研究計画」（マスタープラン）にとり上げられた。平成 22 年 10 月には、科学技術・学術審議会　学術分科会　研究環境基盤部会の「学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会」がとりまとめた「大型研究計画に関する評価について（報告)」（ロードマップ）において、本計画は「基本的な要件が満たされており、一定の優先度が認められる計画」として「ａａ」という高い評価を得た。

また、研究者コミュニティについては、国文学関係の諸学会を横断する学協会である「日本文学関連学会連絡協議会」に対し、平成 24 年８月、国文学研究資料館から本計画の趣旨等を説明し、協力する旨の確約を得ている。

これらを踏まえ、平成 24 年 9 月には同作業部会の「大型研究計画に関する評価について（報告)「日本語の歴史的典籍のデータベースの構築計画」」の中で、「本計画は積極的に進めるべきであり、早急に着手すべきである」と評価された。

さらに、平成 25 年度予算で準備経費として措置された１億円により、国文学研究資料館に古典籍データベース研究事業センター（平成 26 年度に古典籍共同研究事業センターに改組予定）等が設置され、本格実施に向け始動したところである。

５．国際的な動向

欧米諸国、中国など、歴史的典籍を多数保有する国々では、自国の歴史的典籍の画像情報についてデータベース化を通じた公開が進められている。ＥＵでは域内の各国図書館の連携により約 1,900 万点、中国では 151 万冊など、膨大な数の書籍が公開され、学術研究に多大の便宜が図られるとともに、文化発信に多大の貢献がなされている。

表３　諸外国における書籍のデータベースの公開状況

国　名	公　開　元	公開開始年	公開点数	備　　考
ＥＵ	ヨーロピアナ（ＥＵ版オンライン図書館）	2008	1,900 万点	加盟各国の図書館・博物館等が 100 機関以上参加 2015 年の目標 3,000 万点
イギリス	英国図書館	2001	50 万点	1700 年～1870 年のもの 25 万冊デジタル化準備中
	Oxford Google Book プロジェクト	2004	20 万冊	19 世紀に出版されたもの
フランス	フランス国立図書館	2001	98 万点 （内テキスト化 40 万点）	
アメリカ	米国議会図書館	1996	1,500 万点	
	Google ブックサーチ	2004	700 万冊	
韓国	韓国国立中央図書館	2008	39 万冊 （うち専用端末での閲覧 17 万冊）	
中国	中国国家図書館	2002	151 万冊 （うち古典 10 万点）	古典は、全唐詩、四庫全書、四部叢刊等、体系化された叢書類が中心

なお、日本語の歴史的典籍を所蔵している機関がその蔵書の一部を画像提供している例としては、カリフォルニア大学ロサンゼルス校や同バークレイ校がある。

６．年次計画（工程表）及び予算規模

本事業に係る年次計画及び予算規模は以下の表の通りである。



予算総額は約８８億円（平成２６年度～平成３５年度）であり、この他に準備経費として平成 25 年度に 1 億円措置されている。

７．期待される成果

歴史的典籍は、自然災害による消失、公開に伴う損傷や時間の経過に伴う劣化、諸外国への流出といった存続の危機にさらされているが、貴重な歴史的典籍の内容を画像データ化により保存して、後世へと継承できることとなる。

また、本事業により、歴史的典籍を活用した研究活動を行う研究者は、個々の所蔵機関を訪問して原本を直接閲覧するのではなく、各地から容易に約 30 万点に及ぶ歴史的典籍の原本の画像情報にアクセスできるようになる。また、画像には文字だけでは知ることのできない多様な情報が数多く含まれており、歴史学、思想史、医学史、経済史、法制史、自然科学系の諸分野の研究分野において、歴史的典籍の画像情報を活用した新たな学術研究の可能性の広がりが期待できる。

これらの広がりは従来の人文学の枠を超えて、国際共同研究ネットワークの構築の基盤となるとともに、それを持続させることにより、我が国のコンテンツ産業とも密接にかかわって、日本文化の海外展開の基盤としての大きな役割を果たすこととなる。

このように、「歴史的典籍による日本再発見」とでもいうべき成果が期待できる。

（１）新たな学問領域の創出

学術研究の深化の一例として、例えば読み継がれてきた特定の書物（例：「平家物語」等）の記述形式の変遷を辿ることで読者層の歴史的変遷を明らかにする等の「総合書物学」や、史跡情報等を時代を超えて再編成し地域ごとに取りまとめて新たな観光資源開発につなげる「文献観光資源学」等の創出が期待できる。

（２）異分野との融合研究への展開

建築物の構造や装束・風俗といった生活に関する画像情報の活用による歴史学や民俗学等への波及、医学関係典籍の画像情報の活用による漢方医学等への波及、鍼灸関連典籍の解明による世界基準化競争への貢献、気候や自然災害等の情報が含まれる画像情報による地球環境問題や地震・津波などの災害の歴史等の研究への示唆など、異分野との融合研究の可能性は多岐にわたる。

図３　多様な学術分野への波及効果の例　　出典：御伽草子『唐糸の草子』

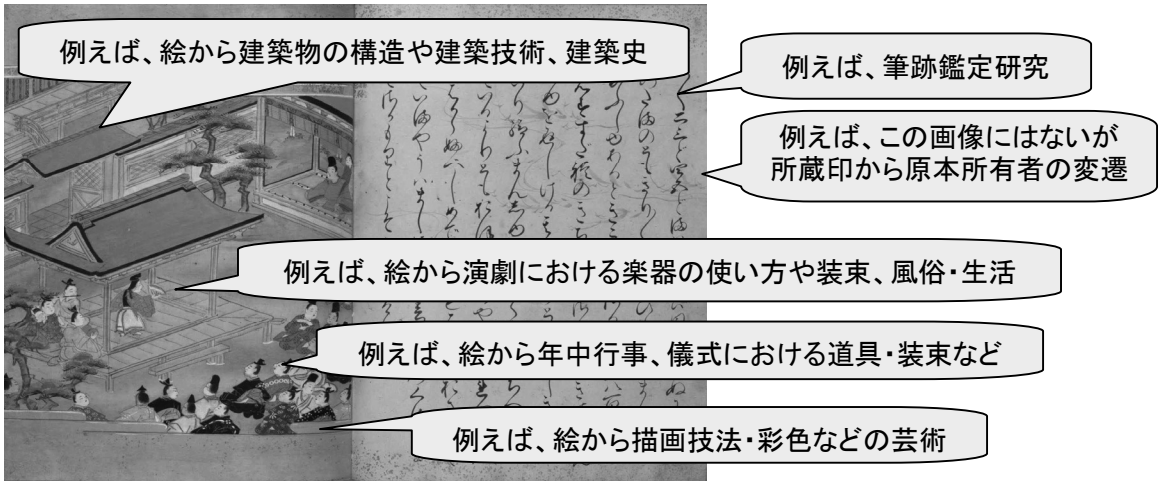


表４　異分野融合研究の内容例

研究領域		内　　容
医　学	伝統医療の樹立と開発	鍼灸や本草学に関連する古典籍から、伝統医療について医学的解明の支援を行う。
	感染症の新たな治療方法の確立	過去の感染症を古典籍から読み解き、事象と対応策を調査し、現代の感染症との比較研究を行うための支援を行う。
薬　学	新薬の開発	本草学の古典籍から天然資源の有用性を調査し、現在活用されていない天然資源を用いた新薬開発の糸口を作るための支援を行う。
農　業	農業技術の地方移転の推移やその向上方策の解明	江戸の伊勢参りなどの際に地方の農業技術や種苗が地方に伝播。その伝播経路を古典籍記載内容とＤＮＡ調査結果を比較分析し、我が国の農業技術の向上に資するための支援を行う。
生活文化	調理方法の復元	現在では調理名しか伝わっていないものがあり、その材料及び調理方法を古典籍から解明する。
人文地理学	統合地誌研究	多様なジャンルの書物に散在する地誌情報を総合し、日本列島の文化空間としての姿を再構成する。

２．計画の評価

１．研究者コミュニティの合意

本計画の推進に当たって、国文学関係の諸学会を横断する学協会である「日本文学関連学会連絡協議会」に対し、平成 24 年８月、国文学研究資料館から本計画の趣旨等を説明し、協力する旨の確約が得られている。

また、歴史的典籍を多数保有している 20 の大学については、実際に歴史的典籍を管理している研究科や図書館の長に対して、国文学研究資料館から本計画の趣旨等を説明し、本計画の中で拠点としての役割を担う旨の確約が得られている。

さらに、国際共同研究ネットワーク構築に当たって重要な役割を果たす国外の研究機関との間でも、共同研究の実施や学術情報の交換といった協定が結ばれている。

このような状況を踏まえると、本計画の実施に当たり研究者コミュニティの合意は基本的に得られていると判断できる。

なお、国文学以外の分野で歴史的典籍データベースを活用することが想定される分野の研究者コミュニティについては、医学など既に一部の分野で関係構築が開始されているが、その取組を推進するとともに、例えば、データベースの構築と運営に当該分野の研究者が参画するなど、研究者コミュニティの意見が反映できる体制を整備していく必要がある。

２．計画の実施主体

国文学研究資料館は、我が国の歴史的典籍に関する最大の書誌情報データベースである「日本古典籍総合目録データベース」を構築・運営している。また、国文学関連の歴史的典籍について日本各地の調査と収集を大学や図書館など関連機関と連携しながら 40 年にわたり実施してきた実績があり、本計画の中心となる機関として適切と判断できる。

国文学研究資料館に新たに構築される実施体制については、本計画全体を総括する「古典籍共同研究事業センター」を中心に、国内拠点大学との連絡調整を行う「拠点連携委員会」、諸外国の研究機関等との連携や本データベースの国内外への普及・啓発を行う「国際共同研究ネットワーク委員会」等が置かれることになっている。平成 25 年度に措置された準備経費に基づき、既に「古典籍データベース研究事業センター」（平成 26 年度に古典籍共同研究事業センターに改組予定）や各種委員会を立ち上げており、国文学研究資料館館長が兼務する事業センター長のリーダーシップの下で、国文学研究資料館のノウハウと経験を活用できる実施体制が構築されていると考えられる。

また、本計画においては、歴史的典籍を多数保有する国内各地の 20 の大学を拠点として位置付け、図書館や博物館等との連携を進めていくこととしており、本計画を全国的に展開していく体制の構築も図られるものと考えられる。

なお、同じ人間文化研究機構の中の機関であり、歴史民俗学研究者ネットワークを有する国立歴史民俗博物館や、国外の日本文化研究者ネットワークを有する国際日本文化研究センターの協力を得ることになっているが、各種委員会への参画など、一層の連携協力を図る必要がある。

３．共同利用体制

歴史的典籍を活用した従来の研究スタイルは、書誌情報データベースである「日本古典籍総合目録データベース」の共同利用により書誌情報を得た上で、個々の研究者が所蔵機関を訪問し直接原本に当たるというものが中心であった。本計画の推進により、歴史的典籍の書誌情報と画像情報が体系的に統合された我が国で最大唯一の「日本語の歴史的典籍データベース」が構築される。国文学の研究者はもとより、歴史的典籍を活用した研究を行う様々な分野の国内外の研究者が容易に約 30 万点に及ぶ歴史的典籍の原本の画像情報にアクセスすることが可能となり、研究活動の効率性の著しい向上が期待できることから、共同利用体制が飛躍的に強化されると判断できる。

また、連携する 20 の国内拠点大学が、歴史的典籍を保有している図書館や博物館等との連携を強化して全国的な共同利用体制の構築を行うとともに、「国際共同研究ネットワーク委員会」を通じて諸外国の研究機関等と連携することとされており、国内外を通じた幅広い共同利用体制の展開が可能になるものと考えられる。

４．計画の妥当性

本計画のうち、「日本語の歴史的典籍データベース」の構築については、歴史的典籍の画像データ化やインターネットによる公開について所有者、所蔵機関の了解が得られるかが鍵となる。約 30 万点の歴史的典籍のうち、既に、本計画の中心的な機関である国文学研究資料館には約 13,600 点、拠点となる 20 の大学には約 218,300 点の歴史的典籍が所蔵されている。また、残りの約 66,100 点についても所蔵機関である図書館や博物館、美術館等から、画像データ化及びインターネットによる公開について同意が得られる見込みがあり、実現可能性は高い。

国際共同研究ネットワークの構築については、国外の研究機関等と既に複数の協定が結ばれており、今後も国外の日本文化研究者ネットワークを有する国際日本文化研究センターや独自の研究者ネットワークを有する国立歴史民俗博物館とも連携して事業を進めることから、重層的かつ広がりを持ったネットワークの構築が期待できる。

また、拠点大学の参画タイミングや画像情報の公開時期等、無理のない実施可能なスケジュールとなっており、これらのことから、本計画は妥当なものと判断できる。

なお、本計画の実施に当たっては、経費の効率化に向けた取組が求められる。特に各種作業の費用は技術の進展とともに変化すると予想され、予算執行に当たって留意する必要がある。また、画像データ化も、単に外注するのではなく主体的に取り組んで、データベースシステムの一環としてその技術的なノウハウを実施主体内に蓄積していく必要がある。

５．緊急性

近年、欧米諸国や中国などでは、自国の歴史的典籍の画像情報についてデータベース化を通じた公開が進められており、これらのデータベースが当該国の文学、歴史、文化等に関する研究活動の基盤となっている。

多数の歴史的典籍が存在する我が国においても、諸外国と同様に、自国の文学、歴史、

文化等に関する研究活動の基盤として、体系的な歴史的典籍の画像情報に関するデータベースを作成し、研究ネットワークを構築していくことが急務である。

これまで我が国では、個々の所蔵機関が独自にそれぞれの歴史的典籍の画像データ化を進めてきたところであり、体系的なデータベースの構築は行われてこなかった。また、歴史的典籍は、自然災害による消失、公開に伴う損傷や時間の経過に伴う劣化、諸外国への流出といった存続の危機にさらされている。と同時に、国内のみならず、特に欧州地域等を中心に、研究資料の入手難等を背景として日本文化研究そのものが停滞化しており、国内外の人材育成の観点も含め危機的な状況である。

本計画により、貴重な文化財としての歴史的典籍の内容を画像データ化により保存して後世へと継承するとともに、国際共同研究ネットワークの構築により国内外での日本文化研究の活性化が図られることになり、本計画の緊急性は高いと判断できる。

６．戦略性

画像情報へのアクセスが容易になることから、歴史的典籍を活用して研究を行う様々な分野への波及効果を生み出すことができる。歴史的典籍には活字テキスト以外の画像情報が多数含まれており、国文学をはじめとする人文科学はもちろん、自然科学系の諸分野等を含めた研究分野において、画像情報を活用した新たな学術研究の可能性が広がる。このことは、新たな学問領域の創出や異分野間の融合研究への展開につながる。

さらに、国際共同研究ネットワークの構築により、国外の研究者による本データベースの利用や日本研究等の学術研究が活発に行われ、日本に対する理解が深まり、ひいては国際社会における日本のプレゼンスの確立につながるという戦略性を有していると判断できる。

７．社会や国民の理解

文字情報に加え、料紙や挿絵等、活字テキストでは知ることのできない画像情報が多数含まれているデータベースを公開することにより、我が国の歴史的典籍を文字と画像からなる全体像として、国内外に広く発信することが可能となる。また、地域観光資源の開発や医療分野への応用など、その波及効果が広まれば広まるほど、社会や国民の理解と支持につながる。さらに、我が国固有の文化に関心をもつ人々も広く公開された本データベースを利用できるなど生涯学習の機会の拡大も期待でき、１１月１日が「古典の日」として制定された機運（「古典の日に関する法律」平成 24 年 9 月公布・施行）も踏まえ、社会や国民の理解と支持を得られると判断できる。

３．まとめ

１．総合評価

本計画は、歴史的典籍（奈良時代以降、江戸時代末までに日本人によって著述された書物）約 30 万点の画像データを含む我が国最大唯一の「日本語の歴史的典籍データベース」を作成し、さらに国際共同研究ネットワークを構築するものであり、人文学分野に限らない、新たな研究領域の創出や異分野間の融合研究の進展が見込める事業である。

「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について（報告)」（科学技術・学術審議会学術分科会　平成 24 年 7 月 25 日）において指摘されているように「従来ややもすれば、個別の分野の精緻化に固執するあまり、急速に進む専門化を優先させて細分化に陥り、知の統合や分野を超えた総合性への視点を欠落」しがちであった人文学・社会科学の状況に、一石を投じる計画であるといえる。

「２．計画の評価」では、以下の点を確認した。

（１）国文学関係の諸学会を横断する「日本文学関連学会連絡協議会」から協力する旨の確約を得ている。また、現に歴史的典籍を多数保有している大学が拠点として本計画に参画を約束しており、研究者コミュニティの合意は得られているといえる。

（２）国文学研究資料館は、「日本古典籍総合目録データベース」（我が国の歴史的典籍に関する最大の書誌情報データベース）の構築・運営及び歴史的典籍についての長年の調査・収集という実績がある。また、歴史的典籍を多数保有する 20 の大学の拠点としての参画や、既に中心となる事業センターが立ち上がっているなど、計画の実施主体・体制も適切といえる。

（３）原本の直接閲覧という研究活動の限界を超え、画像情報を含むデータベースに国内外から容易にアクセスできるようになる。また、歴史的典籍を保有している国内研究機関との連携や、「国際共同研究ネットワーク委員会」による諸外国の研究機関との連携により、国内外を通じた共同利用体制の展開が可能になるものと考えられる。

（４）画像情報作成の対象となる約 30 万点の歴史的典籍については、既に国文学研究資料館及び国内拠点大学がその多くを所有しており、残りについても所蔵機関から同意が得られる見込みがあり、実現可能性は高い。国際共同研究ネットワークの構築については、国外の研究機関等と既に複数の協定が結ばれていること、独自の研究者ネットワークを有する国際日本文化研究センター及び国立歴史民俗博物館とも連携して事業を進めること等から、計画内容は妥当といえる。

（５）歴史的典籍そのものの滅失の危機、日本文化研究の近年の状況を踏まえると、諸外国との比較においても緊急性は高いといえる。

（６）新たな学問領域の創出や異分野間の融合研究への展開につながる。さらに、国際共同研究ネットワークの構築により、日本に対する理解が深まり、ひいては国際社会における日本のプレゼンスの確立につながるという戦略性を有している。

（７）積極的な普及・啓発や実社会に裨益する波及効果の広まり、「古典の日」制定の機運（平成 24 年 9 月）といったことから、社会や国民の理解は得られるといえる。

以上を総合的に勘案し、本計画は積極的に進めるべきであり、早急に着手すべきであると評価する。

２．計画推進に当たっての留意点

本計画の推進に当たっては、国文学研究資料館等が以下のとおり取り組む必要がある。

国際共同ネットワークの構築に際し、データベースは重要なツールとなる。利用者は、国内外の国文学の研究者に加え、歴史学、思想史、経済史、法制史、自然科学系の諸分野等まで広範に及ぶ。

以上のことから、データベース構築に当たり、必要とされる機能性、将来の拡張性、多様な利用者の利便性を備えるよう事前の十分な設計が必要不可欠である。そのためには、情報分野の専門家の積極的かつ継続的で実質的な参画や、様々な分野の研究者コミュニティからの意見や要望の反映が可能となる体制を早急に構築するとともに、データベース公開スケジュールの事前提示等、運営においても利用者の利便性を重視する必要がある。

また、タグ付け項目の選定手法や画像データの作成技術、維持管理手法など、研究課題や得られるノウハウは数多い。これらを国文学研究資料館に着実に蓄積するとともに、拠点大学とも協力して人材育成に取り組むことが、本計画推進に当たって果たすべき責務であり、かつ本計画の将来性を担保するものとなる。

検索技術の高機能化等、画像データの様々な利用への対応可能性を追求するためにも、テキスト化の実証試験は重要である。くずし字の認識技術の開発や多言語対応の可能性等、技術革新につながることを考慮し、産業界の意見も踏まえつつ追求すべきである。

国際的な共同研究を活性化させ実りある研究成果を得るためには、国際的な研究ニーズの的確な把握やマッチングが必要であり、国際共同研究ネットワーク委員会の果たす役割は極めて重要である。委員会の構成や開催方式、ニーズ把握の手段等、ネットワークを実効性のあるものとするための取組が求められる。また、データベースを英語その他の言語対応可能とすることも視野に入れるべきであり、これらの取組の一つ一つが、国際社会における日本のプレゼンスの確立に結び付くことに留意する必要がある。

本計画の実施に当たっては、データベースの構築及びその着実で有効な管理運営はもちろん、積極的利用・研究を促進し、新たな学問領域の創出や異分野との融合研究といった具体的な国際共同研究を一層積極的に追及することが望まれる。そして、その実施計画や成果を分かりやすい形で一般社会に向けて示し、本計画の成果として還元するべきである。

最後に、本計画が、国文学にとどまらず広範な研究分野に及び、かつ国際的なものであることから、国文学研究資料館の設置者である大学共同利用機関法人人間文化研究機構が国文学研究資料館に対して積極的な支援と協力を行うことが不可欠である。また、同機構の研究機関であり本計画において連携することとされている国立歴史民俗博物館や国際日本文化研究センターも、単なる連携協力の域を超えて、国文学研究資料館と協働して本計画を推進することが求められる。

【用語解説】

日本古典籍総合目録データベース

国書総目録と古典籍総合目録全体を併せてデータベース化したもの。国文学研究資料館のデータベースとして公開しており、だれでも利用することができる。

国書総目録

我が国の有史以来、江戸時代末までの、日本人によって著述された書物（国書）を、所蔵機関（国公私立図書館、博物館、財団、個人の文庫等）の目録カードにより集大成し、50 音順に配列した目録。この目録によって、日本人著述の歴史的典籍の全貌が、初めて明らかになった。全８巻、著者別索引１巻から成る。この目録の完成（昭和 47 年）により、国書の所在情報が一挙に明らかになり、書誌学的、文献学的研究は飛躍的に進展した。

ただし、この目録は、原本に基づいて作成されたものではなく、所蔵各機関によって作成された目録カードに基づいて作成されたことから、原カードの誤りはそのまま踏襲され、また、図書分類の基準も、各機関によって異なるなど、問題点も残されている。本計画では、画像により典籍の存在を確認することができることから、書誌情報の誤りを訂正し、国書総目録をその内容としている日本古典籍総合目録データベースを補訂することができる。この日本古典籍総合目録データベースは、本計画により作成・公開する画像データベース全体の母体となるものであり、典籍と書誌情報の照合及びこれを踏まえた補訂は、本計画において必須のプロセスとなる。

古典籍総合目録

国書総目録完成後、それに漏れていた典籍につき、目録等によって補い、編集したもの。内容は国書総目録に準じており、国書総目録と合わせて我が国に存在するすべての典籍について目録が完成することになる。ただし、個人所有のものや秘匿されたものなどさらに漏れているものは存在する。国文学研究資料館が編集し、岩波書店が刊行した。

古典籍

通常は江戸時代以前に書写されたかもしくは版本として刊行された書籍のこと。巻子本も含んでいう。屏風や軸物は含まないことが多い。本計画中では「歴史的典籍」と同義である。

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会
学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会
委員等名簿

（◎：主査、〇：主査代理）

（委員）

西　尾　章治郎	大阪大学大学院情報科学研究科特別教授、 大阪大学サイバーメディアセンター長

（臨時委員）

伊　藤　早　苗	九州大学応用力学研究所教授
◎海　部　宣　男	国立天文台名誉教授、国際天文学会会長
〇川　合　知　二	大阪大学産業科学研究所特任教授
角　南　　篤	政策研究大学院大学准教授
瀧　澤　美奈子	科学ジャーナリスト
横　山　広　美	東京大学大学院理学系研究科准教授

（専門委員）

井　本　敬　二	自然科学研究機構生理学研究所所長
小　林　良　彰	慶應義塾大学法学部教授
髙　柳　英　明	東京理科大学教授
長　田　重　一	京都大学大学院医学研究科教授
永　宮　正　治	理化学研究所研究顧問、 高エネルギー加速器研究機構特定教授
新　野　　宏	東京大学大気海洋研究所所長
吉　田　哲　也	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 学際科学研究系教授

※評価にご協力いただいた専門家

柴　山　　守	京都大学地域研究統合情報センター研究員
三　角　洋　一	大正大学特命教授、東京大学名誉教授

（敬称略、五十音順）

資料 28

大型研究計画に関する進捗評価について（報告）

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

平成２８年８月２３日

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会
学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会

目　　次

はじめに　・・・

はじめに

文部科学省においては、学術研究の大規模プロジェクトへの安定的・継続的な支援を図るべく、平成２４年度、新たに「大規模学術フロンティア促進事業」を創設した。

この事業は、世界が注目する大規模プロジェクトについて、「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想 ロードマップの策定」[1]等に基づき、社会や国民の幅広い理解・支持を得つつ、国際的な競争・協力に迅速かつ適切に対応できるよう支援し、戦略的・計画的な推進を図ることを目的としている。

各プロジェクトの推進に当たっては、本作業部会が「大規模学術フロンティア促進事業の年次計画（以下、「年次計画」という。）」を作成し、進捗管理を行っているところである。「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の年次計画においては、「データベースの構築状況とそれを支える技術開発の実施状況、国際共同研究ネットワークの構築状況、本事業への人間文化研究機構の支援の状況などに留意し計画を推進する。」ことが留意事項として記載されており、これらへの対応状況を中心に、このたび本作業部会において進捗評価を実施した。

進捗評価に当たっては、関係分野の専門家の助言を得つつ、委員による研究現場の状況を確認するための現地調査、ヒアリング及びそれらを踏まえた審議を実施し、評価結果を取りまとめた。

[1] 本作業部会は、平成 26 年 2 月、日本学術会議が策定した「マスタープラン 2014」を踏まえ、学術研究の大型プロジェクト推進に当たっての優先度を明らかにする観点から、学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想　ロードマップの策定－ロードマップ 2014－」をとりまとめた。
URL http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1351171.htm

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」について

１．進捗評価の実施方法

現地調査・ヒアリング

今回の進捗評価に当たっては、研究現場の状況をより丁寧に把握するため、以下のとおり東京都立川市にある国文学研究資料館を本作業部会委員等１１名が訪問し調査を行った。

（１）日時

平成２８年６月２８日（火）１０：００～１５：４０

（２）参加委員

本現地調査に参加した作業部会委員は、以下のとおり。（〇現地調査の主査）

作業部会委員：伊藤早苗、井本敬二、海部宣男、川合知二、〇小林良彰、
鈴木洋一郎、永宮正治、山中佳子、横山広美

アドバイザー：佐藤真一、山中玲子

（３）概要

・実施責任機関からのヒアリング　（６０分）

計画の概要、進捗状況などについて、実施責任機関から説明を聴取した後、質疑応答を行った。

【説明者】今西祐一郎館長、寺島恒世副館長、谷川惠一副館長、
山本和明特任教授（古典籍共同研究事業センター副センター長）

・現地調査（６０分）

伊勢物語傍註、源氏物語（榊原本）、三十六歌仙帖（彩色）など計１４点の実物の書物（古典籍）について、概要や現在の保存状況などの説明を受けた。また、日本語の歴史的典籍データベースへの公開までの作業のデモンストレーションとして、古典籍の撮影やスキャニング方法を調査した後、検索機能を充実させるためのタグ付けシステムやくずし字の自動テキスト化が可能なくずし字ＯＣＲ（凸版印刷との共同研究）、古典籍に特化したスキャナー試作機（PFU 株式会社との共同研究）などの状況を確認し、質疑応答を行った。

・研究者からのヒアリング（４０分）

古典教育プログラム開発・データベース構築・異分野融合研究などを担当する若手研究者や画像処理・くずし字認識技術・タグ付けシステム開発などを共同で進めている共同研究者、さらに画像撮影・撮影マニュアル作成を行っているプロジェクト研究員から、研究現場で感じている課題などについてヒアリング・意見交換を　行った。

・現地調査、研究者との意見交換を踏まえた実施責任機関との意見交換（５０分）

「日本語の歴史的典籍データベースの構築」、「国際共同研究ネットワークの構築」、「国際共同研究の推進」の進捗状況や今後の計画推進について、意見交換を行った。

・まとめ（４５分）

本作業部会委員等において、今回の現地調査を踏まえた研究の進捗状況について議論を行い、その後、計画推進に当たっての留意点の概要を実施責任機関へ伝えた。

学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会での審議

（１）日時　平成２８年８月２３日（火）１０：００～１２：００

（２）概要　進捗評価報告書（案）の審議

２．計画の概要

（１）概要と主な内容

グローバルかつ急速に進展する研究資源のデジタル化の中で大きく立ち後れている「日本語の歴史的典籍（以下、「歴史的典籍」という。）」に関する取り組みを加速し、世界でも有数な質・量を有する歴史的典籍をネットワーク上で利活用可能な研究資源とし、それを用いた新たな国際的共同研究システムを構築することは、日本研究の将来を左右する喫緊の課題である。

歴史的典籍は、江戸時代末まで日本人によって著編撰訳されたすべての書籍を指し、その総数は日本古典籍総合目録データベースの書誌情報等から約５０万点と推測される。

本計画は、画像化が可能と見込まれる約３０万点の歴史的典籍の大規模画像データベースを国内外の大学等と連携して構築し、くずし字など日本の書物に固有の課題に対応した高度な検索機能を新たに開発することにより、自然科学系を含む国内外の幅広い分野の研究者が埋もれた知の宝庫である歴史的典籍を研究資源として自在に活用できる研究基盤を整備する。並行して、歴史的典籍を利活用していくための国際共同研究ネットワークを構築し、歴史的典籍から新たな知見を導き出す共同研究により、諸分野の研究者による異分野融合研究を醸成し、新たな研究領域の創成を目指す計画である。

本計画は、以下の３つの研究テーマを進めている。

１．「日本語の歴史的典籍データベース」の構築
- 国内２０大学と協働しての３０万点の歴史的典籍画像データの作成
- 作成した画像データ公開のための大規模提供システムの構築・運用
- 全文テキスト化に向けたテキスト化実証試験（くずし字認識）の実施
- 検索機能の向上のため、付加情報（タグ）の作成と多言語化対応の実施

２．国際共同研究ネットワークの構築
- 国内外の大学・研究機関等との共同研究体制の構築
- 人文学分野における先導的な共同研究モデルの構築

３．国際共同研究の推進
- 国際共同研究ネットワークを活用した異分野融合研究の醸成
- 総合書物学構築による、書物の文化学的研究や文献観光資源学研究の推進

（２）実施体制

本計画の実施に当たっては、国文学研究資料館が中心的な機関になるとともに、歴史的典籍を多数保有する２０の国内大学が拠点大学として参画し、さらに国外の大学等と国際共同研究ネットワークを構築し推進する体制である。

１．国文学研究資料館における体制

国文学研究資料館では、計画全体を統括し推進するため「古典籍共同研究事業センター」を設置し、その中に各種委員会を置き、研究テーマの推進計画や事業についての評価等を行う体制としている。

・古典籍共同研究事業センター（以下、「事業センター」という。）
　計画全体を統括し、計画を推進する中心組織。
　事業センター長は、国文学研究資料館長が兼務し、副センター長として特任教授１名を置き計画全体の総合的コーディネートを行っている。特任教授１名、特任准教授１名、特任助教２名、教授１名（館内兼任）、准教授２名（うち１名は館内兼任）、研究員（ポスドク）１名の体制により、データベース構築と運用、国文学研究資料館が所蔵する原本画像データの作成、事業センターの下に置かれる各種委員会の運営、画像情報の一部テキスト化の実証試験などを行っている。
・事業実施委員会
　外部委員８名（異分野研究者を含む）、館内委員８名で構成され、事業センターの管理運営に関する重要事項（基本方針、事業計画、プロジェクトの普及・啓発及び広報等）を審議。
・国際共同研究ネットワーク委員会
　外部委員１３名（海外機関から１０名）、館内委員８名で構成され、古典籍プロジェクトに関する国際共同研究の推進について審議。
・拠点連携委員会
　外部委員３９名（国内２０拠点大学）、館内委員４名により構成され、事業センターと国内拠点大学との連携・連絡調整を担う。
・日本語歴史的典籍ネットワーク委員会（評価小委員会）
　外部委員１０名（異分野研究者を含む）、館内委員２名により構成され、事業計画に関するモニタリング、事業の評価等を実施。
・顧問
　事業センター長の求めに応じ､事業センターの業務ついて総合的見地から助言を行う。
・タグ付ワーキンググループ
　医学関連書及び数学関連書のタグ付けについて、それぞれ外部委員３名、館内委員５名で構成されるワーキンググループを立ち上げ、異分野研究者の意見をタグ付けに反映。

２．国内拠点大学及び国外連携機関

歴史的典籍を多数保有する２０の国内大学を国内拠点大学として位置付け、それぞれが所蔵する歴史的典籍の画像データ化と書誌情報との照合を進めるとともに、歴史的典籍を保有している図書館や博物館等との連携体制の構築などを進めている。

また、国文学研究資料館が学術交流協定を締結している海外大学・研究機関を中心に国際共同研究ネットワーク委員会を組織し、国際共同研究の実施等を通したネットワークの構築に取り組んでいる。

国内拠点大学（２０拠点）

北海道大学	東北大学	筑波大学	東京大学
お茶の水女子大学	名古屋大学	京都大学	奈良女子大学
大阪大学	神戸大学	広島大学	九州大学
慶應義塾大学	國學院大學	立教大学	早稲田大学
大谷大学	関西大学	同志社大学	立命館大学

国外連携機関（１３機関）

コレージュ・ド・フランス 日本学高等研究所	コロンビア大学	高麗大学校
フィレンツェ大学	北京外国語大学	ライデン大学
ヴェネツィア国立大学	ナポリ大学	サピエンツァ・ ローマ大学
バチカン市国図書館	ブリティッシュ・コロンビア大学	ケンブリッジ大学
カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館		

（３）年次計画及び予算規模

本計画に係る年次計画及び予算規模は以下の通りである。

大規模学術フロンティア促進事業の年次計画

計画名称	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画		
実施主体	【中心機関】人間文化研究機構国文学研究資料館 【連携機関】 （国内：２０機関）北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、広島大学、九州大学、慶應義塾大学、國學院大學、立教大学、早稲田大学、大谷大学、関西大学、同志社大学、奈良女子大学、立命館大学 （国外：１３機関）コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所、コロンビア大学、高麗大学校、フィレンツェ大学、北京外国語大学、ライデン大学、ヴェネツィア国立大学、ナポリ大学、サピエンツァローマ大学、バチカン市国図書館、ブリティッシュ・コロンビア大学、ケンブリッジ大学、カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館		
所要経費	総額　88 億円	計画期間	運用期間　平成 26 年度～平成 35 年度 【事前評価】平成 24 年 9 月、平成 25 年 9 月 【進捗評価】平成 28 年 8 月
計画概要	国内外の大学等と連携して、歴史的典籍（奈良時代以降、江戸時代末までに日本人によって著述された書物）約 30 万点を画像データ化し、書誌情報データベースと統合して「日本語の歴史的典籍データベース」を構築し、国際共同研究ネットワークを構築することによって、歴史学、社会学、哲学、医学などの諸分野の研究者が多数参画する異分野融合研究を醸成し、幅広い国際共同研究の展開を目指す。		
研究目標 （研究テーマ）	1.「日本語の歴史的典籍データベース」の構築 2. 国際共同研究ネットワークの構築　3. 国際共同研究の推進		

年次計画	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
１．「日本語の歴史的典籍データベース」の構築 ・画像収集・データ化による 30 万点の画像データの作成。 ・大規模提供システムの運用（第 1 期・第 2 期）。 ※第 1 期公開におけるユーザーの要望等を踏まえたシステム改修を進め、第 2 期公開に移行 ・テキスト化実証試験（くずし字認識）の実施。 ・検索機能の向上化に係る付加情報（タグ）の作成。多言語化対応。	画像データの作成 国文研の既存システムから仮公開 データベースの構築 歴史的典籍の大規模提供システム（第１期）による公開 歴史的典籍の大規模提供システム（第２期）による公開 テキスト化実証試験 検索機能の向上化に係る付加情報の作成 多言語化準備 多言語化対応（順次更新）								
２．国際共同研究ネットワークの構築 ・連携機関との共同研究体制（国内については画像作成も含む体制）の構築。 ・人文学分野における先導的な共同研究モデルの構築（体制構築、異分野融合研究方法の開拓・推進）。	国際共同研究ネットワークの構築 異分野連携を踏まえたネットワークの拡充 先導的な共同研究モデルの構築									
３．国際共同研究の推進 ・国際共同研究ネットワークを活用した異分野融合研究の醸成。文学と宗教など、幅広い領域（言語学、文化人類学、芸術学など）にまたがる共同研究を実施し、人文学が、自然科学や社会科学にアプローチ、貢献しうる相互理解（相互連携）の醸成。 ・同時代に著作された古典籍を横断的に集約し、その時代時代の人々の精神思考を解明する総合書物学の推進。 総合書物学の研究の一領域として、書物の文化学的研究や文献観光資源学等の推進。	異分野融合研究の醸成 総合書物学の構築 書物の文化学的研究の推進 文献観光資源学研究の推進									
評価の実施時期			進捗評価		中間評価				期末評価	

【これまでの予算】

平成２５年度（準備経費）　　１億円

平成２６年度～平成２８年度　　３．９億円

３．計画の進捗状況

（１）「日本語の歴史的典籍データベース構築」の状況

①画像データの作成

平成２５年度から平成２７年度末までに２７，７０６点（約４１５万コマ）の画像データを作成した。本計画開始前から国文学研究資料館において画像化されていたものを含めると、総数は約７２，０００点（約１，０００万コマ）の画像データを作成している。

分野	総点数	画像データ作成点数	達成率（%）
医学・理学等	２２，０００	１２，０００	５４．５
産業・宗教等	８３，０００	３，０００	３．６
歴史・政治・経済等	８２，０００	１８，０００	２２．０
文学・芸術等	９９，０００	３８，５００	３８．９
その他	１４，０００	５００	３．６
合計	３００，０００	７２，０００	２４．０

当初計画では、対象分野を特定しない広範囲な作成計画を策定したが、平成２７年度に予算状況などを考慮し、３０万点の目標点数は維持しつつ、共同研究計画に資するよう１０年間の画像データ作成期間を３期に分け、各期の対象分野を設定した。

また、国内２０拠点大学における画像データ作成を円滑に行うため、拠点連携委員会における協議を経て各大学における作業工程をまとめた説明書（マニュアル）を作成し、国内拠点大学との連携を図ってきた。このような体制のもと、平成２７年度には９拠点大学における画像データ作成を実施した。

並行して、各国内拠点大学自らで歴史的典籍の撮影を行う内製化を平成３０年度より本格実施することを目指し、事業センターにおいてブックスキャナーを用いた試験に取り組み、「内製化試験報告書」として取りまとめるとともに、拠点大学における内製化実施の課題を抽出するためのアンケートを実施した。

②大規模提供システムの構築

作成した画像データのうち約５４，０００点を、暫定的に国文学研究資料館の日本古典籍総合目録データベースから公開している。

本計画では、従来の限定した項目による検索機能しか持たない目録データベースに、独自の画像情報の検索機能を追加した大規模提供システムの構築を目指している。

そのために必要とする機能を取りまとめ、外部委員を含む仕様策定委員会を平成２６年度に設置し、「公開系機能」（作成された画像データを公開するための専用システム）に書誌及び画像の公開作業等を行うための「センター作成ツール」を付加したシステムの仕様書の策定を行った。その後平成２７年度に「公開系機能」の一部である目録検索は国文学研究資料館の情報基盤システムから取り込むこと、「センター作成ツール」については公開に向けた作業が必要なことから事前に調達するよう見直しを行った。

タグによる検索や多言語対応などの「公開系機能」の本体部分については、本計画におけるシステム構築とその運用に関するノウハウを蓄積していくことに配慮しつつ、平成２７年度に採用した若手の特任助教を中心に検討を重ね、国立情報学研究所の教員も参加した仕様策定委員会の下で仕様書を策定し直した。これにより、ＷｅｂＡＰＩ、多言語対応、ＤＯＩ付与、スマートＧＳ、ソーシャルタギングなど、従来のデータベースにない多数の新機能を盛り込んだシステムの調達と、平成２９年度からの運用開始に向けた作業を進めている。

③データベース機能強化へ向けた共同研究

歴史的典籍データベースの機能強化へ向け、情報学系分野との間で連携研究を実施し、その研究成果をデータベースシステムへと反映させるため、大学、研究機関及び民間企業などと共同研究を実施している。

これまでに、歴史的典籍画像からのキーワード抽出とテキスト化に関する公立はこだて未来大学・凸版印刷株式会社との共同研究や、先端的な情報基盤の構築・運営に関する国立情報学研究所との共同研究を開始するとともに、画像作成内製化に関わる機材開発に関する株式会社ＰＦＵとの共同研究を開始した。このうち、歴史的典籍画像からのテキスト化の実証試験では、自動判読精度８０％を達成した。

タグ付けに関しては、理学（和算）及び医学分野について、それぞれ外部有識者を交えたワーキンググループを平成２６年度に設置し、対象とする歴史的典籍の選定とタグ付け方式に関する要望を聴取した。これらを踏まえ、ネットワーク上で画像の一部を選択してタグ付けを行うことができる新たなシステムを事業センター特任助教が開発した。平成２８年６月からこのタグ付けシステムの運用を開始し、外部の研究者が参画するタグ付けを本格的に開始するための環境を整えた。

多言語対応については、浮世絵等の日本資料の英語による検索手法の開発に実績がある立命館大学アート・リサーチセンターとの間で実証研究等を平成２７年度から開始し、平成３０年度からデータベースの検索システムに実装する計画としている。

（２）「国際共同研究ネットワークの構築」の状況

国際共同研究ネットワークの構築は、国内外の拠点や連携機関との連携体制を共同研究等の実施を通して強化するとともに、その輪を広げつつ、歴史的典籍を核とする新たな国際コンソーシアムの設立を目指すものである。

海外の大学・研究機関については、国文学研究資料館が学術交流協定を締結している機関を中心に国際共同研究ネットワーク委員会を組織し、国際共同研究の実施等を

通したネットワーク構築に取り組んでおり、平成２７年度現在、１３の大学・研究機関が国外連携機関となっている。

また、北米におけるくずし字講習会の継続的な開催や、海外におけるシンポジウム、国際研究集会への教員の派遣等により、本計画の国際的な周知を図ってきた。平成２８年５月には、北米における日本の歴史的典籍の所蔵機関により組織された東アジア図書館協議会（ＣＥＡＬ）から、本計画への全面的な協力と国際的な連携体制構築への参画希望が国文学研究資料館長に対し表明された。

国内大学とのネットワーク構築については、歴史的典籍を所蔵しそれに基づく研究実績のある、国内２０拠点大学が参加する拠点連携委員会を平成２６年に組織し、各大学が所蔵する歴史的典籍の画像データ作成と共同研究の実施に取り組んでいる。平成２７年度には、画像データ作成を９大学で、共同研究を４大学との間で実施するとともに、国文学研究資料館を中心に５大学・１機関と外部資金の獲得による新たな大型共同研究の実施に向けた取り組みを行った。

また、平成２８年８月には、文学を中心に幅広い分野の歴史的典籍を扱う研究者が集まる日本近世文学会とも共同で取り組む覚書が締結されるなど、今後、研究者コミュニティとの連携のさらなる拡大を図るべく協議を進めている。

このように国文学研究資料館がハブとなり、国内外の主要な大学・研究機関等が協働して研究を企画・実施・発信していくという機関間連携を基軸とした、共同研究推進のモデルを構築している。今後もデータベースの機能強化と活用へ向けた取り組みを強化することで自然科学系への更なる展開を図り、異分野が出会い融合していく場としての国際的共同研究システムとして拡充していく。

（３）「国際共同研究の推進」の状況

国際共同研究は、平成２６年度に実施した準備研究を経て、平成２７年度より、「江戸時代初期出版と学問の綜合的研究」及び「境界をめぐる文学－知のプラットフォーム構築をめざして－」の２件を３年計画で実施している。

「江戸時代初期出版と学問の綜合的研究」は、欧州、北米、韓国、台湾、中国など国外各地に散在する歴史的典籍の調査と活用を目的とした共同研究である。

また、「境界をめぐる文学－知のプラットフォーム構築をめざして－」は隣接諸学の成果を取り入れながらグローバルに展開されている日本文学研究の成果発信を目的とした共同研究である。

（４）「異分野融合研究」の状況

異分野融合研究には２つの場合がある。一つは異なる研究分野が融合する場合であり、もう一つは異なる研究分野における研究手法を相互に取り入れる場合である。本計画では、いずれの異分野融合研究も実施している。

異分野の研究手法の融合への取組みとしては、国立情報学研究所と共同研究を行い、人文社会学の視点と情報学の視点を組み合わせたデータベースの機能の強化を行っている。具体的には（１）③に記載しているとおりである。

研究分野の融合については、人間文化研究機構を構成する４機関が協働し、「総合書物学」の構築をテーマとする共同研究を平成２６年度より実施している。

総合書物学とは、文学・歴史・天文・農業・建築などといった既存の学問分野ごとになされてきた歴史的典籍の利用方法を転換し、一つの書物に対し多様な研究視点を加え、文化の中における書物、人間にとっての書物のあり方などを究明する新たな研究領域として作り出した学問領域のことである。全領域にわたる日本の歴史的典籍を搭載したデータベースの分野横断的な活用を通して、異分野融合研究の醸成を目指す本計画にとって、既存の学問分野を超えた歴史的典籍の再資源化を目指す総合書物学の構築は、計画全体の基盤を構成するものである。

また、富山大学和漢医薬学総合研究所との間で歴史的典籍を活用した和漢薬に関する共同研究を平成２７年度から実施し、長期的な視野に立って日本由来の新たな生薬の開発に貢献している。

さらに平成２７年度から総合研究大学院大学の学融合共同研究として国立極地研究所と連携し、「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」を実施している。この共同研究は、歴史的典籍に載せられたオーロラ現象の集約と分析を行い、幅広い研究者・市民の関心を喚起しており、国立極地研究所とはＭＯＵを締結し更なる共同研究の進展へ向けた準備を行っている。

（５）「社会や国民の理解を得るための取組」の状況

国文学研究資料館において歴史的典籍の実物による展示を通年で開催し無料で一般の展観に供しているほか、市民を対象とした各種講演会や専門職員を対象とした講習会を定期的に開催し、歴史的典籍について知りたい、専門知識を修得したいというニーズに応えるとともに、本計画に対する理解の増進を図っている。

特に、平成２７年度は大学共同利用機関シンポジウムや文部科学省情報ひろばにおいて、プロジェクトに関する展示を行うとともに、情報ひろばでは、小学校６年生を対象に現代マンガと関連させた歴史的典籍についての特別授業を２回実施した。

また、本計画に関する情報発信のため、ニューズレター「ふみ」を平成２６年度から年２回発行するとともに、ＳＮＳ（Ｔｗｉｔｔｅｒ）による情報発信を平成２８年６月から開始するなど、広報・周知活動を行っている。

さらに、本計画への理解にとどまらず、市民が科学研究に能動的に参加する「シチズン・サイエンス」へ向けた展開を図ることを目的に、国立情報学研究所の協力を得て、平成２７年１１月から国文学研究資料館所蔵の３５０点の歴史的典籍のデータセットをオープンデータとして公開し、データセットの活用方法を市民から募るアイデアソンを平成２７年１２月に開催した。このアイデアソンの提案から、江戸の料理本からのレシピ復元を国立情報学研究所及び味の素食の文化センターと共同で取り組むこととしている。

また、国内拠点大学の一つである大阪大学とくずし字教育に関する国際シンポジウムを共催し、データセットを活用した「くずし字学習アプリ」を平成２８年２月に公開した。

４．計画の進捗評価と今後の留意点

（１）計画の進捗状況を踏まえた評価

本計画では、実施責任機関である大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館において古典籍共同研究事業センターを設置し、事業推進に必要な各種委員会が整備され、実施体制がほぼ整ってきていると評価できる。

日本語の歴史的典籍データベース構築においては、予算措置の状況を考慮し当初計画の見直しを行い、目標点数である３０万点の画像作成は維持しつつも、早急に共同研究等の活用が見込まれる分野を優先して作成する計画に見直すとともに、画像データ作成の作業マニュアルを作成し、国内拠点大学で画像データ作成を実施するなど計画の進捗に大きな遅れを生じないよう、適切な対応が行われていると評価できる。

しかしながら、このままの予算状況が続けば、計画期間内での３０万点の画像データ作成は困難であると思われる。本データベースは、今後、様々な利活用の可能性のある研究基盤を構築するものであるとともに、我が国の貴重な文化遺産を後世に伝えていくものでもあることから、国として一層の支援が行われることが必要である。併せて国文学研究資料館においても、計画の進捗にあわせた計画の見直しや連携機関との一層の連携強化などにより経費の削減・効率化に努めることを期待する。

データベースの機能強化に向けた技術開発は、連携機関や企業の共同研究で実施されており、タグ付機能、テキスト化技術、画像分析技術の進捗も確認でき、成果をあげていると評価できる。より使いやすいデータベース構築に向け、データ検索技術コミュニティとの一層の連携に期待する。

国際共同研究ネットワークの構築においては、国文学研究資料館が学術交流協定を締結している機関を中心に国際共同研究ネットワーク委員会が組織され、１３の大学・研究機関を国外拠点としている。海外におけるシンポジウムや国際研究集会への参加やくずし字講習会の開催などを通じ、着実に国際共同研究ネットワークが構築され、ネットワークを活用した共同研究の実施など効果的な活動が認められる。

国際共同研究の推進においては、本事業で構築された国際共同研究ネットワークを活用して、国外の歴史的典籍に関する情報等を集約し国際的に活用される基盤整備を行うことや学際的なテーマを設定し異分野融合で国際共同研究を実施し、成果を国際的に発信して知の共有化を図るなど、これまでにない特色をもつ国際共同研究が実施されてきており、より一層の今後の取組みを期待する。

その他、社会や国民の理解を得るための取組や事前評価での留意事項等に対する対応状況ついても真摯に対応していると認められる。

これらを総合的に勘案すると、国文学研究資料館を中心とした国内外の参加機関の連携協力により、概ね計画どおり進められており、順調に進捗していると評価する。

（２）今後の事業の推進に当たっての留意点

上記の進捗評価を踏まえ、今後の事業の推進に当たって、以下の点について留意が必要である。なお、以下の留意点については、平成３０年度に実施する予定である中間評価において、対応状況の確認を行うものとする。

①　役割と責任所在を明確化した推進体制の構築

本計画は、人文社会科学分野における初めての複数機関連携による大型学術研究プロジェクトであり、プロジェクトの推進体制は、試行錯誤を重ねながら整いつつあることが認められる。一方で、今後プロジェクトが本格的に推進していくにつれて、資料収集、画像作成・技術開発・共同利用体制・研究者育成・広報・研究成果の管理など多岐に渡るミッションが同時並行的に進行していくこととなる。

今後のプロジェクトの推進に当たっては、プロジェクト全体をマネジメントしていく必要があることから、推進体制の役割と権限、責任をより一層明確にすることが求められる。特に各ミッションを推進する責任者の役割と権限、各種委員会の役割と責任を明確化することが必要である。

②　国文学研究における本計画の位置付けの明確化

国文学研究資料館は、国文学に関する文献その他の資料の調査研究、収集、整理及び保存を目的とする大学共同利用機関である。本計画の推進に当たっては、国文学研究資料館の大学共同利用機関としての使命、役割との関係を一層明確にし、関係者の間で共通認識とする必要がある。特に、本計画が、国文学研究の新たな展開にどのように資するものであるかを、明らかにすることが重要である。また、若手を中心とする研究者がデータベース構築等の作業に従事することにより、本来の研究に時間を確保することが困難となることがないよう配慮が望まれる。

③　知的財産等への対応の強化

本計画では、連携機関や企業とデータベースの構築や様々な技術開発、共同研究などを実施しているところである。しかしながら、本プロジェクトでの成果と考えられるものが、本プロジェクトとの関係が明記されずに発表されている事案が見受けられた。実施主体と参画機関との間で、知的財産などの権利関係の整理が適切に行われているのか、懸念される状況である。

共同研究や技術開発などの研究成果に係る権利関係について適切な管理体制を構築することや、データベースや画像データの公開に関するポリシーの整備をしておくことが必要である。

用語解説

日本古典籍総合目録データベース

『国書総目録』と『古典籍総合目録』を併せてデータベース化したもの。国文学研究資料館のデータベースとして公開しており、だれでも利用することができる。

国書総目録

我が国の有史以来、江戸時代末までの、日本人によって著述された書物（国書）を、所蔵機関（国公私立図書館、博物館、財団、個人の文庫等）の目録カードにより集大成し、５０音順に配列した目録。全８巻、著者別索引１巻から成る。この目録の完成（昭和４７年）により、国書の所在情報が一挙に明らかになり、書誌学的、文献学的研究は飛躍的に進展した。

ただし、この目録は、原本に基づいて作成されたものではなく、所蔵各機関によって作成された目録カードに基づいて作成されたことから、原カードの誤りはそのまま踏襲され、また、図書分類の基準も、各機関によって異なるなど、問題点も残されている。本計画では、画像により典籍の存在を確認することができることから、書誌情報の誤りを訂正し、国書総目録をその内容としている日本古典籍総合目録データベースを補訂することができる。この日本古典籍総合目録データベースは、本計画により作成・公開する画像データベース全体の母体となるものであり、典籍と書誌情報の照合及びこれを踏まえた補訂は、本計画において必須のプロセスとなる。

古典籍総合目録

『国書総目録』刊行後、その続編として国文学研究資料館が編集したもの。この目録の刊行により、『国書総目録』と併せて、日本人によって著述された歴史的典籍の全貌が明らかになった。

日本語の歴史的典籍

我が国の有史以来、江戸時代末までに日本人によって著述された書籍。中国書や文書類、一枚物の絵画・地図等は対象外としている。「古典籍」と同義である。

科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会
学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会　委員等名簿

（委員）

西　尾　章治郎	大阪大学総長

（臨時委員）

海　部　宣　男	自然科学研究機構国立天文台名誉教授
川　合　知　二	大阪大学産業科学研究所特任教授
伊　藤　早　苗	九州大学応用力学研究所教授
井　本　敬　二	自然科学研究機構生理学研究所長
大　島　ま　り	東京大学大学院情報学環教授、 東京大学生産技術研究所教授
小　林　良　彰	慶應義塾大学法学部教授
瀧　澤　美奈子	科学ジャーナリスト
横　山　広　美	東京大学大学院理学系研究科准教授

（専門委員）

鈴　木　洋一郎	東京大学国際高等研究所ｶﾌﾞﾘ数物連携宇宙研究機構特任教授
永　宮　正　治	理化学研究所研究顧問、 高エネルギー加速器研究機構名誉教授
新　野　　宏	東京大学大気海洋研究所教授
松　岡　彩　子	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所准教授
山　中　佳　子	名古屋大学大学院環境学研究科准教授

※評価にご協力いただいた専門家

佐藤　真一	国立情報学研究所教授
山中　玲子	法政大学能楽研究所長

（敬称略、五十音順）

資料 29

大型研究計画に関する進捗評価について（報告）

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」について

2018 年（平成 30 年）8 月 30 日

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会
学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会

目　次

はじめに・・・

はじめに

文部科学省においては、学術研究の大型プロジェクトへの安定的・継続的な支援を図るべく、2012 年度（平成 24 年度）に「大規模学術フロンティア促進事業」を創設した。

この事業は、世界が注目する学術研究の大型プロジェクトについて、科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会（以下「作業部会」という。）が策定した「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定－ロードマップ－」※1 等に基づき、社会や国民からの支持を得つつ、国際的な競争・協調に迅速かつ適切に対応できるよう支援し、戦略的・計画的な推進を図ることを目的としている。

各プロジェクトの推進に当たっては、本作業部会が「大規模学術フロンティア促進事業の年次計画」（以下「年次計画」という。）を作成し、進捗管理を行っているところである。

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築」の年次計画においては、10 年計画の 5 年目に当たる 2018 年度（平成 30 年度）に、進捗状況等の確認を行うことが記載されており、このたび、本作業部会において進捗評価を実施した。

進捗評価に当たっては、本作業部会において、実施機関である法人に対し、「学術研究の大型プロジェクトの推進方策の改善の方向性」（2017 年（平成 29 年）3 月本作業部会決定、以下「改善の方向性」という。）や現在の財政環境などに基づく課題を整理の上、これらの課題に主体的に対応するよう促していることに鑑み、従来の評価の観点に、

- 実施機関による財政環境への対応が適切に行われたかどうか
- 期末まで安定的・継続的にプロジェクトを推進することができるよう年次計画の内容の変更等が行われたかどうか

を加え、関係分野の専門家（以下「アドバイザー」という。）から助言を得つつ、委員が研究現場の状況を確認するためのヒアリング及びそれらを踏まえた審議を実施した。

※１　本作業部会においては、日本学術会議の「マスタープラン」が示す学術的意義の高い大型プロジェクトのうち、推進に当たっての優先度が高いと認められるものを選定し、「ロードマップ」として策定している。2017 年（平成 29 年）７月には「ロードマップ２０１７」を取りまとめた。
（URL）http://www.mext.go.jp/a_menu/kyoten/1383666.htm

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築」計画について

１．進捗評価の実施方法

ヒアリング

今回の進捗評価は、次のとおり、本作業部会委員及びアドバイザーからなる評価者 7 名による実施機関からのヒアリングを通じて実施した。

（１）日　　時：　2018 年（平成 30 年）7 月 23 日（金）13：30～17：00
（２）参加委員：　ヒアリングに参加した評価者は、以下のとおり。（敬称略、〇は主査）
（作業部会委員）栗原 和枝、〇小林 良彰、鈴木 洋一郎、田村 裕和、原田 慶恵
（アドバイザー）柴山 守、山中 玲子
（３）概　　要：

・機関からのヒアリング（35 分）

人間文化研究機構から、計画の概要、進捗状況等について説明を受けた後、質疑応答を行った。

（人間文化研究機構説明者）
ﾛﾊﾞｰﾄ ｷｬﾝﾍﾞﾙ　人間文化研究機構国文学研究資料館長、
谷 川　惠 一　同館副館長・古典籍共同研究事業センター長、
山 本　和 明　同館教授・古典籍共同研究事業副センター長、
窪 田　順 平　人間文化研究機構理事、
山 本　昌 博　人間文化研究機構事務局長

・まとめ（25 分）

機関からのヒアリングを踏まえ、研究の進捗状況に係る確認及び今後の推進方策や留意事項等に係る検討を実施した。

学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会における審議

（１）日　　時：　2018 年（平成 30 年）8 月 10 日（金）13：30～16:30
（２）審議事項：　進捗評価報告書（案）の審議

（１）日　　時：　2018 年（平成 30 年）8 月 30 日（木）13:00～15:00
（２）審議事項：　進捗評価報告書（案）の審議

２．計画の概要

（１）概要

グローバルかつ急速に進展する研究資源のデジタル化の中で大きく立ち後れている日本語の歴史的典籍（以下、歴史的典籍と略記）に関する取組を加速し、世界でも有数な質量を有する歴史的典籍をネットワーク上で利活用可能な研究資源とし、それを用いた新たな国際的共同研究システムを構築することは、日本研究の将来を左右する喫緊の課題である。

江戸時代末までに日本人によって著述された全ての書物を網羅した大規模画像データベースを国内外の大学等と連携して構築し、くずし字の判読など日本の書物に固有の課題に対応した高度な検索機能を新たに開発することにより、自然科学系を含む国内外の幅広い分野の研究者が、埋もれた知の宝庫である歴史的典籍を研究資源として自在に活用できる研究基盤を整備する。これと並行して、歴史的典籍を利活用していくための国際共同研究ネットワークを国内外の大学・研究機関の参画により構築し、歴史的典籍から新たな知見を導き出す共同研究を実施することによって、諸分野の研究者による異分野融合研究を醸成し、新たな研究領域の創成を目指す。

（２）計画

（年次計画）

計画名称	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画									
実施主体	【中心機関】 人間文化研究機構国文学研究資料館 【連携機関】（国内：26機関）北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、広島大学、九州大学、慶應義塾大学、國學院大學、立教大学、早稲田大学、大谷大学、関西大学、同志社大学、奈良女子大学、立命館大学、国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、国立情報学研究所、国立極地研究所、富山大学和漢医薬学総合研究所 （国外：13機関）コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所、コロンビア大学、高麗大学校、フィレンツェ大学、北京外国語大学、ライデン大学、ヴェネツィア国立大学、ナポリ大学、サピエンツァローマ大学、バチカン市国図書館、ブリティッシュ・コロンビア大学、ケンブリッジ大学、カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館									
所要経費	総額 ８８億円			計画期間	運用期間 2014年度～2023年度 【事前評価】2012年９月、2013年９月 【進捗評価】2016年８月					
計画概要	国内外の大学等と連携して、歴史的典籍（奈良時代以降、江戸時代末までに日本人によって著述された書物）約30万点を画像データ化し、書誌情報データベースと統合して「日本語の歴史的典籍データベース」を構築し、国際共同研究ネットワークを構築することによって、歴史学、社会学、哲学、医学などの諸分野の研究者が多数参画する異分野融合研究を醸成し、幅広い国際共同研究の展開を目指す。									
研究テーマ	1. 「日本語の歴史的典籍データベース」の構築　2. 国際共同研究ネットワークの構築　3. 国際共同研究の推進									

年次計画	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)	2022(H34)	2023(H35)	2024(H36)
1.「日本語の歴史的典籍データベース」の構築											
・画像収集・データ化による30万点の画像データの作成。	画像データの作成										
・大規模提供システムの運用（第1期・第2期）。 ※第1期公開におけるユーザーの要望等を踏まえたシステム改修を進め、第2期公開に移行	国文研の既存システムから仮公開										
	データベースの構築			歴史的典籍の大規模提供システム（第1期）による公開					歴史的典籍の大規模提供システム（第2期）による公開		
・テキスト化実証試験（くずし字認識）の実施。	テキスト化実証試験										
・検索機能の向上化に係る付加情報（タグ）の作成。多言語化対応。	検索機能の向上化に係る付加情報の作成										
	多言語化準備			多言語化対応（順次更新）							
2. 国際共同研究ネットワークの構築											
・連携機関との共同研究体制（国内については画像作成も含む体制）の構築。	国際共同研究ネットワークの構築		異分野融合を踏まえたネットワークの拡充								
・人文学分野における先導的な共同研究モデルの構築（体制構築、異分野融合研究方法の開拓・推進）。	先導的な共同研究モデルの構築										
3. 国際共同研究の推進											
・国際共同研究ネットワークを活用した異分野融合研究の醸成。 文学と宗教など、幅広い領域（言語学、文化人類学、芸術学など）にまたがる共同研究を実施し、人文学が、自然科学や社会科学にアプローチ、貢献しうる相互理解（相互連携）の醸成。	異分野融合研究の醸成										
	総合書物学の創出										
・同時代に著作された古典籍を横断的に集約し、その時代時代の人々の精神思考を解明する総合書物学の推進。 総合書物学の研究の一領域として、書物の文化学的研究や文献観光資源学等の推進。	書物の文化学的研究の推進			文献観光資源学研究の推進							
評価の実施時期	—	—	進捗評価	—	進捗評価	—	—	—	—	—	期末評価

（これまでの予算措置の状況）

運転経費・実験経費：　8.4 億円（2013 年度（平成 25 年度）～2018 年度（平成 30 年度）までの経費）

（３）プロジェクトの現況

1.プロジェクトの実施体制

【中　心　機　関】大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
【機構内連携機関】国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター
【国　内　拠　点】東京大学、京都大学、慶應義塾大学等（国内 20 機関）
【国　外　拠　点】コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所、コロンビア大学等
（国外 16 機関）
【連携研究機関】国立情報学研究所、国立極地研究所、茨城大学等

① 責任と役割を明確にした実施体制

古典籍共同研究事業センターを 2014 年（平成 26 年）4 月に設置。研究組織と事務部門で構成され専任職員と兼任職員を併せて約 30 名で構成。プロジェクト経費で予算措置している人数は 4 名（特任教授、特任准教授及び特任助教 2）であるが、その他の職員については、機構長裁量経費の活用や館長のリーダーシップによる有期職員の雇用、館内職員の移管・兼任などで対応している。

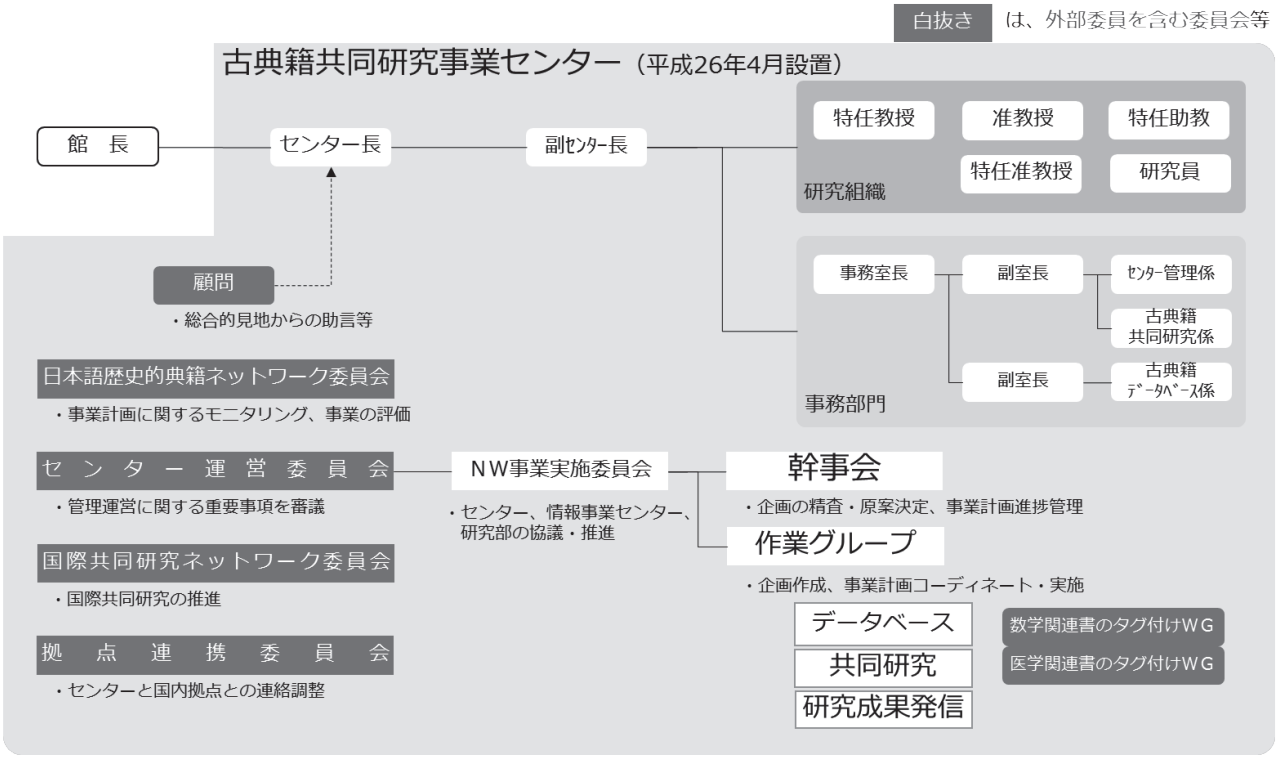
国文研副館長が兼任するセンター長が業務を統括し、センター長を補佐する副センター長（特任教授が兼任）を置くほか、画像データ等の作成、データベースの構築・運用を担う准教授・特任准教授、ソフトウェアの開発を担当する特任助教を置く。事務部門には室長以下、総務・会計担当、データベースの構築・公開担当、広報及び共同研究担当を置き、事業の進捗管理、予算の適正な執行、データベースのメンテナンス、研究推進に関する外部からの問い合わせ等に迅速に対応している。

事業実施の意思決定に関しては、事業計画に関するモニタリング及び事業評価を行う「日本語歴史的典籍ネットワーク委員会」、管理運営に関する重要事項を審議する「センター運営委員会」、国際共同研究を推進する「国際共同研究ネットワーク委員会」、センターと国内拠点との連絡調整を行う「拠点連携委員会」など、外部委員が多数を占める各種委員会を設置し、外部の意見を反映させる体制を整えており、モニタリングを行うなど PDCA サイクルにも配慮している。

事業実施に当たっては、研究部とセンター教員全員が参画する NW 事業実施委員会を置き、タグ付けを含むデータベースの構築、各種共同研究の統括、研究成果の発信等、既述の各種委員会の議を経て全館体制での取組を推進している。

2017 年（平成 29 年）6 月に開催された「日本語歴史的典籍ネットワーク委員会」において「NW 計画推進にあたっての留意事項への対応状況」についてモニタリングを行い、委員からの質疑応答、提案等を参考にしながら調整を図り、2018 年（平成 30 年）6 月には当委員会の下で事業に関する中間評価を実施し、現在に至っている。

（中心機関（人間文化研究機構国文学研究資料館）における実施体制図）



② 共同利用・共同研究を行うための実施体制

データベースはウェブブラウザを利用して共同利用のために公開しており、特殊なソフトウェアや利用手続き等の条件を設けていないので、利用者において IT 環境が整っている限り、いつでもどこでも誰でも利用可能である。ソフトウェアの不具合については既述のとおり担当者を置き迅速に対応している。

国際共同研究に関しては、「国際共同研究ネットワーク委員会」において海外を含む外部の意見を取り入れ厳密な審査を行い決定するほか、事務部門に共同研究の実施に関する業務担当者を置いて対応している。

共同研究の実施に当たっては、共同研究を実施する大学・研究機関等と共同研究契約書を取り交わすなどして、担当研究者の異動等に影響されずに機関間で継続して共同研究が実施できる体制がとられている。また、機関経理を行うことで適正な執行に関し機関が責任を負う体制を構築している。

なお、共同利用はウェブブラウザを利用することから、情報セキュリティのあり方に留意するため、国文研では機構の情報セキュリティポリシーを踏まえ、情報資産をあらゆる脅威から守るために必要な情報セキュリティの確保に取り組み、利用者が安心して利用できる環境を提供している。

③ 幅広い大学の研究者の参画

データベースは公開であり、IT 環境が整っていれば自由に参画できる体制となっている。共同研究に関しては、予算的な制約がある中、各種資金を活用し、これまでに国際共同研究 5 件、異分野融合共同研究 9 件、その他共同研究 19 件を実施しており、国内外 197 の大

学・機関から宇宙空間物理学、情報学、食品・栄養学など 40 を数える分野の研究者が参画している。

④　研究者コミュニティの意見の取り入れ

「①　責任と役割を明確にした実施体制」で既述した各種委員会は、外部委員が過半数となっており、本プロジェクトに関する重要事項の審議や各種事業の企画・立案・実施について、広く研究者コミュニティの意見を取り入れる体制としている。

また、国内では北海道大学、東北大学をはじめ 20 大学が、国外ではコレージュ・ド・フランス日本学高等研究所、カリフォルニア大学バークレー校など 16 大学・研究機関がプロジェクトに参画しており、これらの大学・研究機関はそれぞれ既述の各種委員会に参画し、共同研究及び画像情報作成事業を中心とするプロジェクトを国文研と協働して推進している。

そのほか、人間文化研究機構の複数の研究機関が参加して国文研と実施している共同研究や、外部の研究者コミュニティと連携した研究・事業を円滑に推進するため、機構内連携ワーキンググループやタグ付けワーキンググループなどプロジェクトの進捗に応じて様々なワーキンググループを設置し、それぞれ外部委員が参画するとともに日本医史学会、日本武道学会、日本近世文学会などの研究者コミュニティとの協力体制を築いており、外部の意見を反映しつつプロジェクトを推進する体制を整備している。

さらに、情報・システム研究機構の国立情報学研究所、国立国会図書館、弘前市教育委員会、味の素食の文化センター等との連携体制を構築している。

３．プロジェクトの進捗状況

（１）研究の進捗状況

①　データベース等の整備について

ⅰ　データベースの公開と利用状況

歴史的典籍の大規模提供システムとして「新日本古典籍総合データベース」が当初計画どおり 2017 年（平成 29 年）4 月に試験公開、10 月に正式公開された。公開画像は約 79,000 点。試験公開時に比して正式公開以降のアクセス数が 3 倍となっており順調に利用されている。

画像検索機能の向上化を目指し、書名や著者名といった書誌情報による検索のほか、従来の画像閲覧のシステムには無い、画像に付されたタグ（キーワード）による検索、テキスト本文による検索機能が導入された。

また、画像提供の安定性や利用手続きの至便性等を考慮し、デジタルオブジェクト識別子(DOI)の採用、クリエイティブ・コモンズライセンスの表示及びトリプルアイエフ(IIIF)ビューワが導入された。

ⅱ　画像情報作成事業

2017 年度（平成 29 年度）末までに 94,626 点が撮影され、画像データ化された。限られた予算の大半を画像情報作成に充てているが、2015 年度（平成 27 年度）に、予算措置状況や共同研究計画の進展を考慮し、到達目標点数は維持しつつ、共同研究計画に資するよう 10 年の画像情報作成期間を 3 期に分け、各期の対象分野を設定し、効率的な画像情報作成につながる見直しが行われた。

また、業者撮影ではなく、各機関自ら撮影を行う「内製化」の実施に向けて、企業との共同研究によりブックスキャナの開発に協力し、2018 年度（平成 30 年度）から国文研及び拠点大学数校で開発スキャナ（β 版）による内製化が本格的に開始された。

さらに拠点大学等における画像情報作成を同一基準で行うため、撮影マニュアルを共同して作成しオープンデータとしてウェブ公開された。

ⅲ　タグ付け

ア　現状

画像データの有効活用を図るため、全体の 5%にタグ付けを行う目標が掲げられている。2015 年度（平成 27 年度）には、ウェブ上でタグ付けができるシステムを開発し、アカウントを与えた作業者がデータ画像に直接タグを付せるようになった。

2017 年度（平成 29 年度）には、近隣大学の大学院生・大学生を対象に資料整理等補助員として採用の上、タグ付け作業に従事する制度を導入し、480 点のタグ付けが完了した。若手研究者としてスタートしたばかりの国文学を学ぶ大学院生・大学生に対し、Web 上とはいえ、普段、教室において目にすることのない希少な古典籍の原典に触れ、文章、絵図等を探索し思考しながらタグを付けるという経験は、大きな刺激を与えるものであり、若手研究者育成の観点からも重要な取組となっている。

イ　今後の対策

限られた人材だけに頼らず、多くの参加者が見込めるソーシャル・タギング制度も導入され、2017 年度（平成 29 年度）から研究者コミュニティによるタグ付けが始まり、2018 年度（平成 30 年度）からはデータベース高度化専門員制度を導入し、タグ付けに対し、各専門分野からの高度な知見や研究者情報を提供してもらうことになった。そうした取り組みを踏まえ、2022 年度には同制度が広く一般に開放される予定である。

＜情勢の変化があった場合の対応状況＞

2015 年度（平成 27 年度）から拠点大学における画像撮影を開始したが、当該大学の事情により図書館の改修計画や移転等が急遽発生し、撮影時期を変更せざるを得ない状況が生じた。そのため、年度開始後に別の拠点大学へ作成の依頼や、計画の前倒しを申し出る等の事態となったが、拠点大学との連携で適切に撮影が実施された。本事案を受け、拠点大学に対しては当初計画から 2 年程度の前倒しでの撮影依頼があることも想定し準備を進めてもらうことで、以後柔軟に対応できる体制が整えられている。

また、現在の財政環境において、年次計画の最終年度まで安定的かつ継続的に実施し得るプロジェクトとするため、学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会に対して、①画像データの作成点数の変更（30 万点→24 万点）及び②ネットワーク拡充期間の延長の申出がなされている。

②研究目標の達成状況

本プロジェクトでは、国際共同研究、公募型共同研究、拠点主導共同研究、国文研主導共同研究、機構内連携共同研究及び異分野融合研究の 6 種の共同研究を実施している。限られた予算の中で主として、人間文化研究機構及び国文研の拠出や外部資金等を財源に、2018 年度（平成 30 年度）までに 34 件が実施された。成果の発信は、図書、雑誌論文、口頭発表等 1,000 件を超えている。

異分野融合共同研究については、「典籍防災学」として国立極地研究所、茨城大学地球変動適応科学研究機関とともに進められたほか、様々な分野の歴史的典籍に散在する地域情報の統合的発信による活用を目指し、「文献観光資源学」を 2017 年度（平成 29 年度）から弘前大学等と「津軽デジタル風土記の構築」等として開始された。中でも富山大学（和漢医薬学総合研究所）との共同研究では、世界的に活用されている民族薬物データベースに『広恵済急方』のデータが収載され、日本の古典籍の利活用例として注目された。

上述の 6 種の共同研究とは別に、データベースの機能強化のため、情報学分野等との間で連携研究が実施され、その研究成果をシステム導入につなげるため、大学、研究機関及び民間企業等と「研究開発系共同研究」が実施された。2014 年度（平成 26 年度）に民間企業との典籍の全文テキスト化に関する検討協力、2015 年度（平成 27 年度）には国立情報学研究所との先端的な情報基盤の構築運営に向けた連携研究、公立はこだて未来大学との典籍画像からのテキスト化とキーワード抽出に関する研究、民間企業との画像内製化に関わる機材開発等が開始され、順調に展開・実施された。

＜特記すべき研究成果等＞

○　異分野融合研究

「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」（2016 年度（平成 28 年度）で終了）

「典籍等の天文・気候情報に基づく減災研究の基盤整備」（国立極地研究所と国文研）

藤原定家の「明月記」等の記述から、平安・鎌倉時代における連発巨大磁気嵐の発生パターンを解明、アメリカ地球物理学連合の査読付き学術誌「Space Weather」に掲載、新聞各紙に掲載された（2017 年（平成 29 年）3 月）。

引き続き同年 9 月、江戸時代のオーロラ絵図と日記の記述から、観測史上最大の磁気嵐と言われてきた「キャリントン・イベント」を上回る史上最大の磁気嵐と推定できた研究成果が再び「Space Weather」に掲載された。

また、「オーロラハンター」等、市民参加型の研究モデルを提案した。

○　研究開発系共同研究

「スケッチから深層学習により類似の挿絵を探す技術を開発」他（国立情報学研究所と国文研）

・　深層学習により類似の挿絵を探す技術を開発し、研究成果として実験的にホームページ上で公開し、検索機能向上への道筋を作った。

・　文字認識研究において、深層学習に用いる字形データベースを作成し、人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）からオープンデータセットとして公開。これにより、パターン認識の分野において古典籍が研究対象として扱われることとなり、電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会（PRMU）において毎年実施されるアルゴリズムコンテストにおいて「古典籍画像の指定領域に含まれるくずし字を認識し、各字の Unicode を出力する」という課題が出題されるなど、くずし字認識の研究の活性化につながった。

このデータセットを活用した研究が 2017 年（平成 29 年）11 月に京都で開催された国際会議において Best Paper Award を受賞し、海外からも高い評価を得た（The IAPR Best Paper Award of HIP2017）。

また、拠点である大阪大学等が、公開した古典籍画像、字形データを活用して「くずし字学習支援アプリ KuLA」を開発するなど、くずし字学習の機運が高まる契機となった。

・　CODH と協働での取組に、古典籍に関するデータセットの公開があり、民間企業等とのコラボにより、江戸料理レシピのデータセットを公開した。このデータセットは広く市民に歓迎され、百貨店の催事において江戸料理の復元に取り組むなど、古典籍を現代に活かす取組を共同で実施し、好評を得た。

＜コンソーシアム＞

国際共同研究の実施や教職員の EAJS（European Association for Japanese Studies（ヨ

ーロッパ日本研究協会、欧州))、AAS (Association for Asian Studies (アジア学会、米))、CEAL (Council on East Asian Libraries (東アジア図書館協会、米)) の場における本プロジェクトの紹介等を通した連携機関数の増加に取り組んだ。その結果、弘前市教育委員会、ベルリン国立図書館、ハワイ大学等が加わり 2017 年度（平成 29 年度）末には関係機関が 62 となった。

また、① IIIF コンソーシアムにおける Founding Members、② 電子データに付与される国際的識別子 DOI に関して国際 DOI 財団から登録機関に認定された日本で唯一の機関 Japan Link Center の正会員等、データベースに関係する国際コンソーシアムへ加盟している。

③ プロジェクトの実施に伴う成果

- ○ 機関間の覚書に基づく 40 を数える様々な分野の研究者との協働による異分野融合研究の醸成と国際的評価を受けた成果発表
- ○ 検索機能の向上につながるくずし字検索のデータベース上での実験的公開、絵検索の研究公開とテキスト検索のための古典籍本文テキスト作成の過程で生まれるくずし字の「字形データ」のオープンデータ化。そのデータが、パターン認識研究者への研究素材（学習データ）の無償提供になり、研究の活性化・醸成化を果たした点
- ○ 民間企業等との共同研究における、典籍のテキスト化、検索機能の向上化の進展、ブックスキャナの開発等
- ○ 江戸料理レシピデータセット、「オーロラハンター」等の公開・実施による市民参加型での古典籍利用の活性化
- ○ 年度当初の作成予定点数を一貫して上回る画像情報作成

④ 年次計画における「プロジェクト推進に当たっての留意事項」等への対応

【進捗評価報告書での留意点（2016 年（平成 28 年）8 月)】

① 役割と責任所在を明確化した推進体制の構築

プロジェクト全体をマネジメントしていく必要があることから、推進体制の役割と権限、責任をより一層明確にすることが求められる。特に各ミッションを推進する責任者の役割と権限、各種委員会の役割と責任を明確化することが必要である。

② 国文学研究における本計画の位置付けの明確化

国文学研究資料館の大学共同利用機関としての使命、役割との関係を一層明確にし、関係者の間で共通認識とする必要がある。特に、本計画が、国文学研究の新たな展開にどのように資するものであるかを、明らかにすることが重要である。また、若手を中心とする研究者がデータベース構築等の作業に従事することにより、本来の研究に時間を確保することが困難となることがないよう配慮が望まれる。

③ 知的財産等への対応の強化

本計画では、連携機関や企業とデータベースの構築や様々な技術開発、共同研究などを実施しているところである。しかしながら、本プロジェクトでの成果と考えられるものが、本プロジェクトとの関係が明記さ

れずに発表されている事案が見受けられた。実施主体と参画機関との間で、知的財産などの権利関係の整理が適切に行われているのか、懸念される状況である。共同研究や技術開発などの研究成果に係る権利関係について適切な管理体制を構築することや、データベースや画像データの公開に関するポリシーの整備をしておくことが必要である。

これらへは以下のような対応が行われている。

ⅰ　役割と責任所在を明確化した推進体制の構築

2016 年（平成 28 年）11 月に、運用推進体制及び責任体制の明確化、連絡体制の強化等、機能強化を図るため事業実施委員会（現センター運営委員会）の下に NW 事業実施委員会が新たに設置された。この委員会は、既存の館内組織である情報事業センター及び研究部と古典籍共同研究事業センターが協議しつつ全館体制で事業を推進する組織であり、国文研の全教員が加わっている。委員会には全体を統括する「幹事会（館長・副館長等執行部）」、その下にタグ付けを含むデータベースの構築、各種共同研究の統括、研究成果の発信をそれぞれ分担して所掌する三つの「作業グループ（幹事会議長から指名された各 5 名から成る）」を置き、個々の役割と全体の責任体制を明確にした上で、具体的な案件を検討し事業の推進に当たっている。

ⅱ　国文学研究における本計画の位置付けの明確化

災害や劣化により湮滅の危機にさらされている国文学およびその関連領域の文献資料の保存と活用に取り組む大学共同利用機関として設置された国文学研究資料館は、創設以来半世紀にわたって日本国内の図書館・文庫などに所蔵されている古典籍資料の調査とそのマイクロフィルム等による撮影と保存に取り組むとともに、そこで得られたデータを取り込みながら文学を含めた全分野の日本古典籍のユニオン・カタログである日本古典籍総合目録データベースの整備と充実に努めてきている。本プロジェクトは、こうした国文研の活動実績を基盤とし、それをさらにステップアップすることを目指して国文研の設置目的に即して計画されたものであり、日本近世文学会を始めとした日本文学の研究者コミュニティからの幅広い支持の下に実施されている。

文学作品は人間の生活を基盤にし、それらを題材として取り込むことによって成立していることから、人間の営みに関するあらゆる事象と密接な関連を有している。したがって、その研究には、文学作品が生み出され、読まれていた時代に著されたあらゆる分野の古典籍を参照し、時代状況を復元する手続きなしには解明することができない。本プロジェクトによって構築される全分野の古典籍を網羅したデータベースにより、文学以外の分野の古典籍



の参照が格段に容易になり、国文学研究の一層の深化と進展が可能となる。
　また、全分野の古典籍を網羅したデータベースを用いて、文学作品を形作っていることばが文学以外の分野でどのように用いられているかを知ることは、ごく限られた用例に基づいて行われてきたことばの語義の解明につながり、そのことが、これまでの文学研究を刷新し、真の作品解釈へとつながる。
　例えば、国立極地研究所と国文研のチームがこれまで赤色の雲または彗星と解釈されてきた藤原定家『明月記』の「赤気」が、低緯度で出現したオーロラであることを解明したことは、本プロジェクトが目指す国文学研究の新たな方向性を指し示すものである。
　本プロジェクトの実施と並行して、国文研では、若手研究者の要望・意見を取り入れるべく新たに日本文学若手研究者会議を設置するなど次世代の研究者育成を目指した取組を実施しており、本プロジェクトにおいても、プロジェクトに従事する若手研究者のエフォート管理を、NW 事業実施委員会・幹事会で行う体制が整備されている。

ⅲ　知的財産等への対応の強化
　共同研究では秘密保持契約や覚書を交わし、成果物の権利について必ず明文化されていることを確認するなど十分に精査した上で研究が実施されている。特に、広報活動、論文等や発表の場における PPT 等に、国文研が高度な専門的知見を提供していること等が記載されているか点検し、謝辞に必ず記載することが求められている。
　データベースについては、「人間文化研究機構国文学研究資料館の画像データのオープン化の推進に関する指針（2016 年（平成 28 年）6 月 16 日）」に基づき CC BY-SA ライセンスの下でオープン化し、知的財産の有効な利活用が積極的に推進されている。他機関所蔵資料についてもライセンスの明示に努め、CC ライセンスを適用しない機関においては「所蔵者別利用条件」を示すなど知的財産の保護に留意されている。
　今後も国文研に設置されている「知的財産委員会」の下、対応の強化が図られる予定である。

（２）学術的意義と波及効果
①　学術的達成度
　2017 年度（平成 29 年度）までに、国際共同研究 2 件、公募型共同研究 5 件、異分野融合共同研究 9 件、国文研主導共同研究 7 件及び機構内連携共同研究 3 件を実施し、その成果として延べ 386 件の論文、91 冊の単行本、584 件の口頭発表が行われた。各年度の共同研究 1 件当たりの成果件数は、16.9 件（2014 年度（平成 26 年度））、16.1 件（2015 年度（平成 27 年度））、15.9 件（2016 年度（平成 28 年度））、8.1 件（2017 年度（平成 29 年度））。
　中でも、国立極地研究所との「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」では、藤原定家の『明月記』にオーロラ現象が記載してあることを突きとめ、アメリカの国際的学術誌に掲載された。
　さらに、情報系の研究機関や民間企業の協力を得、文字認識等のアルゴリズムの開発等に大きな影響を与えた。「第 21 回 PRMU アルゴリズムコンテスト」には古典籍のくずし字認識が課題として提供され、国公私立大学等の研究者 23 グループが参加し、その論文が国際

会議 The 4th International Workshop on Historical Document Imaging and Processing（HIP2017）で、国際的に高い評価を受けるなど反響が広がった。

② 分野の広がり

くずし字で書かれた文献を読める研究者とそれに習熟していない自然科学等の分野の研究者が出会うことで異分野融合研究の醸成を目指す本プロジェクトは、スタート時点から幅広い分野の研究者の参画を求める努力がなされている。既述の共同研究には、日本文学以外に、歴史学・宗教学・薬学・生態学・天文学・気候学・分析科学・食品学・本草学・農学・情報学等の 40 分野の研究者が参加している。

また、研究者コミュニティとの組織的な連携の取組として、近世文学会、中古文学会、中世文学会と協定を締結していること、並びに、画像情報作成の進捗に合わせ、日本武道学会との連携構築が進められている。

③ 国際貢献

データベースユーザーの 10%が海外在住研究者であり、本プロジェクトによって日本研究を進めていくために欠かすことのできない基本ツールを海外の研究者に提供された。

また、共同研究に参加した外国人研究者は延べ 229 名、年平均 57.3 名で、研究者全体に占める割合は 21.6%となっているほか、人間文化研究機構の海外若手研究者派遣プログラム制度を活用して、若手研究者が 2016 年度（平成 28 年度）より毎年 1 名、海外の研究機関に派遣され、国際的な人材育成・交流が図られている。

④ 人材育成

共同研究への若手研究者（40 歳以下）の参加は延べ 200 名、年平均 50 名となっている。

また、総合研究大学院大学（以下「総研大」という。）文化科学研究科日本文学研究専攻とともにハワイ大学における日米の大学院生が参加した古典籍講習会を開催するなど、総研大と連携し若手研究者育成の取組が行われている。

この他、本プロジェクトの共同研究に参加した 4 名の若手研究者が単著によってその成果を発信しており、さらに、古典籍共同研究事業センターで雇用したプロジェクト研究員がチューリッヒ大学（スイス）に職を得るなど、若手人材の育成に向けた取組が進められている。

（３）社会的意義と波及効果

① 社会的価値の創出

研究開発系共同研究で、複数の民間企業と連携し、そのうちの 1 社においては、2019 年度（平成 31 年度）末に同共同研究の成果として新しいブックスキャナを開発するなど、産業界にも貢献している。

また、データベースが 2017 年（平成 29 年）10 月末に公開され、アクセス数が 3 倍と格段に向上した。

古典籍に埋もれていた「知」が、天文学や薬学の研究者の目に触れたことにより、新た

な論文の発表やデータベースのコンテンツに盛り込まれるなど確実に社会に還元されつつあるほか、江戸時代の料理書・料理本約 300 点の画像を公開したことがマスコミで大きく取り上げられ、国文研と百貨店がコラボした料理が販売されたことに伴い、これらに関係するセミナーが種々開催され、数多くの一般の方々の参加を得た。

さらに、2017 年度（平成 29 年度）から文化庁の委託を受け実施している「ないじぇる芸術共創ラボ」のアーティスト・レジデンスとトランスレーター・レジデンスの事業においても、クリエータが古典籍を題材に新しい作品を創作する際の資料収集にデータベースが利用され、また、翻訳家の翻訳事業にも資料が提供された。

② 社会や国民からの支持を得るための取組、情報発信

シンポジウムなどの開催、ホームページの開設・充実、ニューズレターの発行、プレスリリース、展示の実施、各所からの要請に応じた講演などに積極的な取組が実施されている。

シンポジウムはこれまで 16 回、対話を通じて新たなアイデアを創り出す参加型として実施し、広く社会の要望を吸収する取組や、複数回にわたる海外での普及活動が実施されている。

本プロジェクトの進展状況の概要を報告するニューズレター「ふみ」は、2014 年度（平成 26 年度）に創刊して以来、年に 2～3 号を発行し、購読を希望する個人や機関等に累計 26,255 部が配布された。

ホームページは 2013 年度（平成 25 年度）に開設され、英文ホームページの充実、ニューズレター「ふみ」や研究成果の PDF 版ダウンロードの開始、国際研究集会の模様を動画配信（2015 年（平成 27 年）の再生件数 645、2017 年（平成 29 年）のライブ視聴件数 355）など、充実が図られている。

プレスリリースはこれまで 18 回行われ、その多くが新聞等の紙面を飾った。

展示については、地元の多摩都市モノレール高松駅構内でプロジェクトの紹介展示を行ったほか、文部科学省情報ひろば企画展示及び大学共同利用機関シンポジウムにおけるブース展示、司書などを対象として 3 万人を集める図書館総合展へブース展示など、積極的な取組が実施されている。

さらに館長を始め教員が政府機関、自治体、コミュニティ等からの要請に積極的に応え、プロジェクトからの知見を踏まえた「江戸の書物から読み解く「食」の楽しみかた」と題するセミナーを開催するなど積極的な取組が実施されている。

データベースでは、当事業でデジタル化して公開中の古典籍画像約 79,000 点のうち国文研所蔵分約 2 万点を CC BY-SA ライセンスで公開し、クレジット表示をすれば教育、出版、放送、その他商用利用を含む様々な用途で誰もが自由に活用できる形としており利活用を促進された。

③ 地域社会との信頼関係

画像情報作成に当たっては大学、図書館のみならず民間団体や社寺・個人所蔵資料を対象にすることが多い。国文研は半世紀にわたりこうした所蔵者を対象に書面の取り交わし

を行って調査収集事業や撮影を行ってきた実績を有し、信頼関係が醸成されている。

　既述の「文献観光資源学」においては、弘前大学とともに青森県立郷土館、弘前市教育委員会と覚書を交わすなど地域社会に配慮するほか、地方自治体等からの要請に応え、館長を始め関係教員が講演を行うなど積極的な活動を通じ信頼構築に尽力している。

４．計画の進捗評価と今後の留意点

（１）計画の進捗状況を踏まえた評価

本プロジェクト実施上の基盤となる「新日本古典籍総合データベース」を当初計画どおり公開するに至っている。このことは、限られた予算の中、画像情報処理作業を最大限効率化することによってなし得たものである。例えば、企業と共同開発したスキャナーによって作業を内製化したことや、大学院生及び大学生を資料整理等補助員として採用の上、Web を介したタグ付け作業を進めたことなどがあげられる。さらに、今後に向けては、広く分野の専門家から一般の方までがタグ付け作業に当たることができる制度の導入を決定している。

本データベースを広く一般に公開することにより、これまでの国文学研究における関連資料を所有するか否かの決定的な差や競争を解消し、我が国の人文学におけるこれまでの流れを確実に変えつつある。特に 2017 年度（平成 29 年度）のデータベース公開以降、本プロジェクトに対する関連コミュニティの期待は確実に大きくなっており、各機関における所蔵資料の公開に協力する新たな動きが生まれている。

実施体制については、外部委員が過半数を占める目的別の複数委員会から評価・助言を得られる体制とし、役割と責任を明確化している。特に、国際共同研究に向けては海外有識者の意見を取り入れる体制となっていることや、共同研究に当たっては機関間で契約書を取り交わし、安定的・継続的な実施体制としていること、データベース整備に当たっては国立情報学研究所をはじめとする情報分野専門家との協力体制としていることなどがあげられる。

学術的には、先述のとおり、貴重な資料を公開・共有することの利点を明らかにし、人文学において新たな潮流を生み出しつつあることが高く評価できる。また、文理融合を含む他分野への波及効果も大きく、地球物理学との共同研究ではすでに顕著な成果を上げている。さらに、くずし字判読や挿絵検索などの技術開発により、従来専門家個人の知識に依らざるを得なかった解析を幅広く可能にしたことも、異分野融合の展開に寄与するものと期待される。今後、更なる情報技術の活用により、従来、多くの時間を必要とした異なる時代の写本や印刷物の比較解析等も容易になり、国文学研究の新たな展開も期待できる。このほか、データベースの公開により、海外の日本研究者への貢献や、新たな日本研究者の掘起しなども期待され、海外に向けた波及効果も大きいと考えられる。

社会的には、古典籍に含まれる我が国の知恵の蓄積に広く一般の方々が触れられるようになっている。過去の災害の記録からは防災の知恵を得られることや、日本の歴史・文化への関心を得て国内外からの観光客に期待できることなど、地域社会への貢献のような波及効果も期待できるほか、江戸料理の再現によって古典籍そのものへの興味を生み、国文学を志す新たな人材の育成まで貢献することも期待される。また、本プロジェクトを契機に、貴重な資料が実施機関に寄贈される例も出てきており、今後、古典籍の保存・活用の意義と動きが一層広まることが期待される。

以上を総合的に勘案すると、本プロジェクトは概ね順調に進捗していると評価できる。

（２）今後の事業の推進に当たっての留意点

①データベースの更なる発展に向けた検討について

古典籍の書誌情報が時間、位置、分野等の多角的な観点から立体的に整理され、それらがどのようにつながるのかが明らかになれば、本データベースを契機とした研究の更なる展開が期待できるため、今後、データベース化される古典籍の数の充実とともに、その内容の充実について、より一層の検討が求められる。

また、特に分野を越えた研究者の参画を得ていくためには、データベースそのものの構造を外部に見やすくすることが重要であり、この際、メタ情報の作成方法や多言語システムの仕組など、情報学研究者の協力を得て、より信頼性の高いものとしていくことが求められる。

なお、今後、海外の日本研究者によるデータベースの利用の拡大や、海外に流出した資料の画像情報処理も含め、より一層国際共同を進めるため、データベースの多言語化対応の実現が望まれるとともに、データベースの発展に伴って懸念される知的財産保護に対しても万全の対応が求められる。さらに、国際共同を進める際には、相手国機関から相応の費用負担を求めるマッチングファンドとするなど、財源の多様化にも留意することが望まれる。

②国民・社会への成果還元について

古典籍がもたらす情報は、我が国の文化、歴史、教養を含むものである。これらは、研究者に限らず、学校教育等によって広く国民が享受すべきものであり、日本人のルーツ・アイデンティティに新たな視点からアプローチする機会となることも考えられる。したがって、当該分野の研究を志す若い人材の輩出につながるばかりでなく、日本人が国際社会の中で自らの背景を相手に伝え、理解されるための力にもなる。このため、国民・社会への成果還元につながるよう情報発信の強化に努める必要がある。

③若手研究者の育成について

前回評価以降、本プロジェクトに従事する若手研究者のエフォート管理を、新たにネットワーク事業実施委員会・幹事会で行う体制とし、若手研究者育成に向けた配慮がなされている。他方、厳しい財政環境において、様々な業務の効率化を図っている影響が若手研究者に及び、過剰な負荷とならないよう留意し、若手研究者が研究成果を創出できる環境の整備にも今後引き続き取り組むことが求められる。

なお、本プロジェクトの年次計画については、先般実施機関から申出のあった変更の内容を踏まえつつ、本評価の内容及び我が国の厳しい財政環境を勘案し、本作業部会において審議の上、決定した。

備考（用語解説等）

○　デジタルオブジェクト識別子（DOI）

Digital Object Identifier の略。国際 DOI 財団（IDF）が運営する識別子（DOI name）からドキュメントが存在する URL に変換するサービス。識別子は、ウェブ上におかれた画像等のドキュメントに恒久的に付与するもので、サーバー移転等によるリンク切れなどの不都合を回避するもの。

従来は学術雑誌等で利用されていたが、国文研では古典籍画像を研究資源と位置付け 1 点ごとに付与し、検索結果の安定性を担保している。

○　クリエイティブ・コモンズライセンス（CC ライセンス）

クリエイティブ・コモンズライセンスは、ウェブ社会のための新しい著作権等に関するルールであり世界的に認知されている表示方法で、作品を公開するものが「この条件を守れば自由に使って構わない」という意思表示をするツールとして利用されている。

ウェブ上で公開された画像を論文に用いる場合や、画像を掲載することとした場合、どのように許諾を得ればよいか HP 上を探すことが煩多であり、この CC ライセンスをみるだけでどのような利用が可能か分かる。

クリエイティブ・コモンズは、作品の利用と流通を図ろうとする国際的非営利組織によるプロジェクト名（https://creativecommons.jp/）。

○　トリプルアイエフ（IIIF）ビューワ

International Image Interoperability Framework の略。IIIF は、英国図書館、フランス国立図書館、オックスフォード大学等世界各国の機関が始めたデジタル画像へのアクセスを標準化し相互運用性を実現しようとする国際的なフレームワーク。

デジタルアーカイブの難点の一つに個別による公開があり、この場合、それぞれのサイトごとにビューワの利用法を学ばねばならず使い勝手に課題があった。この課題に対応し IIIF という世界標準を示し、IIIF 準拠で画像公開されていれば、世界中のどこのデジタルアーカイブの画像ファイルでも一つのビューワで利用できる。

IIIF ビューワの特長として、画像の表示スピードの速さ、拡大縮小の自在さがあり、ストレスフリー（画像表示までに時間がかからない）で見ることが出来る。我が国では国文研がいち早く採用し、国立国会図書館、京都大学等が続いている。

○　ソーシャル・タギング制度

SNS を活用して古典籍画像にタグ等を付与してもらう制度。

ユーザーが自由にタグ（目印となるキーワード）を付与することで、多数のユーザーの視点により分類・整理されるという利点がある一方で、タグの質保証が課題とされる。そのため現段階では「データベース高度化専門員※制度」を導入し、そこから関係を拡げ相

互に信頼できるグループのなかでコミュニケーションを図りながらのタグ付けを想定している。

※　データベース高度化専門員

学会等、研究者コミュニティから推薦された者で、専門的な知見を踏まえタグ付けに当たる。

○　CC BY-SA ライセンス

クリエイティブ・コモンズライセンスの種類の一つ。作品を複製、頒布、展示、実演を行うに当たり、「BY」は表示を意味し、クレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示することを求める。「SA」は継承を意味し、作品を改変・変形・加工してできた作品についても、元になった作品のライセンスを継承した上で頒布を認めるもの。

国文研の画像は CC BY-SA で公開しているので、二次、三次利用においても国文学研究資料館蔵という表示を求めている。また、継承なので、営利目的で利用するとしても無償で提供する場合に限り、許諾を得なくても良いこととなる。

○　「ないじぇる芸術共創ラボ」

「ないじぇる芸術共創ラボ」は、国文研が文化庁から受託している「戦略的芸術文化創造推進事業」のプロジェクト名。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年を見越した中長期的なプログラムであり、古典籍を活用して新たな芸術的価値を創出することを目的としている。

小説、アニメーション、舞台芸術など表象芸術にたずさわるクリエータが、古典籍に触れたり研究者とワークショップを行ったりすることで得た感性と知識を創作活動に活かしてもらう「アーティスト・イン・レジデンス」、古典文学作品について研究者とともに理解を深め、他言語に翻訳して世界に発信してもらう「トランスレーター・イン・レジデンス」、古典知のナビゲータとして、専門知識でアーティストやトランスレーターの活動をサポートし、古典籍の魅力を広く社会に普及する「古典インタプリタの育成」を三つの柱として事業を推進している。

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会

学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会　委員等名簿

学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会委員

（委　　員）

栗　原　和　枝	東北大学未来科学技術共同研究センター教授

（臨時委員）

伊　藤　早　苗	九州大学名誉教授、九州大学極限プラズマ研究連携センター顧問 中部大学客員教授
井　本　敬　二	自然科学研究機構理事・副機構長、生理学研究所長
大　島　ま　り	東京大学大学院情報学環教授、東京大学生産技術研究所教授
川　合　知　二	大阪大学産業科学研究所特任教授
小　林　良　彰	慶應義塾大学法学部教授、慶應義塾大学社会科学データ・アーカイヴセンター（SU）センター長
鈴　木　洋一郎	東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構特任教授
原　田　慶　恵	大阪大学蛋白質研究所教授
横　山　広　美	東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授

（専門委員）

田　村　裕　和	東北大学大学院理学研究科教授
新　野　　宏	東京大学大気海洋研究所客員教授
松　岡　彩　子	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所准教授
観　山　正　見	広島大学特任教授
安　浦　寛　人	九州大学理事・副学長

アドバイザー

柴　山　　守	京都大学名誉教授、ASEAN 拠点長
山　中　玲　子	野上記念法政大学能楽研究所長（敬称略、五十音順）